

－九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－

け し か り  
計志加里遺跡

2002年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター



計志加里遺跡（手前）から薩摩国分寺跡（奥右）を望む



縄文時代晩期土器



平安時代1号土拵墓出土遺物

# 序 文

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う発掘調査は、西鹿児島駅緊急整備事業に伴う調査として平成5年に開始しましたが、諸般の事情で中断をし、平成8年度から再開しました。

建設計画地内の遺跡は鹿児島市から出水市まで21か所であり、関係機関との協議により、事前の記録保存調査を実施し、平成13年5月に全ての調査が終了しました。

本報告書は21か所の遺跡のうち川内市に所在する計志加里遺跡の発掘調査結果をまとめたものです。

計志加里遺跡は薩摩国分寺が所在する台地に隣接しており、縄文時代から古代までの複合遺跡です。縄文時代晩期の遺物では、多数の石器とともに希少な壺形土器が出土し、遺跡の主体となる平安時代では掘立柱建物跡、円形周溝墓、土坑墓、各種の土坑、溝状遺構、多数の古道跡などの多様の遺構が発見されました。また、土坑墓に副葬された鉄製刀子や青銅製品をはじめ、当時の生活を偲ばせる食器も多数出土しています。ここにその調査成果をまとめました。本報告書が県民の皆様をはじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただく一助となれば幸いです。

発刊にあたり、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局をはじめ、ご協力をいただいた川内市の関係部局、関係諸機関、そして、調査に参加された方々に対し、厚くお礼を申し上げます。

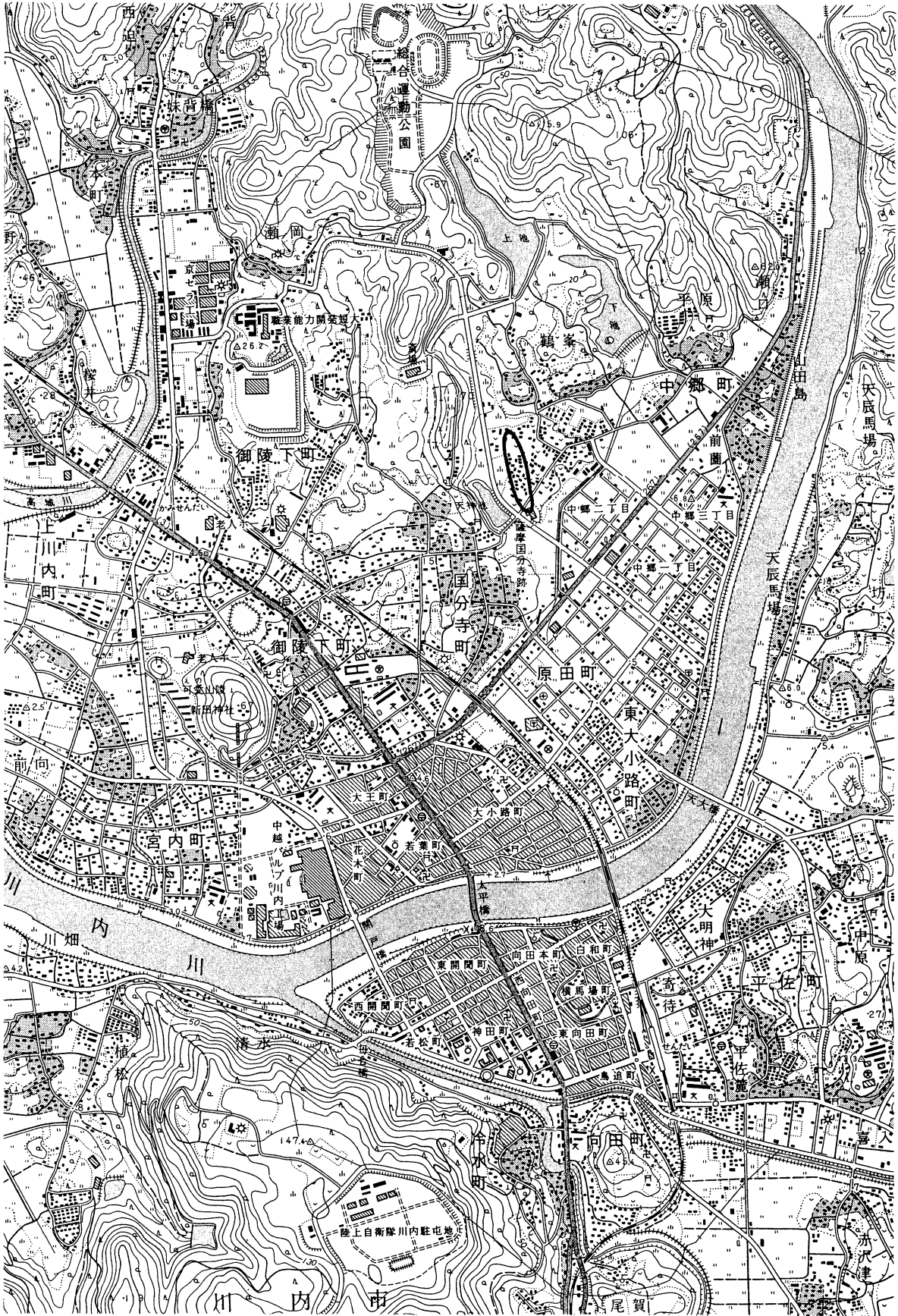
平成14年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所 長 井 上 明 文

# 報告書抄録

ふりがな	けしかりいせき								
書名	計志加里遺跡								
副書名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次	Ⅱ								
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書								
シリーズ番号	38								
編著者名	宮田栄二, 東和幸								
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター								
所在地	〒899-5652 始良郡始良町平松6252番地 TEL0995-65-8787								
発行年月日	2002年3月30日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	面積	調査起因	
所蔵遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m <sup>2</sup>		
けしかりいせき 計志加里遺跡	かごしまけん 鹿児島県 せんだいし 川内市 ちゅうごうちょう 中郷町 けしかり 計志加里	462021	6-178	31° 50'	130° 18' 30"	19990523 ~ 20010326	5,900	九州新幹線 鹿児島 ルート建設	
所蔵遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
計志加里遺跡	集落	縄文時代早期 " 前期 " 晩期  弥生時代 古墳時代 平安時代  中世	集石  掘立柱建物跡 竪穴住居跡状遺構 円形周溝墓 土坑墓 土坑 古道 溝状遺構		押型文土器 曾畑式土器 精製浅鉢・壺形土器 粗製深鉢 石鏃, 打製石斧, 横刃形 石器, 礫器, 磨石類 石皿 須玖式土器 成川式土器 土師器(坏, 埴, 蓋, 甕, 鉢, 皿) 須恵器 転用硯, 刀子, 青銅製品 国分寺瓦 土師器皿, 白磁, 青磁 滑石製品				



計志加里遺跡の位置

# 例 言

1. 本報告書は、九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う川内地区の「計志加里遺跡」発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は鹿児島県川内市中郷町に所在し、県遺跡台帳の川内市6-178に該当する。
3. 発掘調査は、日本鉄道公団九州新幹線建設局からの受託事業として鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。
4. 発掘調査は、平成11年度から平成12年度にかけて実施し、整理作業は平成13年度に実施した。
5. 本書の遺物番号は全て通し番号であり、本文、挿図、図版と一致する。
6. 出土した動物の歯は鹿児島大学農学部長西中川駿氏に鑑定していただき、黒曜石及び安山岩の原産地分析は京都大学原子炉実験所藁科哲男氏に依頼した。また布については東京国立博物館澤田むつ代氏に鑑定していただいた。
7. 出土した石器の実測・トレースは㈱九州文化財研究所に委託した。
8. 本書で用いたレベル数値は、すべて海拔高である。
9. 本書で使用した方位は、すべて磁北である。
10. 現地調査に関する実測及び写真撮影は、それぞれ調査担当者で行ったが、一部の実測については(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
11. 土器の実測・トレース、遺構図の製図・トレース等は、宮田栄二が中心となり、本多直子、森岡幸子、牧野田洋子、鮫島みどり、前原順子、湯之上郁子、石川奈緒美が行った。また縄文晩期土器の実測・トレースは東和幸がおこなった。
12. 本書の執筆分担は、第Ⅱ章を三宅史子、第Ⅵ章を樋渡将太郎、第Ⅴ章2節及び第Ⅸ章2を東和幸が行い、他はすべて宮田栄二が行った。また墨書土器については坂本佳代子の手を煩わした。
13. 本書に掲載した遺物写真の撮影は鶴田静彦、福永修一、横手浩二郎が行った。
14. 本書の編集は鹿児島県立埋蔵文化財センターで行い、宮田栄二が担当した。

# 目次

第I章 調査の経過	
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の概要と調査経過	3
第4節 九州新幹線鹿児島ルート関連調査の概要	5
第II章 遺跡の位置と環境	
第1節 遺跡の位置と立地	8
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	8
第III章 遺跡の層位	13
第IV章 縄文時代早期～前期の遺物	
第1節 縄文時代早期	15
第2節 縄文時代前期	15
第V章 縄文時代晩期の遺構と遺物	
第1節 検出遺構	20
第2節 縄文時代晩期の土器	21
第3節 縄文時代晩期の石器	62
第VI章 弥生時代～古墳時代の遺物	83
第VII章 平安時代の遺構と遺物	
第1節 平安時代の遺構	
1. 掘立柱建物跡	87
2. 竪穴住居跡状遺構	93
3. 円形周溝墓	93
4. 土坑墓	98
5. 土坑	100
第2節 平安時代の出土遺物	
1. 土師器	109
2. 須恵器	119
3. 古代瓦	129
第VIII章 中世の遺構と遺物	
第1節 中世の遺構	140
第2節 中世の遺物	151
第IX章 発掘調査のまとめ	154
付編 黒曜石及び安山岩の原産地分析	159



## 挿 図 目 次

第1図 調査範囲と周辺の地形…………… 9	第35図 縄文時代晩期土器 (24) …… 50
第2図 計志加里遺跡周辺の遺跡…………… 11	第36図 縄文時代晩期土器 (25) …… 51
第3図 遺跡の基本土層柱状模式図…………… 13	第37図 縄文晩期石器出土分布 (1) …… 64
第4図 遺跡内各地点の土層…………… 14	第38図 縄文晩期石器出土分布 (2) …… 65
第5図 縄文時代早期の土器と出土分布 …………… 16	第39図 縄文時代晩期石器 (1) …… 66
第6図 縄文時代前期の遺物出土分布…………… 17	第40図 縄文時代晩期石器 (2) …… 67
第7図 縄文時代前期の土器…………… 18	第41図 縄文時代晩期石器 (3) …… 69
第8図 縄文時代前期の石器…………… 19	第42図 縄文時代晩期石器 (4) …… 70
第9図 縄文晩期の集石遺構…………… 20	第43図 縄文時代晩期石器 (5) …… 71
第10図 縄文晩期土器出土分布図 (1) …… 22	第44図 縄文時代晩期石器 (6) …… 72
第11図 縄文晩期土器出土分布図 (2) …… 23	第45図 縄文時代晩期石器 (7) …… 73
第12図 縄文時代晩期土器 (1) …… 25	第46図 縄文時代晩期石器 (8) …… 75
第13図 縄文時代晩期土器 (2) …… 26	第47図 縄文時代晩期石器 (9) …… 76
第14図 縄文時代晩期土器 (3) …… 27	第48図 縄文時代晩期石器 (10) …… 77
第15図 縄文時代晩期土器 (4) …… 28	第49図 縄文時代晩期石器 (11) …… 78
第16図 縄文時代晩期土器 (5) …… 29	第50図 縄文時代晩期石器 (12) …… 79
第17図 縄文時代晩期土器 (6) …… 30	第51図 弥生～古墳土器分布図…………… 84
第18図 縄文時代晩期土器 (7) …… 31	第52図 弥生～古墳時代土器 (1) …… 85
第19図 縄文時代晩期土器 (8) …… 32	第53図 弥生～古墳時代土器 (2) …… 86
第20図 縄文時代晩期土器 (9) …… 33	第54図 1, 2号掘立柱建物跡…………… 88
第21図 縄文時代晩期土器 (10) …… 34	第55図 3, 4号掘立柱建物跡…………… 89
第22図 縄文時代晩期土器 (11) …… 35	第56図 5, 6号掘立柱建物跡…………… 90
第23図 縄文時代晩期土器 (12) …… 36	第57図 7号掘立柱建物跡…………… 91
第24図 縄文時代晩期土器 (13) …… 37	第58図 掘立柱建物跡ピット …………… 出土の土器… 91
第25図 縄文時代晩期土器 (14) …… 38	第59図 竪穴住居跡状遺構と …………… 出土遺物… 94
第26図 縄文時代晩期土器 (15) …… 40	第60図 円形周溝墓平断面図…………… 95
第27図 縄文時代晩期土器 (16) …… 41	第61図 円形周溝の出土遺物分布…………… 96
第28図 縄文時代晩期土器 (17) …… 42	第62図 円形周溝墓出土土器…………… 97
第29図 縄文時代晩期土器 (18) …… 43	第63図 土坑墓平断面図…………… 99
第30図 縄文時代晩期土器 (19) …… 44	第64図 土坑墓出土遺物…………… 100
第31図 縄文時代晩期土器 (20) …… 45	第65図 土坑平断面図 (1) …… 102
第32図 縄文時代晩期土器 (21) …… 46	第66図 土坑平断面図 (2) …… 103
第33図 縄文時代晩期土器 (22) …… 48	第67図 土坑出土土器 (1) …… 104
第34図 縄文時代晩期土器 (23) …… 49	

第68図	土坑出土土器 (2) ……105	第88図	平安時代の遺物 (15)(瓦2) ……131
第69図	焼土跡及びピット ……106	第89図	平安時代の遺物 (16) (包含層以外1) ……132
第70図	古代～中世の遺構分布図 ……107	第90図	平安時代の遺物 (17) (包含層以外2) ……133
第71図	平安時代の遺物出土分布 (1) ……110	第91図	平安時代の遺物 (18) (包含層以外3) ……134
第72図	平安時代の遺物出土分布 (2) ……111	第92図	古道1 ……140
第73図	奈良時代の遺物 (坏・蓋) ……112	第93図	古道群1, 溝2 ……141
第74図	平安時代の遺物 (1)(坏1) ……113	第94図	溝3・4・5, 古道群2 ……143
第75図	平安時代の遺物 (2)(坏2) ……114	第95図	溝6・7・8 ……144
第76図	平安時代の遺物 (3) (坏3・充実高台塼) ……115	第96図	溝1, 古道2, 古道12・13 ……145
第77図	平安時代の遺物 (4)(塼) ……117	第97図	古道3～8, 古道9・溝9, 古道10・11 ……146
第78図	平安時代の遺物 (5) (皿・蓋・黒色土器) ……118	第98図	古道14・溝10, 溝11 ……147
第79図	平安時代の遺物 (6)(甕類1) ……120	第99図	溝12, 溝13 ……148
第80図	平安時代の遺物 (7)(甕類2) ……121	第100図	古道15 ……149
第81図	平安時代の遺物 (8)(鉢) ……122	第101図	溝14・15・16 ……150
第82図	平安時代の遺物 (9) (須恵器1) ……124	第102図	中世遺構出土遺物 ……151
第83図	平安時代の遺物 (10) (須恵器2) ……125	第103図	中世の遺物 ……152
第84図	平安時代の遺物 (11) (須恵器3) ……126	第104図	古銭 ……152
第85図	平安時代の遺物 (12) (須恵器4) ……127	付編	
第86図	平安時代の遺物 (13) (墨書・刻書土器ほか) ……128	図1	黒曜石原産地
第87図	平安時代の遺物 (14)(瓦1) ……130	図2	サヌカイト及びサヌカイト様岩石 の原産地 ……166

付図 計志加里遺跡の遺構分布図

## 表 目 次

第1表	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査一覧(1)・・・	5	第27表	包含層及び包含層以外の 出土遺物観察表……………	139
第2表	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査一覧(2)・・・	6	第28表	瓦観察表……………	139
第3表	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査一覧(3)・・・	7	第29表	中世の遺物観察表……………	153
第4表	周辺の遺跡一覧表……………	12			
第5表	縄文晩期土器観察表(1)……………	52			
第6表	縄文晩期土器観察表(2)……………	53			
第7表	縄文晩期土器観察表(3)……………	54			
第8表	縄文晩期土器観察表(4)……………	55			
第9表	縄文晩期土器観察表(5)……………	56			
第10表	縄文晩期土器観察表(6)……………	57			
第11表	縄文晩期土器観察表(7)……………	58			
第12表	縄文晩期土器観察表(8)……………	59			
第13表	縄文晩期土器観察表(9)……………	60			
第14表	縄文晩期土器観察表(10)……………	61			
第15表	縄文時代晩期の石器組成……………	62			
第16表	出土石器計測表(1)……………	80			
第17表	出土石器計測表(2)……………	81			
第18表	出土石器計測表(3)……………	82			
第19表	弥生～古墳時代遺物観察表 (1)……………	83			
第20表	弥生～古墳時代遺物観察表 (2)……………	86			
第21表	掘立柱建物跡計測表……………	92			
第22表	遺構内出土遺物観察表……………	108			
第23表	包含層出土遺物観察表(1)……………	135			
第24表	包含層出土遺物観察表(2)……………	136			
第25表	包含層出土遺物観察表(3)……………	137			
第26表	包含層出土遺物観察表(4)……………	138			

## 図 版 目 次

- 図版1 遺跡の土層（上15区・下4区）・・・173  
図版2 縄文時代早期の土器・・・174  
図版3 縄文時代前期の土器・・・175  
図版4 上 縄文時代前期の石器  
下 第3調査地点の調査・・・176  
図版5 上 集石2号・・  
中 縄文時代晩期の  
遺物出土状況（8区）  
下 壺出土状況・・・177  
図版6 縄文時代晩期の土器（1）・・・178  
図版7 縄文時代晩期の土器（2）・・・179  
図版8 縄文時代晩期の土器（3）・・・180  
図版9 縄文時代晩期の土器（4）・・・181  
図版10 縄文時代晩期の土器（5）・・・182  
図版11 縄文時代晩期の土器（6）・・・183  
図版12 縄文時代晩期の土器（7）・・・184  
図版13 縄文時代晩期の土器（8）・・・185  
図版14 縄文時代晩期の土器（9）・・・186  
図版15 縄文時代晩期の土器（10）・・・187  
図版16 縄文時代晩期の土器（11）・・・188  
図版17 縄文時代晩期の土器（12）・・・189  
図版18 縄文時代晩期の土器（13）・・・190  
図版19 縄文時代晩期の土器（14）・・・191  
図版20 縄文時代晩期の土器（15）・・・192  
図版21 粘土モデリング・・・193  
図版22 上 縄文時代晩期の土器（16）  
下左 赤色顔料  
（パイプ状粒子）  
下右 土器の圧痕（237）・・・194  
図版23 縄文時代晩期の石器（1）・・・195  
図版24 縄文時代晩期の石器（2）・・・196  
図版25 縄文時代晩期の石器（3）・・・197  
図版26 縄文時代晩期の石器（4）・・・198  
図版27 縄文時代晩期の石器（5）・・・199  
図版28 縄文時代晩期の石器（6）・・・200  
図版29 縄文時代晩期の石器（7）・・・201  
図版30 縄文時代晩期の石器（8）・・・202  
図版31 弥生～古墳時代の土器（1）・・・203  
図版32 上 弥生～古墳時代の土器（2）  
下 第2調査地点の調査状況・・・204  
図版33 上 1号掘立柱建物跡  
中 2号掘立柱建物跡  
下 2号掘立柱建物跡  
ピット1, ピット2・・・205  
図版34 上 2号掘立柱建物跡  
ピット3, ピット4,  
ピット5  
中 4号掘立柱建物跡  
下 5号掘立柱建物跡  
検出状況・・・206  
図版35 上 5号掘立柱建物跡  
ピット掘り下げ  
中 6号掘立柱建物跡  
下 7号掘立柱建物跡・・・207  
図版36 上 1号竪穴住居跡状遺構  
中 2号竪穴住居跡状遺構  
下左 7号掘立柱建物跡  
ピット出土遺物  
下右 1号竪穴住居跡状遺構  
出土遺物・・・208  
図版37 上 円形周溝墓検出状況  
下 円形周溝墓  
遺物出土状況・・・209  
図版38 上 円形周溝墓完掘状況  
下 円形周溝墓  
溝内出土遺物・・・210

## 図 版 目 次

図版39	1号土坑墓と出土遺物	図版49	平安時代の遺物(3) ……221
	上 1号土坑墓遺物出土状況	図版50	平安時代の遺物(4) ……222
	中 1号土坑墓出土土器	図版51	平安時代の遺物(5) ……223
	下 1号土坑墓出土 青銅製品と刀……………211	図版52	平安時代の遺物(6) ……224
図版40	上 2号土坑墓	図版53	平安時代の遺物(7) ……225
	中 3号土坑墓検出状況	図版54	平安時代の遺物(7の裏面) ……226
	下 3号土坑墓調査状況……………212	図版55	平安時代の遺物(8) ……227
図版41	上 1号土坑検出状況	図版56	平安時代の遺物(8の裏面) ……228
	中 1号土坑完掘	図版57	上 平安時代の遺物(9) 下 943・944の出土状況・229
	下 1号土坑出土遺物……………213	図版58	上 古道1検出状況 下 古道1調査状況……………230
図版42	上 2号土坑検出状況	図版59	上 古道群1 下 古道群2と溝3 (北から)……………231
	下 1号土坑出土遺物……………214	図版60	上 古道群2と溝3～5 (8区南から) 下 古道群2と溝5 (9区北から)……………232
図版43	上 3号土坑半掘状況	図版61	上 溝6,7,8(奥は溝3) 下 13区古道12・13……………233
	中 3号土坑 遺物出土状況と完掘	図版62	上 古道14と溝10 下 溝11検出状況……………234
	下 3号土坑出土遺物……………215	図版63	上 溝11完掘 下 溝12……………235
図版44	上 4号土坑検出状況	図版64	上 溝13 下 溝13内の馬の歯の土坑 ……236
	中 4号土坑調査状況	図版65	上 古道1 下 溝14……………237
	下 4号土坑出土遺物……………216	図版66	上 溝15(白線) 溝16(手前) 下 中世の遺物……………238
図版45	上左 5号土坑出土土器		
	上右 6号土坑出土土器		
	中 8号土坑検出状況と 完掘		
	下 8号土坑出土土器……………217		
図版46	上 9号土坑調査状況		
	中左 9号土坑完掘		
	中右 1号焼土		
	下左 3号焼土		
	下右 4号焼土……………218		
図版47	上 奈良時代の遺物と出土状況		
	下 平安時代の遺物(1) ……219		
図版48	平安時代の遺物(2) ……220		

# 第 I 章 調査の経過

## 第1節 調査に至るまでの経過

日本鉄道建設公団九州新幹線建設局は、九州新幹線鹿児島ルート建設を計画し、事業予定区内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課（当時、平成8年4月以降文化財課）に照会した。それを受けて文化課は、平成4年12月に事業予定地内の分布調査を実施し、21か所の遺跡を確認した。

また、西鹿児島駅舎の予定地に所在する武遺跡については、協議の結果新幹線鉄道駅緊急整備事業として遺跡の確認と全面調査が進められた。

その後、分布調査の結果に基づいて日本鉄道建設公団九州新幹線建設局、県教育庁文化財課、県立埋蔵文化財センターの三者でそれらの遺跡の取扱いについて協議し、平成8年度から用地取得等条件の整った遺跡から確認調査を実施することとなった。

平成8年度は、出水市鳥越平遺跡及び川内市大原野遺跡の確認調査を行い、平成9年度は、大原野遺跡の全面調査と川内市前畑遺跡の確認及び一部全面調査を実施した。

平成10年度は、前畑遺跡の全面調査の継続と他12か所の遺跡について確認及び全面調査を実施した。

計志加里遺跡の確認調査は、平成11年度に原田・大島・薩摩国分寺下（京田）・鍛冶屋馬場・春田遺跡の確認調査と並行して実施した。また全面調査は平成12年5月23日から平成13年3月26日まで182日間実施した。

整理及び報告書作成作業は平成13年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで行った。

## 第2節 調査の組織

【平成11年度（確認調査）】

調査主体者 鹿児島県教育委員会

調査企画調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所 長 吉永和人

調査企画者 " 次長兼総務課長 黒木友幸

" 主任文化財主事兼調査課長 戸崎勝洋

" 課長補佐兼第一調査係長 新東晃一

" 主任文化財主事兼第二調査係長 立神次郎

" 主任文化財主事 彌榮久志

調査担当者 " 文化財主事 宮田栄二

" 文化財主事 平木場秀男

調査事務担当 " 総務係長 有村 貢

" 主 査 今村孝一郎

" 主 事 溜池佳子

【平成12年度（全面調査）】

調査主体者	鹿児島県教育委員会		
調査企画調整	鹿児島県教育庁文化財課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	井上明文
調査企画者	"	次長兼総務課長	黒木友幸
	"	主任文化財主事兼調査課長	新東晃一
	"	調査課長補佐	立神次郎
	"	主任文化財主事兼第二調査係長	彌榮久志
	"	主任文化財主事	長野眞一
調査担当者	"	文化財主事	宮田栄二
	"	文化財主事	平木場秀男
	"	文化財研究員	川口雅之（12～1月）
	"	文化財調査員	徳田有希乃（12～1月）
	"	文化財調査員	樋渡将太郎
調査事務担当	"	総務係長	有村 貢
	"	主 査	今村孝一郎
	"	主 事	溜池佳子
現地指導者	立正大学	学 長	坂詰秀一
	京都大学大学院	教 授	上原真人

【平成13年度（整理・報告書作成作業）】

調査主体者	鹿児島県教育委員会		
調査企画調整	鹿児島県教育庁文化財課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	井上明文
調査企画者	"	次長兼総務課長	黒木友幸
	"	主任文化財主事兼調査課長	新東晃一
	"	調査課長補佐	立神次郎
	"	主任文化財主事兼第二調査係長	彌榮久志
	"	主任文化財主事	長野眞一
整理担当者	"	文化財主事	宮田栄二
	"	文化財主事	浜崎一富（9月まで）
	"	文化財研究員	三宅史子（10月より）
調査事務担当	"	総務係長	前田昭信
	"	主 査	今村孝一郎
	"	主 事	池 珠美
整理指導者	山本考古学研究所	所 長	山本信夫
	鹿児島大学農学部	学 部 長	西中川駿

なお発掘調査中及び整理作業中に、次の方々から指導・助言をいただいた。（敬称略）

上村俊雄（鹿児島国際大学），永山修一（ラ・サール学園），中村明蔵（鹿児島国際大学），  
島津義昭・高木正文（熊本県教育庁文化課），中島哲郎（川内市教育委員会）

### 第3節 調査の概要と調査経過

#### 1. 確認調査

計志加里遺跡の確認調査は平成11年度に実施した。これは近接する原田，大島，薩摩国分寺下（京田），鍛冶屋馬場，春田の各遺跡の確認調査と並行して行い，また同年度は前畑遺跡の全面調査も実施した。

各遺跡とも用地買収の進行が良くなく，また用地買収が終了している場所でも住居の移転が行われていなかったり，畑地がそのまま耕作されていたり調査ができる条件が整ってはいなかった。これらの各遺跡のなかで最も用地買収が遅れていたのが計志加里遺跡であった。このような環境のなかで確認調査を実施した。

確認調査は任意の地点に任意の方向で2m×3mないしは4mの長さのものを12ヶ所設置して行った。調査の結果，数ヶ所のトレンチで古代の土坑や溝状遺構が確認された。また中世の時期と判断される古道も多くのトレンチで検出された。遺物包含層からは縄文時代晩期の土器や石鏃と平安時代の土師器・須恵器が全てのトレンチから出土した。これにより調査区域内全体が遺跡であると判断された。

#### 2. 全面調査

記録保存のための全面調査は平成12年度に，大島遺跡，京田遺跡（薩摩国分寺下遺跡）の全面調査と並行して実施した。

計志加里遺跡の調査は買収が終了している北側の第1調査地点から実施したが，住宅部分や電柱等は移転が終了後，効率は良くないが再び調査を行った。

遺跡の調査区域は新幹線建設のため幅は約10.5mと狭いが，距離は細長い。グリッドは北側から20m単位とし北から1，2，3～区と呼称した。南側第3調査地点は川内市学校給食センターが1学期7月末まで操業しており，その後の建物の撤去・サラ地化を待って調査を実施し，中間区域については住宅の移転が遅れたため最後に調査を行った。

調査の結果，縄文時代早期及び前期の遺物も出土した。縄文時代晩期では集石が2基と多量の土器と石器が出土した。平安時代では掘立柱建物跡，竪穴住居状遺構，円形周溝墓，土坑墓，各種の土坑や溝状遺構などの多様な遺構が検出され，土師器の坏・碗・蓋・鉢，須恵器の坏や甕，転用硯のほか，土坑墓内では鉄製刀子や青銅製品も出土した。中世では多くの古道や溝状遺構が検出され，土師器，青磁，白磁，滑石製品などが出土した。

調査の経過については日誌抄により略述する。

平成12年5月

1日より調査開始。鉄道建設公団の要請により京田遺跡消防署地点の調査から実施する。24日から計志加里遺跡の調査開始。



平成12年6月

計志加里遺跡第1調査地点1区～9区の調査。移転していない住宅部分は除いて行う。公団の要請により鍛冶屋馬場遺跡の確認調査も並行して行う。

平成12年7月

計志加里遺跡1区～9区の調査と並行して大島遺跡の調査も開始する。掘立柱建物跡や溝状遺構、古道跡などの遺構が検出される。4日、鉄道建設公団と調査工程の件で打合せを行う。

平成12年8月

計志加里遺跡と大島遺跡を並行して調査する。計志加里遺跡は第1調査地点1～9区と同時に第2調査地点17区から23区の道路付け替え部分も調査を行う。1日、28日鉄道建設公団と第3調査地点の調査工程について打合せを行う。

平成12年9月

川内市給食センターが移転・解体したため、第3調査地点20～23区の客土剥ぎを9月11日から行う。

平成12年10月

計志加里遺跡及び大島遺跡を並行して調査を実施しているが、5日より京田遺跡も並行して調査を行う。計志加里は第1調査地点7区の電柱移転部分と第2調査地点20～26区の調査を行う。

平成12年11・12月

計志加里・大島・京田遺跡を同時並行で調査する。11月9日に熊本県教育庁文化課と新幹線関係調査の二県協議会を発掘調査事務所で行う。計志加里は第1調査地点1～3区の住居が移転した部分と6～7区及び橋脚部分K11、12を調査する。

平成13年1月

計志加里・大島・京田遺跡の調査を並行して実施する。新たにプレハブ詰所と休憩所を設置して、11日より京田遺跡の調査を担当するため川口、徳田両名が加わり、作業員も大幅に増員する。計志加里は、住居が移転した第2調査地点13区～17区の調査を行う。

平成13年2月

計志加里・大島・京田遺跡の調査を並行して行う。7～8日は京都大学上原真人先生の指導、8～9日は立正大学坂詰秀一先生の指導を受ける。

平成13年3月

「先史・古代の鹿児島」に関わる遺跡調査として、上村俊雄・中村明蔵・永山修一の3名の先生が遺跡視察を行う。計志加里・大島・京田遺跡の調査を並行して行う。

19日大島遺跡の調査が終了する。26日計志加里遺跡の調査終了。

京田遺跡については次年度2ヶ月間調査を実施する協議が行われた。

#### 第4節 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財調査の概要

九州新幹線鹿児島ルートの発掘調査は、平成5年5月12日より鹿児島市武遺跡から開始し、平成13年5月30日川内市京田遺跡で全てを終了した。

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う発掘調査は、一覧表のとおりである。

第1表 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧 (1)

番	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	主な遺構・遺物
1	茶屋ノ元	出水市境町	H10.7.2～3 H11.3.2～4 計5日間	240㎡	彌榮久志 前田 誠	縄文早期 縄文前期	塞ノ神式、轟式、磨製石斧、黒曜石
2	鳥越平	出水市境町	H8.8.5 計1日間	55㎡	池畑耕一 中原一成	時期不明	包含層は確認されず。
3	鏡・安原	出水市安原町	H11.2.17, 18 H11.2.24, 25 H11.3.9 計5日間	60㎡	彌榮久志 前田 誠	縄文晩期 平安時代	研磨土器、黒曜石、土師器
4	榎木田 見入来 大坪	出水市美原町	H11.1.5～3.9 H11.5.6 ～12.3.31 H12.5.1 ～13.3.27 計420日間	27, 247㎡	彌榮久志 前田 誠 濱崎一富 東 和幸 高岡和也 上床 真 森田裕之	縄文晩期 平安時代 鎌倉時代	縄文晩期埋設土器38基、平安期電付竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡9棟、焼土遺構3基、溝状遺構30条、波板状遺構27条、上加世田式、入佐式、黒川式、土師器、須志器、玉縁白磁滑石製石鍋、刻書土器鉄製品、石鏃、磨製石斧、打製土掘り具、石匙・石皿、磨石、凹石、異形石器、玉類(勾玉6、管玉25、丸玉5、平玉3、垂飾品1、剥片46、未製品30)
5	宮野脇	出水市上鯖淵	H11.2.19 H12.2 計2日間	48㎡	彌榮久志 前田 誠 東 和幸	時代不明	包含層確認されず。
6	松ヶ迫	出水市武本	H8.8.6 計1日間	12, 5㎡	池畑耕一 中原一成	時期不明	包含層確認されず。
7	小松	出水市武本	H10.7.8～10 計3日間	108㎡	彌榮久志 前田 誠	縄文早期	土器、黒曜石
8	前畑	川内市城上	H9.11.1 ～H10.3.31 H10.5.6 ～H12.12.24 H10.12.13 ～H12.2.24 計195日間	11, 800㎡	長野眞一 上床 真 彌榮久志 前田 誠 宮田栄二 平木場秀男	旧石器時代 縄文早期 縄文前期 縄文後期 中世 近世	土坑25(陥し穴含)基、集石4基、竪穴状遺構1基、五輪塔、大型掘立柱建物跡7軒、ナイフ形石器、細石刃核、吉田式・石坂式・轟式、石鏃、石斧、石皿、磨石、敲石、土師器、青磁、白磁、染付、薩摩焼。

第2表 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧(2)

番	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	主な遺構・遺物
9	計志加里	川内市中郷町	H11.7.1~8.27 H12.5.23 ~H13.3.26 計218日間	5,900m <sup>2</sup>	宮田栄二 平木場秀男 樋渡将太郎	縄文早期 縄文後期 縄文晩期 弥生時代 古墳時代 平安時代 中世	竪穴住居1軒, 掘立柱建物跡5棟, 土坑墓3基, 円形周溝状遺構1基, 土坑5基 中世掘立柱建物跡2棟, 古道, 溝状遺構 早期押型文土器, 曾畑式土器, 磨製石鏃, 打製石斧, 錐, ピエス, スクレイ パー, 磨石, 石皿, 石匙, 石鏃, 砥石, 土師器, 須恵器, 瓦, 青磁, 白磁, 滑石製品, 刀子, 青銅製品, 紡錘車。
10	京田 (薩摩国分 寺下)	川内市中郷町	H11.6.1~20 H12.5.8~6.6 H12.9.4 ~H13.3.24 H13.4.9~5.31 計191日間	5,900m <sup>2</sup>	宮田栄二 上之園健二 平木場秀男 川口雅之 徳田有希乃 樋渡将太郎	弥生中期 平安時代 中世 近世	弥生期水田跡, 土留め遺構, 杭列, ウケ跡, ドングリピット, 古代水田跡, 弥生土器, 三又鍬, 二又鍬, 大足, 一本梯子, 横架材, 網杵, 曲物, 土師器 須恵器, 瓦
11	原田・大島	川内市東大小 路町	H10.11.26 H11.5.6 ~H12.3.24 H12.5.7 ~H13.3.19 計275日間	1,960m <sup>2</sup>	宮田栄二 平木場秀男 樋渡将太郎	縄文晩期 弥生中期 古墳時代 平安時代 中世	弥生期竪穴住居跡4軒, 土坑1基, 古墳 期竪穴住居跡1軒, 平安期竪穴住居跡31 軒(竈付2軒), 掘立柱建物跡2棟, 土 坑墓1, 中世竪穴住居跡1軒, 掘立柱建 物跡1棟, 畠跡, 弥生期甕・壺, 石包丁, 磨製石鏃, 古墳期成川式, 須恵器, 大刀 剣, 鉄鏃, 平安期土師器, 須恵器, 瓦, 越州窯青磁, 緑釉, 陶器, 転用硯, 帯金具, 石製丸柄, 玉類, 土錘, 金環, 青銅製鈴, 鉄製品。
12	鍛冶屋馬場 春田	川内市平佐町	H10.11.25 H11.9.1~9.27 H12.5.9~6.15 H12.9.1 ~12.27 計103日間	2,850m <sup>2</sup>	彌榮久志 前田 誠 宮田栄二 平木場秀男 川口雅之 徳田有希乃	古代 中世 近世	古代鍛冶炉6基, 土坑2基, 竪穴住居跡1 軒, 掘立柱建物跡4棟, 畠跡, 炉跡7基, 越州窯系青磁, 陶器壺, 土師器, 鉄滓, 古銭, 中世青磁, 鉄製品(鏃, 鋤先, 紡 錘車, 鉄鏃), 近世薩摩焼, 平佐焼, 伊万里焼, 土師器, 羽口, 鉄滓
13	楠元 城下	川内市百次町	H10.9.17~30 H10.11.4~24 H11.9.2~12.6 H11.5.6~11.8 計209日間	1,800m <sup>2</sup>	彌榮久志 前田 誠 川口雅之	縄文後期 弥生 古墳	弥生~古墳期竪穴住居跡2軒, 炉跡2基 土坑12基, 溝7条(杭列を伴う溝1条) 縄文期押形文・市来式・西平式・北久根 山式, 弥生~古墳期土器, 木製平鍬, 又鍬, 横鍬, 鍬の柄, 掘り棒, 丸木弓, 容器(未製品), 櫛状木製品。
14	上野城跡	川内市百次町	H11.12.1 ~3.24 H12.5.1 ~H13.3.29 計316日間	19,400m <sup>2</sup>	前田 誠 川口雅之 前野潤一郎 切通雅子 徳田有希乃 彌榮久志	旧石器 縄文 古墳 中世	中世掘立柱建物跡30棟, 土坑墓3基, 方形竪 穴建物跡5軒, 溝4条, 古道1, 条畠跡, 剥片 尖頭器, ナイフ形石器, 押形文, 石坂式, 阿高式, 土師器, 石皿, 敲石, 凹石, 石鏃, 土師器, 須恵器, 白磁, 青磁, 短刀, 古銭, 滑石製石鍋, 中世陶器, 鉄鏃

第3表 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧 (3)

番	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	主な遺構・遺物
15	大原野	川内市百次町 浦田	H8.10.1~29 H9.11.1 ~H10.3.31 計171日間	2,815㎡	青崎和憲 中原一成 長野眞一 国生 誠 上床 真	旧石器 縄文早期 縄文前期	ナイフ形石器, 細石器, 吉田式, 石坂式, 条痕土器, 轟式, 石鏃, 石皿, 磨石, 敲石, 石斧
16	東下原	日置郡東市来 町養母	H10.10.27~29 H10.12.1~18 H11.3.12 計20日間	248㎡	彌榮久志 前田 誠	旧石器 縄文早期 古墳 古代	古代焼土付土坑, 細石刃核, 成川式, 土師器。
17	上ノ平	日置郡伊集院 町下神殿四区	H11.2.26 H11.10.1~25 H12.11.14 ~H13.3.29 計92日間	2,328㎡	彌榮久志 前田 誠 上之園建二 八木澤一郎 馬籠亮道	旧石器 縄文後期 中世	縄文竪穴住居跡5軒, 集石4基, 中世溝1条, 細石刃核, 指宿式, 磨製石斧, 石鏃。
18	山ノ脇 石坂 西原	日置郡伊集院 町郡	H11.5.6~24 H11.6.4~30 H11.11.1 ~H12.3.24 H12.5.1 ~11.13 計184日間	1,900㎡	上之園建二 八木澤一郎 馬籠亮道 徳田有希乃	縄文草創期 縄文早期 縄文中期 古墳 中世	集石, 草創期1基, 早期3基, 中期3基。中世溝, 農具埋納土坑, 掘立柱建物跡12棟, 縄文早期土器, 船元式, 成川式, 土師器, 陶磁器(中国南部), 滑石製石鍋。
19	梅落	日置郡伊集院 町郡	H11.5.19~21 H11.6.14~17 H12.6.19 ~7.14 計24日間	340㎡	上之園建二 八木澤一郎 馬籠亮道 徳田有希乃	縄文早期	集石, 塞之神式, スクレーパー。
20	尾崎	鹿児島市	発掘調査せず				遺跡は工事に触れず残
21	武ABC	鹿児島市武一 丁目	H5.4.12~5.25 H5.5.21~7.2 H5.12.6 ~H6.2.21 H6.3.9~30	9,104㎡	彌榮久志 倉元良文 鶴田静彦	縄文前期 縄文中期 弥生中期	古墳住居跡27軒, 土坑18基, 溝2条ピット30, 近世溝9条, 轟式, 深浦式, 春日式, 船元式, 山之口式, 成川式,
22	寿国寺跡	鹿児島市武二 丁目	H11.5.24 ~6.11 H11.7.1~9.28 H12.5.8~6.13 計175日間		上之園建二 八木澤一郎 馬籠亮道 徳田有希乃	近世	陶器, 磁器, 瓦, 木製品, 金属製品, 寿国寺跡のはん池(門前池)跡。
23	前市野原	串木野市	H10.12.15 計1日間	22㎡	彌榮久志 前田 誠	時期不明	追加調査で挿入。 包含層は確認されず。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置と立地

計志加里遺跡は、川内市中郷町計志加里・東郷牟田・鶴峯に所在し、JR鹿児島本線川内駅から北西へ約2.5km、徒歩約30分程の位置にある。

川内市は鹿児島県北西部に位置し、北及び北東は紫尾山系のそびえる出水山地で阿久根市、東郷町に接する。東は丘陵性の上床山地で樋脇町と境をなし、南は古くから修験場として知られる冠岳山地と、西に連なり弁財天山を最高峰とする高江山地で串木野市と接している。川内市はこれら三方を山地で囲まれた盆地上の地形をなしており、中央を流れる川内川が西流して東シナ海に注ぐため西方に開けている。

川内川の水源は、熊本県球磨郡上村の白髪岳と、その西に位置する同郡錦町の大平山とを結ぶ鞍部である。この水源から宮崎県えびの市に入り、霧島山系をへて、吉松町より本県に入る。流路は3県にまたがり、支流・幹流を合わせて本県最大の流れであることはもとより、九州でも筑後川に次ぐ第二の長流である。川内市街地は、川内川や支流によって形成された沖積平野にあり、川内川両岸に及ぶ自然堤防やその後背湿地、谷底平野に立地している。洪水の影響もさることながら、その多くは水田に利用されている。流域の地質はおおむね安山岩であるが、川内盆地を囲む山地裾部から盆地中央にむかって、権現原台地などの低いシラス台地が広がり、台地上にはいくつもの重要な遺跡が点在している。

計志加里遺跡は、上床丘陵と川内川低地にはさまれた風口台地に位置しており、東側には台地を分断するように開析された低湿地があり、享保14年（1729）に天神池と呼ばれる溜池がつけられている。台地はシラスの二次堆積からなり段丘として現れている。このような台地は大河川の下流域である川内の特色となっている。調査区域の標高は約15mである。

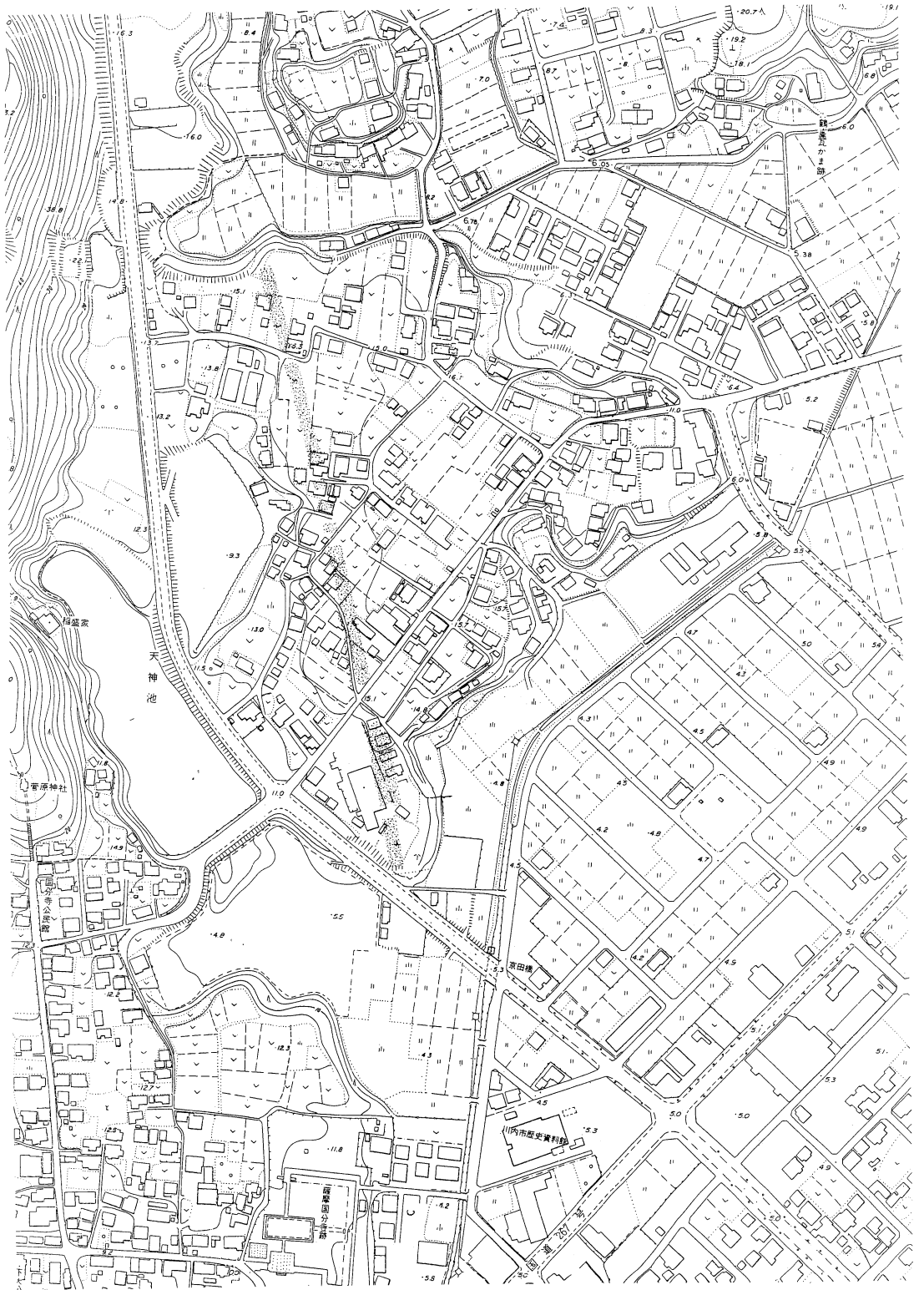
### 第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

川内市は、川内川によって形成された肥沃な平野を背景として、古くから政治・経済・文化の中心地であったことが、神話をはじめ発掘調査や文献により明らかになってきている。川内（せんだい）という地名も、薩摩国府の置かれた古代薩摩の地で、国衙の所在する地域が川内川の内側であったので「川内」、対岸に属する地域を「川外」と呼んだというのがはじまりとされている。

川内市周辺の遺跡として、県内初の柳葉石器（尖頭器）が出土した旧石器時代の馬立遺跡やナイフ形石器文化と細石器文化の2文化にまたがる遺物が出土した成岡遺跡、西ノ平遺跡などがあり、また新たに上野城跡でも旧石器時代の遺物が出土している。

縄文時代後期に入ると、尾賀台遺跡や麦之浦貝塚などで市来式土器をともなった貝塚が確認され、特に麦之浦貝塚では貝層中より、縄文後期土器（南福寺式・松山式・鐘ヶ崎式）や石鏃・石匙・磨石・石斧のほか、かんざしや垂飾などの骨角器、貝輪や獣骨などが出土しており、遠方との交流や生活水準の高さを考える上で貴重な資料となっている。

近年の発掘調査によって、楠元遺跡や京田遺跡などの河川流域の低湿地では、弥生時代中期ごろには水田稲作が行われていたことが、木製農具（鋤、鍬など）の出土で明らかになっている。また、後期には前述の麦之浦貝塚から中国後漢初期（1世紀）の舶載鏡片が出土したほか、外川



第1図 調査範囲と周辺の地形

江遺跡で内行花文S字状文鏡と呼ばれる小型仿製鏡や垂鉛ガラス製の小玉もみつまっている。

古墳時代には、横岡古墳群で南九州独自の墓制である地下式板石積石室が、宮内町では木花開耶媛の陵墓といわれる端陵などの高塚古墳が見られ、各々の墓制を代表する二つの勢力が混在していた地域であったと考えられる。

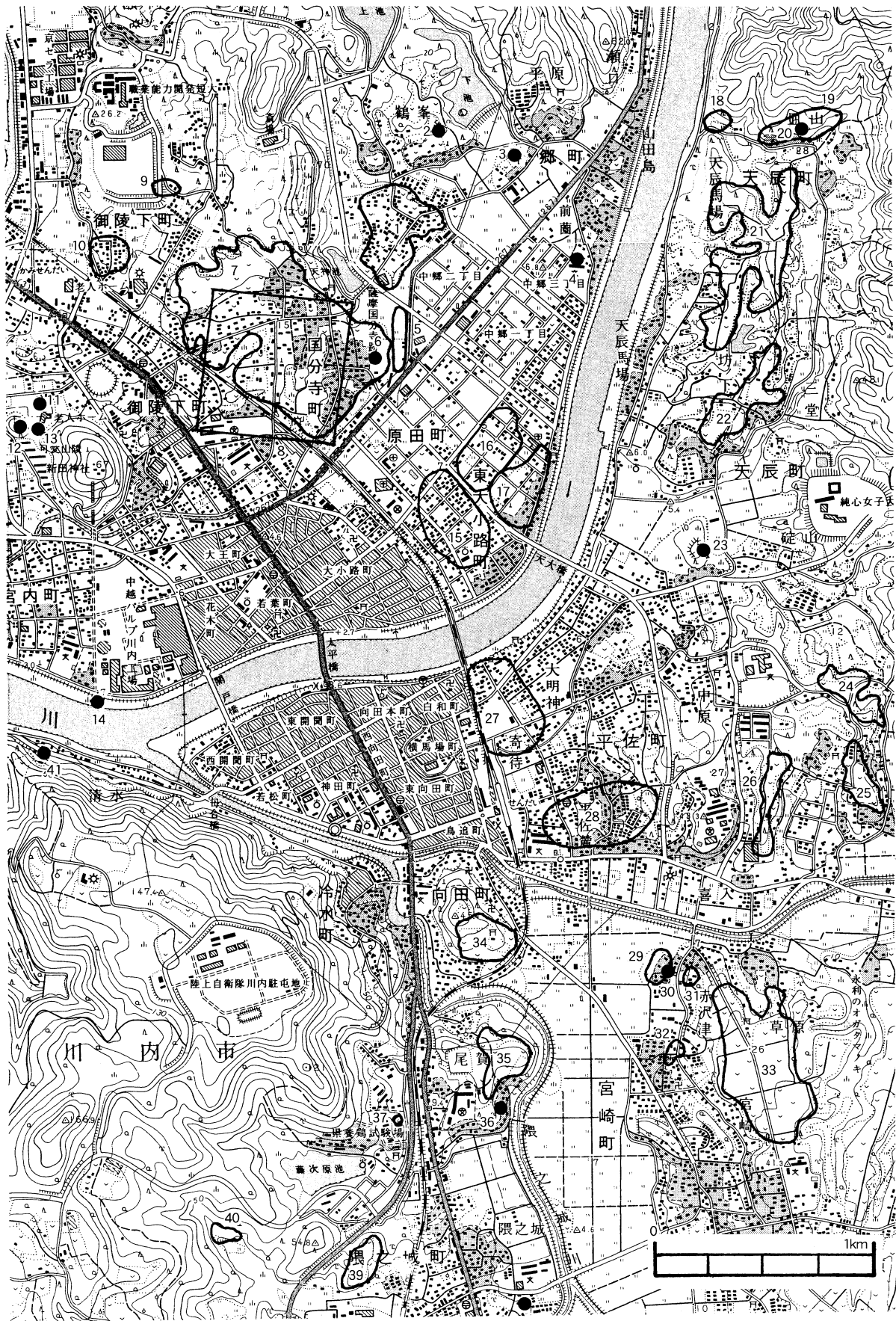
奈良時代に大宝律令が制定（701年）されると、中央・地方の官制が整って六〇余国に国府が設置され、翌年に薩摩国府が川内市御陵下町・国分寺町に置かれている。また、741年の聖武天皇の発願によって国分寺が、奈良時代末期に薩摩国府に隣接する国分寺町字大都・下台に建立されたようである。薩摩国分寺跡の北方約1km、川内川右岸の丘陵末端部には、薩摩国分寺創建当時の瓦を焼いた鶴峯窯跡がある。瓦窯二基、須恵器の窯一基があり、第一号窯では丸瓦と平瓦を第二号窯ではそれに加えて軒平瓦、軒丸瓦、鬼瓦などの特殊な瓦を焼いている。第三号窯は須恵器窯で8世紀前半までの蓋や埴などがみつまっている。また、新幹線鹿児島ルートに伴う発掘調査によって、奈良時代から平安時代にかけて住居跡群が多数検出された大島遺跡や、本県で初めて木簡が出土した京田遺跡などがある。この木簡は告知札と呼ばれるもので、棒状で墨書が四面に確認でき、「嘉祥三年」（850年）に郡司が在地の有力耕者に水田の差し押さえを告知するという内容である。資料の乏しい9世紀の鹿児島県の行政及び土地支配について、その実態を考える上で貴重な史料である。

平安時代末期から安土桃山時代にかけては多くの城館が造られ、文献に記されているものだけでも40ヶ所以上ある。鎌倉時代には、島津氏の居城であって豊臣秀吉の九州攻めの際に陥落したといわれる平佐城や、百次城（上野城）、高江城、隈之城、南北朝時代の碓山城などが知られているが、江戸時代幕府の一国一城制によって荒廃し、名を残すのみとなっている。なお、百次城（上野城）の調査では10世紀から13世紀頃の掘立柱建物跡や方形竪穴建物跡等が多数発見され、中世社会の解明につながることを期待されている。

近世の川内は、藩の直轄地と私領の八郷に分けられ、唯一の私領であった平佐領では薩摩焼の中でも肥前有田の技法を取り入れた磁器「平佐焼」が焼かれている。昭和初期に廃窯になるまで、川内の伝統工芸品を生み出していた窯跡は、市の文化財に指定されている。また平佐町鍛冶屋馬場遺跡では、平佐焼のほかに拳大の鉄滓を伴った鍛冶炉跡や鉄製品も多く出土しており、川内川の水を利用した生活がしのばれる。

#### <参考文献>

- 河口貞徳『日本の古代遺跡38 鹿児島』 保育社 1988  
「成岡遺跡Ⅱ」『鹿児島県文化財発掘調査報告書（35）』 鹿児島県教育委員会 1985  
『川内市文化財要覧』 川内市歴史資料館 1985  
「成岡・西ノ平・上ノ原遺跡」『鹿児島県文化財発掘調査報告書（28）』 鹿児島県教育委員会 1983  
『薩摩国分寺跡』 川内市教育委員会 1979  
『鹿児島県市町村別遺跡地名表』 鹿児島県教育委員会 1977  
『川内市史上巻』 鹿児島県川内市 1976  
『薩摩国府跡・国分寺跡』 鹿児島県教育委員会 1975



第2図 計志加里遺跡周辺の遺跡



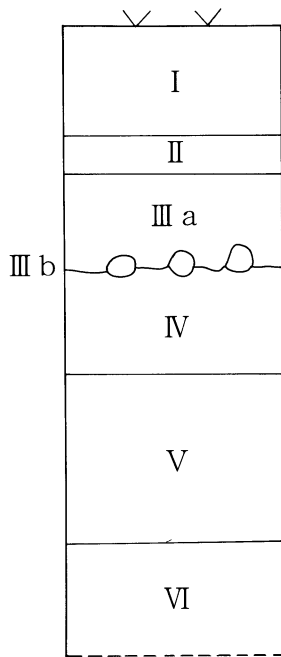
第4表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
1	計志加里	中郷町計志加里・鶴峯・東郷牟田	台地	縄文～江戸	掘立柱建物跡, 円形周溝墓, 土師器, 須恵器	
2	鶴峯窯跡	中郷町鶴峯	丘陵端	奈良	窯跡, 国分寺瓦	昭和41年発掘調査, 国指定史跡
3	亀ヶ城	中郷町山崎	丘陵	不明		消滅
4	安国寺跡	中郷町寺園	平地	室町	四天王石像	
5	京田	中郷町	湿地	弥生～鎌倉	水田跡, 杭列, 弥生土器, 土師器, 木簡, 木製品	平成12年度発掘調査
6	薩摩国分寺跡	国分寺町大都・下台	台地	奈良～平安	国分僧寺跡 (伽藍基壇跡・築地跡)	国指定史跡
7	国分寺台地	御陵下町風口・下原入来ほか	台地	縄文～江戸	土器, 須恵器, 土師器, 青磁, 染付	
8	薩摩国府推定域	御陵下町	台地	縄文～江戸	土器, 須恵器, 土師器, 布目瓦, 青磁	六町四方の庁域
9	越ノ巢	御陵下町越ノ巢	丘陵	奈良～平安	蔵骨器	昭和61年調査
10	尾形原	御陵下町尾形原	丘陵	奈良～平安	蔵骨器	消滅
11	小松城	宮内町小松城	丘陵	不明		消滅
12	端陵	宮内町1935番2	丘陵	古墳	前方後円墳	昭和62年測量
13	中陵	宮内町1935番2	丘陵	古墳	前方後円墳?	
14	弥勒寺跡	宮内町八幡馬場	平地	平安		消滅
15	東大小路C (大島)	東大小路町大島	微高地	縄文, 弥生, 古墳, 奈良～平安	竪穴式住居, 土器, 土師器, 須恵器, 布目瓦, 硯, 石製丸轡, 金環	平成12年度大島遺跡として発掘調査
16	東大小路A	東大小路町下目ほか	微高地	古墳～室町	土器, 青磁, 染付	
17	東大小路B	東大小路町大島馬場ほか	微高地	古墳～室町	土器, 青磁, 染付	
18	平佐焼窯跡群	天辰町皿山	丘陵	江戸～明治	窯跡, 染付, 窯道具	
19	平佐焼窯跡群	天辰町皿山	丘陵	江戸～明治	窯跡, 染付, 窯道具	平成11年度発掘調査
20	平佐焼窯跡	天辰町2992	丘陵	江戸～明治	窯跡	市指定史跡
21	天辰原	天辰町才原ほか	台地	古墳～江戸	土器, 須恵器, 青磁	
22	古原	天辰町古原	台地	古墳～江戸	土器, 須恵器, 染付	
23	碓山城	天辰町碓山	丘陵	鎌倉	空堀跡	
24	原口	田崎町原口・外園	台地	古墳～江戸	土器, 須恵器, 染付	
25	大明原	田崎町大明原	台地	縄文～江戸	土器, 染付, 石鏃	
26	喜入原	平佐町喜入原	台地	縄文～江戸	土器, 染付, 石鏃	
27	鍛冶屋馬場	平佐町鍛冶屋馬場	平地	平安～明治	掘立柱建物跡, 鍛冶炉, 土師器, 須恵器, 染付, 鉄製品	平成12年度発掘調査
28	平佐城	平佐町藤崎	丘陵	鎌倉～戦国	空堀跡, 土塁跡	
29	赤沢津	宮崎町赤沢津	微高地	縄文～古墳	土器, 須恵器, 石斧	
30	森殿原の宝塔	宮崎町1834番地	微高地	鎌倉		市指定史跡
31	瀬戸口	宮崎町瀬戸口	台地下	縄文～平安	土器, 土師器, 石鏃	
32	赤殿原	宮崎町赤殿原	微高地	古墳～室町	土器, 土師器	
33	宮崎北原	宮崎町出居原ほか	台地	古墳～室町	土器, 須恵器, 陶器	
34	日暮丘	向田町鋒本・諏訪平ほか	丘陵	古墳～江戸	土器, 須恵器, 染付	
35	尾賀台	隈之城町尾賀原・古寺・後原ほか	丘陵	縄文～室町	土器, 須恵器, 染付, 石鏃	一部貝塚
36	椿城	隈之城町尾賀	丘陵	不詳	掘切り跡	
37	池尻	隈之城町池尻	丘陵斜	古墳	須恵器	
38	二福城	隈之城町城	面	鎌倉～戦国	曲輪跡	
39	西ノ口	隈之城町西ノ口	丘陵	古墳	土器	
40	湯之谷	隈之城町湯之谷	台地	平安	土師器	

### 第三章 遺跡の層位

本遺跡が所在する台地は、川内市の中央を流れる一級河川の川内川による段丘に相当し、そのため基盤層はシラスの2次堆積を含む砂礫層である。標高は約15mである。

調査を実施した範囲は細長いが、基本同層は下のようになる。



I層 暗褐色土（耕作土）。宅地となっている部分は客土がなされている場合もあった。

II層 黒色土層。軟質であり、包含層の部分では削平等により残りは多くなかったが、溝状遺構部に多く残存していた。中世の遺物包含層である。

III a層 黄褐色土層。アカホヤ火山灰の腐食土層であり、軟質である。縄文時代前期から古代までの遺物包含層である。厚さは約20cm程度である。

III b層 橙色軽石。鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰に対比される。小さなブロック状で、かつ部分的にしか認められない。

IV層 黄褐色土層。軟質であるが、III a層と色調はかなり類似するが、比較すると若干粘性がある。

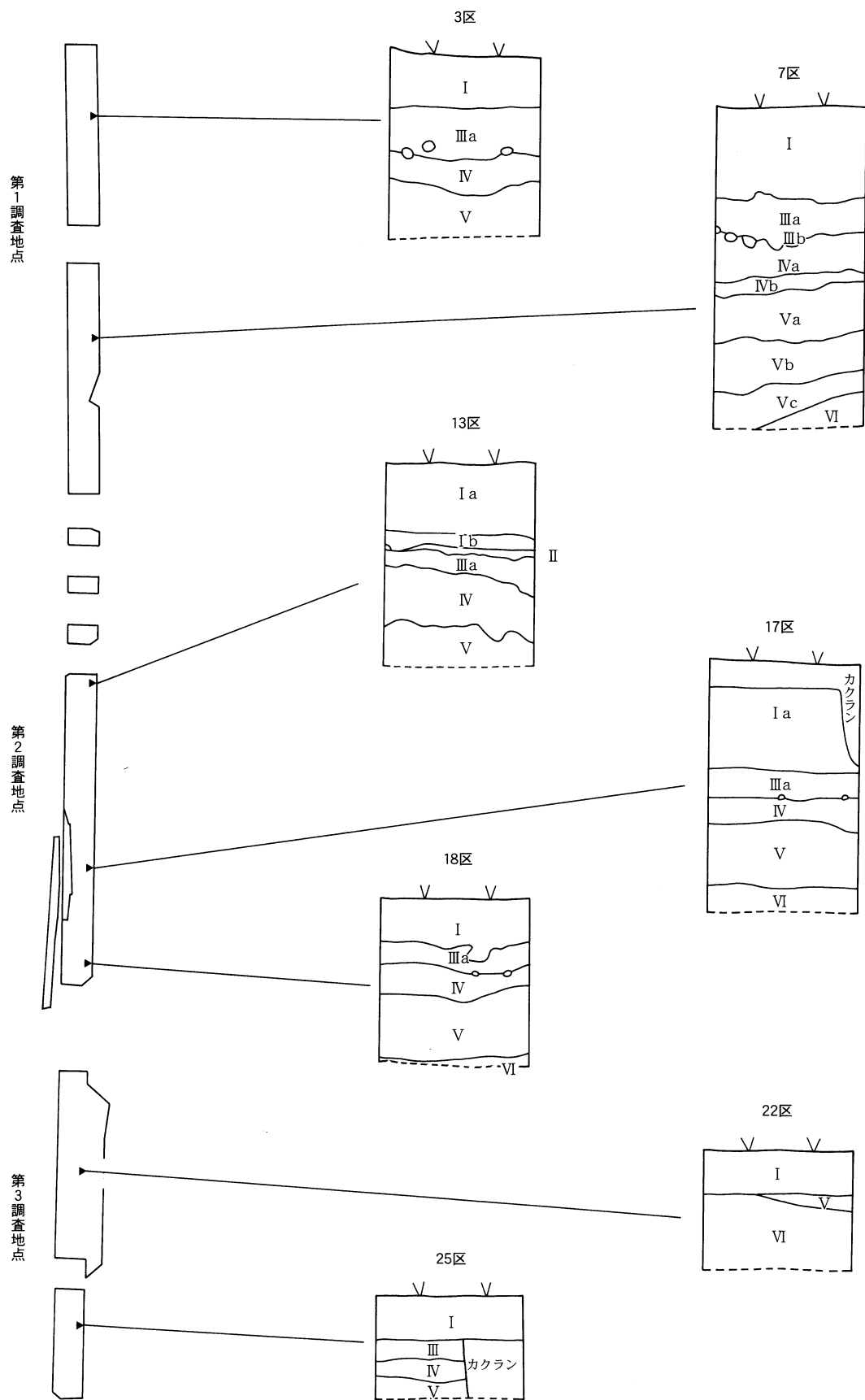
V層 黒褐色硬質土層。硬く締まっており、弱粘性である。乾くとクラックが発達する。厚く良好に堆積している部分ではa黒色弱粘質土、b茶褐色粘質土、c黄褐色粘質土に細分できる。

VI層 淡黄色砂礫層。砂及び小礫が混在しており、上部はシラスの二次堆積によると推定される黄白色の軽石（径2～5cm程度）が多く認められ、下部は径5～10cm程度の小礫が多くなる。

第3図 遺跡の基本土層柱状模式図

調査範囲は細長いため北側から第1調査地点、第2調査地点、第3調査地点と呼称した。

第1調査地点は削平等によりII層はほとんど認められず、溝状遺構などに埋土として残存しているのみである。第2調査地点はわずかにII層が残存しており、全ての層の堆積が認められた。ただし土層横転がいたる所で観察された。第3調査地点は、川内市給食センターがあった場所であり、大きく削平及び平坦化を受け、表土（客土）の下はV層が部分的に残り、他は全てVI層砂礫層であった。また最南端である第3調査地点の南側は、現在まで墓として利用されており、大部分攪乱を受けていた。わずかに墓穴と墓穴の間のみ遺物包含層が残存していた。



第4図 遺跡内各地点の土層

## 第IV章 縄文時代早期～前期の遺物

### 第1節 縄文時代早期

縄文時代早期の土器は押型文が大部分であり、第1調査地点8区及び9区北側から出土しているが、出土した層はアカホヤ上部のⅢa層であり、本来の層ではない。唯一13のみV層から出土したため、周囲をかなり広げたものの他に出土はなかった。

1は円筒形の器形で口縁部上位に幅広く貝殻条痕文を横位に施したものである。器壁は比較的厚く、口縁端部は丸くおさめる。胴部外面と内面はナデ調整で胎土には石英・長石・角閃石を含み、焼成は良好である。中原式土器と思われる。2は外反する口縁部に貝殻押圧したものであり、石坂式と思われる。3は貝殻腹縁による刺突を横位に間隔をおいて数条施している。4～12は押型文土器であり、同一固体の可能性が高い。底部12は平底であり、鉢形に開き楕円押型文は器面全体に施されており、外反する口縁付近の4には内面にも押型文が施されている。内面調整はミガキ調整であり、胎土には多量の石英のほかに長石、角閃石も含まれ焼成は良好である。

13は唯一遺物があるべき層位であるV層から出土したものであるが、1点しか出土していない。底部近くであり、格子目文の押型文が施されている。底部に近い部分は無文部であり入念なミガキ調整が施され、内面はナデ調整である。胎土には細礫・長石・角閃石を含み焼成は良好である。

### 第2節 縄文時代前期

縄文時代前期の土器は、第3調査地点の24～25区のⅢa層から出土した。この区域は調査直前まで現在の墓として利用されており、そのため遺物包含層は墓穴と墓穴の間の極めて狭い部分にしか残存していなかった。

#### 出土土器

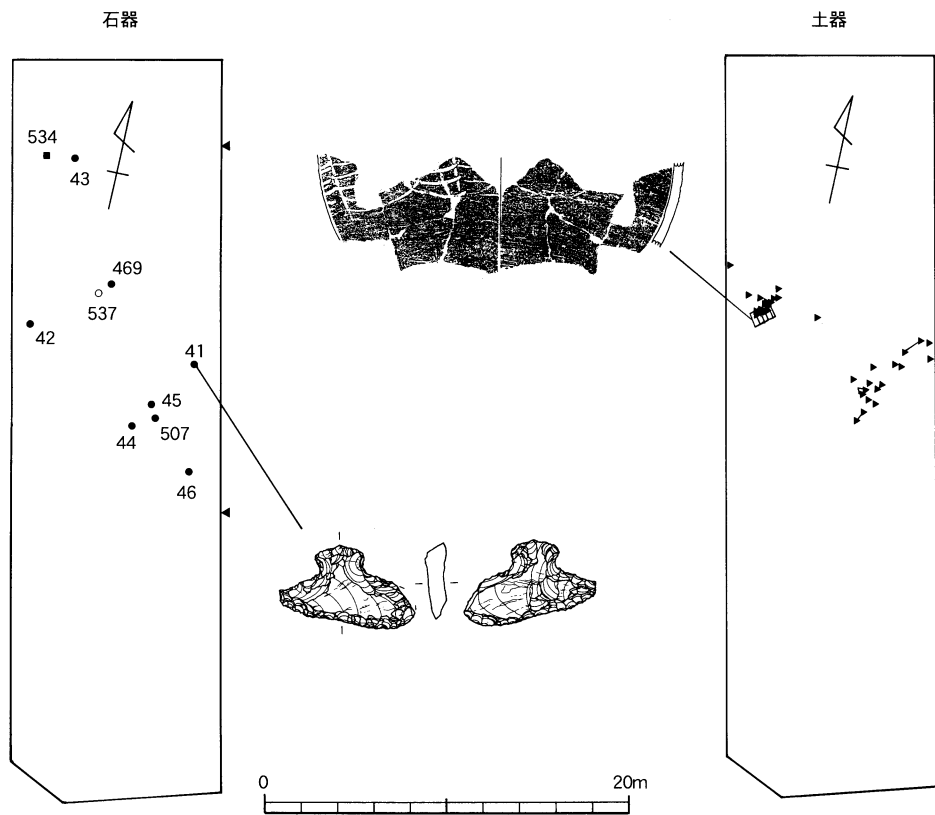
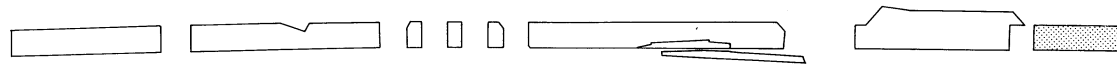
第7図14・15は口縁上端部に短い斜位の沈線文を連続して施し、その下には横位の沈線文を施すものである。内面の口縁上端部にも短い沈線文を斜位に施している。17～19は口縁上端には横位の沈線文を施したもので、内面には沈線文はない。丸くおさめた口唇部には刺突文が施されているが、ヘラ状工具によるもの(16, 18, 19)と、貝殻腹縁によるもの(17)がある。いずれの口縁部も直口し、内面はナデ調整である。21・22は横位の沈線と羽状もしくは複合鋸歯状の沈線を組み合わせて文様を構成するものである。20, 23, 24, 25はいずれも横位の沈線文を連続して施している。24は表裏両方からの穿孔が認められ、補修孔と考えられる。23の内面はナデ調整、その他はハケ目状の痕が観察され工具を利用したナデ調整である。

28は最大の破片であり、文様構成及び器形が推定可能なものである。器形は丸味をもつ胴部下半より丸底になると推定され、文様は胴部下半には施されない。沈線文は縦位に間隔を置いて施され、その間は横位に弧状に連続して施される。器面調整は外面がナデ、内面は工具によるナデが行われハケ目状の痕が観察される。26, 27, 29も同様の沈線をもつものである。31, 32は比較的細目の沈線を施したもので、逆に35は比較的太目の沈線を施したものである。36, 37, 38も同様の沈線文が施されているが、内面は貝殻条痕の後ナデを施したものである。

39は口縁部に斜位に沈線を施したもので、口唇部には比較的広い間隔で刺突が施される。裏



第5図 縄文時代早期の土器と出土分布



第6図 縄文時代前期の遺物出土分布

には粘土ひもが短い幅で積まれた痕跡が残る。内面はナデ調整である。

40は沈線を施す前に器面を貝殻条痕によって調整したものであり、裏面にも貝殻条痕が残る。胎土にはいずれも石英、長石、角閃石を含み、加えて18・23・34には滑石も含まれている。

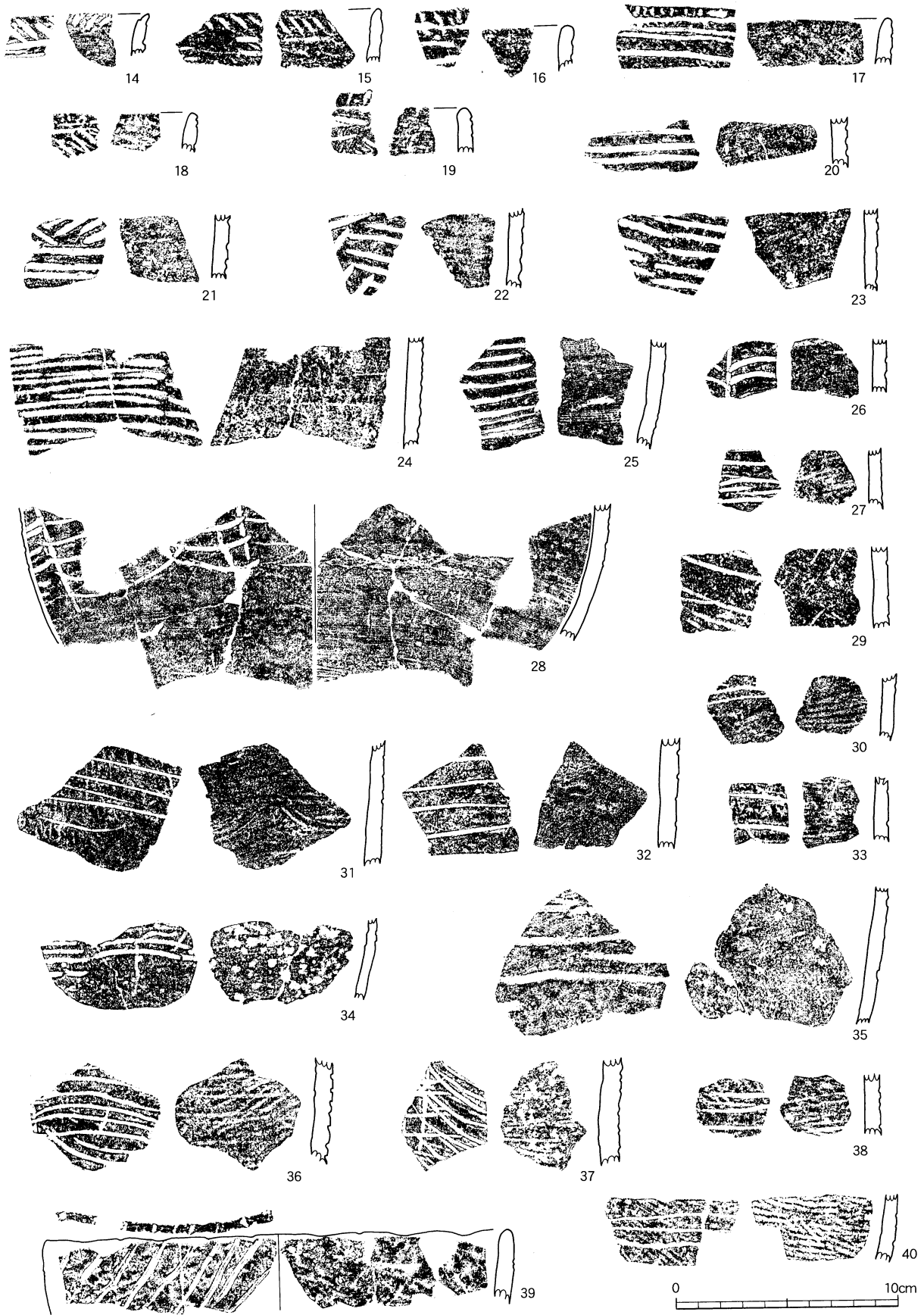
これらの土器は縄文時代前期中葉の曾畑式土器のなかでも古いタイプである。

#### 出土石器

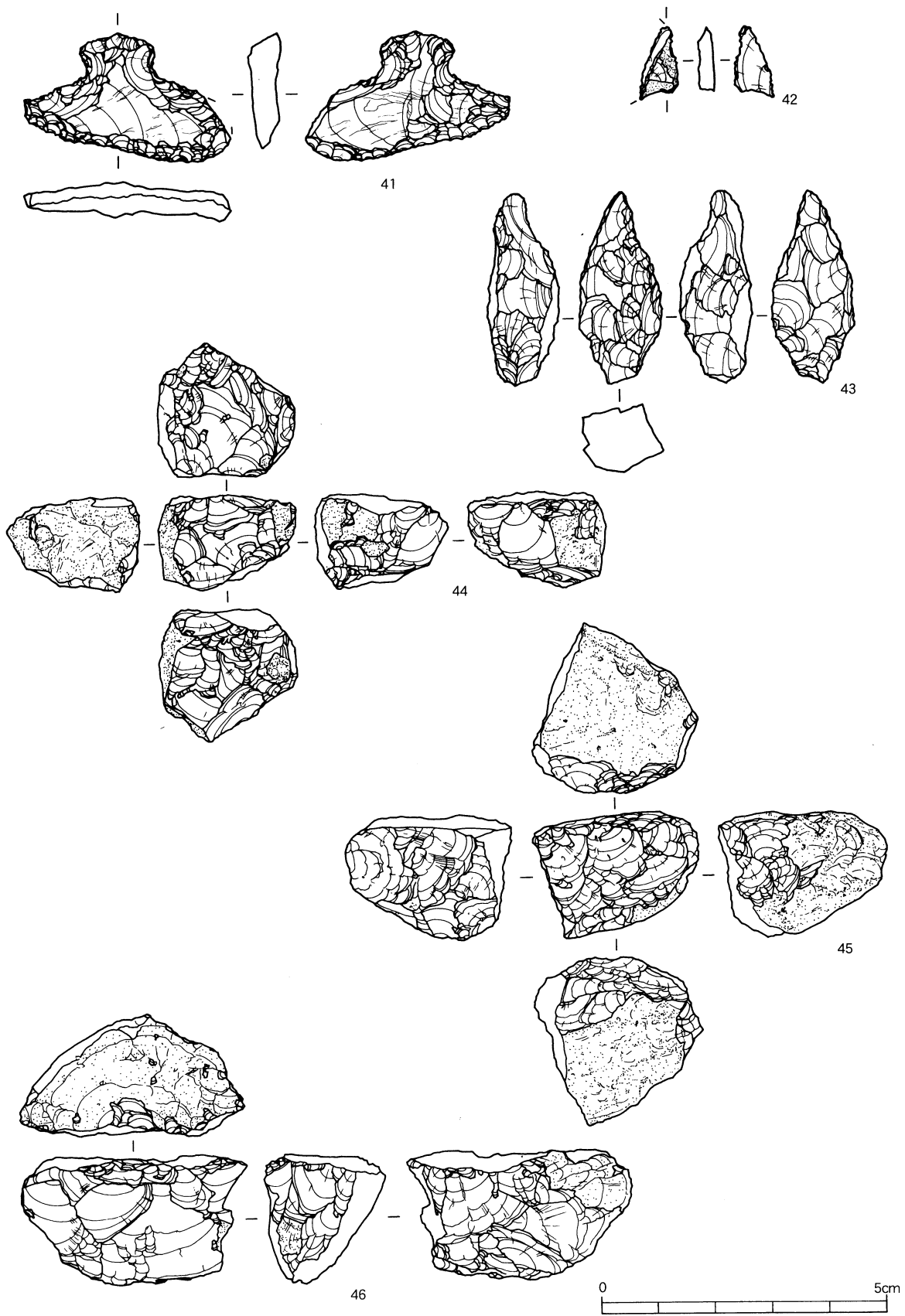
黒曜石の剥片を主体として約60点の遺物が出土した。黒曜石は、肉眼的観察によると樋脇町上牛鼻産のものが9割以上を占めていた。残りは気泡が多く日東産に類似するものであった。41はチャート製の石匙である。縦長剥片の側縁を刃部にし、表裏両面からの押圧剥離により整形及び刃部を形成している。42は上牛鼻産黒曜石剥片の一部に使用痕が観察される。43は玉随の4面に粗い加工を施したものである。旧石器時代の角錐状石器に類似する。44～46は石核である。44は自然面を一面残す他は全面剥離し、作業面を転移している。45は円礫を素材とし、上下の自然面を打面にしている。46は平坦な自然面を打面にし、前と後から剥片を剥いでいる。また最後の段階で小口部分からも剥出している。44、46は上牛鼻産黒曜石である。第41図469は剥片の一端を加工した搔器である。第45図507は上牛鼻産黒曜石を使用した大型の石核である。打面と作業面の位置を変えながら比較的大型の剥片を剥いでいる。

第48図534は礫器である。扁平な円礫を利用し、大きな割り取りと若干の細加工を施している。

第49図537は磨石である。安山岩の扁平な円礫を利用し、表裏両面は磨られた痕が著しい。



第7図 縄文時代前期の土器



第8図 縄文時代前期の石器



## 第V章 縄文時代晩期の遺構と遺物

縄文時代晩期の遺物は、第Ⅲa層の下半より出土した。遺物は粗製土器や精製土器の深鉢や浅鉢の他、壺も出土している。石器では多種の器種が認められた。遺構としては集石が検出された。

### 第1節 検出遺構

縄文時代晩期の遺構としては集石が2基確認された。

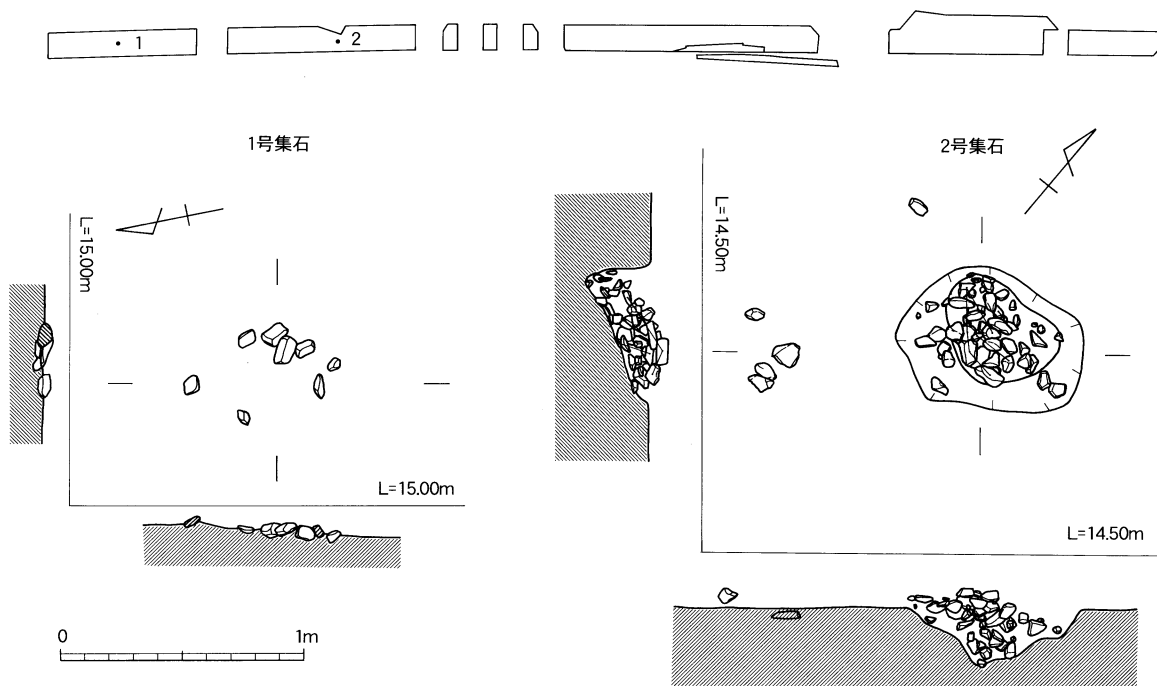
#### 1号集石

3区の中央付近で検出された。礫は拳程度の8個でそのうち6個が砂岩、他は安山岩である。長径65cm短径40cmであるが、中央は礫がなく抜かれた可能性もある。各礫は火熱により赤化し、一部ヒビ割れたものもある。掘り込みは確認できなかった。周囲には縄文時代晩期土器片が散在していた。

#### 2号集石

8区で検出された。長径×短径は70cm×60cmであり、約40cm離れた位置の4個も含めている。礫は総数60個で、1点の安山岩の他は全て砂岩である。礫は火熱を受け赤化したものが大部分であり、熱のため破碎したものがほとんどある。そのため礫の大きさは拳の半分の大きさに割れた細片が多く、100g未満のものが30%を占めている。大きな礫は拳の倍程度のものもある。集石の下部は深さ約30cmの掘り込みをもつが、掘り込みの壁面及び下面は平坦でなく、また火熱を受けたような硬い面はなく軟らかい。礫の接合を実施したところ、近接した礫が接合するのみでなく、上部の礫と下部の礫の接合や、かなり離れた礫が接合した。

このように、礫は火熱を受けた破片が多く、大部分赤化しており、接合では中央部から逆に離れた礫と礫が接合したり、また上下レベル差の著しいものが接合していることより、この集石はここで使用されたものではなく、他の場所で使用されたものが穴の中に棄てられたものと判断される。



第9図 縄文晩期の集石遺構

## 第2節 縄文時代晩期の土器

分類にあたっては器形を基本として分類するべきであるが、この時期は縄文時代から弥生時代へ移り変わろうとする段階であり、基本的な器種がまだはっきりしていない。また、破片が小さいことからどの器種に該当するか判断し兼ねる資料が多い。そこで、どの土器片でも判断が可能な内外面の器面調整でもって分類することとする。これは、同じ時期と考えられる加世田市干河原遺跡を整理・報告した福永裕暁氏も同様な視点で分類している（註1）。大分類としては、粗製土器（Ⅰ類）・精製土器（Ⅱ類）・半粗半精製土器（Ⅲ類）の3種に分類した。さらに、各類の中で特徴のあるものを基準として細分した。しかし、その基準というのは口縁部や底部ごとの特徴を便宜的に分けたものであり、統一した基準でないことをあらかじめお断りしておきたい。したがって、大分類の段階で終わる資料も多く存在する。また、時期の異なる3点の資料（215・216・324）もレイアウトの関係上この項目で扱うこととする。

**Ⅰ類**：内外面とも条痕あるいはナデによる器面調整の粗製土器である。

a：口縁端部が肥厚するもの・無刻目突帯文土器と呼ぶ。 b：口縁端部が肥厚しないもの  
c：張り出しをもつ底部 d：直行する底部 e：外開きになる底部

**Ⅱ類**：内外面ともミガキによる器面調整の精製土器である。

f：口縁部に沿って凹線もしくは沈線を巡らすもの g：沈線下部を削るもの  
h：口縁端部を肥厚させるもの

**Ⅲ類**：半粗半精製土器である。この類の土器は、器形的には浅鉢形土器の一部に含まれ、機能としては加熱具として利用されている。また、組織痕のみられるものを組織痕土器と呼んでいるが、組織痕を消しているものあるいは初めから組織痕が無い土器もみられ、一括りに組織痕土器とは呼べない。中華鍋形をしたこれらの器形もしくは用途に対して適当な名称があればよいのであるが、現在それが無いので下山覚氏が呼んだ半粗半精製土器として分類することとする（註2）。内面がミガキによる調整であり、外面は粗いナデによる器面調整である。

i：組織痕をもつもの。組織痕土器と呼ぶ。 j：組織痕をもたないもの。半粗半精製土器。

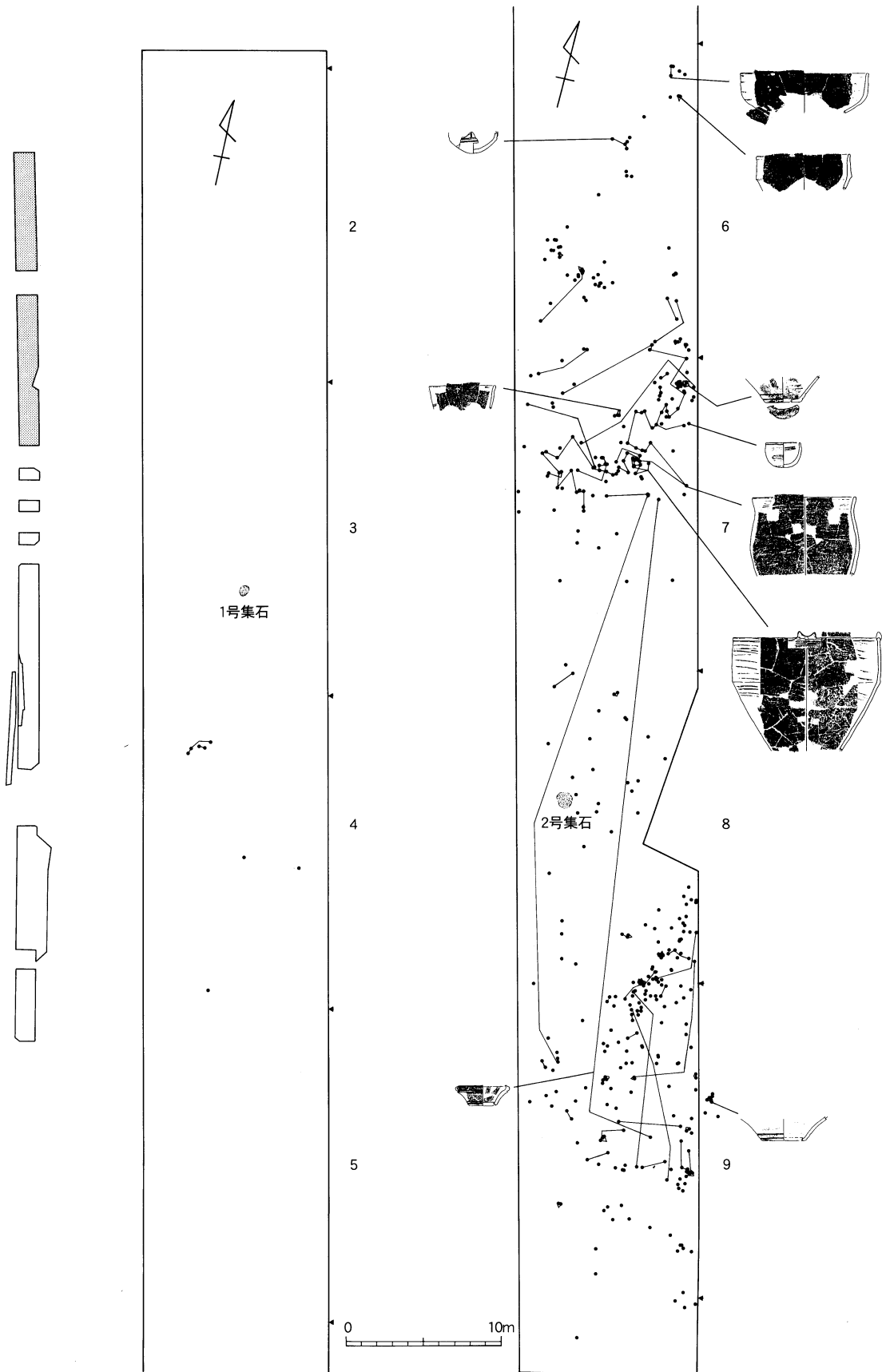
なお、圧痕をもつ底部と組織痕土器のうちモデリング陽像が良好に得られた遺物については、通常の拓本とともにモデリング陽像の拓本も添えている。

### 粗製土器（Ⅰ類：47～260）

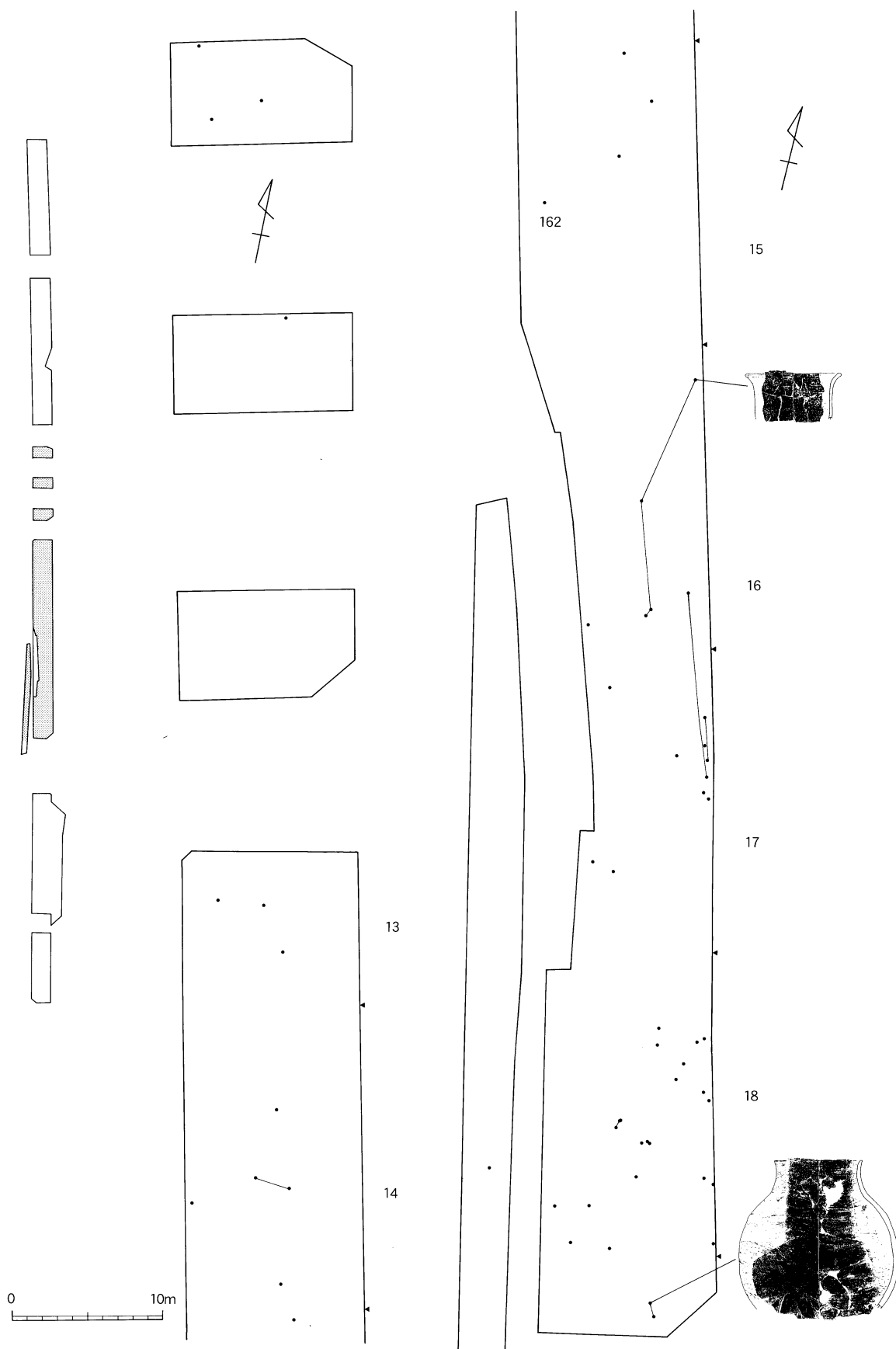
内外面とも条痕あるいはナデによる器面調整の土器である。口縁部から底部まで、それぞれの破片を含むが、大半は深鉢形土器に該当し、わずかに鉢形土器ではないかと考えられる破片が含まれる。

### 無刻目突帯文土器（Ⅰa類：47～93）

口縁部に接して突帯を巡らすもので、突帯上には刻目などは施さない。突帯の断面形は台形状をなす例が目立つものの、統一された形はみられない。91～93は口唇部からやや下がった所に、断面三角形の無刻目突帯を巡らす例である。全体の器形は、直口もしくはやや内傾する口縁部が



第10図 縄文晩期土器出土分布図（1）



第11図 縄文晩期土器出土分布図（2）

ら、全体の高さのおよそ3分の2のところ、約30°の角度で屈曲し、底部へ至る。本遺跡では完形復元できる例はなかったが、出土量が同程度であることから恐らく貼り出しをもつ底部になるのではないかと考えられる。口縁部にはリボン状の突起をもつもの(47~56)もあり、他遺跡の例から2ヶ所に付くのではないかと考えられる。波状口縁になる様な例はみられない。

#### 粗製深鉢形土器 (I b類: 94~167)

口唇部に突帯を巡らされない粗製土器を一括した。中には口唇部付近がわずかに肥厚ぎみとなる例(94~98)があり、無刻目突帯文土器との厳密な区別は難しい。内外面とも主にヨコ方向の条痕を施す。器形は肩部で屈曲するタイプと、屈曲しないタイプがある。肩部で屈曲するタイプは無刻目突帯文土器で述べた器形と同様である。屈曲しないタイプは102例の様に最大径が胴部上半にあり、そこからゆるく内湾しながら頸部に至り、わずかに開く口縁部をもつ。胴部最大径と口縁部直径の差は小さい。底部については、他遺跡での類例もなく今後の発見を待ちたい。口縁部にリボン状の突起をもつ例(110・111)もある。

#### 肩部・胴部 (I類: 168~225)

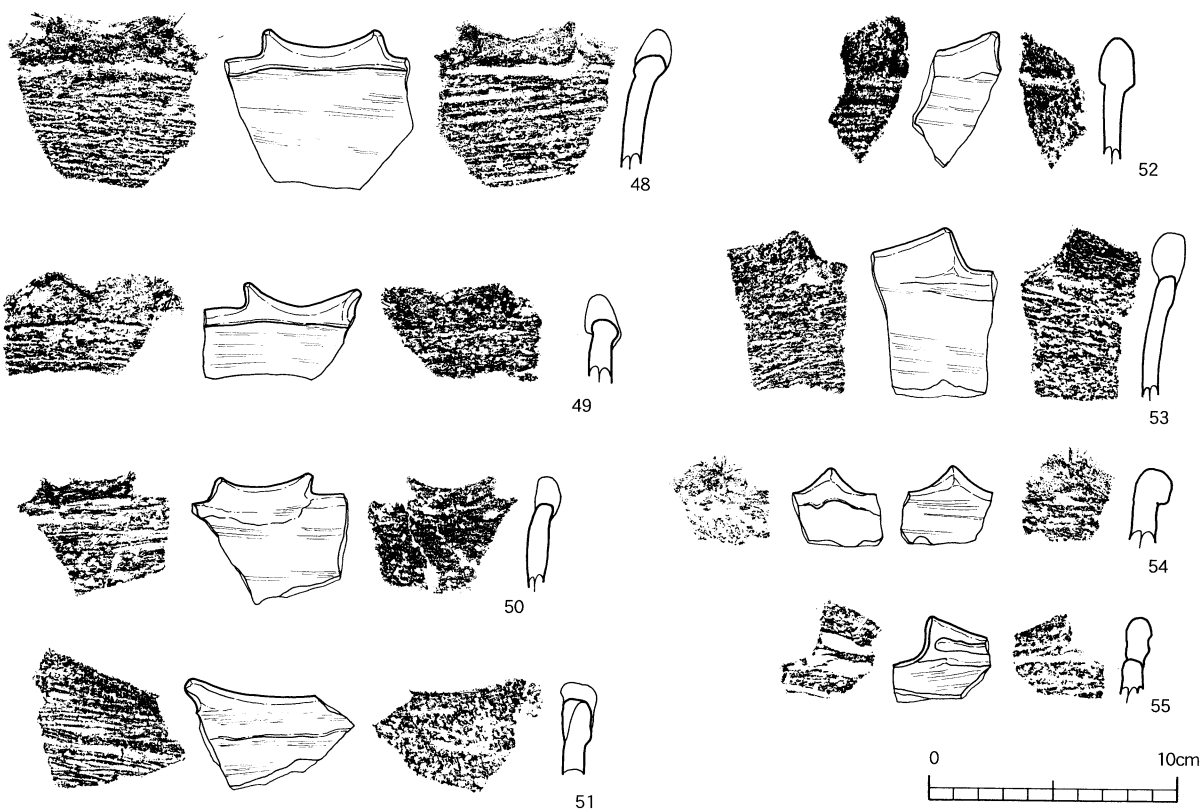
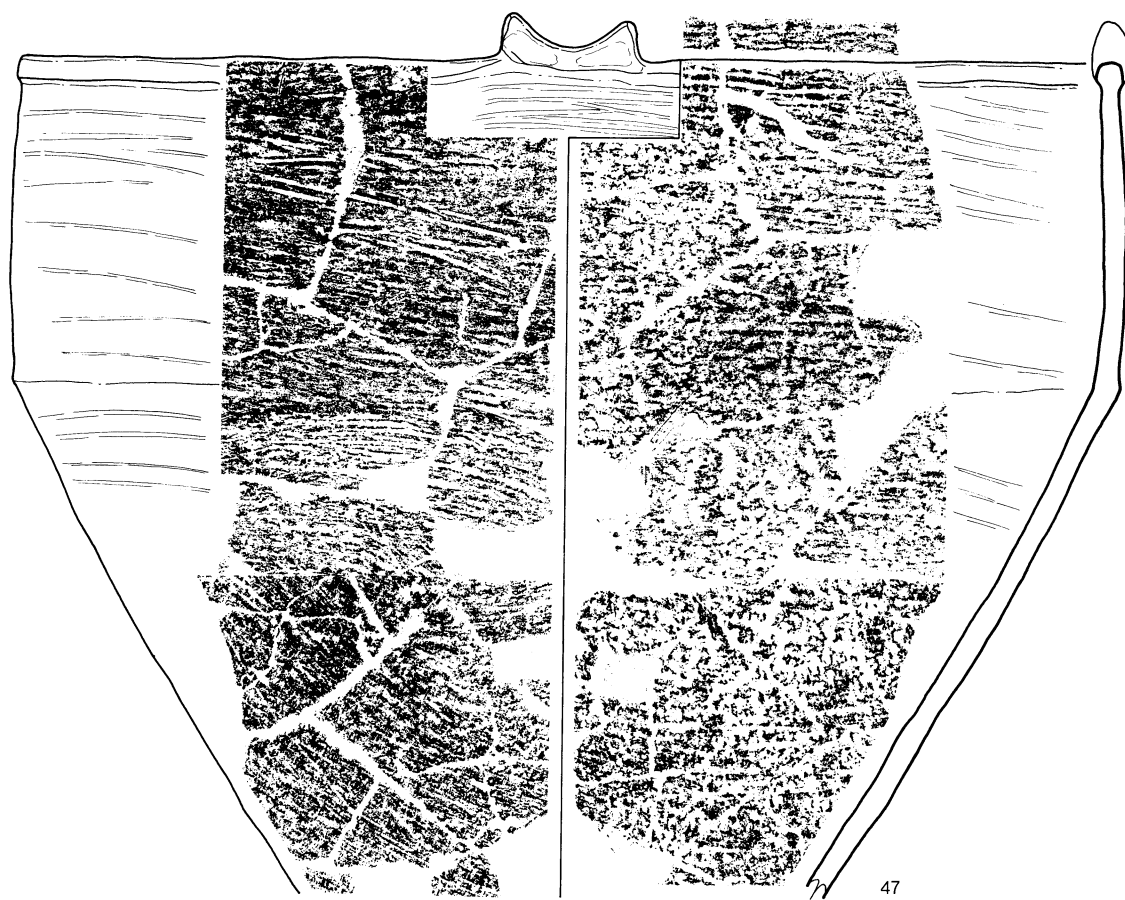
肩部には約30°の角度で屈曲するものと、ほとんど屈曲しない例(168・172など)がみられる。粘土の積み重ねの際に生じたと考えられる突帯状の盛り上がりが見られる例(176・177など)もある。195には突帯を、196には沈線を肩部に巡らしている。胴部はあまり湾曲せず、ストレートにたちあがる例が多い。

#### 底部 (I c・d・e類: 226~256)

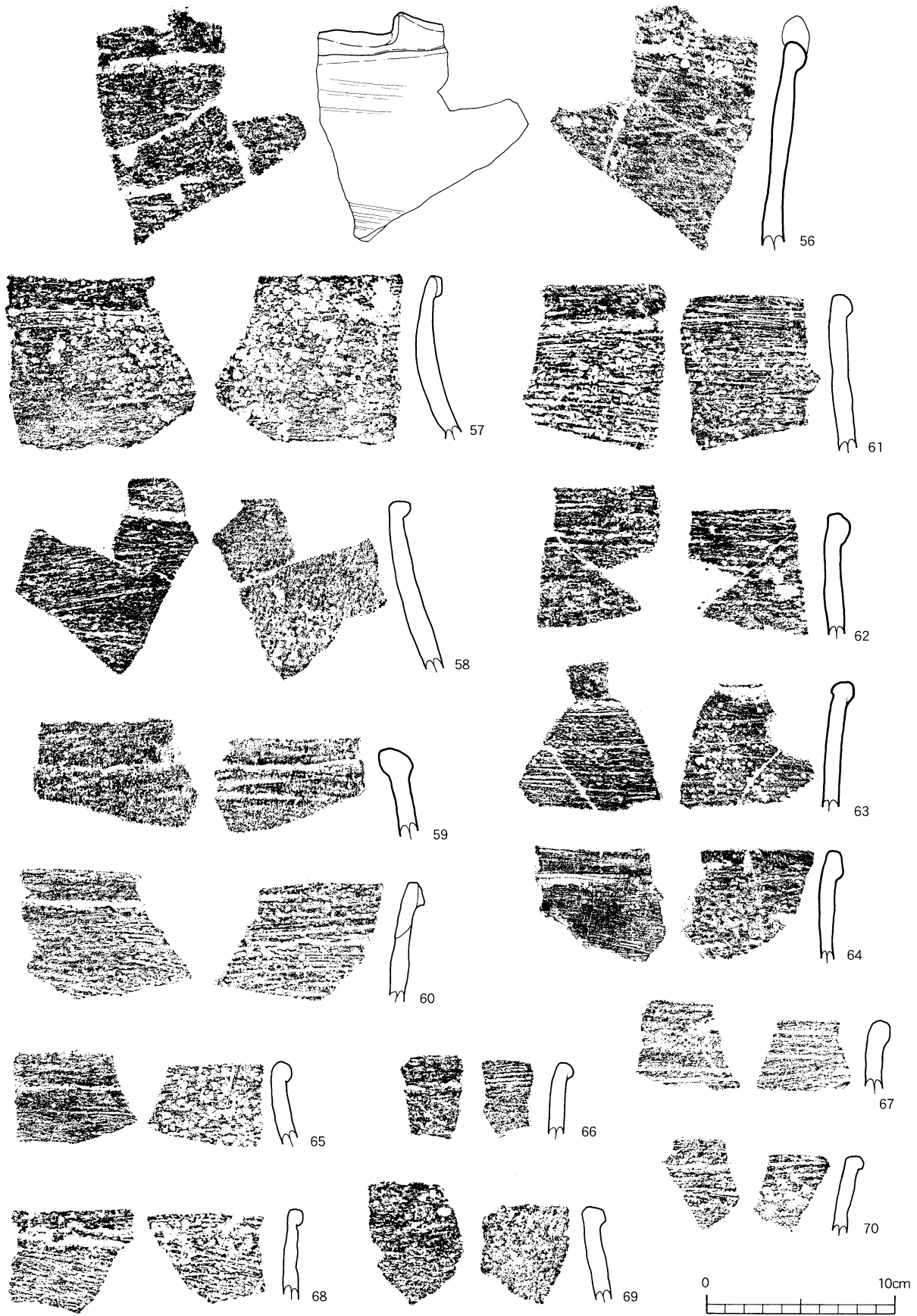
粗製土器の底部は小破片も含めて31個体分を数える。その内の80%以上は張り出しをもつ安定した底部である。それ以外は直行するもの(252・253)外開きになるもの(254~256)がある。これらの底部で特徴的なのは、圧痕をもつ例が8例存在するという点である。縄文時代後期にみられる網代底のように統一された圧痕ではなく、それぞれ異なった素材の圧痕をもっている。したがって土器製作時に偶然近くにあった素材が、意識的あるいは偶然圧痕として残ったと考えられる。胴部その他に圧痕がみられないことから、土器づくりの回転台代わりに近くにあった物を置いたと思われる。237は10×8mmの木ノ実状の圧痕がみられる。専門家による分析を行っていないので種類はわからないが、今後の追次次第では土器がつくられた季節や環境も明らかになってくると考えられる。

(註1) 『干河原遺跡』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(12)1995.3 加世田市教育委員会

(註1) 『水の谷遺跡』鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)1986.3 鹿屋市教育委員会



第12図 縄文時代晩期土器 (1)

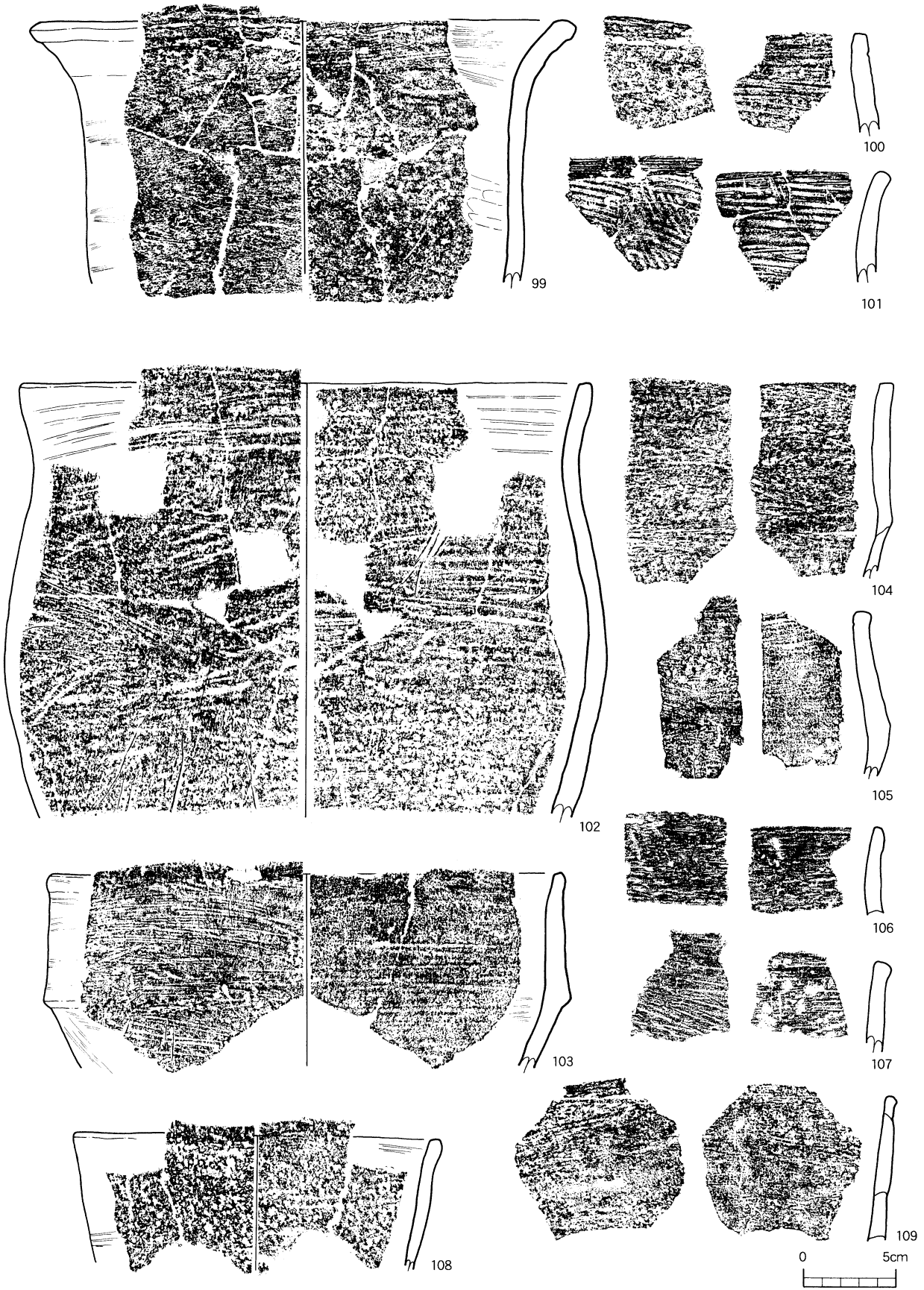


第13図 縄文時代晩期土器(2)

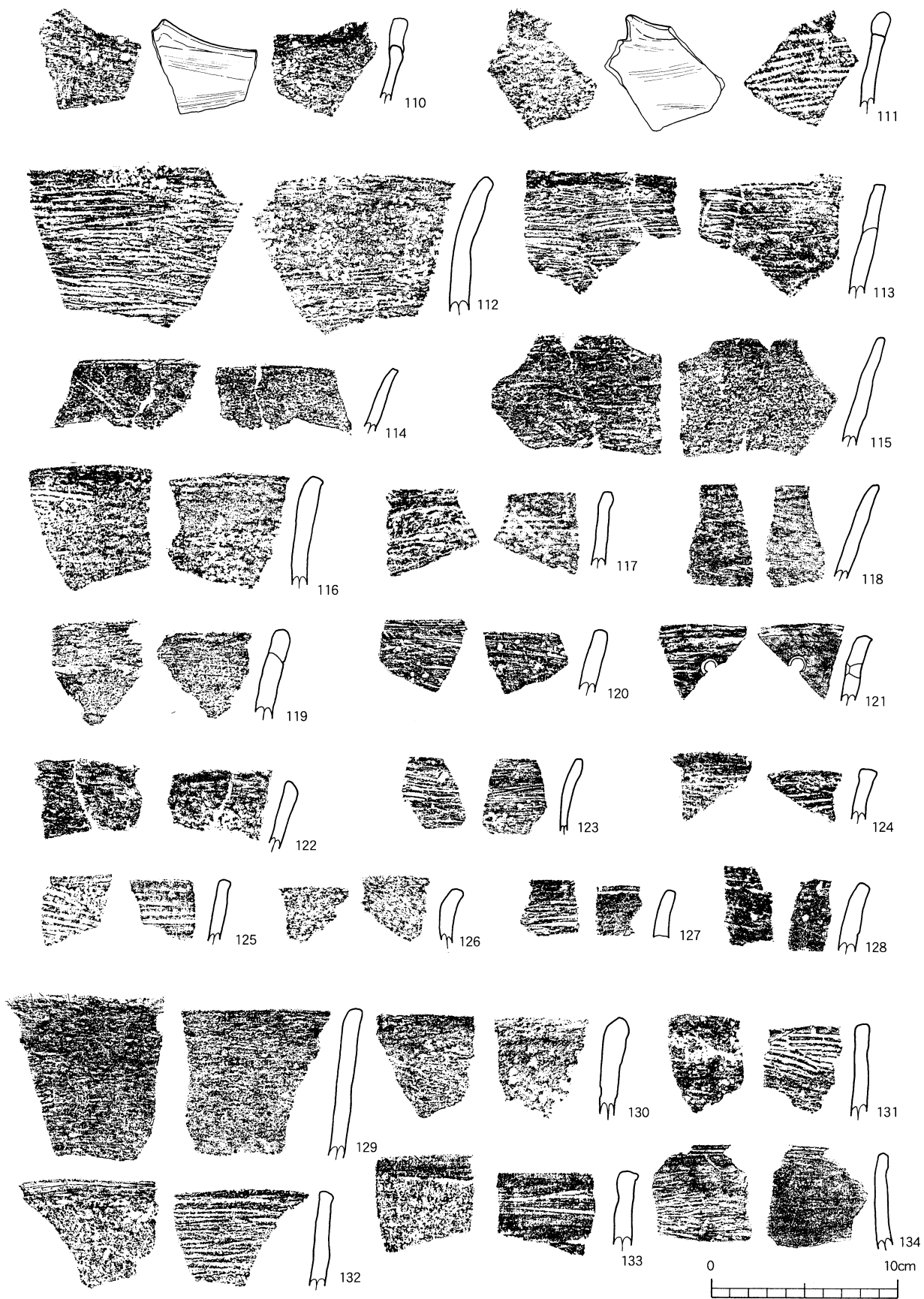


第14図 縄文時代晩期土器 (3)

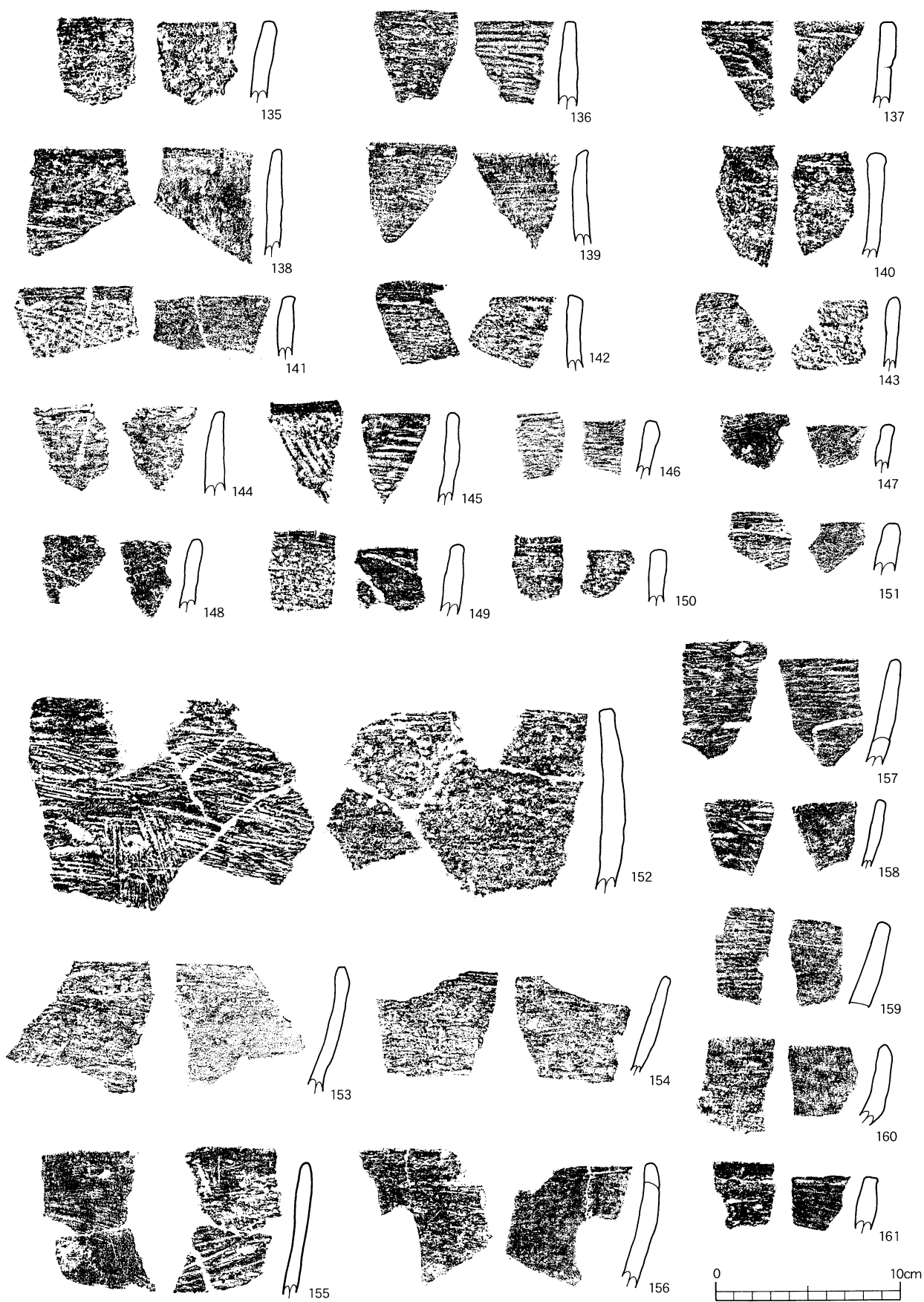




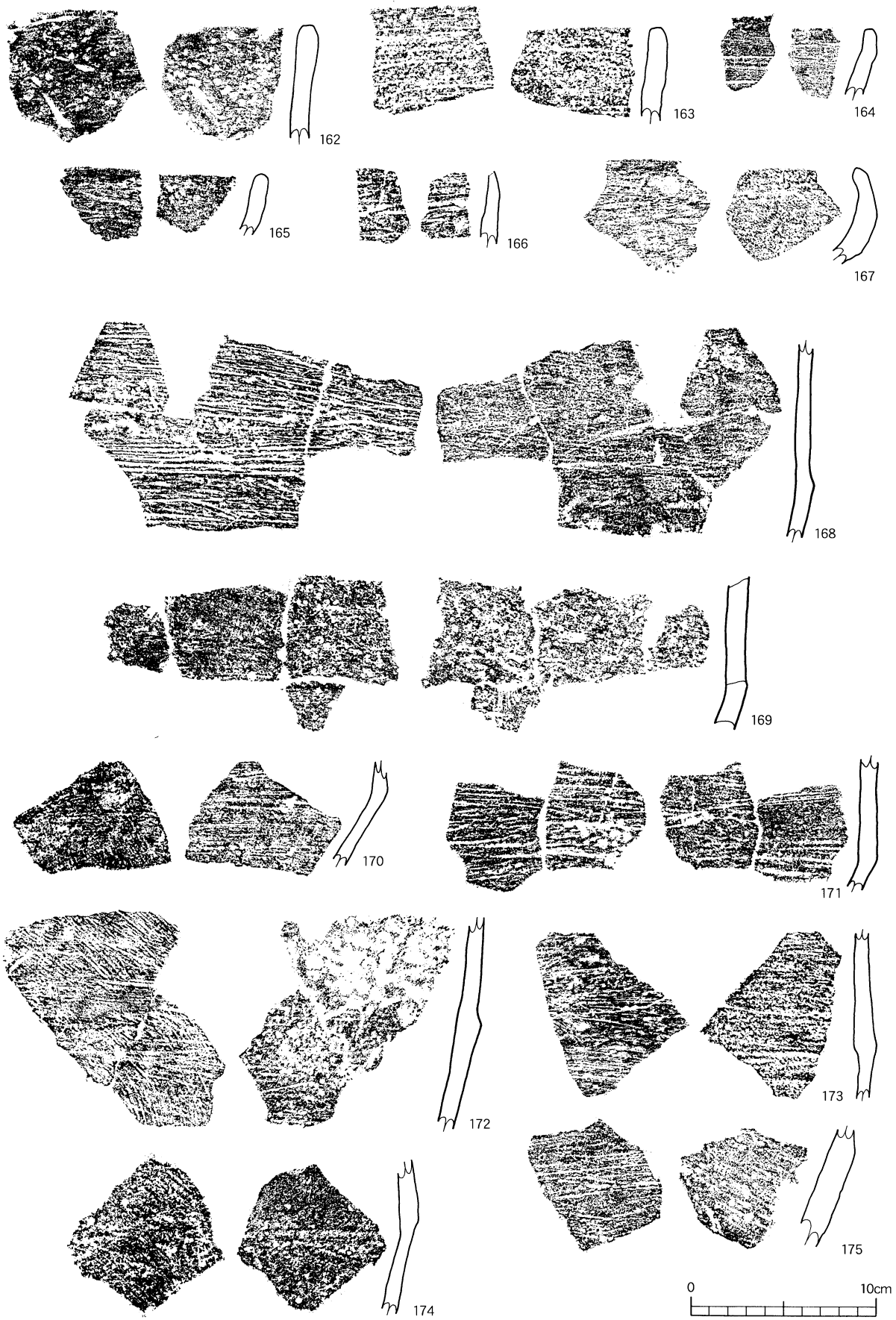
第15図 縄文時代晩期土器(4)



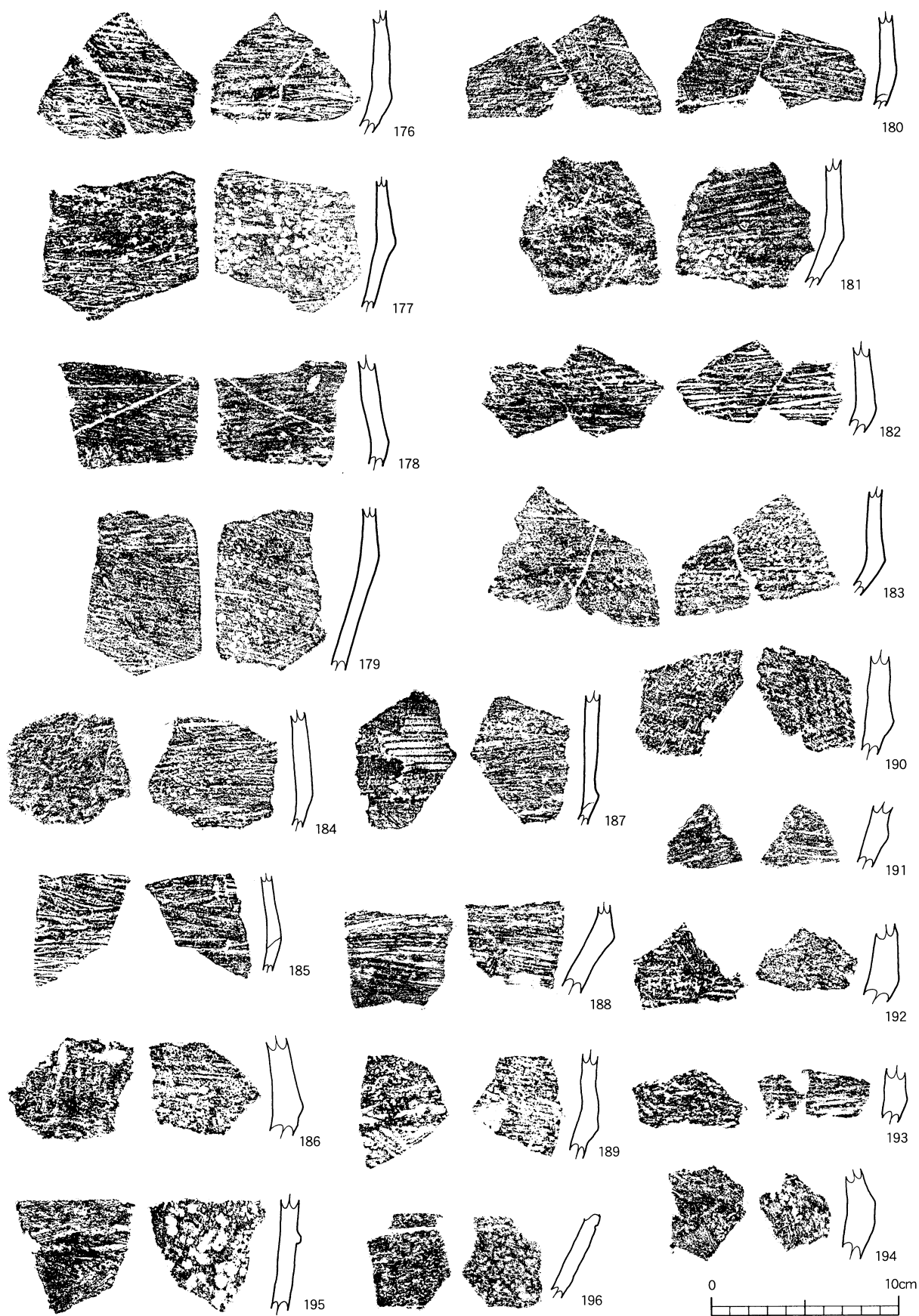
第16図 縄文時代晩期土器 (5)



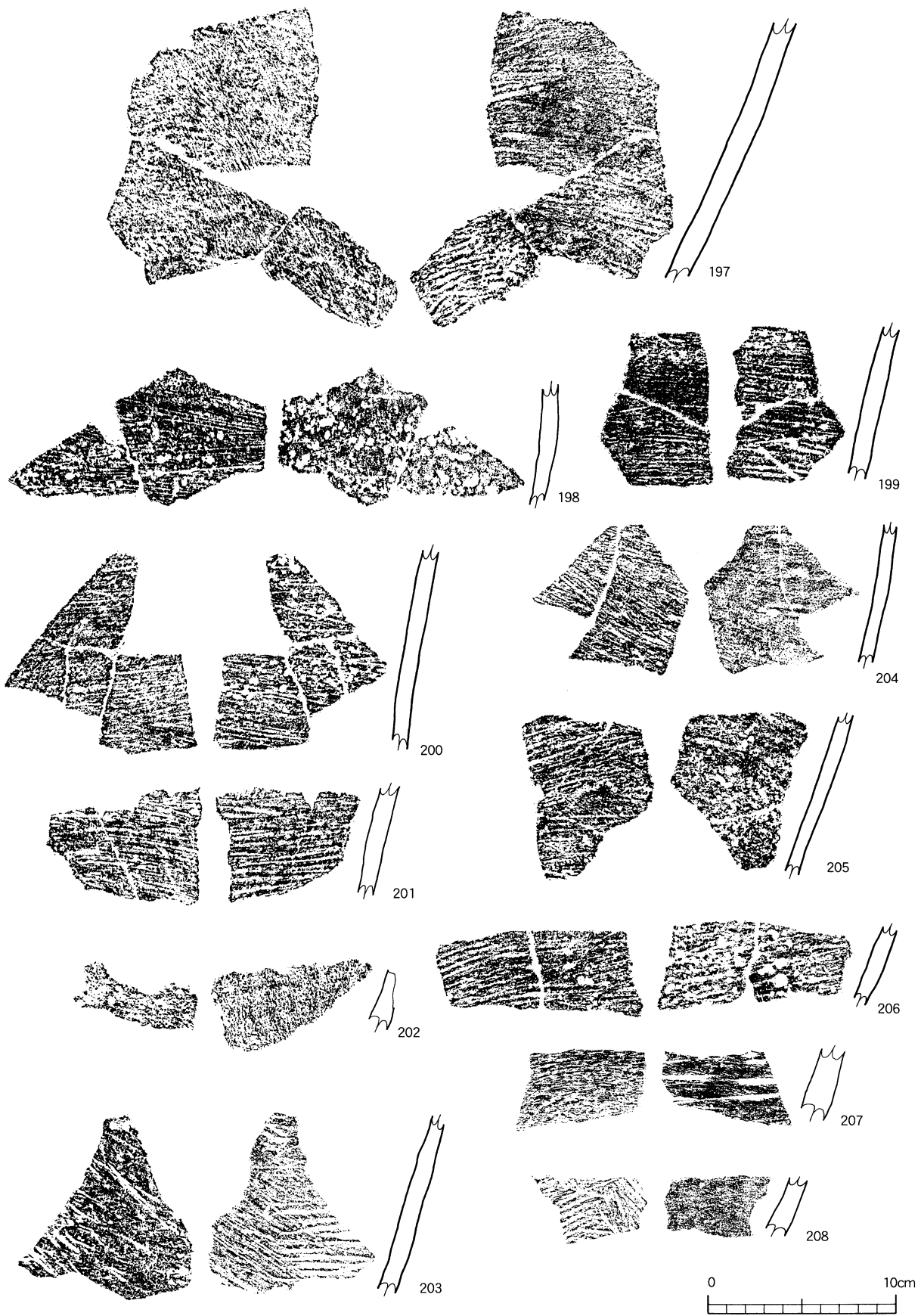
第17図 縄文時代晩期土器(6)



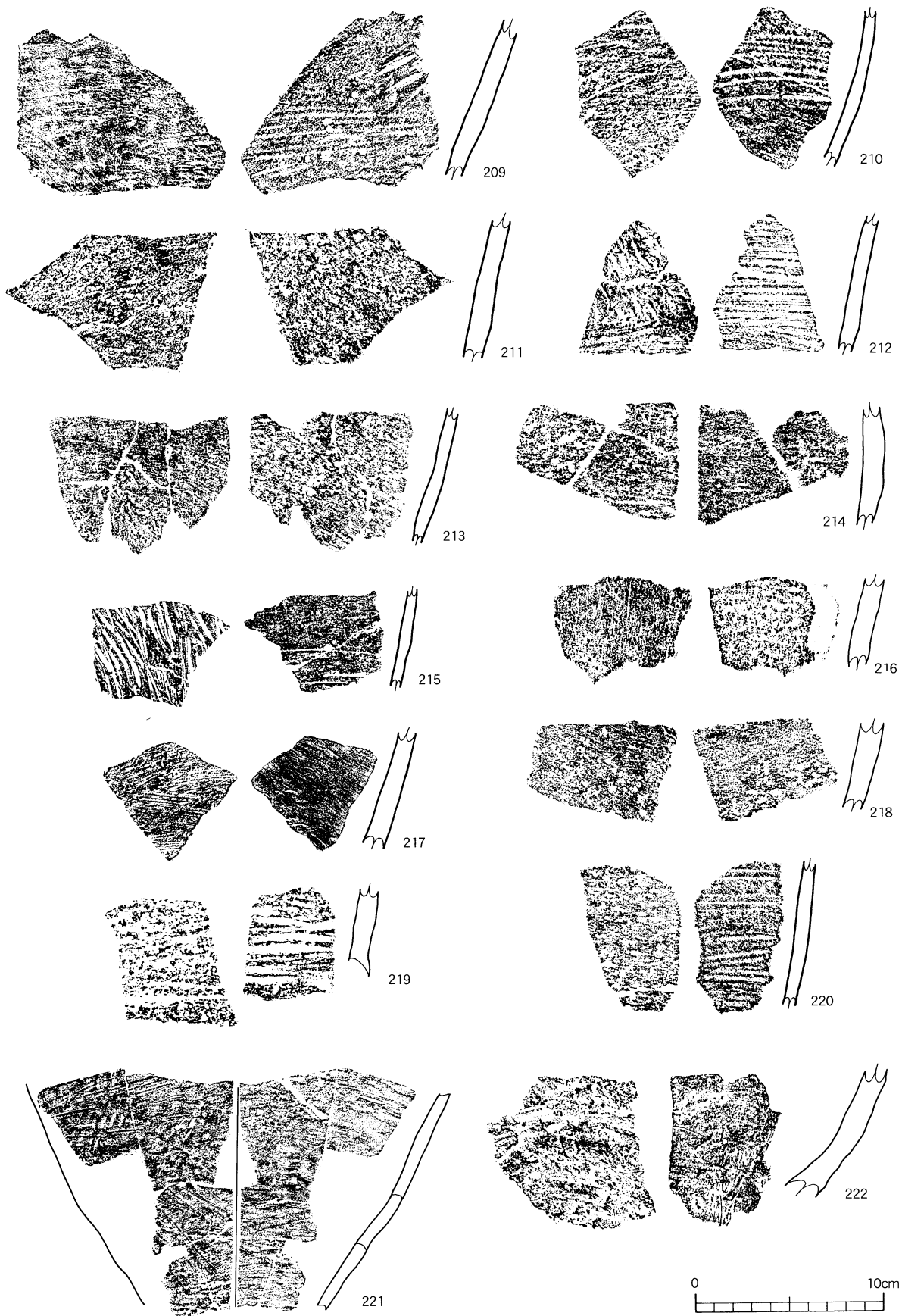
第18図 縄文時代晩期土器 (7)



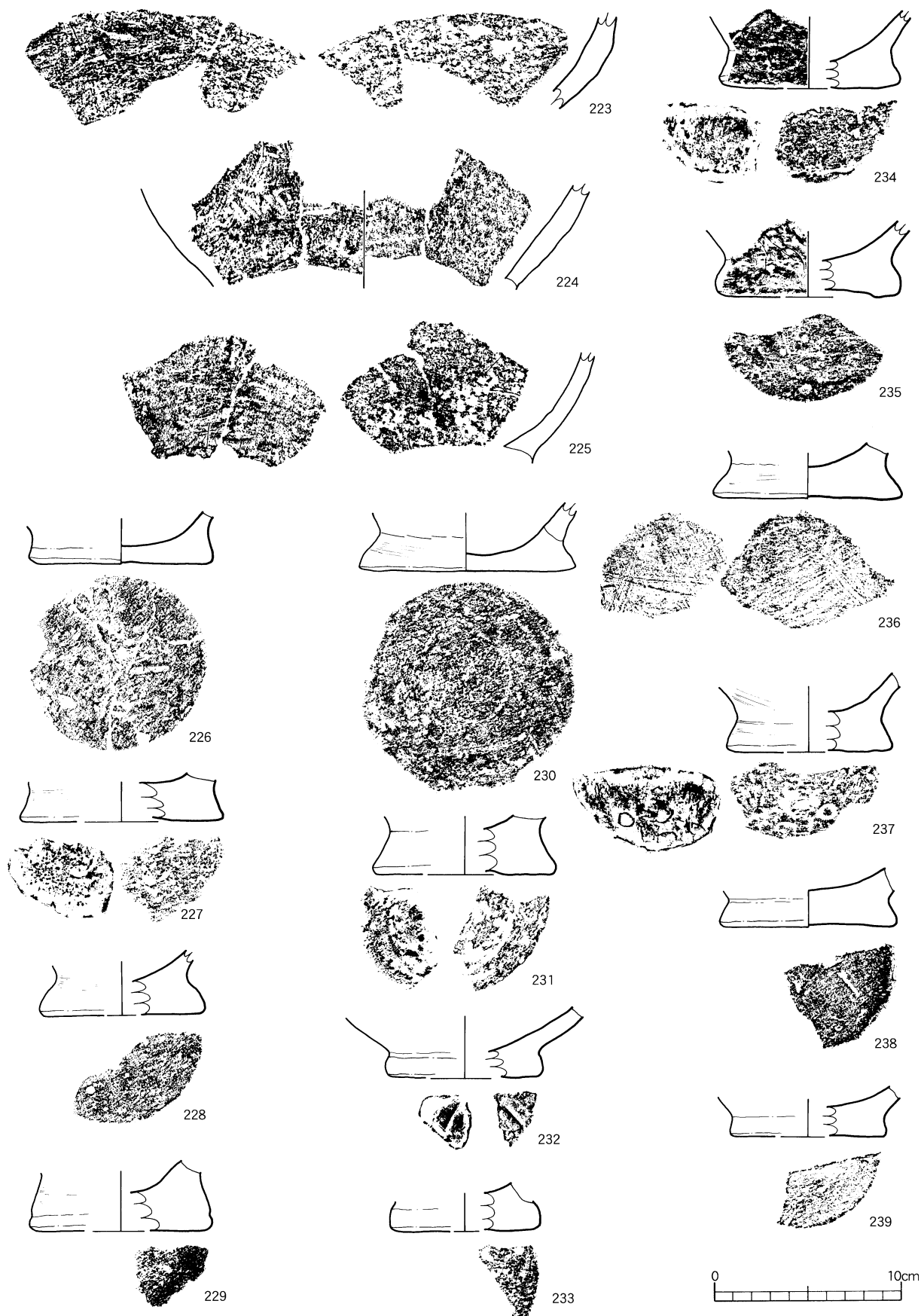
第19図 縄文時代晩期土器 (8)



第20図 縄文時代晩期土器（9）

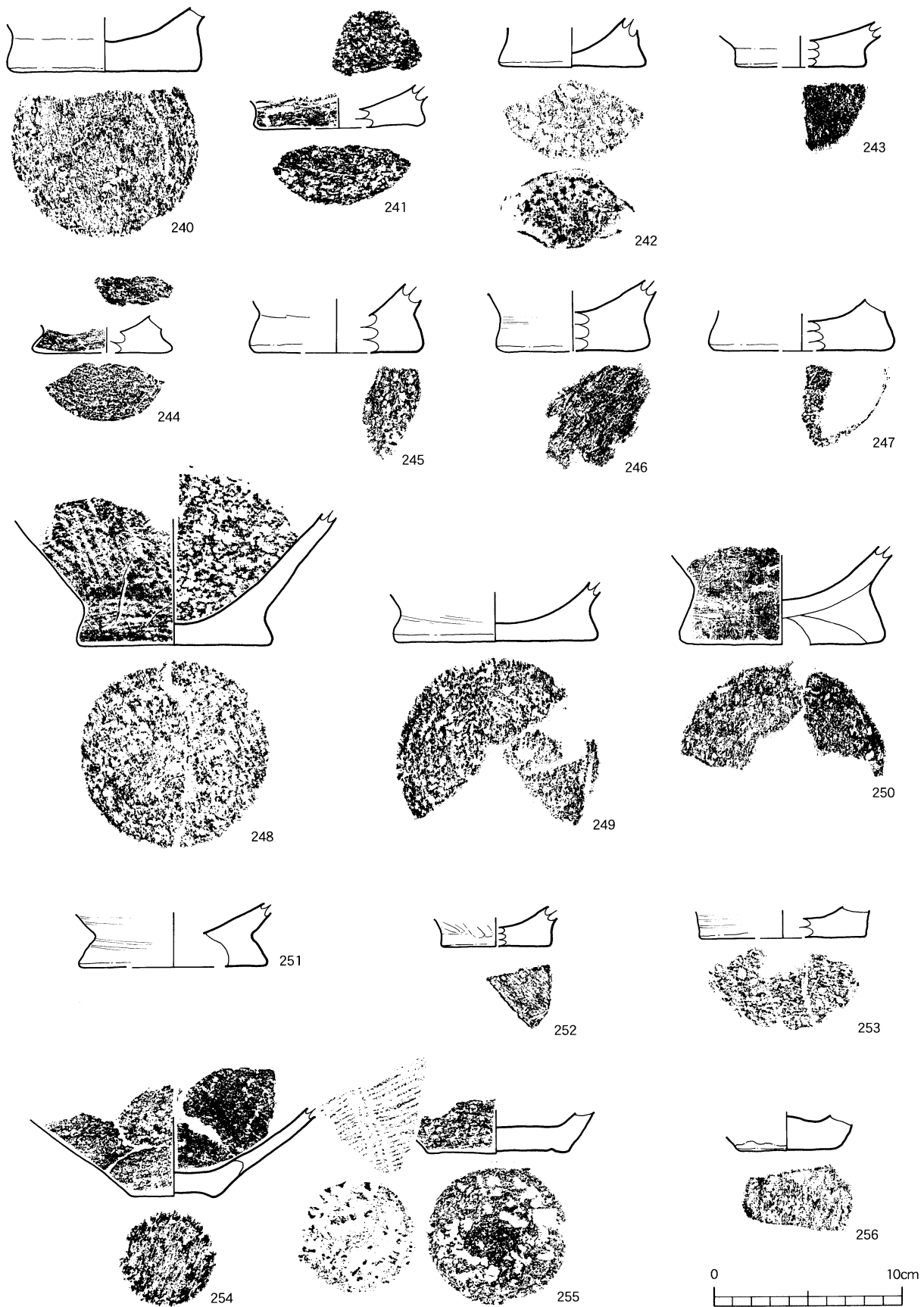


第21図 縄文時代晩期土器 (10)

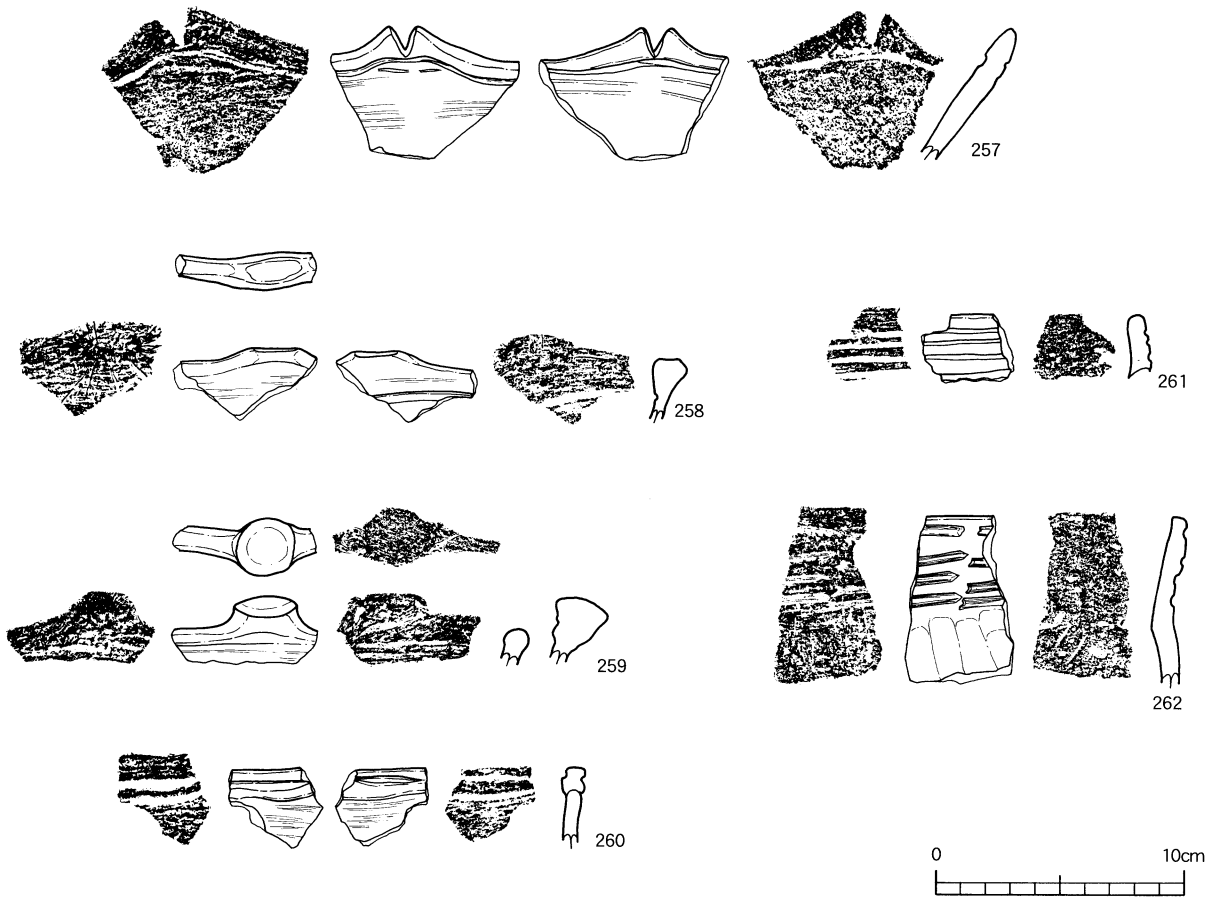


第22図 縄文時代晩期土器 (11)





第23図 縄文時代晩期土器 (12)



第24図 縄文時代晩期土器 (13)

#### その他の土器 (I類: 257~260)

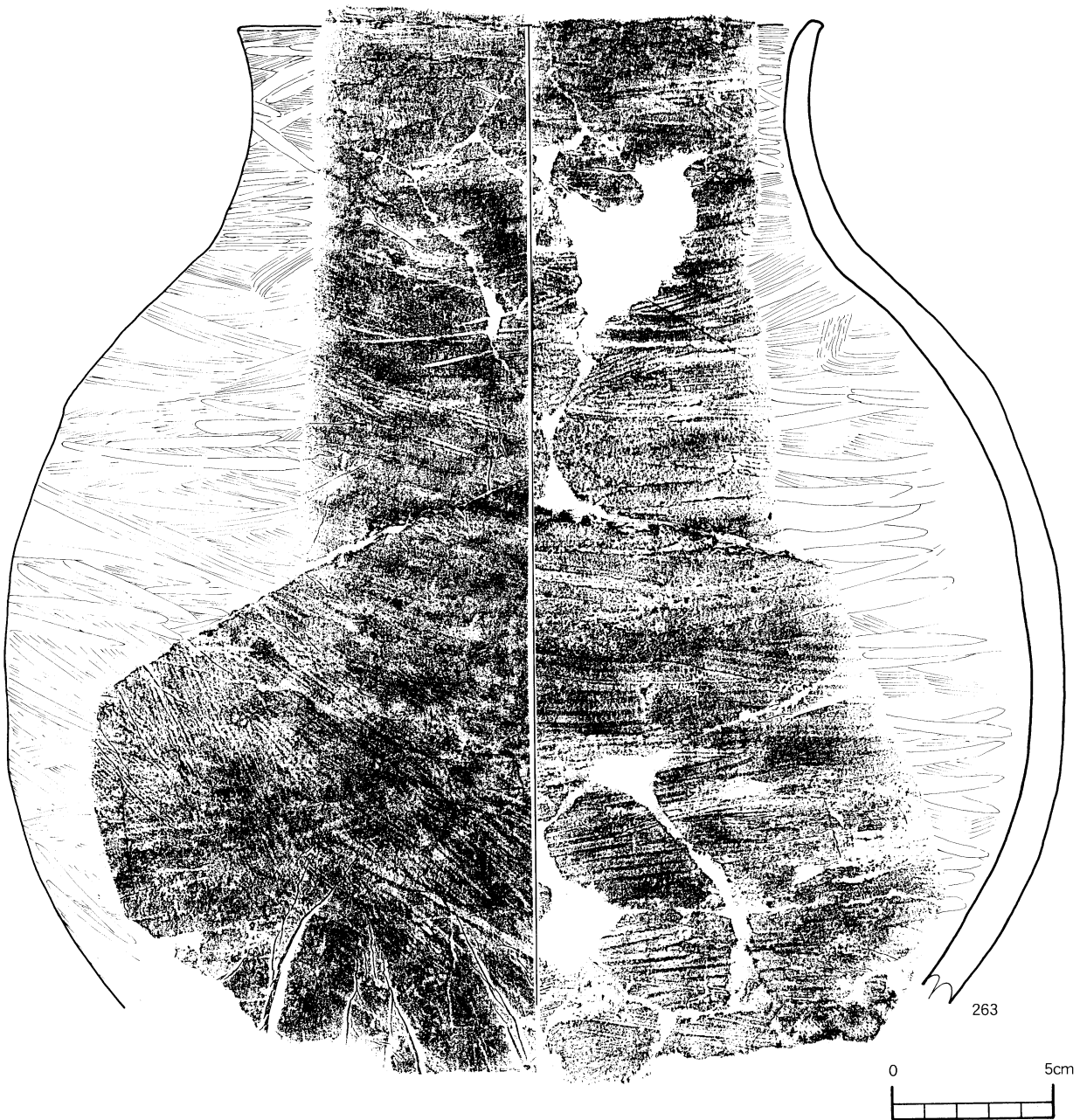
内外面とも条痕や粗いナデによる器面調整であるが、鉢形土器ではないと考えられるものである。257は波状口縁の波頂部を「V」字状にカットするもので、口唇部からやや下がったところの内外面に一条の沈線を施している。258と259は口唇部に突起をもつもので、260は口縁端部の内外面に沈線を施すものである。

#### 上加世田式土器

261はやや内傾した口縁部であり、少なくとも4条の沈線が認められる。口縁部文様帯が凹線ではなく沈線であることから、縄文時代後期終末期の上加世田式土器の中でも新段階に位置づけられるものであろう。

#### 南福寺式土器

262は約20°の角度で外側に屈曲し、内面には稜を残す。文様帯には半截竹管状の工具で4条の短沈線が施される。外面の胴部はケズリ様に調整されており、縄文時代後期前半の九州西海岸側に分布する南福寺式土器の特徴を示している。



第25図 縄文時代晩期土器 (14)

**壺形土器**

263の一点のみであるが、大型の壺形土器が出土した。胴部から肩部にかけては、ほぼ球形をなし、わずかに内傾する頸部から少し開く口縁部に至る。胴部最大径は35.0cmで、口径は18.4cmを測る。底部は欠損しており、形は推定復元による。推定の高さは約37cmであり、肩部から上位とその下の比は2：7となり、長胴とはならないものの比較的短頸である。色調は内外面とも黒褐色を呈し、器面調整は条痕の後やや間隔の開くミガキを施す。刻目突帯文土器に伴う壺型土器が、長胴で赤褐色を呈する点に違いがみられる。

## 精製土器（Ⅱ類：264～366）

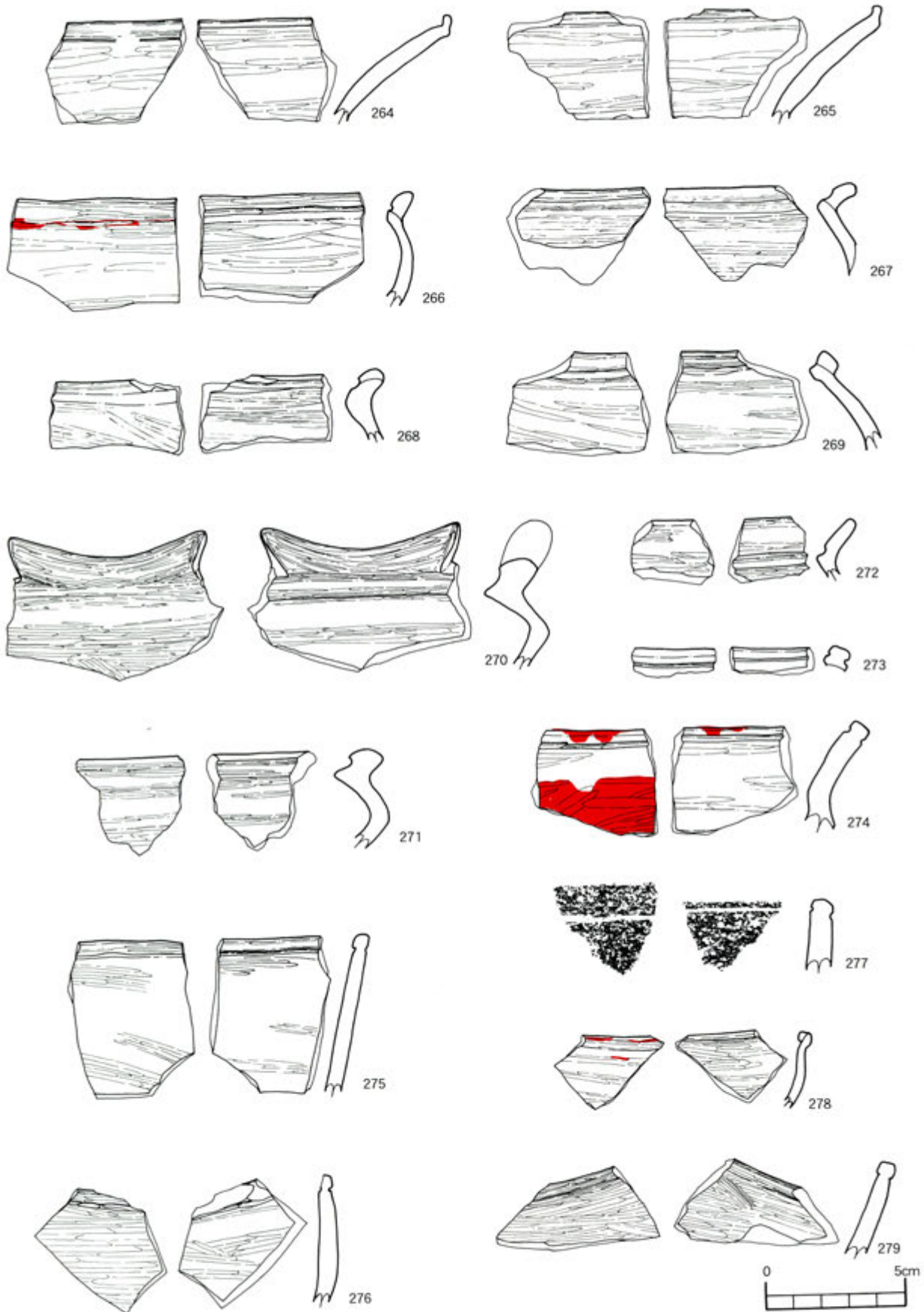
内側面ともミガキによる器面調整である。基本的には浅鉢形土器が主であるが、319・365などの様に一括りに出来ない器形もある。また、浅鉢形土器の中でも特徴的な器形として4種類には分けられそうであるが、一部の破片しかないものはどの種類になるか区別がつかないので一括してある。

264・265は口縁部が大きく開くもので、端部のみを屈曲させ立ち上がらせる。入佐式土器に伴う浅鉢形土器にみられるもので、この遺跡の中では古い様相を示す。266～274は大きく内湾する頸部から急に屈曲して外反する短い口縁部をもち、内面あるいは外面にも一条の沈線を巡らすものである。黒川式土器の典型的な浅鉢形土器である。口縁部の長さや屈曲の度合いに違いもみられるので、若干の時間差もありえる。

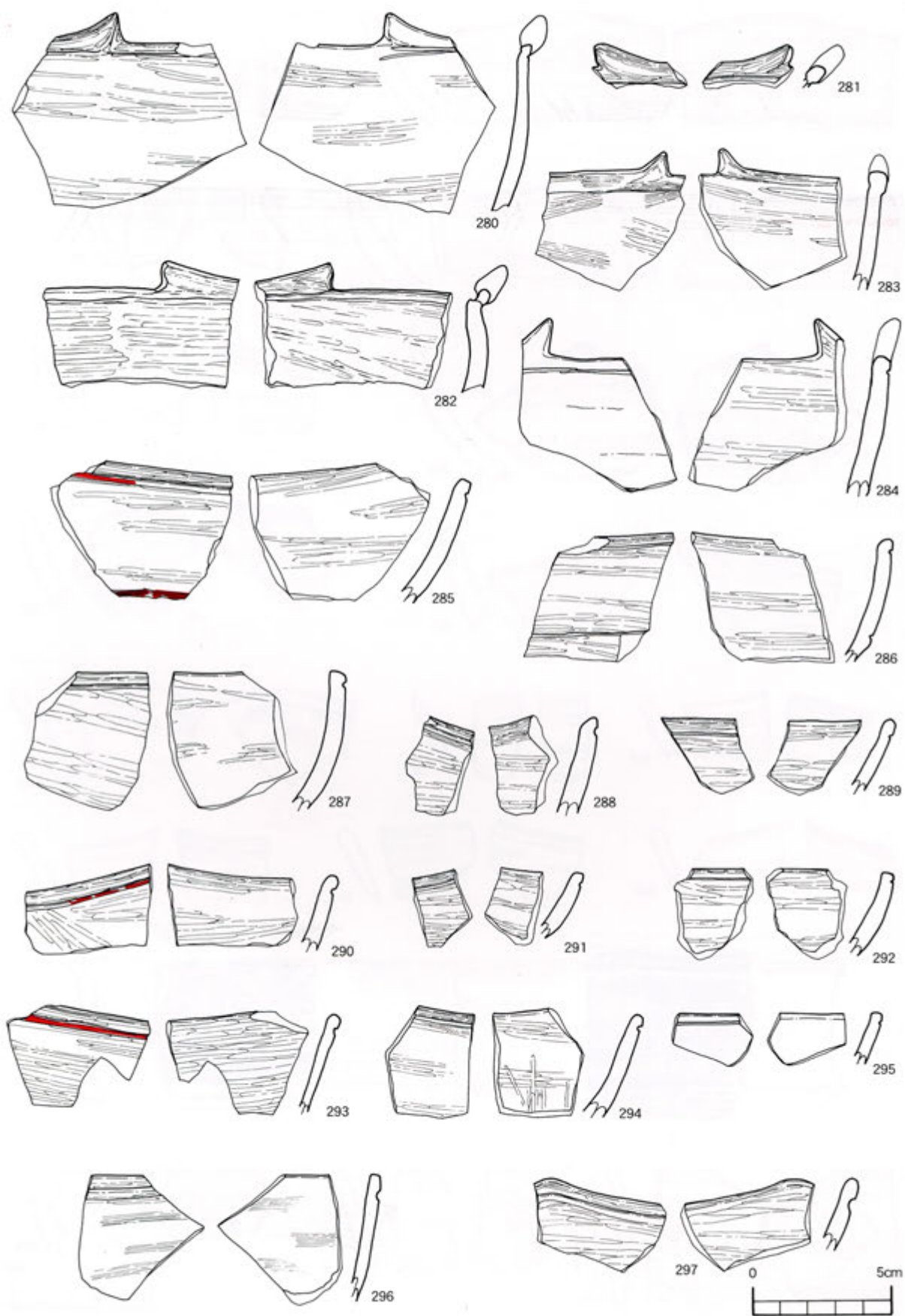
275～311はゆるく内湾しながら外開きとなる口縁部であり、口縁端部外面に沈線あるいは段が巡るものである。本遺跡内で全形が解る例はないが、他の遺跡を参考にして、302・332・357を組み合わせた様な器形が推定される。底部は約130°の角度で大きく外開きし、二条もしくは一条の沈線を巡らす。そして、胴部やや上位の沈線が巡った部分から内湾しながら外開きとなる口縁部に至る器形である。本遺跡の精製土器の中で、ほとんどはこの器形の浅鉢形土器であると考えられる。口縁端部の沈線及び段を見ると、沈線のままのもの（f類）、沈線の下部分を削るもの（g類）、段のもの（h類）に分けることができる。ここだけを見ると、f類→g類→h類の順に時期的な変遷が追えそうであるが、他の部位の変化あるいは前後型式との関わりの中で明らかにしていかなければならない。312・313は大きく開いた胴部から約120°の角度で屈曲し、外反ぎみに直行する口縁部である。刻目突帯文土器に伴う浅鉢形土器にみられる器形であり、この遺跡の中では新しい様相を示す。319は小型のマリ形土器であり、高さ5cm、口径7.3cmを測る。口縁端部にカマボコ状の突帯を巡らす。324は胴部最大径部分で約70°の角度で内側に屈曲するもので、屈曲部から肩部にかけて少なくとも4条の凹線が巡る。便宜上ここにレイアウトしたが、後期後葉の三万田式土器から鳥井原式土器にかけての特徴をもっている。365は丸底の土器であり、胴部に二条の沈線を巡らす。上の方の沈線からはさらに上位に縦方向の沈線が伸び両側の角を削りとることによって、沈線間が浮き上がった様な感じに見える。沈線内には赤色顔料が認められる。366も横位の沈線から縦位に短沈線が延びる。それに沿って両側に沈線を施す。332の胴部中央には種子状の圧痕が認められる。今回は専門家による実物の分析は行っていないが、写真による判断では粳や米の可能性は少ないという。

## 赤色顔料塗彩の土器

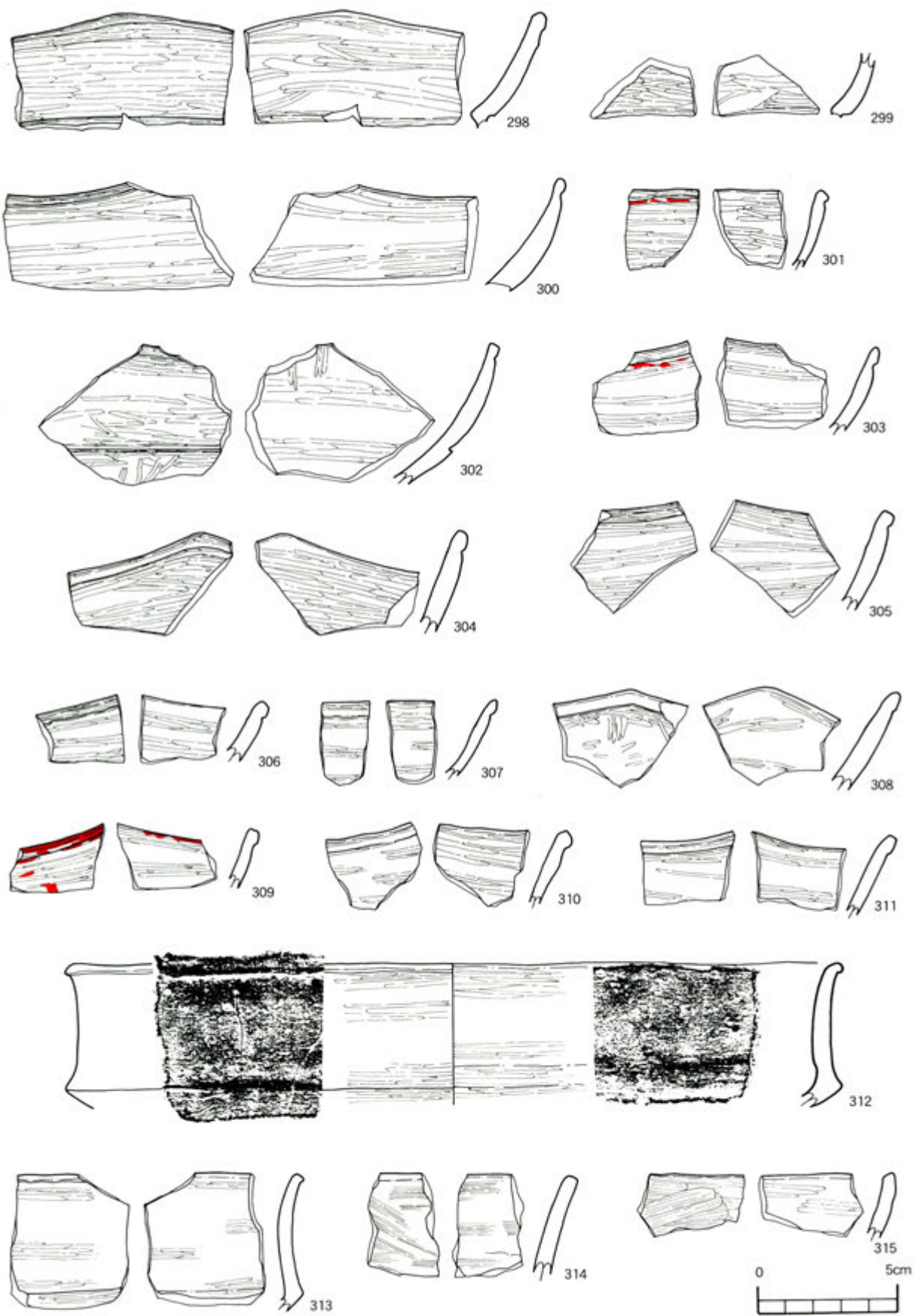
精製土器のうち、17点に赤色顔料が認められた。全て浅鉢形土器である。多くは沈線内だけであるが、外面全面もしくは口縁部内面にも塗られていた可能性がある。鹿児島県立埋蔵文化財センター所蔵の走査型電子顕微鏡とエネルギー分散型X線分析装置を用いた大久保浩二氏の分析によると、全てベンガラ（酸化第二鉄）を素材とするものである。278と285にはパイプ状粒子が認められる。



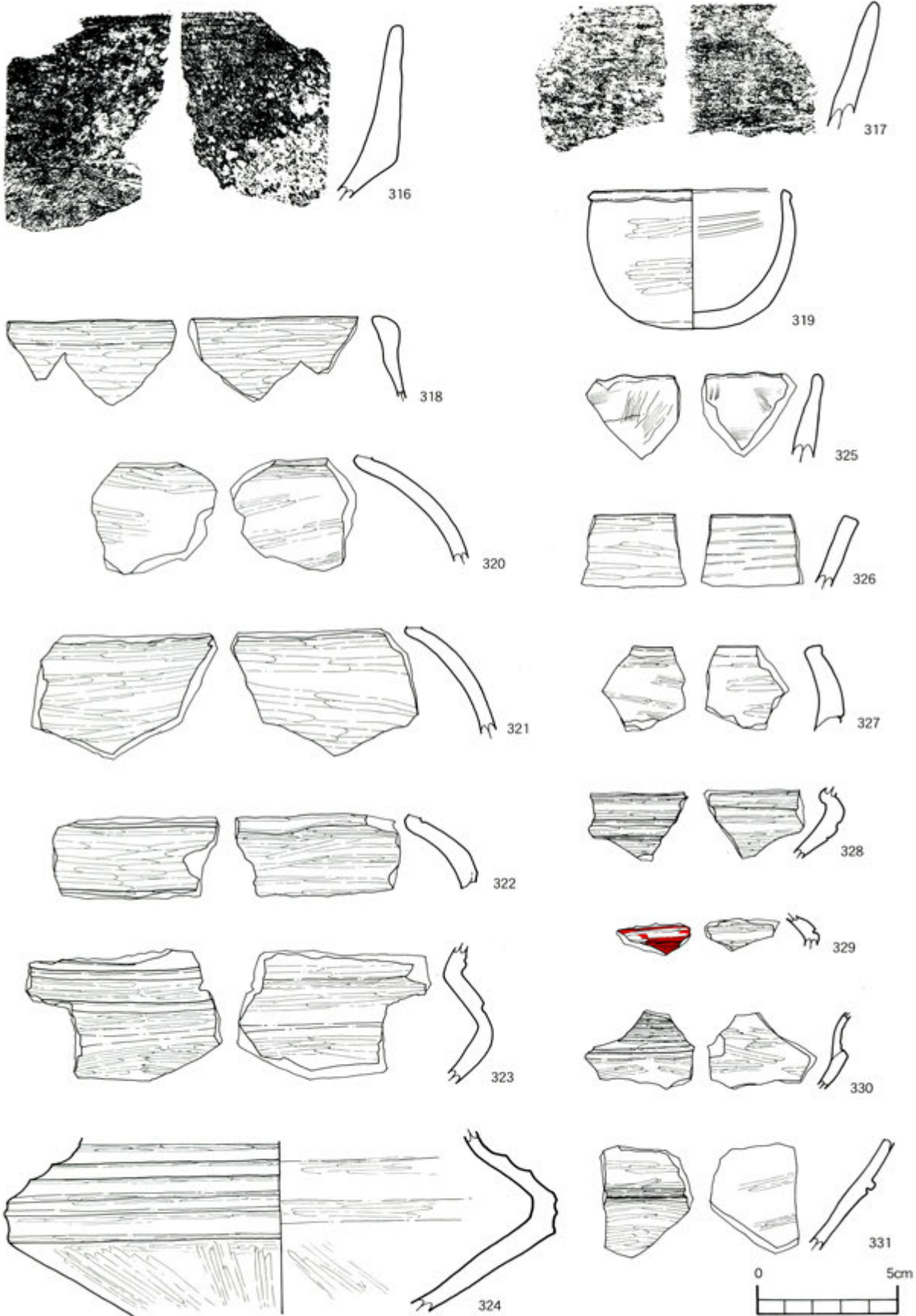
第26図 縄文時代晩期土器 (15)



第27図 縄文時代晩期土器 (16)

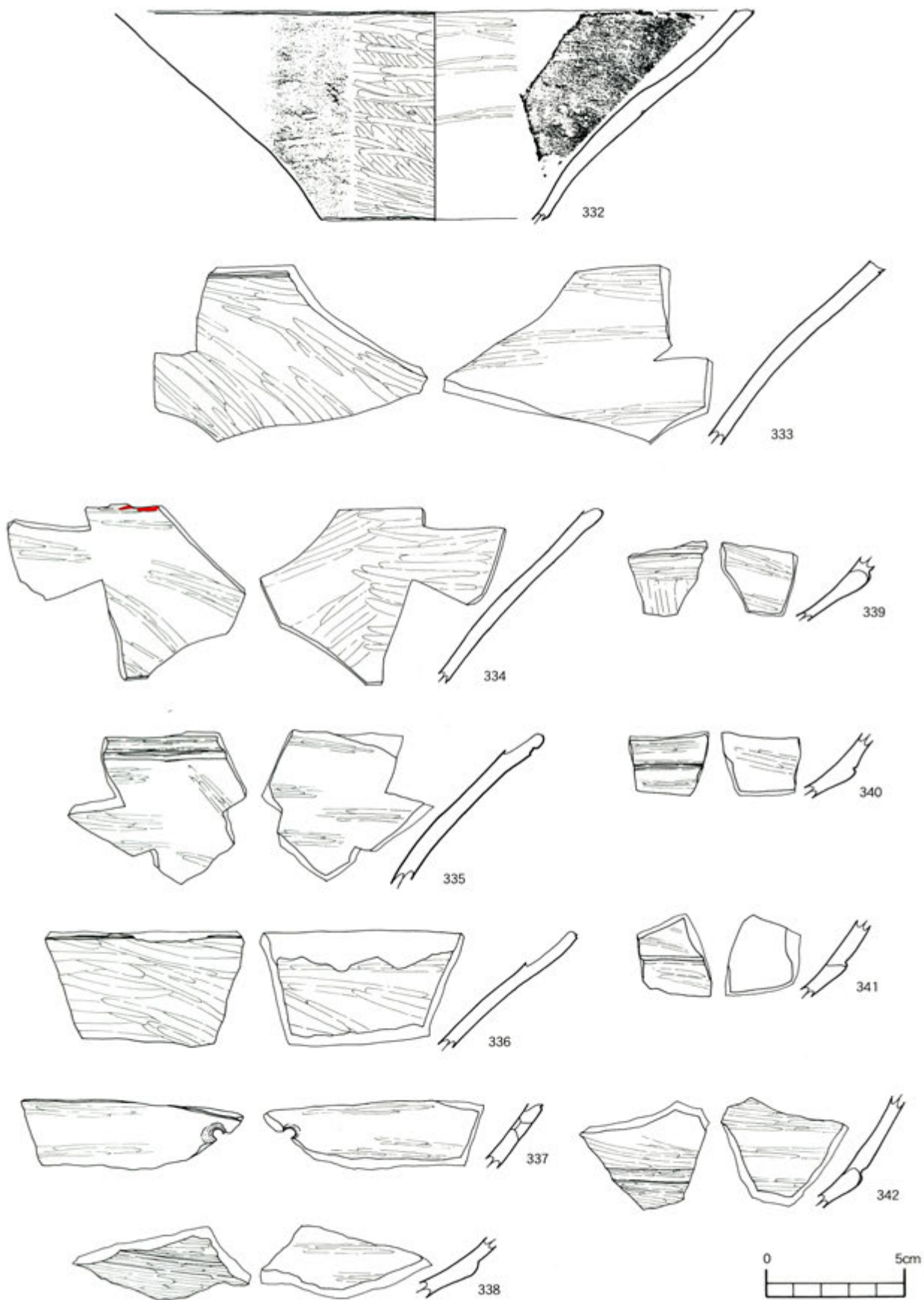


第28図 縄文時代晩期土器 (17)

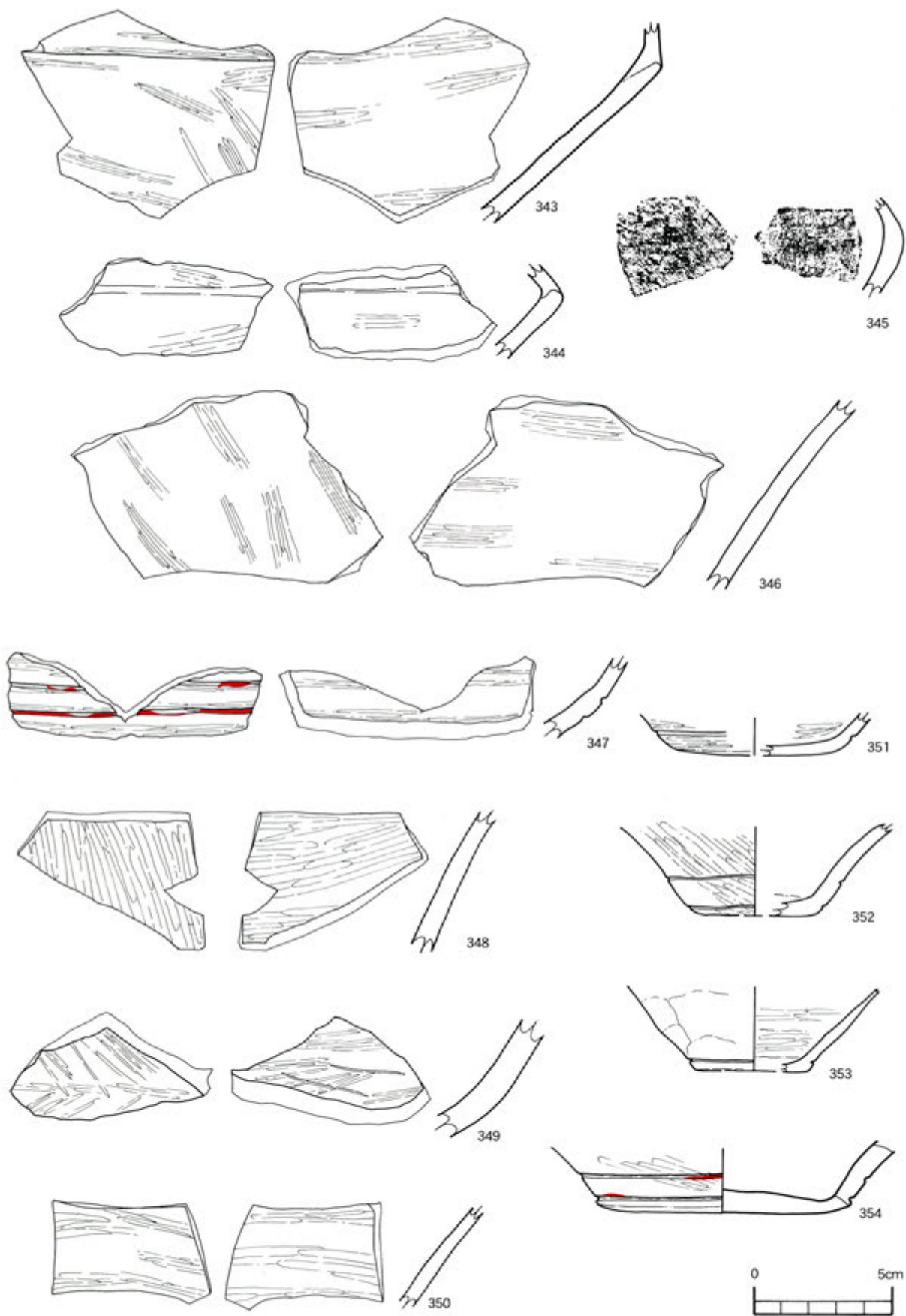


第29図 縄文時代晩期土器 (18)

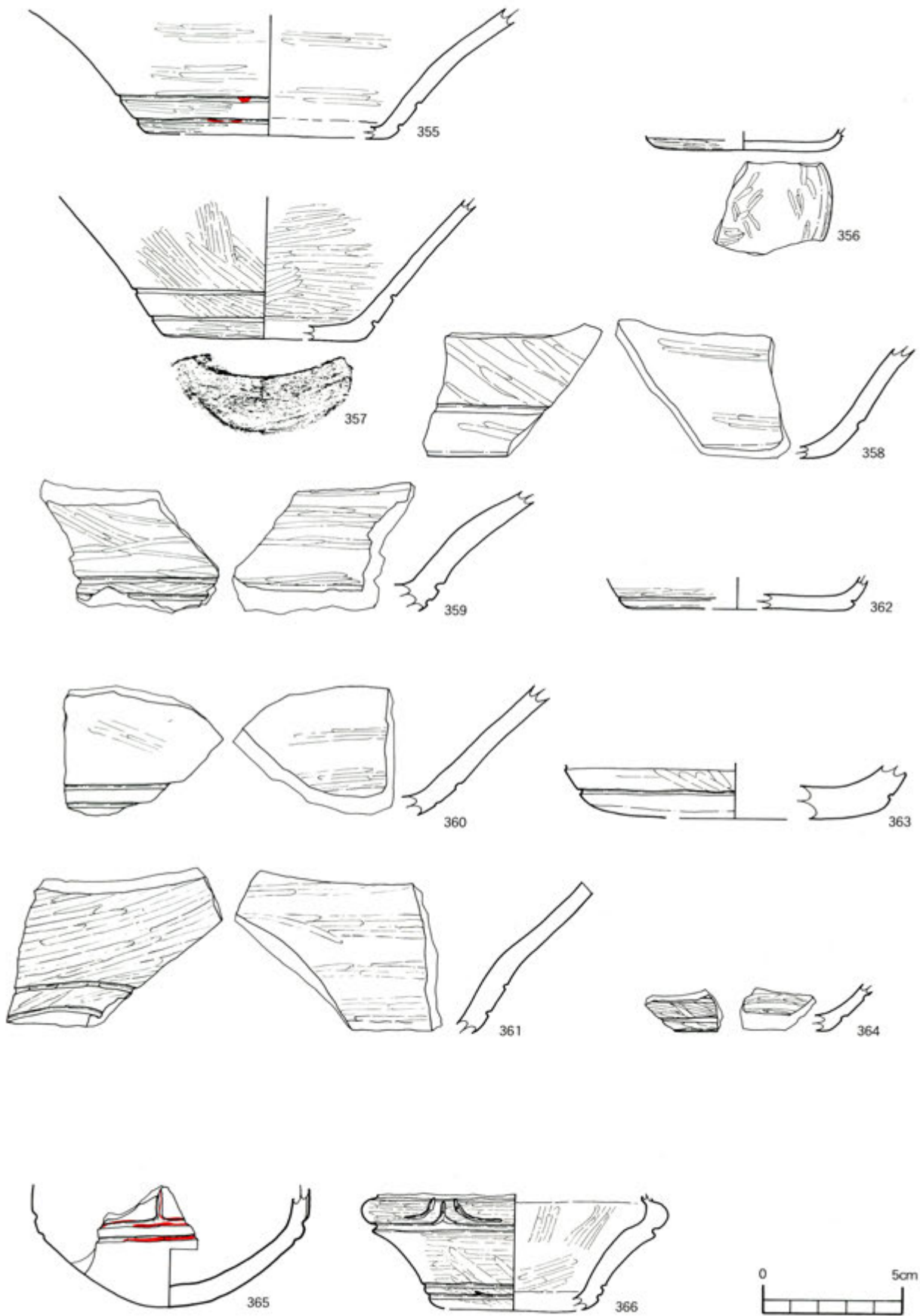




第30図 縄文時代晩期土器 (19)



第31図 縄文時代晩期土器 (20)



第32図 縄文時代晩期土器 (21)

### 組織痕土器（Ⅲ i 類：367～399）

367～380は編布の圧痕をもつものである。経糸間の幅及び1cmあたりの緯糸の本数は表中に示した。経糸間の幅は大きく3種類があり、5～7mmの密なもの、9～11mmの中間的なもの、24mm前後の粗いものがみられる。369は経糸間24mmの部分と幅7mmの間に3本の経糸を入れる部分をもっている。また、375も経糸間7mmの部分と、幅3mmの間に2本の経糸を入れる部分をもっている。さらに371も幅7mmに少なくとも3本の経糸が入る。これらは、いずれも装飾を意識した編み方をしていると考えられる。緯糸は1cmあたりに8～10本の密なもの、7本以下の粗いものがあり、概して経糸間の広いものほど緯糸も粗い。368・372・377は重なりか折り目が認められる。373は6mmの間に6本の緯糸を入れた上下に3mm幅の空白部分がみられる。確認できた縞りはすべてZ縞りである。

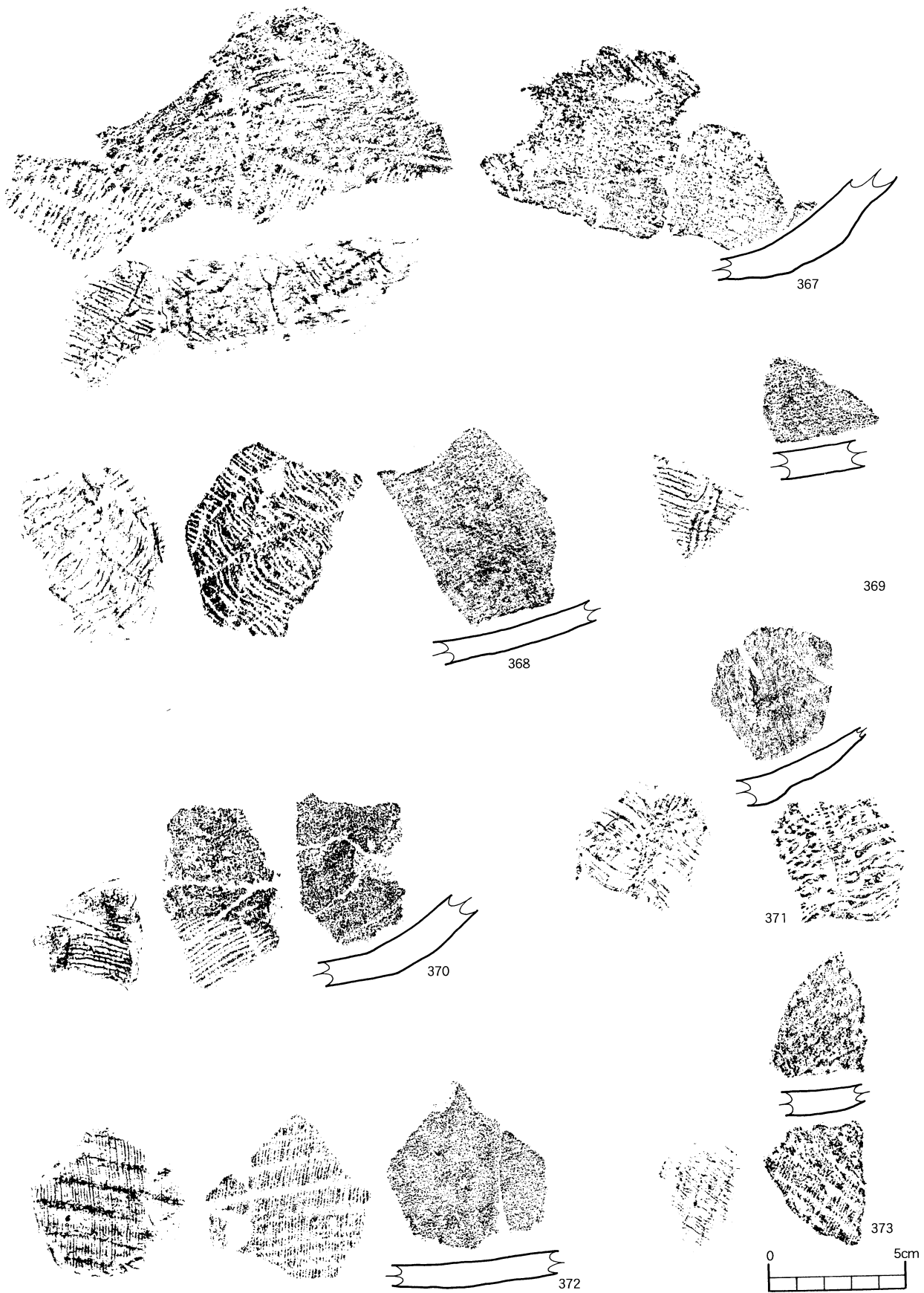
381～396は網目の圧痕をもつものである。結び目は「ホンメ（ヒラメ）」なのか「かえる股」であるのかは判断がつかない。結び目間の長さには大きく3種類があり、37mmの目の粗いもの、9～13mmの中間的なもの、5～7mmの目の細かなものである。糸の太さは、1mm～1.5mmであり、確認できた縞りはすべてZ縞りである。384・389・390・392は同じ網目を重ねたものであり、ちょうど網目の中心にもう一枚の網目がくるように配慮されている。なるべく型と粘土の接着面が少なくなる様に工夫した様子が窺える。385の網目はかなり粘土に食い込んでおり、土器の内面まで達していることから液体を含む調理には向かなかったかもしれない。381の37mmの網目の間には何の圧痕も観察できなかつたので、既存の組織痕土器を型として利用した可能性も考えられる。

397と398は単位をもつ圧痕であることははっきりとしているけれども、それが何の圧痕であるのか解らない。399は2本送り2本通しの網代をもつ圧痕である。材質はどの様なものなのか解らない。これまで県内で出土している組織痕土器の中で、網代の例はほとんどなかつた。これは渡辺誠氏が指摘するとおり、型としてのカゴ自体の圧痕と考えられる。

組織痕土器は小破片が多く、なかなか全体の器形を把握することが出来ない。これは被熱が著しく、しかも型づくりによることにも原因があるかもしれない。時期は異なるが、古代の焼塩壺と共通している。それでも、これまでの類例から380はある程度の器形を復元することが出来る。器高が低く、口縁部は広い中華鍋形になり、組織痕は底部から胴部中位にかけて認められる。水平に近い角度の部分では型づくり技法により、垂直に近い部分では粘土紐を積み重ねるという2つの技法を用いたと考えられる。

### 半粗半精製土器（Ⅲ j 類：400～403）

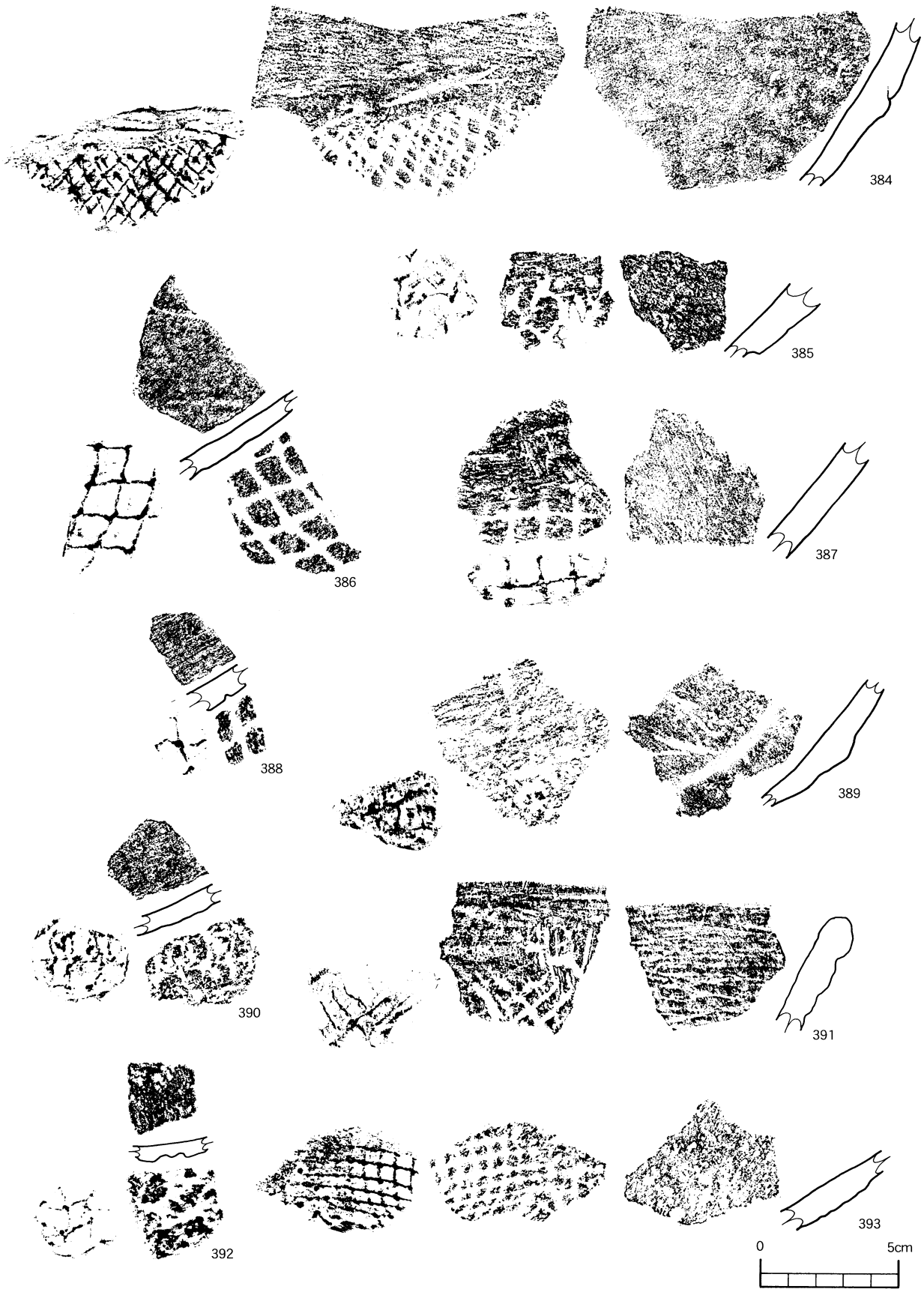
表面には組織痕が見られないが、器形や機能的には組織痕土器と同様のものである。400の表面には組織痕は見られないものの、割れ口の接合面に単位のある圧痕が認められ、つくり方としては組織痕土器と一緒にだつたことが窺える好資料である。403は器形を復元することが出来、口縁部の直径は39.4cmを測る。高さは約15cmと推定され、口径と器高の比は8：3となる。しかも、火熱をかなり受けていることから、煎ったりする調理に適した道具が想定される。内面のみ磨いている点も、食材がころがりやすいようにしたのではないかと考えられる。



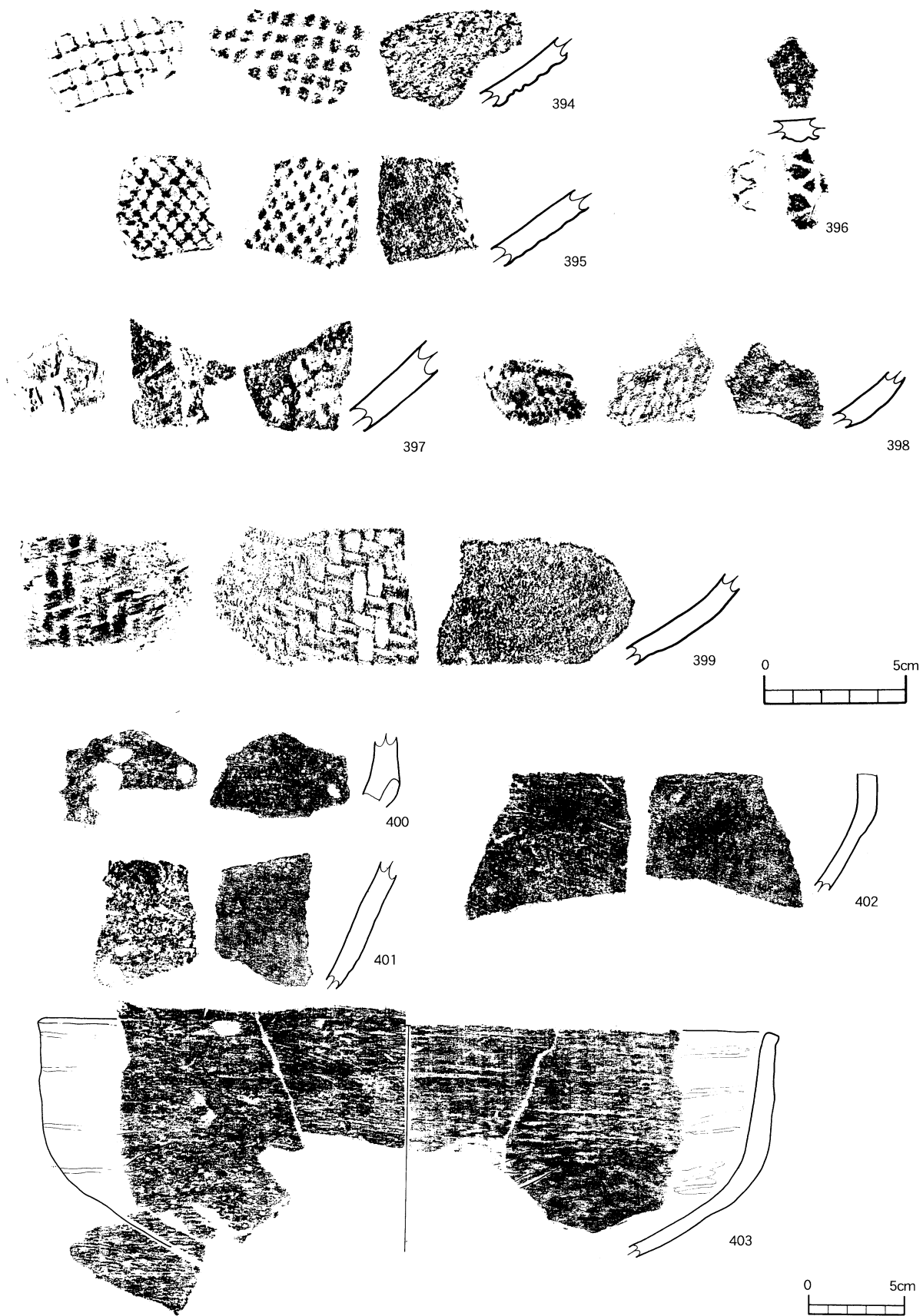
第33図 縄文時代晩期土器 (22)



第34図 縄文時代晩期土器 (23)



第35図 縄文時代晩期土器 (24)



第36図 縄文時代晩期土器 (25)



第5表 論 文 晩 期 土 器 調 査 表 ( 1 )

挿図番号	図番号	出土区	層位・遺構	器種	部位	分類	調整・文様・色調等		取り上げ番号	出土レベル(m)	特徴・胎土・焼成・その他備考
							外面	内面			
第12図	47	7	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部～底部付近	Ia	条痕・黄褐色	条痕・黄灰褐色	3438・3440	14.24	リボン状突起内面まで肥厚煤付着3442
第12図	48	6	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	条痕・黄灰褐色	1149	14.725	リボン状突起
第12図	49	7	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・灰褐色	条痕・黄灰褐色	1444	14.47	リボン状突起
第12図	50	7	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	ナデ・黄褐色	3486	14.265	リボン状突起
第12図	51	7	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	ナデ・黄灰褐色	2564	14.42	リボン状突起
第12図	52	6	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黒褐色	ナデ・黒褐色	2044	14.425	リボン状突起
第12図	53	7	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・灰茶褐色	条痕・黄灰褐色	1372	14.505	リボン状突起
第12図	54	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・茶褐色	条痕・黄灰褐色	1821	14.06	リボン状突起
第12図	55	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・灰褐色	条痕・黄灰褐色	2669	14.295	リボン状突起
第13図	56	6	Ⅲ・IB	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	条痕・茶褐色	971・972	15.29	リボン状突起974
第13図	57	9	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	剥落・黄褐色	4109	14.49	
第13図	58	9	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・明茶褐色	条痕・明茶褐色	4114・4116	14.335	
第13図	59	7	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	条痕・黄灰褐色	1002	15.26	
第13図	60	7	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・灰褐色	条痕・灰褐色	2431	14.58	
第13図	61	8	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・橙褐色	条痕・灰褐色	3001	14.38	
第13図	62	8	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・明茶褐色	条痕・黄灰褐色	2931・2932	14.34	
第13図	63	7	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・明茶褐色	条痕・黄灰褐色	2280	14.33	
第13図	64	9	Ⅲ下・Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄白色	条痕・黄白色	4146・5163	13.815	
第13図	65	9	古道	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄灰色	剥落・黄灰色	2359	14.02	
第13図	66	8	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・茶褐色	条痕・黄茶褐色	2878	14.355	
第13図	67	9	土2	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄灰色	条痕・灰褐色	4861	14.095	
第13図	68	8	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄灰褐色	条痕・黄灰褐色	4788	14.465	
第13図	69	9	古道	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・橙褐色	ナデ・橙褐色	2341	14.175	
第13図	70	8	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・灰褐色	条痕・灰褐色	2973	14.345	
第14図	71	6	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄灰褐色	ナデ・黄灰褐色	1150	14.735	
第14図	72	7	IB	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄褐色	条痕・黄褐色	1487	14.515	
第14図	73	39T	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・橙褐色	条痕・黄褐色	252	14.255	
第14図	74	9	古道	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	条痕・黄褐色	2333	14.18	
第14図	75	9	Ⅲ・Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	a	ナデ・明茶褐色	ミガキ様・橙褐色	1663・2646	14.285	半粗半精製土器の可能性もある煤付着
第14図	76	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄褐色	ナデ・灰褐色	1778	14.155	
第14図	77	19	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	剥落・黄灰褐色	7469	14.905	
第14図	78	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・橙白色	条痕・橙白色	4806	14.37	
第14図	79	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・明茶褐色	ナデ・黄褐色	4414	14.23	煤付着

第6表 縄文晩期土器観察表(2)

第14図	80	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄灰褐色	条痕・暗灰色	3805	14.515	
第14図	81	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	条痕・黄褐色	2429・2425	14.58	
第14図	82	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	a	条痕・黄茶褐色	ミガキ様・灰褐色	4814・1633	14.395	半粗半精製土器の可能性もある
第14図	83	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄灰褐色	ナデ・黄褐色	2274	14.325	
第14図	84	Ⅲ上	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄褐色	ナデ・黄褐色	3855	14.18	
第14図	85	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黒茶褐色	条痕・黒茶褐色	1969	14.385	
第14図	86	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia、	ナデ・暗黄褐色	ナデ・黄灰褐色	4801	14.425	
第14図	87	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・橙白色	条痕・橙褐色	3680	14.63	
第14図	88	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黒褐色	ミガキ様・黒褐色	3013	14.19	
第14図	89	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄白色	条痕・黄白色	4303	14.34	
第14図	90	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄灰褐色	ナデ・黄灰褐色	2299	14.36	
第14図	91	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・暗橙色	ミガキ様・橙白色	1088	14.605	口唇部から下がった所に突帯
第14図	92	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	条痕・黄褐色	ナデ・黄褐色	4082	14.505	口唇部から下がった所に突帯
第14図	93	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄茶褐色	ナデ・茶灰褐色	3476	14.22	口唇部から下がった所に突帯
第14図	94	39T	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄褐色	ミガキ様・橙褐色	308	14.275	
第14図	95	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄灰褐色	ナデ・灰褐色	2045	14.57	外面に条痕で何らかの文様が描かれるのか?
第14図	96	Ⅲ・IB	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・黄茶褐色	条痕・黄茶褐色	1006・975	15.29	
第14図	97	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄白色	条痕・黄白色	1174	14.705	
第14図	98	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・黄白色	条痕・黄白色	1819	14.165	
第15図	99	Ⅲ	深鉢or甕	口縁部	-	ナデ・橙褐色	ナデ・橙褐色	6515・6628	14.38	土師甕の可能性も捨てきれない7159・6631
第15図	100	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・黒褐色	条痕・黒褐色	4316	14.275	
第15図	101	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黒褐色	条痕・黒褐色	4247	14.335	
第15図	102	Ⅲ・Ⅲ上・Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄白色	条痕・黄白色	ケ6Ⅲ977	14.275	ケ6Ⅲ978・ケ7Ⅲ1033・1037・1341
第15図	103	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙褐色	条痕・黄褐色	938・955	14.75	煤付着
第15図	104	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ケズリ様・黄茶褐色	ケズリ様・黄茶褐色	1826	14.125	
第15図	105	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄褐色	ナデ・黄灰褐色	5164	13.845	煤付着
第15図	106	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・黄褐色	ナデ・黄灰褐色	976	15.295	
第15図	107	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄白色	条痕・黒褐色	1237	14.71	
第15図	108	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	磨耗・黄白色	磨耗・黄白色	2189・3411	14.31	
第15図	109	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙褐色	ナデ・暗茶褐色	2428	14.635	煤付着
第16図	110	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・暗灰褐色	ナデ・黄白色	4131	14.35	リボン状突起煤付着
第16図	111	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・黄茶褐色	条痕・茶褐色			リボン状突起煤付着
第16図	112	39T	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄茶褐色	条痕・黄褐色	263	14.235	
第16図	113	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄白色	条痕・黄褐色	2713・3318	13.695	
第16図	114	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・明茶褐色	ナデ・明茶褐色	5837・6437	14.05	
第16図	115	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・黄灰褐色	ナデ・黄褐色	6751		煤付着

第7表 縄文晩期土器観察表(3)

第16図	116	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・茶褐色	ナゾ・黄褐色	1783	14.215	
第16図	117	10	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄灰褐色	条痕・黄灰褐色	7134	13.91	
第16図	118	18	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・黄灰褐色	ナゾ・黄灰褐色	7735	14.935	
第16図	119	18	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・黄灰褐色	ナゾ・黒灰褐色	8537	14.94	
第16図	120	7	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙褐色	条痕・橙褐色	2443	14.565	
第16図	121	8	Ⅲ上	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙褐色	ミガキ様・橙褐色	3853	14.19	補修孔
第16図	122	8	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・黄茶褐色	ナゾ・黄茶褐色	4560・4595	14.37	
第16図	123	6	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄灰色	条痕・黄灰色	1215	14.645	
第16図	124	8	IB	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄灰色	条痕・黄灰色	740	14.53	
第16図	125	9	古道	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄茶褐色	条痕・灰茶褐色	2358	14.075	
第16図	126	17	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・黒灰褐色	ナゾ・黄灰褐色	8271	14.49	
第16図	127	8	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・明茶褐色	ナゾ・明茶褐色	2897	14.35	
第16図	128	18	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・黄灰色	ナゾ・暗灰褐色	7882	15.1	
第16図	129	19	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・黄灰褐色	ナゾ・黄茶褐色	7264	14.91	煤付着
第16図	130	8	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・橙褐色	ナゾ・橙褐色	3889	14.53	
第16図	131	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・黄灰褐色	条痕・黄灰褐色	4313	14.36	
第16図	132	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・黄茶褐色	条痕・黄灰褐色			煤付着
第16図	133	7	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	b	ナゾ・黄茶褐色	ミガキ・黒褐色	1512	14.515	半粗半精製土器の可能性あり
第16図	134	8	Ⅲ上	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・茶褐色	ナゾ・橙褐色	4740	14.025	
第17図	135	9	IB	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄灰褐色	ナゾ・灰褐色	334	14.305	角閃石
第17図	136	9	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙褐色	条痕・黄褐色	4452	13.945	
第17図	137	8	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄灰褐色	条痕・黄褐色	3890	14.55	外面に接合痕
第17図	138	11	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄茶褐色	ナゾ・黒灰褐色	7944	14.035	
第17図	139	8	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄白色	条痕・黄灰褐色	4920	14.235	
第17図	140	9	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・茶褐色	条痕・黄灰褐色	2776	14.49	煤付着
第17図	141	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	剥落した可能性	ナゾ・暗灰褐色	2658・2659	14.31	
第17図	142	8	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙白色	条痕・黄灰褐色	2988	14.41	
第17図	143	8	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄灰褐色	条痕・黄灰褐色	2937・2983	14.385	煤付着
第17図	144	8	IB	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・淡灰褐色	ナゾ・淡灰褐色	677	14.44	
第17図	145	9	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄褐色	条痕・黄灰褐色	4052	14.495	煤付着
第17図	146	6	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・暗茶褐色	条痕・暗黄褐色	2086	14.545	
第17図	147	18	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・明茶褐色	ナゾ・黒茶褐色	8569	14.88	
第17図	148	18	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナゾ・明茶褐色	ナゾ・明茶褐色	8566・8568	14.89	
第17図	149	7	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	b	条痕・黄褐色	ミガキ様・灰褐色	2432	14.545	煤付着半粗半精製土器の可能性あり
第17図	150	9	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄白色	ナゾ・黄白色	4035	14.435	
第17図	151	8	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・灰褐色	ナゾ・黄茶褐色	3716	14.595	

第8表 縄文晩期土器観察表 (4)

第17図	152	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黒褐色	条痕・黒褐色	4296・4304	14.29	4305・4309・4352
第17図	153	8	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	ミガキ様・黄茶褐色	ミガキ様・黄灰褐色	3813	14.535	
第17図	154	13	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ミガキ様・黄灰褐色	ナデ・灰褐色	6083	14.37	角閃石
第17図	155	6	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙褐色	条痕・黄褐色	1137・1139	14.715	
第17図	156	17	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	b	条痕・暗黄灰色	ミガキ様・暗黄灰色	6728・6741	14.695	煤付着半粗半精製土器の可能性あり
第17図	157	39	TⅢ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙白色	条痕・黄灰色	286	14.29	煤付着外面に接合痕
第17図	158	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib、	ナデ・黒褐色	ナデ・灰茶褐色	1762	14.225	煤付着
第17図	159	6	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙褐色	ナデ・黄茶褐色	932	14.7	煤付着
第17図	160	9	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄茶褐色	ナデ・灰黒褐色	4110	14.46	
第17図	161	6	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	b	ナデ・黒褐色	ミガキ様・黒褐色	2046	14.55	半粗半精製土器の可能性あり
第18図	162	16	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・灰黒褐色	ナデ・黄褐色	6526	14.505	
第18図	163	19	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・橙白色	条痕・黄白色	7470	15.01	角閃石
第18図	164	18	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ヨコナデ・橙褐色	ヨコナデ・橙褐色	8517	14.965	土師器の可能性もある
第18図	165	17	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・茶褐色	ナデ・黒茶褐色	8222	14.545	
第18図	166	18	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・茶褐色	条痕・橙褐色	7745	14.885	
第18図	167	17	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	I	条痕・黄灰褐色	ナデ・黄茶褐色	6754		
第18図	168	8	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・明茶褐色	ナデ・黄白色	3827・3895	14.48	石英4785・4786・4787・4838・4846
第18図	169	8・9	Ⅲ・IB・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	ミガキ様・橙褐色	ナデ・黄灰褐色	ヶ8Ⅲ3725	14.415	ヶ8IB696・ヶ8Ⅲ下4500・ヶ8IB698
第18図	170	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	条痕・灰褐色	4083	14.415	
第18図	171	7	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	条痕・黄灰褐色	1548・2420	14.6	
第18図	172	6	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	条痕・黄灰褐色	1236	14.71	石英
第18図	173	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	条痕・黄白色	1791	14.18	石英
第18図	174	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	ナデ・黄白色	4065	14.515	
第18図	175	19	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	ナデ・黄白色	7404	14.995	
第19図	176	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・明茶褐色	条痕・黄茶褐色	1631・4882	14.18	煤付着
第19図	177	7	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄茶褐色	ナデ・黄灰褐色	1031	15.235	石英
第19図	178	9	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・灰褐色	条痕・黄灰色	4073・4805	14.405	
第19図	179	7	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・橙白色	条痕・黄白色	2529	14.575	
第19図	180	7	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・橙褐色	ナデ・黒褐色	991・2566	14.43	
第19図	181	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	条痕・黄褐色	4315	14.3	石英
第19図	182	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	条痕・黄灰色	2733・3316	13.735	
第19図	183	7	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	条痕・黄褐色	2159・5149	14.155	石英
第19図	184	8	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	条痕・黄灰色	3736	14.555	
第19図	185	39	TⅢ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	条痕・灰白色	220	14.51	煤付着
第19図	186	18	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	条痕・黄白色	3633	14.535	
第19図	187	8	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・橙褐色	条痕・橙褐色	4837	14.285	

第9表 縄文晩期土器観察表 (5)

第19図	188	9	円	深鉢形土器	肩部	I	条痕・茶褐色	条痕・黒茶褐色	3074	14.005
第19図	189	17	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	条痕・黄灰褐色	6713	14.695
第19図	190	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	条痕・灰白色	4151	14.055
第19図	191	15	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	条痕・黄白色	5914	14.205
第19図	192	19	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	条痕・黄白色	7327	14.975
第19図	193	18	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・橙白色	条痕・黒茶褐色	8307	14.925
第19図	194	17	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	6839	14.715
第19図	195	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	ナデ・黄褐色	ナデ・黄褐色	2765	14.495
第19図	196	18	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	ナデ・黒灰色	ナデ・黄灰色	7725	14.905
第20図	197	6	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄灰色	条痕・灰褐色	961・962	15.325
第20図	198	8	Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄茶褐色	ナデ・橙褐色	4601・3832	14.455
第20図	199	6・7	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄褐色	ナデ・黄褐色	1919・2121	14.4
第20図	200	7	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄茶褐色	条痕・黄白色	2351・2497	14.15
第20図	201	9	Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄茶褐色	条痕・橙白色	2761	14.44
第20図	202	9	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	4391	14.27
第20図	203	6	Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄白色	条痕・黄白色	2108	14.375
第20図	204	8	Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・橙白色	条痕・橙白色	3752・3753	14.575
第20図	205	6	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄白色	条痕・黄灰色	1104・1175	14.695
第20図	206	9	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄白色	条痕・黄褐色	4288・4306	14.345
第20図	207	18	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	条痕・橙白色	条痕・橙白色	8365	14.955
第20図	208	9	ⅢB	深鉢形土器	胴部	I	条痕・橙白色	ナデ・橙白色	374	14.275
第21図	209	6	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄灰褐色	条痕・灰茶褐色	934	14.82
第21図	210	7	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄灰褐色	条痕・黄灰褐色	2324・2553	14.285
第21図	211	4	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	ナデ・橙白色	磨耗・黄灰褐色	21	14.535
第21図	212	9・39	Ⅲ・Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄白色	条痕・暗黄褐色	4354・232	14.355
第21図	213	9	Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄白色	条痕・暗黄褐色	2762	14.49
第21図	214	6	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	ナデ・黄白色	ナデ・黄灰褐色	1161・1950	14.46
第21図	215	9	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄白色	ミガキ・黄灰褐色	4406・1759	14.23
第21図	216	15	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	ナデ・橙褐色	磨耗・橙褐色	5457	14.135
第21図	217	7	Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・灰褐色	ミガキ・黒色	2466	14.54
第21図	218	39	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	ナデ・黄白色	ナデ・灰白色	284	14.255
第21図	219	9	Ⅲ	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄褐色	条痕・黄灰色	4331	14.355
第21図	220	7	Ⅲ下	深鉢形土器	胴部	I	条痕・黄褐色	条痕・黄褐色	3374	14.345
第21図	221	17	Ⅲ	深鉢形土器	胴部下半部	I	条痕・橙白色	磨耗・黄灰色	6743	14.7
第21図	222	18	Ⅲ	深鉢形土器	胴部下半部	I	条痕・橙白色	ナデ・黄灰褐色	7751	14.865
第22図	223	6	Ⅲ	深鉢形土器	胴部下半部	I	ナデ・橙白色	磨耗・黄灰色	980・964	15.325

第10表 縄文晩期土器観察表(6)

第222図	224	6	Ⅲ	深鉢形土器	胴部下半部	I	ナデ・橙白色	ナデ・黄灰色	963・969	15.355	お焦げ付着
第222図	225	8	Ⅲ下	深鉢形土器	胴部下半部	I	ミガキ様 橙白色	ナデ・黄灰色	3812・3815	14.53	
第222図	226	9	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・灰茶褐色	2599	13.975	底径10cm
第222図	227	6	Ⅲ	深鉢形土器	胴部下半部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄灰色	1106	14.695	直径1mm程度の粒状の圧痕
第222図	228	6	Ⅲ	深鉢形土器	胴部下半部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・黄灰色	2116	14.68	
第222図	229	9	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・明茶褐色	ナデ・黄褐色	4388	14.205	
第222図	230	9	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・黄灰色	3994	14.315	
第222図	231	9	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・黄灰色	1782	14.245	圧痕(何であるかは不明)
第222図	232	8	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・黄白色	3700	14.65	圧痕(幅9mmの板状のもの)
第222図	233	8	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・黄白色	3694	14.635	
第222図	234	7	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・灰茶褐色	2423	14.6	圧痕(3X1.5mmの粒状・直径7mmの竹管状の物)
第222図	235	6	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄灰色	1180	14.375	若干上げ底
第222図	236	8	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄灰色	3760	14.645	圧痕もしくは調整による擦痕
第222図	237	7	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	条痕・黄白色	ナデ・黄白色	1026	15.215	圧痕(10X8の木ノ実状の物)お焦げ付着
第222図	238	7	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄灰色	2521	14.57	
第222図	239	8	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・明橙色	ナデ・明橙色	3886	14.65	
第222図	240	7	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・黄褐色	ナデ・灰褐色	3449	14.385	底径10.2cm
第222図	241	15	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・黄灰色	5349	14.205	
第222図	242	8	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・黄白色	3702	14.67	圧痕(何であるかは不明)
第222図	243	9	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Id	ナデ・橙白色	ナデ・橙白色	2807	14.26	
第223図	244	13	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・灰茶色	6073	14.34	
第223図	245	6	Ⅲ下	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・黄灰色	1981	14.305	
第223図	246	9	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	ナデ・灰褐色	4828	14.38	
第223図	247	7	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・橙白色	条痕・黒灰色	4897	14.325	
第223図	248	9	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	条痕・橙白色	ナデ・橙白色	1732・1733	14.46	底径10.4cm
第223図	249	9	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	ナデ・茶白色	ナデ・黄白色	4342・4381	14.25	底径10.9cm
第223図	250	9	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	条痕・茶白色	ナデ・黄灰色	1906・4429	14.175	底径10.8cm 金雲母
第223図	251	8	Ⅲ	深鉢形土器	底部	Ic	条痕・橙白色	ナデ・黄白色	3552・3572	14.415	
第223図	252	39T	Ⅲ	深鉢形土器か?	底部	Id	ナデ・茶褐色	ナデ・茶褐色	298	14.31	
第223図	253	9	Ⅲ	深鉢形土器か?	底部	Id	条痕・明橙色	ナデ・橙白色	1766・4412	14.19	
第223図	254	4	Ⅲ	深鉢形土器か?	底部	Ie	ミガキ様・黄白色	ミガキ様・灰褐色	571・577	14.57	底径4.9cm 上げ底 金雲母
第223図	255	4	Ⅲ	深鉢形土器か?	底部	Ie	ナデ・黄白色	ナデ・黄灰色	228	14.495	圧痕(何であるかは不明)底径7.5cmお焦げ付着
第223図	256	8	Ⅲ下	深鉢形土器か?	底部	Ie	ナデ・黄白色	ナデ・灰白色	4640	14.14	底径6cm
第224図	257	9	Ⅲ	浅鉢形土器か?	口縁部	I	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	1632	14.43	波頂部にV字状のカット煤付着
第224図	258	9	Ⅲ下	浅鉢形土器か?	口縁部	I	条痕・橙白色	条痕・橙白色	4097	14.45	突起(精円形状)
第224図	259	39T	Ⅲ	浅鉢形土器か?	口縁部	I	条痕・黄褐色	条痕・黄白色	247	14.35	突起(円形状)

第11表 縄文晩期土器観察表(7)

第24図	260	9	円	浅鉢形土器か?	口縁部	I	条痕・黄白色	条痕・黒灰色	2668	14.35	内外面とも口縁部突帯上に沈線
第24図	261	10	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	上皿式土器	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	7976	13.93	少なくとも4条の沈線煤付着
第24図	262	6	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	甗式土器	ナデ・赤茶色	ナデ・赤茶色	1245	14.73	半截竹管による4条の短沈線
第25図	263	19	Ⅲ	壺形土器	口縁部~胴部	II	条痕・黒茶褐色	条痕・黒褐色	32	14.59	条線状の条痕であり、その上を一部磨く
第26図	264	14	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・明茶褐色	ミガキ・明黒褐色	6017	14.095	
第26図	265	14	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・茶白色	ミガキ・茶白色	5772	14.42	
第26図	266	7	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄白色	ミガキ・黒褐色	1046	15.12	赤色顔料
第26図	267	9	IB	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄白色	ミガキ・灰褐色	528	14.57	
第26図	268	9	IB	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・橙褐色	ミガキ・茶白色	535	14.58	
第26図	269	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・灰褐色	ミガキ・灰褐色	4243	14.3	
第26図	270	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	4229	14.38	リボン状突起
第26図	271	8	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	2981	14.385	
第26図	272	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黄白色	4246	14.28	
第26図	273	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II	ナデ・黄褐色	ナデ・黄褐色	4047	14.47	
第26図	274	18	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄褐色	ミガキ・黄白色	8367	14.94	赤色顔料
第26図	275	7	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黒灰色	ミガキ・灰褐色	2269	14.325	
第26図	276	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄白色	ミガキ・灰白色	1954	14.49	
第26図	277	18	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II f	ナデ・黄白色	ナデ・灰褐色	8508	14.86	
第26図	278	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II h	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黒灰色	4201	14.37	赤色顔料
第26図	279	8	IB	浅鉢形土器	口縁部	II h	ミガキ・黒褐色	ミガキ・黒褐色	748	14.43	
第27図	280	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II h	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黄白色	1983	14.46	リボン状突起
第27図	281	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	3685	14.495	リボン状突起
第27図	282	7	Ⅲ上	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄白色	ミガキ・黒褐色	3357	14.535	リボン状突起
第27図	283	7	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II h	ミガキ・灰白色	ミガキ・灰白色	2307	14.25	リボン状突起
第27図	284	8	Ⅲ上	浅鉢形土器	口縁部	II f	ナデ・黄褐色	ミガキ・黒灰色	3863	14.25	リボン状突起
第27図	285	7	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄白色	ミガキ・灰褐色	2150	14.31	赤色顔料
第27図	286	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	3434	14.27	
第27図	287	39T	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・明黒灰色	ミガキ・黒灰色	273	14.22	
第27図	288	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄白色	ミガキ・黒灰色	1995	14.42	
第27図	289	7	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黒灰色	ミガキ・黄白色	1047	15.125	
第27図	290	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II g	ミガキ・黄白色	ミガキ・灰褐色	1988	14.455	赤色顔料
第27図	291	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・茶白色	ミガキ・黒茶色	3373	14.355	
第27図	292	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黒灰色	ミガキ・黒灰色	4476	14.07	
第27図	293	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II g	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黒灰色	3495	14.26	赤色顔料
第27図	294	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	1987	14.355	赤色顔料
第27図	295	8	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II f	剥落・灰褐色	ミガキ・黄白色	5157	14.47	

第12表 縄文晩期土器観察表(8)

第27図	296	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱf	ミガキ・灰白色	ミガキ・灰褐色	3797	14.455	
第27図	297	8	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱg	ミガキ・黄白色	ミガキ・灰褐色	2867	14.355	
第28図	298	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱg	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	4111・4407	14.3	
第28図	299	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱ	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	4489	14.215	
第28図	300	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱh	ミガキ・黒褐色	ミガキ・黒褐色	2016	14.515	
第28図	301	6	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱh	ミガキ・黒褐色	ミガキ・黒褐色	1265	14.67	赤色顔料
第28図	302	9	ⅢB	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱh	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黒褐色	516	14.44	
第28図	303	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部				2476	14.49	
第28図	304	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱg	ミガキ・黄灰色	ミガキ・黄褐色	2057	14.65	
第28図	305	6	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱg	ミガキ・黒灰色	ミガキ・黒灰色	1216	14.615	
第28図	306	6	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱg	ミガキ・黒灰色	ミガキ・黒灰色	958	14.495	
第28図	307	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱg	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄灰色	4127	14.35	
第28図	308	9	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱh	ミガキ・灰白色	ミガキ・灰褐色	1642	14.51	
第28図	309	8	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱh	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黒灰色	2904	14.31	赤色顔料
第28図	310	6	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱh	ミガキ・黒褐色	ミガキ・黒灰色	1126	14.72	
第28図	311	8	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱh	ミガキ・黄灰色	ミガキ・黄灰色	707	14.52	
第28図	312	18・19	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱ	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黄灰色	7838・7405	14.94	7442・7388・7389
第28図	313	18	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱ	ミガキ・黄灰色	ミガキ・黄灰色	8538	14.88	
第28図	314	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱ	ナデ・橙褐色	ナデ・黄灰色	3489	14.31	
第28図	315	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱ	ナズリ様・灰褐色	ミガキ・黄灰色	2002	14.455	
第29図	316	9	Ⅲ	浅鉢形土器か?	口縁部	Ⅱ	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黒褐色	4302	14.325	
第29図	317	9	Ⅲ	浅鉢形土器か?	口縁部	Ⅱ	ナデ・黄褐色	ナデ・灰褐色	1689	14.23	
第29図	318	9	Ⅲ・土1	浅鉢形土器か?	口縁部	Ⅱ	ミガキ・暗黄灰色	ミガキ・黄褐色	4871・3161	13.83	
第29図	319	7	Ⅲ下	マリ形土器	完形品	Ⅱ	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	2453	14.62	
第29図	320	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	Ⅱ	ミガキ・暗黄灰色	ミガキ・灰褐色	4206	14.375	赤色顔料
第29図	321	9	Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	Ⅱ	ミガキ・黄灰色	ミガキ・黄灰色	1780	14.19	
第29図	322	6	Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	Ⅱ	ミガキ・黄灰色	ミガキ・黄灰色	1133	14.76	
第29図	323	18	Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	Ⅱ	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄灰色	7872	15.01	
第29図	324	4	Ⅲ	浅鉢形土器か?	胴部	三田式土器	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	574	14.645	肩部から胴部に凹線・金雲母
第29図	325	8	Ⅲ上	浅鉢形土器か?	口縁部	Ⅱ	ナデ・橙白色	ナデ・橙白色	3869	14.275	
第29図	326	9	Ⅲ下	浅鉢形土器か?	口縁部	Ⅱ	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黄灰色	4477	14.065	
第29図	327	9	Ⅲ下	浅鉢形土器か?	口縁部	Ⅱ	ミガキ・灰褐色	ミガキ・黄白色	4188	14.275	
第29図	328	7	Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	Ⅱ	ミガキ・明褐色	ミガキ・暗茶褐色	1051	15.135	
第29図	329	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	Ⅱ	ミガキ・灰褐色	ミガキ・暗灰色	3738	14.58	赤色顔料
第29図	330	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	Ⅱ	ミガキ・暗黄灰色	ミガキ・黒灰色	3412	14.28	金雲母
第29図	331	9	Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	Ⅱ	ミガキ・黄灰色	ミガキ・明灰色	1752	14.27	



第13表 縄文晩期土器観察表(9)

第30図	332	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黄灰色	三ガキ・黄灰色	4511	14.325	5.25×1.80mmの種子状圧痕
第30図	333	8	IB	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黄灰色	三ガキ・灰白色	561・687	14.345	688
第30図	334	7	Ⅲ	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・暗黄灰色	三ガキ・黒褐色	1041・1045	15.115	赤色顔料1049
第30図	335	6	Ⅲ	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黒灰色	三ガキ・黒灰色	1156	14.72	
第30図	336	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・橙黄色	三ガキ・橙黄白色	3833・3894	14.5	
第30図	337	9	Ⅲ下・Ⅱ下	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黄白色	三ガキ・橙黄白色	4119・4528	14.27	補修孔
第30図	338	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・暗黄灰色	三ガキ・灰褐色	3417	14.39	
第30図	339	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黄白色	三ガキ・橙黄白色	3816	14.53	
第30図	340	8	Ⅲ上	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黄灰色	三ガキ・黒灰色	3878	14.27	
第30図	341	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黄灰色	三ガキ・黄白色	4034	14.455	
第30図	342	8	Ⅲ	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黄灰色	三ガキ・黄灰色	2963	14.38	
第31図	343	8	Ⅲ下・Ⅲ	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黄白色	三ガキ・灰褐色	4559・4781	14.275	
第31図	344	9	Ⅲ	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黄白色	三ガキ・黄白色	4268	14.41	
第31図	345	2	Ⅲ	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・橙黄色	ナナ・黄灰色	186	14.645	
第31図	346	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	胴部	Ⅱ	三ガキ・黒灰色	三ガキ・黄灰色	4100	14.465	赤色顔料
第31図	347	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	胴下半部	Ⅱ	三ガキ・黄白色	三ガキ・黄灰色	2010・2009	14.415	
第31図	348	9	Ⅲ	浅鉢形土器	胴下半部	Ⅱ	三ガキ・黒灰色	三ガキ・黄灰色	4267・4266	14.335	
第31図	349	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	胴下半部	Ⅱ	三ガキ・黒茶褐色	三ガキ・茶白色	4592	14.435	
第31図	350	8	Ⅲ	浅鉢形土器	胴下半部	Ⅱ	三ガキ・灰褐色	三ガキ・灰褐色	4777	14.31	
第31図	351	7	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・黄白色	三ガキ・灰褐色	2234	14.33	赤色顔料
第31図	352	6	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・灰褐色	三ガキ・黄灰色	1208	14.7	内面に赤色顔料か?
第31図	353	9	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・黄灰色	三ガキ・黄白色	1687	14.23	2780
第31図	354	8・9	Ⅲ下	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・黄灰色	三ガキ・灰褐色	3728・4220	14.4	赤色顔料
第32図	355	39T	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・灰褐色	三ガキ・黄灰色	267・274	14.31	
第32図	356	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・灰褐色	三ガキ・橙黄白色	2543	14.445	1026・1041
第32図	357	7	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・茶灰色	三ガキ・黒褐色	1010・1017	15.195	
第32図	358	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・黄白色	三ガキ・灰白色	3769	14.46	
第32図	359	9	Ⅲ下・Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・橙白色	三ガキ・黄灰色	4161・3156	13.91	
第32図	360	9	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・橙白色	三ガキ・黄白色	1750	14.29	
第32図	361	9	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・黒灰色	三ガキ・灰白色	1908	14.125	
第32図	362	9	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・灰白色	三ガキ・黄白色	4802	14.53	
第32図	363	8	IB	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・黄白色	三ガキ・灰褐色	702	14.63	
第32図	364	7	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	Ⅱ	三ガキ・黒褐色	三ガキ・黒褐色	1048	15.12	赤色顔料
第32図	365	6	Ⅲ下・Ⅲ	浅鉢形土器か?	胴部～底部	Ⅱ	三ガキ・黄灰色	三ガキ・黄白色	2035・1234	14.59	赤色顔料1231
第32図	366	9	Ⅱ	浅鉢形土器	胴部～底部	Ⅱ	三ガキ・橙白色	三ガキ・橙白色	4367・3459	14.335	
第33図	367	9	IB・Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	条痕・黄白色	ナナ・黄白色	1624・507	14.34	編布 経20mm 緯6本 煤付着 1699

第14册 織物器具標準 (10)

第33図	368	8	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・黄白色	4783	14.395	編布 経24mm	緯5本	お焦げ付着
第33図	369	8	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・暗黄白色	2990	14.34	編布 経24mm	経連続3本	緯5本
第33図	370	9	Ⅲ・Ⅲ下	組織痕土器		Ⅲi	条痕・橙白色	ナデ・橙白色	1699・2795	14.33	編布 経25mm	緯6本	
第33図	371	17	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ミガキ・灰褐色	7914	14.645	編布 経24mm	緯5本	
第33図	372	7	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・暗黄白色	2305	14.36	編布 経10mm	緯10本	
第33図	373	7	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・暗黄白色	2254	14.275	編布 経9mm	緯9本	煤付着
第34図	374	6	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・黄白色	1183	14.645	編布 緯7本		
第34図	375	9	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・灰黄色	ミガキ・黒灰色	1914	14.15	編布 経7mm	経連続2本	緯6本
第34図	376	7	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・暗橙白色	2299	14.36	編布 経10mm	緯8本	
第34図	377	7	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・暗黄白色	2266	14.325	編布 経10mm	緯9本	
第34図	378	8	Ⅲ下	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・赤橙色	ナデ・黄白色	4569・4570	14.35	編布 経11mm	緯9本	
第34図	379	9	Ⅲ下	組織痕土器		Ⅲi	ナデ・黄白色	ミガキ・黄白色	2575	14.095	編布 経5mm	緯7本	
第34図	380	6	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	条痕・橙黄白色	ナデ・橙黄白色	1173・1262	14.65	編布		
第34図	381	7	Ⅲ上	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・茶白色	ナデ・茶灰色	4674	14.23	網目 煤付着	37mm	
第34図	382	9	Ⅲ下	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・黒灰色	4208	14.415	網目 13mm		
第34図	383	9	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ミガキ・茶白色	1853	14.13	網目 12mm		
第35図	384	39T	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	条痕・黒黄色	ミガキ・暗黄白色	294	14.395	網目の重ね合わせ	9mm	
第35図	385	10	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙褐色	ミガキ・橙褐色	7146	13.97	網目 煤付着		
第35図	386	7	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・黒茶褐色	ミガキ・黒褐色	2131	14.35	網目 13mm		
第35図	387	9	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	条痕・橙白色	ミガキ・茶白色	4419	14.215	網目 12mm		
第35図	388	9	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・黒灰色	ミガキ・黒褐色	1823	14.185	網目 煤付着	10mm	
第35図	389	8	ⅡB	組織痕土器		Ⅲi	条痕・橙白色	ミガキ・暗黄白色	553	14.58	網目 7mm		
第35図	390	8	Ⅲ下	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ミガキ・黒褐色	3668	14.64	網目 9mm		
第35図	391	9	ⅡB	組織痕土器		Ⅲi	ナデ・黄白色	ミガキ・黄白色	335	14.295	網目 7mm		
第35図	392	39T	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ミガキ・灰白色	260	14.32	網目 13mm		
第35図	393	9	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ミガキ・黄白色	1646	14.525	網目 6mm		
第36図	394	7	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・黄白色	ナデ・黄白色	1432	14.47	網目 6mm		
第36図	395	8	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・黄白色	ミガキ・黒褐色	2943	14.385	網目 5mm	煤付着	
第36図	396	8	ⅢF	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・黄灰色	4568	14.32	網目 9mm		
第36図	397	8	Ⅲ上	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・茶褐色	ナデ・橙茶色	4737	14.065	不明	お焦げ付着	
第36図	398	9	Ⅲ	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ミガキ・灰褐色	1669	14.36	不明		
第36図	399	9	Ⅲ下	組織痕土器		Ⅲi	圧痕・橙白色	ナデ・灰黄色	4504	14.365	網代(2本送り2本くぐり)		
第36図	400	18	Ⅲ	半粗半精製土器		Ⅲ	ナデ・黄灰色	ミガキ・黄灰色	7729	14.93	粘土接合面に組織痕状の圧痕	煤付着	
第36図	401	14	Ⅲ	半粗半精製土器		Ⅲj	ナデ・橙褐色	ミガキ・橙白色	5937	14.135			
第36図	402	36T	Ⅲ	半粗半精製土器		Ⅲj	ナデ・橙白色	ナデ・灰茶色	130	14.6	煤付着		
第36図	403	6	Ⅲ	半粗半精製土器		Ⅲj	ナデ・灰茶色	ミガキ・黒灰色	929・931	14.81	煤付着	お焦げ付着	

### 第3節 縄文時代晩期の石器

Ⅲa層を主体として包含層から出土した縄文時代晩期の石器は、計110点であった。

#### 石器組成と出土分布

出土した石器の器種には多種のものがみられ、その内訳は第15表で示した。量的に最も多数を占めたものは石鏃であり、打製石鏃が41点出土しており、石器全体の37.3%を占めている。また当時期と推定される磨製石鏃も3点出土している。次に多いのが土掘具としての打製石斧であり、17点出土し、15.5%である。以下、スクレイパーが13点で11.8%、そして磨石・敲石類の9点で8.2%の順となっている。このように狩猟具が全体の中で高い比率をもつのが特徴である。

石器の出土分布は第37・38図で示したように、第1調査地点の6区南側から7区北側にかけて、8区南側から9区北側にかけての2ヶ所に集中していた。第1調査地点の他の区及び第2調査地点については散在した状況であった。この出土分布は土器の出土分布とほぼ一致していた。各個別の石器についても同様に2ヶ所に集中がみられた。

#### 石材と黒曜石

石器に使用される石材は、頁岩等が多用される打製石斧や、安山岩・砂岩等が多用される磨石・敲石類など、器種により使用傾向があるが、ここでは剥片石器に使用される黒曜石・安山岩等について述べたい。

黒曜石の剥片及びチップは、最も集中した第1調査区域の6区から9区に約230点出土している。これらを肉眼的に分類すると、色調・光の通過度・不純物の有無と量・透明感・しま模様の有無・自然面の状態・風化度等によって、かなり区別することができた。そして、その分類したものを各々数点ずつ原産地分析に依頼した。その結果は付編に掲載してあるので参照されるとおりであるが、こちらで細かく区別したものの大部分は腰岳産と判定された。すなわち、全体のなかで、腰岳産が205点で89%を越え、県内の上牛鼻産は13点で5.7%であった。また淀姫産と判定されたものは計4点あり、1.7%である。日東・五女木産と判定された県内産と古里・椎葉川産は同数の各3点であり、1.3%であった。また剥片ではないが径5～10mm長さ3～5cmの釘状の黒曜石原石が10点出土しており、腰岳産と判定された。

第15表 縄文時代晩期の石器組成

器種	石鏃	磨製石鏃	スクレイパー	石錐	ピエス・エスキュー	異形石器	磨製石斧(伐採)	打製石斧(土堀具)	横刃形石器	円盤形石器	礫器	磨石・敲石	石皿	計	石鏃未製品	石核
出土数	41	3	13	6	3	2	1	17	3	1	6	9	5	110	12	16
出土率	37.3	2.7	11.8	5.45	2.7	1.8	0.9	15.45	2.7	0.9	5.45	8.18	4.54	100		

安山岩系の剥片は約150点出土している。これについても色調・風化度・ハリ質の度合いなどにより4種に区分し、各数点ずつを原産地推定分析に依頼した。その結果、3種のものについては多久産のサヌカイトと判定され、最もハリ質の強い青灰色のものについては、嬉野・松尾産の黒曜石と判定された。すなわち、150点のうち多久産のサヌカイトは82点で54.5%となり、嬉野・松尾産が残りということになる。

剥片において、その他の石材としてはチャート3点、ギョクズイ4点、頁岩2点と各々少量ずつ出土している。

### 石鏃

計41点の石鏃に使用されている石材について石器製品の原産地分析は実施していないが、分析に出した剥片との肉眼的比較・観察による対比を根拠として石材の区別を行った。あくまでも担当者の肉眼的観察所見であり、誤りがある場合は筆者の責任である。以下全ての石器についても同様である。

41点の石鏃の石材は、18点（約44%）が多久産サヌカイトであり、次に嬉野・松尾産黒曜石とされたハリ質安山岩系の黒曜石で12点（29%）認められる。いわゆる黒曜石は9点であり、その内訳は腰岳産6点、淀姫産3点である。残りの1点はたんぱく石であった。

石鏃の形態は小型で正三角形に近いものから、基部がわずかに凹む凹基式が多いが、418や419のように長さに比較して幅の広いものもある。また429・430のように基部がわずかに尖がる凸基式も認められる。またいわゆる長身鏃（437・438）や長脚鏃と呼ばれるもの（441）もある。整形加工は、石材が安山岩系のためか、個別の剥離が大きいのが特徴であるが、なかには両側縁を鋸歯状にした細かい剥離加工を行ったもの（426・439・441）も存在している。このような形態の多様性は石材及び剥片の形状に起因しているものと判断される。

### 磨製石鏃

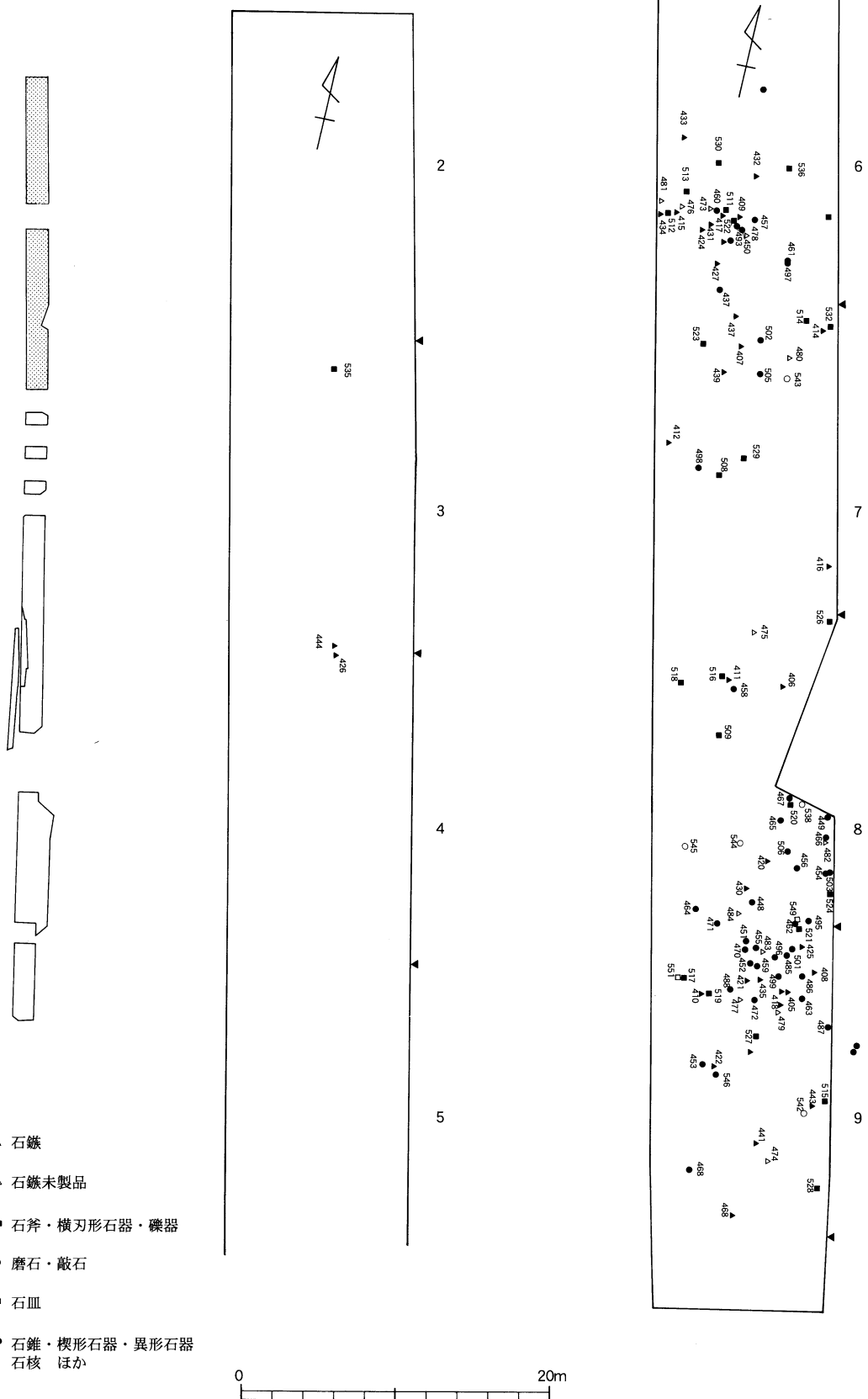
445は表裏両面とも丁寧な研磨を施したもので、両側縁は丸みをもってふくらみ、基部は弧状の凹基式である。形態的に弥生時代のものに類似している。446は両側縁がほぼ直線状であり、先端部近くは入念な研磨により表裏両面に稜がつくられる。基部は縦方向の研磨整形によりわずかに凹む。全長2.7cmを測る。447は基部を大きく欠損しているが、丁寧な研磨が行われており、直線状の側縁をもつ細みのものである。3点とも頁岩を使用している。

### 石錐

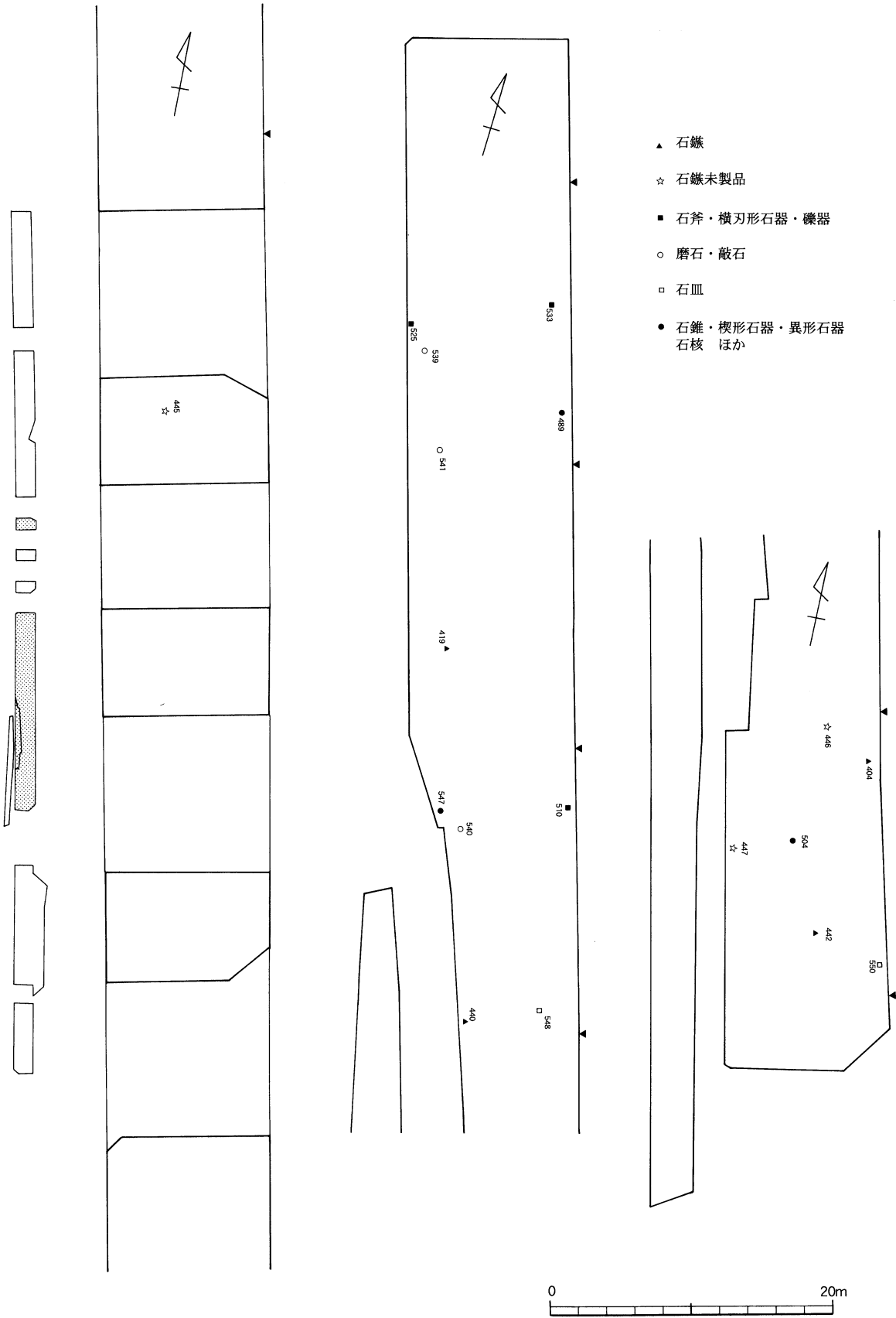
計6点出土している。石材は多久産サヌカイト及び嬉野・松尾産黒曜石を使用している。448は小さな剥片の一部に加工を施し尖った機能部を作り出している。449も整形加工は先端部付近にのみ行われている。450は両側縁全体に整形剥離を行っているが、先端部を欠損する。451・452・453も同様に粗い整形加工により機能部を作り出している。

### ピエス・エスキーユ（楔形石器）

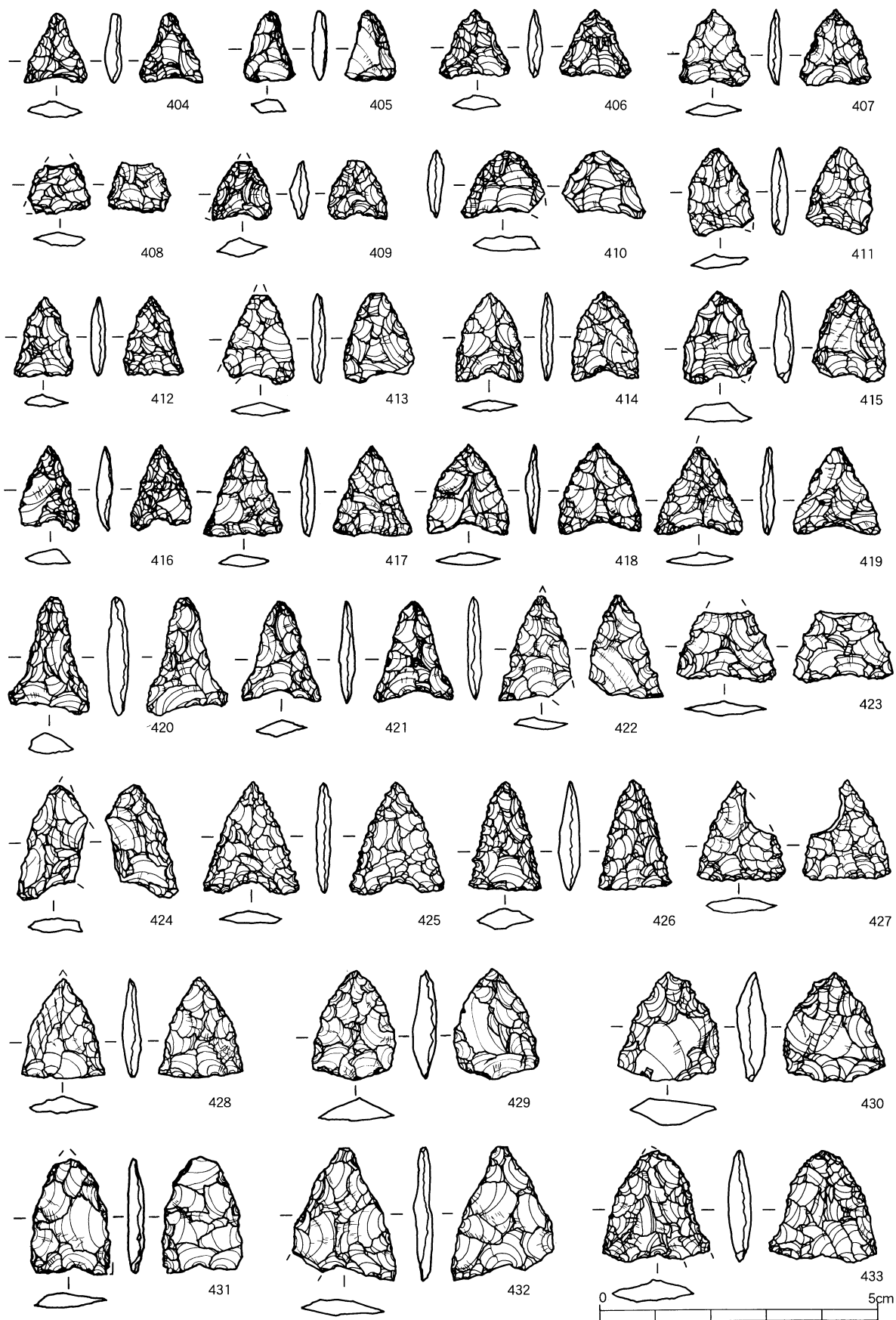
計3点出土した。454はチャート製であり、直線状の刃部に上下からの剥離が認められる。下半部を欠損する。455は片側が欠損しているが、機能部はしっかりしている。456はほぼ完形に近いものであり、表裏両面の上下端部位に剥離が集中し、使用の痕が著しい。縦断面はレンズ状に近い形である。



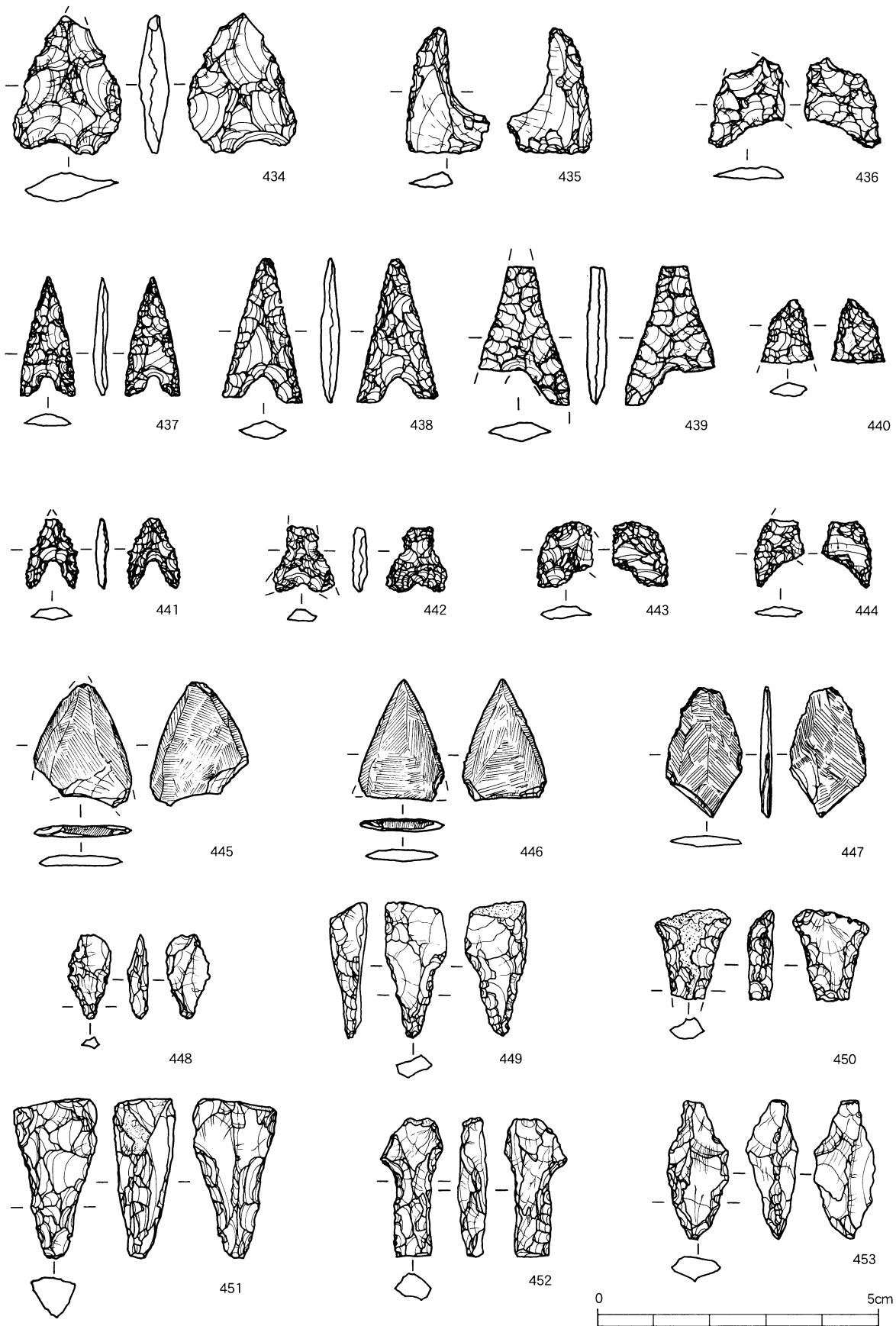
第37図 縄文晩期石器出土分布 (1)



第38図 縄文晩期石器出土分布（2）



第39図 縄文時代晩期石器（1）



第40図 縄文時代晩期石器（2）



## 異形石器

457は気泡や不純物が全く認められない腰岳産黒曜石を使用し、素材である縦長剥片に二次加工を行い、細長い形状に整形したものであり、異形石器として取扱った。押圧剥離による整形であり、刃部を形成しているとは言えない。458はサヌカイト剥片を素材としたもので、同様に二次加工により細長い形状に整形している。ただし実測図の下部先端には、わずかに磨耗した部分が認められ石錐の可能性もある。

## スクレイパー

計13点出土している。459は裏面からの連続した押圧剥離が両側縁に施され、刃部が形成されている。460はサヌカイト剥片の縁辺に丁寧な二次加工を施し付刃したものである。461・462は不定形剥片の縁辺に二次加工を施し刃部としている。463は剥片の側縁に二次加工を施し刃部としたものであるが、破損した後、先端部（図の上）に加工を行い石錐として利用している。464は不定形剥片の縁辺に二次加工を施したものである。465はチャートの剥片の片側にノッチ状の刃部を形成している。466は表皮が残る剥片の先端部と側縁に二次加工を施したもので搔器である。467・468は腰岳産黒曜石の縁辺に45°以上の角度をつけた刃部を形成した搔器である。第42図470・472は比較的大型のサヌカイト剥片の側縁に対し表裏両面から二次加工を施したものである。471は安山岩の片面からのみ二次加工を丁寧に施し刃部としたものである。

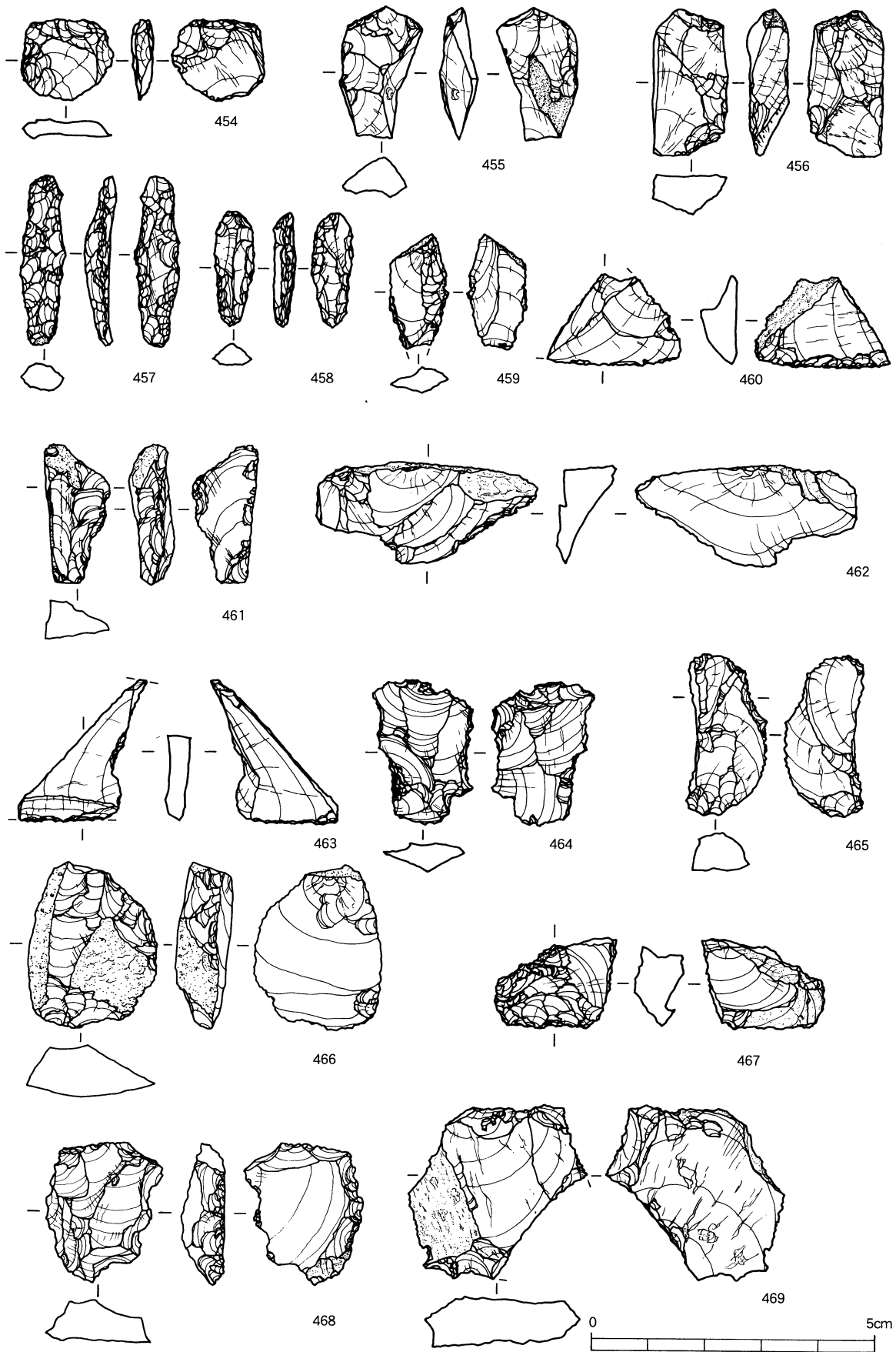
## 石鏃未製品

473～484は、小さな剥片ないしは中型の剥片の一部に二次加工が認められるものであり、かつその加工は刃部を形成する目的のものではなく整形加工的なものであり、加えて使用された痕跡が全くないものを石鏃未製品として判断した。437は薄い剥片の両側縁と基部にあたる部分に二次加工が施されている。先端が割れていることより途中で放棄した可能性もある。474は粗い二次加工により整形加工が行われている。475は石鏃大の剥片の打面を二次加工により整形している。476も打面部と基部に相当する部分を二次加工により整形している。477は剥片を折断し、折断面に二次加工を施している。478は表皮の残る剥片を折断し、周辺に二次加工が認められる。479はやや厚みのある剥片の両側縁に二次加工が施されている。480は部分的に二次加工が認められる。481～484はいずれもやや大きな剥片の縁辺に二次加工が施されており、厚みのある剥片を薄くするための整形剥離であり、それ以外の目的は考えられない。折断部からの剥離（481・482）や、石鏃の形を明らかに意識した剥離（484）が読み取れる。

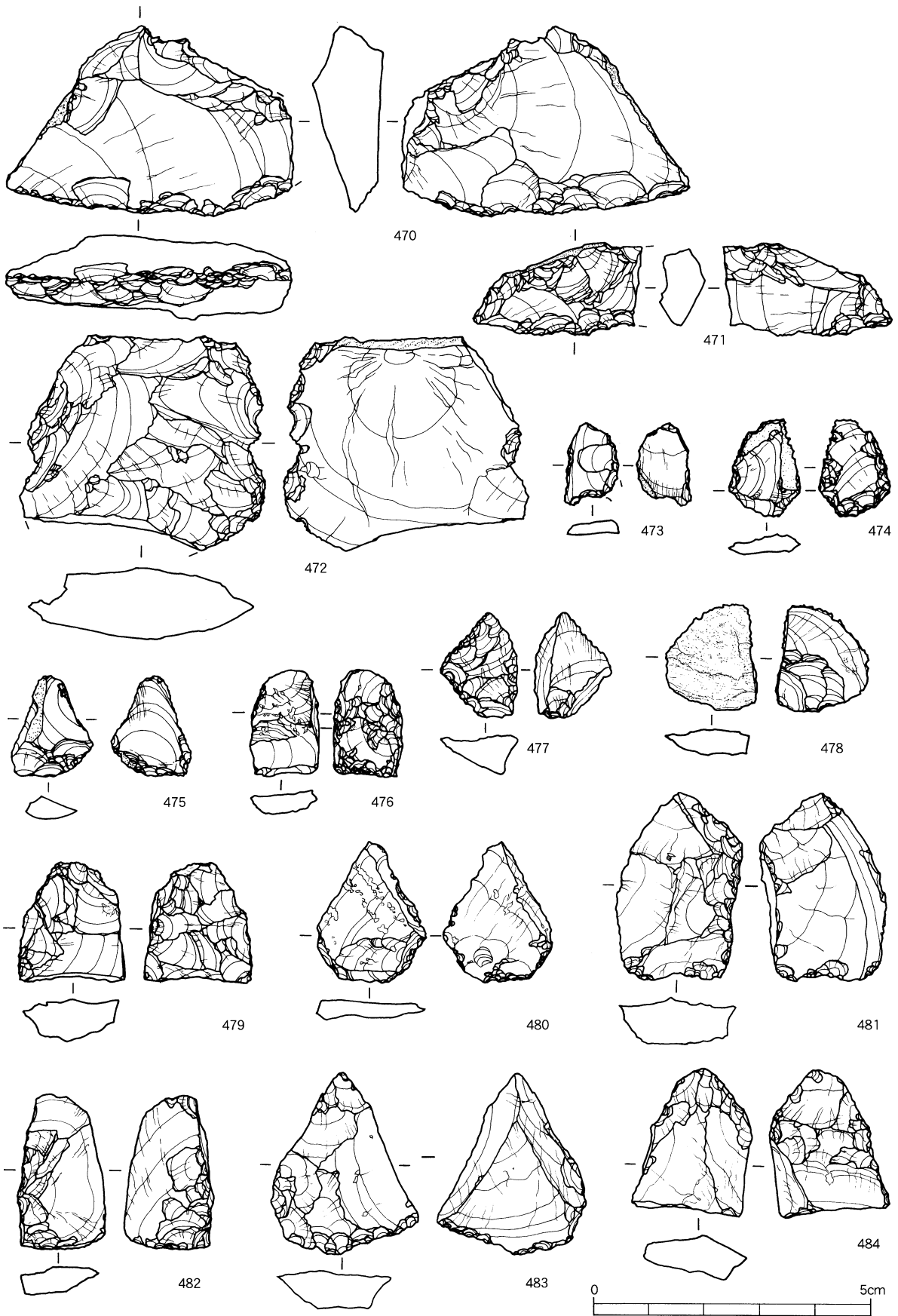
## 剥片

多量の剥片が出土したが、ここでは6点を図化した。485～489は腰岳産黒曜石を使用したものである。485は縦長剥片であり、背面も同一方向の剥離が行われている。打面は平坦な自然礫皮面である。486も平坦な自然礫皮面が打面であるが、背面は横方向であり、打面転移を行いながらの石核であるのがわかる。487は横長剥片、488は縦長剥片である。489の背面は下方向からの剥離があり、石核は上下両方からの剥離を実施していると考えられる。490はサヌカイトの薄い剥片であり、片側縁辺には使用痕が認められる。

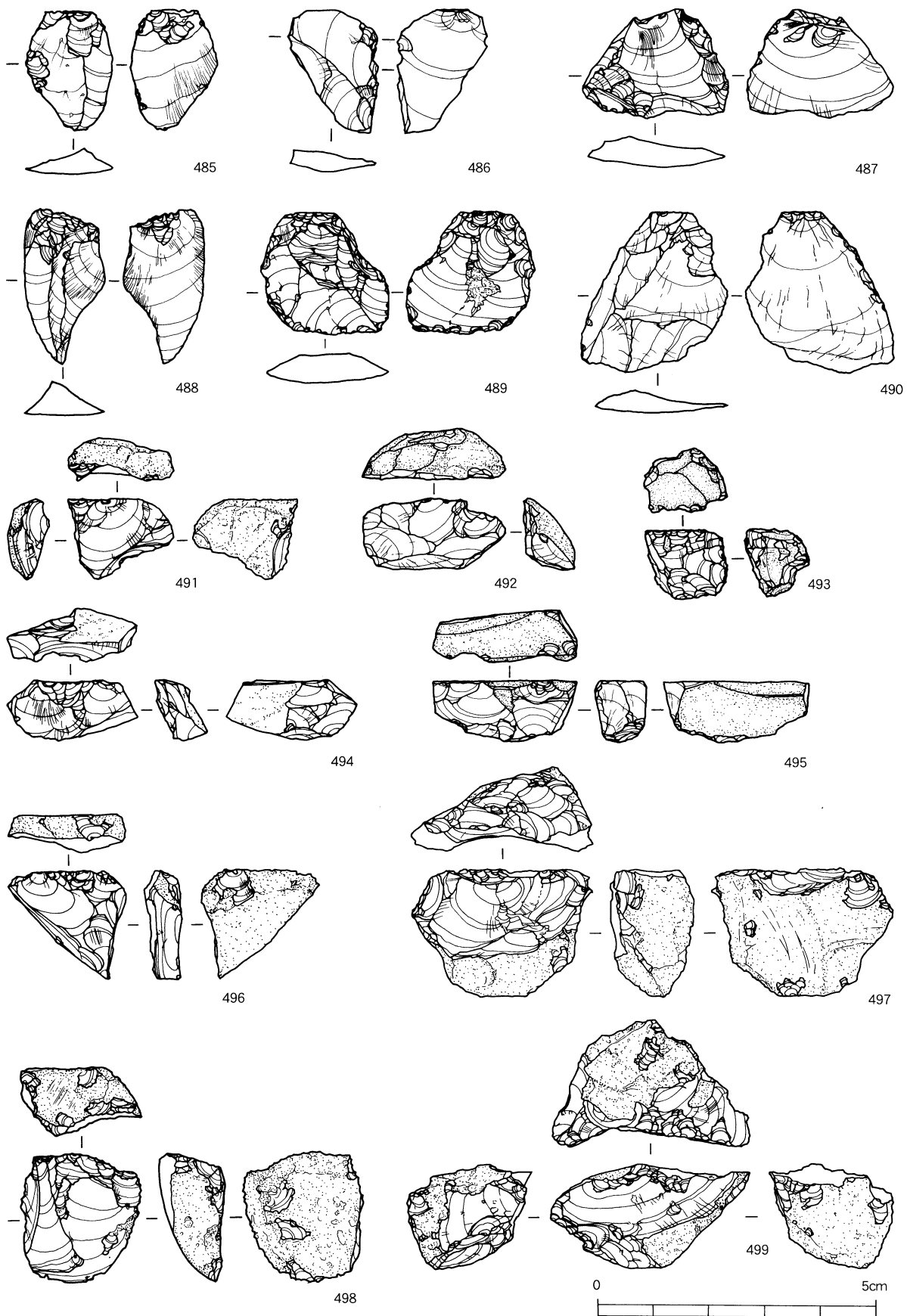
これらの剥片は、その大きさから石鏃のための目的剥片と考えられ、石鏃製作を実施していたことが理解される。



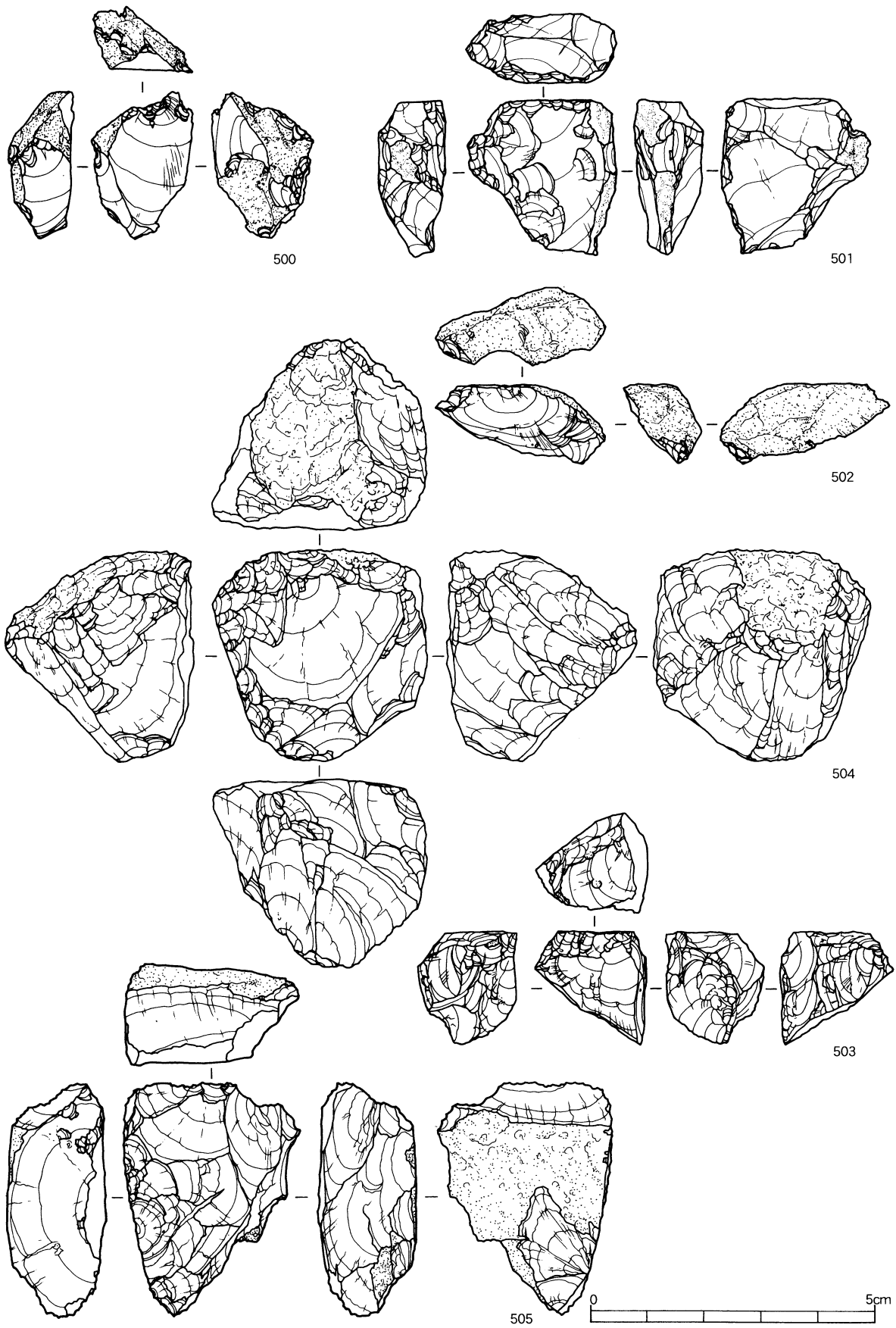
第41図 縄文時代晩期石器 (3)



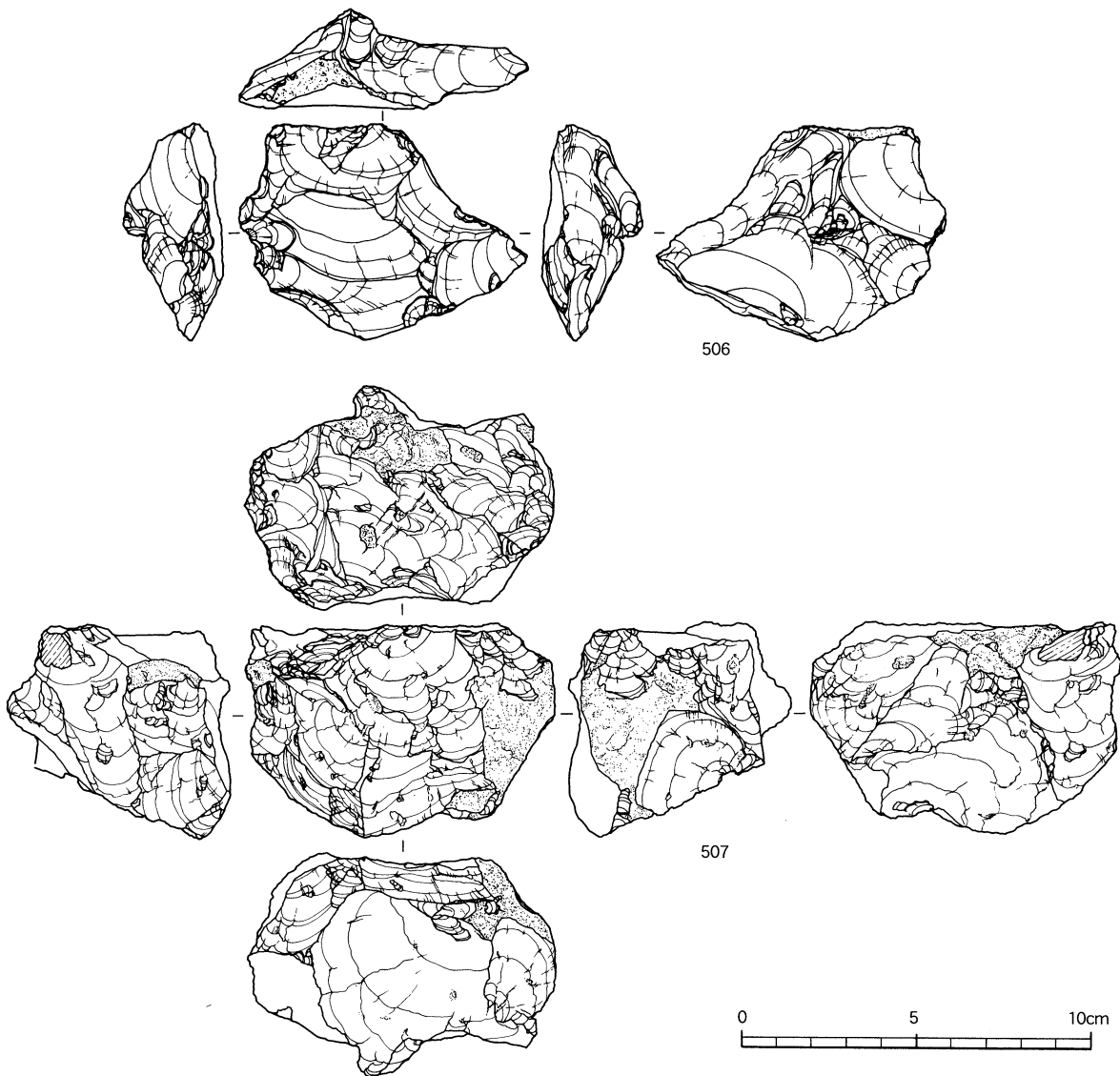
第42図 縄文時代晩期石器（4）



第43図 縄文時代晩期石器 (5)



第44図 縄文時代晩期石器（6）



第45図 縄文時代晩期石器（7）

### 石核

計16点出土している。黒曜石類や安山岩系のほかギョクズイ質のものも認められる。

491・493は角礫を使用したものであり、打面は平坦な礫皮面をそのまま利用している。492は円礫を利用し、打面は同様に礫皮面である。494は打面に平坦な分割面を、495・496は平坦な礫皮面を使用しており、いずれも打面調整は認められない。497の剥離のある打面は作業面を利用したものであり、打面調整ではない。498は同一の打面から連続して剥離したもので、499は不定形礫製のため複数の打面をもつ。500も角礫を用い回転しながら剥いでいる。501はギョクズイの平坦な剥離面を打面にして作業を行い、その後、次の剥離のためか左側面から作業面を平坦化している。

502は円礫の礫皮面を打面にして横長に近い形の剥片を剥いでいる。ほぼ最終段階と推定される。

503は上牛鼻産黒曜石の平坦な剥離面を打面にしてている。504はギョクズイ質の礫を使用したものであり、打面を回転しながら剥離作業を行っている。実測図の正面図の左縁辺は、敲打状の整形があり、次の作業の準備と推定される。505は図の上部の打面と左側面の打面から剥離を行っ

ている。打面は大きな剥離面かあるいは分割面であり平坦である。506は厚手の大型剥片を利用したものと考えられ、裏面の大きな剥離面を打面にして、周縁方向からの剥離を行っている。

#### **磨製石斧**

508は基部のみの欠損品であり、表裏両面は丁寧な研磨が施され、周縁は入念な敲打調整が行われている。頁岩製である。

#### **打製石斧**

いわゆる土掘具であり、17点出土している。509・510は基部の部分であり、510は着柄のための両側縁の整形が顕著に行われている。511・512は短冊型を呈する完全品であり、裏面に表皮が残る剥片を使用し、粗い整形剥離により仕上げている。素材は横長剥片である。513は表裏の一部分及び両側縁に研磨痕が観察され、土掘具でない可能性も考えられる。514及び524は中間部のみの欠損品である。515～523は基部を欠損する先端部のみである。いずれも横長剥片を素材として利用し、粗い整形加工が施されている。形態はほぼ短冊型である。525は頁岩を使用したもので、表面には研磨痕が観察される。刃部は丸みをもつ。

#### **横刃形石器**

526は横長剥片を使用し、比較的粗い剥離により半月状に整形したものであり、直線状の基部は敲打調整を施している。弧状の刃部は使用のため破損している部分もある。527も横長剥片を利用し、鋭い縁辺をそのまま刃部としている。基部は細かい剥離で調整し、刃部には刃こぼれが認められる。528は表皮のついた横長剥片を使用し、裏面側縁部に整形剥離が施されている。刃部は使用痕が顕著である。

#### **円盤形石器**

529は砂岩の偏平礫を使用したものであり、周縁には全体的に粗い加工が認められる。剥離によるものではなく敲打によるものと考えられる。

#### **大型剥片石器**

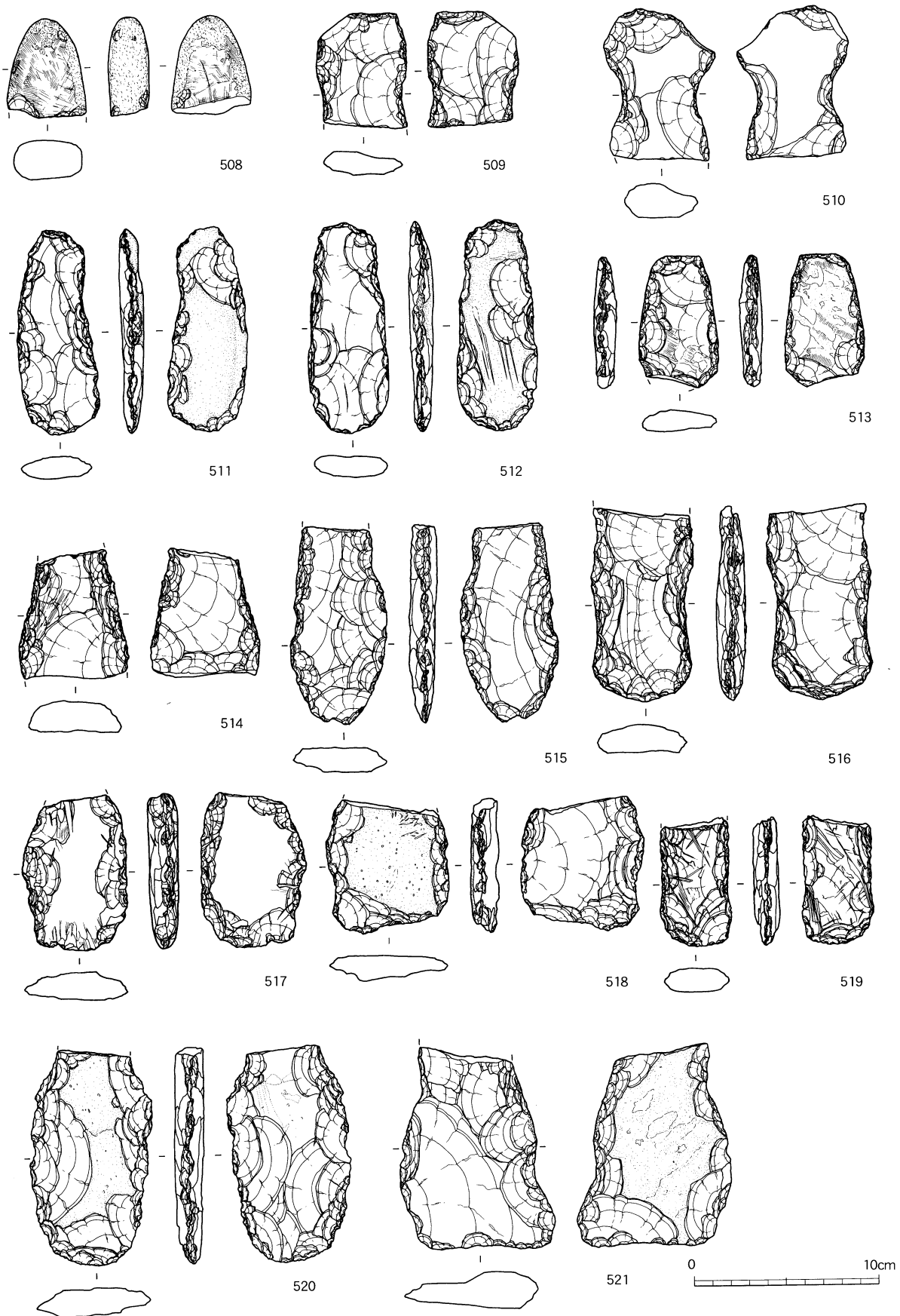
厚みのある剥片が使用されていることより礫器と区別したが、技術的に類似するものと思われる。530は長軸の一端に粗い剥離の後、細かい加工により付刃したものである。531は片側側縁に粗い剥離が施され刃部となっている。532も粗い剥離により刃部が形成されている。

#### **礫器**

大型の偏平礫を素材とし、粗い加工により刃部が形成されているものである。533は基部の除く縁辺全体に粗い加工であるが、比較的入念に施されているものである。535は先端部分のみ加工を施している。536は粗い加工により弧状の刃部を形成したものであり、表裏に部分的に擦痕が観察される。

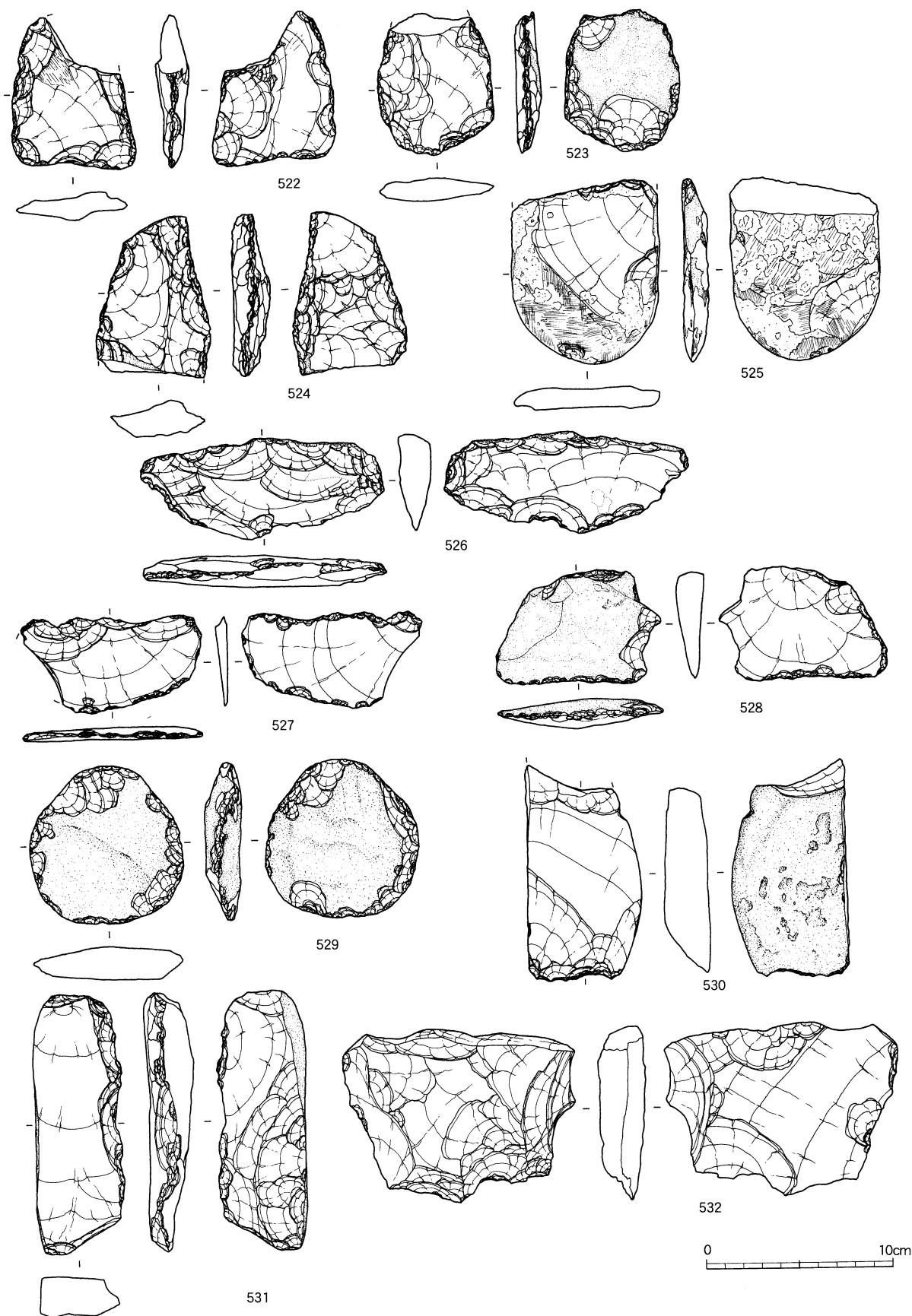
#### **磨石・敲石類**

538はかなり大型の磨石であるが、部分的に破損している。表裏両面とも磨面があり、周縁も磨られた痕跡が認められる。539も半損品であるが、周縁部には著しい敲打痕があり表面には磨られた痕があるだけでなく、中央部の浅く凹んだ部分には擦痕が認められることより、砥石として転用された可能性も考えられる。540は全面使用されたものと思われる。541は平坦面の中央部に敲打痕が集中した凹部が認められるもので、いわゆる凹石である。裏面は破損しているもの

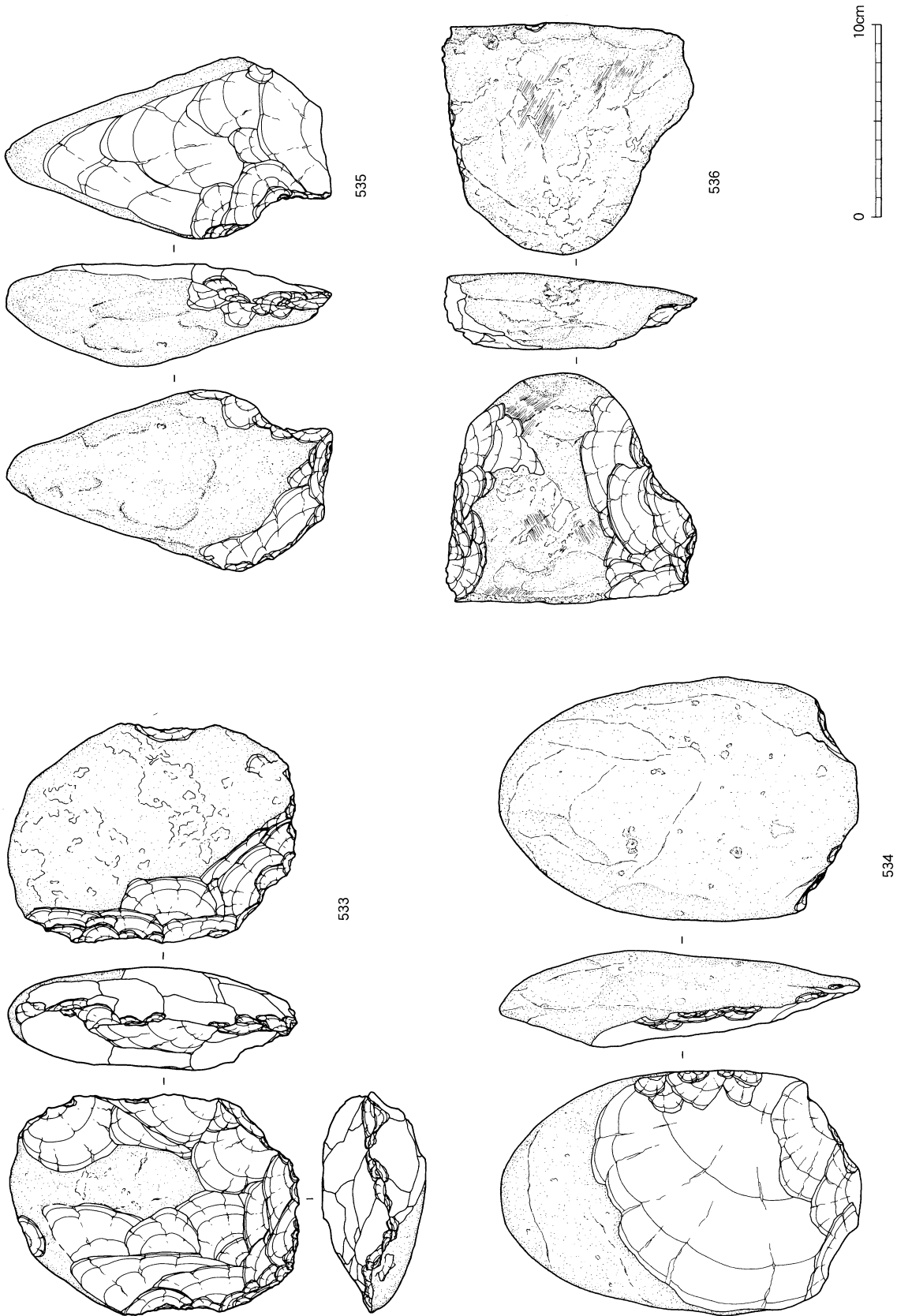


第46図 縄文時代晩期石器（8）

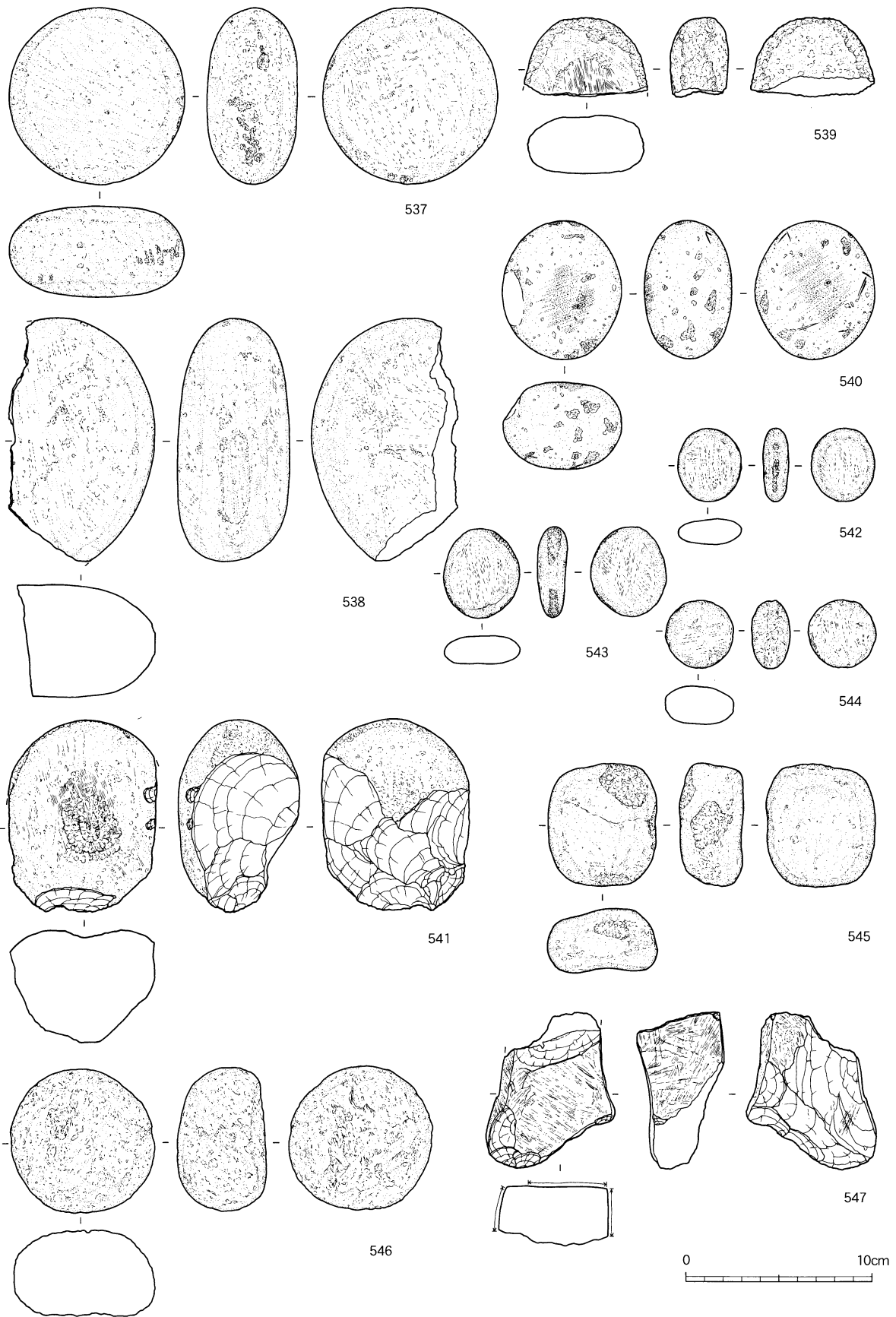




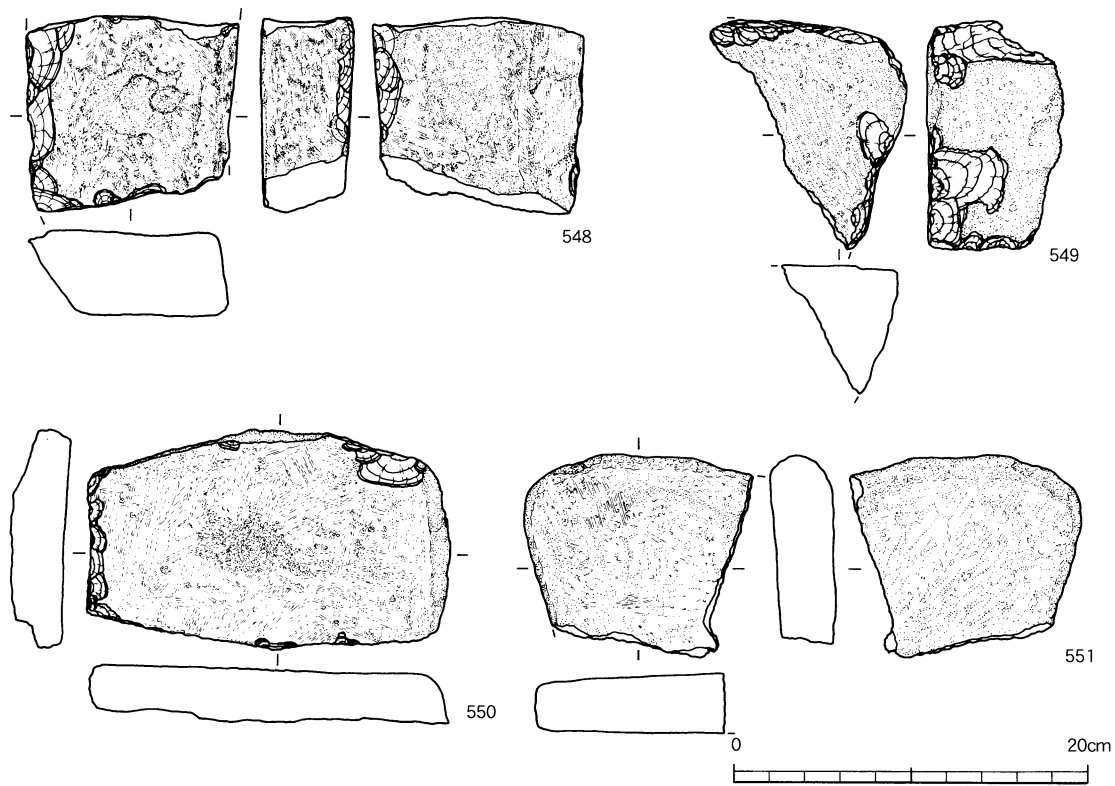
第47図 縄文時代晩期石器（9）



第48図 縄文時代晩期石器 (10)



第49図 縄文時代晩期石器 (11)



第50図 縄文時代晩期石器 (12)

の、中央には同様に敲打による凹みの一部が残存している。

542～544はかなり小型のものである。542は砂岩製の偏平円礫が使用されたものであり、表裏両面に磨面が認められる。543も砂岩製であり、同様に磨面があるのみでなく、周縁部には細かい敲打痕が観察される。544は安山岩製のもので、表裏両面の磨面及び周縁の細かい敲打が顕著であり、使用のため変形している。

545は安山岩製であり、部分的に敲打が認められるもので敲石と考えられる。

#### 軽石製品

546は軽石製のものであり、人為的に形を整えたものと判断される。裏面は平坦にされている。

#### 砥石

石材及び形態は現在の砥石と同様のものであり、これは縄文時代のものではなく、古代～中世の時期の金属用のものと判断される。

#### 石皿

548・549は欠損品であるが、磨面には敲打痕が多く観察される。550は滑らかな磨面の中央に細かい敲打痕が認められる。なお、図化していないが、安山岩製の長さ15cm程度の石皿片も出土している。550と同様磨面に敲打痕が認められる。

第16表 計志加里遺跡出土石器計測表(1)

挿図 番号	番号	器 種	出土区・層	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	注記 番号	備考
8	41	石匙	24.5Ⅲ	チャート	2.8	4.5	0.8	6.97	5028	
	42	スクレイパー	24.5Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	1.6	0.9	0.4	0.43	5067	
	43	石錐	K24Ⅲ	ギョクズイ	4.2	1.8	1.6	10.99	4743	
	44	石核	24.5Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	2.1	3.0	2.9	20.37	5064	
	45	石核	24.5Ⅲ	黒曜石	2.75	3.65	3.7	41.03	4933	
	46	石核	K25Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	2.8	4.9	2.7	35.77	4772	
39	404	石鏃	18Ⅲ	たんばく石	1.6	1.4	0.35	0.52	7718	
	405	石鏃	9ES	サヌカイト	1.55	1.15	0.3	0.55	3206	
	406	石鏃	8ⅠB	サヌカイト	1.5	1.6	0.3	0.62	830	
	407	石鏃	7Ⅲ	サヌカイト	1.7	1.6	0.3	0.58	1315	
	408	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	1.15	1.4	0.3	0.57	4495	
	409	石鏃	6Ⅲ下	サヌカイト	1.3	1.3	0.4	0.58	2020	
	410	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	1.5	1.9	0.35	0.72	4177	
	411	石鏃	8Ⅲ上	サヌカイト	2.0	1.5	0.35	0.92	4738	
	412	石鏃	7Ⅲ	黒曜石(嬉野・松尾)	1.8	1.3	0.3	0.72	1442	
	413	石鏃	6Ⅲ下	黒曜石(嬉野・松尾)	2.0	1.6	0.3	0.79	1971	
	414	石鏃	7Ⅲ	サヌカイト	2.0	1.5	0.3	0.71	1062	
	415	石鏃	6Ⅲ下	黒曜石(嬉野・松尾)	2.1	1.6	0.45	1.51	1935	
	416	石鏃	7Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.9	1.4	0.35	0.62	3593	
	417	石鏃	6Ⅲ下	黒曜石(淀姫)	2.0	1.8	0.3	0.73	2021	
	418	石鏃	9ES	サヌカイト	2.0	1.8	0.3	0.86	3148	
	419	石鏃	15Ⅲ	黒曜石(嬉野・松尾)	2.0	2.0	0.3	0.82	5340	
	420	石鏃	8ⅠB	黒曜石(嬉野・松尾)	2.6	1.8	0.5	1.62	710	
	421	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	2.25	1.8	0.4	0.79	4191	
	422	石鏃	9ES	黒曜石(嬉野・松尾)	2.3	1.65	0.3	0.97	3287	
	423	石鏃	9表土	黒曜石(嬉野・松尾)	1.6	2.2	0.35	1.11		
	424	石鏃	6Ⅲ	安山岩	2.6	1.6	0.3	1.40	1186	
	425	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	2.5	2.1	0.3	1.25	4503	
	426	石鏃	4Ⅲ	サヌカイト	2.45	1.65	0.5	1.38	586	
	427	石鏃	6Ⅲ下	黒曜石(嬉野・松尾)	2.2	2.0	0.3	0.95	1961	
	428	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	2.2	1.9	0.4	1.27	2587	
	429	石鏃	39TⅢ	サヌカイト	2.5	1.85	0.5	1.91	220	
	430	石鏃	8Ⅲ下	黒曜石(嬉野・松尾)	2.45	2.3	0.6	2.92	4635	
	431	石鏃	6Ⅲ	安山岩	2.6	1.8	0.4	1.63	1190	
	432	石鏃	6Ⅲ	安山岩	3.0	2.35	0.4	1.86	1211	
	433	石鏃	6Ⅲ	黒曜石(嬉野・松尾)	2.5	2.4	0.5	2.65	1219	
40	434	石鏃	6Ⅲ	サヌカイト	3.1	2.4	0.65	3.50	1110	
	435	石鏃	9ES	黒曜石(嬉野・松尾)	2.8	1.85	0.3	1.19	3261	
	436	石鏃	9ES	黒曜石(嬉野・松尾)	2.0	1.7	0.3	0.81	2657	
	437	石鏃	7Ⅲ	黒曜石(腰岳)	2.6	1.2	0.3	0.70	1304	
	438	石鏃	34TⅣ	サヌカイト	3.2	1.8	0.4	1.60	31	
	439	石鏃	7Ⅲ	黒曜石(淀姫)	3.05	2.0	0.4	1.71	2180	
	440	石鏃	16Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.45	1.2	0.3	0.52	6524	
	441	石鏃	9土坑1	黒曜石(淀姫)	1.6	1.15	0.3	0.29	4890	
	442	石鏃	18SD9	黒曜石(腰岳)	1.45	1.3	0.3	0.53	8622	
	443	石鏃	9Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	1.5	1.2	0.3	0.53	2817	
	444	石鏃	3Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.5	1.1	0.25	0.31	588	
	445	磨製石鏃	10Ⅲ	頁岩	2.75	2.15	0.25	1.75	7972	
	446	磨製石鏃	18Ⅲ	頁岩	2.7	1.9	0.3	1.48	8457	
	447	磨製石鏃	18古道	頁岩	2.9	1.7	0.25	1.31	8200	
	448	石錐	8古道埋土	黒曜石(嬉野・松尾)	1.9	0.95	0.45	0.63	2377	
	449	石錐	8Ⅲ下	黒曜石(嬉野・松尾)	3.0	1.35	0.8	2.86	3664	

第17表 計志加里遺跡出土石器計測表(2)

挿図 番号	番号	器 種	出土区・層	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	注記 番号	備考
40	450	石鏃	6Ⅲ下	サヌカイト	2.0	1.7	0.55	1.74	2078	
	451	石鏃	9ⅠB	サヌカイト	3.55	1.85	1.4	7.15	506	
	452	石鏃	9ES	サヌカイト	3.05	1.4	0.6	2.00	3173	
	453	石鏃	9ES	サヌカイト	3.1	1.35	1.15	3.14	3126	
41	454	楔形石器	8Ⅲ下	チャート	1.8	2.05	0.5	1.69	3708	
	455	楔形石器	9Ⅲ下	黒曜石(嬉野・松尾)	2.9	1.85	0.9	3.45	4543	
	456	楔形石器	8Ⅲ下	黒曜石(嬉野・松尾)	3.2	1.65	0.95	5.11	4576	
	457	異形石器	6Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	3.8	1.0	0.7	1.72	2071	
	458	異形石器	8Ⅲ	サヌカイト	2.5	0.9	0.5	1.07	3617	
	459	スクレイパー	9ES	黒曜石(嬉野・松尾)	2.55	1.3	0.7	1.82	3182	
	460	スクレイパー	6Ⅲ	サヌカイト	2.0	3.0	0.8	3.58	1168	
	461	スクレイパー	9Ⅲ	黒曜石(腰岳)	3.1	1.45	1.0	3.36	983	
	462	スクレイパー	8Ⅲ	黒曜石(嬉野・松尾)	2.2	4.9	1.4	8.75	4778	
	463	スクレイパー	9Ⅲ下	黒曜石(嬉野・松尾)	3.2	2.9	0.6	3.68	4037	
	464	スクレイパー	8ⅠB	黒曜石(腰岳)	3.2	2.25	0.6	3.79	667	
	465	スクレイパー	8ⅠB	チャート	3.5	1.75	0.85	4.67	550	
	466	スクレイパー	8Ⅲ下	サヌカイト	3.7	2.85	1.25	12.98	3677	
	467	スクレイパー	8Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	2.0	2.7	1.1	5.24	3781	
	468	スクレイパー	9ⅠB	黒曜石(腰岳)	3.1	2.6	0.9	7.00	395	
	469	スクレイパー	24.5Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	3.8	3.95	1.25	15.83	4955	
42	470	スクレイパー	9ⅠB	サヌカイト	4.35	6.5	1.6	48.14	509	
	471	スクレイパー	8Ⅲ	サヌカイト	4.8	5.1	1.65	46.86	4798	
	472	スクレイパー	9Ⅲ下	サヌカイト	2.1	3.8	1.0	8.48	4196	
	473	石鏃未製品	6Ⅲ	サヌカイト	1.9	1.25	0.3	0.65	1163	
	474	石鏃未製品	9ⅠB	黒曜石(腰岳)	2.2	1.6	0.5	1.29	383	
	475	石鏃未製品	8Ⅲ	黒曜石(腰岳)	2.3	1.85	0.7	1.85	2939	
	476	石鏃未製品	6Ⅲ	黒曜石(腰岳)	2.4	1.55	0.55	1.87	1116	
	477	石鏃未製品	9Ⅲ	黒曜石(腰岳)	2.35	1.75	0.9	2.21	1671	
	478	石鏃未製品	6Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	2.4	2.1	0.6	2.52	1982	
	479	石鏃未製品	9Ⅲ下	黒曜石(嬉野・松尾)	2.7	2.45	0.95	6.27	2782	
	480	石鏃未製品	7Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	3.2	2.45	0.6	3.28	2439	
	481	石鏃未製品	6Ⅲ下	サヌカイト	4.2	2.85	1.1	13.57	2090	
	482	石鏃未製品	8Ⅲ下	サヌカイト	3.5	2.0	1.1	6.42	3677	
	483	石鏃未製品	9Ⅲ	サヌカイト	4.05	3.3	0.9	8.96	1629	
484	石鏃未製品	8Ⅲ下	サヌカイト	3.3	2.7	1.0	8.01	4631		
43	485	フレイク	9Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	2.7	1.95	0.6	1.96	4091	
	486	フレイク	9ⅠB	黒曜石(腰岳)	2.7	2.0	0.5	1.90	533	
	487	フレイク	9Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	2.45	3.3	0.9	4.74	4491	
	488	フレイク	9Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	3.45	1.8	0.8	3.12	2787	
	489	フレイク	14Ⅲ	黒曜石(腰岳)	2.8	2.9	0.9	6.79	5931	
	490	UF	39TⅢ	サヌカイト	3.6	3.3	0.5	5.01	276	
	491	石核	6Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	1.8	2.4	1.0	3.06	1972	
	492	石核	6Ⅲ	黒曜石(KK2)	1.6	3.2	1.2	5.17	1089	
	493	石核	6Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	1.55	1.85	1.4	3.73	2074	
	494	石核	39TⅢ	黒曜石(腰岳)	1.35	2.95	1.2	2.91	281	
	495	石核	8Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	1.4	3.25	1.2	5.62	3730	
	496	石核	9Ⅲ下	黒曜石(腰岳)	2.45	2.7	0.9	4.40	4525	
	497	石核	6Ⅲ	黒曜石(腰岳)	2.8	4.1	1.9	17.69	983	
	498	石核	7Ⅲ	黒曜石(腰岳)	2.9	2.7	1.5	11.11	1420	
	499	石核	9ⅠB	黒曜石(腰岳)	2.3	4.4	2.8	17.75	524	
44	500	石核	6Ⅲ	黒曜石(腰岳)	3.2	2.25	1.5	7.03	1232	
	501	石核	9Ⅲ下	ギョクズイ	3.45	3.35	1.5	17.34	2767	

第18表 計志加里遺跡出土石器計測表(3)

挿図 番号	番号	器 種	出土区・層	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	注記 番号	備考
44	502	石核	7Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.75	3.8	1.7	6.69	2135	
	503	石核	8Ⅲ下	黒曜石(上牛鼻)	2.5	2.5	2.2	11.74	3710	
	504	石核	19Ⅲ	ギョクズイ	4.6	4.75	4.2	85.58	7435	
	505	石核	7Ⅲ	サヌカイト	5.1	3.9	2.2	47.43	1334	
45	506	石核	8Ⅲ下	サヌカイト	6.15	8.25	2.9	83.26	3795	
	507	石核	24.5Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	6.1	8.85	6.4	350.0	4931	
46	508	磨製石斧	7ⅠB	ホルンフェルス	5.3	4.3	2.2	80.27	1463	
	509	打製石斧	8Ⅲ	安山岩	6.2	4.85	1.3	58.82	2976	
	510	打製石斧	16Ⅲ	頁岩	8.3	6.0	1.8	107.76	6487	
	511	打製石斧	6Ⅲ下	頁岩	11.0	4.4	1.3	70.12	2022	
	512	打製石斧	6Ⅲ下	頁岩	11.35	4.3	1.3	81.56	2089	
	513	打製石斧	6Ⅲ	砂岩	7.1	4.25	1.2	51.08	1123	
	514	打製石斧	7Ⅲ下	頁岩	6.95	5.9	1.7	86.36	2422	
	515	打製石斧	9Ⅲ	頁岩	10.7	5.25	1.6	98.29	4291	
	516	打製石斧	8Ⅲ	頁岩	10.5	5.55	1.6	113.47	2955	
	517	打製石斧	9ⅠB	安山岩	8.4	5.65	1.6	105.12	469	
	518	打製石斧	8Ⅲ	安山岩	7.25	6.6	1.5	87.27	3002	
	519	打製石斧	9ⅠB	頁岩	6.9	3.8	1.4	51.93	487	
	520	打製石斧	8ⅠB	安山岩	11.7	6.6	1.6	162.99	712	
	521	打製石斧	9Ⅲ	ホルンフェルス	10.95	8.4	2.0	208.13	4849	
47	522	打製石斧	6Ⅲ下	頁岩	8.2	6.6	1.75	74.80	1999	
	523	打製石斧	7Ⅲ	頁岩	7.6	6.2	1.4	72.22	2145	
	524	打製石斧	8Ⅲ下	凝灰岩	8.7	6.05	2.05	86.95	3723	
	525	打製石斧	14Ⅲ	頁岩	9.85	7.95	1.4	145.80	6414	
	526	横刃型石器	8Ⅲ	凝灰岩	5.4	13.1	1.7	123.23	2890	
	527	横刃型石器	9Ⅲ下	頁岩	5.1	9.7	0.6	33.28	2797	
	528	横刃型石器	9Ⅲ	ホルンフェルス	6.1	8.9	1.5	83.75	1779	
	529	円盤形石器	7Ⅲ	砂岩	8.5	8.2	2.0	157.16	2292	
	530	大型剥片石器	6Ⅲ	頁岩	11.65	6.2	2.4	262.0	5146	
	531	大型剥片石器	6Ⅲ下	頁岩	13.9	4.8	2.65	222.0	2101	
	532	大型剥片石器	7Ⅲ	凝灰岩	9.3	12.5	2.6	330.0	995	
48	533	礫器	14Ⅲ	頁岩	14.9	11.4	5.3	1010.0	6429	
	534	礫器	K24Ⅲ	安山岩	18.6	12.65	5.0	1250.0	4744	
	535	礫器	3Ⅱ	ホルンフェルス	16.9	9.4	5.35	770.0	221	
	536	礫器	6Ⅲ下	頁岩	13.0	12.0	3.95	735.0	2055	
49	537	磨石類	24.5Ⅲ	安山岩	9.5	9.4	4.9	668.0	4957	
	538	磨石類	8Ⅲ下	安山岩	13.0	7.85	6.0	902.0	3898	
	539	磨石類	14Ⅲ	安山岩	4.2	6.7	3.1	110.92	5906	
	540	磨石類	16Ⅲ	安山岩	7.45	6.4	4.7	320.0	6335	
	541	磨石類	14溝内Ⅰ	安山岩	10.3	8.0	6.5	678.0	5995	
	542	磨石類	9Ⅲ	砂岩	3.9	3.4	1.35	26.68	4332	
	543	磨石類	7Ⅲ下	砂岩	4.8	4.1	1.6	44.35	3429	
	544	磨石類	8ⅠB	安山岩	3.6	3.6	2.0	36.90	715	
	545	磨石類	8Ⅲ	安山岩	6.6	5.8	3.4	209.40	1086	
	546	軽石製品	9ES	軽石	7.7	7.7	4.8	75.77	3114	
	547	砥石	16		8.4	6.9	4.65	183.27	6594	
50	548	石皿	16Ⅲ	砂岩	10.9	12.0	5.3	1070.0	6119	
	549	石皿	8Ⅲ下	安山岩	12.8	10.9	7.5	700.0	4598	
	550	石皿	18Ⅲ	安山岩	20.3	12.2	3.3	1250.0	8797	
	551	石皿	9Ⅲ下	安山岩	11.3	12.85	3.6	770.00	4143	

## 第Ⅵ章 弥生時代～古墳時代の遺物

弥生時代から古墳時代の土器の出土分布は調査区域全体に散布した状況であり、一ヶ所に集中した様子は認められなかった。

当概期のものと判断される遺構は確認されていないが、Ⅲa層を中心に土器がいくつか出土し、そのうち24点を図示した。

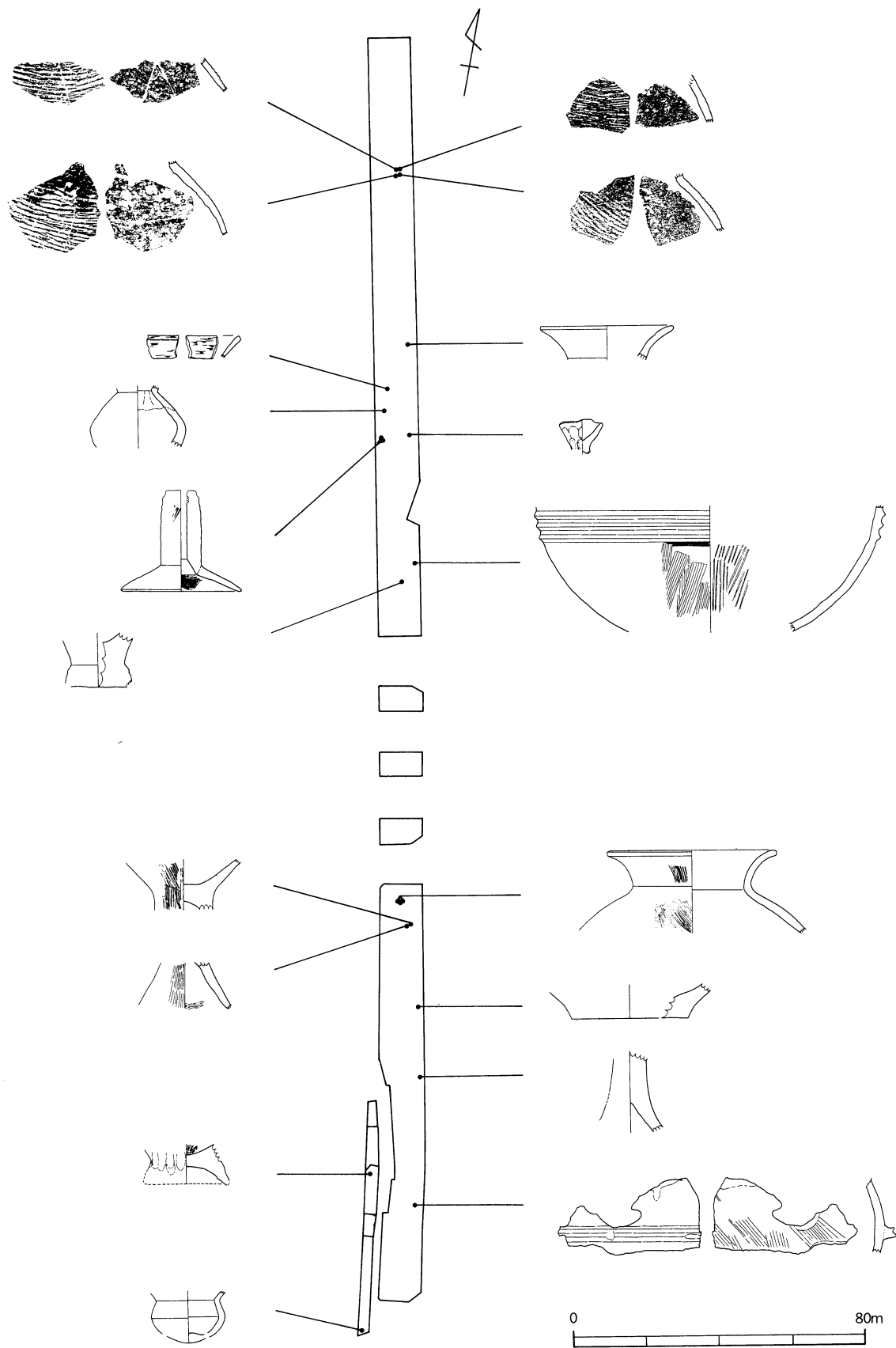
### 出土土器

552～555は断面がM字形の突帯をもつ須玖式土器である。552・553は同一固体の可能性があり、突帯より上部には丹彩が施されている。553・555には裏面に粗いハケメが施されている。556は広口壺の口縁部である。表面には丹彩が施されている。557は甕の充実脚台である。弥生時代中期後半から後期前半のものと考えられる。558は補修孔のある土器である。559・560は壺形土器の口縁部である。559は口縁から頸部にかけて「く」の字状にくびれるもので、縦方向にハケメが施されている。弥生時代中期後半から後期初頭のものと考えられる。560は口縁から頸部にかけてゆるやかに内反するもので、弥生時代終末期ごろと考えられる。561は壺形土器の下胴部である。断面三角形の突帯を3条もち、表面には斜め方向のハケメを、裏面には斜め方向に粗いハケメを施している。562は壺形土器の底部と考えられる。563～565は埴である。563は口縁部で表面に丹彩がほどこされている。564は胴部がソロバンの玉のように張っている。565は口縁が外側に大きく開き、丸底を呈している。566は手づくね土器である。製作時の指頭痕を顕著に残している。器形は脚台付甕である。567～569は脚台付甕の底部である。いずれも中空の脚台をもつ。567・569は表面の縦方向のハケメを施している。在地の成川式土器と考えられる。570・571は高杯の脚部である。570は裾部に向かって外反する。571は脚部が直線的なラインを呈し裾部に至っている。572～575は土師器の胴部である。いずれ表面にタタキ痕を残し、裏面には細かいハケメを施している。いずれも同一個体の可能性が高い。在地のものではなく肥後地方からの移入品の可能性がある。

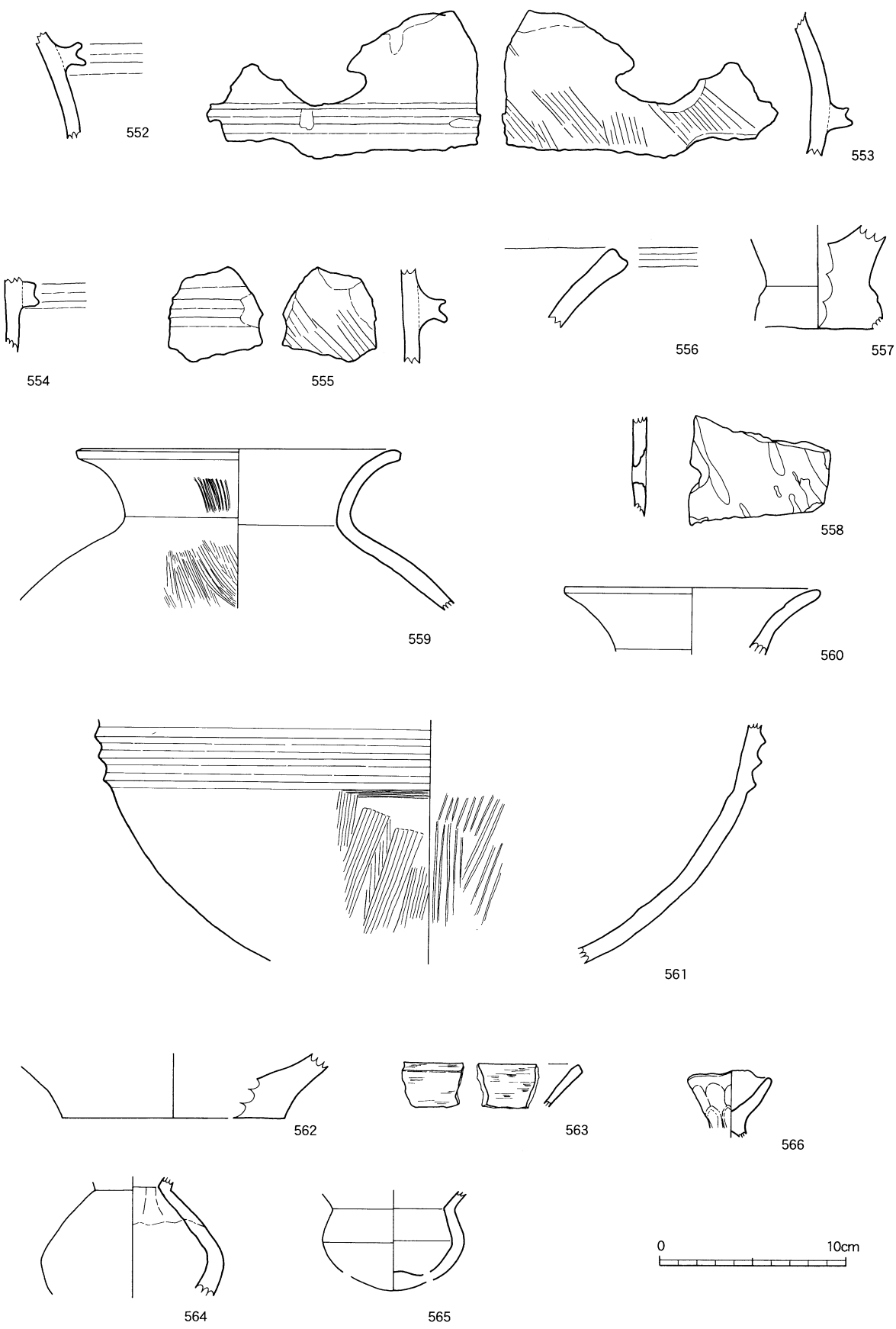
第19表 弥生～古墳時代遺物観察表(1)

挿図	図番号	区	層	器種	部位	外面調整	内面調整	胎土	外面色調	内面色調	備考
51	552	17	Ⅲ		胴部突帯	ヨコナデ		石英・長石	赤褐色	灰黄色	須玖式丹彩
51	553	17	Ⅲ		胴部突帯	ヨコナデ	ハケメ	石英・長石	赤褐色	灰黄色	須玖式丹彩
51	554	17	Ⅲ		胴部突帯	ヨコナデ		石英・長石	黄橙色	黄灰色	須玖式
51	555	18	Ⅲ		胴部突帯	ヨコナデ	ハケメ	石英・長石	黄橙色	淡黄色	須玖式
51	556	18	溝16	壺	口縁			石英・長石	黄橙色	黄橙色	
51	557	39T	Ⅲ	甕	底部			石英・長石・角閃石	暗黄褐色	暗黄褐色	
51	558	18	Ⅲ		胴部			石英・長石・角閃石	明赤褐色	明赤褐色	補修孔
51	559	13	Ⅲ	壺	口縁	ハケメ		石英・長石・角閃石	黄橙色	黄灰色	
51	560	6	Ⅲ	壺	口縁	ヨコナデ		石英・長石・角閃石	明黄橙色	明黄橙色	
51	561	9	Ⅲ	壺	下胴部	ヨコナデ		石英・長石	黄橙色	黄橙色	

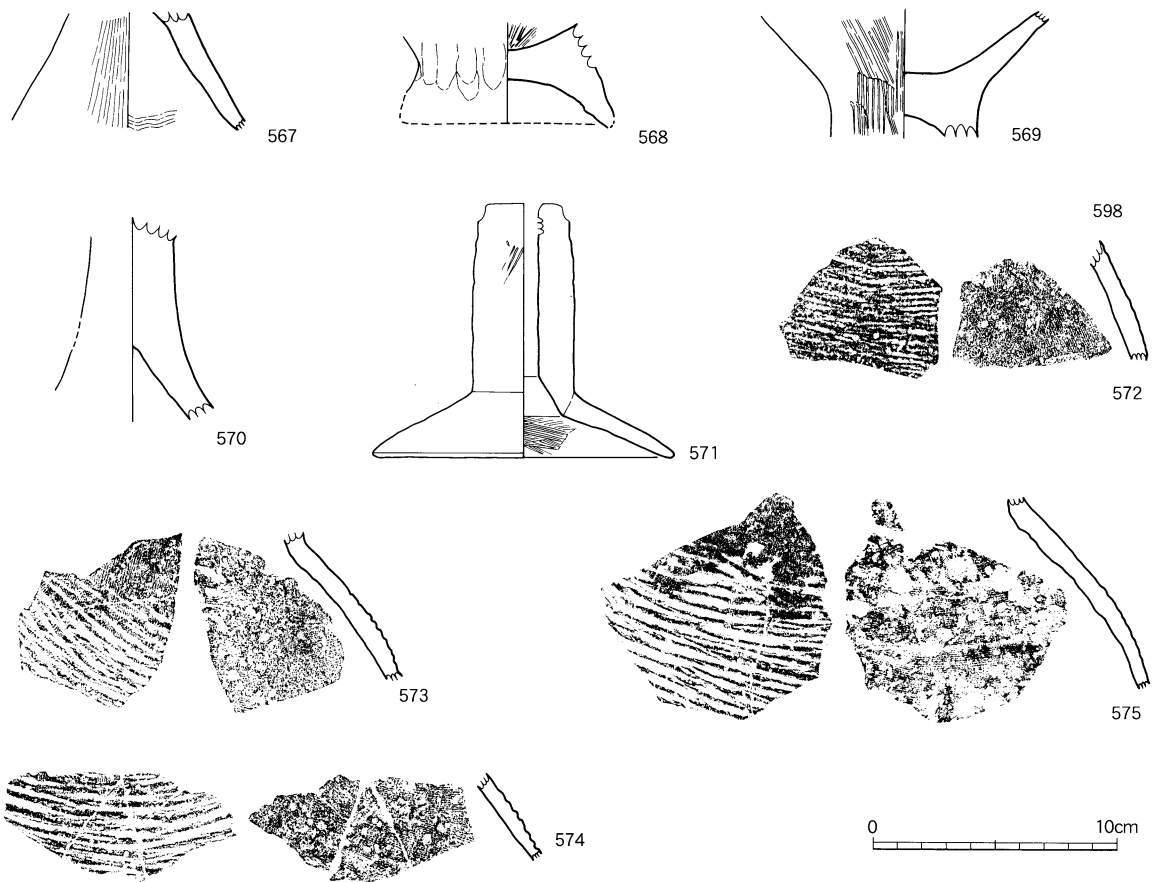




第51図 弥生~古墳土器分布図



第52図 弥生～古墳時代土器（1）



第53図 弥生～古墳時代土器（2）

第20表 弥生～古墳時代遺物観察表（2）

挿図	図番号	区	層	器種	部位	外面調整	内面調整	胎土	外面色調	内面色調	備考
51	562	15	Ⅲ	壺	底部	ハケメ		石英・長石・角閃石	黄橙色	黄橙色	
51	563	6	Ⅲ	埴	口縁			長石	赤色	暗黄橙色	丹彩
51	564	7	Ⅲ	埴	胴部			石英・砂礫	橙色	橙色	
51	565	19	Ⅲ	埴	胴部	ヨコナデ		砂礫	暗黄橙色	暗黄橙色	
51	566	7	Ⅲ	手づくね	完形			長石	黒褐色	黒褐色	
52	567	14	Ⅲ	甕	底部	ハケメ		石英	黄橙色	黄橙色	
52	568	17	Ⅲ	甕	底部			石英・角閃石	橙色	橙色	
52	569	14	Ⅲ	甕	下胴部	ハケメ		石英	橙色	橙色	
52	570	16	Ⅲ	高杯	脚部			角閃石	橙色	橙色	
52	571	7	Ⅲ	高杯	脚部		ハケメ		黄橙色	黄橙色	
52	572	3	Ⅲ	甕	胴部	タタキ	ハケメ	石英・長石	黄橙色	黒褐色	土師器
52	573	3	Ⅲ	甕	胴部	タタキ	ハケメ	石英・長石	黄橙色	黒褐色	土師器
52	574	3	Ⅲ	甕	胴部	タタキ	ハケメ	石英・長石	黄橙色	黒褐色	土師器
52	575	3	Ⅲ	甕	胴部	タタキ	ハケメ	石英・長石	黄橙色	黒褐色	土師器

## 第Ⅶ章 平安時代の遺構と遺物

### 第1節 検出遺構

Ⅲa層の下面から検出された遺構は、掘立柱建物跡、竪穴住居跡状遺構、円形周溝墓、土坑墓、各種の土坑などがあり、調査区域のほぼ全体に広がっていた。(第70図)

#### 1. 掘立柱建物跡

全体で7棟の掘立柱建物跡が検出されているが、調査区域の幅が細いため、一部分のみ確認されたものが多い。第1調査地点で近接して3棟、そして第2調査地点で4棟距離をおいて検出されている。

##### 1号掘立柱建物跡

6区の西側で検出されたが、調査区域外に広がるものであり、4個のピットからなる。柱間の距離から、主軸は略南北方向と思われる。各ピットの径は約25cm程度で深さは平均40cmを測る。このうち角にあたるP1には中に礫が認められた。ピットの埋土は暗黄褐色土であった。

##### 2号掘立柱建物跡

7区の東側で検出され、これも調査区域外に広がるものであるが、建物の規模は2間×3間と推定される。建物跡の主軸方向は1号と同一である。ピットの直径は30cm程度で深さは約40cmである。ピット2には柱痕跡も確認できた。ピットの埋土は1号と同様であった。

##### 3号掘立柱建物跡

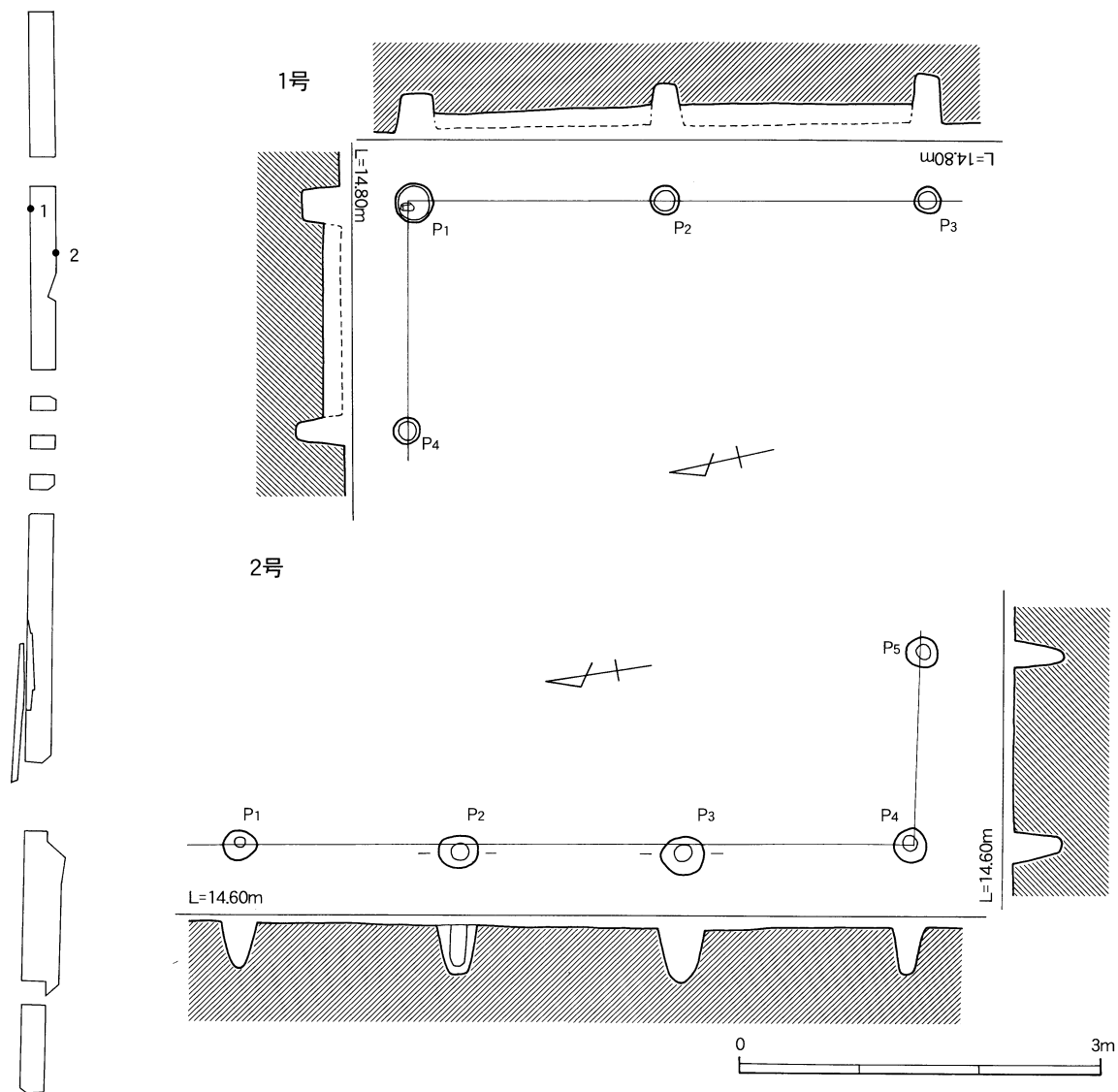
2号の西側に近接して検出された。2間×2間の大きさであり、梁行の北側に庇を有する。主軸は略北方向であるが、ほぼ平行する1号及び2号とは若干の違いがある。ピットの直径は1、2号より比較的小さく約20cm程度である。また、庇部のピットは径約10cmとかなり小さく、掘り込みとは考えられず、ピットの底が尖っていることより、柱は杭状に打ち込まれたものと判断される。この3号掘立柱建物跡のほぼ中央には焼土が認められているが、建物跡に付随するかどうかは明確ではなかった。また、ピットの埋土はⅡ層黒色土に極めて類似しており、1・2号掘立柱建物跡より時期的に新しいと思われる。ここでは平安時代として取り扱ったが、中世の所産である可能性が高いと推定される。

##### 4号掘立柱建物跡

14区で検出された。調査区域外に広がるものであり、建物跡の全体規模は明確ではない。梁行のピット間隔はほぼ一定であるが、桁行のピットの間隔はそうではない。ピットの直径は20～25cmであり、深さも50cmから20cm程度と一定ではない。第58図576はピット内から出土した土師甕の底部である。内面はヘラケズリが施されている。

##### 5号掘立柱建物跡

建物規模は2間×3間であり、主軸はほぼ東西方向である。P1の西側のピットは中世の時期の所産である溝状遺構11により切られていた。またその南側のピットは攪乱により消失していた。各ピットの直径は約40cmと比較的大きく、また深さも45～50cm程度と一定したものであり、ピットの掘り方は底面までほぼ直行するものであった。ピット7には径15cmほどの礫が認められ根石として利用されたものと思われる。



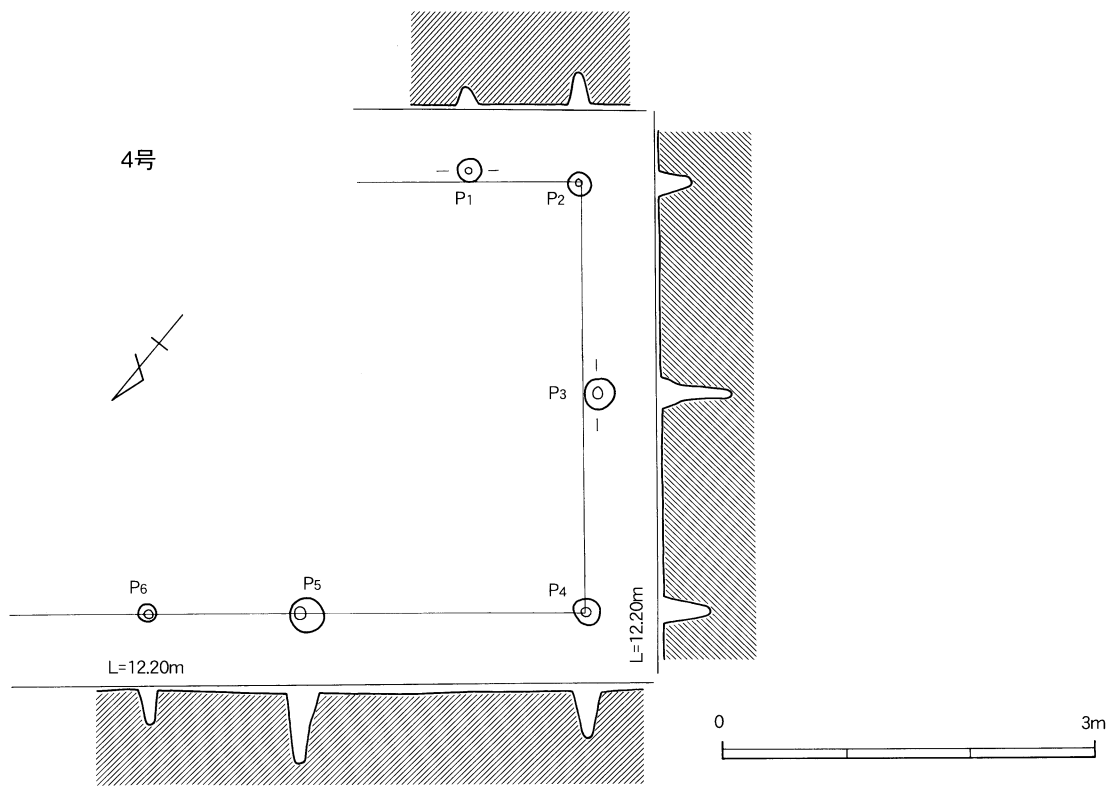
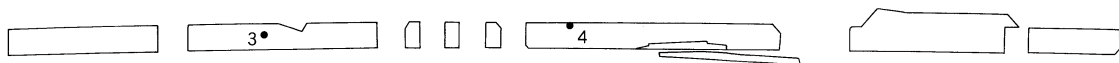
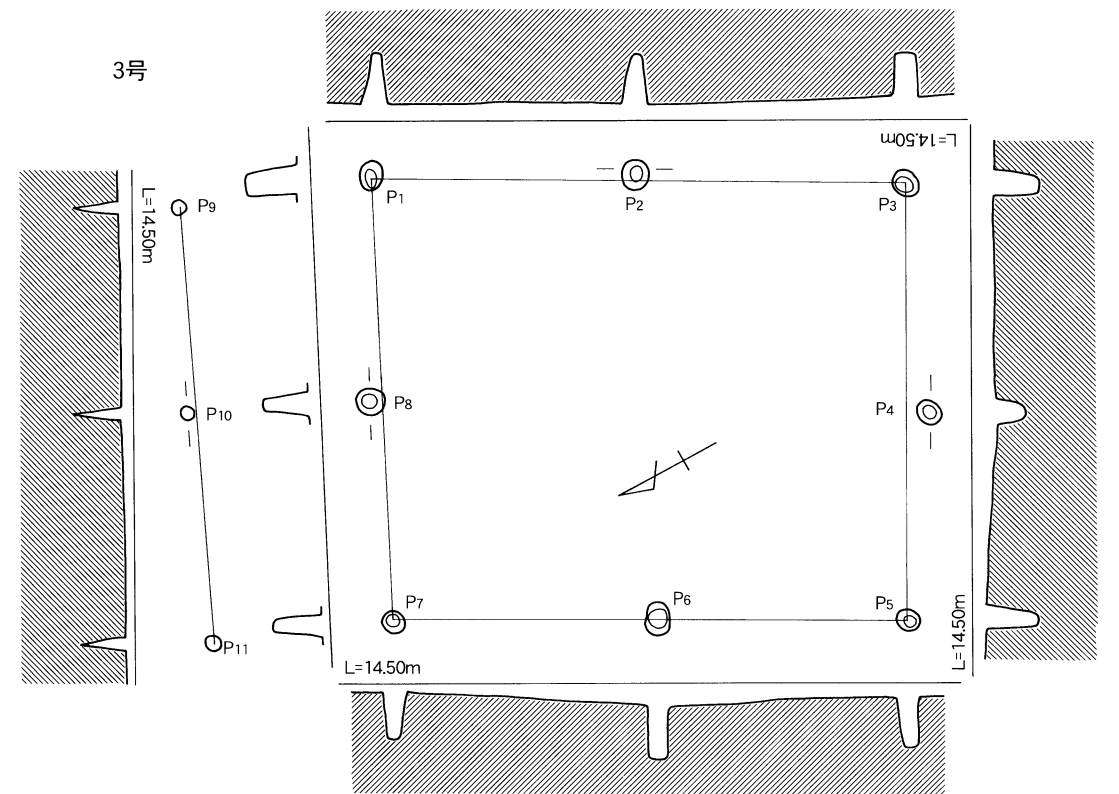
第54図 1, 2号掘立柱建物跡

### 6号掘立柱建物跡

16区で検出された。調査区域外に広がり全体規模は明確ではない。南側に庇をもつ。主建物部のピットの径は約30cm、深さ40～60cmであるが、底部分のものは直径約15cm、深さ35cm程度と小さい。底部のピットが小さいのは3号と類似する。第58図577はピットから出土した須恵器壺の底部付近である。赤褐色を呈し、器面には平行タタキが、内面は粘土の輪積み痕が明瞭である。

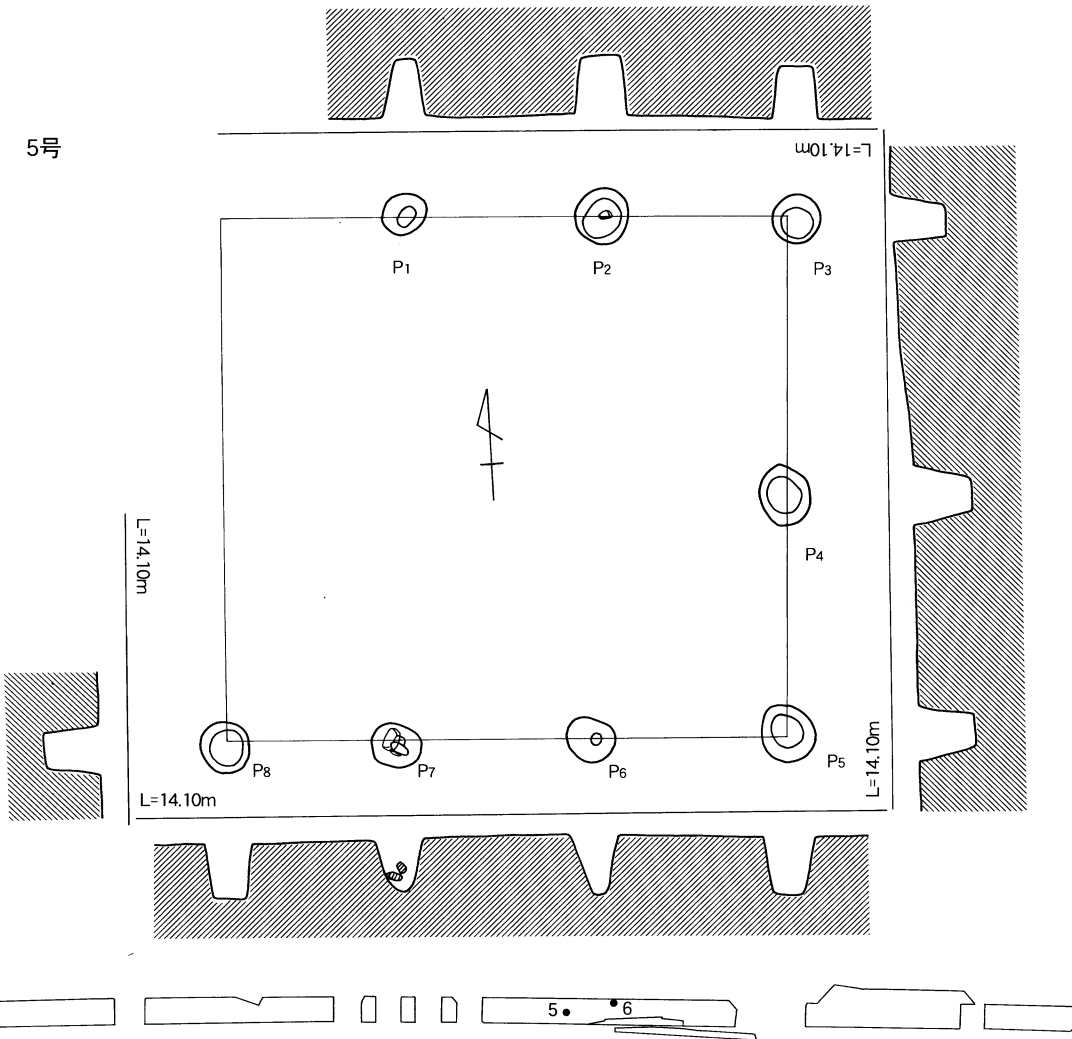
### 7号掘立柱建物跡

18区で検出された。建物規模は2間×3間と他の建物跡と同様であるが、梁行が約4m、桁行は約5.5mと最も大きいものである。ピットの掘り込み面は各ピットの形状や深さから推定して上位の高さであると考えられる。検出面でのピットの直径は約50cm程度と大きく、深さは20～60cmと一定ではない。第58図578～583はピット内から出土したものである。ピット1からは579の坏と583の甕などが、ピット2からは580が、ピット3からは582の壺が、ピット4からは578の坏がそれぞれ出土した。

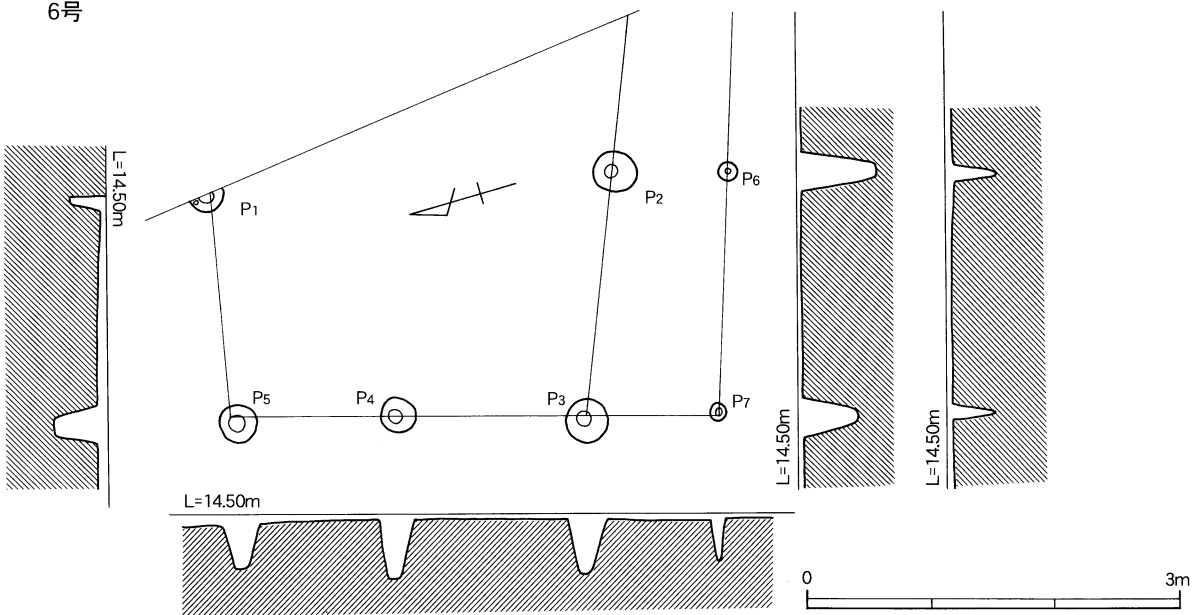


第55图 3, 4号掘立柱建物跡

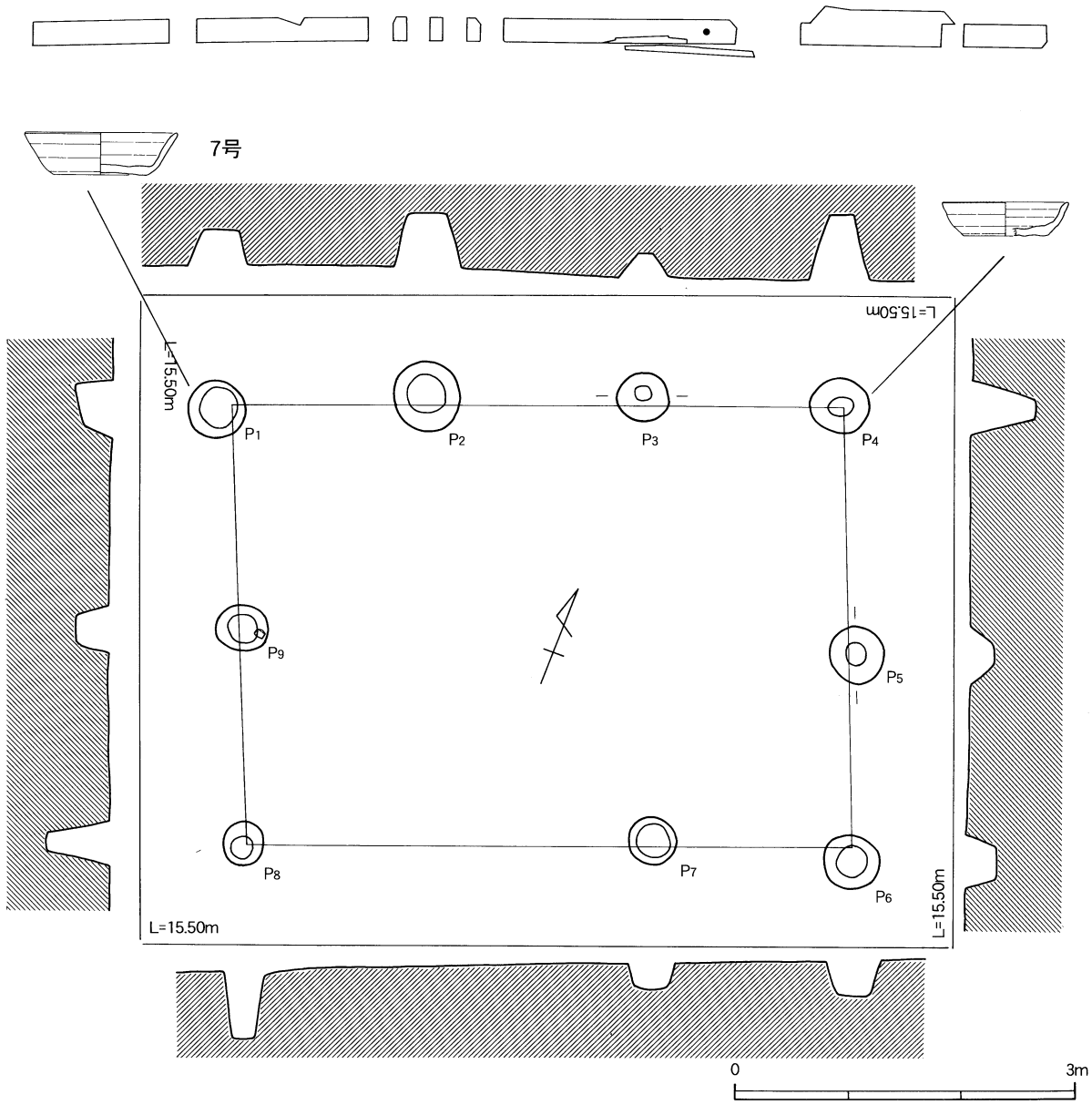
5号



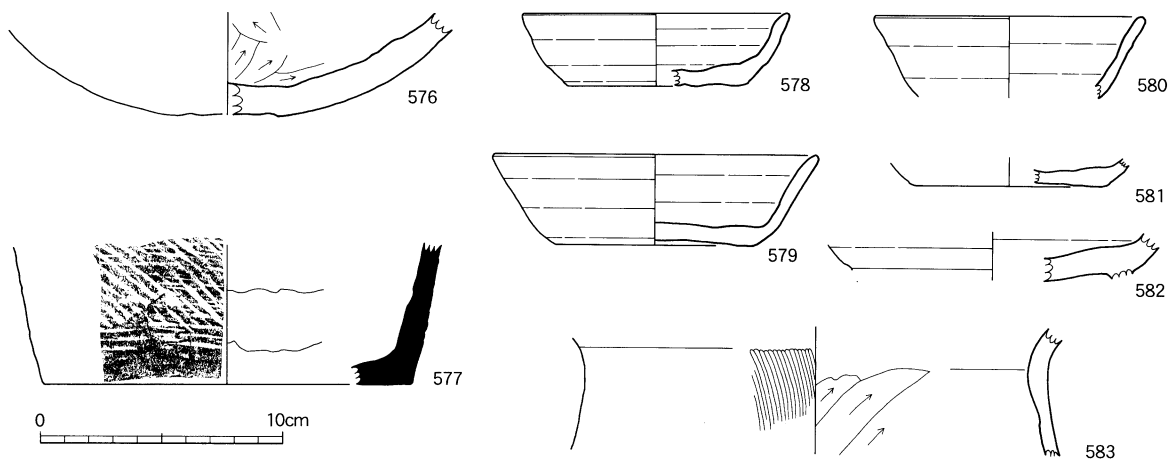
6号



第56图 5, 6号掘立柱建物跡



第57図 7号掘立柱建物跡



第58図 掘立柱建物跡ピット出土の土器



第21表 掘立柱建物跡 計測表

1号

主軸方向	桁行柱間	梁行柱間
南北 N-12°-E	P1-P2 2.12	P1-P4 1.91
	P2-P3 2.20	

3号

主軸方向	桁行	梁行	桁行柱間	梁行柱間	庇柱間
南北 N-28°-E	P1-P3 4.32	P1-P7 3.60	P1-P2 2.15	P1-P8 1.82	P9-P10 1.68
	P7-P5 4.18	P3-P5 3.54	P2-P3 2.16	P8-P7 1.77	P10-P11 1.87
			P7-P6 2.15	P3-P4 1.85	P1-P9 1.60
			P6-P5 2.03	P4-P5 1.70	P7-P11 1.48

2号

主軸方向	桁行柱間	梁行柱間
南北 N-9°-E	P1-P2 1.85	P5-P4 1.60
	P2-P3 1.85	
	P3-P4 1.90	

4号

主軸方向	桁行柱間	梁行柱間	梁行柱間
南北 N-49°-E	P2-P4 3.47	P1-P2 0.91	P2-P3 1.72
		P6-P5 1.22	P3-P4 1.77
		P5-P4 2.33	

15区 5号

主軸方向	桁行	梁行	桁行柱間	梁行柱間
東西 N-87°-W	P8-P5 4.56	P3-P5 4.12	P1-P2 1.58	P3-P4 2.20
			P2-P3 1.60	P4-P5 1.90
			P8-P7 1.36	
			P7-P6 1.65	
			P6-P5 1.55	

18区 7号

主軸方向	桁行	梁行	桁行柱間	梁行柱間
東西 N-70°-E	P1-P4 5.55	P1-P8 3.90	P1-P2 1.85	P1-P9 2.00
	P8-P6 5.45	P4-P6 4.05	P2-P3 1.92	P9-P8 1.92
			P3-P4 1.77	P4-P5 2.20
			P8-P7 3.66	P5-P6 1.85
			P7-P6 1.80	

16区 6号

主軸方向	桁行	梁行	桁行柱間	梁行柱間
東西 N-74°-W	P5-P3 2.82	P1-P5 1.86	P5-P4 1.28	P3-P7 1.10
		P2-P3 2.02	P4-P3 1.53	P7-P6 1.95

## 2. 竪穴住居跡状遺構

ここで取扱うものは、方形を呈する竪穴住居跡の床面の可能性が考えられるものであるが、明確な貼床はなく、炉跡及びピットも検出されなかったものであり竪穴住居跡状遺構とした。計2基検出された。

### 1号竪穴住居跡状遺構

7区で検出された。方形を呈し一辺約4m程度である。明確な貼床は認められなかったが、自然堆積層である周囲と比較すると、硬く締まっており床面と推定した。ピットは検出されていない。

第59図584～587は推定床面直上から出土したものである。584は糸切底の土師器皿である。小片であるが復元推定底部径は約7cmである。585～587も糸切底の坏と思われ、復元底径はいずれも約7cmである。588は大形壺の口縁部であり、口縁直下に櫛描波状文を施すものである。

### 2号竪穴住居跡状遺構

第2調査地点の14区で検出された。南北方向は3.5m、東西方向は2.6mの長方形を呈する。1号と同様に周辺と比較すると硬く締まっており、明確な貼床は認められなかったが、床面と推定した。1号と同様に炉跡やピットは検出されなかった。床面直上に遺物は検出されなかった。

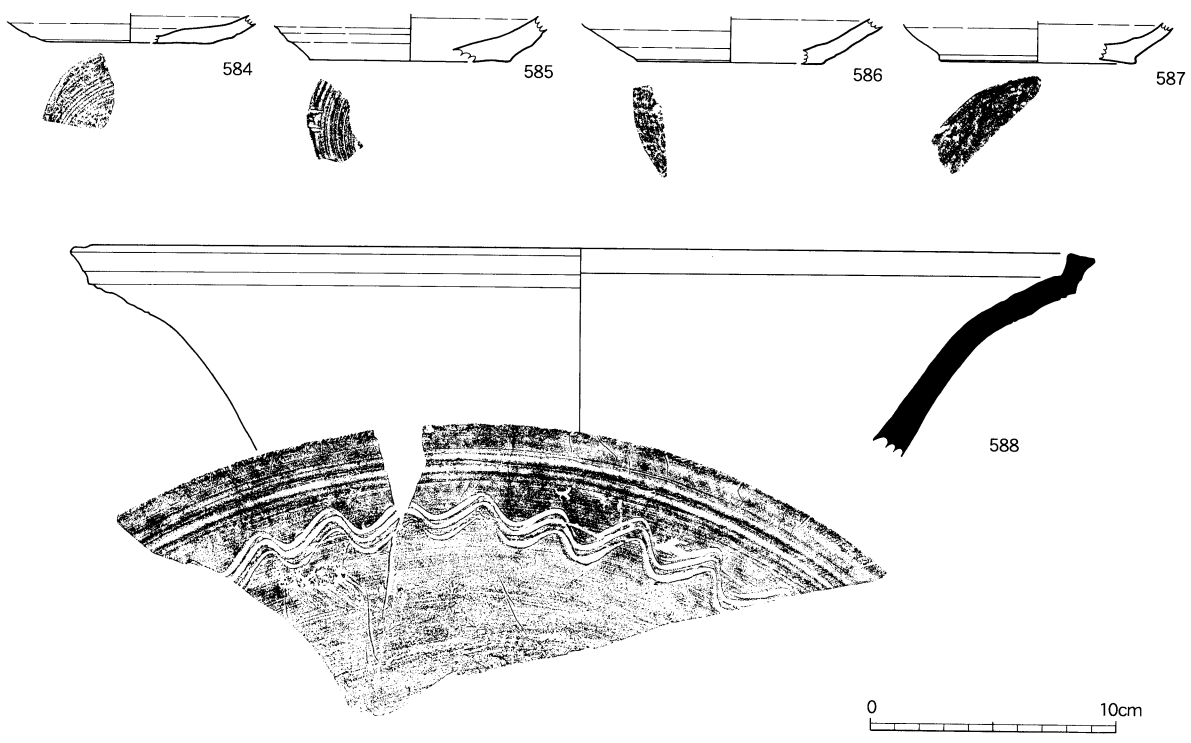
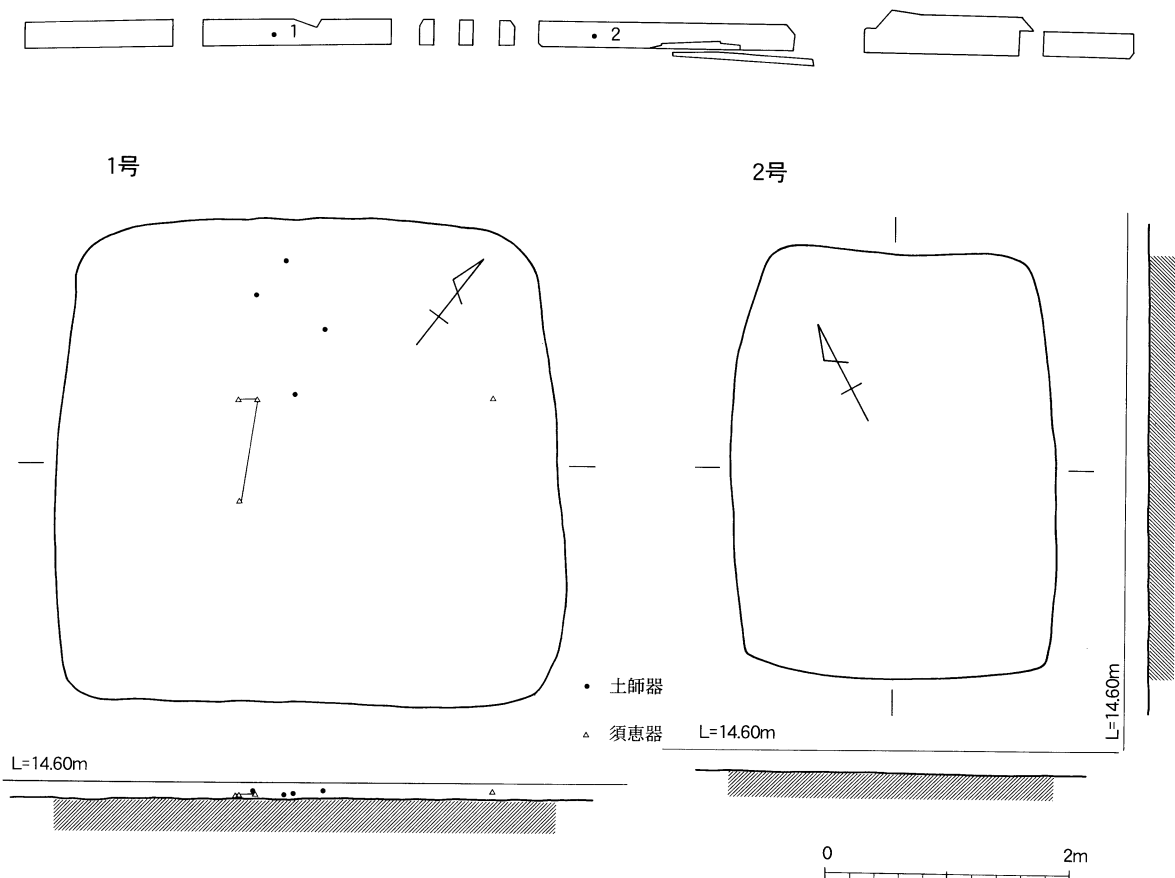
## 3. 円形周溝墓

平成12年度に実施した確認調査の第39トレンチを設定したおり、一部を溝状遺構と認識したものであるが、全面調査の結果その溝は円形に巡り、円形周溝墓と判明した。円形周溝の径は、東西方向が8.3m、南北方向が8.5mを測る。周溝付近のⅢa層上面の地形コンタは東から西に傾斜しており、加えて西側の周溝の上には中世の古道群2があり、これを考慮すると、ほぼ8.5m径の円形になると思われる。古道群のみでなく、中央部は溝4も検出されており、中世の時期には円形周溝墓は墓としてすでに認識されていなかったと判断される。また、周溝を掘り下げた土は他へ運び出すより、中央部に積まれていたと推定されるが、古道群及び溝の存在は、その時期には既に削平もしくは流出し平坦化していたと予想される。(第70図・付図参照)

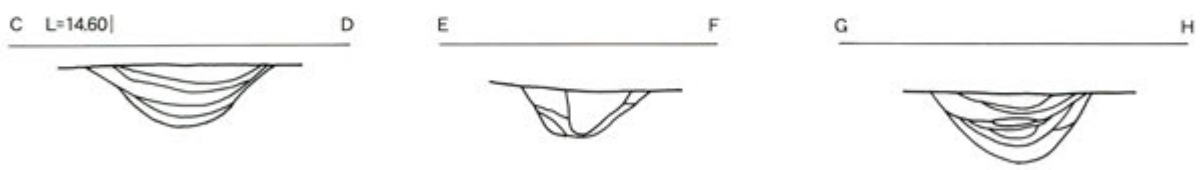
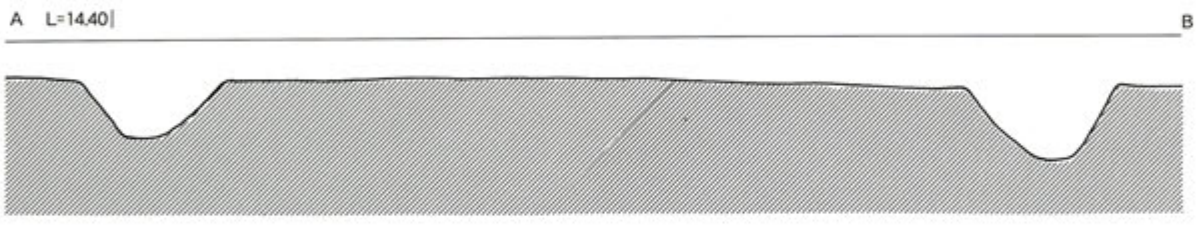
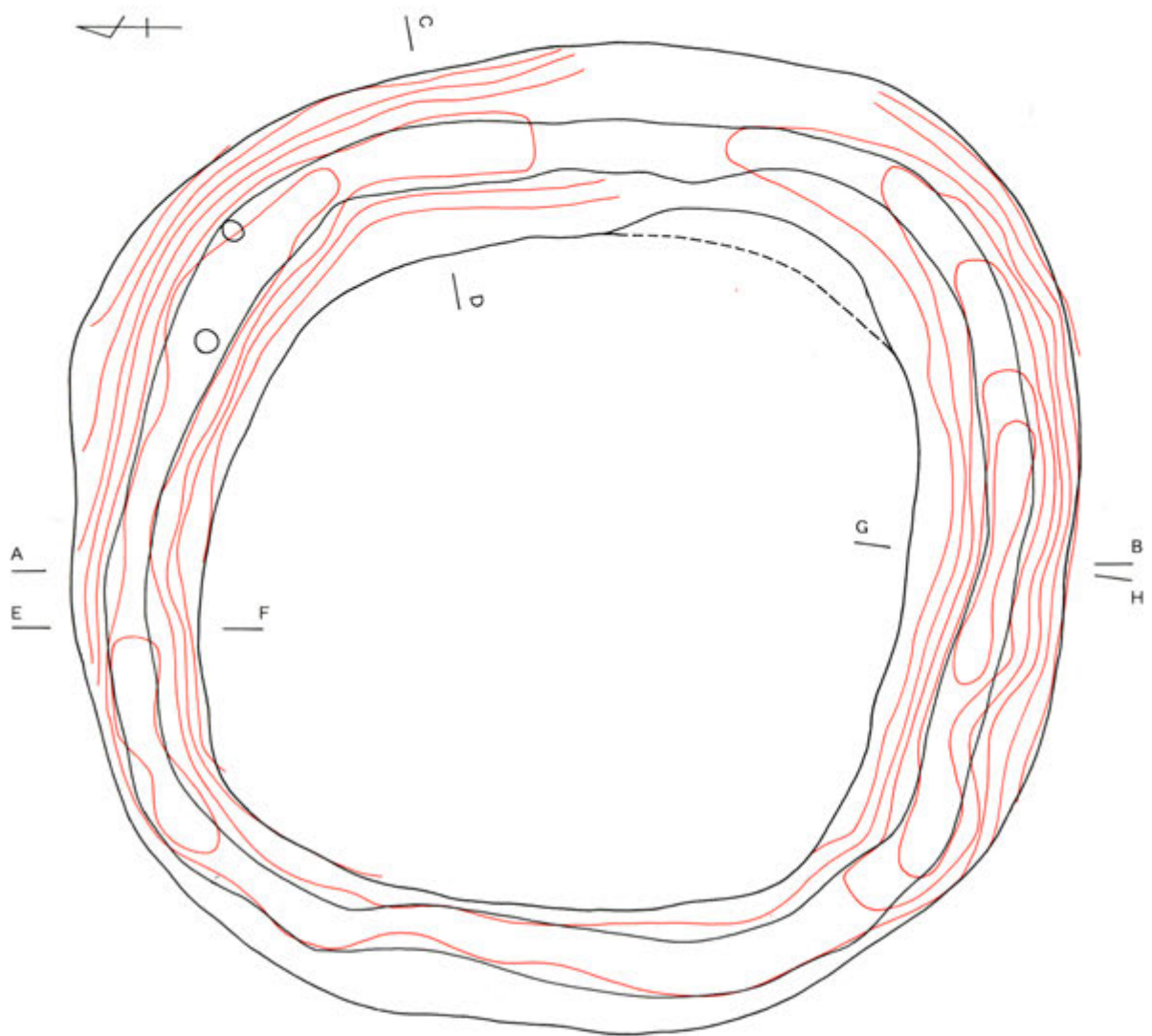
この円形周溝墓で、今回上述したような理由のためか中央部の埋葬施設は特定できなかった。ただし、中央部から土坑墓と推定されるものが1基検出されているが、周溝墓の中央に位置しないこと、さらに同様の形態の土坑墓が近接した位置に2基検出されていることと、加えて土坑墓の埋土が3基ともほぼ同一であることから、3基の土坑墓はほぼ同一時期であり、円形周溝墓と土坑墓はわずかに異なる時期のものであると判断した。しかし、この中央部の土坑墓が円形周溝墓の主体部である可能性を全く否定するわけではない。

周溝の最大幅は東側半分の残存状況の良好な部分で約1.1mあり、最も深い部分で検出面から約60cmを測る。周溝の埋土については、まずⅢa層黄褐色土層上面において、Ⅱ層黒色土が円形に検出されている。その下は黒色土と茶褐色粘質土が混在した土、またその下は茶褐色粘質土、そしてさらに下の土は黒色土、次がまた茶褐色粘質土と互層になっている。この茶褐色粘質土は、本遺跡標準土層のⅤ層下部に相当するものであり、すなわち周溝を掘った土が中央部に墳丘状に盛られていたことを示唆している。

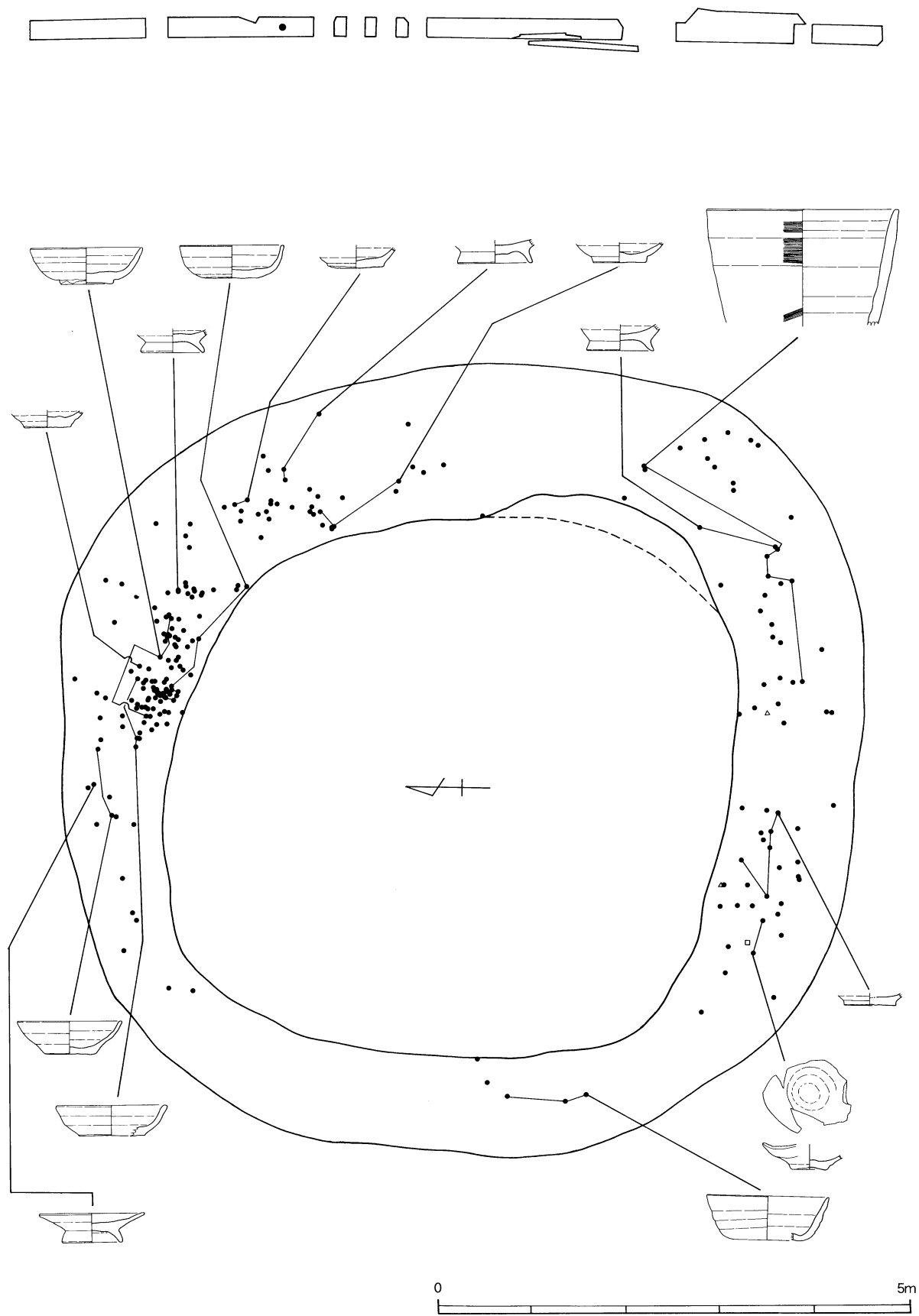
周溝の深さは一定ではなく、南側と東北側が深く、第60図の10cmコンタが示すとおりである。また東北部には2つの小ピットが検出された。直径は約20cm、深さは約25cmで底面は細く尖る。



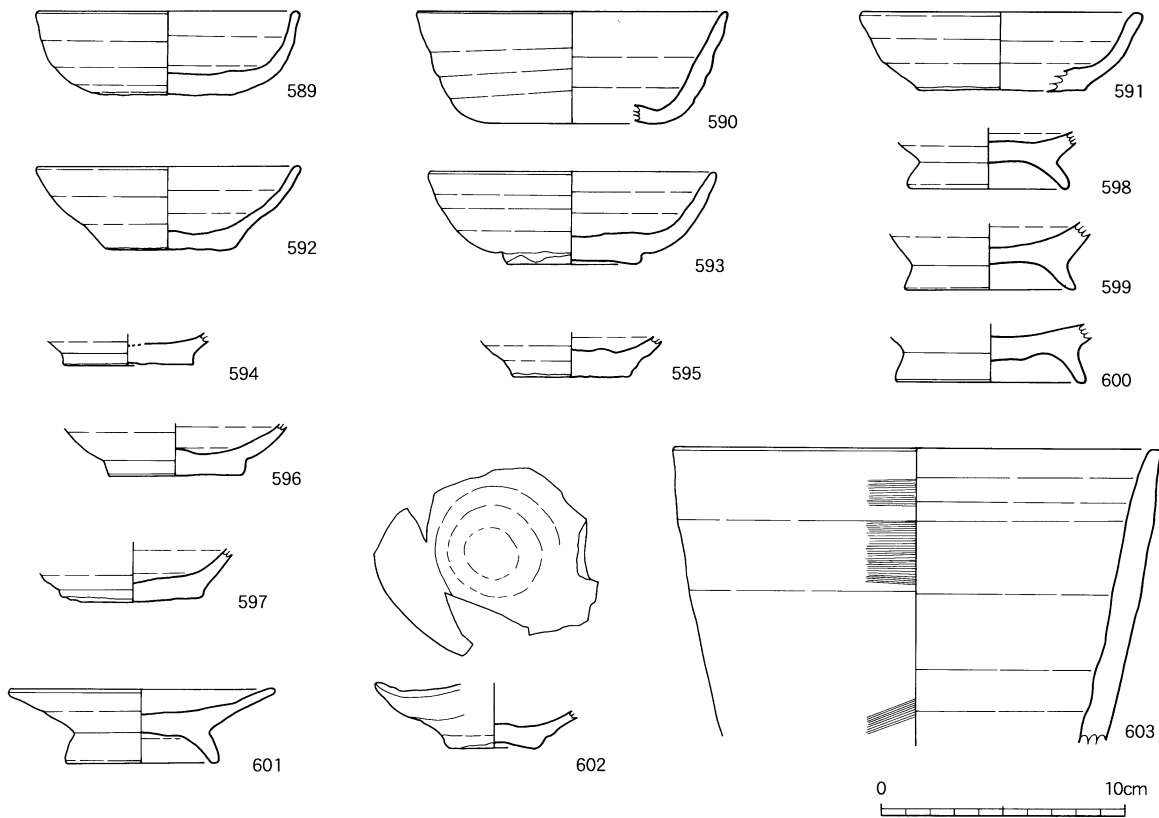
第59図 竪穴住居跡状遺構と出土遺物



第60图 円形周溝墓平断面図



第61図 円形周溝の出土遺物分布



第62図 円形周溝墓出土土器

何らかのクイ状のものを建てた痕跡と考えられる。

遺物は周溝の深い南側と東北側に集中していた。出土した土師器は坏・碗・皿・鉢などであり、他には磨耗した瓦片などもみられた。土師器の食器類は細かい2cm程度の細片で出土したものが大部分であるが、この細かい土師片が驚くほど接合した。このことは出土した土師器は意識的に割られて、投げ入れられたものと判断される。また、590のように焼成の段階で底部が変形した、使用に不適なものも認められ、周溝墓用のための土師器と考えられるものも出土している。

第62図は円形周溝墓の溝から出土した土師器である。

589は口径10.8cm、底径7.2cm、器高3cmを測り、体部は内湾して立ち上がるものである。底部は回転ヘラ切りによる切離しで調整はヨコナデである。590は全体がヒズミ底部は変形し割れており、焼成中に破損したと思われるものである。591は589と同じ口径であり、底部から体部への立ち上がり部分をナデにより凹ませている。592も同様の器形を呈している。底部は回転ヘラ切りの後ナデ調整を施しているが、593は切離しの後調整を施していない。594～597は底部が円板状になり高台として意識されたものであり、充実高台碗として分類されうる。底部切離しの後のナデ調整は雑である。598～600は碗であり、高台は「ハ」の字状に開く。601は高台付皿であり口径9.3cm、器高2.7cmを測る。602は灰白色を呈し、残存する口縁部は円形にならず、長楕円形に近い形状となる。耳皿の可能性が考えられる。底径は3.1cmと小さく、円板状である。603は黄橙色を呈した鉢であり、内外面ともヨコナデを施している。

#### 4. 土坑墓

検出された土坑のうち、長方形もしくは長楕円形を呈したものは土坑墓と推定され、その他の性格不明の土坑と区別した。土坑墓は9区のほぼ近接した位置に3基検出された。

##### 1号土坑墓

3基のなかでは最も南側に位置する。プランは長楕円形を呈し、長さ160cm、幅75cmの大きさで、検出面からの深さは50cmを測り、主軸は略東西方向である。埋土は検出面であるⅢa層下面の黄褐色土に極めて類似した暗黄褐色土であった。埋土中より土師器細片などが認められたほか、土坑墓底面より明確な副葬品と推定される鉄製刀子と青銅製品が出土した。また、遺物包含層であるⅢa層を掘り下げた段階で、通常散在する遺物が妙に集中している部分を確認され、遺物集中地点として把握していた。これが1号土坑墓の真上にあたることが判明し、土坑墓に関連する遺物と判断し供献遺物として取り扱った。

604は須恵器の坏であり、口縁部は底部から丸みをもって内湾気味に立ち上がり、端部近くでは外反する。605は坏であり、底部内面を指ナデで丸く調整している。606は鉢であるが全体的に磨耗しており混入品と思われる。607はほぼ完形の壺であり、口径14.5cm、器高8cm、高台径10cmを測る。高台は「八」の字状に広がり高いものである。体部は直線的に開き端部近くでわずかに外反する。内外面ともヨコナデが施される。

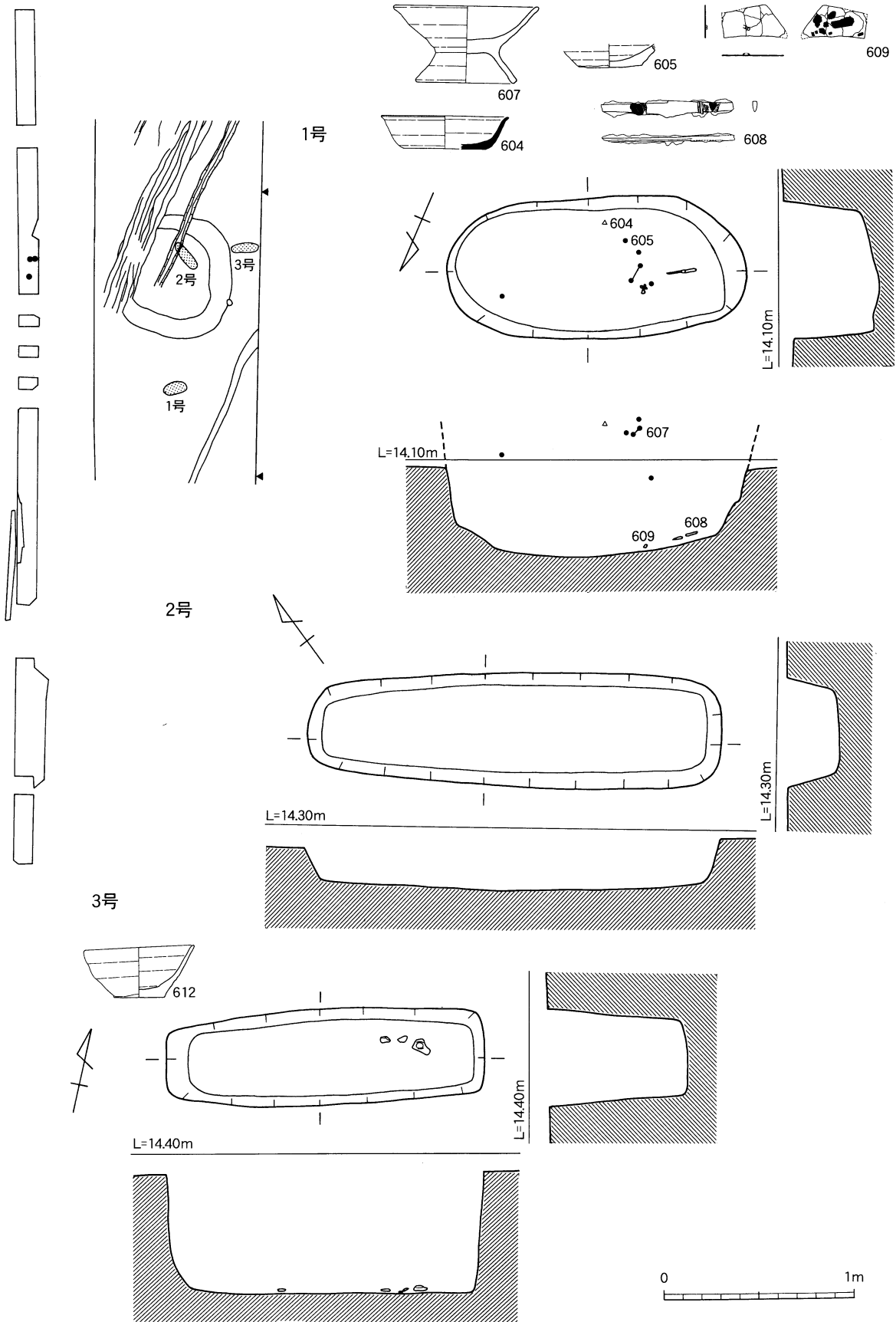
608は鉄製刀子である。刃部先端及び柄部端を欠損し、柄部には樹皮状のものが巻かれ、部分的に布が付着している。東京国立博物館の澤田むつ代先生に鑑定していただき、麻と推定される植物繊維の平織りの布とされた。609は青錆が付いた銅製品であり厚さ1mmという、極めて薄いものである。表面の一部に鏡に類似した小さな鈕状の突起がある。裏面には細かい繊維が付着していた。これも同様に澤田先生に鑑定していただき、平織りの平絹であることがわかった。この糸目は経糸25本/1cm、横糸24本/1cmである。平絹が裏面に付着していたということは、すなわち平絹に包まれていたと推定される。

##### 2号土坑墓

先に記述した円形周溝墓の中に位置し、1号土坑の約9m北側で検出された。長方形を呈し長辺はほぼ直線状である。長さは220cm、幅は約60cmであり、検出面からの深さは約25cmであった。埋土は1号と同様の暗黄褐色土であり、埋土中より土器細片が数片認められたが、副葬品としては考えられない。主軸は南北方向から45度傾いている。第64図610は約9cmの底径をもつ坏、611は黄白色を呈する須恵器甕の肩部、いずれも表面が磨耗しており、副葬品とは考えられない。

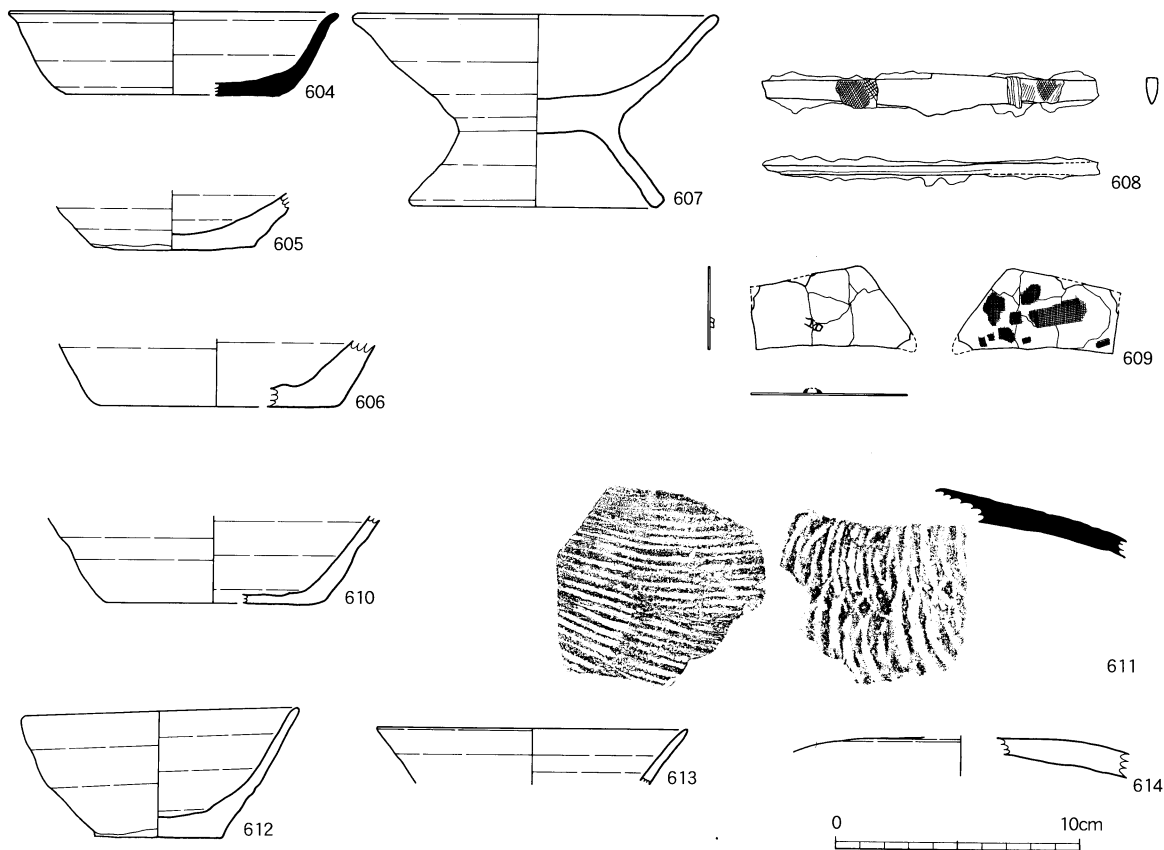
##### 3号土坑墓

2号の東側約3mの位置で検出された。長方形を呈し、長さ164cm、幅55cmで検出面からの深さは75cmである。主軸方向は1号土坑墓とほぼ近似した東西方向である。埋土は1号及び2号土坑墓と類似した暗黄褐色土である。平坦な底面の東側に副葬品と考えられる遺物が出土している。第64図612は焼けひずみが生じた土師器坏であり、復元推定口縁径は約11cmである。底径及び器高も約5cmである。底部から体部は内湾気味に立ち上がり器面調整は内外面ともヨコナデである。613は小片であるが、612の同一個体である可能性が高い。614は蓋の一部であるが副葬品の可能性は少ない。



第63图 土坑墓平面断面图





第64図 土坑墓出土遺物

## 5. 土坑

各種の小土坑が検出されており、7区と8区の境界付近と、17区に集中していた。特に1号土坑から4号土坑は近接した位置で発見された。

### 1号土坑

完形土師器が3点まとまって出土したことより遺構の存在が確認された。平面プランは略円形を呈し、長径×短径は65cm×72cmである。検出面からの深さは約8cm程度であるが、実際の深さは浅くなかったと推定される。埋土が暗黄褐色土であり周囲の土と類似しており、土器が出るまで遺構の存在は不明であった。土坑の底面はほぼ平坦である。

第67図615～617は出土土師器である。615は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部上半でわずかに外反する。口径は11.4cm、底面は回転ヘラ切りによる切離しの後ナデている。616は体部が内湾して立ち上がるものであり、底面は切離しの後調整は施されない。口径は11.5cmを測る。617は高く「ハ」の字状に開く高台がつくもので、体部はほぼ直線的に立ち上がる内黒土師器である。内面はミガキを施して燻し焼きをしている。体部は黄白色を呈するが、高台部分は赤褐色を呈しており、明らかに焼成後の色の違いが際立つように意識され粘土を変えて製作されたものと判断される。色が異なる高台部の粘土の貼り付け痕が明瞭に残る。体部には墨書が施されている。墨書については後述する。

### 2号土坑

1号から約7m南側の位置で、壁面から土師器が3点重なって出土したことから土坑が検出された。土坑は直径約50cmの円形を呈し、深さは約20cmである。618～620が出土した土師器である。618は法量が口径11.7cm、底径5.1cm、器高4.3cmを測り、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁上部で外反する。内外面ともヨコナデ調整である。619は円柱状の底部をした充実高台壙である。体部の器形は前者とほぼ同様であるが、618が精製した胎土を使用しているのに比較すると、この619は砂及び細礫が混在した胎土が使用されている。620は輪高台がついた壙であり、高台は「ハ」の字状に付き、体部はほぼ直線的に開く。

### 3号土坑

1号及び4号土坑に近接した位置で検出された。平面形はほぼ円形を呈し直径は約55cm、検出面からの深さは25cmである。底面は平坦であり壁の立ち上がりは直に近い。埋土は上部に暗黄褐色土がレンズ状に堆積し、その下位には径5～10mm程度の炭化物がつまっており（図版43参照）、その中から土師片等が認められた。621は体部が内湾気味に開き、口縁上部で外反する内黒土師器壙である。多くの小片が接合しているが、破片により内面が燻されているものと、そうでないものの違いがあり、また外面が黒く燻された破片もある。さらに土師片の割れた断面も焼けたものも認められることから、土師器を黒色土器に燻し焼きする施設の可能性も考えられる。622は土師器皿、623は須恵器皿、624は内面のヘラケズリ調整から甕の破片と考えられ、一部の破片のみであることよりこの3点は混在品と推定される。

### 4号土坑

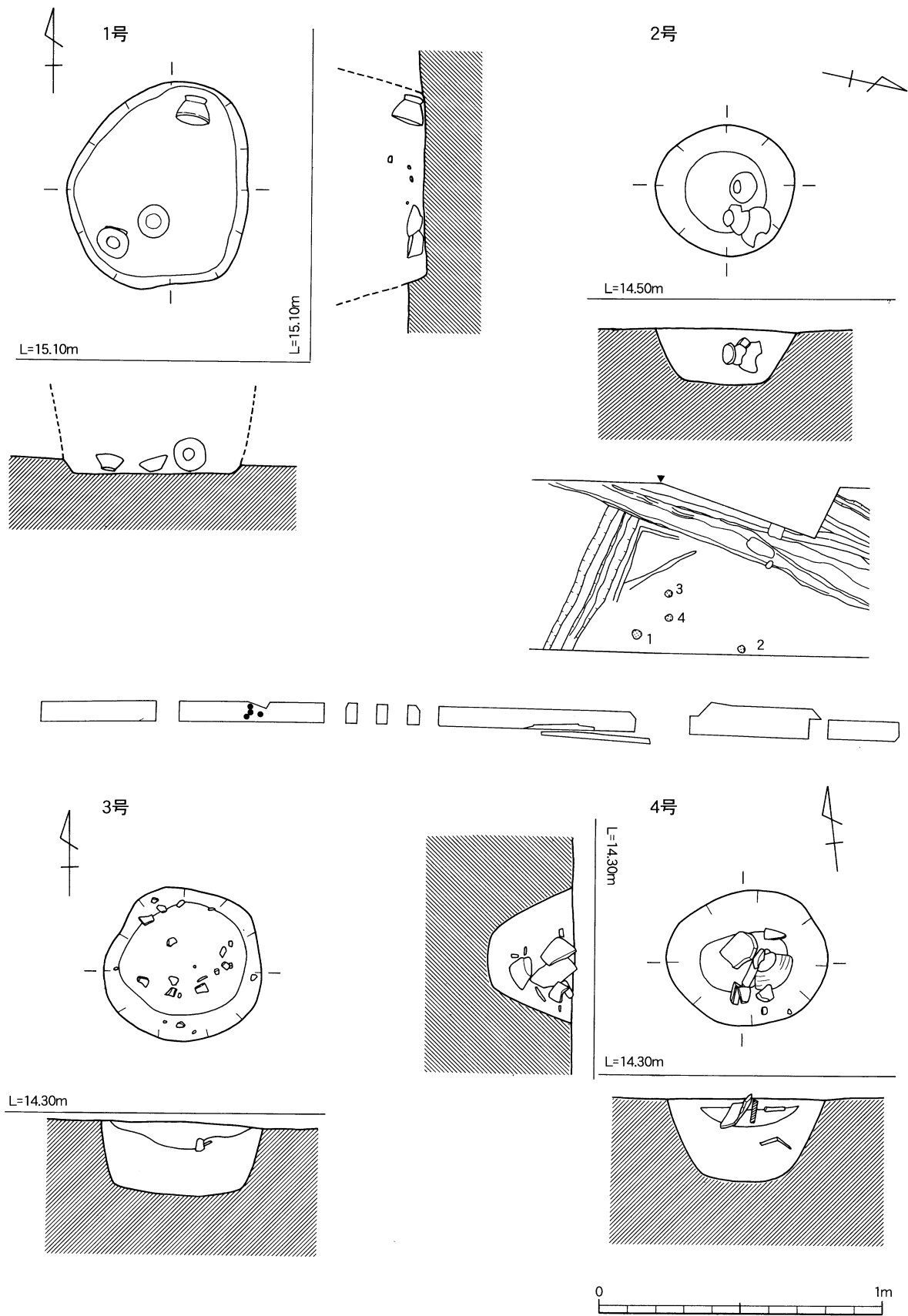
1号と3号土坑の中間の位置で検出された。平面形は楕円形を呈し、長径×短径は57cm×48cm 検出面からの深さは30cmである。瓦片が2個垂直に立った状態で出土したことから遺構の存在が確認できた。土坑の断面形は半円形に近く底面は丸みをもつ。底面に近い位置で土師器も出土した。625は直立して出土した2点の瓦が接合したもので丸瓦である。広端幅が約20cm程度であり、右側面は面取りがあるが分割痕が残存している。凸面はナデ調整、凹面には布痕が観察される。626は平瓦であり、右側面に分割痕が残存する面取りがある。凹面には布痕が残る。627は口径及び底径も大きな坏であり体部は直線的に開く。若干焼けヒズミがあり、口径は約14cmで内外面ともヨコナデ調整を施している。

### 5号土坑

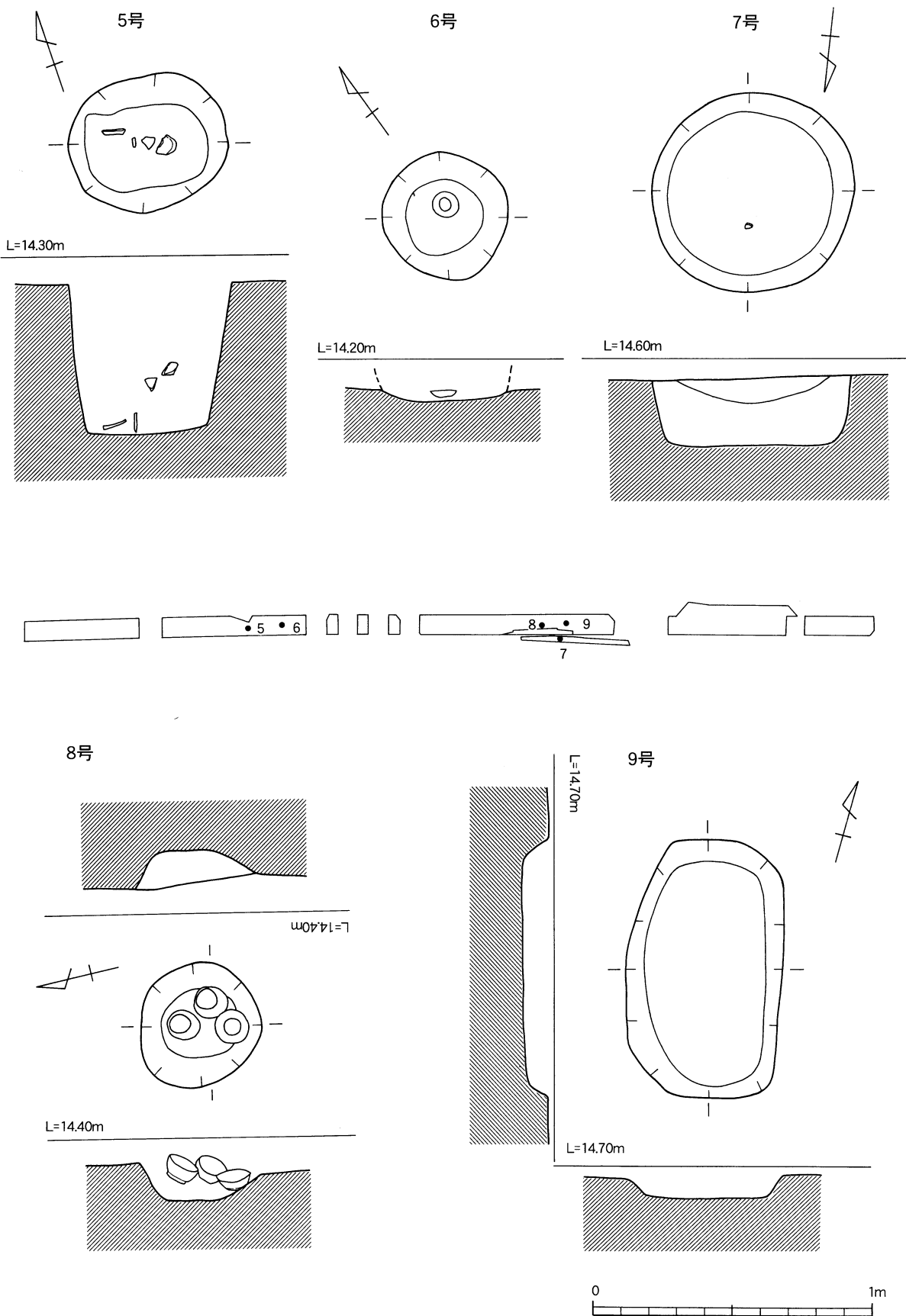
8区で検出された。平面形は楕円形を呈し、長径×短径は57cm×48cm、深さは55cmである。埋土はやや暗い色調の黄褐色土であり、分層はできなかった。628は復元口径13.8cm、底径9cm、器高4cmを測る坏であり、大きな底部から体部は直線的に開くもので底部は回転ヘラによる切離しの後ナデ調整を施している。629も底径の大きな坏である。

### 6号土坑

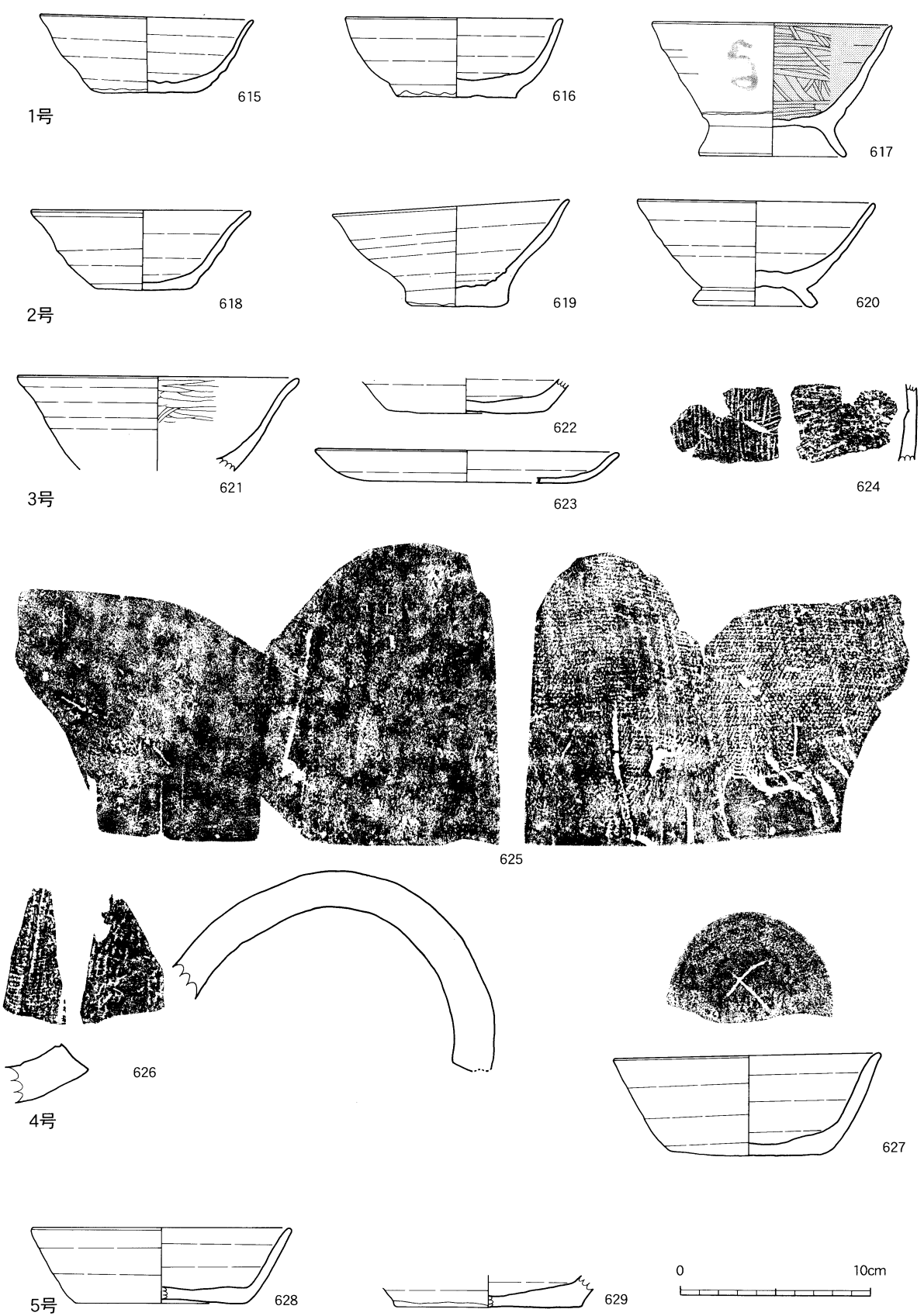
9区の円形周溝墓の東側に接した位置で検出された。平面形は径45cmのほぼ円形を呈し、検出面からの深さは約5cmである。埋土は暗黄褐色土であり中心部より完形の土師器が1点出土した。630は小型の坏であり、法量は口径約10cm、底径5.7cm、器高3.3cmを測り、体部は内湾気味に開くものである。底面の切離しは回転ヘラ切りであり、その後ナデ調整を施す。内外面はヨコナデ調整である。



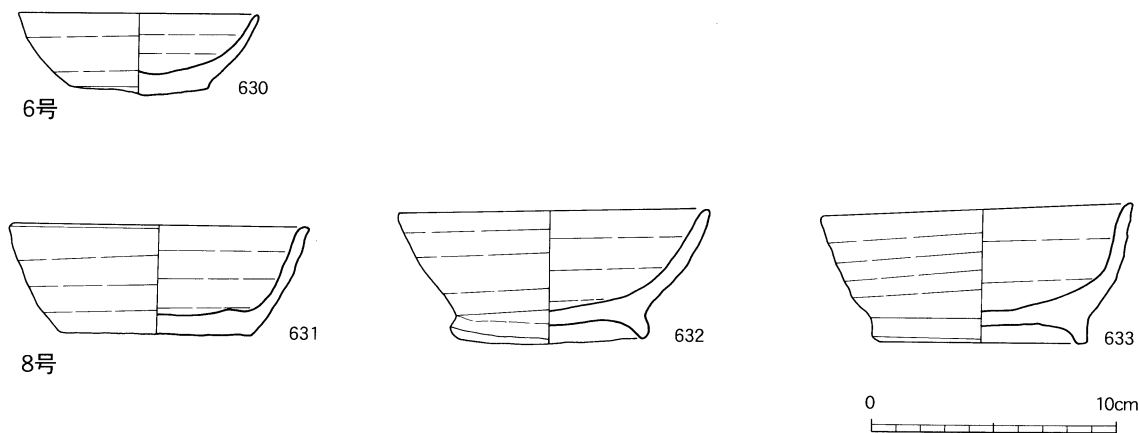
第65图 土坑平断面图(1)



第66图 土坑平断面图(2)



第67图 土坑出土土器 (1)



第68図 土坑出土土器 (2)

#### 7号土坑

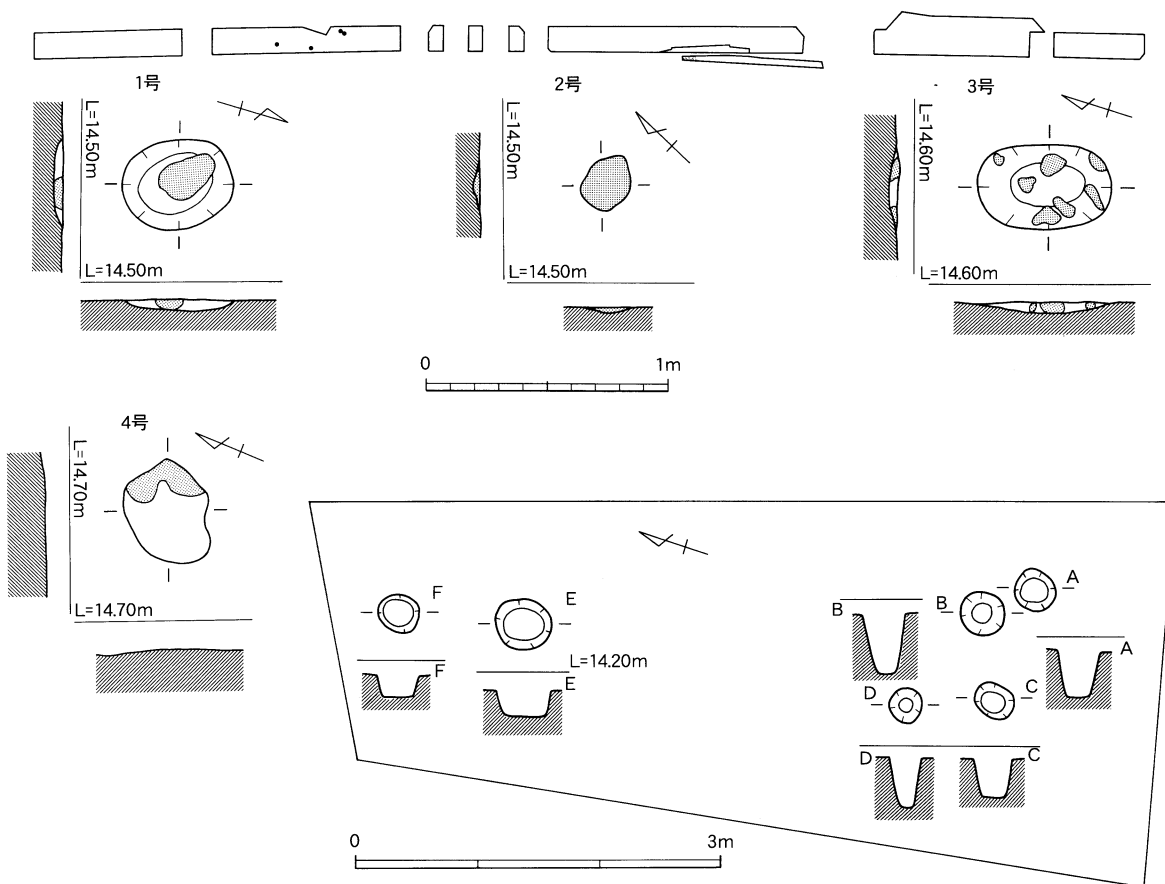
17区の道路付け換え区域で検出された。平面形は円形を呈し、径72cmを測り、検出面からの深さは24cmである。埋土は上部のレンズ状に堆積した部分が暗黄褐色土であり軟質で粘性がなく、下位は暗褐色土でありわずかに粘質が認められる。1号～6号の埋土とは色調がわずかに異なり時期が違う可能性がある。底面は平坦であり壁面の立ち上がりは直に近い。土師器細片が1点出土している。

#### 8号土坑

17区の溝状遺構13に接した位置で検出された。平面形はほぼ円形に近く、径約45cm程度で検出面からの深さは約15cmである。これも1号や2号と同様に完形の土師器が3点出土したことから存在がわかった。埋土は暗褐色土であり軟質でザラザラした土であった。土坑の断面形は碗状で丸味をもつ底面である。第68図631～633が土坑から出土したものである。631は法量が口径12cm、底径7.8cm、器高4.3cmを測る坏である。体部は内湾気味に開き、底面は回転ヘラ切りの後極めて入念なナデ調整を施しており内外面はヨコナデである。632は輪高台をつけた碗であり、高台は低く高台端部は丸くナデ仕上げをする。体部は内湾しており、631の坏と器形的にはほぼ同一であり、631に高台をつけたようなものである。法量は口径12.8cm、器高5.5cm、高台径8.0cmを測る。633も同様の碗であり、法量は口径12.7cm、器高5.8cm、高台径8.8cmを測る。632と比較するとわずかに高台径が大きく、体部は内湾状に立ち上がるが体部下半で開いたものが直線状になる。高台は低く高台端部をナデ調整により丸く仕上げている。

#### 9号土坑

17区と18区の境界近くで検出された。平面形は長楕円形を呈し、長径×短径は92cm×55cmで深さは約10cmであった。埋土は3号土坑と同様であり径5～10mmの多量の炭化物が全体にみられた。土坑の底面はほぼ平坦であり、壁面の立ち上がりは45度を開き、遺物は全く出土しなかった。



第69図 焼土跡及びピット

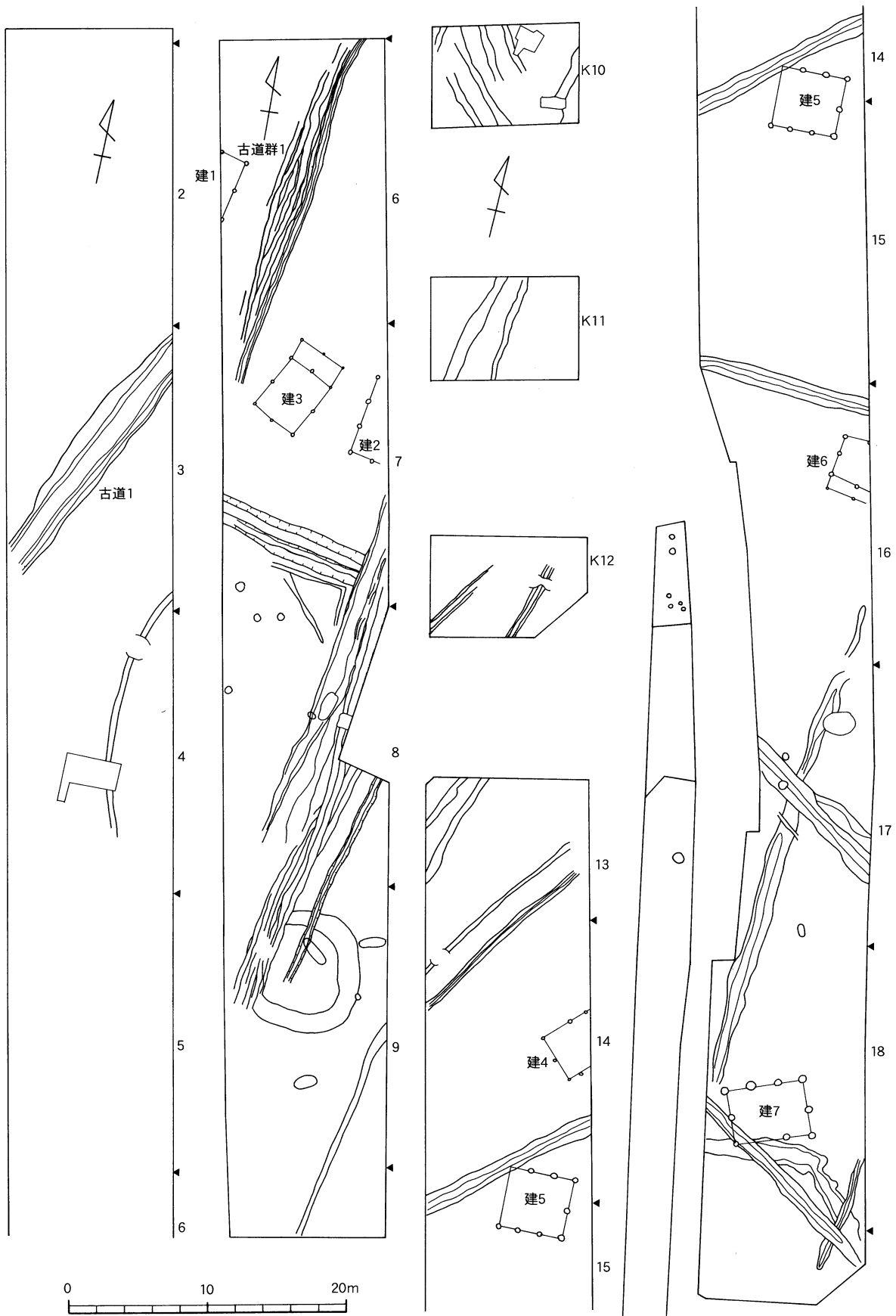
## 6. 焼土跡

7区から8区にかけて計7か所の焼土跡が検出された。いずれも赤褐色を呈し、火熱を受けたために生じたものと思われる。第69図のスクリーン部が焼土を示す。1号は竪穴住居跡状遺構のほぼ中央で検出されたが、住居跡状遺構の床面より約15cmほど高いレベルで検出されたため別の所産によるものとして取り扱っている。2号は4号土坑の南側約1mの位置に近接して検出された。

3号と4号は溝状遺構4の東側に近接して検出された。いずれも性格や時期など明確ではない。ただし検出面はⅢa層をいくらか下げた状態で検出されていることより中世以後の時期の所産ではないと判断される。また3号及び4号が検出されている付近は、縄文時代晩期の遺物が多く出土している部分であり、縄文時代晩期の屋外炉の可能性も考えられるかもしれない。

## 7. ピット群

第2調査地点の道路付け換え区域の最も北側である16区で検出された。この付近では完形あるいはそれに近い土師器の坏などが多く出土（701・702・906）している。ピットは6個で、径25cm～45cmの大小のピットが検出された。掘立柱建物跡の存在が推定されるが、径や深さの異なるピットの存在から近接した複数の掘立柱建物跡の存在が予想されよう。



第70図 古代～中世の遺構分布図



第22表 遺構内出土遺物一覧表

挿図 番号	遺物 番号	器 種	出土区・層		口径	底径	高台径	器高	胎土	調 整		備考	残存率	注記 番号
										外 面	内 面			
58	576	土師甕	14	4号						ナデ	ケズリ			
	577	須恵器 壺	16	H6P内		(15.0)				平行文タタキ	ナデ			8761
	578	坏	18	H7P3	(10.8)	(7.2)		3.0		ヨコナデ	ヨコナデ		1/5	8759
	579	坏	18	H7P1	13.2	8.0		3.75		ヨコナデ	ヨコナデ		1/2	8766
	580	坏	18	H7P2	(11.0)					睡ハテヨコナデ	ヨコナデ		1/10	
	581	坏	18	H7P3		(8.2)				ヨコナデ	ヨコナデ			8765
	582	碗	18	H7P9						ヨコナデ				8763
	583	甕	18	H7P1						ハケメ	ヘラケズリ			1590
59	584	皿	7	1号住居		(6.8)				ヨコナデ	ヨコナデ	底部糸切り		1592
	585	坏	7	1号住居		(8.2)				ヨコナデ	ヨコナデ	底部糸切り		1584
	586	坏	7	1号住居		(7.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	底部糸切り		1582
	587	坏	7	1号住居		(8.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	底部糸切り		1571
	588	須恵器 甕	7	1号住居	(42.0)					タタキの後ナデ	ナデ			2843
62	589	坏	9	円墓	(10.8)	6.0		3.4		ヨコナデ	ヨコナデ			3298
	590	坏	9	円墓	(12.8)	(9.2)		4.6		ヨコナデ	ヨコナデ			2619
	591	坏	9	円墓	(10.8)	(6.9)		(2.95)		ヨコナデ	ヨコナデ			3291
	592	坏	9	円墓	(10.9)	5.2		3.4		ヨコナデ	ヨコナデ			2743
	593	坏	9	円墓		5.4				ヨコナデ	ヨコナデ			3062
	594	充実高台碗	9	円墓			5.8			ヨコナデ	ヨコナデ			2632
	595	充実高台碗	9	円墓			4.8			ヨコナデ	ヨコナデ			2616
	596	充実高台碗	9	円墓	(11.8)		5.4	3.8		ヨコナデ	ヨコナデ			2680
	597	充実高台碗	9	円墓			5.5			ヨコナデ	ヨコナデ			3051
	598	碗	9	円墓			6.4			ヨコナデ	ヨコナデ			2709
	599	碗	9	円墓			(7.0)			ヨコナデ	ヨコナデ			2673
	600	碗	9	円墓			7.8			ヨコナデ	ヨコナデ			3118
	601	皿	9	円墓	(9.6)	3.8		2.7		ヨコナデ	ヨコナデ			3290
	602	耳皿?	9	円墓	(11.0)	6.2	3.1	3.1		ナデ	ナデ			2712
603	鉢	9	円墓	(20.0)					ヨコナデ	ヨコナデ			4393	
64	604	須恵器 坏	9	土坑墓1	(13.4)	(8.8)		3.4		ヨコナデ	ヨコナデ		1/4	1770
	605	坏	9	土坑墓1		6.8				ヨコナデ	ヨコナデ			4865
	606	鉢	9	土坑墓1		(10.0)				ヨコナデ	ヨコナデ			1769
	607	坏	9	土坑墓1	14.5	10.0		8.0		ヨコナデ	ヨコナデ		4/5	
	608	刀子	9	土坑墓1						ヨコナデ	ヨコナデ	麻布付着		
	609	銅製品	9	土坑墓1						ヨコナデ	ヨコナデ	平絹付着		4859
	610	坏	9	土坑墓2		(8.8)				ヨコナデ	ヨコナデ			4857
	611	甕	9	土坑墓2						平行文タタキ	同心円当て具痕			1
	612	坏	9	土坑墓3	(11.4)	5.2		5.4		ヨコナデ	ヨコナデ			3
	613	坏	9	土坑墓3	(12.8)					ヨコナデ	ヨコナデ			4863
614	蓋	9	土坑墓3						回転ヘラケズリ	ナデ			1	
67	615	坏	7	1号土坑	11.4	5.6		5.2		ヨコナデ	ヨコナデ			2
	616	坏	7	1号土坑	11.5	6.3		4.2		ヨコナデ	ヨコナデ			3
	617	内黒碗	7	1号土坑	12.5		7.4	7.2		ヨコナデ	ミガキ			10
	618	坏	8	2号土坑	11.7	5.2		4.3		ヨコナデ	ヨコナデ			10
	619	充実高台碗	8	2号土坑	12.7		5.4	5.8		ヨコナデ	ヨコナデ			10
	620	碗	8	2号土坑	12.6		6.6	6.0		ヨコナデ	ヨコナデ			6
	621	内黒碗	8	3号土坑	(15.0)					睡ハテヨコナデ	ミガキ			23
	622	皿	8	3号土坑		8.4				ナデ	ヨコナデ			20
	623	皿	8	3号土坑	(16.0)	(13.6)		1.7		ヨコナデ	ヨコナデ			
	624	甕	8	3号土坑						ハケメ	ヘラケズリ			
	625	丸瓦	8	4号土坑						凸面ナデ	凹面布目痕			
	626	平瓦	8	4号土坑						凹面布目	凸面縄目タタキ			
	627	坏	8	4号土坑	13.8	8.5		5.3		ヨコナデ	ヨコナデ	底面にヘラ記号		4
	628	坏	8	5号土坑	(13.8)	9.0		4.0		ヨコナデ	ヨコナデ			
629	坏	8	5号土坑		10.0								4	
68	630	坏	9	6号土坑	9.9	5.7		3.3		ヨコナデ	ヨコナデ			3
	631	坏	15	8号土坑	12.0	7.8		4.3		ヨコナデ	ヨコナデ			1
	632	碗	15	8号土坑	12.8		8.0	5.5		ヨコナデ	ヨコナデ			2
	633	碗	15	8号土坑	12.7		8.8	5.8		ヨコナデ	ヨコナデ			

## 第2節 出土遺物

遺物包含層であるⅢa層から出土したのは、平安時代のものが主体であるが、一部奈良時代のものや中世の時期のものも含まれる。これら出土遺物は第1調査地点及び第2調査地点のほぼ全域にわたって出土した。ただし、第3調査地点については遺物包含層が削平されていたため表土中や攪乱層に出土したのみである。

出土した遺物は土師器、須恵器、瓦などであり、凶化したものについては第71・72図で出土分布を示した。比較的大きな破片を主に凶化しており、その出土分布はほぼ全体に広がるものの、掘立柱建物跡やピット群が検出された場所付近にやや集中が認められる。

また平安時代の遺物は包含層のみでなく、中世の時期の溝状遺構などの遺構や、攪乱及び表層中からも出土しているが、Ⅲa層遺物包含層出土のものと、それ以外の出土と区別して掲載した。

さらに、出土した坏は、第1調査地点と第2調査地点とで形態差が認められたことにより、調査地点も考慮して示した。

### 1. 奈良時代の土師器

第2調査地点の東側、道路付け換え区域の南側で近接して出土している。

#### 蓋

634は口径20.6cmを測る大型の蓋であり、天井部中央の摘みを欠損する。体部内外面とも丁寧なミガキが施されている。635の坏と近接して出土しておりセットと考えられる。

#### 坏

635は口径18.8cm、器高5.2cmを測る。底面のやや内側に低い輪高台をつけ、高台径は13cmである。箱型の器形を呈し、体部内外面ともミガキが施される。636も同様の高台を付けたもので、高台径は12.6cmを測り、底面にはミガキが施されている。

### 2. 平安時代の土師器

土師器の器種には坏・埴・蓋・皿・甕類・鉢・鉄鉢があり、また若干の黒色土器と1点の内朱土器も認められた。

#### 坏

出土した坏は口径、器高、底径などの法量と器形及び調整により大きく3類に分類できる。

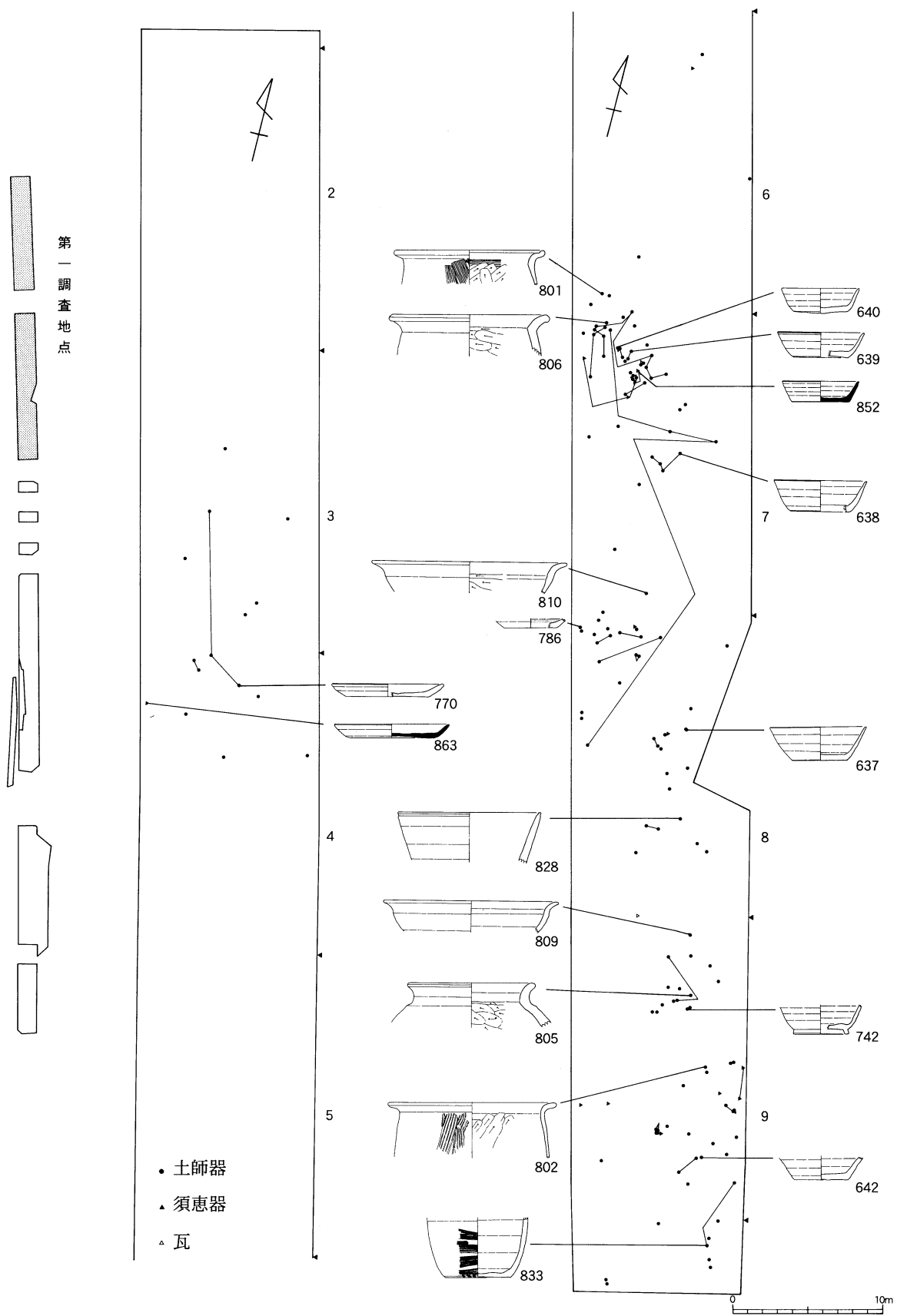
坏1類…… 口径・底径ともに比較的大きく、体部は直線状に開く。体部下半には回転ヘラケズリが認められるものがある。

坏2類…… 口径は1類よりわずかに小さいが、底径はかなり小さく約7.5cm程度となる。体部は直線状に大きく開く。

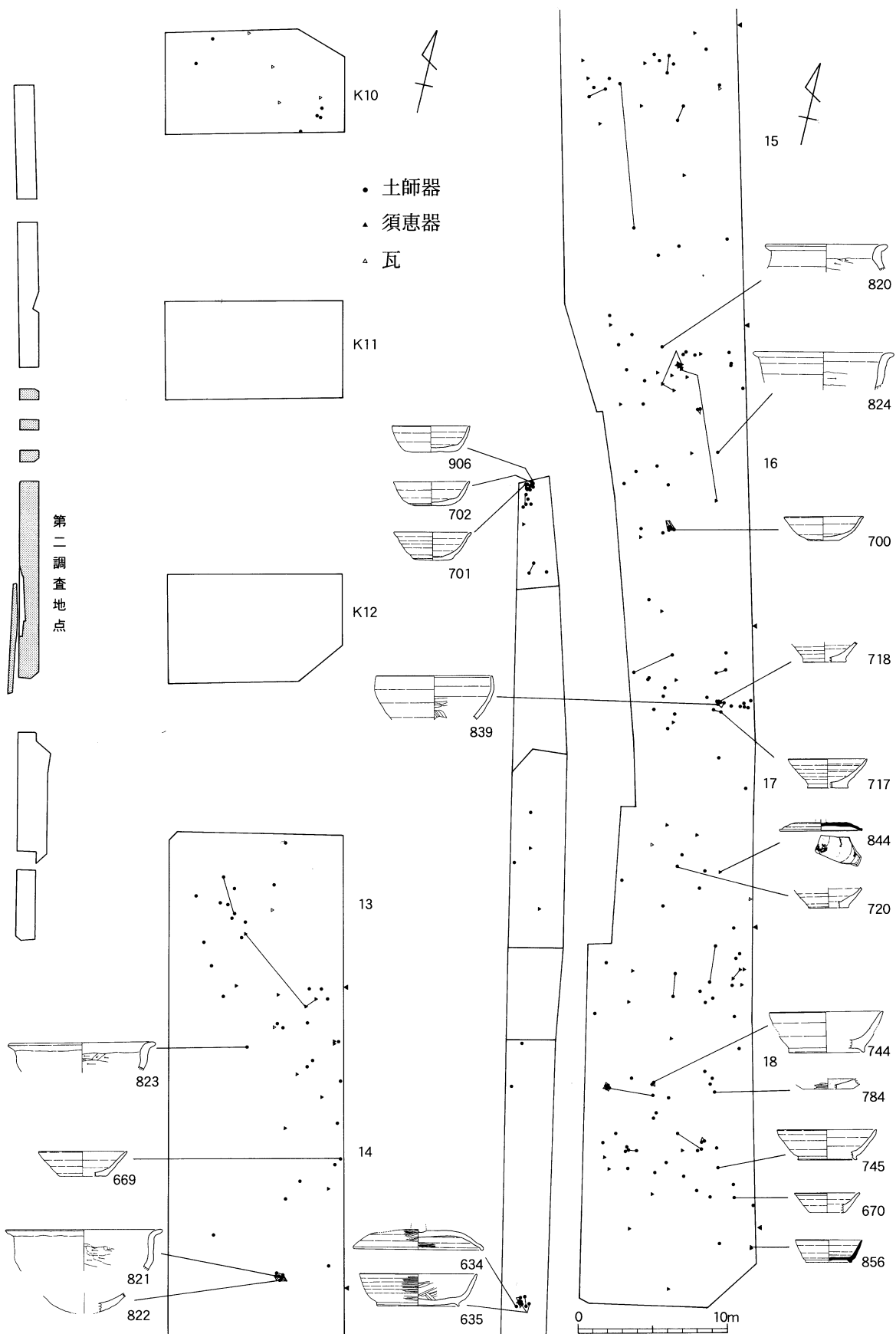
坏3類…… 口径・底径とも2類よりわずかに小さい。体部は内湾状に立ち上がり口縁は端部近くでわずかに外反する。

坏1類から3類までいずれも底部切り離しは回転ヘラ切りである。坏1類は第1調査地点の出土がほとんどであり、逆に坏2類及び3類は第2調査地点から大部分出土している。

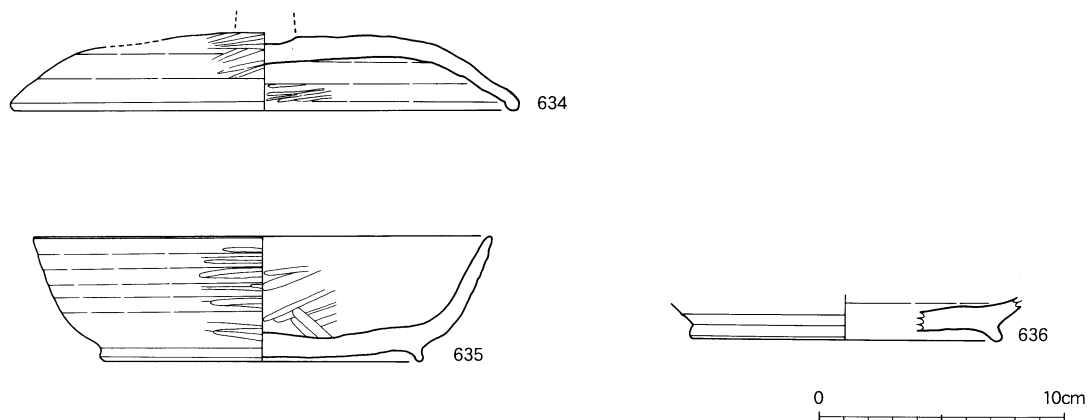
第74図は坏1類に区分できるものであり、口径・器高・底径が復元できるものは4点と少ない。口径・底径は比較的大きく、それぞれ口径が13.5～15cm、底径が約12cm、器高4～5cmを測る。形態的には箱型に近い形であり、体部は直線状に広く、なお第1調査地点で出土した底部小片も



第71図 平安時代の遺物出土分布 (1)



第72図 平安時代の遺物出土分布 (2)



第73図 奈良時代の遺物（坏・蓋）

復元して図化してある。体部下半の底部近くを回転ヘラケズリが施されたもの（640・645・659・661）も認められる。底部は回転ヘラ切り離しの後ナデ調整を施している。642・656の底面にはヘラ記号が施されている。なお、653はヘラミガキが施されており別類として区分したほうが良いかもしれない。

第75図は全て第2調査地点から出土したものである。口径・底径・器高の全てが復元できたものは669のみであるが、1類と比較して口径がわずかに小さく、底径はかなり小さいため坏2類とした。体部は直線的に開く点で坏3類とは異なる。671～679の口縁部及び681～699の底部片も図上復元して図化してあるが、小片のため口径及び底径は信頼性に欠けよう。底面の切離しはヘラ切りであり、調整はヨコナデである。

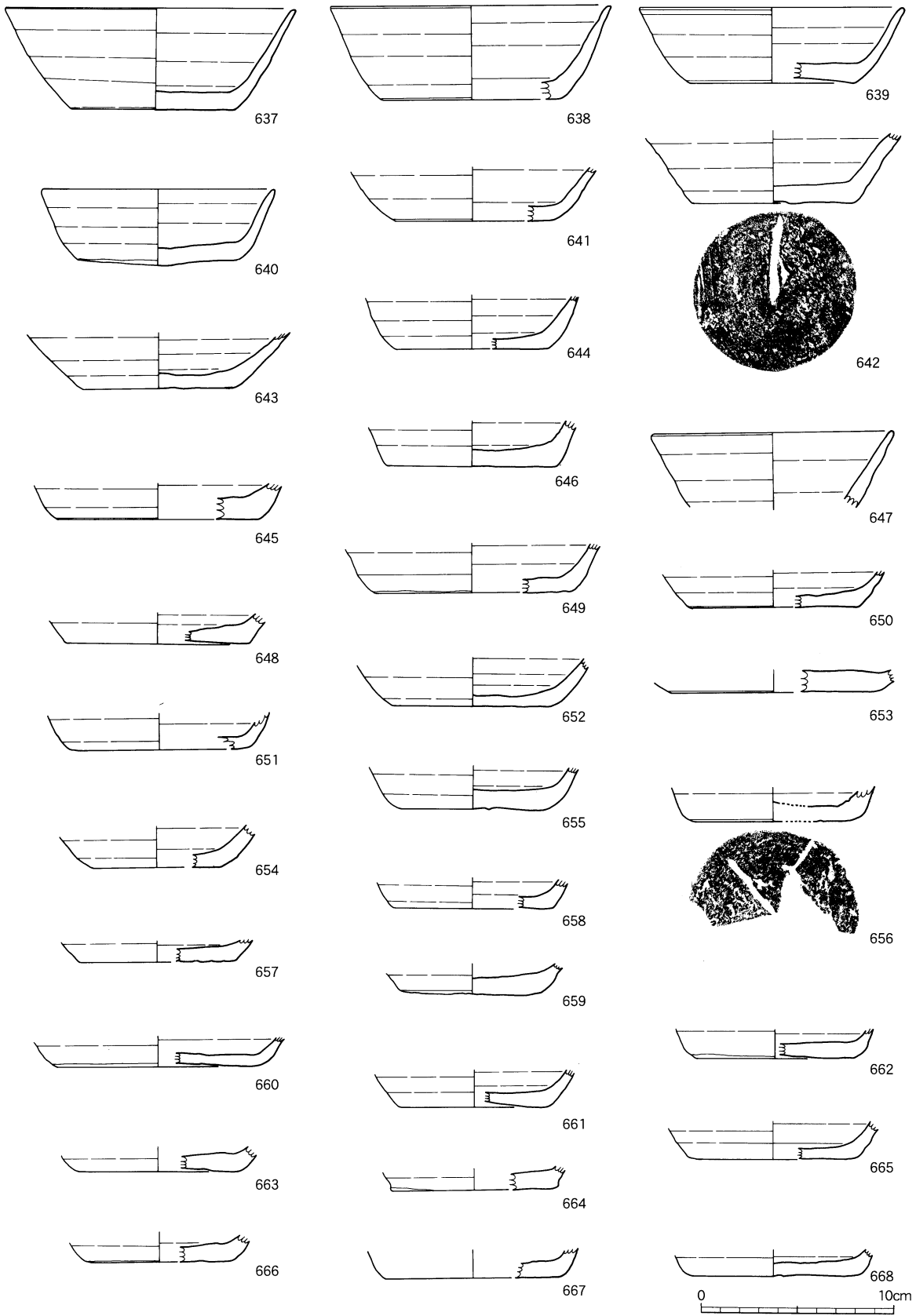
第76図700～702は坏3類である。口径は12cm～12.5cmと2類より小さく、また底径も5～6cmとかなり小さい。体部は内湾状に立ち上がり、口縁はわずかに外反する。体部と底部の境は丸みを持ち、薄い円板を付けたような印象を受ける。703～716の底部もほぼ同様の器形と思われる。701・702・703・707・715のように底部内面をわずかに凹ましたものも認められる。ほとんど第2調査地点から出土している。

#### 充実高台壺

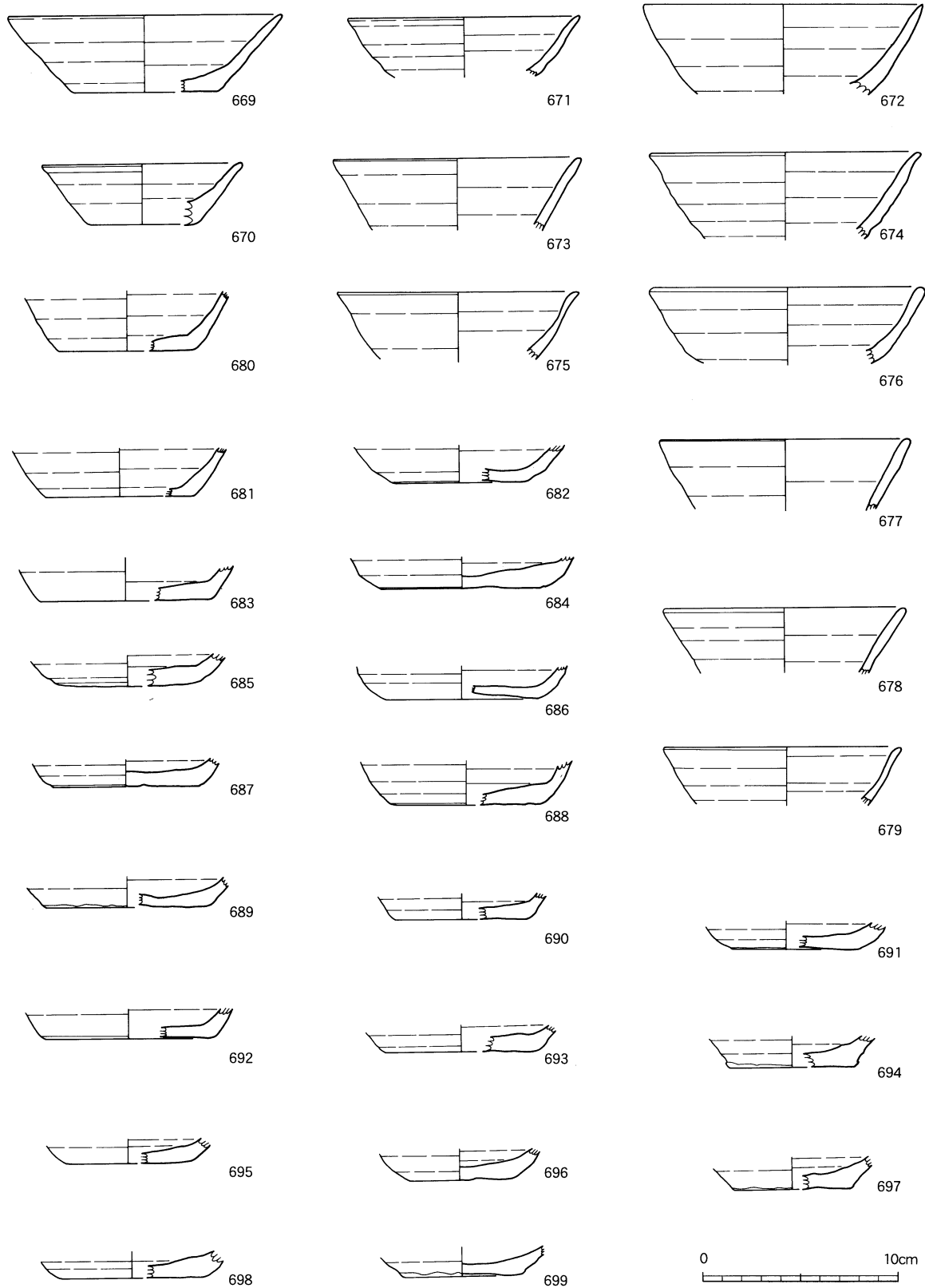
第76図717～738は底部が厚く、高台状に意識されたものと思われるものであり、円盤状高台あるいは円柱状高台とも呼ばれるものである。ここでは鹿児島県で伝統的に使用されている充実高台という名称を使用する。717は体部が直線的に開くが、口縁端部付近でわずかに内湾する。復元口径12.4cm、底径6.4cm、器高4.6cmを測る。底部切り離しは回転ヘラ切りであり、器面はヨコナデを施し体部と高台部を指ナデにより意識して分けている。723～726のように底部内面を凹ましたものが認められる。また底径は6cm程度のもののほか、5cm程度のもの（734～738）とがある。充実高台のものは他の坏や壺と比較して底面のナデ調整は雑なものが多い。717及び738は内面にススが付着する。これらもほとんど第2調査地点の出土である。

#### 壺

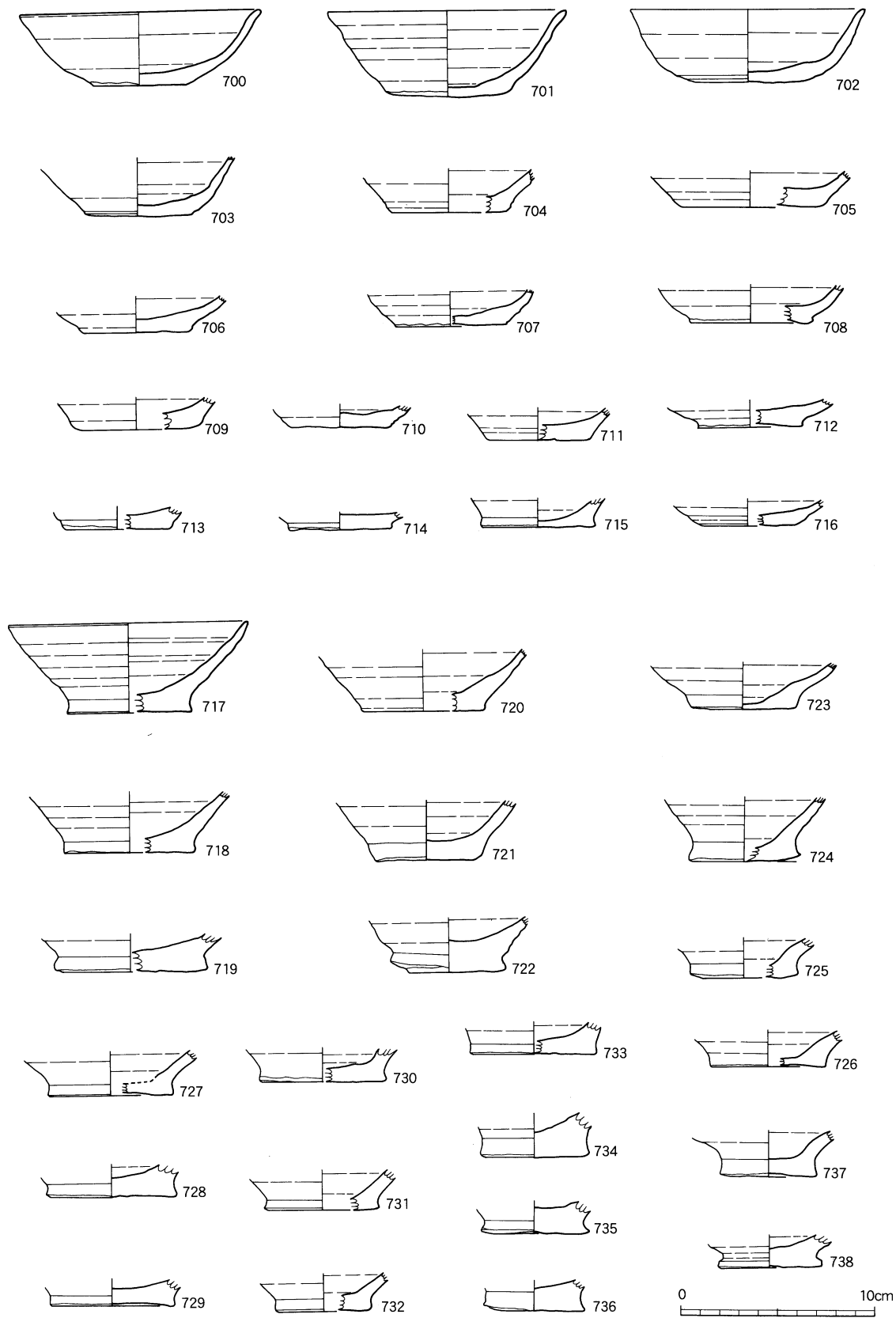
第77図は輪高台を付けた壺であり、第1調査地点出土のもの（740～743）と第2調査地点の16



第74図 平安時代の遺物（1）（坏1）



第75図 平安時代の遺物（2）（坏2）



第76図 平安時代の遺物（3）（坏3・充実高台碗）



区～19区出土のもの（744～768）を比較すると、坏と同様調査地点の違いにより高台の形態や高さなどが大きく異なる。

壙1類…… 739は断面四角形の低い高台を付けたものであり、底面は回転ヘラ切りの後ナデ調整が施されないまま高台を貼り付けている。高台径は8.5cmである。

壙2類…… 740～743は低い高台を付けるが、高台端部はわずかに丸みをもつ。底面の切り離しは回転ヘラケズリであり、その後ナデ調整が施されている。

壙3類…… 744～748の高台は断面三角形の短いもので、端部は丸く、接地面は少ない。体部は内湾気味に立ち上がる。

壙4類…… 749～768は「ハ」の字に広がる高台をもつもので、高台は比較的高く大きく広がるもの（765～768）などもある。いずれも底部片のみであるが、756や761から判断すると体部は内湾する。745の内外面と757の内面はヘラミガキが施されている。また768の内面は布痕が認められるほか、内外面にススが付着し灯明皿として使用されたと思われる。

### 皿

出土量は少なく、口径15cmを越える大型の皿と底径より判断される比較的小さな皿とが認められた。769は体部と口縁の境が丸みをもち、770～771は体部が直線的に開く。770は口径16.6cm、底径13.2cm、器高2cmを測り、底面はヘラケズリが施されている。772は口縁部がわずかに外反する。774・775は底部のみであるが比較的小型と思われる。772の内面にはススが付着しており灯明皿として使用されたものと思われる。

### 蓋

第78図776～783は蓋である。皿と同様に出土量は少なく小片である。776・777は口径約20cm程度の大型のものであり、回転ヘラケズリされた天井部から口縁部でわずかな段を有し、端部近くで屈曲する。端部は三角形を呈すもの（776）と平坦になるもの（777）の差がある。783は細片であるが、天井部はミガキを施している。778の内面にはススが付着する。

### 黒色土器

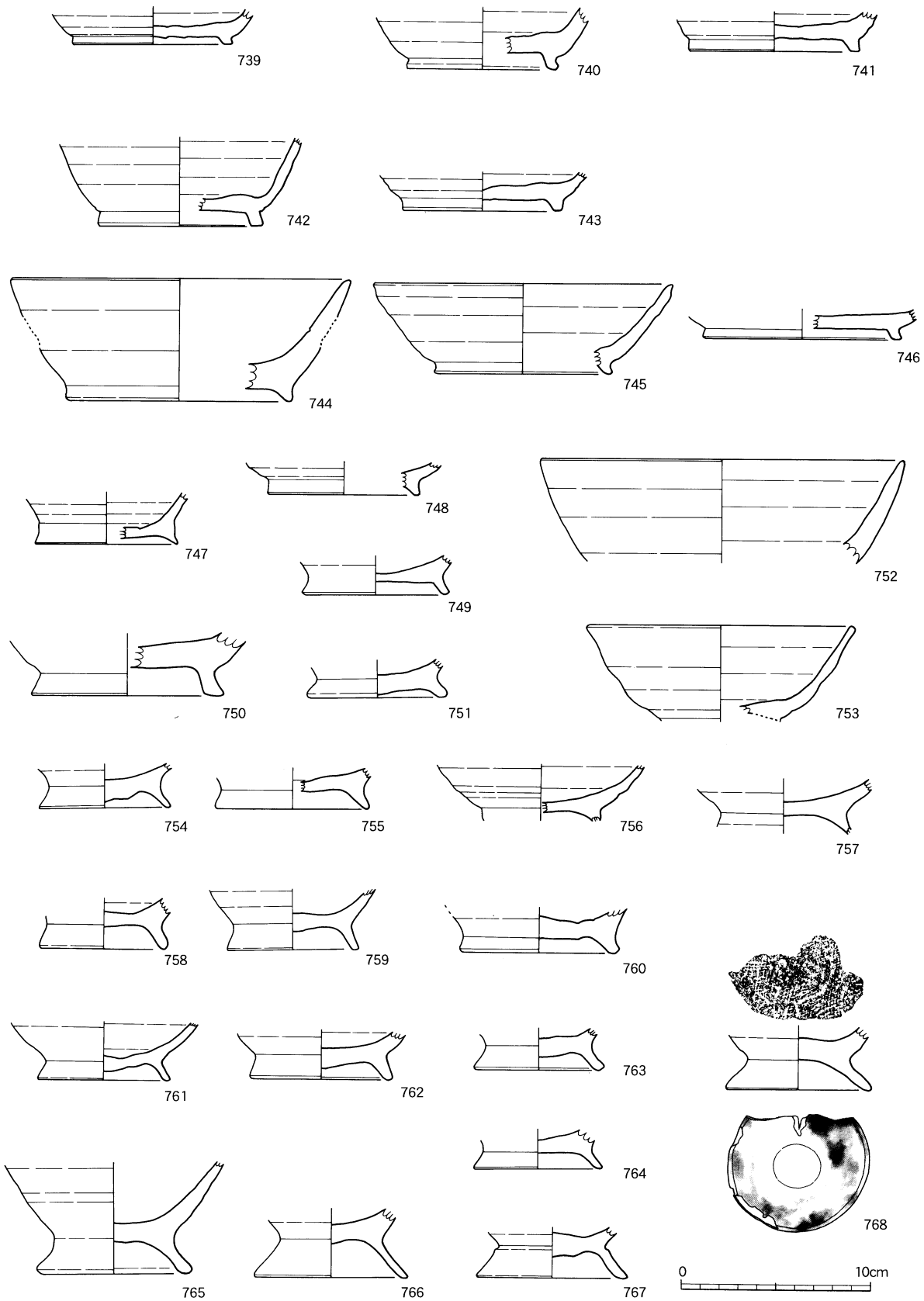
いわゆる内黒土師であり皿もしくは坏と壙が出土しているが、これも量的には少なく小片のみであった。第78図784～786は皿もしくは坏であり、他は壙である。784・785は底部及び体部の内外面をヘラミガキが施されている。壙の高台は短いもの（787）のほか、高く「ハの字」状に開くもの（791・793）がある。

### 内朱土器

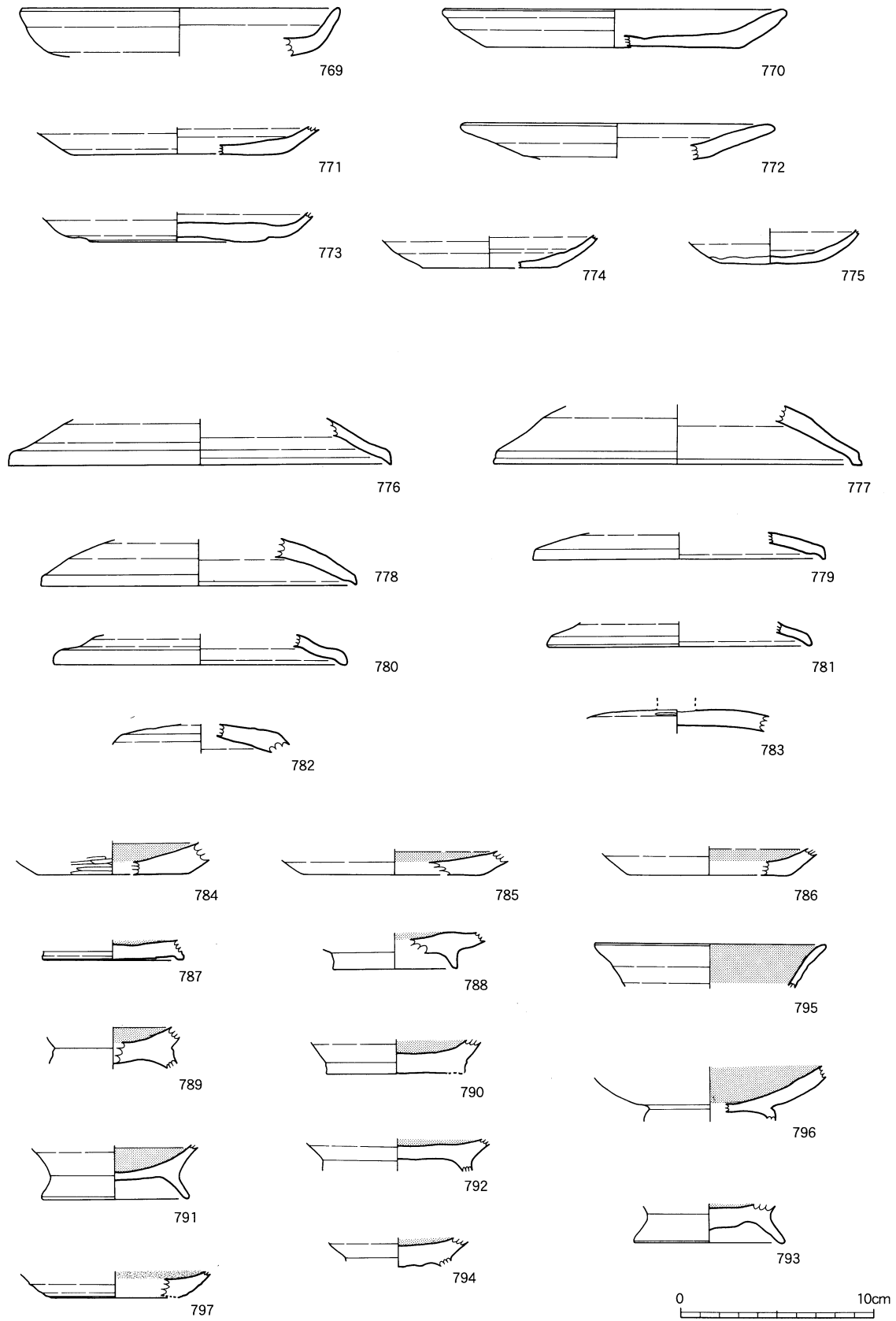
797は皿であり、ヨコナデされた内面に赤色顔料が施されている。体部は内湾気味に立ち上がるようである。包含層では唯一点のみの出土であった。

### 甕類

いわゆる甕形を呈する甕の他に、全体の形は不明確ながら鍋形の器形を呈するものがあり、器面に多量のスス等が付着していることより、甕と同様の煮炊具と判断してここでは甕類として取り扱った。また土師器の坏や壙において、第1調査地点と第2調査地点の形態差が認められたことから各々調査地点ごとに図示した。第1調査地点が第79図、第2調査地点が第80図である。



第77図 平安時代の遺物（4）（壺）



第78図 平安時代の遺物（5）（皿・蓋・黒色土器）

甕類は以下の3類に区分できる。

1類（第79図798～804，第80図811～818）

口縁はなだらかに屈曲し、くの字状あるいはL字に近い口縁を呈し、長胴の胴部をもつと推定される。口縁部は内外面ともヨコナデが施され、胴部内面はヘラケズリ、外面はハケメが施される。801・803には頸部内面にもヘラケズリの前にハケメが施されている。口径は24cmを越す大型品と15cm程度の小型品がある。

2類（第79図805～808，第80図819～820）

全体的に器壁が厚く肥厚した口縁部で頸部での屈曲が強く、内面では頸部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内外面ともヨコナデ、胴部内面はヘラケズリが施されるのが多いが、807の内面にはミガキが施されている。胴部外面はナデ調整が施されている。1類と同様に大型と小型のものが認められる。

3類（第79図809～810，第80図821～827）

同一個体である821と822から判断して鍋形の器形を呈するもので、丸底の底部からなだらかな曲線を描いて口縁に到るもの（809・810）と、胴部上位の頸部付近でわずかに直口して口縁に到るもの（821～824）とが認められる。胴部内面はヘラケズリが施され、胴部外面及び口縁部内外面はナデ調整が施される。器面にはススが多く付着している。

第1調査地点と第2調査地点の甕類を比較すると、2類と3類の出土割合が逆転しており、第1調査地点で少なかった鍋形の3類が、第2調査地点で増加し、逆に2類は第1調査地点で多く第2調査地点で少なくなっている。

### 鉢

底径10cm～12cmの平坦な底部からほぼ直口気味に立ち上がるもの（829・832）と、内湾気味に立ち上がるもの（833・835）とがみられ、口縁部はいずれも直線的に開き端部に到る。器面調整は縦方向のヘラケズリ（829）やミガキ（832）のほかハケメ調整（833）を施したものが認められる。底面は829がケズリで古い様相がみられるほか、ハケメ調整（833）やナデ（832）などが施されている。内面はいずれもヨコナデが施されている。なお833の底面や外面にはススが付着しているほか、底面には十字形と思われるヘラ記号が認められる。837と832は赤褐色を呈し、他は黄白色を呈している。出土量は第1調査地点が多く、835・837の2点が第2調査地点出土であり、他は全て第1調査地点の出土である。

### 鉄鉢

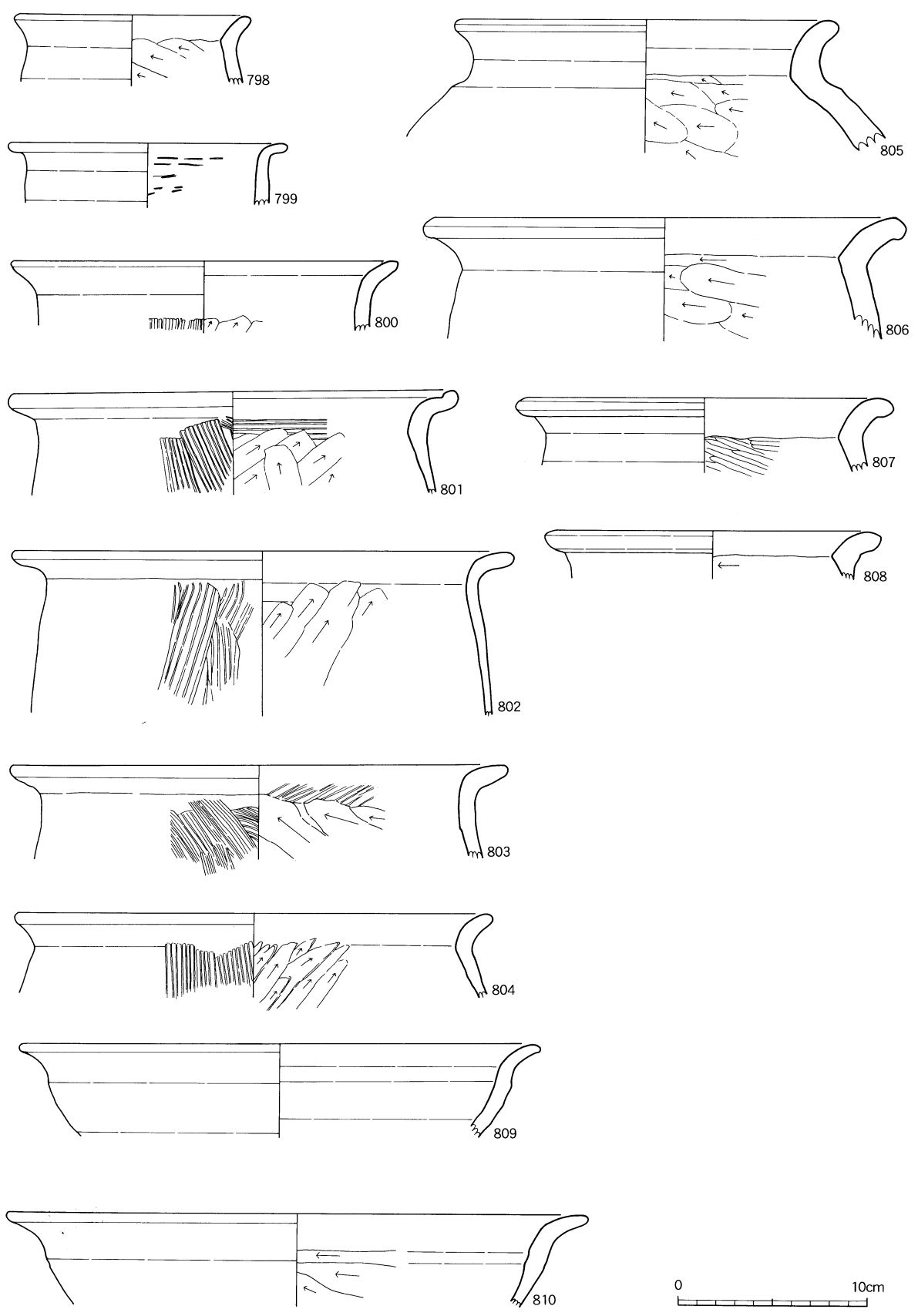
839はわずかな細片であるが、復元器形から鉄鉢と推定される。体部内面はミガキが施され、口縁部及び外面はヨコナデが施されている。精製した胎土が使用されている。840は細礫が多い粗い胎土が使用され、器面には細かいハケメ調整が施されている。

## 3. 須恵器

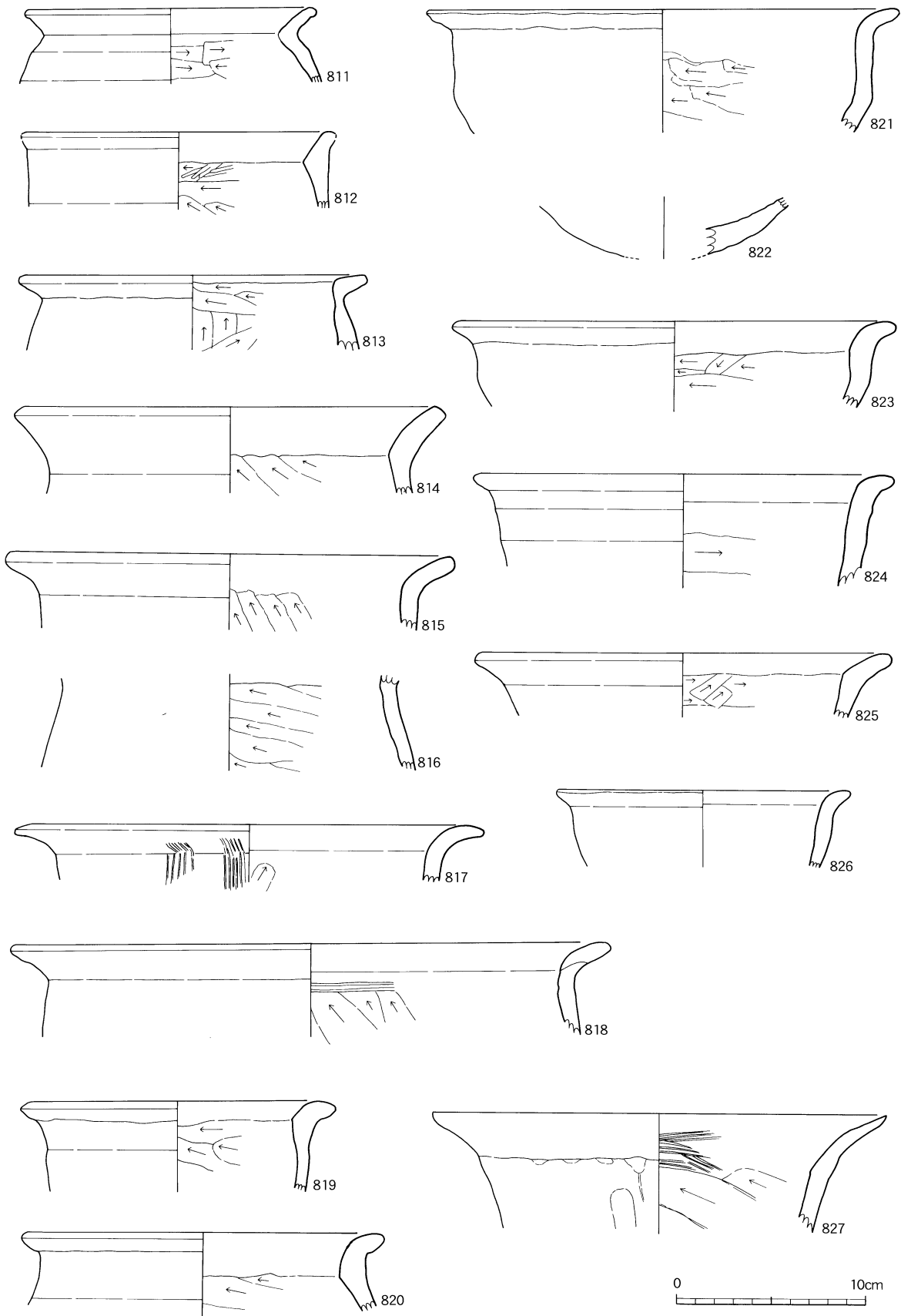
出土した須恵器は蓋・坏・皿・壺・甕などがみられ、平安時代を主としたものであるが、一部古い様相を呈すものも認められた。

### 蓋

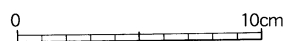
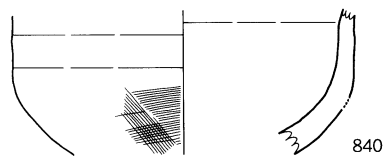
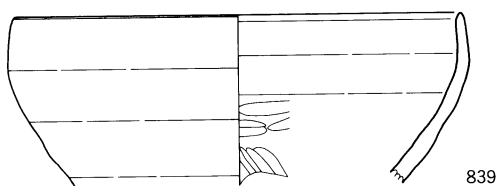
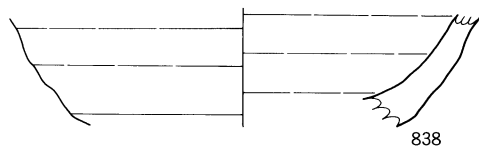
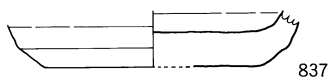
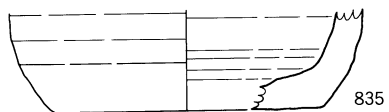
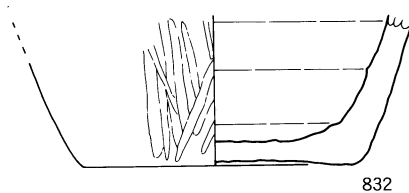
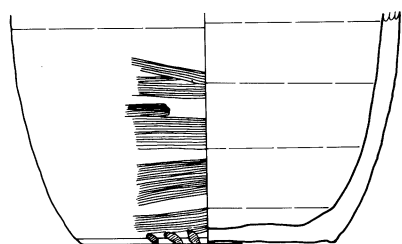
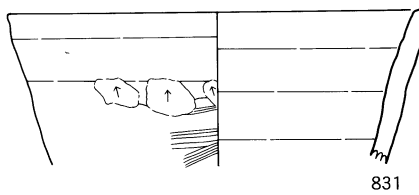
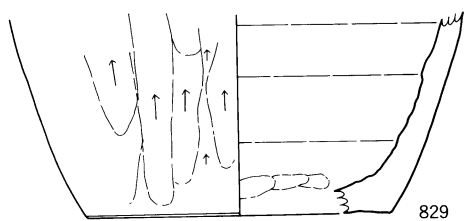
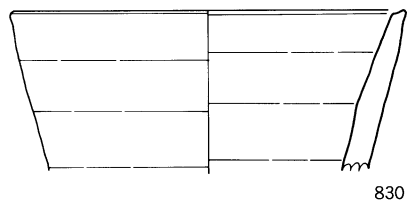
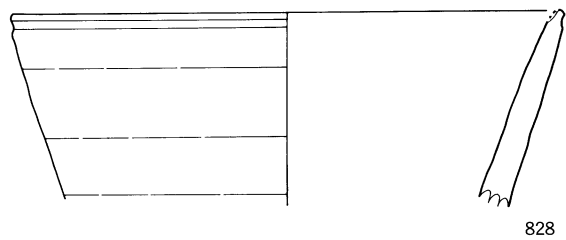
第82図841～851は蓋及びその一部である。841は他のものと異なり天井部から口縁部が屈曲



第79図 平安時代の遺物（6）（甕類1）



第80図 平安時代の遺物（7）（甕類2）



第81図 平安時代の遺物（8）（鉢）

して明瞭な稜があり器高が高く、坏蓋ではなく壺蓋の可能性が考えられるものである。天井部内面は磨かれた痕が認められ転用硯となっている。842～846と850は天井部からなだらかに口縁部にいたるもので端部は細くなるものと丸味をもつものがある。843及び844は天井部内面に墨が付着しており転用硯となっている。つまみには宝珠様のつまみや平坦なものも存在する。848のつまみは淡赤褐色を呈した生焼けである。いずれも小片が多いが、845のみ半分大の破片であり、口縁径13.3cm、器高2.4cmを測る。

#### 坏

高台が付かないもの（852～855）と、付くもの（856～861）とがある。852は底部から口縁部が直線的に立ち上がるもので、底面はナデ調整を施している。8世紀末から9世紀初頭のものと思われる。853～855はわずかに丸味をもって口縁部が立ち上がる。852は口径12cm、底径9cm、器高3.3cmを測る。856は完形品であり、口径10.6cm、高台径7cm、器高3.3cmを測る。857は口縁部がわずかに外反する。底部の器壁が厚い859と860は口縁部が内湾気味に立ち上がるものであり、坏というより壺の器形に近い。

#### 皿

少量出土している。863は口径約18cm、器高2.2cmを測り、口縁部はわずかに外反する。調整はナデ調整であり、内部底面には磨られた痕跡が認められ転用硯の可能性も考えられる。864は底部と口縁の境が明瞭でなく丸味をもつ。865～867は黄白灰色を呈した生焼けのものであり、同一個体の可能性もある。口縁部はやや丸味をもって立ち上がり、口縁端部近くでわずかに外反する。復元口径は18cm、器高は2.3cmである。調整はナデを施している。

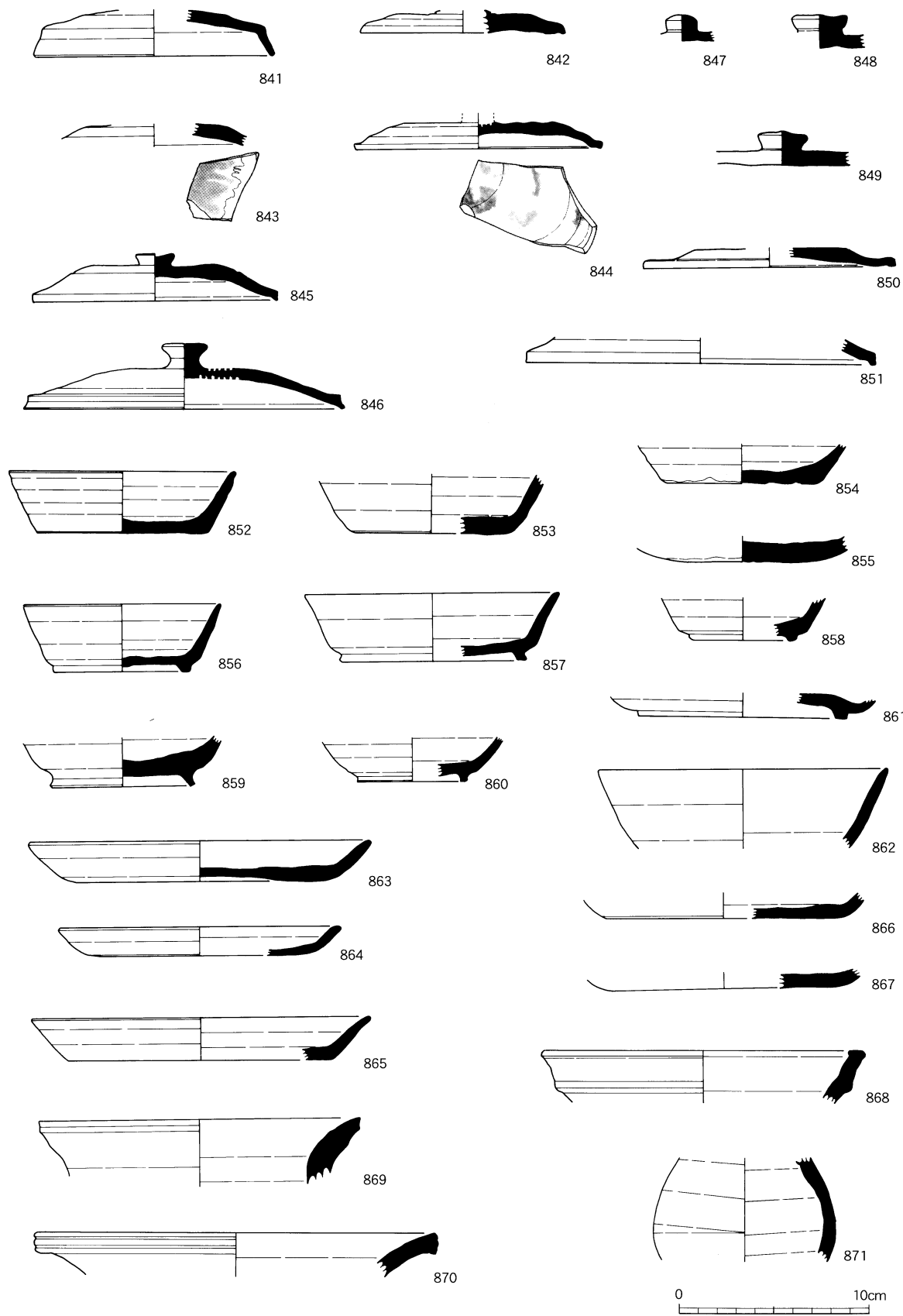
#### 壺

口縁部は大きく外反するもの（869・870）のほか、頸部で屈曲し垂直気味に口縁部に到るもの（868）がある。871～873は小片であるが小型壺の胴部で、内外面ともにヨコナデ調整を施している。874は底部近く、875～877は肩付近であり、877の器面には平行文タタキがありその後部分的にナデ消している。

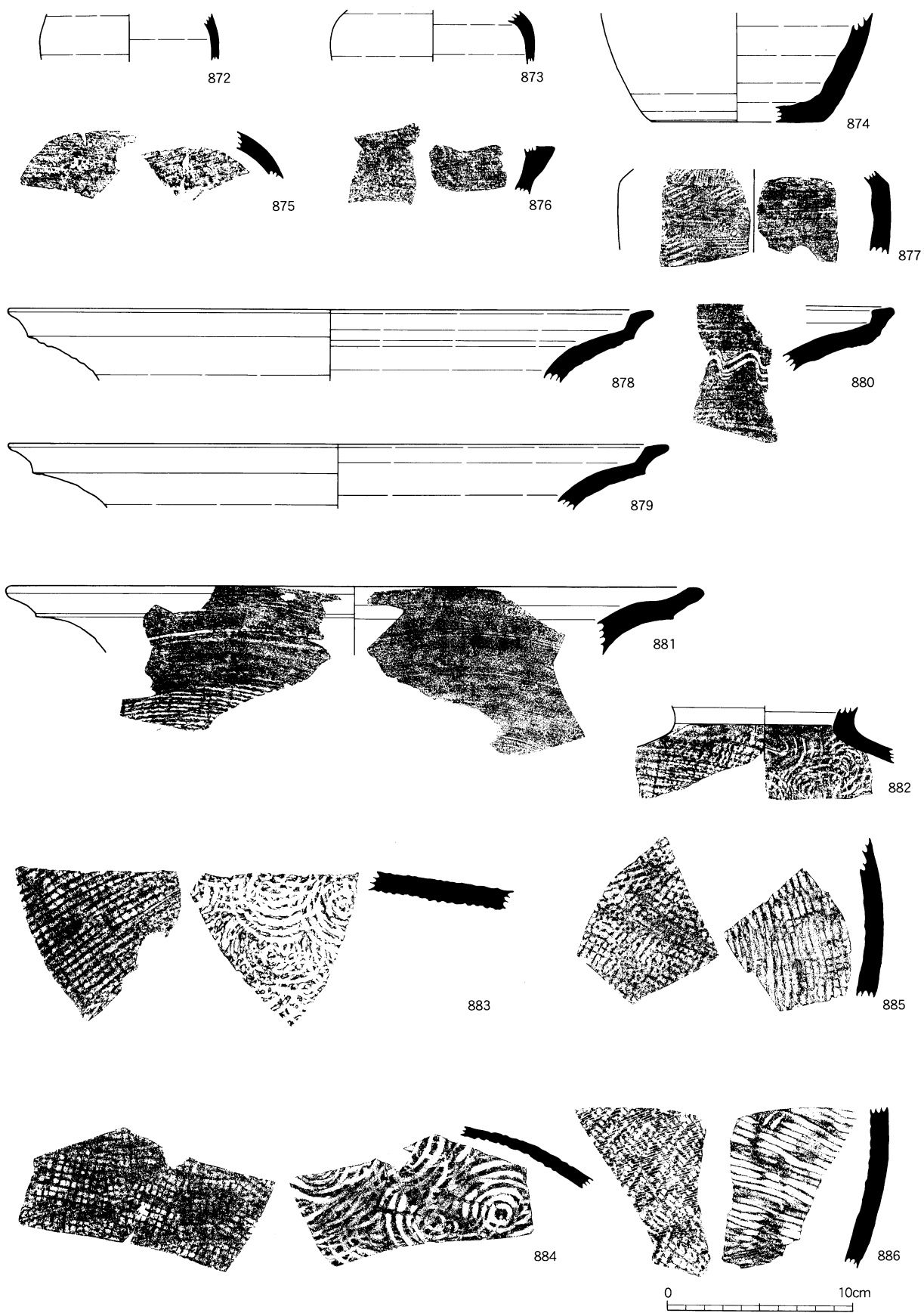
#### 甕

第83図878～881は復元口径30cmを越える大型甕の口縁部であるが、小片のため口径の信頼性は少ない。いずれも口縁部近くで屈曲するもので、880には屈曲部の直下に櫛描波状文が施されている。882は肩から頸部にかけてのものであり、外面に格子目タタキ、内面には同心円当て具痕が残る。883～886も器面に格子目タタキが施されたものであり、内面は肩部が同心円、胴部下半が平行文当て具痕が残る。887は大型甕の頸部であり、上位に櫛描波状文が認められる。888の内面には同心円当て具痕を指ナデした痕が明瞭に残る。889～895は器面に平行文タタキ痕、内面には同心円当て具痕が残る肩部であり、このうち893～895は同一個体の可能性がある。また896～899も同一個体と思われるもので内面には平行文当て具痕が残る。901～903の肩部も内面には同心円当て具痕が残るが、904は胴部下位であるが同心円当て具痕が施されている。902の内面は当て具痕を一部ナデ消し、903は器面全体のタタキ痕をナデ消している。902は黄褐色を呈した生焼けである。905は黄橙色を呈した生焼けのもので内面に当て具痕が、器面にはハメケ調整が施されている。小片であり判断しにくいですが、横瓶の可能性が考えられる。

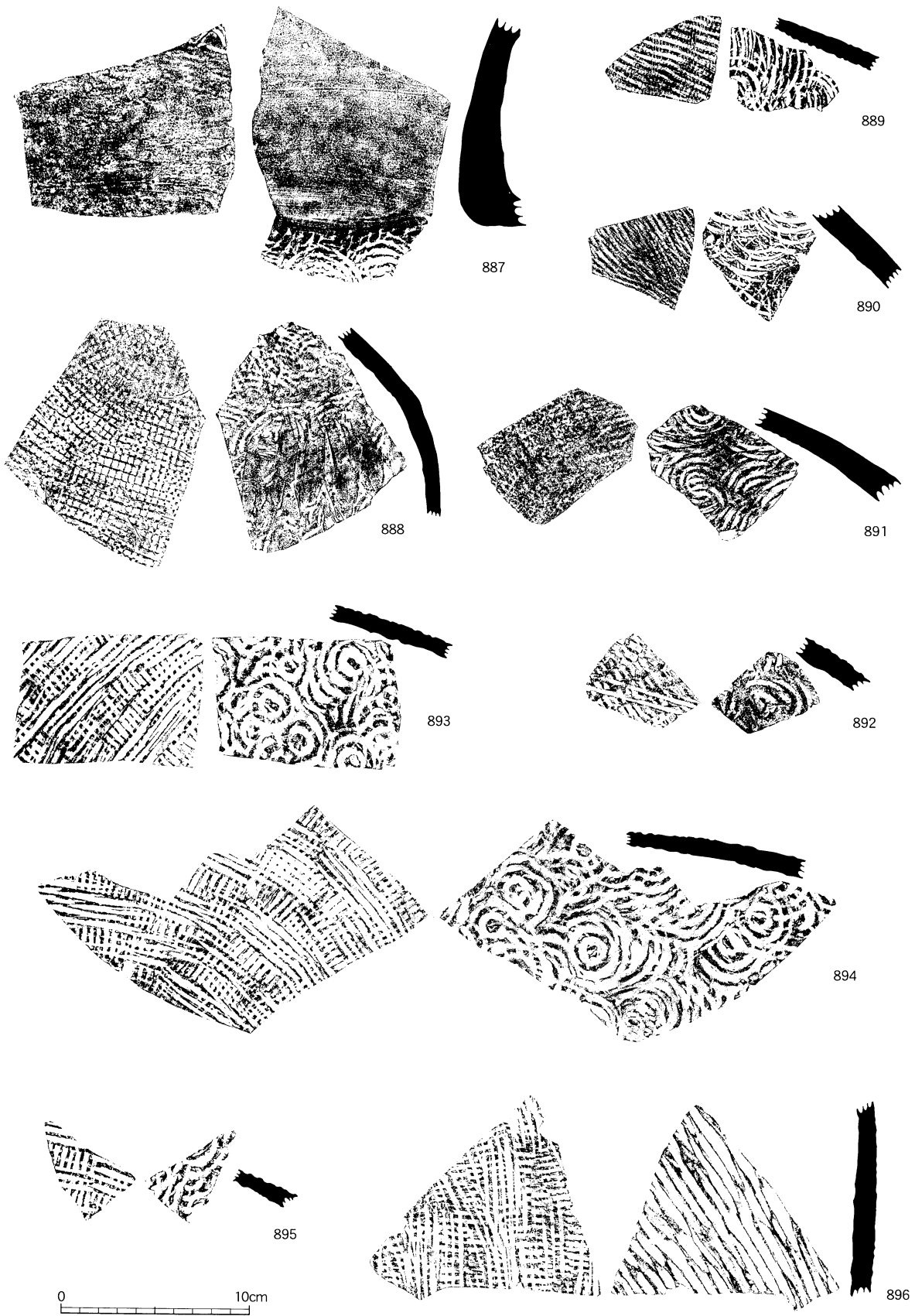




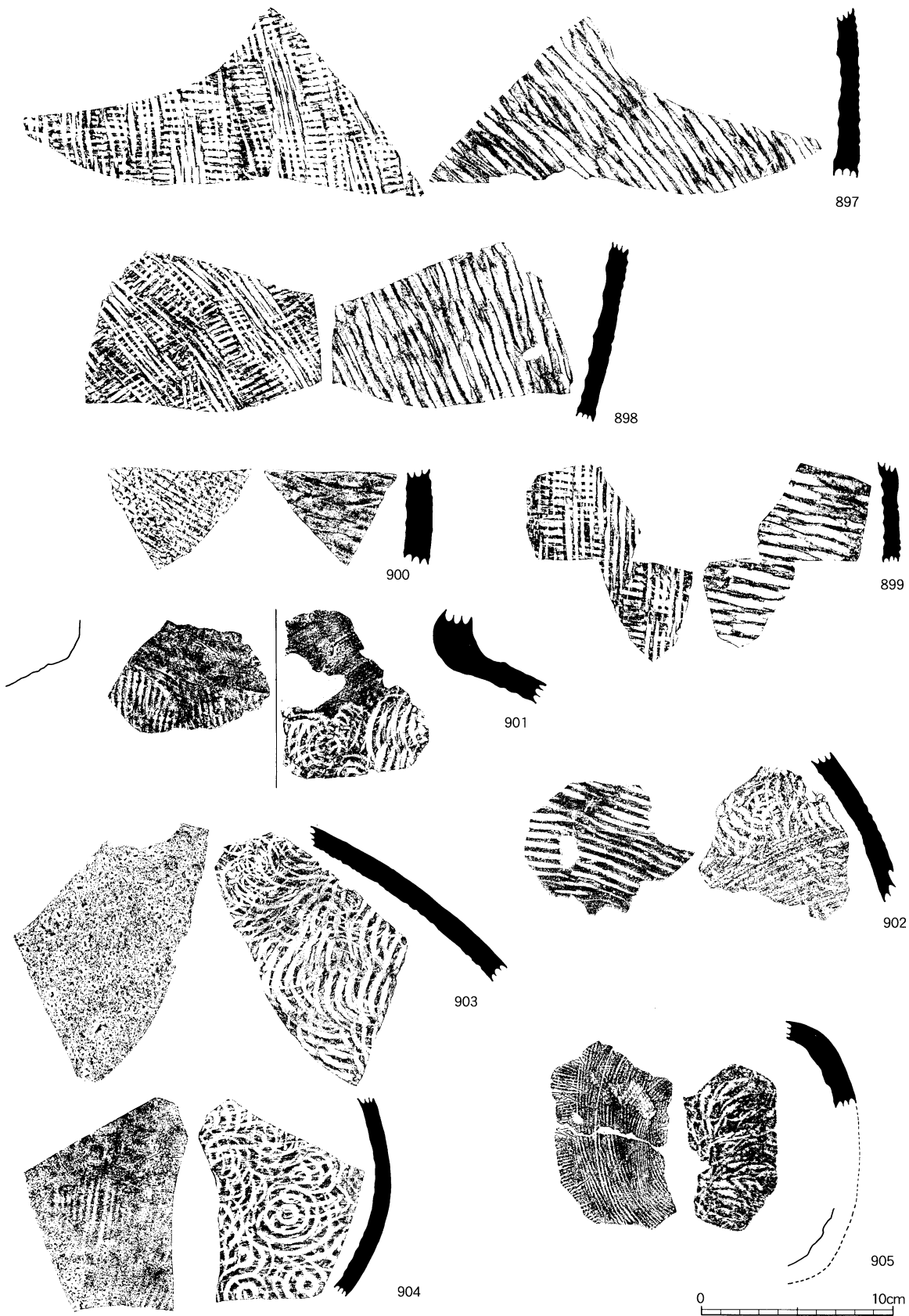
第82図 平安時代の遺物（9）（須恵器1）



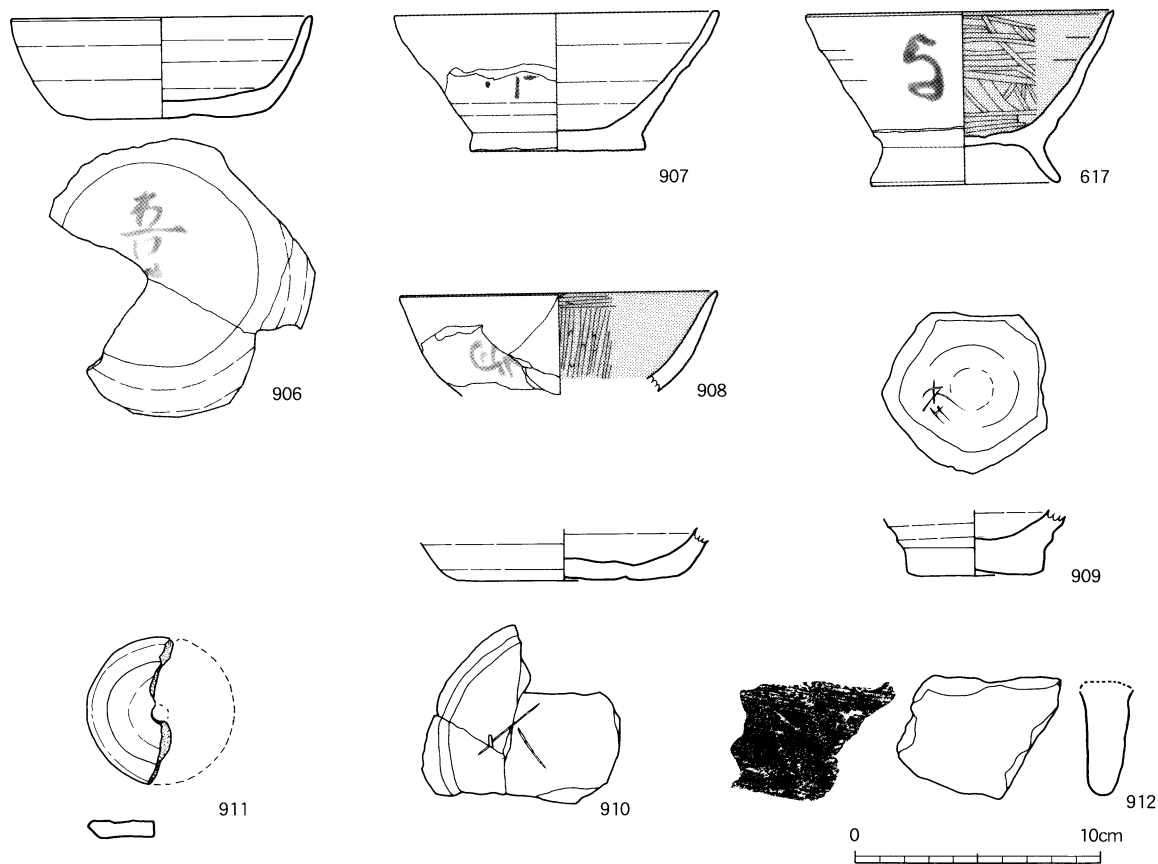
第83図 平安時代の遺物 (10) (須恵器2)



第84図 平安時代の遺物 (11) (須恵器3)



第85図 平安時代の遺物 (12) (須恵器4)



第86図 平安時代の遺物 (13) (墨書・刻書土器ほか)

#### 4. 墨書土器・刻書土器

計志加里遺跡からは4点の墨書土器と2点の刻書土器が出土している。

617は内黒土師器碗の体部にやや肉太の筆致で「与」の墨書を施す。4点出土している墨書土器のうち、唯一遺構に伴い出土した。906は復元口径12.4cm、器高4.1cm、底径8.4cmの坏である。体部にヨコナデを施し、ヘラ切り離しの底部に「吾」の文字を墨書している。907は復元口径13.6cm、器高5.8cm、底径7.2cmの充実高台を持つ碗である。直線的に立ち上がる体部に細めの筆致の墨書が認められるが、文字上部分が欠損しているため、判読不能である。908は復元口径12.7cmの内黒土師器碗である。体部にヨコナデが施され、内湾ぎみに立ち上がる体部とやや外反する口縁部を持つ。体部やや下側に、口縁部を下にした倒位の状態の「物」の墨書が確認できる。909は底径5.5cmの充実高台碗である。見込み部分に鋭利な工具で刻書されているが、文字の判読は不能である。内面にはススが付着する。910は復元口径9cmの土師器坏である。底部ヘラ切り離した後、丁寧な調整が施され、底部に「人」あるいは「入」もしくは「T」（記号）の刻書を施す。909の刻書よりやや太めの工具による。

#### 5. その他の製品

911は土師器碗の底部を再利用し、中央部を穿孔した紡錘車である。

912は移動式カマドの底部分の可能性が考えられ、ススが付着する。

## 6. 瓦

第1調査地点及び第2調査地点のⅢa層遺物包含層から広い範囲にわたり多く出土した。また表土や攪乱層内出土は第3調査地点でも認められた。軒丸瓦・丸瓦・平瓦がみられたが大部分のものは完形品の大きさから比較すると小片であった。包含層から約290点出土した。

### 軒丸瓦

第87図913は唯一の軒丸瓦であるが、裏面など摩滅したもので残存程度が低い。連弁と珠文の一部が認められる部分は暗紫色を呈しており、彩色された可能性が高い。

### 丸瓦

914～919は丸瓦である。凸面には斜格子タタキ（914）や平行タタキ（915）のほか、ケズリ痕が認められるもの（916・919）、あるいはナデ調整が施されたもの（918）がある。内面は布目痕が残る。いずれも側面は分割痕が残存する。

917は剥落した玉縁部の接合面が残る玉縁式丸瓦と考えられる。凸面にはケズリ痕が認められ、凹面には剥落した部分にも布目痕が観察される。側面はヘラケズリにより丸く仕上げている。色調は黄白色（916・917）、赤褐色（919）があり他は青灰色である。

### 平瓦

第88図921～928は平瓦である。凹面には全て布目痕が残る、凸面は縄目タタキ（922・923・925・926・927・928）がほとんどであるが、一部をナデ消したもの（923）のほかタタキ痕が残らないほど入念にナデ調整を施したもの（921）もある。924は縄目タタキと斜格子タタキ両方が残る。920は片側の側面が残るものであるが、他辺を磨り再加工したものである。

## 7. 包含層以外の平安時代遺物

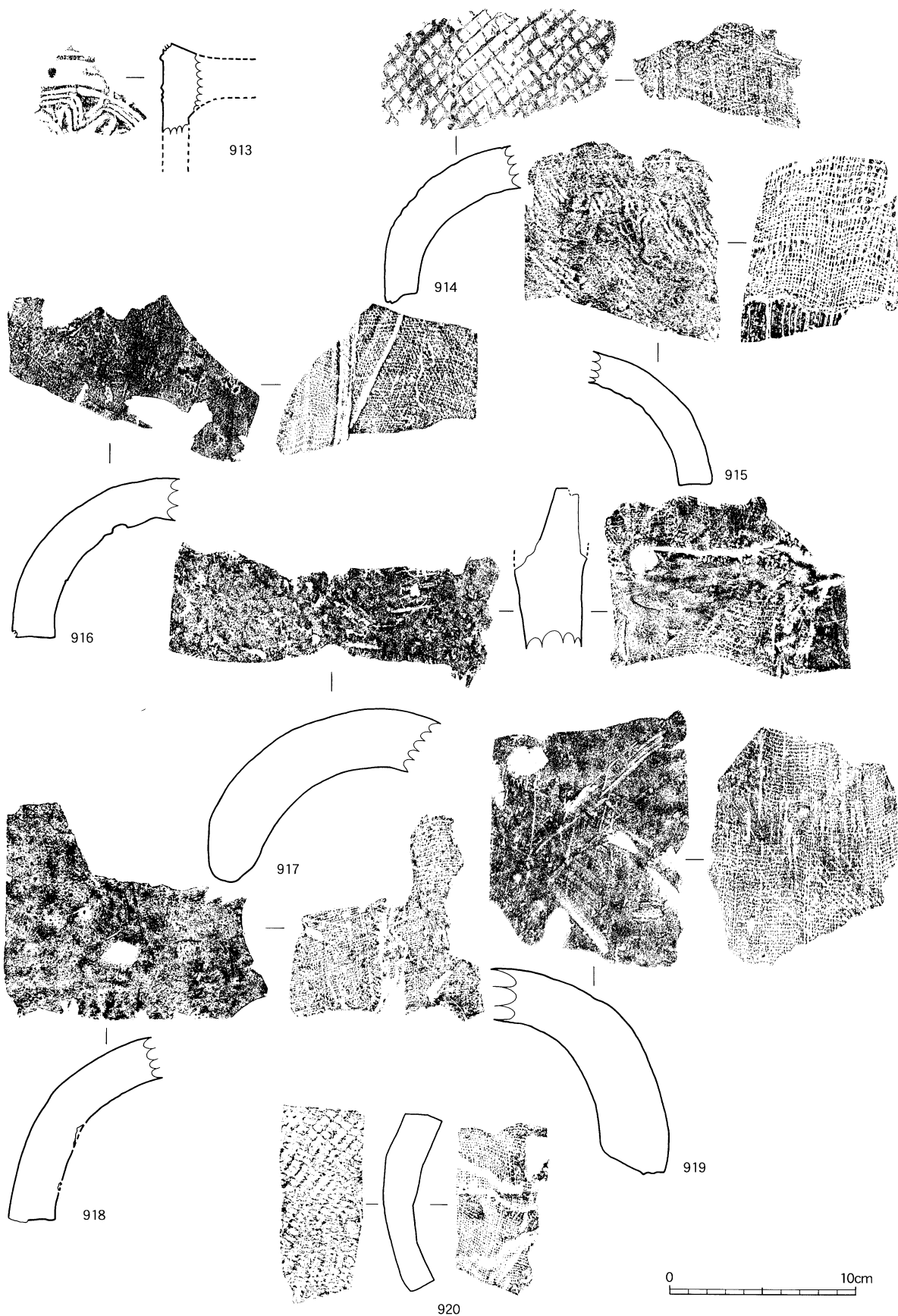
中世の青磁や白磁などが出土して明らかに中世の時期の所産と考えられる溝状遺構や古道跡から出土した平安時代の遺物を第89～91図で示した。

### 土師器

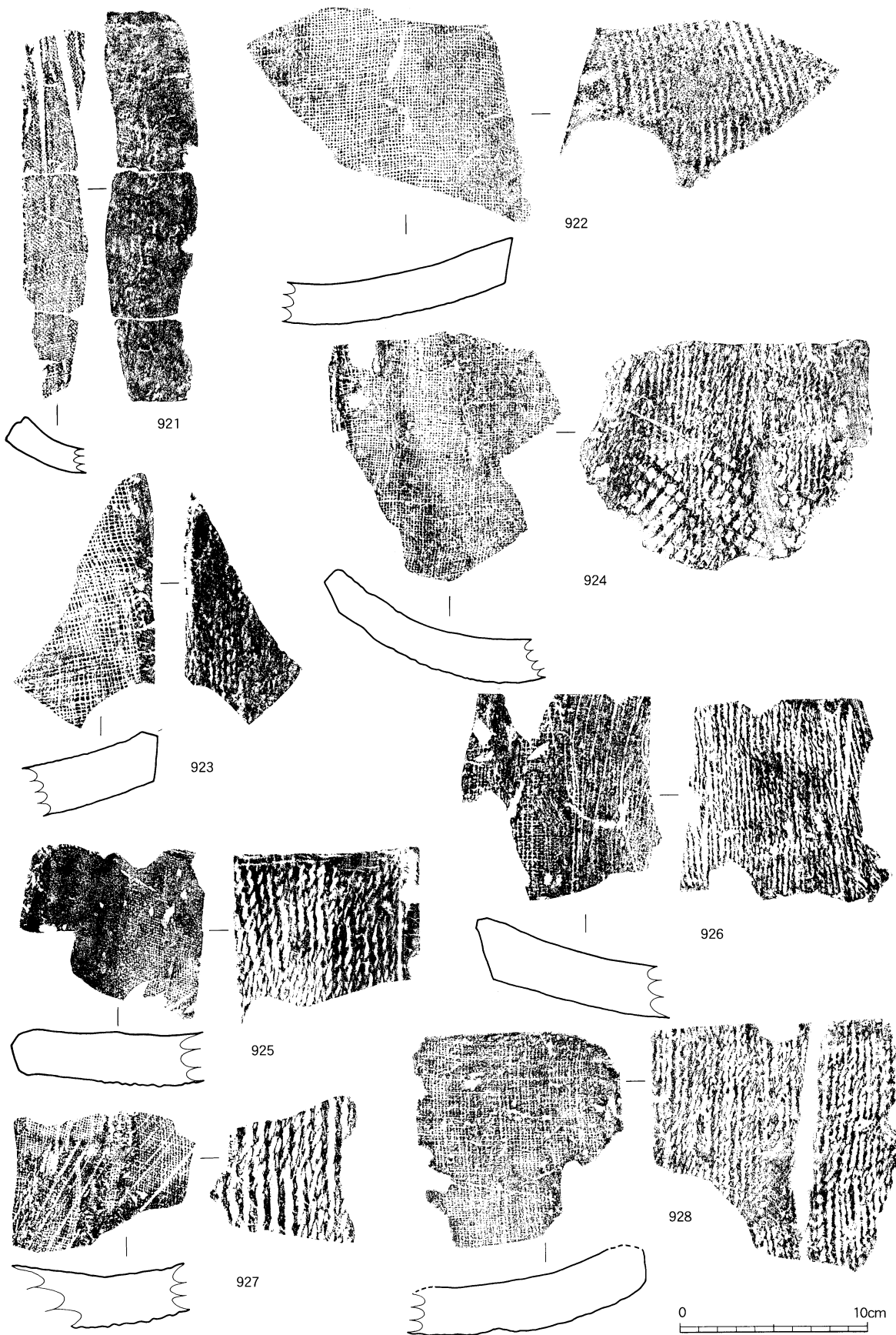
929は口径・底径ともに大きく体部は直線的に開く坏1類であり体部下半は回転ヘラケズリが施される。930は底径が小さい坏2類である。932～934は円板状に厚くなった底部の充実高台碗であり、934は内面にススが付着し灯明皿として利用されている。

935～942は碗である。940は「ハ」の字状に開く比較的高い高台が付き、体部は内湾気味に立ち上がり下半部で稜をつくる。口縁部上位はわずかに外反し、端部は丸く仕上げる。法量は口径13.2cm、器高6.3cm、高台径8cmを測る。

943～952は黒色土器である。このうち943～945は溝状遺構12の近接した位置から出土したものである。943の法量は口径10.8cm、器高3.6cm、高台径5.8cmを測り、高台は低く端部を丸く仕上げ、体部は内湾するものである。944は法量が口径15.4cm、器高5.7cm、高台径7.2cmを測り、高台は低く体部は丸く内湾するものである。内外面とも丁寧なヘラミガキが施されているが、焼きは行われてなく、色調は内外面とも赤褐色を呈する。器形及び調整から黒色土器として製作されたものと判断される。945の復元口径は14.4cmを測り、946～952は底部である。このなかで952は極めて小さな低い高台が付き、他とは全く異なる印象を受ける。953は内朱土器の坏もしくは皿である。954は甕であり、胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリが施されている。

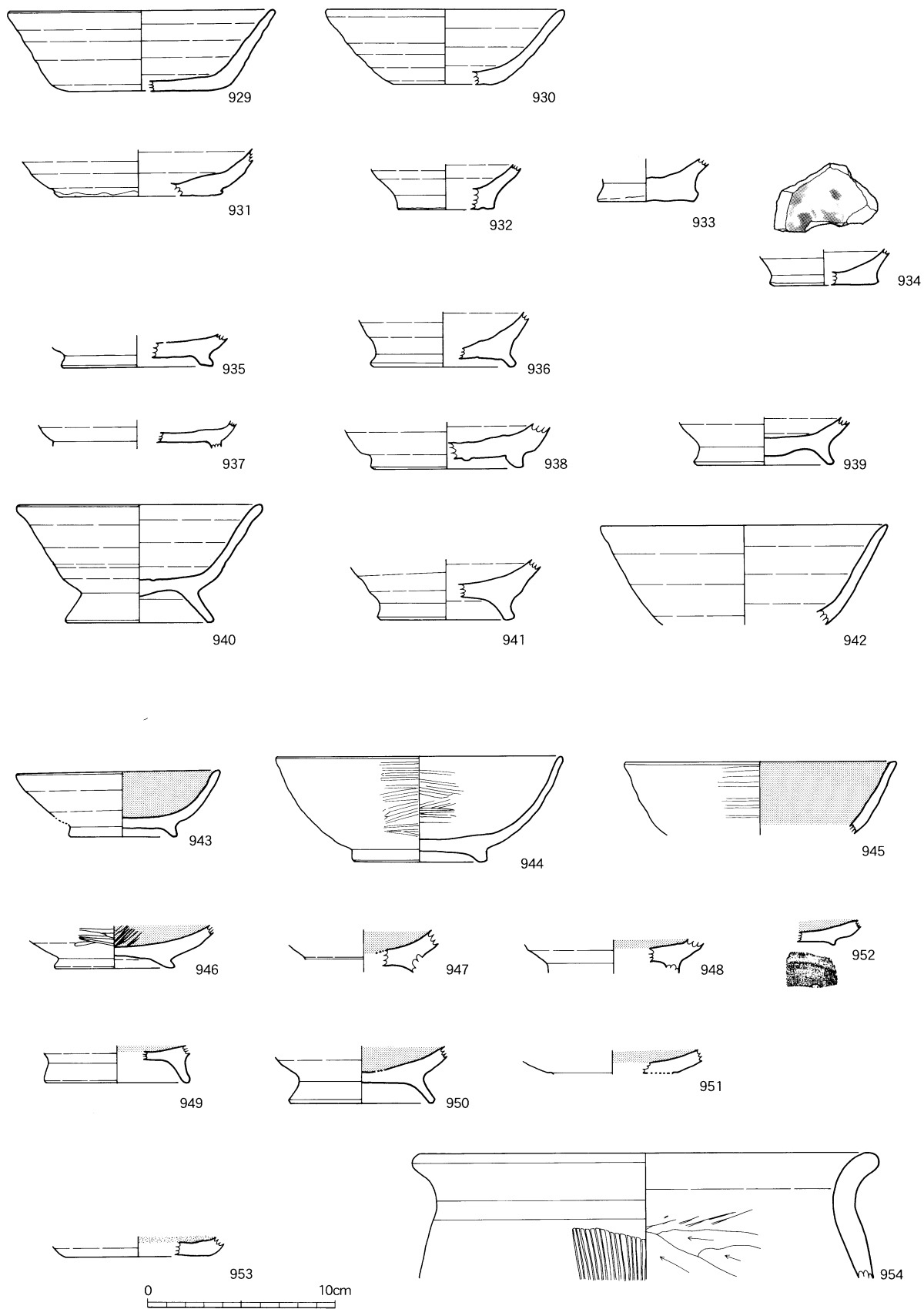


第87図 平安時代の遺物 (14) (瓦1)

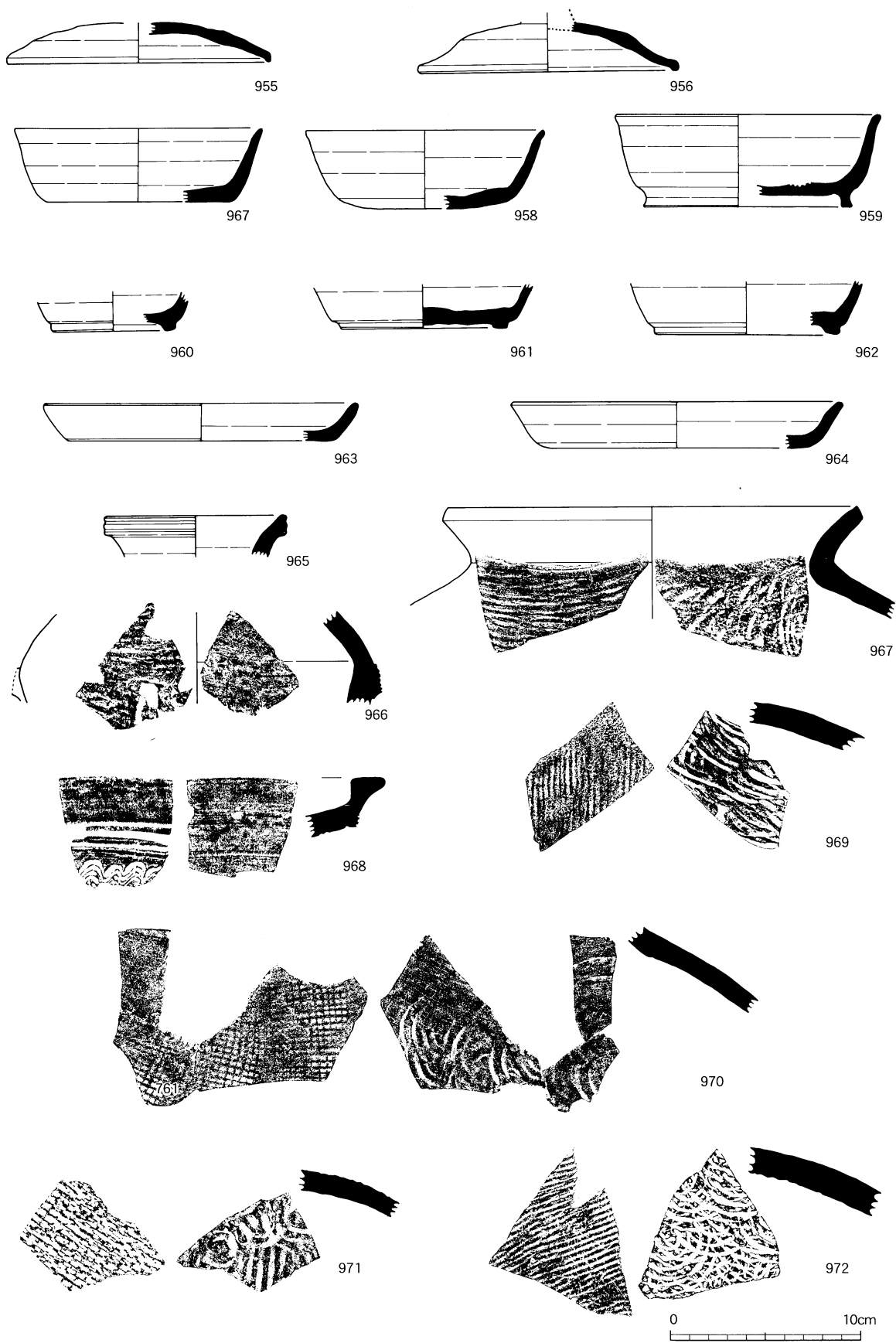


第88図 平安時代の遺物 (15) (瓦2)

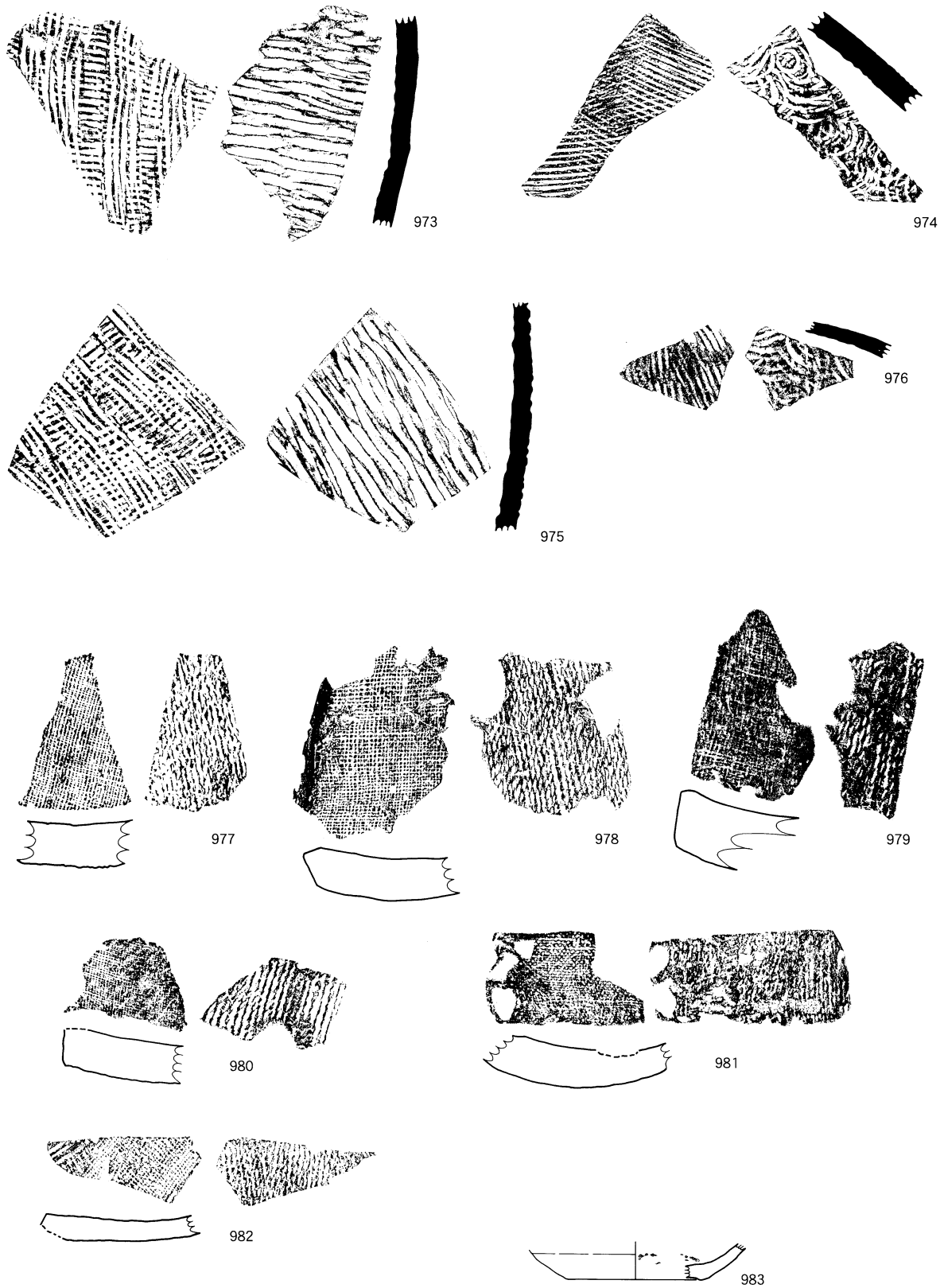




第89図 平安時代の遺物 (16) (包含層以外1)



第90図 平安時代の遺物 (17) (包含層以外2)



第91図 平安時代の遺物 (18) (包含層以外3)

## 須恵器

955・956は蓋であり、955の口径は14cmを測り天床部はナデ調整を施す。957・958の坏は体部が内湾気味に立ち上がり端部近くでわずかに外反するもので、957は白灰色を呈した生焼けである。959～962は高台付きの坏であり、959は体部が内湾気味に立ち上がり端部近くでわずかに外反する。

963・964の皿はいずれも白灰色を呈した生焼けである。965は壺の口縁部、966は肩付近である。967は黄白色を呈し焼成が良くない甕の口縁部であり、口縁は短く外反する。器面には平行文タタキと同心円当て具痕が残る。968は大きく屈曲する口縁部直下に櫛描波状文が施される。969～975は甕の胴部であり、器面には格子目タタキ（969～971）や平行文タタキ（972～976）が施され、内面には胴部上位に同心円当て具痕が、下半には平行文当て具痕が観察される。

## 瓦

977～981は平瓦の小破片であり、凹面にはいずれも縄目タタキ、凸面には布目痕が残る。981は端面と平行する他辺を磨り整形したもので凸凹両面と端面にススが付着している。982は凸面の縄目に硬く焼成され、厚さも須恵器と類似する薄さである。

## 越州窯青磁

983は小片ながら本遺跡で1点のみ出土した越州窯青磁である。体部は内湾気味に立ち上がる。小片のためか外面の下半は無釉であり、内面には淡緑褐色の釉がかかり細かい貫入がみられる。見込みには目跡が観察される。

第23表 包含層出土遺物観察表（1）

挿図 番号	遺物 番号	器種	出土区・層		口径	底径	高台径	器高	調整		備考	残存率	注記 番号
									外 面	内 面			
73	634	蓋	19	Ⅲ	20.6				ヘラミガキ	ヘラミガキ			3390
	635	坏	19	Ⅲ	18.8		13.0	5.2	ヘラミガキ	ヘラミガキ			3391
	636	坏	15	Ⅲ		12.7				底部ミガキ			5253
74	637	坏	8	Ⅲ	(14.6)	8.6		5.2	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	2/3	3625
	638	坏	7	Ⅲ	(14.6)	(9.4)		4.9	ヨコナデ	ヨコナデ		1/2	1356
	639	坏	7	Ⅲ	(13.8)	(8.6)		3.95	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/2	1296
	640	坏	7	Ⅲ	(12.0)	8.4		4.0	回転ヘラ・ナデ	ヨコナデ			1295
	641	坏	18	Ⅲ		(8.8)			ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ		1/8	7681
	642	坏	9	Ⅲ下		8.4			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転ヘラ切り		2580
	643	坏	8	Ⅲ		8.0			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/4	2923
	644	坏	9	Ⅲ		(8.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り・スス付着		1667
	645	坏							回転ヘラ	ナデ	底部整形		
	646	坏	7	Ⅲ		8.8			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		1269
	647	坏	9	Ⅲ	(12.6)				ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ		1/8	4270
	648	坏	8	Ⅲ		(9.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転ヘラ切り		3625
	649	坏	18	Ⅲ		(10.4)			回転ヘラ・ナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		8473
	650	坏	7	Ⅲ		(8.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転ヘラ切り	1/8	2144
	651	坏	14	Ⅲ		(9.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	6432
	652	坏	15	Ⅲ		8.6			ヨコナデ	ヨコナデ	底部整形		5216
	653	坏	16	Ⅲ		(10.6)			ヘラミガキ	ヘラミガキ		1/8	6286
	654	坏	13	Ⅲ		(6.8)			ヨコナデ・ヘラケズリ	ナデ	底部ミガキ外面・スス付着		5551
	655	坏	8	I B		8.0			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		793
	656	坏	15	Ⅲ		8.7			ヨコナデ	ヨコナデ・工具痕	回転ヘラ切り・ヘラ記号		5200
	657	坏	18	Ⅲ		(8.0)			ケズリ		底部整形	1/8	7767
	658	坏	8	Ⅲ		(8.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	3503
	659	坏	13	Ⅲ		7.4			回転ヘラ	ヨコナデ	底部整形		5545
660	坏	14	Ⅲ		(10.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5813	
661	坏	9	Ⅲ		(7.8)			回転ヘラ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	4370	
662	坏	8	Ⅲ下		(8.2)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部整形	1/8	3793	
663	坏	8	Ⅲ		(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	3584	
664	坏	9	I B		(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	273	
665	坏	13	Ⅲ		(8.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5564	
666	坏	8	Ⅲ		(7.8)			ヨコナデ	ヨコナデ			3581	
667	坏	14	Ⅲ		(9.2)			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5805	
668	坏	19	Ⅲ		9.0			ナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7176	

第24表 包含層出土遺物観察表 (2)

挿図 番号	遺物 番号	器 種	出土区・層	口径	底径	高台径	器高	調 整		備考	残存率	注記 番号		
								外 面	内 面					
75	669	坏	14	Ⅲ		(7.6)		4.95	ヨコナデ	ヨコナデ		1/4	5854	
	670	坏	18	Ⅲ	(10.4)			3.1	ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	7878	
	671	坏	16	Ⅲ	(12.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	3968	
	672	坏	15	Ⅲ	(14.3)				ヨコナデ	ヨコナデ	内外面スス付着	1/8	5198	
	673	坏	17	Ⅲ	(12.8)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	7581	
	674	坏	8	I B	(14.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	内外面スス付着	1/8	844	
	675	坏	17	Ⅲ	(12.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	外面スス付着	1/8	6749	
	676	坏	7	Ⅲ	(14.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	1267	
	677	坏	17	Ⅲ	(12.9)				ヨコナデ	ヨコナデ	外面スス付着	1/8	8236	
	678	坏	17	Ⅲ	(12.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	外面赤色顔料?	1/8	7562	
	679	坏	17	Ⅲ	(12.2)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	6731	
	680	坏	14	Ⅲ		(7.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5697	
	681	坏	13	Ⅲ		(7.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5582	
	682	坏	17	Ⅲ		(7.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り・外面スス付着	1/8	8275	
	683	坏	14	Ⅲ		(8.8)			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5964	
	684	坏	15	Ⅲ		8.1			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5258	
	685	坏	14	Ⅲ		(7.5)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5853	
	686	坏	14	Ⅲ		(7.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5715	
	687	坏	13	Ⅲ		7.6			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5487	
	688	坏	16	Ⅲ		(8.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	6563	
	689	坏	13	Ⅲ		(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5498	
	690	坏	17	Ⅲ		(6.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7584	
	691	坏	18	Ⅲ		(7.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部整形	1/8	7458	
	692	坏	18	Ⅲ		(8.5)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7343	
	693	坏	18	Ⅲ		(7.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7233	
	694	坏	16	Ⅱ		(6.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	3910	
	695	坏	35T	Ⅲ		(6.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	89	
	696	坏	17	Ⅲ		5.6			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	6667	
	697	坏	7	Ⅲ		(6.2)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7651	
	698	坏	18	Ⅲ		(7.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7321	
	699	坏	16	Ⅲ		6.0			ヨコナデ	スス付着・ヨコナデ	ヘラ記号	1/8	3209	
	76	700	坏	16	Ⅲ	(12.4)	4.8		3.8	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	2/3	6159
701		坏	16	Ⅲ	12.4	6.5		4.5	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	2/3	3471	
702		坏	16	Ⅲ	(12.2)	6.0		3.8	ヨコナデ	ヨコナデ		2/3	3907	
703		坏	16	Ⅲ		5.6			ヨコナデ	ヨコナデ	外面スス付着		6161	
704		坏	16	Ⅲ		(6.0)			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	6569	
705		坏	13	Ⅲ		(7.2)			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5513	
706		坏	16	Ⅲ		5.5			ヨコナデ	ヨコナデ			6523	
707		坏	17	Ⅲ		(5.6)			ヨコナデ	ヨコナデ			7579	
708		坏	18	Ⅲ		(6.2)			ヨコナデ	ヨコナデ			7694	
709		坏	16	Ⅲ		(5.4)			ヨコナデ	ヨコナデ			3922	
710		坏	9	I B		5.0			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		522	
711		坏	17	Ⅲ		(5.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6678	
712		坏	15	Ⅲ		(5.2)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り・内面スス付着		5366	
713		坏	18	Ⅲ		(5.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7273	
714		坏	9	Ⅲ		5.4			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		1701	
715		坏	17	Ⅲ		6.0			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6815	
716		坏	17	Ⅲ		(5.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6690	
717		充実高台塊	17	Ⅲ	(12.4)		(6.4)		4.6	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/3	7587
718		充実高台塊	17	Ⅲ			6.8			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/4	8229
719		充実高台塊	17	Ⅲ			(8.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7594
720		充実高台塊	17	Ⅲ			(6.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り・底部圧痕	1/5	6827
721		充実高台塊	16	Ⅲ			5.2			ヨコナデ	ヨコナデ	底部静止ヘラ切り・外側スス付着	1/3	6171
722		充実高台塊	15	Ⅲ			5.8			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/3	5430
723		充実高台塊	16	Ⅱ			5.4			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		3917
724		充実高台塊	16	Ⅱ			5.8			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/3	3918
725		充実高台塊	16	表			(5.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	
726		充実高台塊	10	Ⅲ			(6.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7028
727		充実高台塊	17	Ⅲ			(6.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6723
728		充実高台塊	18	Ⅲ			6.6			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		3643
729		充実高台塊	16	Ⅲ			6.5			ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	回転ヘラ切り		6342
730		充実高台塊	18	Ⅲ			(6.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7720
731		充実高台塊	16	Ⅲ			(5.9)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6626
732	充実高台塊	18	Ⅲ			(5.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7474	
733	充実高台塊	16	Ⅲ			(6.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6331	
734	充実高台塊	18	Ⅲ			5.6			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7220	
735	充実高台塊	16	Ⅲ			5.7			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6164	
736	充実高台塊	16	Ⅲ			5.3			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7149	
737	充実高台塊	18	Ⅲ			4.9			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7269	
738	充実高台塊	16	表			5.4			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り			
77	739	塊	15	Ⅲ				8.5	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		5257	
	740	塊	9	Ⅲ				(8.0)	ヨコナデ	ヨコナデ			1755	
	741	塊	8	Ⅲ				9.0	ヨコナデ	ヨコナデ			3496	
	742	塊	9	Ⅲ				(8.8)	ヨコナデ	ヨコナデ			1710	
	743	塊	9	Ⅲ				8.5	ヨコナデ	ヨコナデ			4204	
	744	塊	18	Ⅲ	(17.8)		(11.6)		6.5	ヨコナデ	ヨコナデ			7416
	745	塊	18	Ⅲ	(15.6)		(9.0)		4.8	ヨコナデ	ミガキ			7910

第25表 包含層出土遺物観察表 (3)

挿図 番号	遺物 番号	器 種	出土区・層	口径	底径	高台径	器高	調 整		備考	残存率	注記 番号			
								外 面	内 面						
77	746	埴	18	Ⅲ		(10.4)		ヨコナデ	ヨコナデ			7730			
	747		16	Ⅲ		(7.6)		ヨコナデ	ヨコナデ			3960			
	748		18	Ⅲ		(8.1)		ヨコナデ	ヨコナデ			8461			
	749		17	表		7.8		ヨコナデ	ヨコナデ	外面スス付着					
	750		17	Ⅲ		10.0		ヨコナデ	ヨコナデ				3977		
	751		19	Ⅲ		7.5		ヨコナデ	ヨコナデ				3389		
	752		18	Ⅲ	(19.1)			ヨコナデ	ヨコナデ				8741		
	753		18	Ⅲ	(13.6)		(6.4)	5.1	ヨコナデ	ヨコナデ	内面スス		7239		
	754		17	Ⅲ		6.9			ヨコナデ	ヨコナデ	内外面スス付着		6777		
	755		18	Ⅲ		(8.1)			ヨコナデ	ミガキ			7313		
	756		16	Ⅲ		(6.1)			ヨコナデ	ヨコナデ	内外面スス付着		6345		
	757		18	Ⅲ					ヨコナデ	ミガキ			7339		
	758		16	Ⅲ		6.8			ヨコナデ	ヨコナデ			6294		
	759		17	表		7.0			ヨコナデ	ヨコナデ					
	760		17	Ⅲ		8.4			ヨコナデ	ミガキ	外面スス付着		7580		
	761		18	Ⅲ		7.0			ヨコナデ	ヨコナデ			7225		
	762		34T	Ⅲ		7.6			ヨコナデ	ヨコナデ	内外面スス付着		6		
	763		18	Ⅲ		6.9			ヨコナデ	ヨコナデ			7364		
	764		18	Ⅲ		6.8			ヨコナデ	ヨコナデ			7454		
	765		16	Ⅲ		8.0			ヨコナデ	ミガキ	内面スス付着		6348		
	766		16	Ⅲ		8.0			ヨコナデ	ヨコナデ			6627		
	767		17	Ⅲ		8.0			ヨコナデ	ヨコナデ			6791		
	768		13	Ⅲ		7.6			ヨコナデ	布目圧痕	内外面スス付着・幅目2×3mm		5472		
	78		769	皿	9	Ⅲ下	(16.4)			ヨコナデ	ミガキ	底部ミガキ	1/10	2813	
			770		3	Ⅱ	(16.6)	(13.2)	2.0		ミガキ	底部ヘラケズリ・ヨコナデ	1/4	169	
			771		15	Ⅲ		(10.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部整形	1/4	5375
			772		14	Ⅲ	(16.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	底部ヘラケズリ・内面スス付着	1/8	5665
			773		7	Ⅲ		11.4				ミガキ	回転ヘラ切り	1/4	1322
774		15	Ⅲ			(7.1)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5233		
775		16	Ⅲ			5.6			ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/3	3909		
776		8	Ⅲ		(20.0)				回転ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ		1/4	3531		
777		14	Ⅲ		(19.2)				回転ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ		1/4	6391		
778		14	Ⅲ		(16.4)				回転ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	内面スス付着	1/8	5862		
779		18	Ⅲ		(15.2)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/10	8551		
780		17	Ⅲ		(15.3)				ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ		1/10	8412		
781		17	Ⅲ		(13.8)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/10	8441		
782		15	Ⅲ						ヘラケズリ	ヘラケズリ	外面スス付着		5276		
783		14	Ⅲ						ミガキ	ミガキ			6405		
784		19	Ⅲ			(8.0)			ミガキ	ミガキ			7465		
785		17	Ⅲ			(9.4)			ヘラミガキ	ミガキ			7561		
786		8	Ⅲ			(18.3)				ミガキ			4904		
787		7	Ⅲ				(7.6)			ヘラミガキ			1344		
788		7	Ⅲ				(6.6)		ヘラケズリ	ヘラミガキ			1326		
789		14	Ⅲ						ヨコナデ	ヘラミガキ			5875		
790		18	Ⅲ				(7.2)		ヨコナデ	ヘラミガキ			7314		
791		17	Ⅲ				(7.7)		ヨコナデ	ヘラミガキ			7915		
792		16	Ⅲ						ヨコナデ	ヘラミガキ			6629		
793		17	Ⅲ				(7.8)		ヨコナデ	ヘラミガキ			3972		
794		17	Ⅲ						ヨコナデ	ヘラミガキ			6733		
795		8	Ⅲ		(12.0)				ヨコナデ	ヘラミガキ	外面スス付着		3534		
796		7	Ⅲ						ミガキ・ヘラケズリ	ヘラミガキ			1350		
797	16	Ⅲ		(7.8)			ケズリ	ミガキ			6169				
79	798	甕	9	1B	(12.6)			ヨコナデ	ケズリ	スス付着		342			
	799		8	Ⅲ	(14.8)			ヨコナデ・ナデ	ハケメ・ナデ・ケズリ	スス付着		1066			
	800		8	1B	(20.6)			ヨコナデ	ハケメ・ケズリ			755			
	801		6	Ⅲ	(24.0)			ヨコナデ	ハケメ・ケズリ			1099			
	802		9	Ⅲ	(26.8)			ハケメ	ヘラケズリ			4365			
	803		8	1A	(26.6)			ハケメ	ヘラケズリ			890			
	804		7	Ⅲ	(25.4)			ハケメ	ヘラケズリ			2176			
	805		9	Ⅲ	(20.4)			ヨコナデ	ハケナデ・ケズリ			1712			
	806		7	Ⅲ	(25.6)			ヨコナデ	ハケナデ・ケズリ			1461			
	807		9	1B	(19.8)			ヨコナデ・ナデ	ヘラケズリ			253			
	808		10	Ⅲ	(17.8)			ヨコナデ	ヘラケズリ			7034			
	809		9	Ⅲ下	(27.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	外面スス付着		4095			
	810		7	Ⅲ上	(31.0)			ヨコナデ	ケズリ	スス付着		4723			
80	811	甕	15	Ⅲ	(15.4)			ヨコナデ	ケズリ	スス付着		5288			
	812		15	Ⅲ	(12.6)			ヨコナデ	ケズリ	スス付着		5913			
	813		14	Ⅲ	(18.8)			ヨコナデ	ケズリ	スス付着		5797			
	814		17	Ⅲ	(23.0)			ヨコナデ	ケズリ	スス付着		8230			
	815		13	Ⅲ	(23.4)			ヨコナデ	ケズリ			5609			
	816		15	Ⅲ				ハケメ	ケズリ	外面スス付着		5412			
	817		18	Ⅲ	(25.0)			ハケメ	ヨコナデ	スス付着		8694			
	818		16	Ⅲ	(32.0)			ハケメ	ハケメ・ケズリ	内面接合痕		6360			
	819		18	Ⅲ	(16.8)			ヨコナデ	ケズリ			7755			
	820		16	Ⅲ	(19.2)			ヨコナデ	ケズリ			6565			
	821		14	Ⅲ	(25.2)			ヨコナデ	ケズリ	外面スス付着		6013			
	822		14	Ⅲ					ナデ	ケズリ	スス付着		5933		

第26表 包含層出土遺物観察表 (4)

挿図 番号	遺物 番号	器 種	出土区・層		口径	底径	高台径	器高	調 整		備考	残存率	注記 番号	
									外 面	内 面				
80	823	甕	14	Ⅲ	(23.6)				ヨコナデ	ケズリ			5743	
	824	甕	16	Ⅲ	(22.4)				ヨコナデ	ヨコナデ			6197	
	825	甕	14	Ⅲ	(17.0)				ヨコナデ	ケズリ	スス付着		5928	
	826	甕	17	Ⅲ	(15.8)				ナデ	ミガキ様	スス付着		8231	
	827	甕	18	Ⅲ	(19.6)				ナデ	ハケメ			7485	
81	828	鉢	8	Ⅲ上	(22.6)				ヨコナデ	ナデ			3657	
	829	鉢	7	Ⅲ		12.4			ヘラケズリタテ	ヨコナデ	底部整形		1072	
	830	鉢	4	Ⅲ	(16.2)				ヨコナデ	ヨコナデ	外面スス付着		110	
	831	鉢	7	Ⅲ	(17.0)				ヨコナデ	ヨコナデ			2184	
	832	鉢	7	Ⅲ		11.0			ヘラミガキ	ヨコナデ	底部整形		1268	
	833	鉢	9	Ⅲ		10.4			ハケメ(底)ハケメ	ナデ	スス付着		1802	
	834	鉢	10	Ⅲ	(10.2)				回転ヘラミガキ	ナデ	底部整形		7955	
	835	鉢	18	Ⅲ	(10.7)				ヨコナデ	ヨコナデ	底部整形・外面スス		7336	
	836	鉢	10	Ⅲ	(9.6)				回転ヘラケズリ	ナデ	付着		7083	
	837	鉢	15	Ⅲ		9.0			ヘラケズリ	ナデ	底部整形		5205	
	838	鉢	9	Ⅲ					ヨコナデ	ヨコナデ	底部整形		1697	
	839	鉄鉢	17	Ⅲ	(19.0)				ヨコナデ・ヘラケズリ	ミガキ			8228	
	840	鉢	8	2号土坑					ハケメ	ナデ	外面赤色顔料		10	
	82	841	須恵器 蓋	15	Ⅲ	(12.8)				ナデ	ヨコナデ	外面スス付着	1/4	3911
842		須恵器 蓋	17	Ⅲ	(11.0)				ナデ	ヨコナデ	硯に転用	1/8	8410	
843		須恵器 蓋	17	Ⅲ					ナデ	ヨコナデ		1/10	8279	
844		須恵器 蓋	17	Ⅲ	(13.2)				ヨコナデ	ヨコナデ	硯に転用・スミ付着	1/8	6780	
845		須恵器 蓋	19	Ⅲ	13.0			2.5	ナデ	ナデ	硯に転用・スミ付着	1/2	7179	
846		須恵器 蓋	13	Ⅲ	(16.9)			3.5	ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5587	
847		須恵器 蓋	18	Ⅲ				1.4	ヨコナデ	ヨコナデ			7719	
848		須恵器 蓋	13	Ⅲ				1.85	ヨコナデ	ヨコナデ			5616	
849		須恵器 蓋	14	Ⅲ				1.8	ナデ	ナデ			5938	
850		須恵器 蓋	14	Ⅲ	(13.4)				ナデ	ナデ		1/8	5868	
851		須恵器 蓋	15	Ⅲ	(18.6)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5390	
852		須恵器 坏	7	Ⅲ	(12.0)	9.0		3.3	ヨコナデ	ヨコナデ		1/3	1274	
853		須恵器 坏	9	Ⅲ下		(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ			2818	
854		須恵器 坏	14	Ⅲ		(7.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部ミガキ	1/8	5798	
855		須恵器 坏	14	Ⅲ			8.0		ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	回転ヘラ切り		5799	
856		須恵器 坏	19	Ⅲ	10.6		7.2	3.3	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	完	7179	
857		須恵器 坏	18	Ⅲ	(13.5)		(10.0)	3.6	ヨコナデ	ヨコナデ		1/3	8376	
858		須恵器 坏	17	Ⅲ			(5.7)		ナデ	ナデ	墨書か?	1/8	3973	
859		須恵器 碗	15	Ⅲ			7.6		ヨコナデ	ナデ			5196	
860		須恵器 碗	18	Ⅲ			(5.8)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	8488	
861		須恵器 坏	16	Ⅲ			(11.0)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	3934	
862		須恵器 碗	16	Ⅲ	(15.2)				ナデ	ヨコナデ		1/8	6564	
863		須恵器 皿	4		17.9	12.6		2.15	ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ		1/2	916	
864		須恵器 皿	8	Ⅲ	(15.0)	(10.4)		1.5	ヨコナデ	ヨコナデ	転用硯か?	1/10	3535	
865		須恵器 皿	8	Ⅶ7	(18.0)	(14.0)		2.3	ヨコナデ	ヨコナデ		1/5	4925	
866		須恵器 皿	8	Ⅲ		(12.0)			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	3568	
867		須恵器 皿	7	Ⅲ		(13.4)			ヨコナデ	ヨコナデ			2304	
868		須恵器 壺	15	Ⅲ	(17.2)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5267	
869		須恵器 壺	18	Ⅲ	(17.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	8360	
870		須恵器 壺	17	Ⅲ	(21.2)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	3970	
871		須恵器 壺	14	Ⅲ					ヨコナデ	ヨコナデ			5833	
83		872	須恵器 壺	14	Ⅲ					ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5815
		873	須恵器 壺	15	Ⅲ					ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5924
	874	須恵器 壺	9	I B		(9.2)			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	420	
	875	須恵器 壺	18	Ⅲ					ヨコナデ	ヨコナデ	底部整形		7700	
	876	須恵器 壺	18	Ⅲ					ヨコナデ	ヨコナデ			7696	
	877	須恵器 壺	17	Ⅲ					タタキの後・ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	6768	
	878	須恵器 甕	16	Ⅲ	(35.2)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	6282	
	879	須恵器 甕	34T	Ⅲ	(36.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	11	
	880	須恵器 甕	18	Ⅲ					ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	7779	
	881	須恵器 甕	18	Ⅲ	(48.0)				タタキの跡・ヨコナデ	ヨコナデ	櫛描き波状文	1/8	7330	
	882	須恵器 甕	15	Ⅲ					格子目タタキ	同心円当て具痕			5293	
	883	須恵器 甕	23	I B					格子目タタキ	同心円当て具痕				
	884	須恵器 甕	18	Ⅲ					格子目タタキ	同心円当て具痕			7265	
	885	須恵器 甕	17	Ⅲ					格子目タタキ	平行文当て具痕			6761	
	886	須恵器 甕	14	Ⅲ					格子目タタキ	平行文当て具痕			5710	
	84	887	須恵器 甕	16	Ⅲ					ヨコナデ	同心円当て具痕			6121
		888	須恵器 甕	8	Ⅲ					格子目タタキ	同心円当て具痕・ナデ	櫛描き波状文		3623
889		須恵器 甕	16	Ⅲ					平行タタキ	同心円当て具痕			6184	
890		須恵器 甕	18	Ⅲ					平行タタキ	同心円当て具痕			7788	
891		須恵器 甕	15	Ⅲ					平行タタキ	同心円当て具痕			5299	
892		須恵器 甕	15	Ⅲ					格子目タタキ	同心円当て具痕			5274	
893		須恵器 甕	16	Ⅲ					平行タタキ	同心円当て具痕			7156	
894		須恵器 甕	16	Ⅲ					平行タタキ	同心円当て具痕			7155	
895		須恵器 甕	34T	Ⅲ					平行タタキ	同心円当て具痕			4	
896		須恵器 甕	17	I					平行タタキ	平行文当て具痕				
85	897	須恵器 甕	16	Ⅲ					平行タタキ	平行文当て具痕			6483	
	898	須恵器 甕	16	Ⅲ					平行タタキ	平行文当て具痕			6483	
	899	須恵器 甕	16	Ⅲ					平行タタキ	平行文当て具痕			6147	

第27表 包含層及び包含層以外の遺物観察表

挿図番号	遺物番号	器種	出土区・層	口径	底径	高台径	器高	調整		備考	残存率	注記番号	
								外面	内面				
85	900	須恵器 甕	16 III					格子目タタキ	平行文当て具痕			6542	
	901	須恵器 甕	9 III					平行タタキ	同心円当て具痕			4432	
	902	須恵器 甕	16 III					平行タタキ	同心円当て具痕			6289	
	903	須恵器 甕	18 III					ナデ	同心円当て具痕			7267	
	904	須恵器 甕	9 III					格子目タタキ・ナデ	同心円当て具痕			4333	
	905	須恵器 甕	19 III					ハケメ	あて具			3394	
86	906	坏	16 III	12.4	8.4		4.1	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ	底面墨書土器		3907	
	907	坏	16 III	13.6	7.2		5.8	ヨコナデ	ヨコナデ	底部整形・墨書土器		3907	
	908		9 I B	(12.7)				ヨコナデ	ミガキ	墨書土器		391	
	909		15 III					ヨコナデ	ヨコナデ	内面刻書土器・スス		5410	
	910	坏	15 III		(9.2)			ヨコナデ	ミガキ	付着		5921	
	911	紡錘車	17 III					ナデ	ナデ	底面刻書土器・スス		8426	
	912	カマドの一部	16 SD3					ナデ	ナデ	付着		7235	
	89	929	坏	18 古道15	14.4	10.4		4.3	ヨコナデ・回転ヘラズリ	ヨコナデ	★を転用	1/3	8154
930		坏	23 表探	(12.8)	(5.2)		4.0	ヨコナデ	ヨコナデ	スス付着			
931		坏	23 表探		(9.0)			ケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ				
932		充実高台塊	18 溝14			(5.0)		ヨコナデ	ヨコナデ			8072	
933		充実高台塊	17 溝13			5.2		ヨコナデ	ヨコナデ			7663	
934		充実高台塊	17 溝13			(5.8)		ヨコナデ	ヨコナデ	内面スス付着		6907	
935		塊	8 I B			8.1		ヨコナデ	ヨコナデ			685	
936		塊	17 溝13			(7.8)		ヨコナデ	ヨコナデ			6861	
937		塊	9 I B					ヨコナデ	ヨコナデ			364	
938		塊	3 II			8.2		ヨコナデ	ヨコナデ			130	
939		塊	17 溝13			7.4		ヨコナデ	ヨコナデ			7010	
940		塊	18 (13.2)			8.0	6.3	ヨコナデ	ヨコナデ			8650	
941		塊	23 溝16			(7.4)		ヨコナデ	ヨコナデ				
942		塊	8 2号土坑	(15.2)				ヨコナデ	ヨコナデ			10	
943		内黒塊	16 溝12	10.8		5.8	3.6	ヨコナデ	ミガキ		2/3	6224	
944		塊	16 溝12	15.4		7.2	5.7	ミガキ	ミガキ		2/3	6223	
945		内黒塊	16 溝12	(14.4)				ミガキ	ミガキ		1/4	6221	
946		内黒塊	18 古道15			6.4		ミガキ	ミガキ			8174	
947		内黒塊	8 I B					ミガキ	ミガキ			852	
948		内黒塊	9 I B					ヨコナデ	ミガキ			285	
949		内黒塊	17 古道15			(7.8)		ヨコナデ	ミガキ		1/8	8112	
950		内黒塊	16 溝12			7.8		ヨコナデ	ミガキ			6239	
951		内黒塊	6 II					ミガキ	ミガキ			1247	
952		内黒塊	3 古道1					ヨコナデ	ミガキ			209	
953		内朱塊	13 溝10		(7.8)			ヨコナデ	ミガキ		1/6	6115	
954		甕	23 表探	(24.4)				ハケメ	ケズリ	スス付着		1/8	
90		955	須恵器 蓋	9 I B・円墓	(14.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/3	3102
		956	須恵器 蓋	17 溝13	(13.8)				ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ		1/8	6844
		957	須恵器 坏	9 I B	(13.0)	(9.6)		3.9	ヨコナデ	ヨコナデ			400
		958	須恵器 坏	14 溝11	(12.6)	(9.0)		4.1	ヨコナデ	ヨコナデ		1/6	5983
		959	須恵器 坏	18 表	(14.8)		(11.0)	5.9	ヨコナデ	ヨコナデ		1/6	
	960	須恵器 坏	18 古道15			(6.6)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/6	8158	
	961	須恵器 坏	18 古道15			(8.8)		ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ		1/6	8288	
	962	須恵器 坏	18 溝16			(9.8)		ヨコナデ	ヨコナデ			8679	
	963	須恵器 皿	9 I B	(16.6)	(14.4)		2.0	ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	382	
	964	須恵器 皿	18 溝14	(17.6)	(14.8)		2.4	ミガキ	ミガキ		1/6	8692	
	965	須恵器 壺	14 溝10					ヨコナデ	ヨコナデ			5989	
	966	須恵器 壺	17 溝13					タタキ	ナデ			7936	
	967	須恵器 甕	8 古道群2	(21.6)				平行タタキ	同心円当て具痕		1/6	2339	
	968	須恵器 甕	16 溝12					ヨコナデ	ヨコナデ	櫛描き波状文		6253	
	969	須恵器 甕	18 溝16					タタキ	同心円当て具痕			8605	
	970	須恵器 甕	15 III					格子目タタキ	同心円当て具痕			5368	
	971	須恵器 甕	18 溝16					格子目タタキ	同心円当て具痕			8630	
	972	須恵器 甕	18 溝16					平行タタキ	同心円当て具痕			8652	
	973	須恵器 甕	14 溝11					平行タタキ	平行文当て具痕			5976	
	91	974	須恵器 甕	17 溝13					平行タタキ	同心円当て具痕			6968
		975	須恵器 甕	16 溝12					平行タタキ	平行文当て具痕			6318
976		須恵器 甕	17 カクラン					平行タタキ	同心円当て具痕			6967	
983		青磁塊	14 溝11		(7.2)			ナデ・無軸	青磁軸	越州窯		5974	

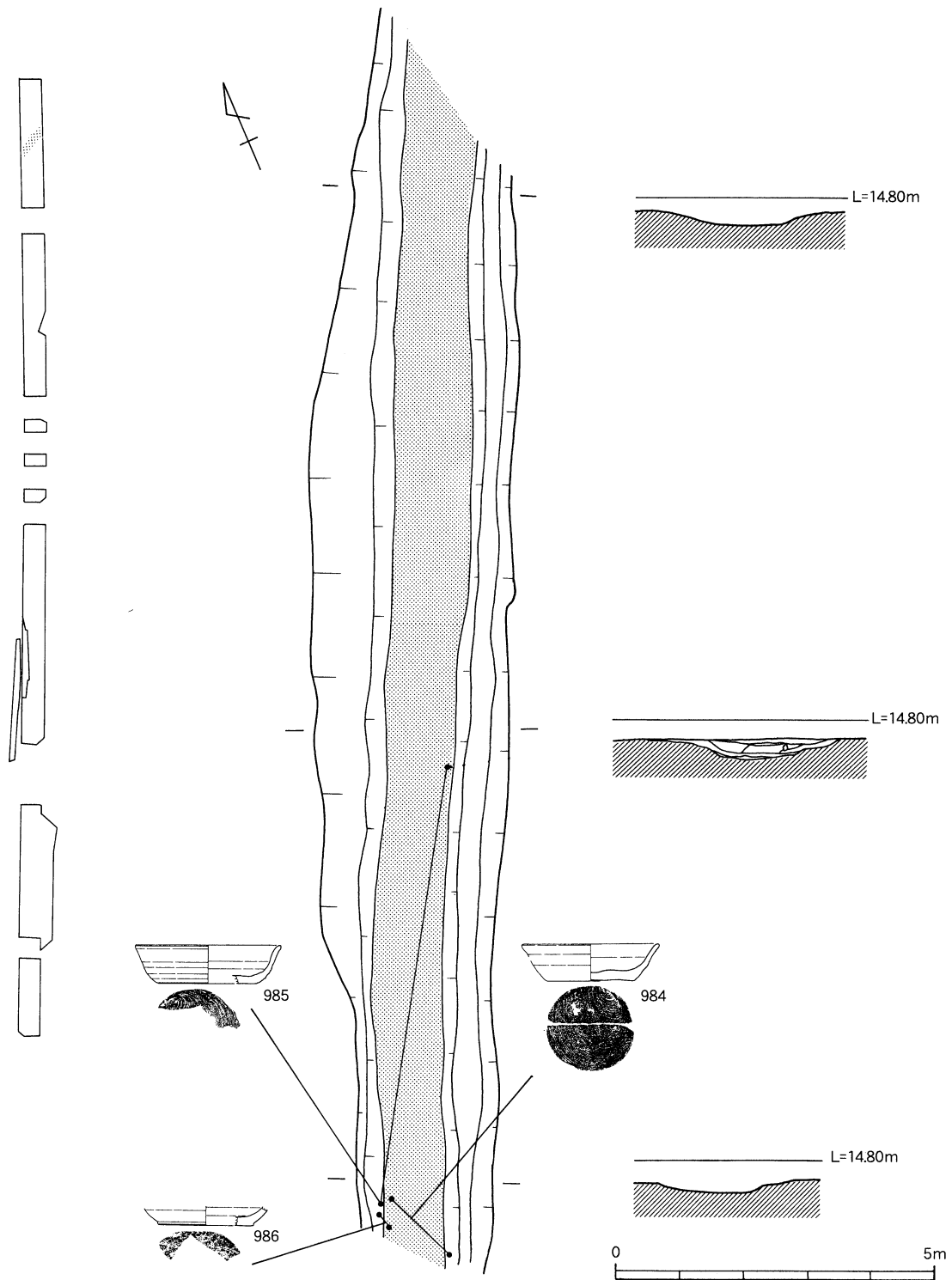
第28表 瓦観察表

挿図番号	遺物番号	器種	出土区・層	調整		備考	注記番号	挿図番号	遺物番号	器種	出土区・層	調整		備考	注記番号			
				外面	内面							外面	内面					
87	913	軒丸瓦	18 溝14			ケズリ 複式連弁	8081	88	924	平瓦	17 III	格子目タタキ	布目	側面整形	6840			
	914	丸瓦	8 III	格子目タタキ	布目	分割痕	4797		925	平瓦			縄目タタキ	布目	側面整形			
	915	丸瓦	17 表探	平行タタキ	布目	分割痕			926	平瓦	18 溝14		縄目タタキ	布目	側面整形	8055		
	916	丸瓦	13 III	ケズリ	布目	分割痕	5533		927	平瓦	10 III		縄目タタキ	布目	側面整形	7095		
	917	丸瓦	15 III	ケズリ	布目	側面整形	5217		928	平瓦	18 溝14		縄目タタキ	布目	側面整形	8017		
	918	丸瓦	18 溝14	ナデ	布目	分割痕	7995		91	977	平瓦	14 SD2		縄目タタキ	布目	側面整形	5992	
	919	丸瓦	17 III	ケズリ	布目	分割痕	8783			978	平瓦	14 SD2		縄目タタキ	布目	側面整形	5990	
	920	丸瓦	9 円墓	格子目タタキ	布目	分割痕	2756			979	平瓦	14 SD1		縄目タタキ	布目	側面整形	5986	
	88	921	平瓦	10 III	ナデ	布目	分割痕			7114	980	平瓦	14 SD1		縄目タタキ	布目	側面整形	5977
		922	平瓦	10 III	平行タタキ	布目	側面整形			7038	981	丸瓦	18 古道15		縄目タタキ	布目	側面整形	8163
		923	平瓦	10 III	タタキ	布目	側面整形		7107	982	瓦	16 表		縄目タタキ	布目			



## 第Ⅷ章 中世の遺構と遺物

中世の時期と考えられる遺構は、Ⅲa層上面でⅡ層黒色土が埋土となって検出されている。遺構には古道跡と溝状遺構があり、調査区域のほぼ全体にわたり発見された。これらの遺構内埋土からは縄文晩期・平安時代に属するものも多く混在したが、最も新しい糸切底の土師器や青磁・



第92図 古道1

白磁・陶器などの遺物であることから中世の時期と判断した。

### 第1節 検出遺構

#### 古道1 (第92図)

第1調査地点の北側部分3区で検出された。通常検出される中世の時期の所産の古道は、本遺跡の他の古道と同様に幅約40～50cm程度の細長い硬化面として検出されるが、これは硬化面の幅が平均120cmを測り、両側の傾斜面を加えると最大幅3mの幅広の古道となる。Ⅲa層黄褐色上面で暗褐色土の溝状の落ち込みとして検出された。古道の方向は東北方向で直線的に20mほど検出された。検出面から硬化面までの深さは約30cmであり両側はゆるい階段状となる。

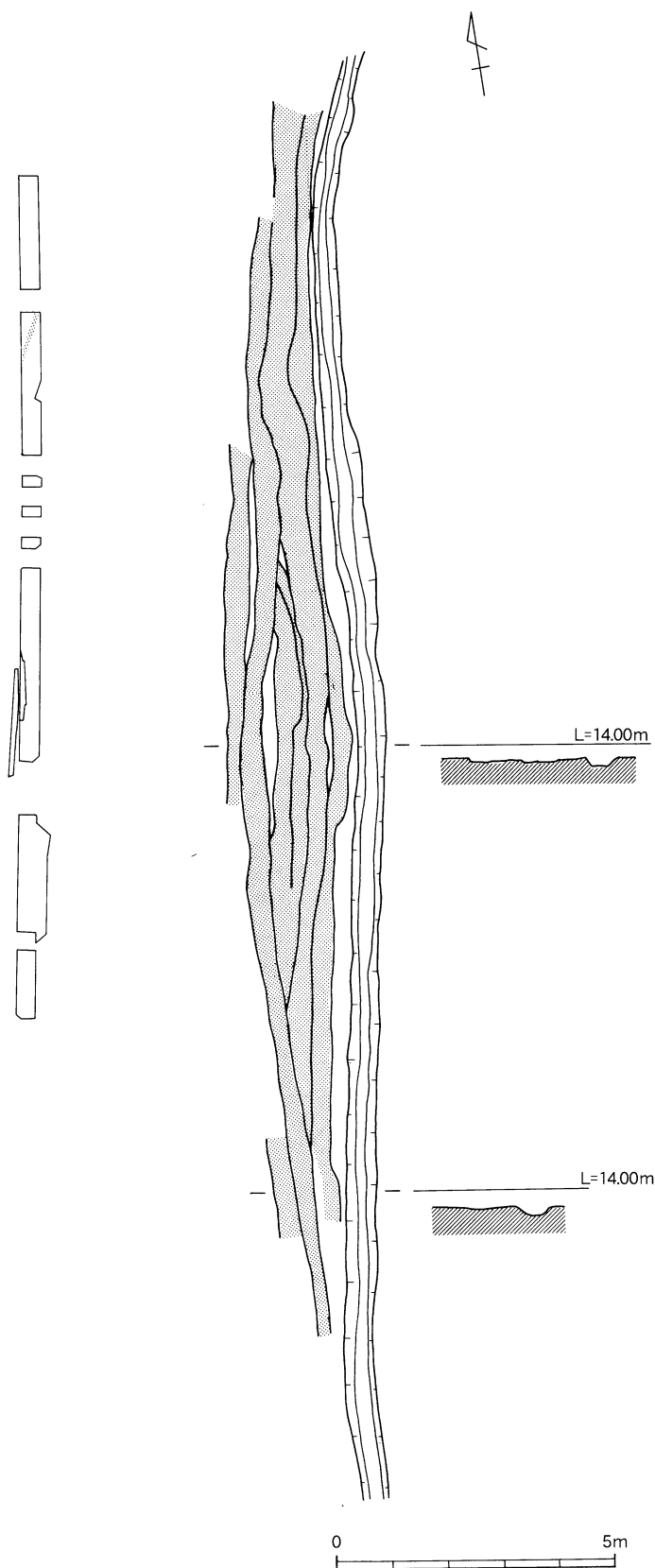
第102図984～986は埋土から出土した土師器である。いずれも底部は糸切りによる切離しであり体部は内湾気味に立ち上がり口縁上位で外反するものである。

#### 古道群1 (第93図)

6区から7区にかけて検出された。幅30cm～50cmの硬化面が近接し、かつ重複するように計6条の古道が同一方向に検出されたもので古道群1とした。方向は古道1の方向と近似するが、わずかに北寄りである。

#### 溝2

古道群1の東側に接して検出された。埋土はⅡ層黒色土である。幅は50～60cmであり、検出面からの深さは平均約25cm程度であった。



第93図 古道群1, 溝2

### 古道群2 (第94図)

7区から9区にかけて検出された。古道群1と同様に幅30～50cmの硬化面をもつ古道跡が互いに近接し、あるいは重複して検出されたものである。全体の幅は約2m程度であるが、その中に8条の古道が重複し、約35mの長さにわたり検出された。方向は古道群1とほぼ同一方向であり、近接して溝状遺構が3条（溝3・4・5）検出されている。

第102図987は硬化面直上から出土した陶器の播鉢であり、内面には条線が施されている。

#### 溝3

古道群2の西側に接しており、長さ25mにわたり検出された。北側で幅約160cmを測るが、南側では約80cm程度と狭くなり8区で消える。この溝状遺構と直行する溝状遺構6・7を切っており、時期的にこれらより新しい。

#### 溝4

古道群2の東側約1.2mの位置に平行して検出された。付近のⅢa層上面の地形は東から西方向へゆるく傾斜しており、そのためこの溝状遺構は古道群2よりレベル的に高い位置にある。全長15mほど検出され、南側は地形のために消失している。上面の幅は約60cm程度であり、検出面からの深さは25m程度で、底面は丸みをもつ。

#### 溝5

古道群2と溝3との間で検出された浅い溝状遺構である。幅は50～100cmであるが、検出面から約5cm程度の深さであった。第103図995は糸切底の土師器である。

### 溝6～8 (第95図)

7区で古道群2及び溝状遺構3に直行する位置で検出された。溝状遺構3に東側で切られていることより、それ以前の時期と判断される。第1調査地点で検出された古道跡及び溝状遺構の大部分がほぼ南北方向にあるのに対し、溝6・7は東西方向に走る特異な方向である。

溝6は幅が東側で約80cm、西側で40cmと西方向へ狭くなり、検出面からの深さは約5cmである。埋土は暗褐色土であり、断面形は浅い皿状を呈している。

溝7も東西方向に走るもので溝状遺構6と平行している。幅は東側で110cm、西側で70cmと溝6と同様で西側が狭くなる。検出面からの深さは約8cm程度で底面の幅は約40cm程度である。埋土は暗褐色土である。溝6・7の埋土は他と異なり遺物の出土もなく、中世の根拠はない。

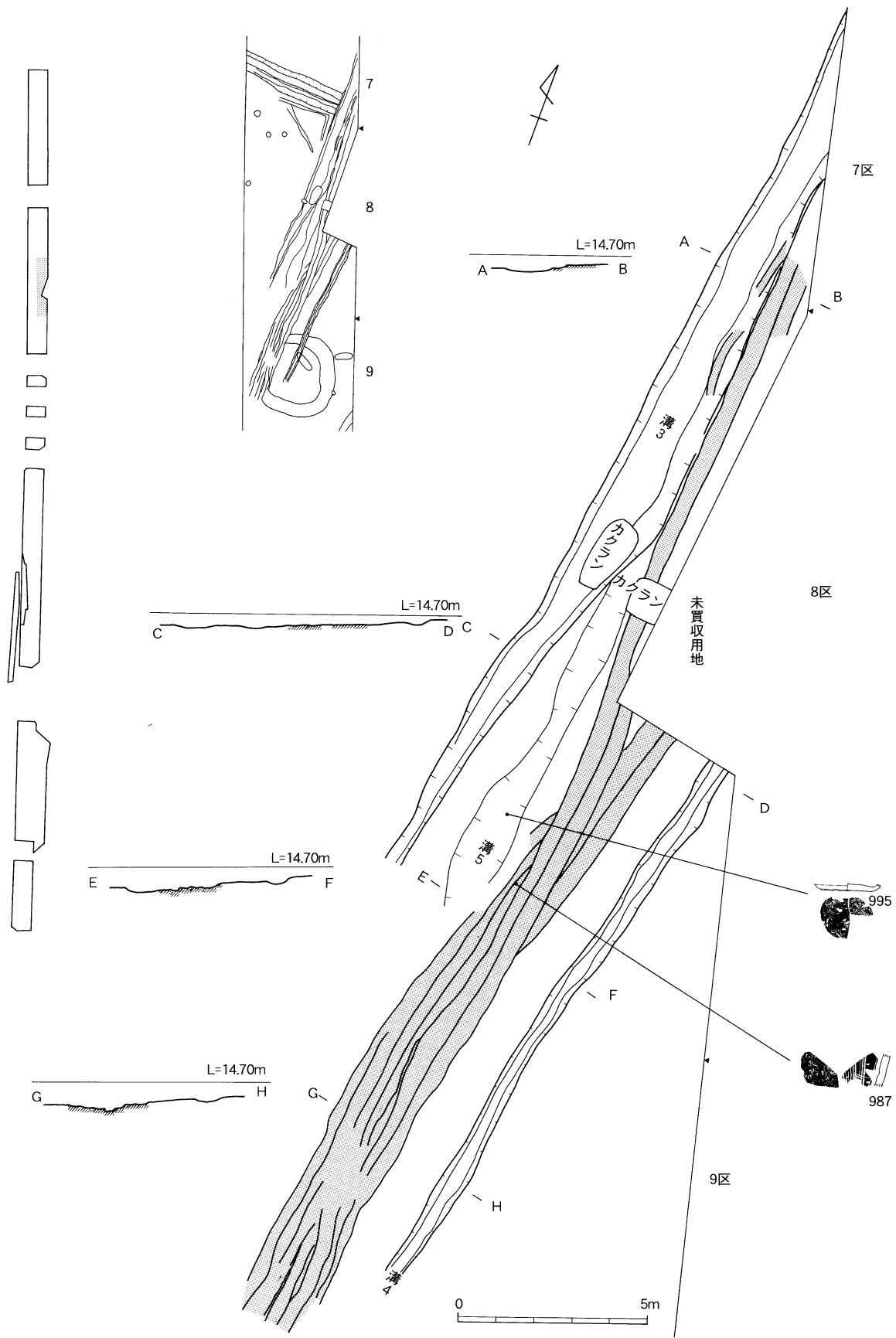
溝8は溝7の南側に位置し、一部平行に走るが東側でL字状に南下する。また、西側では接点は明確でないが、細く南東方向に短く伸びるものも含めて溝8とした。幅は約20cm程度であり、埋土は明茶褐色土であった。検出面からの深さは約3cmほどである。

#### 溝1 (第96図)

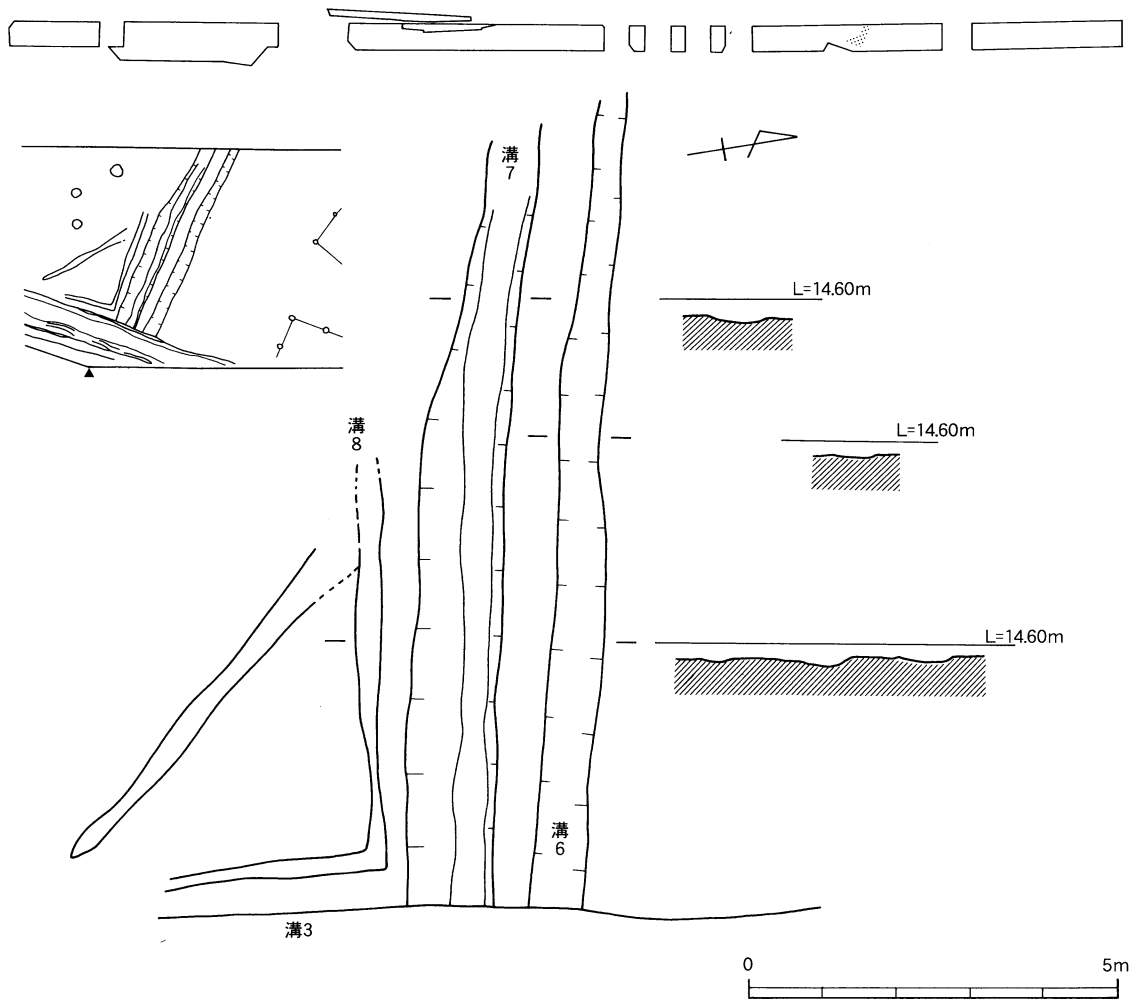
3区から4区にかけてⅢa層上面で検出された。ほぼ南北方向に走るもので、幅は約30～50cm程度と狭く、埋土は暗黄褐色である。底面は明確ではなく、溝状遺構としたが古道跡の硬化面の下部のにじみの可能性も考えられる。図にある前年の確認調査では検出できなかった。

### 古道2 (第96図)

7区から8区にかけて検出された。方向は他の大部分の古道や溝状遺構とほぼ同様の南北方向である。硬化面はしっかりしていた。



第94図 溝3・4・5, 古道群2



第95図 溝6・7・8

**古道12・13 (第96図)**

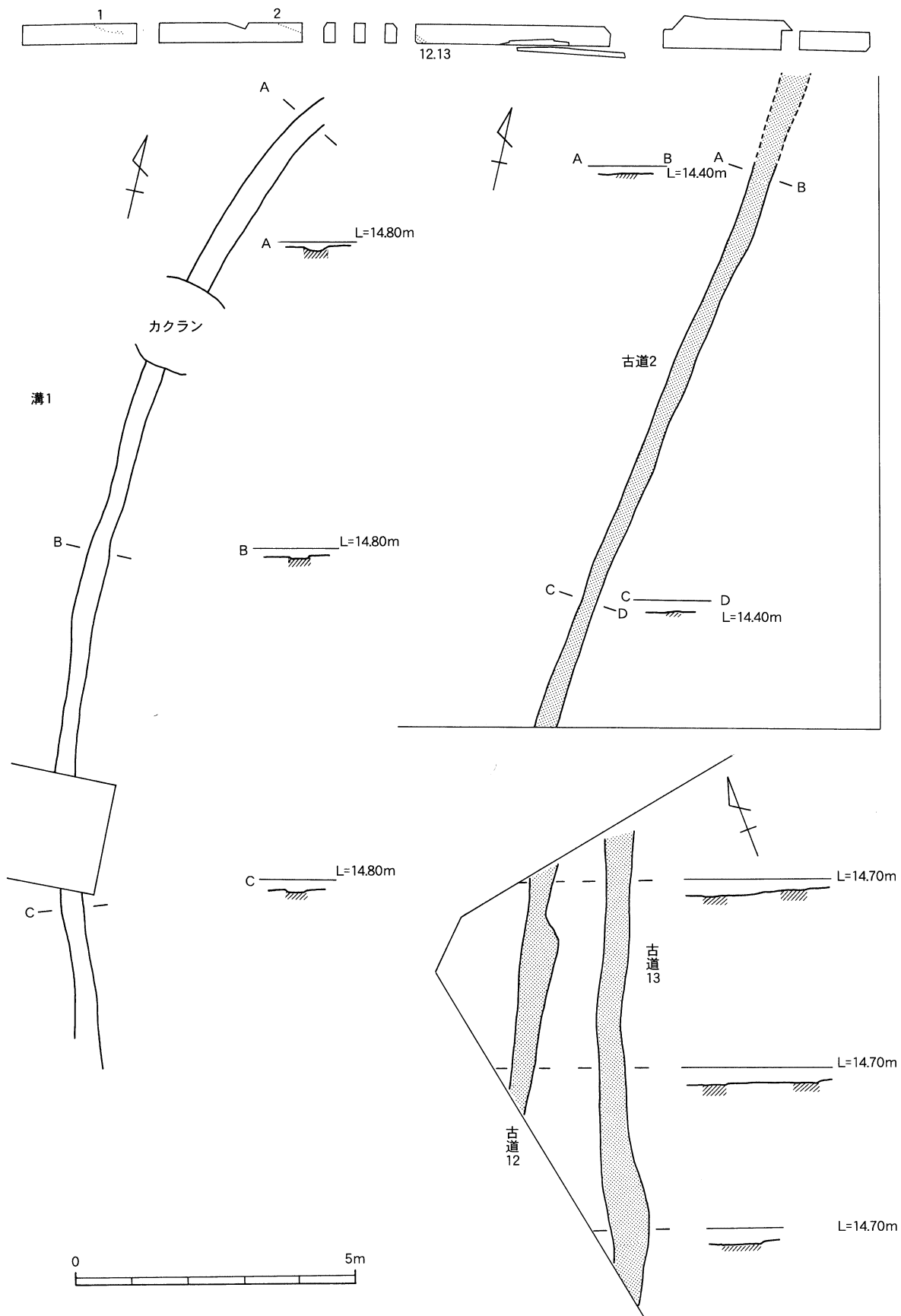
第2調査地点13区の西側で平行して検出された。方向はほぼ南北方向である。古道12は幅40～60cmの硬化面が明瞭に約4mにわたり検出された。古道13は幅40～60cmであり、長さ約8mにわたり検出された。地形的には東から西へ傾斜した地形で、古道12の上部にはⅡ層が残存していた。Ⅲa層上面でいずれも検出された。

**古道3～8 (第97図)**

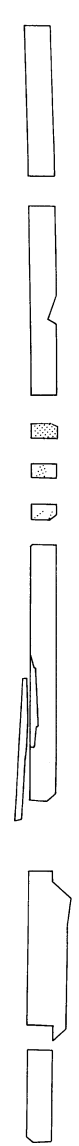
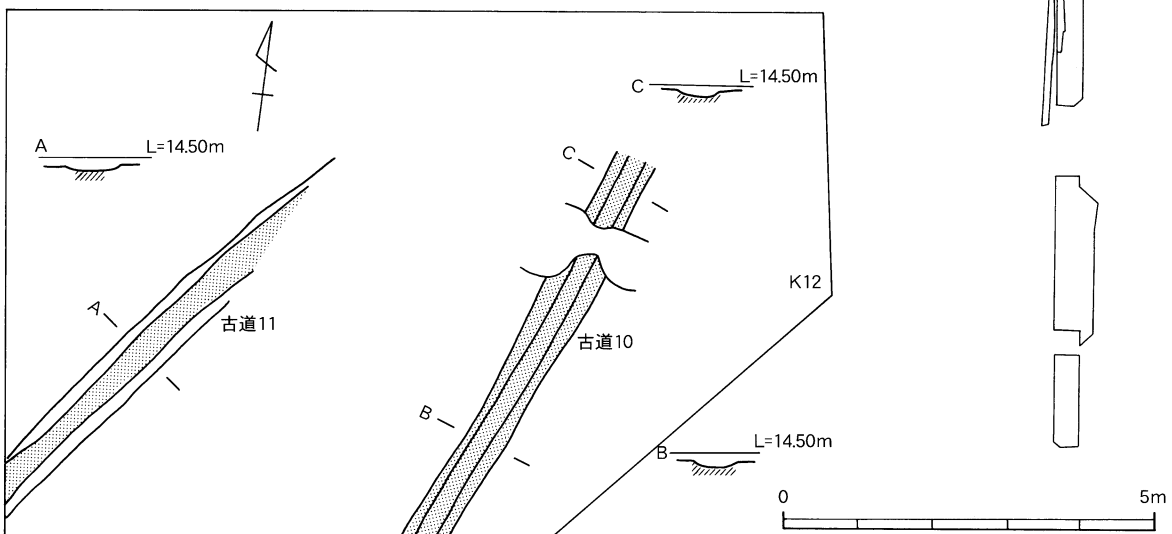
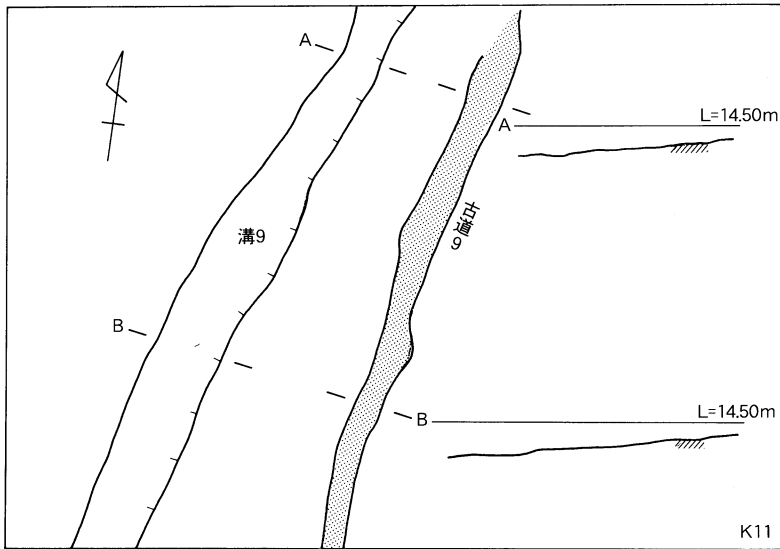
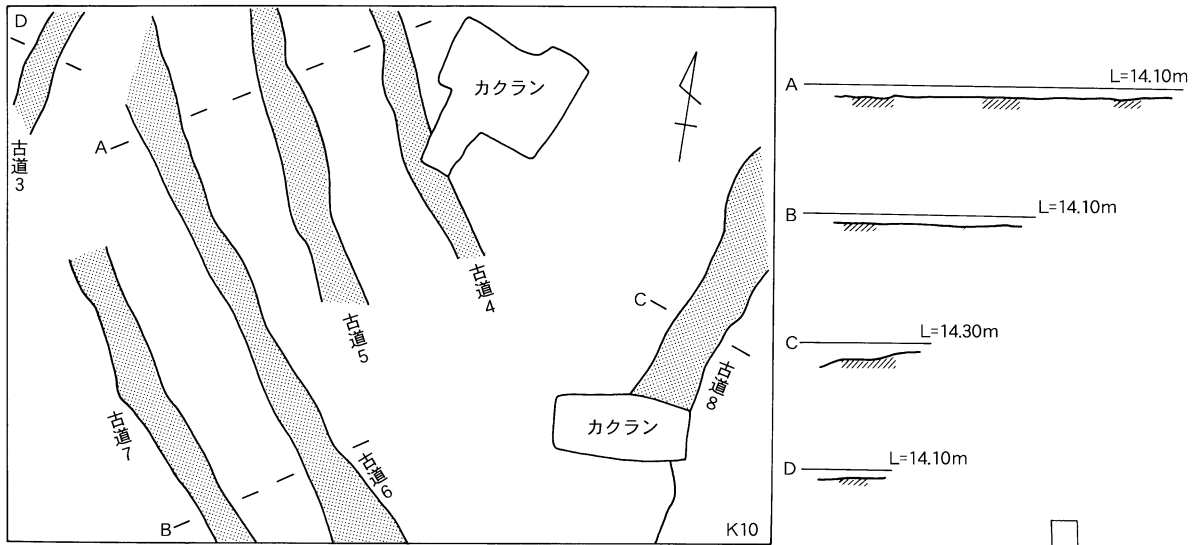
橋脚10地点 (K-10) で古道と推定される硬く締まった硬化面が6条検出された。古道3及び古道8はほぼ同一方向であり、このうち古道3は10区の古道2の延長線上に位置しており同一の可能性もある。また古道4～7の4条は方向をほぼ同一にするもので、他の古道と若干異なる。硬化面の幅は40～60cm程度であるが、古道8は約70cmと広い。

**溝9・古道9 (第97図)**

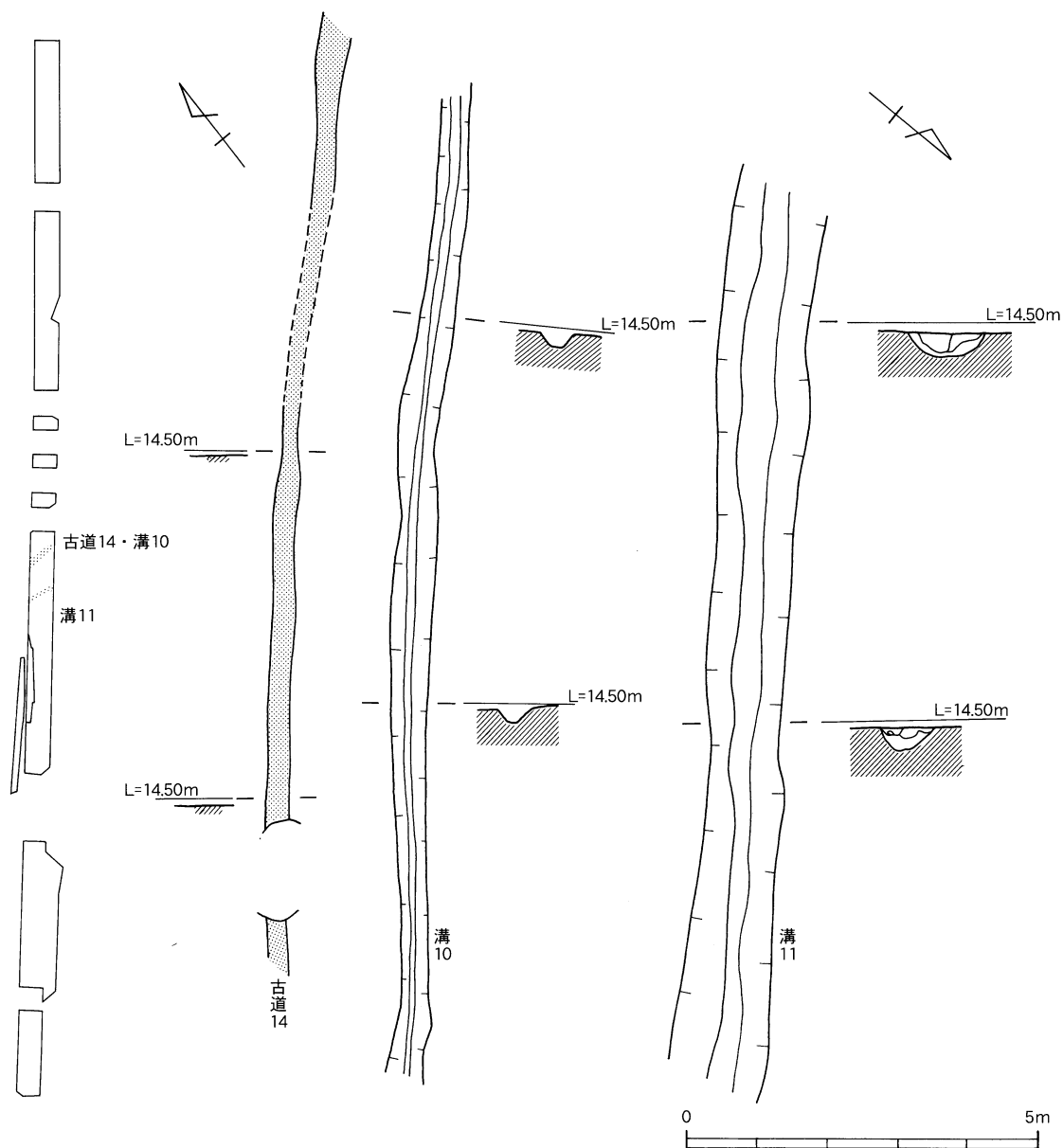
橋脚11地点 (K-11) で検出された。方向は第1調査地点のほとんどの古道や溝状遺構と同一方向である。西側に傾斜する地形であり、東側の古道9は幅30～50cmの硬化面が確認された。溝9は暗褐色の埋土であり、幅約1mで検出面からの深さはわずか数cmと浅いものであった。



第96図 溝1, 古道2, 古道12・13



第97図 古道3~8, 古道9・溝9, 古道10・11



第98図 古道14・溝10, 溝11

**古道10・11 (第97図)**

橋脚12地点で検出された。古道10は幅50～70cmの断面皿状を呈し、硬い硬化面は底面のみでなく両側の立ち上がり部分まで硬化していた。一方、古道11は同様に凹んでいるが、硬化面は底面みの幅30～40cmであった。方向はこれまでの古道や溝状遺構と異なり若干東寄りである。

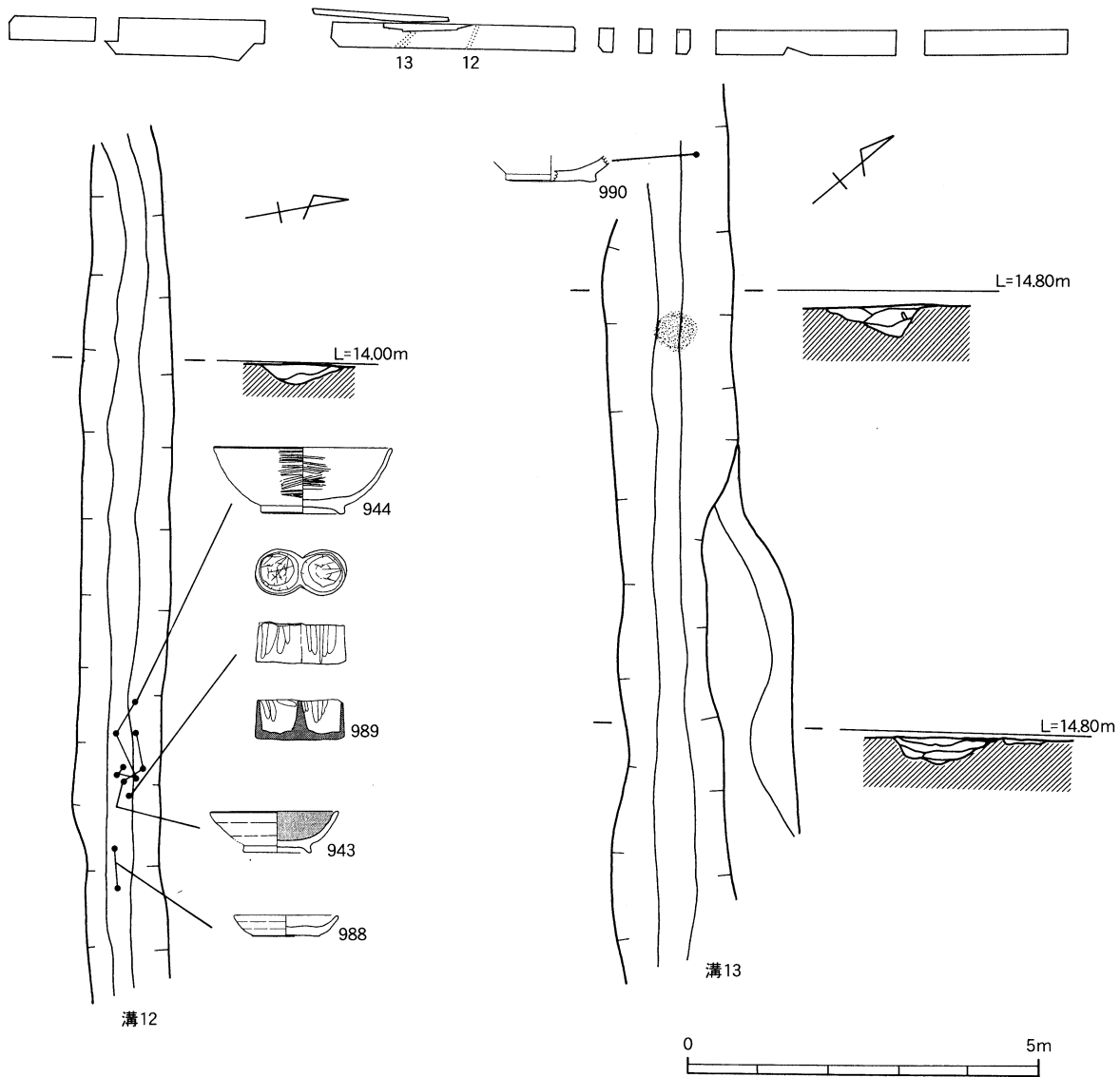
**古道14 (第98図)**

第2調査地点の13区から14区にかけて検出された。東北方向に直線的に伸びるものであり、幅約30cmの硬く締まった硬化面が約14mにわたって検出された。

**溝10 (第98図)**

古道14の南東で約1.5m離れた位置に平行した状況で検出された。幅は40～60cmであり、検出面からの深さは約20cm程度であり、底面のレベルは南西側が低い。





第99図 溝12, 溝13

溝11 (第98図)

14区で検出された。方向は東北方向に伸びるが、溝10や古道14とはわずかに異なる。埋土は暗褐色土が主体で下部は暗黄褐色土であった。また下面には径2~3mmの軽石粒や、径1~2cmの小石が多く認められ、水が流れていたと考えられる。幅は100~130cmであり、検出面からの深さは35cmである。底面のレベルは南西側が低い。埋土中から土師器片11点、須恵器片1点、古代瓦2点が出土したが、いずれも混在と思われる細片であった。

溝12 (第99図)

15区と16区の境界付近で検出された。ほぼ東西方向に伸びるもので、幅110~130cmで検出面からの深さは約30cmである。埋土は暗褐色であり多くの遺物が出土した。第102図988は糸切底の小皿である。989は滑石製の二連小容器である。高さ及び幅の大きさから滑石製石鍋の再利用品と考えられ、細かい加工を施している。また943及び944の土師器壺も同様の場所で出土



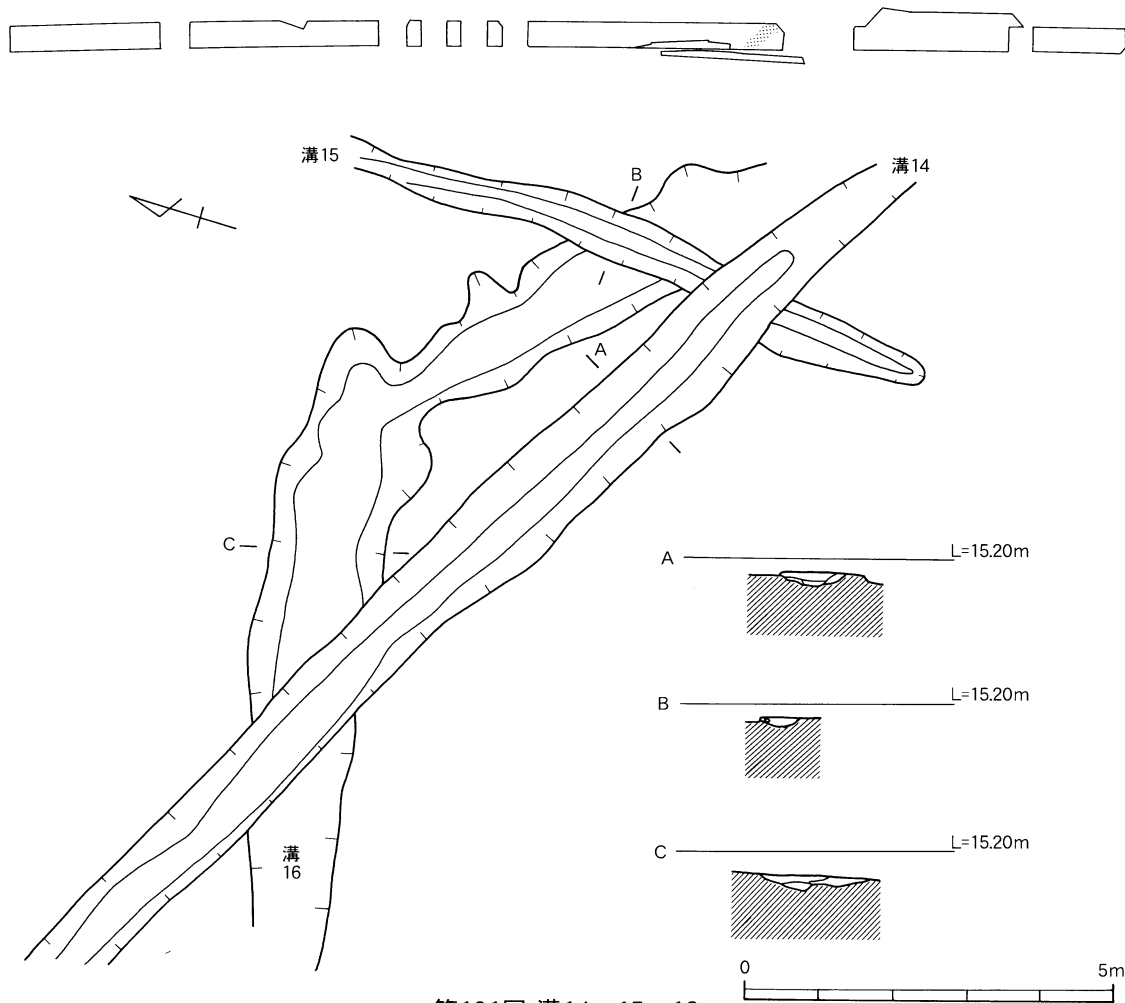
第100図 古道15

したものであるが、平安時代の包含層以外の出土品として取り扱っている。

**溝13 (第99図)**

17区で検出された。幅160~180cmであり検出面からの深さは30~40cmである。埋土は上部がⅡ層黒色土であり、その下は暗褐色土、さらにその下は暗茶褐色土であった。最下面は硬化面が認められ、本来は古道であったと思われる。埋土からは多量の土師器・瓦・礫が出土した。第102図990は白磁碗の底部である。

図のスクリントン部は浅い土坑に馬の歯が上下そろって検出された。馬の頭部が埋められたものと推定される。



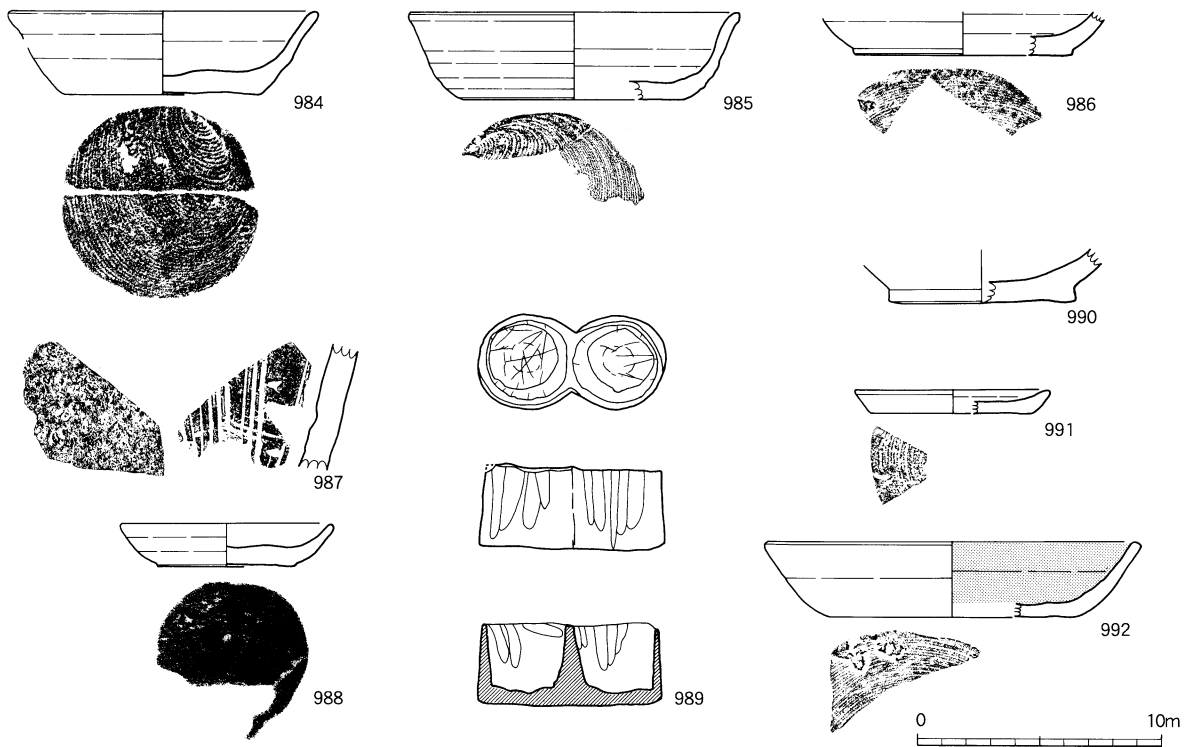
第101図 溝14・15・16

### 古道15 (第100図)

16区から18区までほぼ南北方向に35mにわたり検出された。途中の一部は溝13により切られている。南側は硬化面が直線状に伸び、北側は明確ではなかった。硬化面の幅は50~60cmであり、南側は肩の部分があり全体幅は80~120cmとなる。埋土は黒色土であり多くの土師器片などが出土した。第102図991は糸切底の小皿である。992は復元口径15.3cm、底径10.2cm、器高3.1cmを測る内黒の大皿である。調整は内面の黒く燻した面と外面もヨコナデ調整である。口縁は内湾して立ち上がる。

### 溝14

第2調査地点の最南端である18区から19区にかけて、Ⅲa層上面で溝状遺構14・15・16が重複して検出された。溝状遺構15及び16を切っており、最も新しく位置づけられる。幅は90~110cmで検出面からの深さは約20cmである。埋土は上から黒褐色土、暗黄褐色土、やや明るい暗黄褐色土の順であり、土師片69、須恵器片17、古代瓦片11などが出土しているが、いずれも細片である。中世的な遺物として青磁片や滑石製石鍋片も各一点ずつ出土しているが、一辺1cm程度の細片であり図化できなかった。南東から北西方向に直線的に伸び、北西部の底面レベルが低くなる。



第102図 中世遺構出土遺物

溝15 (第101図)

ほぼ南北方向に伸びるもので、一部を溝14に切られている。幅は50~60cm程度であり、検出面からの深さは約10cmである。埋土は暗褐色土で比較的締まった土であった。埋土中より土師器細片や古代瓦細片が若干出土している。

溝16 (第101図)

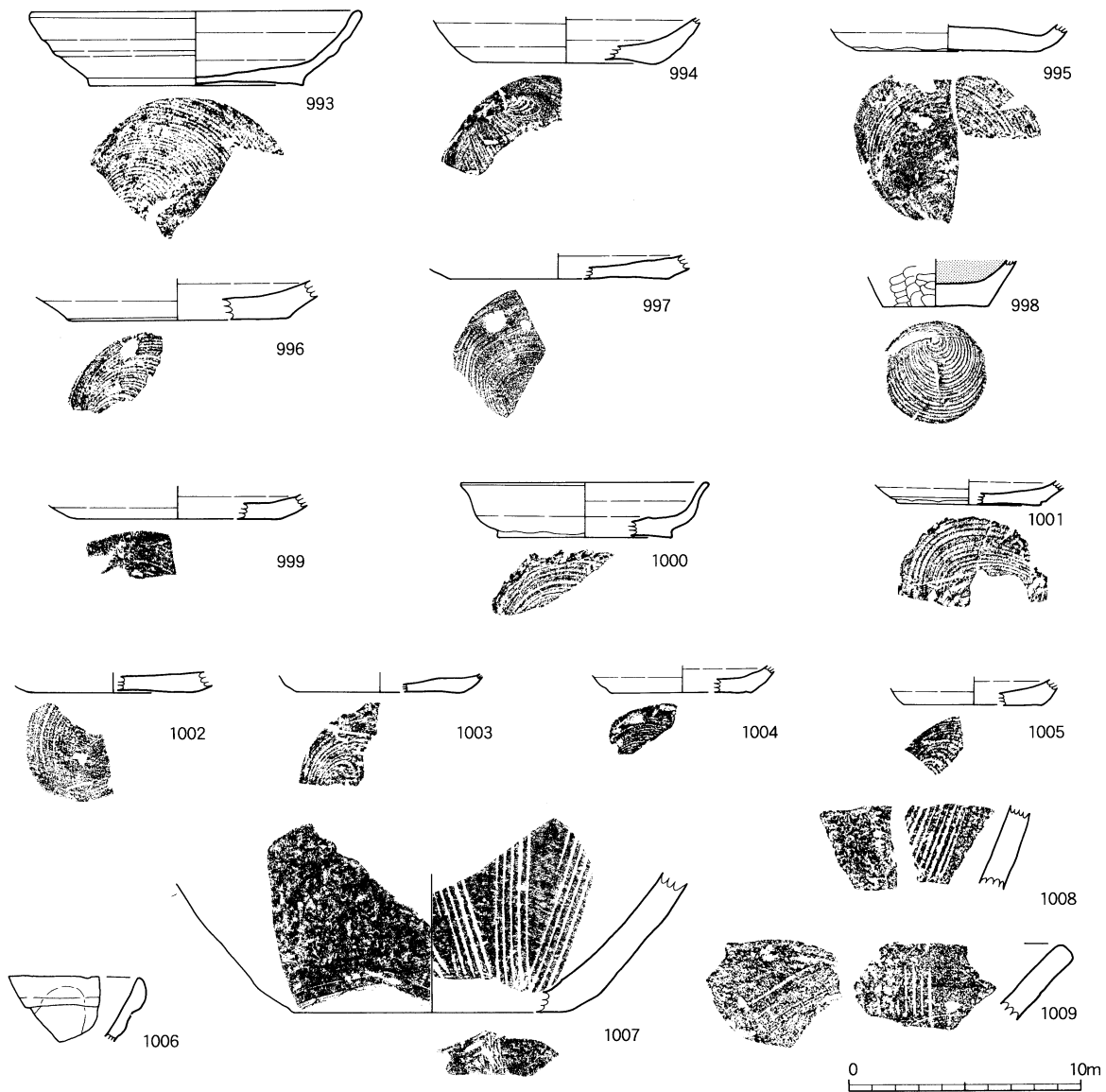
西側で溝14に切れ、途中で屈曲し東側で溝15に切られており、3本の溝状遺構のなかで最も古く位置づけられる。幅は70~150cmであり、検出面からの深さは中間の屈曲部が深く、両端は浅くなる。深い部分の深さは約20cmで埋土は暗褐色土であり砂質がつよい。埋土中より土師器117点、須恵器片18点、古代瓦片5点などが出土したが、いずれも細片であり図化できなかった。

第2節 中世の遺物

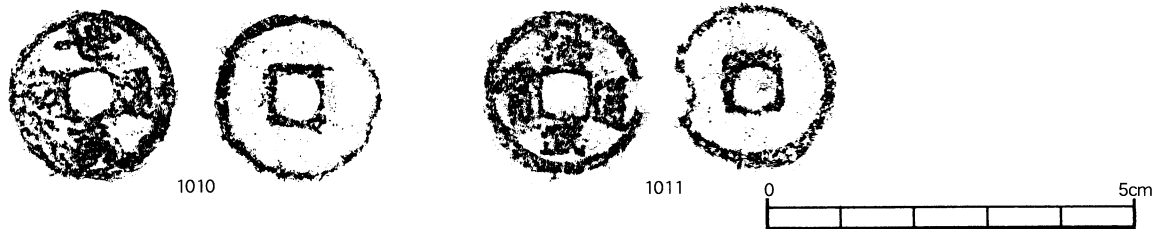
中世の遺物包含層であるⅡ層は部分的にしか残っていなかったため出土遺物の量は多くない。ここでは表層及び攪乱層出土の遺物も示した。出土遺物には土師器・陶器・青磁・白磁・古銭などがみられたが、細片が多かった。

土師器

第103図993~1005は土師器である。993~997は皿と考えられるものであり、いずれも糸切底である。993は復元口径14.3cm、底径9.4cm、器高3.2cmを測るもので、口縁部は内湾気味に立



第103図 中世の遺物



第104図 古銭

ち上がる。内外面ともヨコナデ調整を施す。994～997も同様と考えられる底部である。

998は底径4.5cmの坏である。底部は回転糸切りによる切り離しで、体部は直線的に開く。外面は縦方向のケズリの後、横方向のミガキが施され、内面は細かいヘラミガキ痕が観察される。黒色土器である。

第29表 中世遺物一覧表

挿図 番号	遺物 番号	器 種	出土区・層		口径	底径	高台径	器高	調 整		備 考	残存率	注記 番号	
									外 面	内 面				
85	984	坏	3	古道1	(12.6)	8.0		3.4	ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り	1/3	189	
	985	坏	3	古道1	(13.6)	(9.0)		(3.6)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り	1/4	178	
	986	坏	3	古道1		(8.9)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り		190	
	987	陶器 播鉢	8	古道群2					ナデ	櫛目			2381	
	988	小皿	16	溝12	(8.7)	5.6		1.7	ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り	1/4	6319	
	989	滑石製品	16	溝12					ケズリ	ケズリ			6222	
	990	白磁	17	溝13		(7.6)			無釉	白磁釉			6843	
	991	小皿	18	古道15	(8.0)	(6.6)		(1.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り	1/8	8169	
	992	大皿	18	古道15	(15.3)	(10.2)		(3.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り・内黒	1/10	8184	
	103	993	皿	4	Ⅱ	(14.4)	(9.4)		(3.2)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り	1/4	183
994		皿	7	Ⅲ上		(8.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り		4696	
995		皿	8	溝5		8.0			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り		3859	
996		皿	3	Ⅲ		(9.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り		219	
997		皿	3	Ⅱ		(9.6)			ケズリ	ヨコナデ	底部整形・内面スス付着			
998		内黒坏	22	表		4.5			ミガキタテ	ミガキ	底部回転糸切り・内黒			
999		皿	3	Ⅱ		(9.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り		129	
1000		皿	9	ⅠB	(10.8)	(7.6)		(2.4)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り・外面スス付着		296	
1001		皿	6	Ⅲ		6.2			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り		951	
1002		皿	4	Ⅱ		(7.2)			ナデ	ナデ	底部回転糸切り		79	
1003		皿	7	Ⅲ上		(7.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り		3358	
103	1004	皿	9	ⅠB		(6.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り		252	
	1005	皿	9	Ⅲ		(7.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部回転糸切り		1775	
	1006	白磁碗	17	カクラン							玉縁口縁		7666	
	1007	播鉢	16~17	ⅠA		(12.0)			ナデ	櫛目	五本単位			
	1008	播鉢	8	ⅠB					ナデ	櫛目			708	
	1009	播鉢	10	ⅠB					ナデ	櫛目			248	
	104	1010	古銭	4	Ⅱ							世高通寶		104
		1011	古銭	7	ⅠB							洪武通寶		1479

1000～1005は小皿である。底面はいずれも糸切りによる。1000は法量が口径10.8cm、底径7.6cm、器高2.4cmを測る。口縁は端部近くで外反する。

**白磁**

1006は特徴的な玉縁口縁をもつ白磁である。細片であるが、内外面に灰白色の釉がかかる。

**陶器**

1007～1009は内面にクシ状の条線がみられる播鉢である。1007は底径12cmを測り、体部下部はケズリ、上位はナデ仕上げである。黄橙色を呈する。1009は大きく開く口縁部である。

**古銭**

1010は琉球の尚徳（世高主・在位1461～1469）が鑄た「世高通寶」である。本県では鹿屋市老神遺跡の備蓄銭18,123枚のうちの1枚として認められるのみであり、遺跡の包含層出土としては本県初出である。

1011は明の洪武通寶である。背文字はない。

## 第Ⅸ章 発掘調査のまとめ

計志加里遺跡は、その所在地が薩摩国府・国分寺跡が所在する台地と開析された浅い迫を隔てた隣接する台地に位置することから、また以前から古代瓦が採集されていたこともあり奈良～平安時代の遺跡として予想されていた。調査の結果、計志加里遺跡は縄文時代早期から中世までの複合遺跡であり、遺構及び遺物の主体となるものは縄文時代晩期と平安時代から中世であった。この二時期を中心として調査成果と今後の課題を述べまとめとする。

### 1. 平安時代

#### 円形周溝墓について

円形周溝墓は古代から中世にかけての埋葬形態の一つであり、計志加里遺跡で検出された1基の円形周溝墓は、直径約8.5mの円形を呈しており、九州内でこれまで検出されている古代～中世の円形（方形）周溝墓と比較すると最大級の大きさである。周溝の最大幅は1.1mであり、周溝で囲まれた内部は径約5mを測る。内部には中世の時期の古道群や溝状遺構の延長部が部分的にかかり、この主体部を特定・確認するには到らなかった。しかし、この中央部に土坑墓が1基確認されたが、これが内部の中央に位置しないことや、近接する位置において他に2基の土坑墓が存在し、それらの埋土の類似点などを考慮して、円形周溝墓の主体部ではないと判断した。ただしその可能性を全て否定するわけではない。他の2基の土坑墓は底面に副葬品を供なっていたが、中央部の土坑はなく、また土坑の深さも他の2基と比較すると若干浅いためである。

周溝の埋土には、本遺跡の周溝の深さに該当する層の土が互層となり堆積していることから、周溝を掘った土が中央に墳丘状に盛られていたことが示唆された。

周溝から出土した遺物は、多量の細片から構成され、その多くが接合し坏や碗となった。このことは、葬送儀礼の存在及び、食器を完全品のまま並べるのではなく、意図的に細かく割り周溝内に散布するという行為の存在が推定できよう。また出土遺物のなかには焼成中に歪み割れ、実用に即しないものも含まれており、葬送儀礼用として準備・使用されたと考えられる。

#### 土坑墓について

3基の土坑墓が検出された。特筆されるのは土坑墓の底面から出土した刀子と鉦状の突起がついた青銅製品である。刀子の出土は埋葬された人が男性であった可能性が考えられる。両出土品は各々布に巻かれており、東京国立博物館の澤田むつ代先生の鑑定により刀子は麻と推定される植物繊維の平織りの布に、青銅製品は平織りの平絹に包まれていたことが判明した。このことは被葬者が役人もしくは郷の有力者であった可能性が考えられようか。また土坑墓の直上部で出土した土師器碗は割れていたが1ヵ所にまとまっており供献土器と考えられる。

#### 墓域について

円形周溝墓及び土坑墓は9区から検出されており、一方、掘立柱建物跡は6・7区と14～18区で検出され、また掘立柱建物と推定されるピット群が17区で検出されていることから、居住施設と墓は同一区に重複していないことが理解される。ここで溝状遺構6・7の存在が気になる。他の中世の古道及び古道群や溝状遺構がほぼ南北方向に伸びるのに対し、溝6・7は東西方向に検出されている。埋土も他の溝状遺構と異なり、加えて遺物は全く出土しておらず中世の時期とする根拠は全くないものである。これより北側には掘立柱建物跡が存在し、南側には認められない

ことより、居住域と墓域を区別する性格の溝状遺構の可能性が考えられる。また南側の境界に該当する溝については、13区まで橋脚部のみの部分的調査を実施したため明確ではない。

### 出土遺物について

平安時代を中心とする土師器・須恵器・瓦などが出土したが、包含層から出土した土師器の坏や埴は、出土した第1調査地点と第2調査地点の違いによる形態差及び法量差が認められた。第1調査地点の坏は、口径・底径ともに大きい坏1類で、第2調査地点の坏は口径がわずかに小さく底径が特徴的に小さくなる坏2類と坏3類が出土した。一方埴は、第1調査地点のものは高台が低い埴2類であり、第2調査地点のものは高台が「ハ」の字状に開くものあるいは接地面が丸みを帯び高くなる埴3類及び埴4類であり、加えて円柱状の高台をもつ充実高台埴も出土している。また甕類についても第1調査地点と第2調査地点出土のものは形態の出土割合が異なっていた。これらは明確な遺構一括遺物ではないが、それに順ずる包含層出土資料として取り扱うことができよう。また道路付け換え区域の南側では奈良時代の包含層一括出土資料も認められた。

さて九州における古代～中世の土師器編年は、大宰府を中心に進められており（森田・横田1976・1978、山本1988）、南部九州では、宮崎を中心とした編年（岡本1991）、熊本を中心とした編年（山城1993、綱田1994、1999）、鹿児島を中心とした編年（中村1994、1997）が独自に発表されている。これらは他地域との食器との比較や広域流通品としての輸入陶磁器や緑釉陶器などとの共伴関係を根拠にしたものである。また90年代の九州における土器編年の総括も行われている（出合2000、徳永2000）。

鹿児島の土器については中村和美により、先の二つの視点に火山灰層の上下関係をも加味し、各遺跡の遺構一括出土資料を中心とした編年が行われている（中村 前掲）。本県では従来から指摘されているように編年資料としての遺構の一括遺物資料が少なかったが、近年の調査により少しずつ増加しつつある。

計志加里遺跡の編年的位置づけについては、中村の編年をもとにして、また法量の変化（山本1990）を参考にし、かつ近隣の宮崎県及び熊本県の編年による食器の形態的变化を比較した場合、第1調査地点が9世紀中頃、第2調査地点が9世紀後半から9世紀末に位置づけておきたい。

また、円形周溝墓については、出土遺物より9世紀後半から9世紀終末頃として位置づけられよう。土坑墓1も同様の時期として考えられよう。（宮田）

## 2. 縄文時代晩期土器について

計志加里遺跡出土の縄文晩期土器に最も類似しているのは、加世田市干河原遺跡の出土土器である。<sup>(1)</sup> 無刻目突帯を巡らす深鉢形土器・底部に1条あるいは2条の沈線を巡らす精製浅鉢形土器・組織痕土器など共通した特徴がある。ただし、報告者が縄文時代前期～後期の土器としている内外面条痕をもつ深鉢形土器の中で、図面番号471～476については縄文時代晩期の可能性が高く、計志加里遺跡の56と類似する器形をもつ。263の壺形土器がこの時期に伴うかどうかという点が一番の問題点である。壺形土器が出土した区と大量の晩期土器が出土した区とは離れているけれども、出土土器の内容に差異はみられない。刻目突帯文土器自体の出土も一点もなく、刻目突帯文土器に伴う壺形土器との差も大きい事から、263の壺形土器も無刻目突帯文土器に伴



う可能性がある。干河原遺跡では壺形土器の報告はないが、これは小破片が多く全形を復元することが出来なかった可能性もある。計志加里遺跡で出土した壺形土器を参考に、同時期の土器片を再検討していけば壺形土器の破片も見つかるのではないかと考える。

計志加里遺跡出土の縄文時代晩期土器は、器形やリボン状突起の特徴から、南九州で縄文時代晩期後半に位置づけられる黒川式土器の範疇に含まれる土器であると考えられる。ただし、無刻目突帯を巡らすという点では、より新しい様相をもつ。近年この時期についての研究が進められ、堂込秀人<sup>(2)</sup>、清田純一<sup>(3)</sup>、下山覚<sup>(4)</sup>、水ノ江和同<sup>(5)</sup>の各氏によって論じられている。堂込氏は黒川式土器を古段階・中段階・新段階の3段階に細分しており、計志加里遺跡の土器群は氏の述べる新段階に対応できると考えられる。清田氏は「無刻目突帯文Ⅰ期土器」・「無刻目突帯文Ⅱ期土器」に区分し、水ノ江氏の「ワクト石段階」と「アンモン山段階」に相当する。鹿児島で無刻目突帯文土器が明らかになってきたのは最近であり、鹿屋市水の谷遺跡・同市榎木原遺跡・同市榎崎B遺跡・指宿市新番所後Ⅱ遺跡・加世田市干河原遺跡がある。しかし、干河原遺跡を除くと前後の時期の土器も一緒に出土することから細分まで至っていない。なお、宮崎県の「松添式土器」がこの時期に相当すると考えられる。

計志加里遺跡出土土器は比較的まとまった資料であり、時間幅も広くないと考えられる。前述した様に、いくつかの点で加世田市干河原遺跡出土土器と共通する部分が多い。黒川式土器の最終段階に位置づけられることには異論はないが、未だ弥生時代早期の刻目突帯文土器に至るには2・3の型式が存在することが予想される。また、不確定な型式に数字や新古など時間的な推移を示す用語が入ってしまうと新たな資料が加えにくくなる。そこで、現在のところ単純にまとまった資料が提示されている加世田市干河原遺跡出土の縄文時代晩期土器を指標として「干河原段階」としておきたい。計志加里遺跡出土の縄文時代晩期土器はこの段階の資料を補う好資料である。鹿児島で出土する無刻目突帯文土器は、口唇部に接していて、しかも断面が台形状を呈し、北部九州の「貫・井手ケ本式」や大分県の「上菅生B式」とは若干異なる。同じ名称で呼ぶ事に躊躇するが、同時期の研究が南九州も巻き込んで進展することを念じて敢えて使用したい。口唇部付近に突帯が巡る煮沸土器については、蓋との関係で論じたことがあり、食材の変化という視点からも今後追求していきたい。計志加里遺跡で出土した石器の中に石包丁状の石器もあることから、植物生産を含めて総合的に解明していくことが今後の課題である。

次に組織痕土器のモデリングの重要性については、渡辺誠氏によって早くから指摘されていた。<sup>(7)</sup>今回試みたところ、これまで見えなかったいくつかの点が見えてきた。一つは編布について、緯糸はかなりはっきり細い糸が見えるけれども、経糸についてはほとんどぼやけて見えないという点である。これは経糸が外側になっているため、接触も多く縊り痕が見えなくなるほどよれよれの状態であったことを示すのではないだろうか。したがって、組織痕土器に用いる布は使い古したものを再利用していたことが窺えよう<sup>(8)</sup>。また、折り目や重なりもはっきり認めることが出来る。さらに、373の様に緯糸を編み込む間隔を途中途中で変えることによって、装飾効果をねらった例も見つかった。南九州では3本の緯糸が接するデザインを多用していたことを、尾関清子氏が指摘している<sup>(9)</sup>。

網目についても同じ網を折り返したか、もしくは、重ねた事例が見つかった。しかも網目の中

心にもう一枚の、結び目をもってきており、なるべく隙間を開けないような意図も窺える。網目については、「実際、縄文土器はどこでつくられたのか」という基本的な課題を解決しなければ、組織痕として使われた網がどのような場所で用いられたのかというのは解らないわけであるが、それを前提として話を進めたい。本遺跡で用いられた網は概ね網目の大きさから3種類に分けられる。これは対象とする魚の種類によるものと考えられる。もちろん魚だけでなく時には鳥や他の獲物を対象としたこともあったことだろう。網目が9～13mmのものは、川に生息する魚類のほとんどは掬い上げることが可能だったと考えられる。そして、海でも岸に近い場所では多くの種類の魚を獲ることが出来たのではなかろうか。網目が5～7mmのものは雑魚向きであるし、水中に生息する昆虫類も対象としていたことが想定される。これらの網はたも網として使われたと考えられる。一方、37mmの網は川よりもむしろ河口付近から海に棲む大型魚を対象としていたと想定される。この様な大きな網目は鹿児島県内では類例を知らない。組織痕土器が計志加里遺跡周辺でつくられたと仮定すれば、この場所付近まで川内川を潮が逆のぼってくるのを考えると、多くの種類の魚が棲み、それを獲っていた様子が窺える。(東)

#### 註

- (1) 『干河原遺跡』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(13) 1995.3 加世田市教育委員会
- (2) 堂込秀人「南九州縄文晩期土器の再検討－入佐式と黒川式の細分－」  
『鹿児島考古』第31号 1997.7 鹿児島県考古学会
- (3) 清田純一「縄文後・晩期土器考－中九州の縄文後・晩期土器とその並行型式について－」  
『肥後考古』第11号 1998.12 肥後考古学会
- (4) 下山覚「土器型式編年研究 九州地方晩期」『縄文時代』10 1999.12 縄文時代文化研究会
- (5) 水ノ江和同「北部九州の縄文後・晩期土器－三万田式から刻目突帯土器の直前まで－」  
『縄文時代』第8号 1997.5 縄文時代文化研究会
- (6) 東和幸「弥生時代の煮沸土器に波状口縁がないのはなぜか」『鹿児島考古』第29号1995.7 鹿児島県考古学会
- (7) 渡辺誠「組織痕土器研究の諸問題」  
『交流の考古学 三島格会長古希記念 肥後考古』第8号 1991 肥後考古学会
- (8) 東和幸「鹿児島県の組織痕土器」『南九州縄文通信』No.12 1998.3 南九州縄文研究会
- (9) 尾関清子『縄文の衣－日本最古の布を復元』 1996 学生社

### 3. 縄文時代晩期の石器について

石器組成で最も多数を占めたのが石鎌であり、全体の37.3%を占め、次が土掘具と考えられる打製石斧で、15.5%、次がスクレイパーの11.8%、そして植物質食料加工具の磨石・敲石類の8.2%の順であった。当然のことながら石器組成は当時の生業を反映しており、とすると本遺跡の場合狩猟が中心であったとなるが、しかし遺跡全体からの調査面積は部分的なものでしかなく、一側面が見えたにすぎないと思われる。と言うのも土器の圧痕のなかに大型や小型の網が使用されており、川内川などの漁労活動も生業のなかで多大な割合を持っていた可能性が推定されるからである。現在でも梅雨の季節には大型のコイやフナが産卵のために浅い川や田んぼに遡上し、

それを手づかみや網で取るのが川内の風物詩ともなっている。ただし、今回網の石錘や石銛などは石器として出土していない。今回調査した部分では石鏃未製品が多く出土しており、遺跡のなかの石器製作の場であった可能性も考える必要がある。つまり石器組成を検討する場合、調査面積や「場の使用」も考慮する必要があることを示唆している。

使用されている石材で黒曜石の89%が良質の腰岳産であり、安山岩系のものも多久産や嬉野・松尾産で、在地産は極めて少なく遠隔地産が大部分を占めていた。第3調査地点で出土した縄文前期では最も近い樋脇町上牛鼻産が大部分を占め、残りは少し遠い大口市日東産であったのと比較すると対称的である。集団の行動領域や石材流通圏など縄文時代晩期は広域な社会背景を有していたと考えられる。(宮田)

#### 参考文献

- 網田龍生「肥後における回転台土師器の成立と展開」『中近世土器の基礎研究』第10号 1994 日本中世土器研究会
- 網田龍生「肥後における古代後半期の墳墓」『先史学・考古学論究』第2号 1997 龍田考古会
- 岡本武憲「日向における古代末の土器—宮崎学園都市遺跡群を中心として—」  
『中近世土器の基礎研究』第7号 1991 日本中世土器研究会
- 岡本武憲「各地の土器様相—九州南部—」『概説 中世の土器・陶磁器』1995 中世土器研究会
- 小畑弘己「出土銭貨にみる中世九州・沖縄の銭貨流通」『文学部論叢』第57号 1997 熊本大学文学会
- 中島恒次郎・城戸康利「薩摩国から来た食器—大宰府条坊跡 第89次調査出土資料—」  
『中近世土器の基礎研究』第10号 1994 日本中世土器研究会
- 中島恒次郎「各地の土器様相—九州北部—」『概説 中世の土器・陶磁器』1995 中世土器研究会
- 中村和美「鹿児島県(薩摩・大隅国)における平安時代の土師—土師器の変遷を中心に—」  
『中近世土器の基礎研究』第10号 1994 日本中世土器研究会
- 中村和美「鹿児島における古代の在地土器」『鹿児島考古』第31号 1997
- 本田道輝「鹿児島県下出土の銭貨集成」『鹿大史学』第35号 1988
- 松本隆昌「佐賀県大和町 平安時代の周溝墓について」『佐賀考古』第3号 1995
- 美濃口正朗「熊本県における中世前期の土師器について」『中近世土器の基礎研究』第10号 1994 日本中世土器研究会
- 森 隆 「西日本の黒色土器生産(中)」『考古学研究』第147号 1990
- 森田勉 「大宰府出土の土師器に関する覚え書き(2)」『九州歴史資料館研究論集3』 1977 九州歴史資料館
- 山本信夫「大宰府における古代末から中世の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』第4号 1988
- 山本信夫「統計上の土器—歴史時代土師器の編年研究によせて—」  
『乙益重隆先生古希記念論文集—九州上代文化論集』 1990
- 山本信夫「中世食器の地域性—九州・南西諸島—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集 1997
- 横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の土師器に関する覚え書き」『九州歴史資料館研究論集2』 1976 九州歴史資料館
- 鹿児島県教育委員会編『薩摩国府・薩摩国分寺跡』1975
- 鹿児島県教育委員会編『成岡・西ノ平・上ノ原遺跡』1983
- 鹿児島県教育委員会編『榎崎A遺跡』1992
- 鹿児島県教育委員会編『榎崎B遺跡』1993
- 川内市教育委員会編『薩摩国分寺跡』1985
- 額娃町教育委員会編『城ヶ崎遺跡』1990
- 東郷町教育委員会編『五社遺跡』1986
- 熊本市教育委員会編『池辺寺跡。』1996

## 〔付 編〕

計志加里遺跡出土の黒曜石、サヌカイト製遺物の原材産地分析

藁科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

はじめに

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている<sup>1, 2, 3)</sup>。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、他の露頭から原石が流れて来ないことが証明されて、十分条件を満たし、ただ一カ所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『石器とある産地の原石の成分が一致したからと言って、その産地のものと言い切れないことは、他の産地にも一致する可能性が推測されるからで、しかし一致しなかった場合その産地のものでないと言い切れる。』が大原則である。考古学では、人工品の様式が一致するという結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致するということは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致するということは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能な限り地球上の全ての原産地(A、B、C、D・・・)の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析

を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物素材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に1個みられ、B産地では1万個中に1個、C産地では百万個中に1個、D産地では・・・1個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析した遺物は鹿児島県川内市中郷町に位置する計志加里遺跡出土の縄文時代晩期（一部前期）の黒曜石製遺物51個およびサヌカイト製遺物6個の合計57個について産地分析の結果が得られたので報告する。

#### 黒曜石、安山岩（サヌカイトなど）原石の分析

黒曜石、サヌカイト両原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl, Si, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr, Nbの12元素をそれぞれ分析した。

塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それをもって産地を特定する指標とした。

#### 黒曜石原石

黒曜石は、Ca/K, Ti/K, Mn/Zr, Fe/Zr, Rb/Zr, Sr/Zr, Y/Zr, Nb/Zrの比量を産地を区別する指標をしてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州、の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされ、元素組成によってこれら原石を分類して表1に示す。この原石群に原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると197個の原石群になる。佐賀県の腰岳地域および大分県の姫島地域の観音崎、両瀬の両地区は黒曜石の有名な原産地で、姫島地域ではガラス質安山岩もみられ、これについても分析を行った。隠岐島、奄岐島、青森県、和田峠の一部の黒曜石には、Srの含有量が非常に少なく、この特徴が産地分析を行う際に他の原産地と区別する、有用な指標となっている。九州西北地域の原産地で採取された原石は、相互に組成が似た原石がみられる（表2）。西北九州地域で似た組成を示す黒曜石の原石群は、腰岳、古里第一、松浦第一の各群（腰岳系と仮称する）および淀姫、中町第二、古里第三、松浦第四の各群（淀姫系と仮称する）などである。淀姫産原石の中で中町第一群に一致する原石は12%個で、一部は淀姫群に重なるが中町第一群に一致する遺物は中町系と分類した。また、古里第二群原石と肉眼的および成分的に似た原石は嬉野町椎葉川露頭で多量に採取でき、この原石は姫島産乳灰色黒曜石と同色調をしているが、組成によって姫島産の黒曜石と容易に区別できる。もし似た組成の原石で遺物が作られたとき、この遺物は複数の原産地に帰属され原石産地を特定できない場合がある。たとえ遺物の原石産地がこれら腰岳系、淀姫系の原石群の中の

一群および古里第二群のみに帰属されても、この遺物の原石産地は腰岳系、淀姫系および古里第二群の原石を産出する複数の地点を考えなければならない。角礫の黒曜石の原産地は腰岳および淀姫で、円礫は松浦（牟田、大石）、中町、古里（第二群は角礫）の各産地で産出していることから、似た組成の原石産地の区別は遺物の自然面から円礫か角礫かを判断すれば原石産地の判定に有用な情報となる。旧石器の遺物の組成に一致する原石を産出する川棚町大崎産地から北方4 kmに位置する松岳産地があるが、現在、露頭からは8mm程度の小礫しか採取できない。また、佐賀県多久のサヌカイト原産地からは黒曜石の原石も採取され梅野群を作った。九州中部地域の塚瀬と小国の原産地は隣接し、黒曜石の生成マグマは同質と推測され両産地は区別できない。また、熊本県の南関、轟、冠ヶ岳の各産地の原石はローム化した阿蘇の火砕流の層の中に含まれる最大で親指大の黒曜石で、非常に広範囲な地域から採取される原石で、福岡県八女市の昭和溜池からも同質の黒曜石が採取され昭和池群を作った。従って南関等の産地に同定された遺物の原材産地を局所的に特定できない。桑ノ木津留原産地の原石は元素組成によって2個の群に区別することができる。桑ノ木津留第1群は道路切り通し面の露頭から採取できるが、桑ノ木津留第2群は転礫として採取でき、これら両者を肉眼的に区別はできない。また、間根ヶ平原産地では肉眼観察で淀姫黒曜石のような黒灰色不透明な黒曜石から桑ノ木津留に似た原石が採取され、これらについても原石群を確立し間根ヶ平原産黒曜石を使用した遺物の産地分析を可能にした。遺物の産地分析によって桑の木津留第1群と第2群の使用頻度を遺跡毎に調査して比較することにより、遺跡相互で同じ比率であれば遺跡間の交易、交流が推測できるであろう。石炭様の黒曜石は大分県萩台地、熊本県滝室坂、箱石峠、長谷峠、五ヶ瀬川の各産地および大柿産、鹿児島県の樋脇町上牛鼻産および平木場産の黒曜石は似ていて、肉眼観察ではそれぞれ区別が困難であるが、大半は元素組成で区別ができるが、上牛鼻、平木場産の両原石については各元素比が似ているため区別はできない。これは両黒曜石を作ったマグマは同じで地下深くにあり、このマグマが地殻の割れ目を通して上牛鼻および平木場地区に吹きだしたときには、両者の原石の組成は似ると推定できる。従って、産地分析で上牛鼻群または平木場群のどちらかに同定されても、遺物の原石産地は上牛鼻系として上牛鼻または平木場地区を考える必要がある。出水産原石組成と同じ原石は日東、五女木の各原産地から産出していてこれらは相互に区別できず日東系とした。竜ヶ水産原石は桜島の対岸の竜ヶ水地区の海岸および海岸の段丘面から採取される原石で元素組成で他の産地の黒曜石と容易に弁別する。

#### サヌカイト原石

サヌカイトでは、K/Ca, Ti/Ca, Mn/Sr, Fe/Sr, Rb/Sr, Y/Sr, Zr/Sr, Nb/Srの比量を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて50ヶ所の調査を終えている。図2にサヌカイトの原産地の地点を示す。これらの原石を良質の原石を産出する産地および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると106個の原石群に分類でき、その結果を表3に示した。安山岩の原石産地の一部を簡単に記すると、香川県の坂出、高松市に位置する金山・五色台地域では、その中の多く地点からは良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる。近年、丸亀市の双子

山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材で善通寺市の大麻山南からも産出している。香川県内の石器原材の産地では金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の6個の群、城山群および双子山群に、またガラス質安山岩は金山奥池、雄山、神谷町南山地区で採取され、大麻山南産は大麻山南第一、二群の2群にそれぞれ分類されて区別が可能なことを明らかにした。これらガラス質安山岩は成分的に黒曜石に近く、また肉眼観察では下呂石に酷似するもの、西北九州産の中町、淀姫産黒曜石、大串、亀岳原石と酷似するものもみられ、風化した遺物ではこれら似た原材の肉眼での区別は困難と思われ、正確な原材産地の判定は分析が必要である。金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取され、大阪府和泉・岸和田産地の礫層、和歌山県梅原産地礫層から、金山・五色台地域の諸群の一部に一致し、これらが金山・五色台地域から流れ着いたことがわかる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からもサヌカイト原石が採取される。奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山の原石で二上山群を作った。この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の礫層産地から6%の割合で採取される。中国山地のサヌカイト産地として代表的な産地は山口、島根、広島県の境に位置する冠山地域で、冠山、鬼ヶ城の山腹には安山岩の露頭が、また山麓からは崖錐角礫として転石として見られる。伴蔵地区の冠高原スキー場一帯（冠高原地点と呼ぶ）から良質原石が採取でき、冠高原群および伴蔵C、A群を作った。冠高原スキー場から南方の飯山地区の針山地点（飯山地点と呼ぶ）の原石で飯山群を作った。また、頓原地区産出原石で冠山東群を作った。また、考古学者の間で石器原材として使用されたのではないかと話題に上る産地の一の、山口県熊毛郡平生町産の安山岩原石を分析し平生群を作り、この原石を使用した石器か否かの判定ができるようにした。九州地域産地では佐賀県多久、老松山と隣の岡本、西有田、嬉野町では松尾、椎葉川などで良質の原石が採取できる。長崎県では大串、亀岳産地、川棚、福井洞窟遺跡地域で産出する福井産原石、松浦半島産の牟田産原石、また、山下実氏発見の雲仙駒崎鼻産サヌカイトと福岡県昭和池採取原石の群が整備され、この他原産地不明の遺物で作った遺物群など合計100個の原石群が調査されている。

## 結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行った場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。一方、サヌカイト製は風化のために表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このためサヌカイト製遺物については、測定面の風化した部分に、圧縮空気によって

アルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除く、エアブレイシブ処理で新鮮面を出して測定を行なった。

今回分析した計志加里遺跡出土の黒曜石、サヌカイト製遺物の分析結果を表4-1, -2に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRr/Zrの一変量だけを考えると、表4-1の試料番号76769番の遺物ではRr/Zrの値は1.549で、腰岳群の[平均値] ± [標準偏差値] は、 $1.600 \pm 0.086$ である。遺物と原石群の差を標準偏差値 ( $\sigma$ ) を基準にして考えると遺物は原石群から $0.6\sigma$ 離れている。ところで腰岳群の原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.6\sigma$ のずれより大きいものが54個ある。すなわち、この遺物が、腰岳群の原石から作られていたと仮定しても、 $0.6\sigma$ 以上離れる確率は54%であると言える。だから、腰岳群の平均値から $0.6\sigma$ しか離れていないときには、この遺物が腰岳群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を桑ノ木津留第1群に比較すると、桑ノ木津留第1群の平均値からの隔たりは、約 $9\sigma$ である。これを確率の言葉で表現すると、桑ノ木津留第1の産地の原石を採ってきて分析したとき、平均値から $9\sigma$ 以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に1個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、桑ノ木津留第1産の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は腰岳群に54%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから腰岳群原石が使用されていると同定され、さらに桑ノ木津留第1群に一千万分の1%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから桑ノ木津留第1産原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地(腰岳群産地)と一致したからと言って、例えば腰岳群と桑ノ木津留第1群の原石は成分が異なっている、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(腰岳群)に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の202個すべての原石群について行い、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて腰岳群産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRr/Zrといった唯1ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならぬ。例えばA原産地のA群で、Ca元素とSr元素との間に相関があり、Caの量を計ればSrの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Sr量も一致するはずである。もしSr量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する<sup>4, 5</sup>。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では202個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、腰岳群産原石と



判定された遺物について、台湾の台東山脈産原石、北朝鮮の会寧遺跡で使用された原石と同じ組成の原石とか、信州和田峠、霧ヶ峰産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表5-1, -2に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、小さな遺物試料によって原石試料と同じ測定精度で元素含有量を求めるには、測定時間を長くしなければならない。しかし、多数の試料を処理するために、1個の遺物に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。また、検出された元素であっても、含有量の少ない元素では、得られた遺物の測定値には大きな誤差範囲が含まれ、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D2乗の値を記した。この遺物については、記入されたD2乗の値が原石群の中で最も小さなD2乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低い、その原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。

今回、分析した計志加里遺跡出土の黒曜石製、サヌカイト製遺物は黒曜石製遺物43個、ガラス質安山岩系遺物2個、サヌカイト製遺物6個および上牛鼻産地で採取された安山岩様原石1個の合計62個である。黒曜石で腰岳系と同定された遺物は分析番号76769(1)～76793(25)番、76802(34)～76810(36/3)番および76813(39)番の合計35個であった。腰岳系の原石は露頭のある腰岳産地以外に転礫として松浦、古里地区からも円礫として採取でき(表2)、腰岳露頭産地から採取された原石か、転礫かの判定は遺物の自然礫面によって判定される。腰岳系と判定された76803(35/1)～76810番の釘状の原石様遺物を未処理の水和層を通して元素分析を行い産地同定を行ったが腰岳系と同定された。しかし、水和層の影響が分析値に反映され、腰岳系と同定された可能性が推測されるため、76810(36/3)番の遺物にエアブレイシブ処理を行い水和層を取り除いた(新鮮面に近い?)後に分析を行った。水和層で影響を受ける元素比はK元素を分母にとる元素比で、小さな値になる。原因は不明であるが、何処の産地の黒曜石にも共通の現象である。処理後の\*76810番の元素比の変化は小さく、水和層の影響による同定原石産地の誤判定が無いことが確認された。従って、未処理の釘状原石様遺物の同定結果は正しいと推測された。また、釘状原石遺物の自然面の風化層は滑らかで風化の進行が抑制される環境の状態にあったと思われる、このため風化層を通して産地同定が可能であったと推測される。一方、他の角礫塊状原石の剥片遺物の自然面は細目のサンドペーパー状で風化がかなり進行した状態と推測され、両原石とも腰岳露頭産地から採取されたと思われる。腰岳系と同定された遺物の自然面で円礫と確定できる遺物は確認できなかった。76794(26)、76795(27)は地元上牛鼻産原石と同定された。76796(28)番と76797(29)番の遺物は角礫の自然面を持つことから、淀姫露頭原石産地より採取された原石が伝播した可能性が推測される。76681(30)番はローリング摩耗を受けた様な微小爪型の円礫自然面を残す、不透明灰色系の黒曜石製遺物で、エアブレイシブ処理を行い水和層を取り除いた(新鮮面に近い?)後に分析を行った結果で、表1の201群の何処の群にも信頼限界としている0.1%以上の確率で同定されなかったために、新鮮面を出して、48回分析し計志加里遺跡出土No.30遺物でKK1遺物群を作った。また、76799(31)番も外見上は76681番と同じ系統

の黒曜石であるが、KK1遺物群を含む表1の201群の何処の群にも信頼限界としている0.1%以上の確率で同定されなかったために新鮮面を出し、48回分析しKK2遺物群を作り、こらら遺物群が他の遺跡で使用されている使用圏とか原産地が発見されたときに直ちに判定できるようにした。76800(32)、76801(33)番は灰白色系の黒曜石で古里産地または椎葉川産地の原石と同定され、76800はローリング摩耗を受けた様な自然面を持っていて椎葉川露頭産地から流れた椎葉川河川礫または古里海岸礫として採取された可能性が推測される。気泡の多い76811(37)、風化層除去処理した76812(38)、76815(41)～76817(43)番は地元産地の日東または五女木の原石と同定され、76814(40)番は白浜産と同定された。また、同じく斑晶とか気泡の多い76813(39)番が腰岳産と同定され肉眼的に随分差のある、腰岳露頭産原石が本遺跡に多数伝播していることが判明した。肉眼観察で、ガラス質安山岩と分類された76826(50)、76827(51)番は円礫自然面をもつ剥片で、76827番は割ると肉眼観察で淀姫様、または嬉野地区産黒曜石に酷似することが観察され、表1の202群と比較すると、嬉野地区の松尾第2群、松尾第1群の黒曜石群に帰属された。安山岩と分類された76820(44)～7625(49)番は多久産原石が使用されていることが産地分析の結果明らかになった。

以上、計志加里遺跡では、地元日東・五女木、白浜地区の石器原材の他に、西北九州地域の腰岳、淀姫、嬉野、多久地域からの石器原材の伝播が明らかになり、これら同定された産地地方と交流があり産地地方の生活情報、文化情報が計志加里遺跡に伝播していた。また、逆に計志加里遺跡の文化情報が九州西北地域に伝播していたと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

#### 参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅱ)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977),(1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)。(Ⅳ)。考古学と自然科学, 10,11:53-81:33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信(1980), 考古学と物理化学。学生社

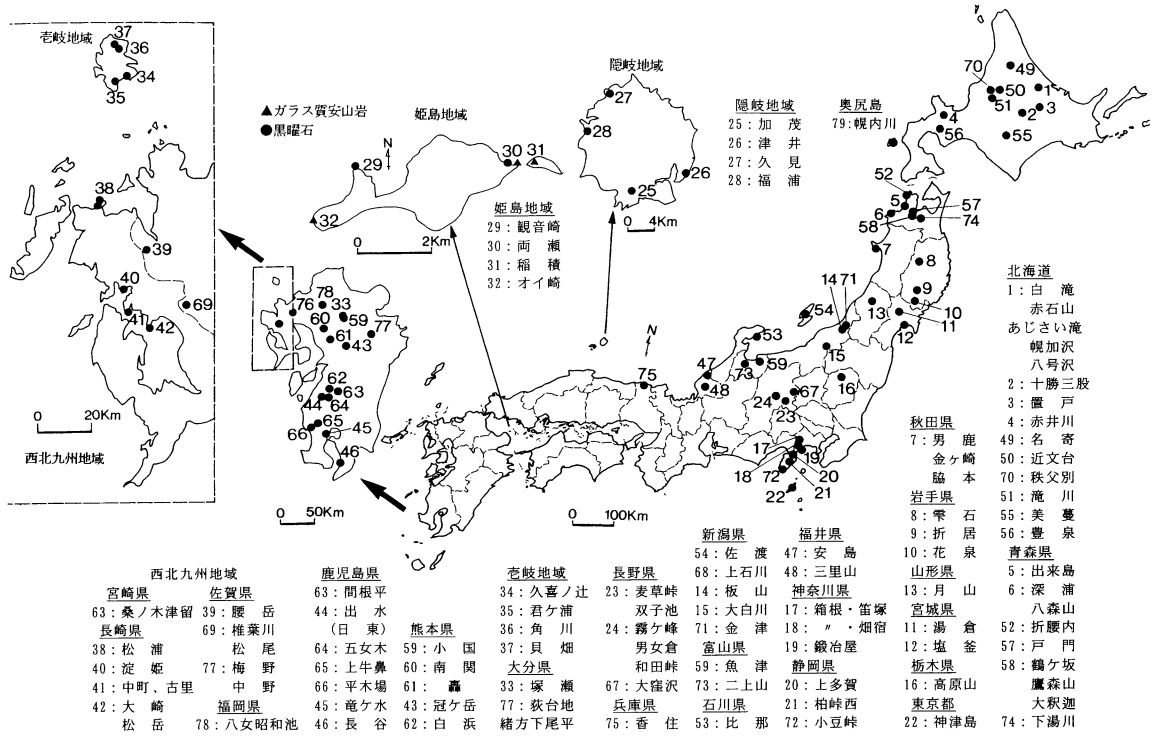


図1 黒曜石原産地

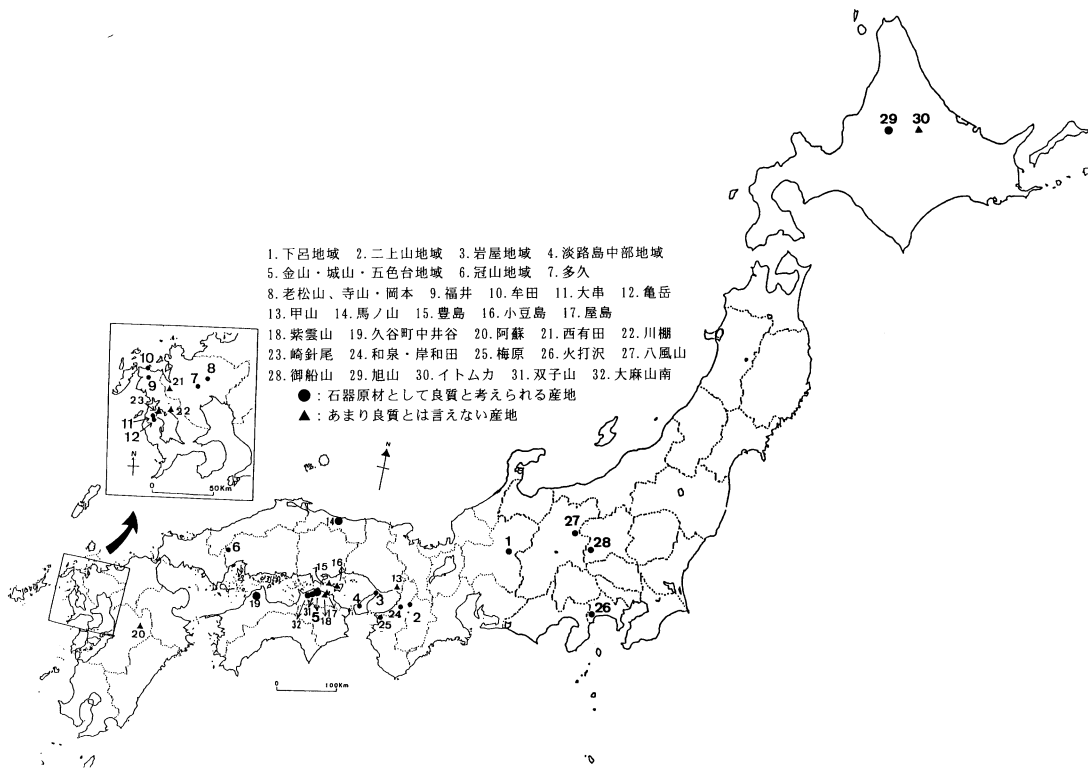


図2 サヌカイト及びサヌカイト様岩石の原産地

表1-1 各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比											
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K		
北海道	名 寄第一 " 第二	114	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010	
		35	0.309±0.015	0.103±0.005	0.021±0.006	1.774±0.055	0.696±0.044	0.265±0.011	0.301±0.022	0.026±0.020	0.028±0.007	0.394±0.010	
	白 赤 石 山 滝 白 土 沢 地 八 号 沢 区 幌 加 沢 あ じ さい 滝	130	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.026	0.028±0.002	0.374±0.010	
		27	0.138±0.004	0.021±0.002	0.102±0.015	3.049±0.181	1.855±0.088	0.097±0.016	0.492±0.039	0.107±0.019	0.027±0.002	0.368±0.006	
		30	0.138±0.010	0.022±0.002	0.105±0.017	3.123±0.127	1.846±0.065	0.105±0.019	0.475±0.045	0.076±0.046	0.027±0.008	0.359±0.042	
		23	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.975±0.102	1.794±0.077	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.027±0.002	0.369±0.007	
		29	0.142±0.010	0.023±0.001	0.101±0.014	3.038±0.125	1.787±0.076	0.115±0.015	0.457±0.035	0.076±0.044	0.027±0.005	0.365±0.011	
	近 文 台 第一 " 第二 " 第三 秩 父 別 第一 " 第二 " 第三 滝 川 第一 " 第二 置 戸 ・ 所 山 置 戸 ・ 置 戸 山 ケ シ ョ ム ッ プ 第二 " 第三	30	0.819±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	3.266±0.117	0.604±0.031	0.941±0.030	0.165±0.020	0.039±0.016	0.039±0.002	0.457±0.008	
		107	0.517±0.011	0.099±0.005	0.067±0.090	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.442±0.009	
		17	0.514±0.012	0.098±0.005	0.066±0.014	2.765±0.125	0.814±0.068	0.815±0.042	0.199±0.039	0.078±0.008	0.034±0.002	0.443±0.011	
		51	0.249±0.017	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.995±0.037	0.458±0.023	0.235±0.024	0.023±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013	
		25	0.506±0.016	0.098±0.005	0.070±0.011	2.750±0.099	0.805±0.042	0.808±0.032	0.197±0.026	0.027±0.016	0.027±0.003	0.371±0.010	
		31	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	1.017±0.045	0.459±0.025	0.233±0.029	0.038±0.018	0.025±0.003	0.370±0.023	
		15	0.510±0.015	0.098±0.005	0.068±0.009	2.740±0.072	0.802±0.019	0.812±0.019	0.192±0.026	0.032±0.023	0.030±0.004	0.393±0.031	
		65	0.326±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.044±0.020	0.030±0.002	0.412±0.010	
		58	0.464±0.016	0.138±0.005	0.049±0.008	1.726±0.072	0.449±0.024	0.407±0.023	0.133±0.019	0.026±0.014	0.032±0.003	0.456±0.010	
		68	0.575±0.056	0.110±0.011	0.051±0.011	2.555±0.086	0.595±0.058	0.636±0.027	0.167±0.027	0.037±0.020	0.030±0.003	0.397±0.013	
	65	0.676±0.011	0.145±0.005	0.056±0.014	2.631±0.126	0.606±0.030	0.712±0.032	0.170±0.028	0.030±0.013	0.030±0.003	0.392±0.010		
	十 十 勝 三 股 美 勝 第一 " 第二 " 第三	60	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013	
		41	0.499±0.020	0.124±0.007	0.052±0.010	2.635±0.181	0.893±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.032±0.002	0.442±0.015	
28		0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009		
赤 井 川 第一 " 第二 " 第三 豊 泉 第一 " 第二 " 第三 奥 尻 島 ・ 幌 内 川		50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.086±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.058±0.023	0.027±0.002	0.371±0.009	
		30	0.258±0.065	0.072±0.002	0.080±0.010	2.207±0.083	0.970±0.045	0.436±0.026	0.245±0.021	0.021±0.029	0.025±0.007	0.371±0.007	
		75	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.025±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013	
		40	0.377±0.009	0.133±0.006	0.055±0.008	1.723±0.066	0.516±0.019	0.513±0.018	0.177±0.016	0.007±0.015	0.030±0.005	0.431±0.010	
58		0.285±0.026	0.087±0.005	0.193±0.032	1.834±0.182	2.043±0.224	1.475±0.207	0.269±0.068	0.085±0.031	0.031±0.004	0.347±0.011		
青 森 県		折 腰 内 島 出 来 島	35	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010
			27	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.865±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.499±0.013
	深 六 角 沢 浦 八 森 山	36	0.080±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010	
		41	0.077±0.005	0.098±0.003	0.013±0.002	0.701±0.018	0.134±0.005	0.002±0.002	0.070±0.005	0.034±0.006	0.027±0.005	0.384±0.009	
	青 戸 門 第一 " 第二 森 鶴 ヶ 坂 下 森 山 川 大 積 迦 黒 石	28	0.250±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.358±0.257	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.362±0.015	
		28	0.084±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007	
		33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.023	2.261±0.143	0.861±0.052	1.081±0.060	0.390±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.496±0.018	
		47	0.252±0.017	0.068±0.009	0.079±0.033	2.548±0.131	1.149±0.069	0.568±0.108	0.288±0.037	0.049±0.036	0.028±0.005	0.383±0.018	
	36	9.673±0.479	2.703±0.149	3.267±0.217	21.648±1.500	0.090±0.021	1.708±0.102	0.155±0.015	0.169±0.031	0.053±0.042	0.858±0.088		
	67	0.253±0.016	0.067±0.008	0.077±0.029	2.519±0.148	1.147±0.065	0.558±0.087	0.286±0.035	0.047±0.040	0.028±0.003	0.385±0.018		
41	8.905±0.243	2.484±0.055	0.161±0.018	7.570±0.336	0.068±0.014	1.621±0.063	0.244±0.022	0.027±0.014	0.124±0.014	1.409±0.044			
秋 田 県	男 金 ヶ 崎 鹿 脇	43	0.294±0.009	0.087±0.004	0.220±0.018	1.644±0.081	1.493±0.081	0.930±0.043	0.287±0.039	0.098±0.040	0.029±0.002	0.368±0.008	
		45	0.295±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.939±0.054	0.286±0.045	0.108±0.034	0.028±0.006	0.367±0.009	

表1-2 各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比											
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K		
山 形 県	月 寒 河 江	44	0.285±0.021	0.123±0.007	0.182±0.016	1.906±0.096	0.966±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.119±0.033	0.033±0.002	0.443±0.014	
		48	0.385±0.008	0.116±0.005	0.049±0.017	1.806±0.054	0.580±0.025	0.441±0.023	0.212±0.020	0.056±0.015	0.033±0.003	0.460±0.010	
岩 手 県	雫 折 石 花 居 泉	25	0.636±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594±0.014	
		22	0.615±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.062	0.306±0.033	0.421±0.051	0.228±0.079	0.045±0.011	0.041±0.005	0.594±0.055	
		30	0.596±0.046	0.177±0.018	0.056±0.008	1.742±0.072	0.314±0.019	0.420±0.025	0.220±0.016	0.048±0.013	0.041±0.003	0.586±0.030	
宮 城 県	湯 倉 釜 塩	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.040	
		37	4.828±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032	
栃 木 県	高 原 山	40	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.516±0.012	
東 京 都	神 津 島 第一 " 第二 長 根	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.504±0.012	
		23	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.039	0.656±0.050	0.303±0.034	0.107±0.026	0.033±0.002	0.471±0.009	
		40	0.318±0.020	0.120±0.005	0.118±0.014	1.805±0.096	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.093±0.039	0.034±0.006	0.476±0.012	
神 奈 川 県	箱 根 ・ 笛 塚 " 畑 宿 鍛 冶 屋	30	6.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008	1.528±0.046	
		41	2.056±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010	0.080±0.005	1.126±0.031	
		31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020	
静 岡 県	上 多 賀 柏 峠 西 峠 小 豆 峠	31	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.856±0.018	
		35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020	
		40	0.110±0.008	0.052±0.004	0.297±0.038	3.211±0.319	0.829±0.089	0.154±0.030	0.547±0.054	0.087±0.057	0.025±0.014	0.429±0.016	
富 山 県	魚 津	12	0.278±0.013	0.065±0.004	0.064±0.008	2.084±0.095	0.906±0.057	0.641±0.046	0.194±0.014	0.102±0.021	0.027±0.002	0.372±0.009	
		高 二 上 山 第一 岡 山 第二 市 第三	36	0.319±0.017	0.113±0.006	0.040±0.008	1.720±0.080	0.740±0.052	0.665±0.029	0.121±0.026	0.047±0.031	0.015±0.014	0.392±0.018
			45	0.441±0.052	0.108±0.014	0.079±0.021	2.251±0.138	0.794±0.155	1.222±0.088	0.127±0.041	0.067±0.053	0.015±0.014	0.412±0.025
長 野 県	霧 ヶ 峰 和 田 峠 第一 " 第二 " 第三 " 第四 " 第五 " 第六 鷹 山 ・ 和 田 男 女 倉 麦 草 峠 双 子 池 大 窪 沢 横 川	171	0.138±0.009	0.066±0.003	0.104±0.011	1.339±0.057	1.076±0.047	0.360±0.023					

表1-3 各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
新潟県	佐渡第一	34	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013
	"第二	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.009
	上板山川	45	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009
	大板白川	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.359±0.009
	大板白川津	22	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.608±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014
石川県	比那	17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017
	安三島	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010
福井県	安三島	21	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.608±0.031	0.798±0.039	0.069±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008
	香住第一群	30	0.216±0.005	0.062±0.002	0.045±0.007	1.828±0.056	0.883±0.034	0.265±0.012	0.097±0.021	0.139±0.018	0.024±0.002	0.365±0.008
兵庫県	"第二群	40	0.278±0.012	0.100±0.004	0.048±0.009	1.764±0.066	0.813±0.045	0.397±0.020	0.112±0.026	0.138±0.024	0.026±0.012	0.446±0.012
	加茂茂	20	0.166±0.006	0.093±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.249±0.016
島根県	津久井	30	0.161±0.008	0.132±0.012	0.015±0.003	0.940±0.041	0.301±0.014	0.015±0.005	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.244±0.008
	久	31	0.145±0.006	0.061±0.003	0.021±0.004	0.980±0.023	0.386±0.011	0.007±0.003	0.109±0.013	0.238±0.011	0.023±0.002	0.315±0.006
	加茂茂	20	0.166±0.006	0.093±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.249±0.016
香川県	奥池第一群	51	1.202±0.077	0.141±0.010	0.032±0.008	3.126±0.170	0.686±0.065	1.350±0.082	0.026±0.026	0.065±0.019	0.041±0.004	0.507±0.011
	"第二群	50	1.585±0.126	0.194±0.018	0.035±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.024±0.019	0.042±0.013	0.045±0.004	0.507±0.011
	雄谷	50	1.224±0.081	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.163	0.669±0.078	1.335±0.091	0.023±0.027	0.061±0.020	0.041±0.003	0.500±0.012
	神谷・南山	51	1.186±0.057	0.143±0.008	0.038±0.012	3.202±0.163	0.707±0.061	1.386±0.088	0.029±0.025	0.073±0.021	0.041±0.005	0.500±0.014
	大南山南第一群	39	1.467±0.120	0.203±0.023	0.042±0.009	3.125±0.179	0.494±0.080	1.010±0.073	0.038±0.023	0.047±0.013	0.041±0.003	0.467±0.016
福岡県	"第二群	34	1.018±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	3.305±0.199	0.895±0.048	1.256±0.050	0.029±0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	0.476±0.012
	八女昭溜池	68	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.798±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	0.279±0.009
佐賀県	中野第一群	39	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.628±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011
	"第二群	40	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.535±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	0.328±0.008
	腰野	39	0.657±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	4.239±0.205	1.046±0.065	2.269±0.058	0.104±0.032	0.380±0.047	0.028±0.005	0.345±0.009
	梅	44	0.211±0.009	0.031±0.005	0.075±0.019	2.572±0.212	1.600±0.086	0.414±0.042	0.311±0.046	0.256±0.043	0.025±0.002	0.335±0.008
	椎葉	59	0.414±0.009	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.009
	松尾第一群	40	0.600±0.067	0.153±0.029	0.125±0.018	4.692±0.369	1.170±0.114	2.023±0.122	0.171±0.032	0.255±0.037	0.032±0.003	0.376±0.008
	"第二群	40	0.953±0.027	0.307±0.010	0.126±0.013	6.666±0.342	0.856±0.070	1.907±0.119	0.147±0.029	0.194±0.028	0.033±0.008	0.383±0.010
大分県	姫島	41	0.216±0.017	0.045±0.003	0.428±0.057	6.897±0.806	1.829±0.220	1.572±0.180	0.325±0.088	0.622±0.099	0.035±0.002	0.418±0.011
	観音第一	33	0.221±0.021	0.045±0.003	0.450±0.061	7.248±0.668	1.917±0.194	1.660±0.173	0.355±0.057	0.669±0.105	0.035±0.002	0.419±0.009
	第二	32	0.634±0.047	0.140±0.013	0.194±0.026	4.399±0.322	0.614±0.077	3.162±0.189	0.144±0.031	0.240±0.041	0.038±0.002	0.451±0.011
	第三	10	1.013±0.140	0.211±0.026	0.126±0.016	3.491±0.231	0.305±0.067	4.002±0.174	0.109±0.021	0.137±0.028	0.040±0.004	0.471±0.017
	第四	29	1.074±0.110	0.224±0.024	0.122±0.012	3.460±0.301	0.286±0.048	4.010±0.197	0.101±0.022	0.133±0.025	0.040±0.003	0.469±0.014
	第五	25	0.653±0.066	0.141±0.016	0.189±0.030	4.398±0.425	0.605±0.096	3.234±0.264	0.151±0.033	0.245±0.050	0.037±0.002	0.448±0.015
茨城県	瀨台	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009
	方下尾平	50	1.615±0.042	0.670±0.013	0.096±0.008	5.509±0.269	2.284±0.031	1.526±0.053	0.097±0.016	0.032±0.018	0.032±0.005	0.310±0.011
茨城県	方下尾平	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.361±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.288±0.016

表1-4 各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
長崎県	老久喜ノ辻	37	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.011±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.002	0.276±0.007
	久君ヶ浦	28	0.174±0.007	0.065±0.002	0.033±0.006	1.174±0.035	0.389±0.012	0.013±0.005	0.129±0.014	0.356±0.012	0.023±0.003	0.275±0.008
	角貝	28	0.146±0.009	0.038±0.002	0.059±0.009	1.691±0.100	1.726±0.085	0.035±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.023±0.002	0.338±0.010
	島川	49	0.135±0.010	0.037±0.002	0.056±0.009	1.746±0.073	1.834±0.064	0.022±0.013	0.334±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.339±0.015
	松浦第一	23	0.215±0.018	0.032±0.008	0.072±0.016	2.554±0.181	1.538±0.176	0.429±0.026	0.271±0.064	0.254±0.046	0.025±0.002	0.340±0.006
	"第二	17	0.183±0.011	0.031±0.005	0.071±0.024	2.288±0.319	1.523±0.193	0.309±0.083	0.244±0.074	0.204±0.049	0.024±0.002	0.337±0.010
	"第三	16	0.249±0.023	0.062±0.006	0.051±0.016	1.936±0.231	0.856±0.112	0.405±0.093	0.148±0.052	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
	"第四	22	0.284±0.022	0.066±0.008	0.045±0.012	1.890±0.157	0.774±0.179	0.454±0.036	0.120±0.044	0.132±0.036	0.026±0.002	0.343±0.010
	淀中第一	44	0.334±0.014	0.080±0.004	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.022	0.119±0.017	0.027±0.002	0.353±0.011
	"第二	25	0.243±0.019	0.059±0.007	0.057±0.015	1.849±0.104	0.811±0.089	0.398±0.028	0.135±0.035	0.147±0.023	0.026±0.002	0.345±0.009
熊本県	古里第一	17	0.322±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.485±0.042	0.118±0.025	0.099±0.016	0.026±0.002	0.338±0.015
	"第二	38	0.199±0.011	0.030±0.004	0.083±0.018	2.649±0.195	1.714±0.195	0.421±0.060	0.306±0.055	0.265±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	"第三	19	0.413±0.013	0.076±0.005	0.094±0.023	2.866±0.173	1.204±0.071	1.874±0.106	0.144±0.037	0.247±0.033	0.028±0.002	0.357±0.008
	"第四	19	0.266±0.035	0.065±0.010	0.051±0.009	1.847±0.146	0.788±0.108	0.419±0.048	0.127±0.040	0.137±0.040	0.025±0.002	0.335±0.010
	松大	43	0.194±0.009	0.054±0.005	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.025	0.192±0.032	0.124±0.039	0.018±0.011	0.331±0.017
	小南	30	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.233	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007
	大冠	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008
大冠	44	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.243±0.008	
大冠	53	1.534±0.139	0.665±0.035	0.075±0.008	4.494±0.460	0.247±0.014	1.236±0.092	0.090±0.018	0.041±0.012	0.030±0.003	0.292±0.010	
大冠	21	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.009	
宮崎県	桑ノ木津留	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	"第一群	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.205±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.019
	"第二群	36	35.158±1.118	5.001±0.175	0.041±0.002	0.038±0.002	0.009±0.004	0.155±0.005	0.035±0.019	0.000±0.000	0.035±0.019	0.446±0.022
	霧	36	0.186±0.010	0.083±0.005	0.047±0.008	1.611±0.079	0.94					

表1-5 各黒曜石の原産地における黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比											
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K		
北海道	HS1遺物群	67	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.296±0.077	0.430±0.016	0.153±0.009	0.140±0.015	0.008±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042	
	HS2遺物群	60	0.453±0.011	0.135±0.008	0.041±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.130±0.015	0.015±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015	
	FR1遺物群	51	0.643±0.012	0.124±0.008	0.052±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.156±0.015	0.004±0.008	0.029±0.011	0.407±0.047	
	FR2遺物群	59	0.535±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	2.545±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.016±0.022	0.027±0.009	0.373±0.043	
	FR3遺物群	37	0.380±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.164±0.021	0.017±0.023	0.023±0.006	0.292±0.037	
	FR4遺物群	44	0.261±0.043	0.074±0.010	0.051±0.008	2.500±0.117	0.639±0.057	0.679±0.032	0.155±0.021	0.009±0.017	0.018±0.008	0.258±0.036	
	FH1遺物群	32	0.898±0.032	0.221±0.007	0.054±0.006	2.540±0.101	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.017±0.021	0.037±0.003	0.447±0.011	
	KT1遺物群	56	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.942±0.133	0.314±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.019±0.021	0.043±0.007	0.516±0.015	
	KT2遺物群	38	0.959±0.027	0.154±0.005	0.085±0.010	2.882±0.092	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.012±0.016	0.042±0.008	0.519±0.010	
	KS1遺物群	32	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.468±0.021	0.180±0.019	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010	
	KS2遺物群	62	0.244±0.011	0.070±0.004	0.056±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.011	
	KS3遺物群	48	0.164±0.008	0.041±0.002	0.080±0.013	2.565±0.126	1.460±0.057	0.162±0.019	0.389±0.042	0.069±0.028	0.024±0.002	0.337±0.015	
	K19遺物群	48	0.185±0.007	0.049±0.003	0.081±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041	0.435±0.025	0.263±0.028	0.050±0.019	0.023±0.002	0.263±0.009	
	青森県	HY遺物群	31	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.068
		SN1遺物群	33	0.287±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.006
		SN2遺物群	29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.716±0.035	0.292±0.017	0.264±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015
	秋田県	KN遺物群	107	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040
TB遺物群		60	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.663±0.038	0.272±0.029	0.083±0.037	0.026±0.008	0.378±0.021	
岩手県	A11遺物群	41	1.519±0.026	0.277±0.010	0.078±0.006	2.849±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.058±0.017	0.929±0.024	
	A12遺物群	61	3.141±0.074	0.552±0.021	0.080±0.008	2.752±0.062	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.353±0.049	
	A13遺物群	61	0.950±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.014±0.016	0.028±0.006	0.360±0.009	
	A14遺物群	122	1.850±0.059	0.474±0.025	0.067±0.007	2.055±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105	
	A15遺物群	122	3.167±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052	
	FS遺物群	45	0.272±0.090	0.097±0.029	0.053±0.007	1.791±0.083	0.327±0.019	0.453±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.011	
	SD遺物群	48	2.900±0.050	0.741±0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.026	0.246±0.013	0.008±0.017	0.083±0.013	1.195±0.029	
	新潟県	AC1遺物群	63	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.008	1.561±0.075	0.400±0.017	0.440±0.019	0.169±0.019	0.061±0.015	0.038±0.005	0.427±0.016
AC2遺物群		48	0.251±0.007	0.081±0.003	0.112±0.013	2.081±0.076	0.904±0.035	0.406±0.020	0.409±0.024	0.108±0.023	0.036±0.003	0.419±0.007	
AC3遺物群		36	0.657±0.016	0.144±0.005	0.083±0.010	1.891±0.051	0.202±0.010	0.381±0.017	0.286±0.018	0.041±0.012	0.049±0.005	0.616±0.013	
IN1遺物群		48	0.326±0.012	0.078±0.004	0.066±0.010	2.056±0.177	0.901±0.048	0.751±0.045	0.172±0.030	0.068±0.016	0.028±0.030	0.338±0.007	
長野県	IN2遺物群	48	0.745±0.013	0.110±0.004	0.140±0.015	3.176±0.212	0.728±0.039	1.582±0.080	0.104±0.030	0.038±0.013	0.036±0.003	0.396±0.010	
	NK遺物群	57	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014	
山口県	YM遺物群	56	0.381±0.016	0.138±0.005	0.038±0.012	1.611±0.102	0.721±0.039	0.497±0.026	0.128±0.022	0.047±0.016	0.023±0.003	0.331±0.013	
	NM遺物群	40	0.330±0.010	0.103±0.003	0.042±0.012	1.751±0.083	1.048±0.057	0.518±0.034	0.196±0.037	0.058±0.018	0.022±0.003	0.326±0.011	
	MK-1遺物群	48	0.087±0.008	0.059±0.002	0.010±0.003	0.677±0.023	0.370±0.097	0.006±0.002	0.125±0.012	0.292±0.010	0.022±0.002	0.337±0.010	
	MK-2遺物群	48	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.013	1.745±0.121	1.149±0.092	0.297±0.029	0.202±0.037	0.177±0.022	0.021±0.002	0.268±0.007	
	鹿児島県	K11遺物群	45	0.383±0.012	0.101±0.005	0.061±0.024	1.913±0.158	0.985±0.057	0.527±0.038	0.197±0.030	0.079±0.028	0.028±0.002	0.409±0.009
K12遺物群		46	0.402±0.015	0.146±0.008	0.060±0.017	1.529±0.148	0.729±0.052	0.565±0.038	0.137±0.024	0.083±0.026	0.029±0.003	0.443±0.022	
UT1遺物群		46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.053±0.010	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.039	0.168±0.027	0.034±0.028	0.024±0.011	0.390±0.014	
SG遺物群		48	1.668±0.034	0.778±0.038	0.082±0.010	4.106±0.222	0.202±0.014	0.699±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.021	0.553±0.033	
OK遺物群		32	1.371±0.074	0.687±0.025	0.061±0.008	3.109±0.161	0.202±0.012	0.579±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.518±0.021	
KK1遺物群		48	0.347±0.010	0.080±0.003	0.081±0.012	3.085±0.155	0.887±0.036	1.487±0.065	0.119±0.036	0.184±0.023	0.027±0.002	0.265±0.009	
KK2遺物群		46	0.521±0.012	0.122±0.004	0.076±0.013	3.125±0.222	0.877±0.048	1.500±0.074	0.109±0.034	0.187±0.023	0.035±0.004	0.359±0.010	

表1-6 各黒曜石の原産地における黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
北朝鮮	会寧城外遺跡遺物群	70	0.135±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.068±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.319±0.012
ロシア	イリスタヤ	26	18.888±2.100	6.088±0.868	0.293±0.032	27.963±2.608	0.055±0.017	2.716±0.162	0.163±0.019	0.036±0.030	0.173±0.029	1.674±0.240
	バラトウンカ-1	56	0.706±0.048	0.225±0.011	0.048±0.010	1.851±0.180	0.246±0.014	0.752±0.070	0.075±0.016	0.015±0.008	0.041±0.004	0.482±0.022
	バラトウンカ-2	40	0.717±0.018	0.269±0.006	0.031±0.006	1.604±0.043	0.119±0.007	0.398±0.016	0.095±0.008	0.016±0.006	0.031±0.003	0.402±0.010
	バラトウンカ-3	48	0.384±0.008	0.097±0.004	0.043±0.007	1.642±0.053	0.262±0.011	0.753±0.026	0.066±0.026	0.013±0.062	0.017±0.003	0.176±0.009
	バラトウンカ-4	48	0.141±0.007	0.074±0.003	0.029±0.004	1.069±0.025	0.203±0.007	0.150±0.006	0.106±0.009	0.024±0.006	0.016±0.002	0.146±0.004
	ナチキヤ	48	0.220±0.008	0.104±0.004	0.099±0.016	1.261±0.062	0.608±0.028	0.500±0.026	0.122±0.030	0.064±0.023	0.024±0.003	0.340±0.006
	アバチャ	40	0.255±0.007	0.160±0.005	0.029±0.004	1.121±0.034	0.192±0.007	0.151±0.008	0.106±0.009	0.024±0.007	0.026±0.003	0.303±0.007
標準試料	JG-1 <sup>a)</sup>	127	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

HS2群=置戸・置戸山群に一致、FR2群=ケシヨマップ第一群に一致  
 平均値±標準偏差値、\* : ガラス質安山岩 NK遺物群 : 中つ原遺跡、HY遺物群 : 日和山遺跡、SN遺物群 : 三内丸山遺跡出土、KN遺物群 : 此掛沢遺跡、HS遺物群 : 北進遺跡、KI遺物群 : 桐木遺跡、UT遺物群 : 内屋敷遺跡、AI遺物群 : 相ノ沢遺跡、FS遺物群 : 房ノ沢遺跡、SD遺物群 : 下館銅屋遺跡、FR遺物群 : 東麓塚1、2遺跡、FH遺物群 : 東9線8遺跡、KT遺物群 : 北区1遺跡、KS遺物群 : キウス4遺跡A-R地区、SG遺物群 : 志風頭遺跡、OK遺物群 : 奥名野遺跡、TB遺物群 : 戸平川遺跡、NM遺物群 : 長樹遺跡、MK遺物群 : 南方遺跡、YM遺物群 : 南方、藤尾、岩上遺跡、AC1、2、3遺物群 : アチャ平遺跡、IN1、2遺物群 : 岩野原遺跡、K19遺物群 : K39遺跡、KK1、2遺物群 : 志志加里遺跡など出土遺物の産地不明の原石群。ウラジオストック付近 : イリスタヤ遺跡、南カムチャッカ : バラトウンカ、ナチキヤ、アバチャ遺跡  
 a) : Ando,A., Kurasawa,H., Ohmori,T. & Takeda,E. (1974) . 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8, 175-192.

表2 九州西北地域原産地採取原石が各原石群に同定される割合の百分率 (%)

原 石 群	九州西北地域原産地地区名 (原石個数)							
	腰 岳 (26)	淀 姫 (44)	古里 陸地 (66)	古里 海岸 (21)	中町 (44)	牟田 (46)	大石 (39)	椎葉川 (59)
腰 岳 群	100		37			24	33	
淀 姫 群	100	100						
古里 第一群			63	5		43	51	
古里 第二群			11	57	2			100
古里 第三群			95	25	33	88	50	26
中町 第一群			12	14	24	68	26	18
中町 第二群			98	14	24	57	39	28
松浦 第一群	88		32			24	33	
松浦 第二群	96		51	5	2	39	51	
松浦 第三群			57	24	33	91	54	49
松浦 第四群			93	17	24	80	52	33
椎葉川 群			9	48	2			100

注 : 同定確率を1%以上に設定した。古里陸地で採取された原石1個 (No.6) 判定例  
 = 古里第1群 (62%)、

表3-1 各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比											
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca		
北海道	イトムカ 旭	46	0.359±0.020	0.430±0.014	0.081±0.006	5.884±0.223	0.166±0.011	0.120±0.013	0.883±0.030	0.015±0.013	0.013±0.001	0.137±0.007	
		80	0.351±0.011	0.288±0.010	0.089±0.005	5.064±0.140	0.174±0.011	0.096±0.009	0.903±0.029	0.015±0.012	0.015±0.001	0.141±0.005	
新潟県	極野	48	0.231±0.008	0.349±0.028	0.141±0.015	10.218±0.328	0.141±0.012	0.159±0.011	0.819±0.042	0.019±0.012	0.012±0.001	0.124±0.005	
群馬県	荒船山	43	0.194±0.070	0.360±0.028	0.129±0.014	9.205±1.153	0.080±0.034	0.085±0.014	0.458±0.082	0.009±0.010	0.013±0.021	0.123±0.032	
長野県	横川 八風山	70	0.183±0.007	0.340±0.017	0.153±0.017	11.018±0.398	0.118±0.011	0.157±0.013	0.721±0.030	0.019±0.009	0.012±0.001	0.113±0.005	
		46	0.274±0.028	0.324±0.010	0.090±0.008	4.905±0.505	0.104±0.009	0.100±0.009	0.581±0.033	0.012±0.009	0.018±0.002	0.168±0.014	
神奈川県	火打沢	40	0.092±0.005	0.285±0.009	0.166±0.009	12.406±0.332	0.023±0.006	0.111±0.008	0.483±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001	0.012±0.001	
岐阜県	下呂	93	1.576±0.055	0.227±0.011	0.038±0.004	0.766±0.025	0.277±0.020	0.031±0.013	0.504±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.660±0.025	
奈良県	二上山	51	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.006	4.629±0.270	0.202±0.012	0.066±0.009	0.620±0.022	0.024±0.010	0.019±0.001	0.144±0.005	
大阪府	和泉	26	0.494±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.060±0.148	0.296±0.021	0.065±0.010	0.706±0.025	0.038±0.010	0.023±0.001	0.194±0.009	
兵庫県	岩屋第一 " 第二 甲	28	0.616±0.021	0.254±0.012	0.057±0.005	3.610±0.189	0.365±0.019	0.056±0.012	0.846±0.026	0.027±0.017	0.018±0.001	0.186±0.007	
		24	0.535±0.020	0.263±0.005	0.053±0.005	3.438±0.103	0.340±0.015	0.042±0.012	1.069±0.030	0.026±0.014	0.017±0.001	0.173±0.008	
		22	0.300±0.017	0.154±0.005	0.056±0.007	3.350±0.261	0.130±0.012	0.061±0.033	0.574±0.021	0.012±0.007	0.018±0.001	0.159±0.008	
香川県	五色台	28	0.457±0.011	0.251±0.007	0.053±0.005	3.574±0.122	0.311±0.019	0.043±0.016	0.970±0.033	0.038±0.015	0.015±0.001	0.149±0.005	
		18	0.459±0.012	0.249±0.008	0.053±0.005	3.518±0.129	0.308±0.019	0.043±0.015	0.972±0.037	0.034±0.009	0.016±0.001	0.150±0.004	
		51	0.534±0.015	0.262±0.005	0.053±0.005	3.376±0.108	0.340±0.014	0.040±0.016	1.071±0.051	0.032±0.011	0.017±0.001	0.173±0.007	
		25	0.397±0.009	0.239±0.004	0.069±0.005	4.619±0.127	0.277±0.012	0.059±0.011	1.145±0.029	0.031±0.013	0.015±0.001	0.130±0.004	
	金山	24	0.488±0.012	0.222±0.004	0.079±0.005	4.617±0.126	0.316±0.017	0.057±0.011	1.186±0.033	0.020±0.015	0.017±0.001	0.155±0.005	
		19	0.406±0.009	0.216±0.005	0.082±0.005	4.808±0.125	0.289±0.017	0.064±0.011	1.059±0.025	0.020±0.011	0.015±0.001	0.133±0.006	
	城山	63	0.402±0.011	0.216±0.006	0.079±0.006	4.741±0.138	0.292±0.014	0.068±0.016	1.065±0.026	0.021±0.014	0.013±0.001	0.116±0.003	
		54	0.350±0.007	0.233±0.005	0.074±0.006	4.898±0.169	0.261±0.012	0.061±0.014	1.093±0.035	0.023±0.016	0.011±0.002	0.105±0.004	
	*	奥池第一群 奥池第二群 雄山 神谷・南山	51	0.842±0.046	0.127±0.006	0.024±0.006	2.087±0.088	0.492±0.030	0.018±0.018	0.722±0.047	0.045±0.013	0.035±0.003	0.434±0.024
			50	0.641±0.052	0.133±0.007	0.033±0.007	2.471±0.135	0.391±0.028	0.021±0.017	0.934±0.067	0.038±0.011	0.029±0.003	0.331±0.027
			50	0.827±0.052	0.128±0.006	0.026±0.008	2.119±0.091	0.485±0.032	0.016±0.018	0.731±0.050	0.043±0.014	0.035±0.003	0.421±0.027
	*	大麻山南第一 " 第二	39	0.693±0.072	0.149±0.007	0.041±0.010	2.792±0.180	0.473±0.043	0.034±0.021	0.965±0.061	0.044±0.012	0.029±0.003	0.344±0.038
34			0.992±0.041	0.124±0.009	0.034±0.011	2.370±0.138	0.691±0.024	0.021±0.022	0.774±0.032	0.054±0.015	0.039±0.004	0.480±0.018	
愛媛県	中井谷	40	0.458±0.041	0.374±0.007	0.073±0.009	5.160±0.157	0.393±0.022	0.108±0.017	1.473±0.051	0.037±0.021	0.020±0.008	0.219±0.009	
鳥取県	馬ノ山 下砂見 坂	23	0.188±0.007	0.178±0.006	0.011±0.001	0.916±0.033	0.032±0.002	0.001±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005	
		46	0.168±0.003	0.162±0.004	0.021±0.003	1.447±0.038	0.028±0.004	0.011±0.003	0.262±0.026	0.007±0.003	0.016±0.001	0.119±0.005	
		51	0.442±0.012	0.444±0.044	0.061±0.006	3.570±0.097	0.109±0.008	0.080±0.009	0.988±0.032	0.078±0.009	0.027±0.003	0.206±0.006	

表3-2 各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比										
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
広島県	冠冠高 伴伴蔵 伴伴蔵 冠山 飯山	60	0.651±0.021	0.485±0.014	0.046±0.004	3.322±0.104	0.174±0.009	0.029±0.009	0.462±0.017	0.185±0.010	0.025±0.002	0.241±0.008
		45	0.277±0.010	0.345±0.008	0.019±0.002	1.604±0.057	0.039±0.015	0.008±0.006	0.368±0.012	0.026±0.006	0.019±0.001	0.171±0.006
		51	0.340±0.008	0.319±0.008	0.020±0.003	1.347±0.025	0.047±0.011	0.011±0.005	0.381±0.021	0.044±0.056	0.019±0.002	0.190±0.009
		29	0.323±0.019	0.363±0.031	0.019±0.001	1.607±0.060	0.059±0.009	0.003±0.005	0.399±0.043	0.025±0.009	0.021±0.001	0.171±0.006
		25	1.116±0.061	0.472±0.022	0.037±0.005	2.228±0.080	0.145±0.011	0.023±0.009	0.524±0.014	0.246±0.013	0.038±0.003	0.391±0.021
山口県	平生	45	0.184±0.009	0.190±0.006	0.112±0.031	7.290±0.346	0.170±0.015	0.077±0.011	0.691±0.040	0.026±0.010	0.011±0.001	0.097±0.004
福岡県	八昭和池第一 女" 第二 市" 第三 " 第四	50	1.825±0.041	0.644±0.024	0.053±0.007	2.125±0.063	0.453±0.019	0.107±0.017	1.477±0.049	0.044±0.022	0.050±0.003	0.500±0.012
		50	1.592±0.066	0.609±0.020	0.061±0.005	3.075±0.123	0.534±0.039	0.111±0.020	1.671±0.134	0.049±0.012	0.042±0.003	0.419±0.014
		50	3.144±0.069	0.724±0.036	0.073±0.009	2.919±0.099	0.925±0.048	0.181±0.026	2.820±0.114	0.072±0.020	0.074±0.026	0.817±0.040
		50	1.922±0.108	0.681±0.050	0.064±0.005	3.023±0.103	0.607±0.033	0.122±0.017	1.887±0.098	0.050±0.015	0.050±0.004	0.499±0.018
佐賀県	多久第一 " 第二 " 第三 梅老野 松山 寺山岡本 西有田松 尾転磯二 尾葉第一 " 第二 " 第三 " 第四	53	0.831±0.047	0.404±0.013	0.056±0.007	4.718±0.225	0.510±0.037	0.062±0.019	0.850±0.033	0.222±0.018	0.016±0.003	0.201±0.011
		23	0.834±0.055	0.396±0.016	0.065±0.010	5.342±0.317	0.566±0.047	0.081±0.028	0.866±0.046	0.242±0.023	0.016±0.005	0.202±0.014
		8	1.097±0.232	0.350±0.028	0.065±0.014	4.498±0.903	0.701±0.084	0.084±0.025	0.828±0.052	0.239±0.019	0.021±0.003	0.263±0.046
		42	1.287±0.051	0.340±0.013	0.058±0.010	3.643±0.225	0.784±0.030	0.081±0.022	0.824±0.033	0.265±0.032	0.038±0.009	0.458±0.050
		62	0.705±0.034	0.314±0.011	0.067±0.009	5.323±0.244	0.543±0.036	0.075±0.021	0.691±0.034	0.208±0.023	0.014±0.002	0.174±0.007
		30	0.629±0.043	0.310±0.010	0.070±0.008	5.600±0.323	0.489±0.029	0.066±0.017	0.644±0.032	0.192±0.018	0.013±0.001	0.157±0.010
		17	0.453±0.019	0.331±0.005	0.098±0.010	7.489±0.249	0.307±0.024	0.081±0.015	0.568±0.023	0.106±0.010	0.023±0.002	0.377±0.016
		47	0.717±0.036	0.410±0.012	0.081±0.006	5.312±0.241	0.383±0.024	0.094±0.013	0.810±0.039	0.095±0.023	0.028±0.027	0.291±0.014
		40	0.970±0.032	0.330±0.009	0.066±0.007	3.683±0.122	0.431±0.021	0.077±0.016	0.554±0.023	0.110±0.021	0.034±0.003	0.377±0.012
		42	0.822±0.027	0.369±0.010	0.065±0.007	3.888±0.236	0.392±0.021	0.076±0.018	0.540±0.049	0.089±0.020	0.027±0.009	0.330±0.013
		41	0.675±0.016	0.390±0.010	0.073±0.007	4.666±0.218	0.346±0.021	0.078±0.012	0.582±0.065	0.087±0.013	0.024±0.007	0.280±0.011
		12	0.538±0.011	0.401±0.007	0.076±0.010	5.271±0.189	0.296±0.019	0.075±0.015	0.587±0.024	0.075±0.009	0.022±0.002	0.227±0.009
37	0.744±0.014	0.409±0.010	0.080±0.010	5.176±0.202	0.399±0.020	0.092±0.015	0.807±0.027	0.096±0.023	0.029±0.003	0.302±0.010		
長崎県	大串 亀岳 牟田第一 " 第二 川棚第一 " 第二 福井第一 " 第二 崎針尾第一 " 第二 駒崎鼻	28	1.111±0.118	0.140±0.009	0.055±0.020	1.650±0.236	0.236±0.043	0.041±0.027	0.486±0.038	0.082±0.022	0.050±0.006	0.607±0.059
		19	1.072±0.042	0.144±0.008	0.041±0.006	1.776±0.152	0.233±0.014	0.015±0.013	0.497±0.018	0.065±0.015	0.049±0.003	0.587±0.018
		30	0.784±0.092	0.345±0.026	0.069±0.008	4.561±0.236	0.875±0.132	0.220±0.028	0.727±0.053	0.299±0.039	0.015±0.003	0.188±0.021
		13	0.594±0.048	0.328±0.013	0.088±0.010	7.759±0.411	1.114±0.104	0.348±0.031	0.989±0.071	0.496±0.041	0.012±0.001	0.144±0.010
		59	0.498±0.030	0.302±0.011	0.067±0.005	4.225±0.181	0.220±0.018	0.076±0.010	0.814±0.048	0.035±0.012	0.012±0.002	0.133±0.008
		9	0.406±0.048	0.265±0.027	0.071±0.004	4.854±0.374	0.203±0.029	0.081±0.012	0.714±0.048	0.034±0.017	0.011±0.001	0.109±0.011
		15	0.630±0.012	0.329±0.005	0.090±0.011	7.531±0.315	1.211±0.040	0.365±0.035	1.028±0.047	0.534±0.033	0.013±0.001	0.154±0.003
		25	0.512±0.014	0.317±0.008	0.084±0.011	7.157±0.312</						

表3-3 原石産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比											
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca		
北海道	頭無川遺物群	35	0.352±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.170±0.015	0.103±0.016	0.874±0.101	0.018±0.011	0.017±0.021	0.156±0.090	
石川県	酒見遺物群	39	0.476±0.016	0.596±0.012	0.097±0.053	5.229±0.168	0.160±0.010	0.110±0.015	1.282±0.033	0.031±0.008	0.025±0.017	0.228±0.075	
岐阜県	野笹No.261他群	56	0.632±0.032	0.393±0.013	0.045±0.005	2.234±0.070	0.170±0.009	0.046±0.012	1.030±0.041	0.029±0.006	0.022±0.002	0.213±0.010	
	野笹No.271他群	35	0.407±0.010	0.304±0.005	0.040±0.005	1.882±0.041	0.089±0.005	0.033±0.005	0.671±0.030	0.023±0.005	0.018±0.002	0.177±0.006	
	野笹No.282他群	33	0.799±0.009	0.512±0.010	0.050±0.005	2.540±0.096	0.221±0.014	0.077±0.011	1.213±0.039	0.034±0.007	0.026±0.002	0.240±0.009	
	野笹No.289他群	32	3.515±0.134	1.068±0.047	0.149±0.023	6.620±0.453	0.617±0.041	0.210±0.032	1.330±0.067	0.158±0.027	0.167±0.015	2.525±0.081	
	野笹No.262群	40	0.384±0.004	0.318±0.006	0.057±0.005	2.356±0.068	0.102±0.007	0.051±0.007	0.651±0.022	0.022±0.005	0.017±0.002	0.161±0.004	
野笹No.295群	32	3.584±0.178	1.077±0.058	0.075±0.016	3.775±0.153	0.441±0.024	0.197±0.019	1.118±0.053	0.150±0.028	0.183±0.019	2.989±0.159		
愛知県	朝日No.7群	35	0.334±0.004	0.362±0.005	0.067±0.009	3.895±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.758±0.044	0.027±0.009	0.017±0.002	0.147±0.010	
	朝日No.15群	35	1.016±0.022	0.582±0.012	0.043±0.005	4.187±0.141	0.477±0.019	0.089±0.020	1.722±0.058	0.058±0.026	0.032±0.009	0.557±0.021	
大阪府	向出No.6群	30	0.236±0.003	0.189±0.003	0.075±0.005	4.966±0.089	0.194±0.010	0.063±0.011	0.588±0.019	0.010±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002	
	向出No.49群	30	0.310±0.003	0.203±0.003	0.052±0.004	3.734±0.074	0.228±0.016	0.059±0.010	0.610±0.021	0.011±0.012	0.017±0.001	0.147±0.002	
	中社No.6.2群	30	0.333±0.003	0.229±0.003	0.066±0.004	4.363±0.080	0.212±0.014	0.066±0.011	0.618±0.019	0.010±0.011	0.017±0.001	0.142±0.002	
	中社No.8.2群	30	0.340±0.003	0.226±0.003	0.065±0.005	4.305±0.085	0.208±0.010	0.069±0.009	0.628±0.015	0.010±0.010	0.016±0.001	0.136±0.002	
	中社No.8.6群	30	2.638±0.057	0.949±0.026	0.025±0.008	4.536±0.105	0.624±0.019	0.139±0.027	1.425±0.050	0.059±0.019	0.097±0.033	1.903±0.055	
	中社No.8.9群	30	0.600±0.005	0.287±0.004	0.046±0.004	3.077±0.060	0.363±0.014	0.048±0.012	1.088±0.022	0.022±0.016	0.028±0.002	0.256±0.004	
	中社No.10.4群	30	0.133±0.002	0.117±0.002	0.095±0.006	6.365±0.098	0.112±0.007	0.044±0.010	0.328±0.020	0.009±0.009	0.011±0.001	0.102±0.002	
	鬼虎No.1.6群	33	0.361±0.004	0.253±0.004	0.053±0.007	3.105±0.070	0.238±0.106	0.063±0.014	0.684±0.025	0.027±0.008	0.018±0.001	0.170±0.004	
	鬼虎No.1.7群	33	0.372±0.004	0.250±0.004	0.049±0.007	2.987±0.060	0.241±0.010	0.056±0.009	0.675±0.024	0.023±0.008	0.018±0.001	0.176±0.005	
	粟生間谷No.98群	48	0.421±0.009	0.227±0.005	0.066±0.009	4.359±0.132	0.217±0.015	0.067±0.009	0.651±0.025	0.026±0.009	0.015±0.002	0.129±0.006	
	粟生間谷No.T5群	48	0.240±0.002	0.268±0.005	0.058±0.007	4.106±0.087	0.160±0.010	0.059±0.009	0.582±0.027	0.022±0.008	0.018±0.002	0.123±0.004	
	鳥取県	笹谷2No.2群	48	0.491±0.008	0.524±0.009	0.040±0.005	2.278±0.047	0.098±0.006	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006
		笹谷2No.3群	48	0.324±0.007	0.508±0.007	0.048±0.005	2.859±0.079	0.068±0.006	0.051±0.006	0.622±0.025	0.048±0.008	0.021±0.002	0.152±0.006
	島根県	平田遺物群	70	0.211±0.006	0.296±0.007	0.092±0.014	7.108±0.245	0.098±0.011	0.071±0.012	0.552±0.038	0.021±0.008	0.013±0.001	0.118±0.005
喜時雨遺物群		44	3.461±0.177	2.341±0.134	0.158±0.041	17.661±1.079	1.099±0.048	0.268±0.036	2.124±0.106	0.157±0.035	0.116±0.012	1.201±0.085	
下山遺物群		60	0.190±0.003	0.286±0.005	0.090±0.010	6.872±0.311	0.088±0.008	0.064±0.008	0.528±0.021	0.017±0.008	0.014±0.001	0.102±0.005	
下山No.5遺物群		48	0.178±0.002	0.284±0.003	0.086±0.007	7.148±0.141	0.082±0.007	0.060±0.009	0.501±0.023	0.013±0.005	0.012±0.001	0.092±0.003	
下山No.11遺物群		48	0.161±0.004	0.272±0.004	0.090±0.008	7.586±0.287	0.076±0.009	0.060±0.008	0.468±0.019	0.014±0.006	0.012±0.001	0.087±0.003	
香川県	六ツ目遺物群	30	0.307±0.004	0.258±0.005	0.067±0.005	4.736±0.096	0.235±0.010	0.058±0.014	0.840±0.023	0.030±0.013	0.016±0.005	0.133±0.004	
	庵の谷遺物群	60	0.684±0.012	0.248±0.006	0.066±0.012	4.139±0.128	0.429±0.019	0.077±0.022	1.178±0.040	0.058±0.013	0.025±0.002	0.262±0.007	
高知県	松ノ木遺物群	37	0.610±0.017	0.223±0.004	0.797±0.005	4.528±0.120	0.325±0.016	0.063±0.017	1.151±0.028	0.019±0.014	0.024±0.002	0.193±0.006	
宮崎県	永追No.18遺物群	48	0.293±0.007	0.237±0.003	0.050±0.006	3.976±0.127	0.164±0.010	0.061±0.010	0.658±0.026	0.024±0.008	0.017±0.002	0.127±0.007	
	永追No.19遺物群	48	0.440±0.085	2.190±0.242	0.026±0.005	6.611±0.068	0.012±0.002	0.057±0.005	0.913±0.047	0.050±0.008	0.339±0.037	4.867±0.543	

注：向出遺跡、下山No.5、No.11群、中ノ社遺跡、六ツ目遺跡、松ノ木遺跡、朝日遺跡、鬼虎川遺跡、野笹No.262、295群、粟生間谷遺跡、永追2遺跡の遺物群の分析個数は1個の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。下山遺跡（No.4、No.14、No.15）、平田遺跡（No.12、No.13）、庵の谷遺跡、野笹遺跡、喜時雨遺跡の遺物群の分析個数はそれぞれ2、3個の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。

表4-1 計志加里遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

分析 個数	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
76769	0.229	0.031	0.052	2.442	1.549	0.434	0.308	0.272	0.026	0.340
76770	0.202	0.030	0.069	2.589	1.577	0.420	0.345	0.243	0.030	0.333
76771	0.210	0.031	0.049	2.397	1.533	0.418	0.248	0.254	0.025	0.335
76772	0.214	0.030	0.081	2.583	1.496	0.431	0.316	0.240	0.034	0.348
76773	0.201	0.031	0.097	3.194	1.817	0.464	0.332	0.253	0.032	0.358
76774	0.212	0.029	0.070	2.751	1.730	0.431	0.315	0.246	0.034	0.346
76775	0.222	0.032	0.066	2.492	1.533	0.418	0.312	0.255	0.032	0.329
76776	0.226	0.031	0.063	2.649	1.609	0.453	0.280	0.215	0.029	0.324
76777	0.212	0.032	0.078	2.505	1.590	0.426	0.356	0.270	0.031	0.336
76778	0.212	0.038	0.088	2.564	1.628	0.433	0.343	0.213	0.026	0.315
76779	0.215	0.031	0.067	2.843	1.661	0.445	0.328	0.282	0.034	0.348
76780	0.207	0.032	0.060	2.643	1.641	0.443	0.287	0.197	0.030	0.340
76781	0.211	0.030	0.072	2.915	1.693	0.443	0.309	0.231	0.031	0.346
76782	0.215	0.030	0.064	2.635	1.557	0.427	0.256	0.201	0.032	0.334
76783	0.204	0.031	0.081	2.889	1.767	0.458	0.309	0.200	0.027	0.341
76784	0.225	0.029	0.076	2.795	1.755	0.439	0.294	0.284	0.024	0.335
76785	0.206	0.030	0.095	2.652	1.590	0.432	0.310	0.196	0.029	0.339
76786	0.218	0.031	0.070	2.531	1.644	0.422	0.334	0.229	0.028	0.322
76787	0.207	0.030	0.083	2.594	1.605	0.418	0.294	0.238	0.031	0.351
76788	0.220	0.031	0.077	2.666	1.535	0.412	0.348	0.225	0.032	0.351
76789	0.204	0.027	0.078	2.665	1.681	0.480	0.265	0.305	0.031	0.340
76790	0.198	0.029	0.058	2.536	1.654	0.407	0.306	0.256	0.025	0.334
76791	0.210	0.031	0.052	2.560	1.548	0.423	0.285	0.285	0.032	0.343
76792	0.205	0.026	0.067	2.562	1.588	0.409	0.363	0.225	0.034	0.323
76793	0.184	0.030	0.083	2.661	1.605	0.449	0.315	0.280	0.027	0.323
76794	1.692	0.777	0.041	3.187	0.200	1.113	0.104	0.033	0.042	0.430
76795	1.780	0.843	0.040	3.215	0.187	1.052	0.109	0.032	0.049	0.443
76796	0.344	0.084	0.041	1.816	0.543	0.496	0.087	0.102	0.032	0.351
76797	0.337	0.081	0.035	1.886	0.555	0.510	0.079	0.126	0.034	0.328
76881	0.351	0.082	0.093	3.323	0.899	1.540	0.088	0.215	0.027	0.268
76799	0.517	0.120	0.093	3.182	0.859	1.495	0.104	0.175	0.033	0.354
76800	0.432	0.072	0.092	2.729	1.165	1.796	0.173	0.217	0.034	0.339
76801	0.437	0.081	0.094	2.678	1.117	1.785	0.181	0.214	0.031	0.353
76802	0.204	0.040	0.065	2.327	1.528	0.408	0.277	0.314	0.028	0.324
76803	0.222	0.029	0.109	2.559	1.615	0.416	0.344	0.233	0.033	0.322
76804	0.242	0.029	0.094	2.467	1.480	0.430	0.309	0.229	0.023	0.339
76805	0.222	0.034	0.092	2.501	1.688	0.490	0.347	0.288	0.023	0.331
76806	0.207	0.028	0.069	2.738	1.710	0.454	0.269	0.316	0.030	0.325
76807	0.221	0.033	0.076	2.814	1.789	0.494	0.376	0.273	0.030	0.332
76808	0.215	0.029	0.066	2.639	1.653	0.436	0.234	0.312	0.029	0.320
76809	0.216	0.024	0.102	2.388	1.519	0.435	0.320	0.264	0.020	0.333
76810	0.216	0.029	0.108	2.518	1.534	0.421	0.369	0.283	0.026	0.327
*76810	0.217	0.033	0.058	2.494	1.532	0.412	0.291	0.264	0.030	0.345
76811	0.266	0.140	0.023	1.230	0.701	0.383	0.166			



表5-1 計志加里遺跡出土縄文時代の黒曜石製剥片の原産地推定結果

分析個数	番号-番号, グリッド, 層位	原石産地(確率)	判定	器種	自然礫面
76769	1-2077, 6, III下	松浦第1群(51%), 腰岳(31%), 古里第1群(28%)	腰岳	剥片	角礫
76770	2-760, 8, IB	腰岳(98%), 古里第1群(95%), 松浦第1群(90%)	腰岳	剥片	角礫
76771	3-2590, 9, III下	古里第1群(85%), 松浦第1群(88%), 腰岳(76%)	腰岳	剥片	角礫
76772	4-690, 8, IB	腰岳(84%), 松浦第1群(87%), 古里第1群(73%)	腰岳	剥片	
76773	5-478, 9, IB	古里第1群(7%), 腰岳(4%), 松浦第1群(3%)	腰岳	剥片	角礫
76774	6-3372, 7, III下	古里第1群(97%), 腰岳(91%), 松浦第1群(40%)	腰岳	剥片	角礫
76775	7-1449, 7, III	腰岳(93%), 松浦第1群(93%), 古里第1群(68%)	腰岳	剥片	角礫
76776	8-1113, 6, III	松浦第1群(95%), 古里第1群(55%), 腰岳(42%)	腰岳	剥片	角礫
76777	9-4551, 9, III下	腰岳(98%), 古里第1群(83%), 松浦第1群(49%)	腰岳	剥片	
76778	10-4811, 9, III	腰岳(47%), 古里第1群(50%), 松浦第2群(14%)	腰岳	剥片	角礫
76779	11-565, 8, IB	腰岳(82%), 古里第1群(63%), 松浦第1群(74%)	腰岳	剥片	
76780	12-760, 8, IB	古里第1群(87%), 腰岳(60%), 松浦第1群(36%)	腰岳	剥片	角礫?
76781	13-4350, 9, III	腰岳(63%), 松浦第1群(50%), 古里第1群(46%)	腰岳	剥片	角礫
76782	14-3720, 8, III	松浦第1群(91%), 腰岳(68%), 古里第1群(60%)	腰岳	剥片	角礫
76783	15-4215, 9, III下	古里第1群(75%), 腰岳(55%), 松浦第2群(36%)	腰岳	剥片	角礫
76784	16-7137, 10, III	古里第1群(76%), 腰岳(43%), 松浦第1群(35%)	腰岳	剥片	
76785	17-1264, 6, III	古里第1群(70%), 腰岳(64%), 松浦第1群(57%)	腰岳	剥片	
76786	18-4483, 9, III下	腰岳(89%), 古里第1群(62%), 松浦第1群(24%)	腰岳	剥片	
76787	19-3365, 7, III上	腰岳(99%), 古里第1群(99%), 松浦第1群(95%)	腰岳	剥片	
76788	20-1843, 9, III	松浦第1群(86%), 腰岳(56%), 古里第1群(50%)	腰岳	剥片	角礫
76789	21-2666, 9, 円	古里第1群(88%), 腰岳(60%), 松浦第2群(36%)	腰岳	剥片	角礫
76790	22-1816, 9, III	古里第1群(99%), 腰岳(74%), 松浦第2群(49%)	腰岳	剥片	角礫
76791	23-2382, 8, III	松浦第1群(98%), 腰岳(95%), 古里第1群(81%)	腰岳	剥片	角礫
76792	24-2884, 8, III	松浦第1群(94%), 腰岳(70%), 古里第1群(62%)	腰岳	剥片	
76793	25-5158, 8, III	古里第1群(55%), 腰岳(26%), 松浦第1群(43%)	腰岳	剥片	
76794	26-730, 8, IB	上牛鼻(76%)	上牛鼻	剥片	
76795	27-1955, 6, III下	上牛鼻(33%)	上牛鼻	剥片	
76796	28-405, 9, IB	淀姫(37%), 古里第3群(58%), 中町第2群(52%), 松浦第4群(4%)	淀姫	剥片	角礫
76797	29-3778, 8, III下	淀姫(45%), 古里第3群(41%), 中町第2群(31%), 松浦第4群(2%)	淀姫	剥片	角礫
76881	30-1492, 7, IB	KK1遺物群(53%)但し 表面風化層除く	計志加里30遺物群	剥片	円礫?

表5-2 計志加里遺跡出土縄文時代の黒曜石製剥片の原産地推定結果

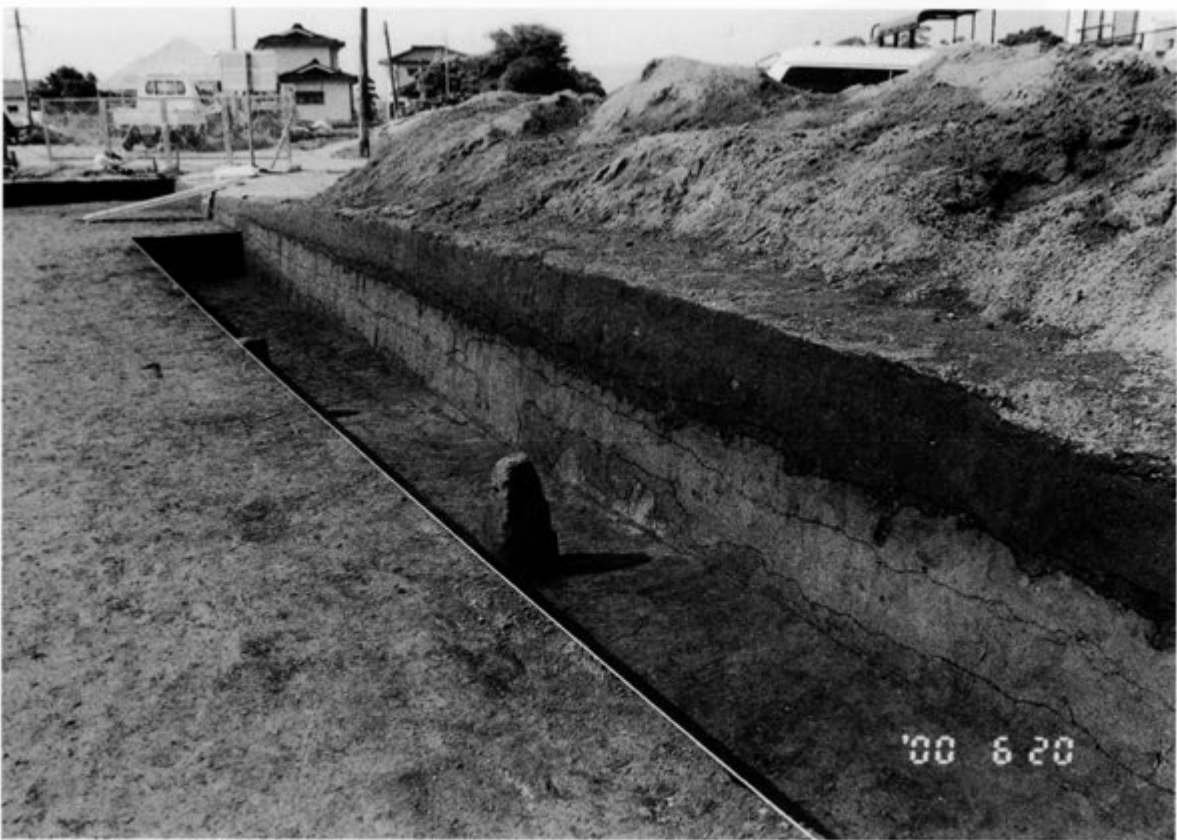
分析個数	番号-番号, グリッド, 層位	原石産地(確率)	判定	器種	自然礫面
76799	31-1621, 9, III	KK2遺物群(58%)	計志加里31遺物群	剥片	円礫?
76800	32-3468, 7, III下	古里第2群(51%), 椎葉川(7%)	古里-椎葉川	剥片	円礫?
76801	33-4135, 9, III下	古里第2群(37%)	古里-椎葉川	剥片	
76802	34-2811, 9, III下	腰岳(24%), 古里第1群(20%), 松浦第1群(12%)	腰岳	剥片	
76803	35/1-4572, -8, III下	腰岳(47%), 松浦第1群(49%), 古里第1群(14%)	腰岳	原石様	角礫
76804	35/2-4955, 8, III下	松浦第1群(36%), 腰岳(4%), 古里第1群(2%)	腰岳	原石様	角礫
76805	35/3-4050, 9, III下	古里第1群(23%), 腰岳(5%), 松浦第1群(7%)	腰岳	原石様	角礫
76806	35/4-4218, 9, III下	松浦第1群(97%), 古里第1群(84%), 腰岳(67%)	腰岳	原石様	角礫
76807	35/5-4433, 9, III	古里第1群(64%), 腰岳(19%), 松浦第1群(6%)	腰岳	原石様	角礫
76808	36/1-510, 9, IB	松浦第1群(90%), 古里第1群(78%), 腰岳(65%)	腰岳	原石様	角礫
76809	36/2-751, 8, IB	松浦第1群(34%), 腰岳(4%), 古里第1群(3%)	腰岳	原石様	角礫
76810	36/3-2412, 8, III	腰岳(94%), 古里第1群(83%), 松浦第1群(82%)	腰岳	原石様	角礫
76811	37-7025, 10, III	日東(7%), 五女木(4%)	日東・五女木	剥片	円礫
76812	38-919, 3, III	日東(36%), 五女木(15%)	日東・五女木	剥片	円礫
76813	39-6117, 13, III	腰岳(93%), 古里第1群(78%), 松浦第1群(82%)	腰岳	剥片	
76814	40-6042, 13, III	白浜(4%)	白浜	剥片	
76815	41-5087, 5, III	五女木(87%), 日東(84%)	日東・五女木	剥片	
76816	42-4974, 24/5, III	五女木(84%), 日東(81%)	日東・五女木	剥片	
76817	43-5034, 24/5, III上	日東(8%), 五女木(1%)	日東・五女木	剥片	
76826	50-692, 8, IB	松尾第2群(30%)	嬉野・松尾	剥片	
76827	51-1345, 7, III	松尾第1群(10%)	嬉野・松尾	剥片	
76828	上牛鼻産安山岩様	上牛鼻(75%)	上牛鼻	剥片	

表5-3 計志加里遺跡出土縄文時代の安山岩製剥片の原産地推定結果

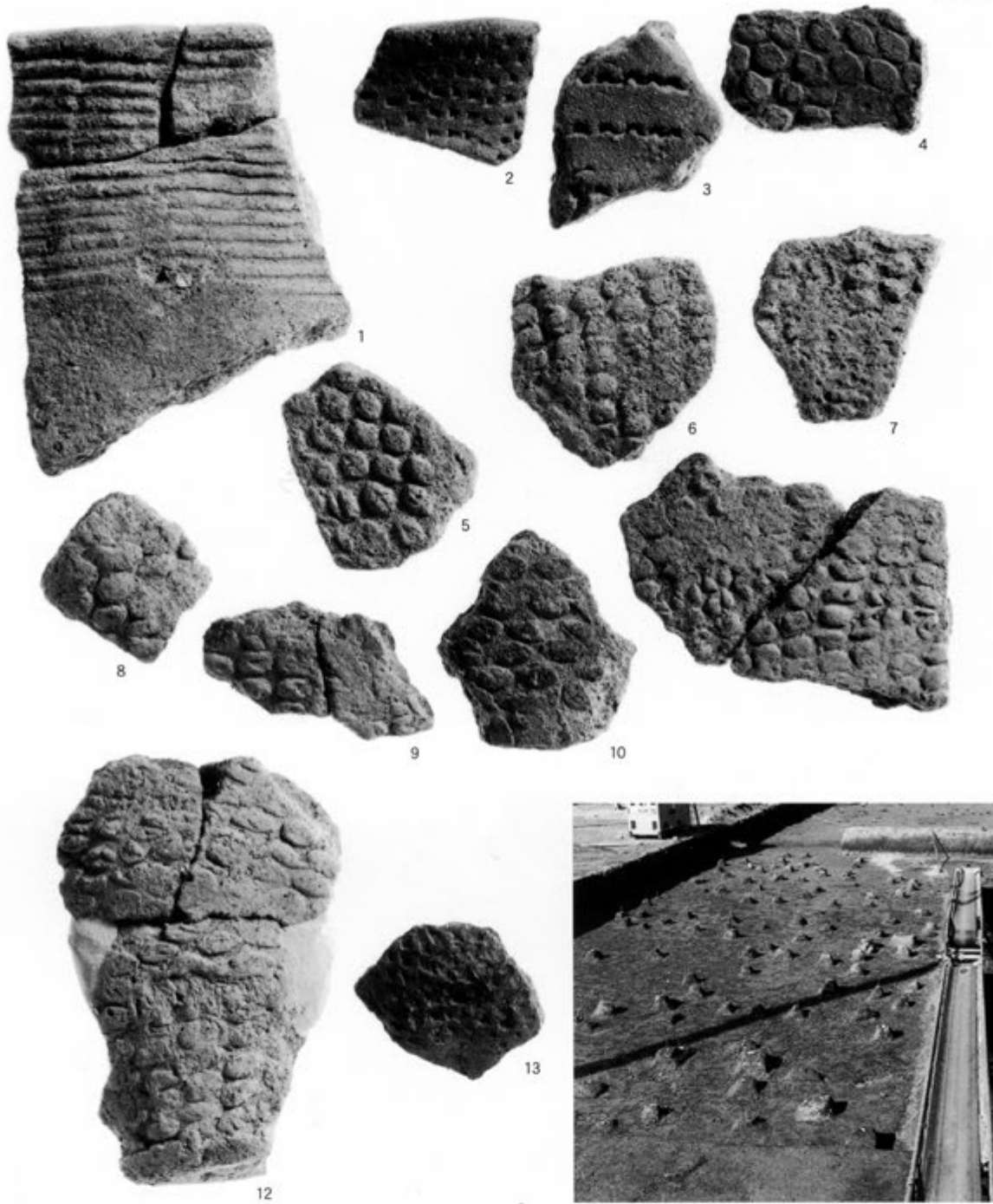
分析個数	番号-番号, グリッド, 層位	原石産地(確率)	判定	器種	自然礫面
76820	44-2008, 6, III下	多久第2群(28%)	多久	剥片	角礫
76821	45-4223, 9, III	多久第2群(21%)	多久	剥片	
76822	46-831, 8, IB	多久第2群(18%)	多久	剥片	
76823	47-3788, 8, III下	多久第2群(11%)	多久	剥片	
76824	48-4205, 9, III下	多久第1群(3%)	多久	剥片	
76825	49-3802, 8, III下	多久第1群(28%), 多久第2群(9%)	多久	剥片	

(グリッド: 6~9区, 13区=縄文時代晩期, 24区=縄文時代後期)  
 注意: 近年産地分析を行う所が多くなりましたが, 判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。  
 本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして, 産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法(土器様式の基準も研究方法で異なるように)にも関わらず, 似た産地名のために同じ結果のように思われるが, 全く関係(相互チェックなし)ありません。本研究結果に連続させるには本研究方法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で先史・古代交流圏などを考察をする必要があります。

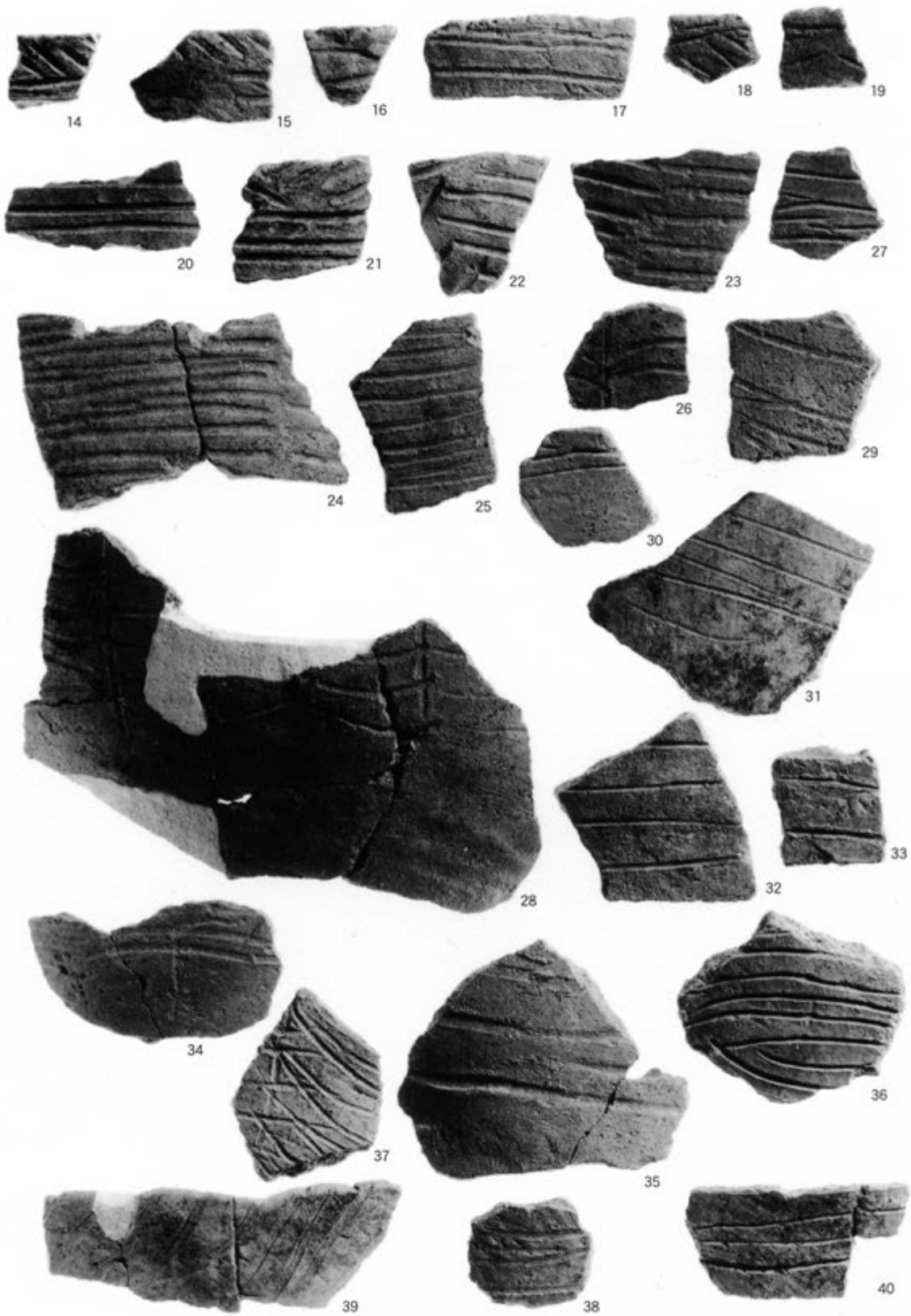
# 圖 版



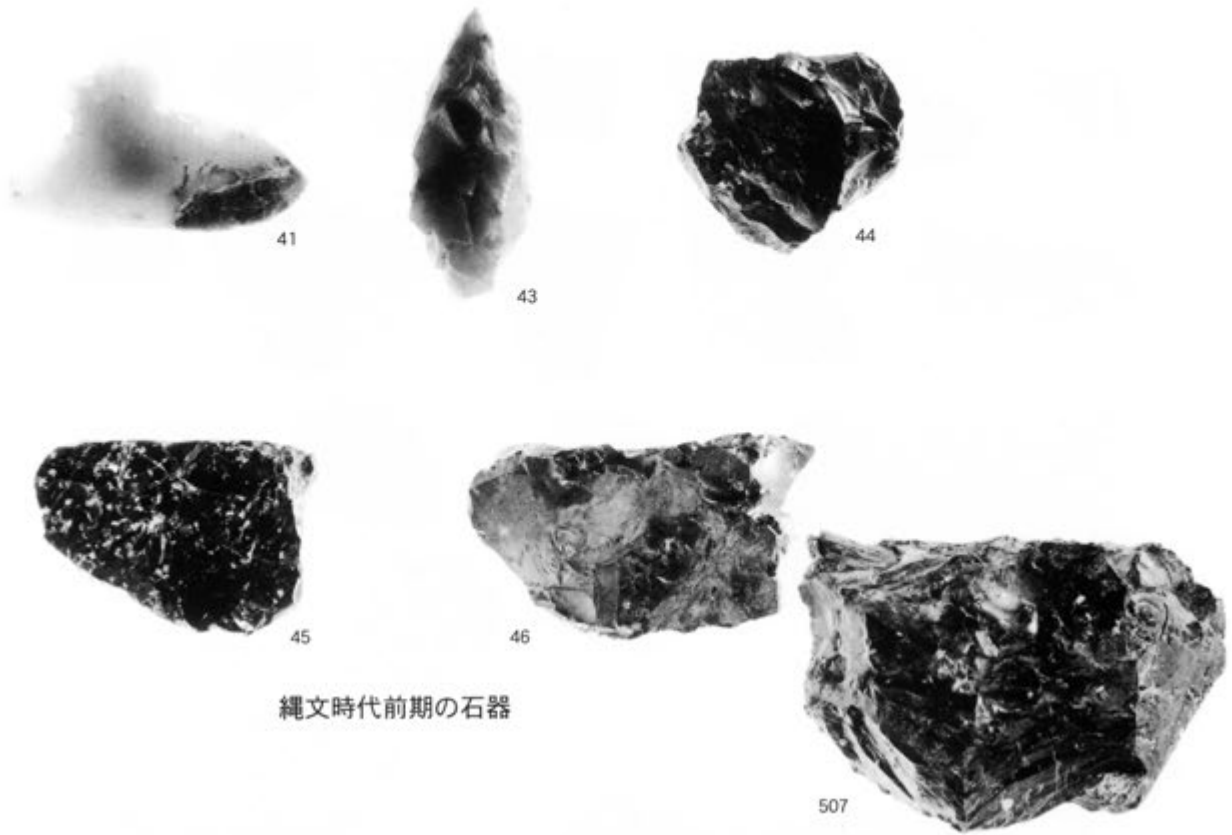
遺跡の土層（上15区・下4区）



縄文時代早期の土器



縄文時代前期の土器



縄文時代前期の石器



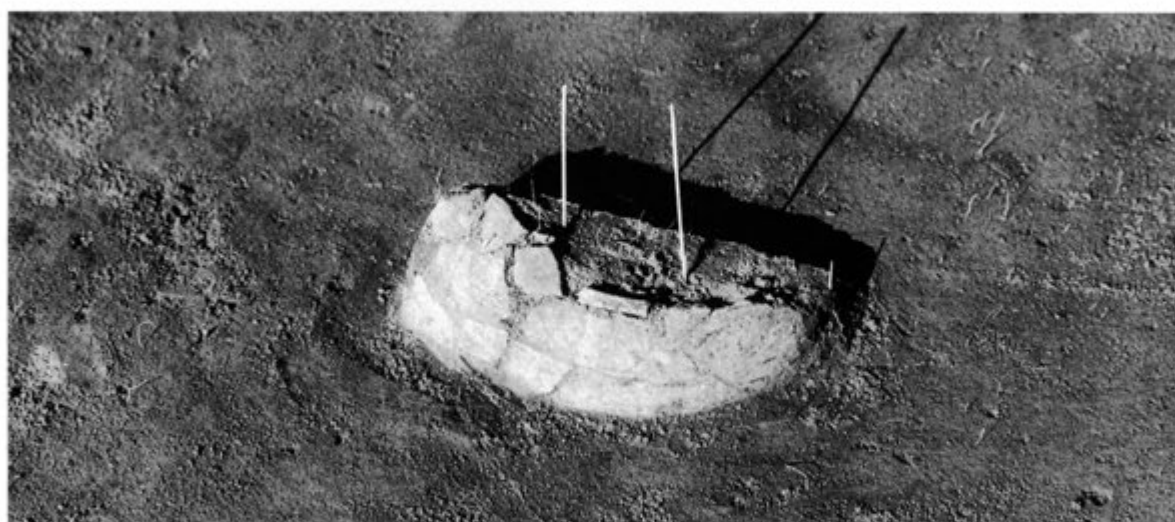
第3調査地点の調査



集石2号



縄文時代晩期の遺物出土状況（8区）

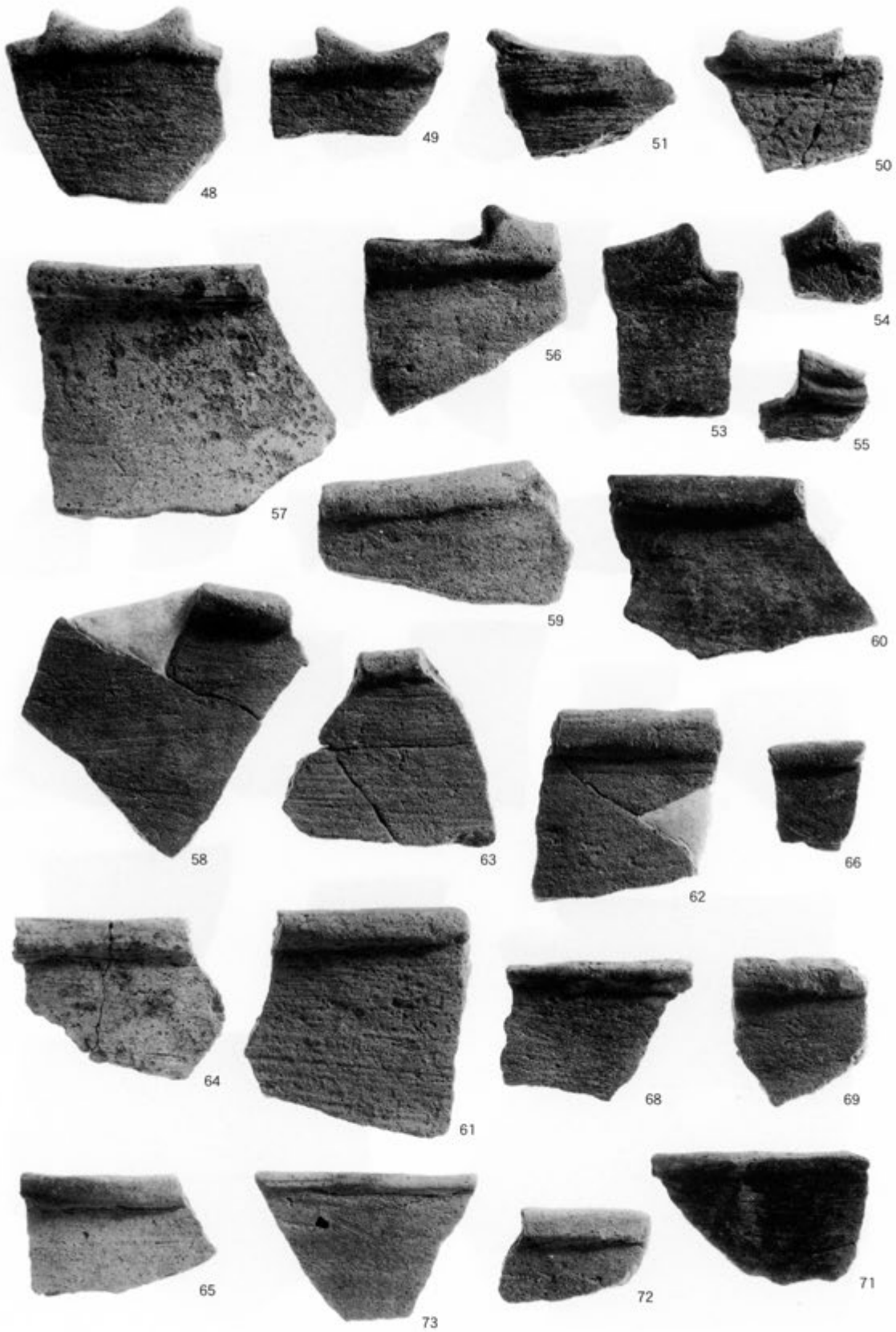


壺出土状況

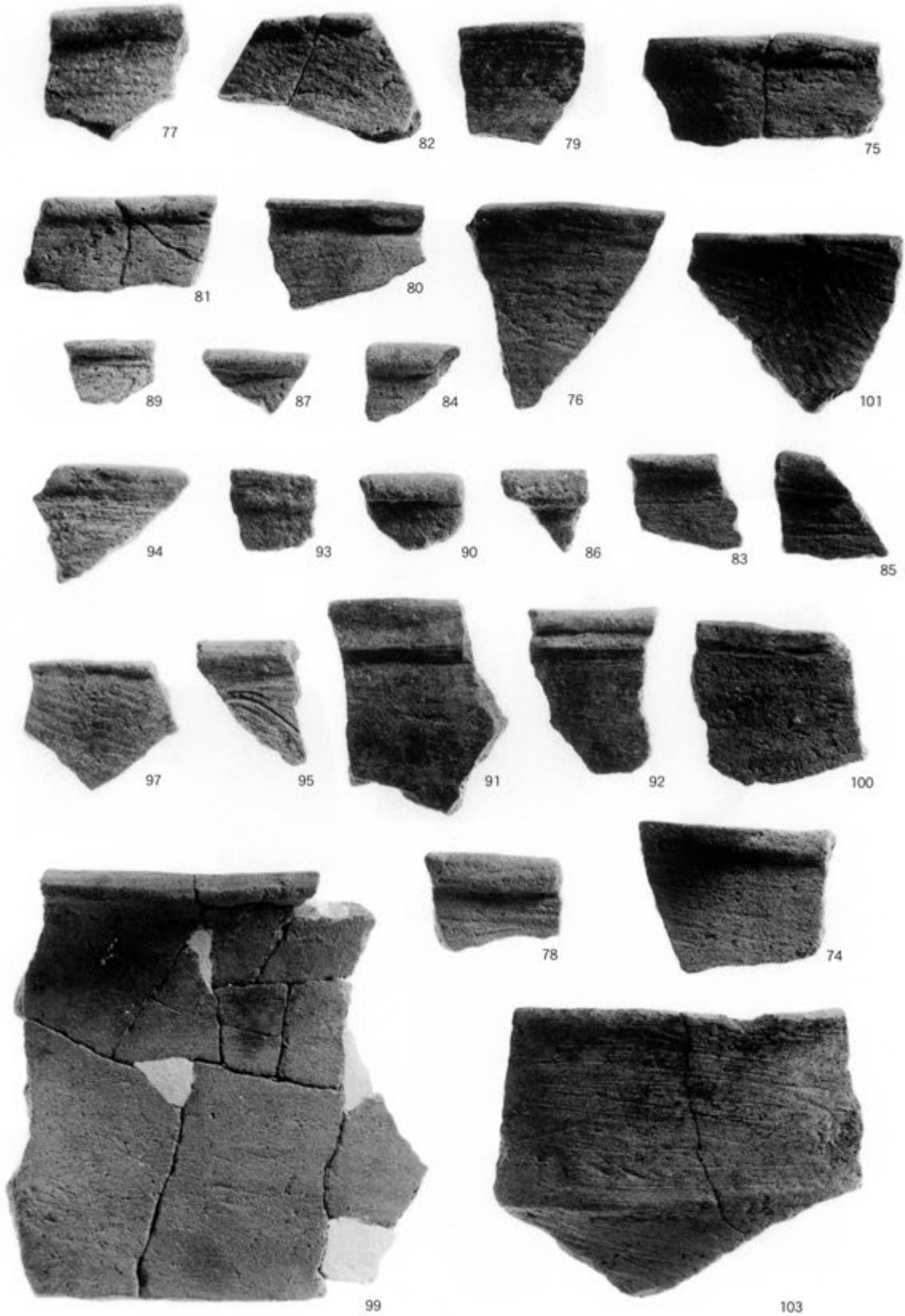


縄文時代晩期の土器 (1)

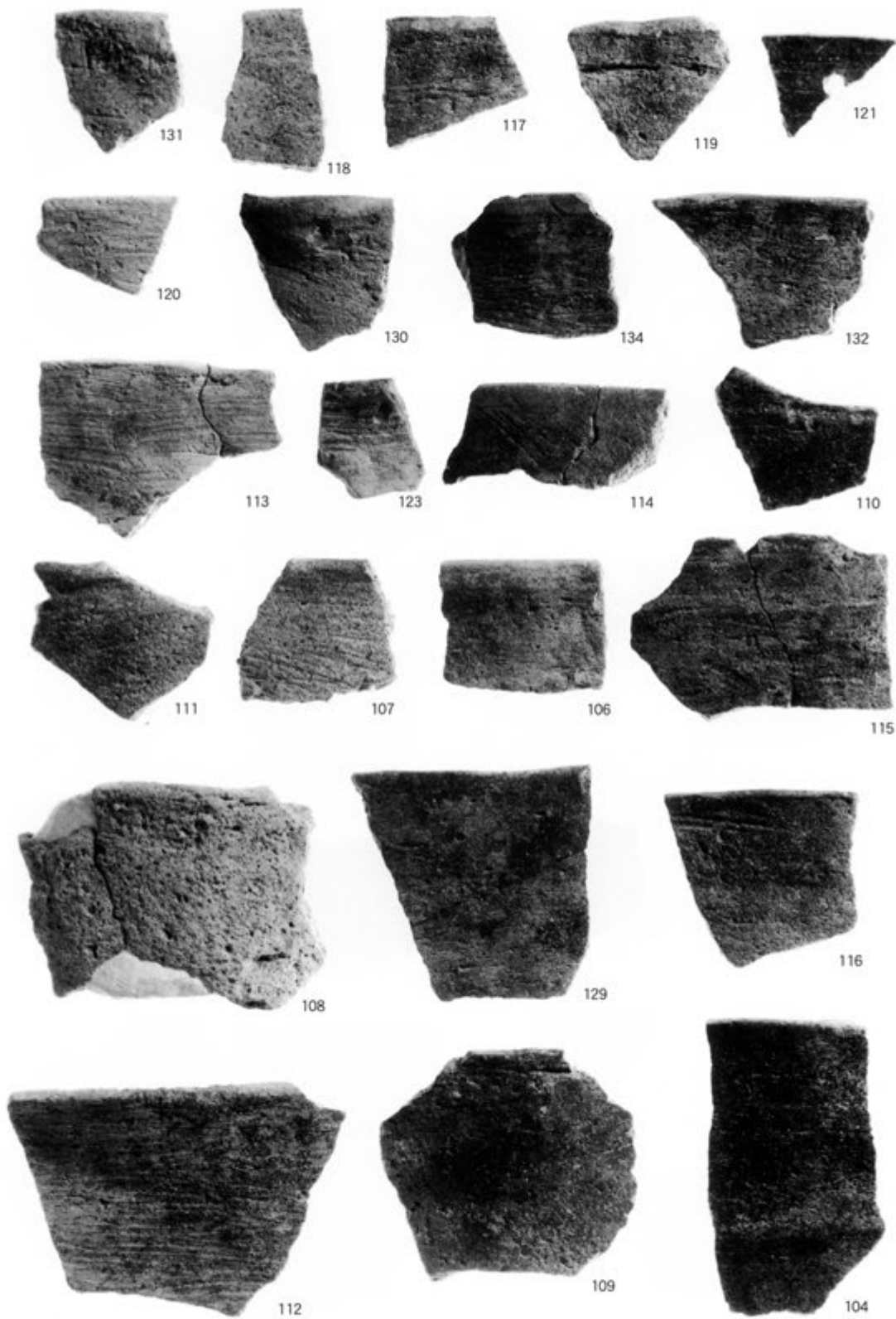




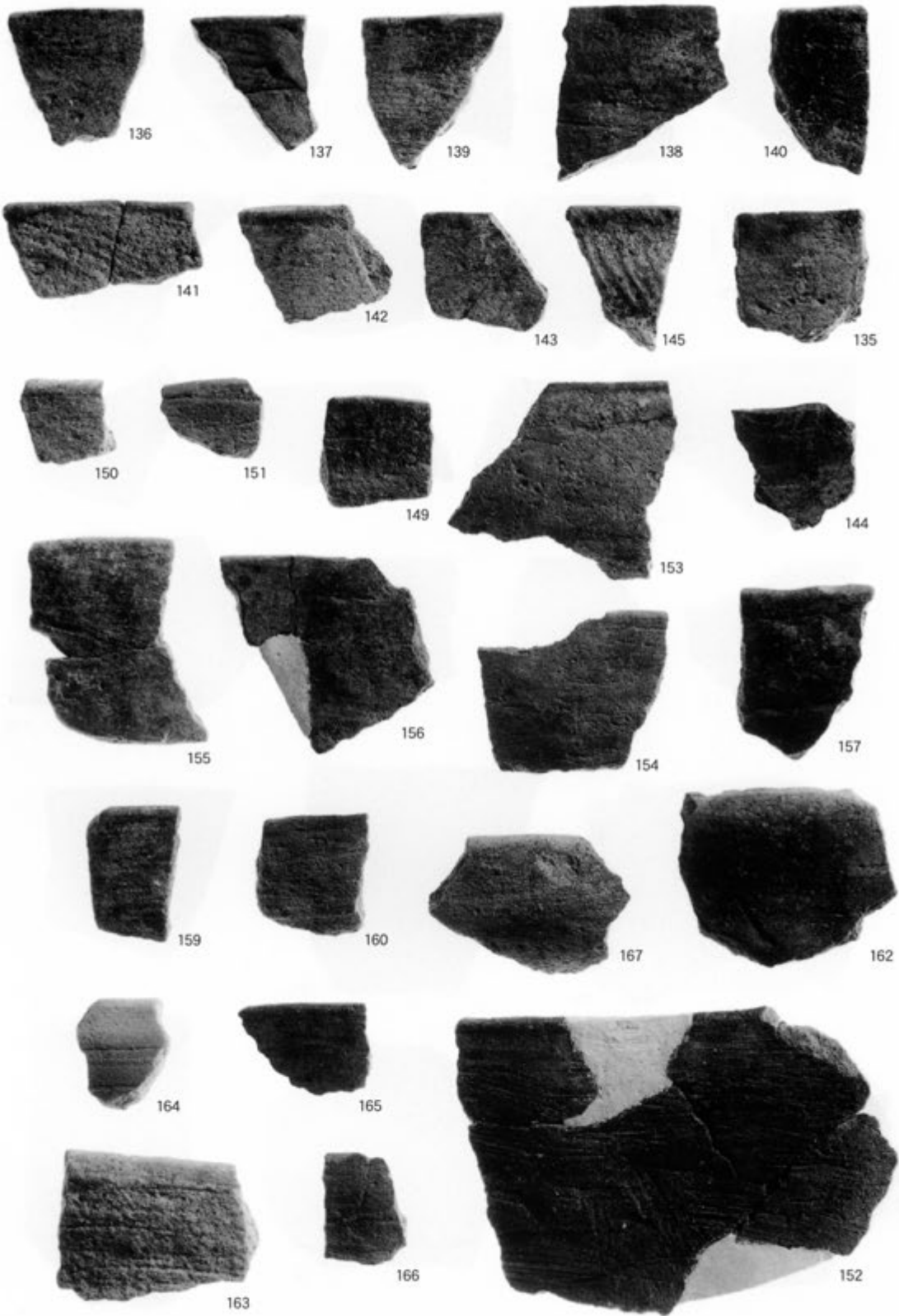
縄文時代晩期の土器 (2)



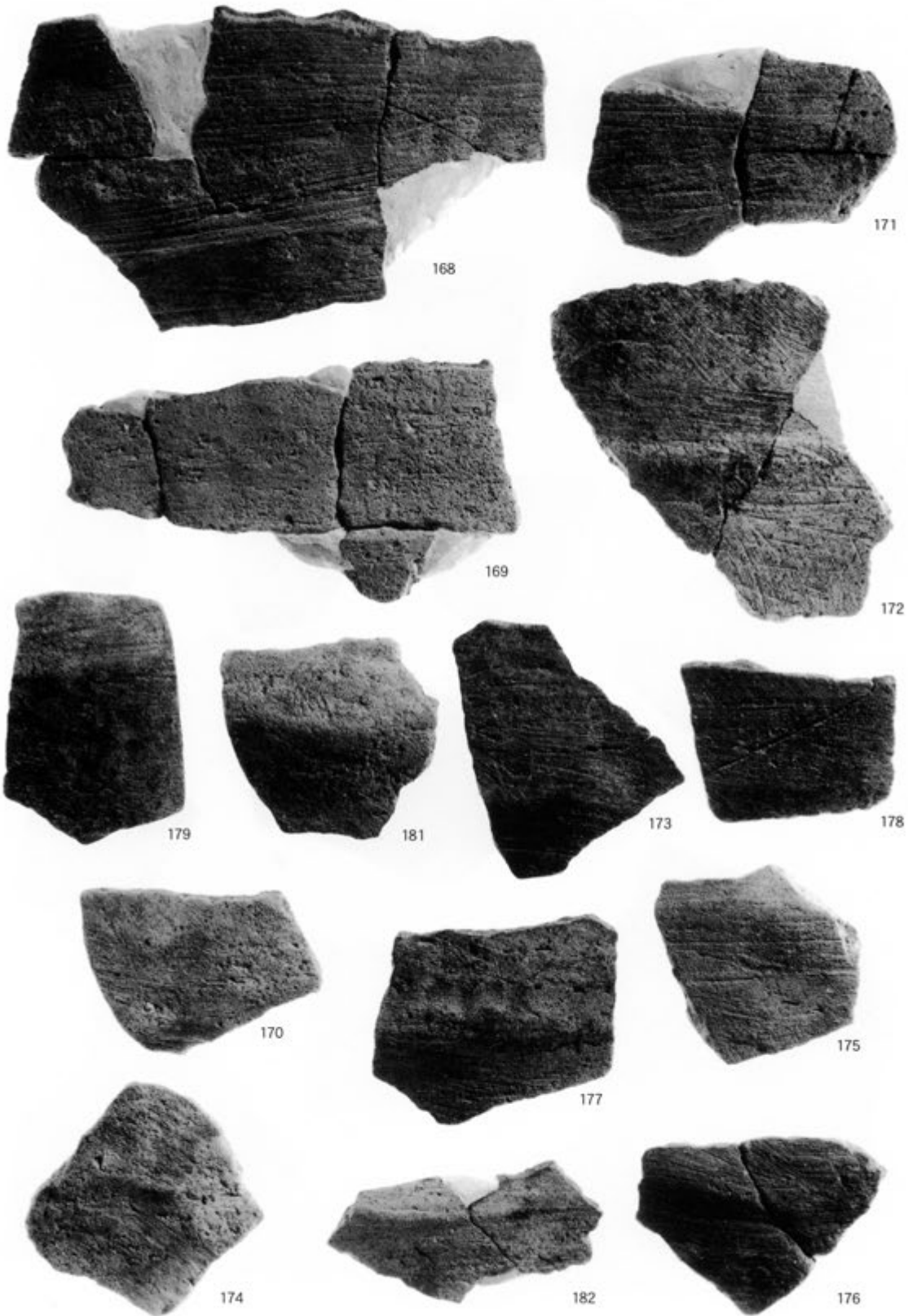
縄文時代晩期の土器 (3)



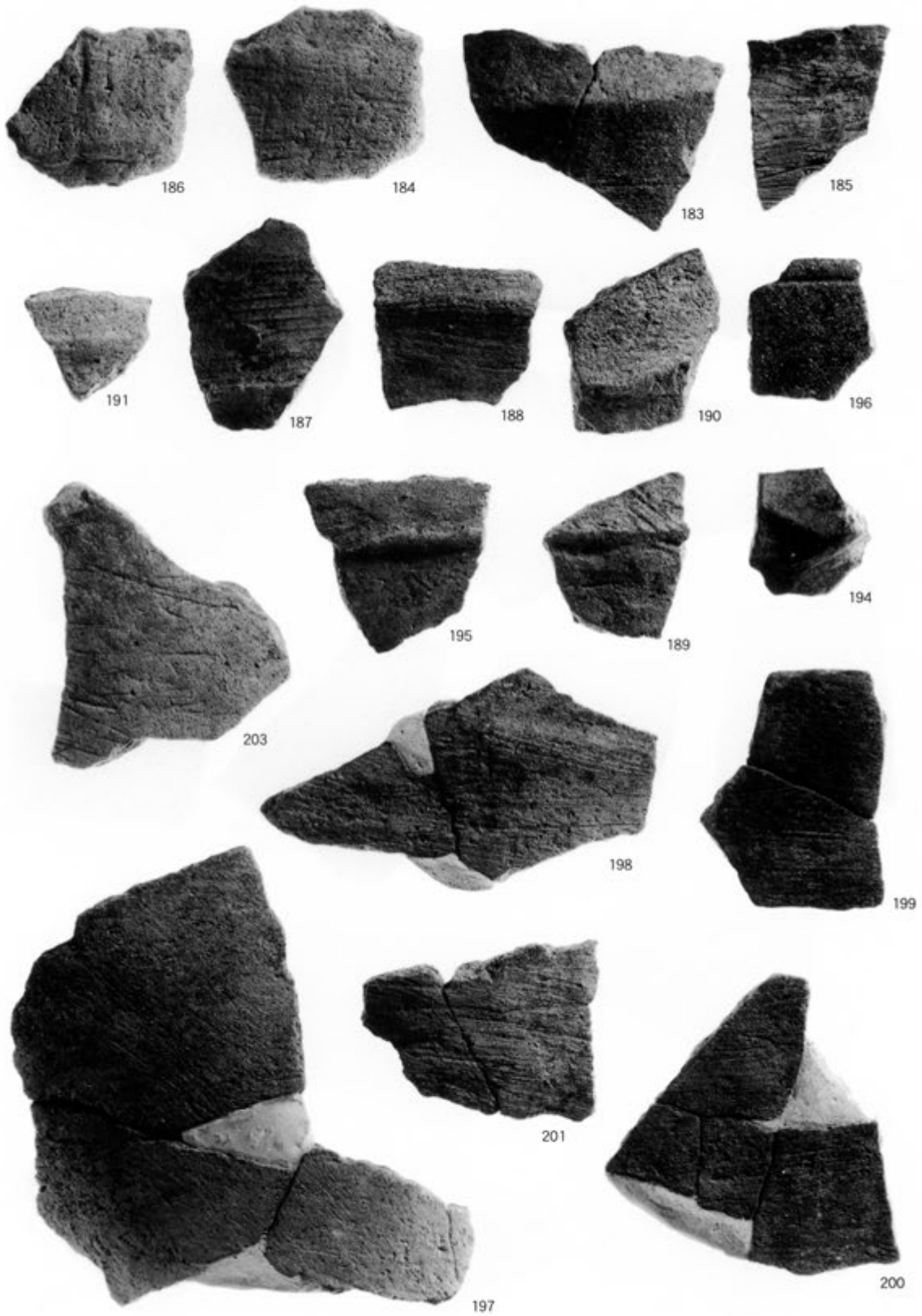
縄文時代晩期の土器 (4)



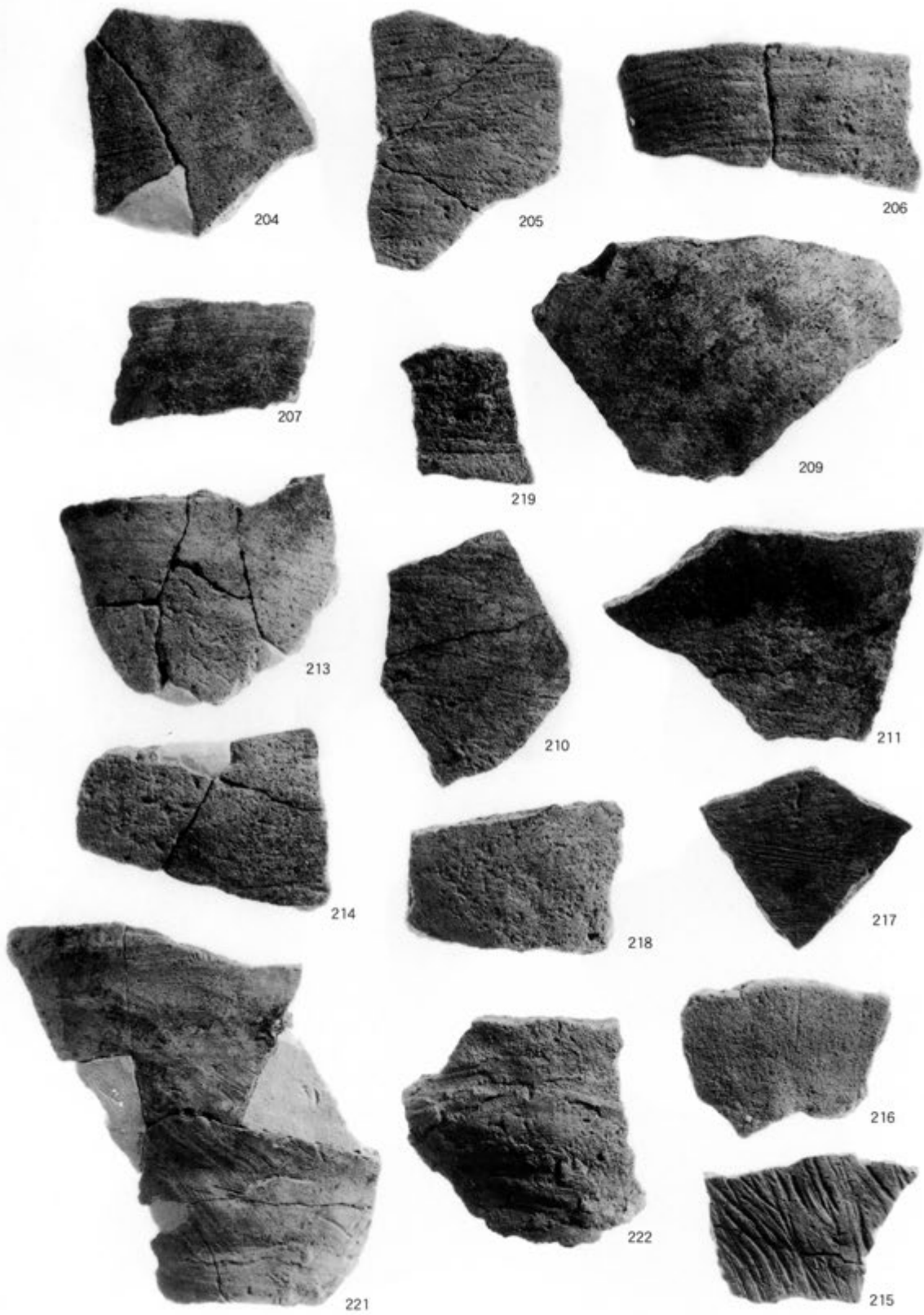
縄文時代晩期の土器 (5)



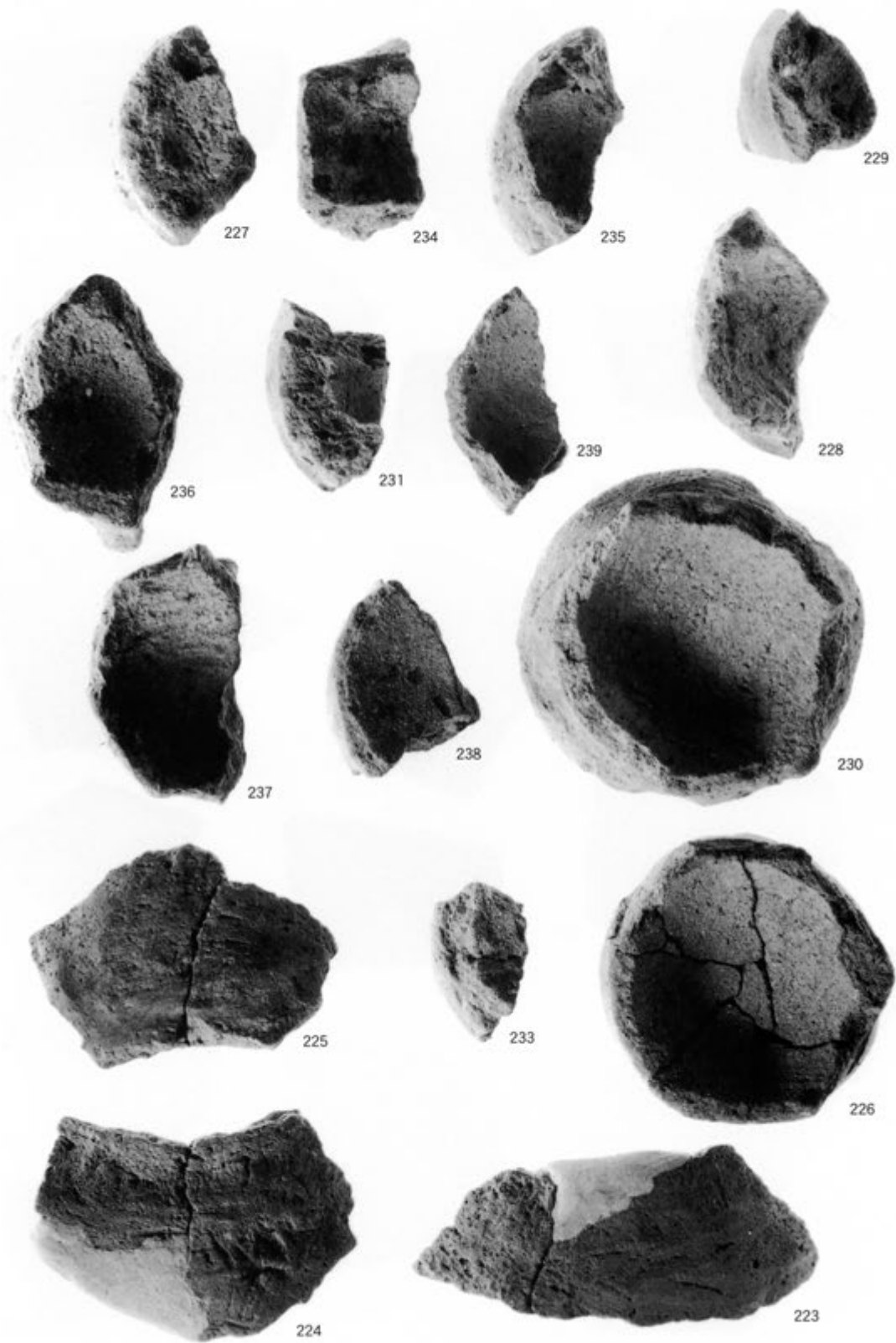
縄文時代晩期の土器 (6)



縄文時代晩期の土器 (7)

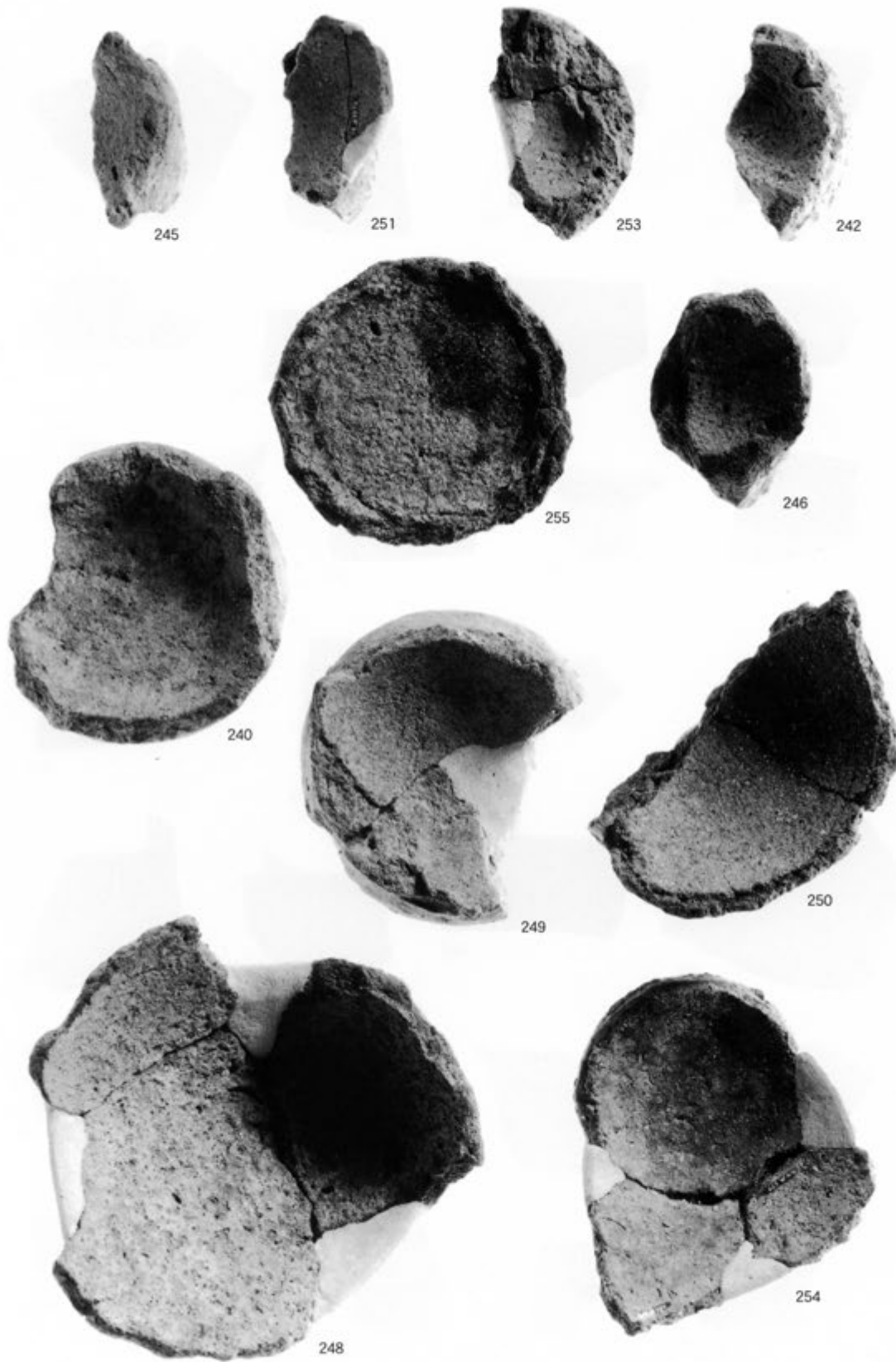


縄文時代晩期の土器 (8)

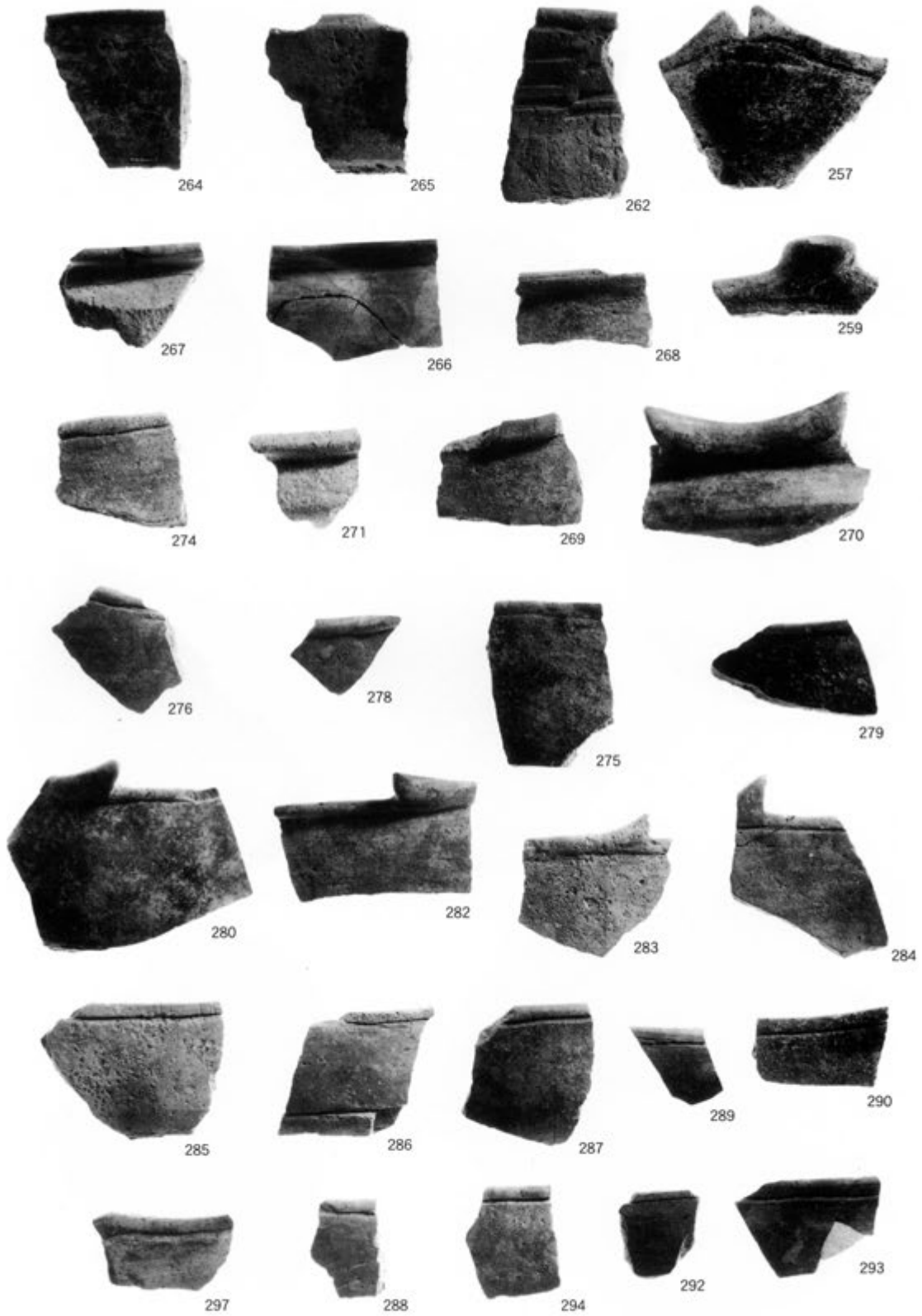


縄文時代晩期の土器 (9)

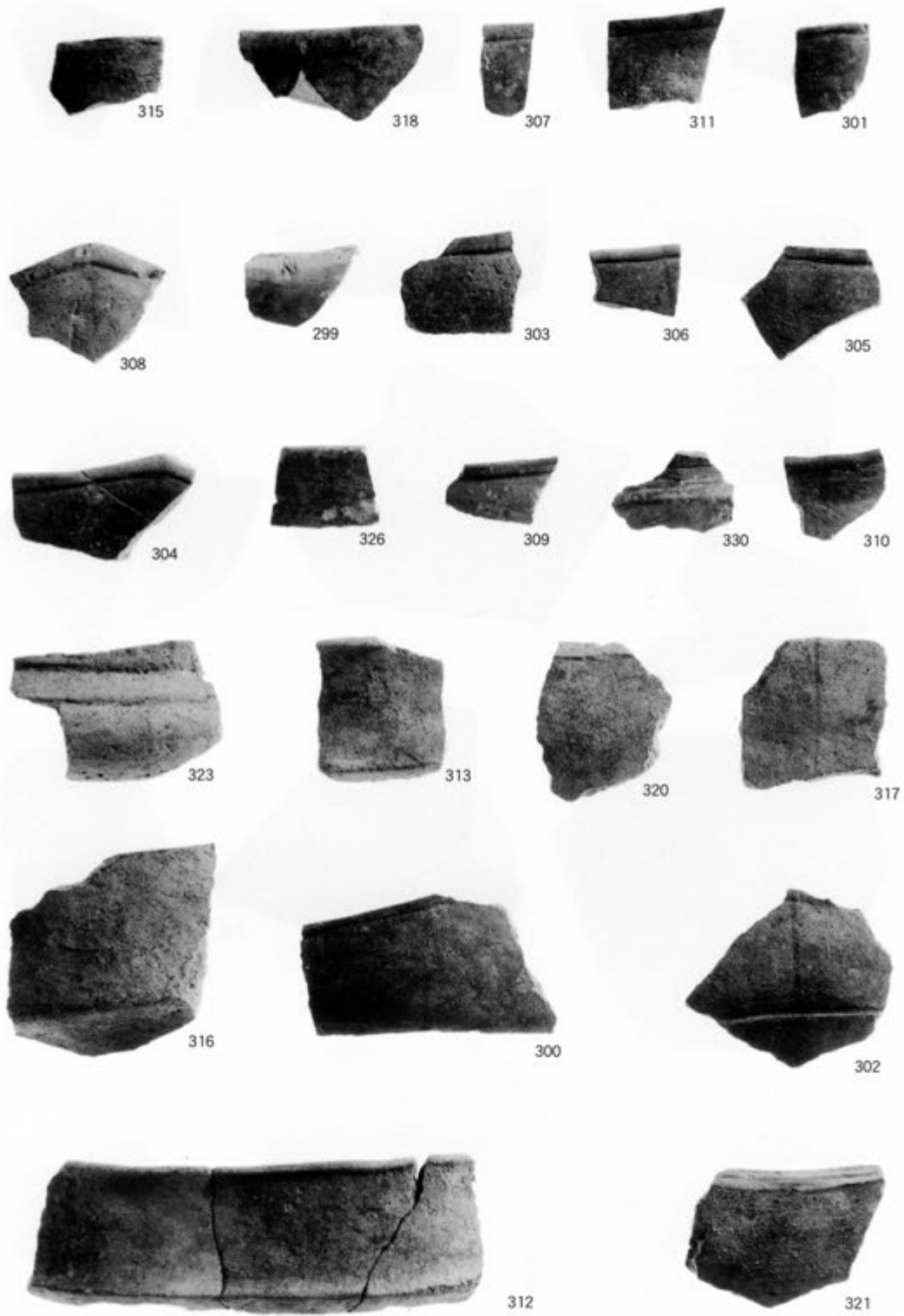




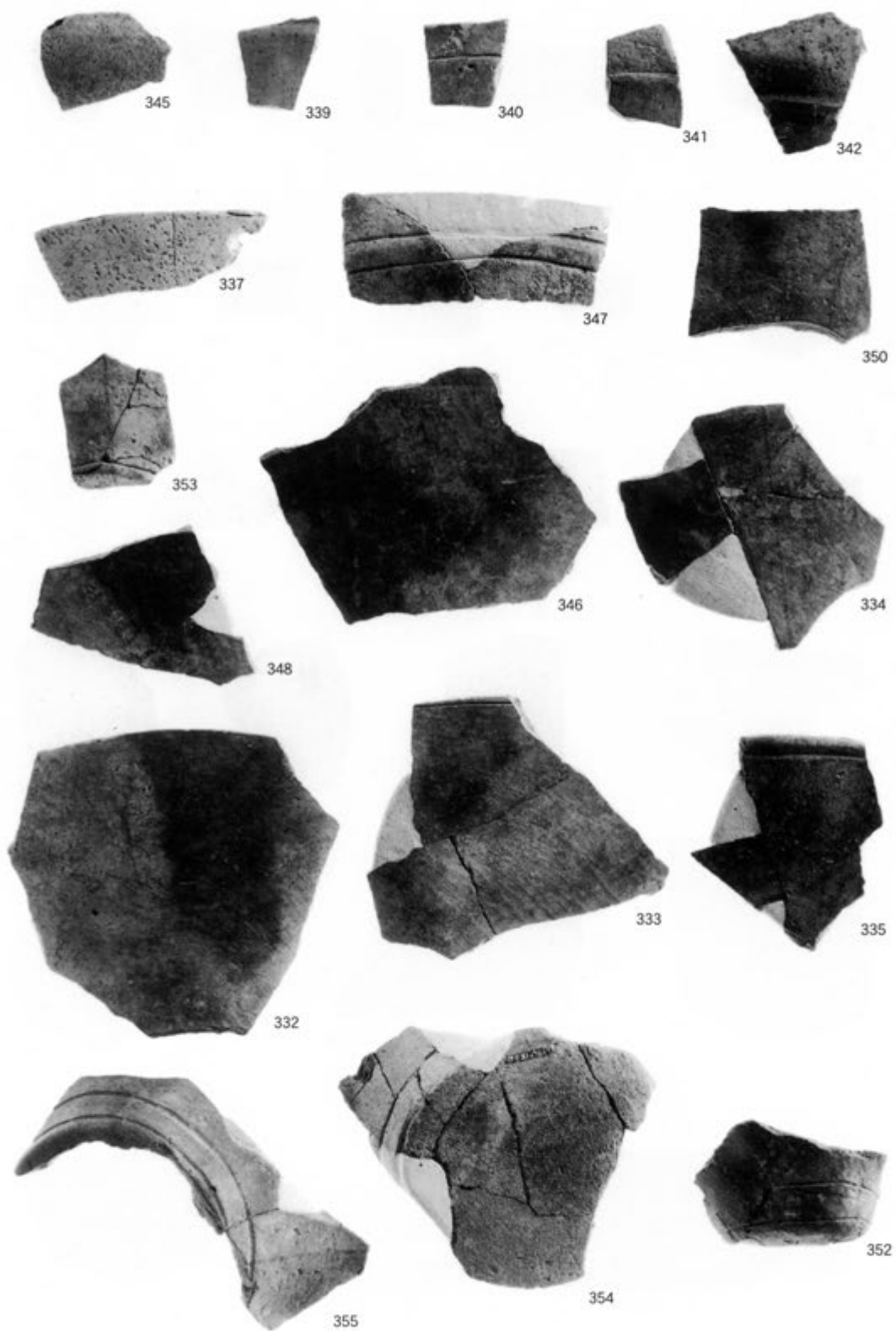
縄文時代晩期の土器 (10)



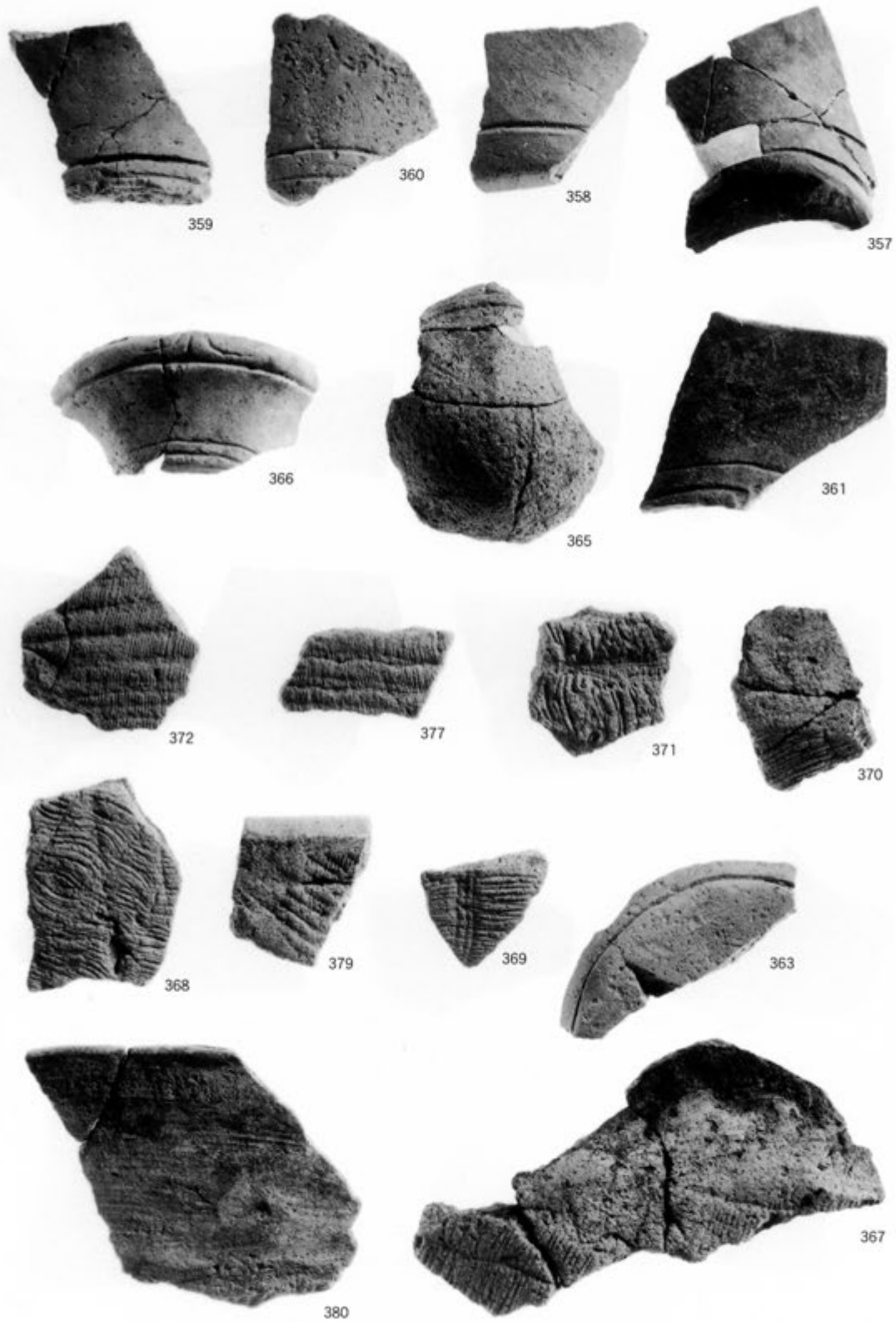
縄文時代晩期の土器 (11)



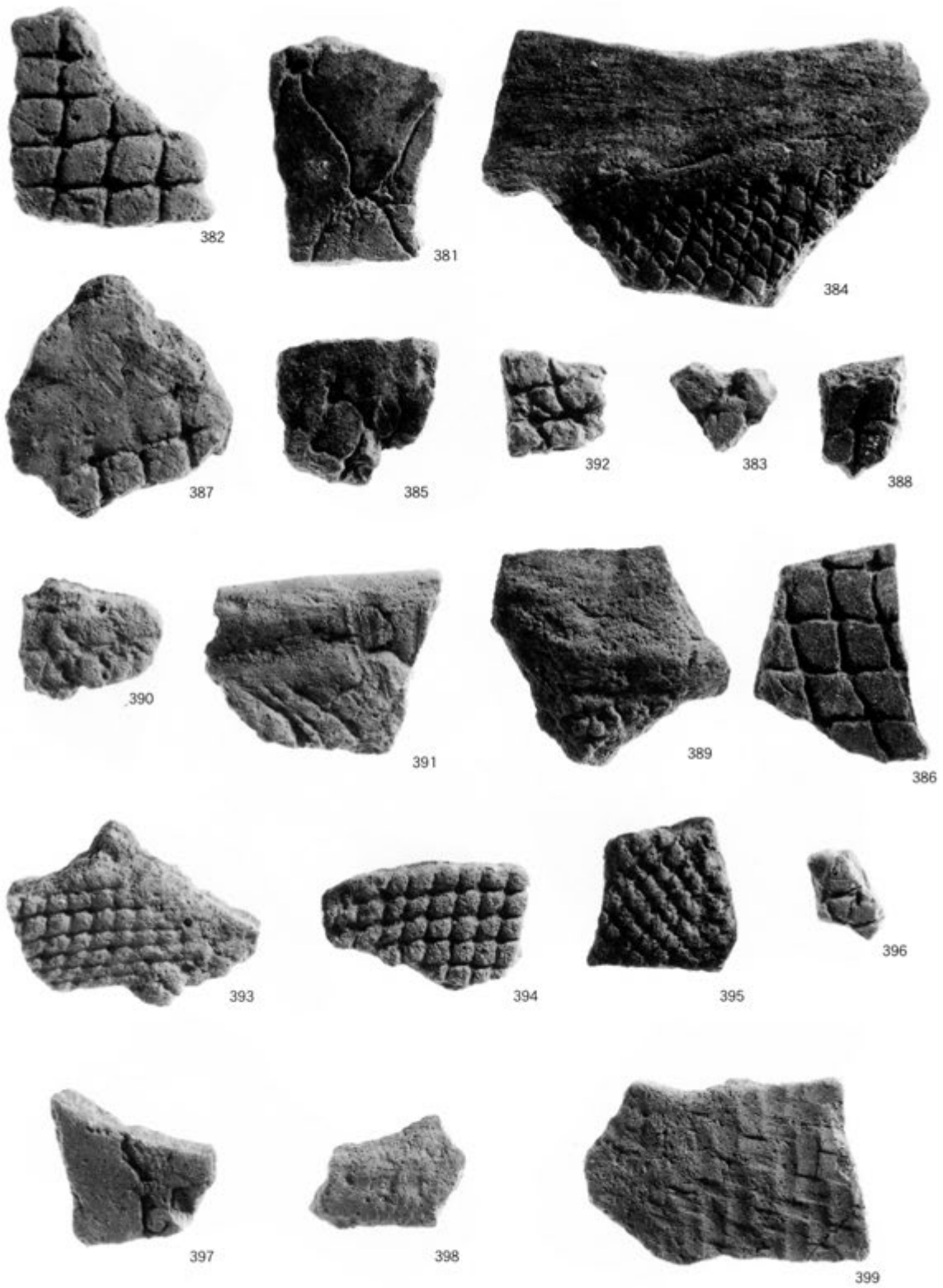
縄文時代晩期の土器 (12)



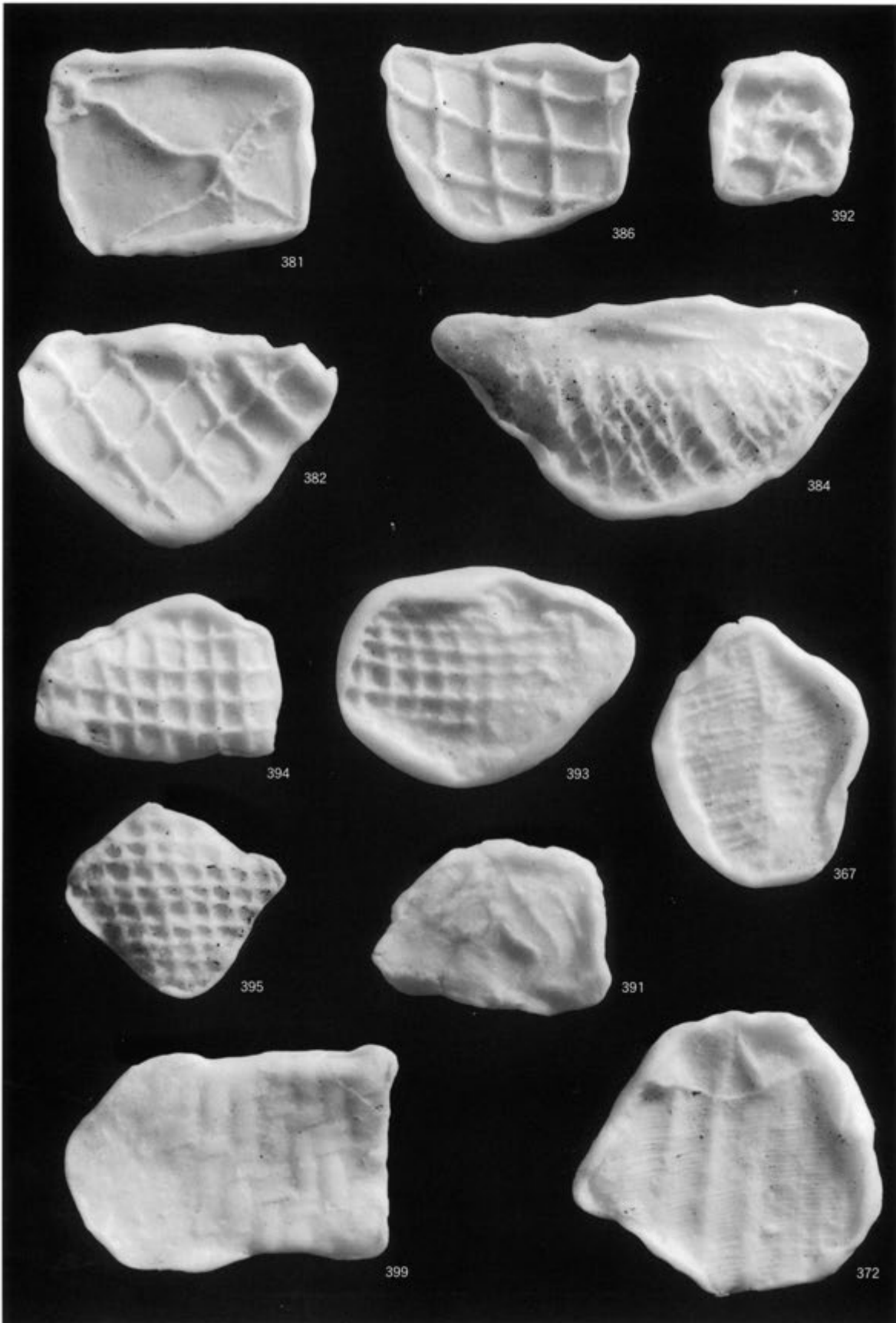
縄文時代晩期の土器 (13)



縄文時代晩期の土器 (14)



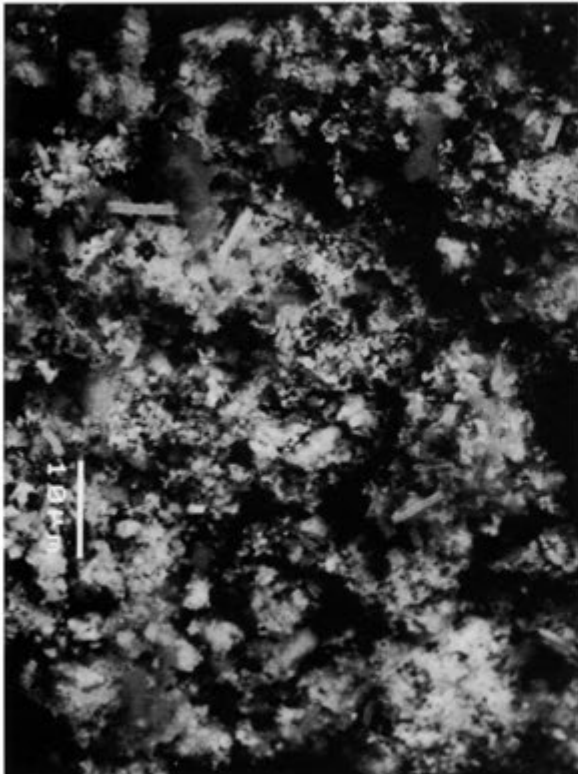
縄文時代晩期の土器 (15)



組織痕土器モデリング



縄文時代晩期の土器 (16)

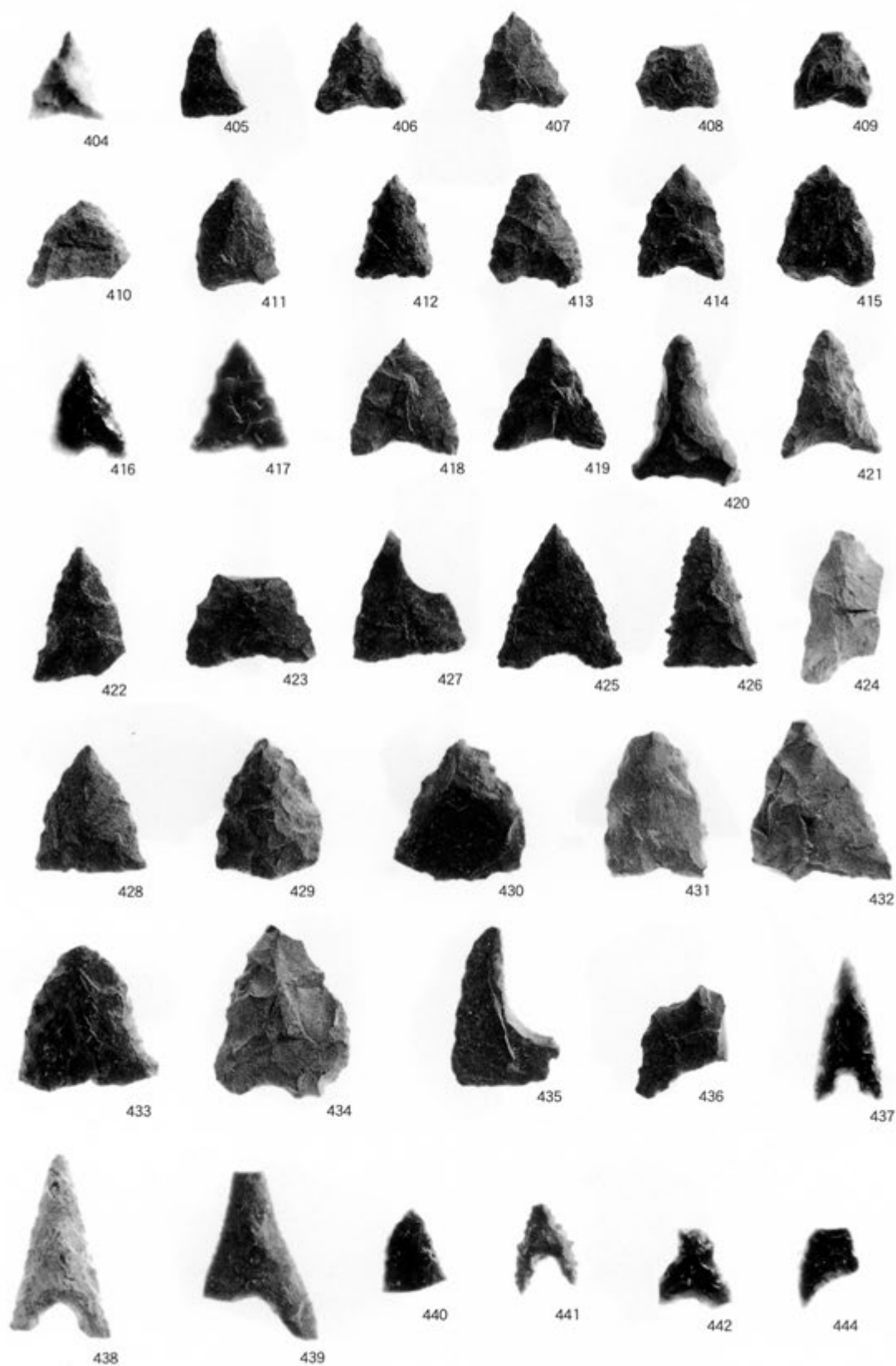


赤色顔料 (パイプ状粒子)

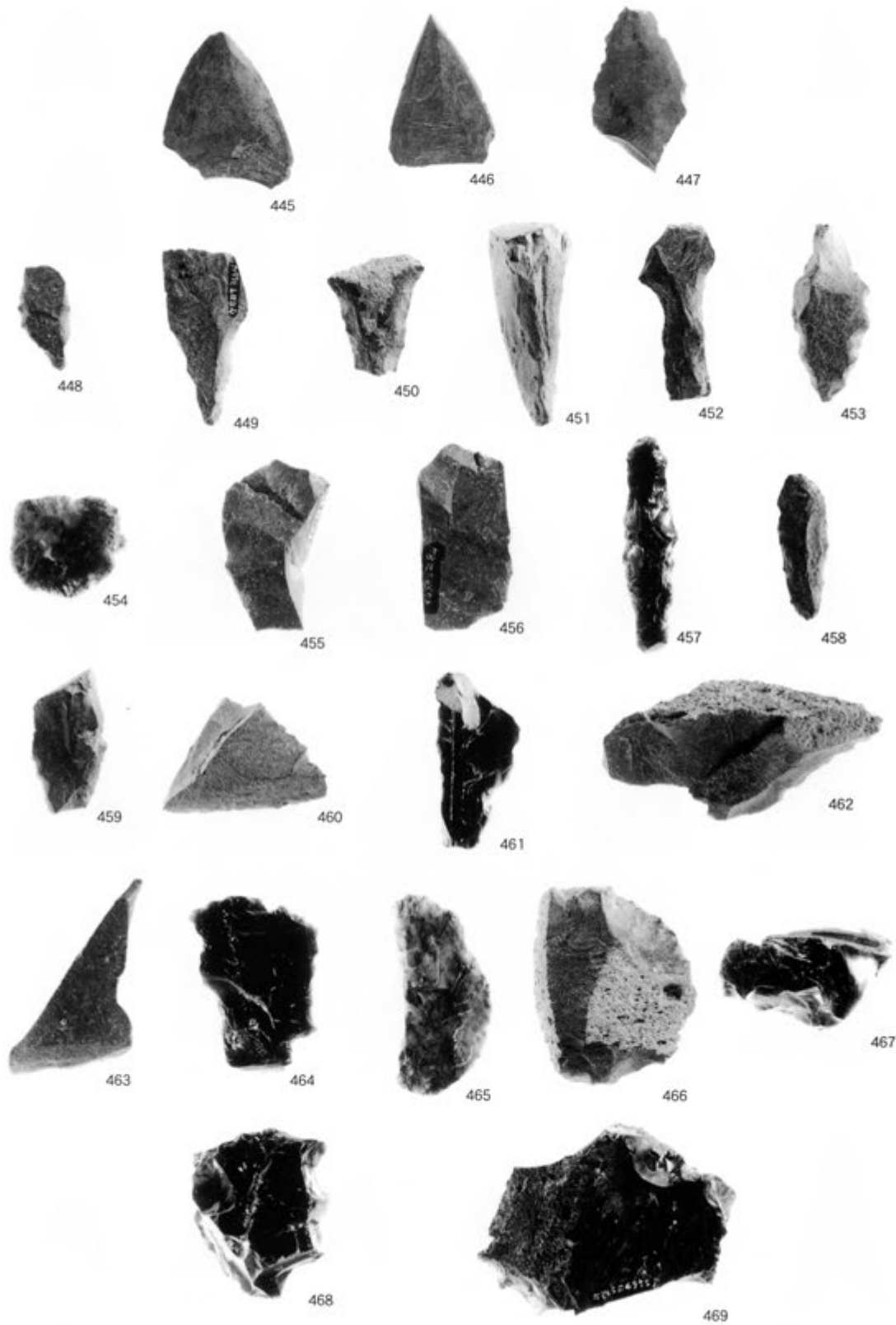


土器の圧痕 (237)

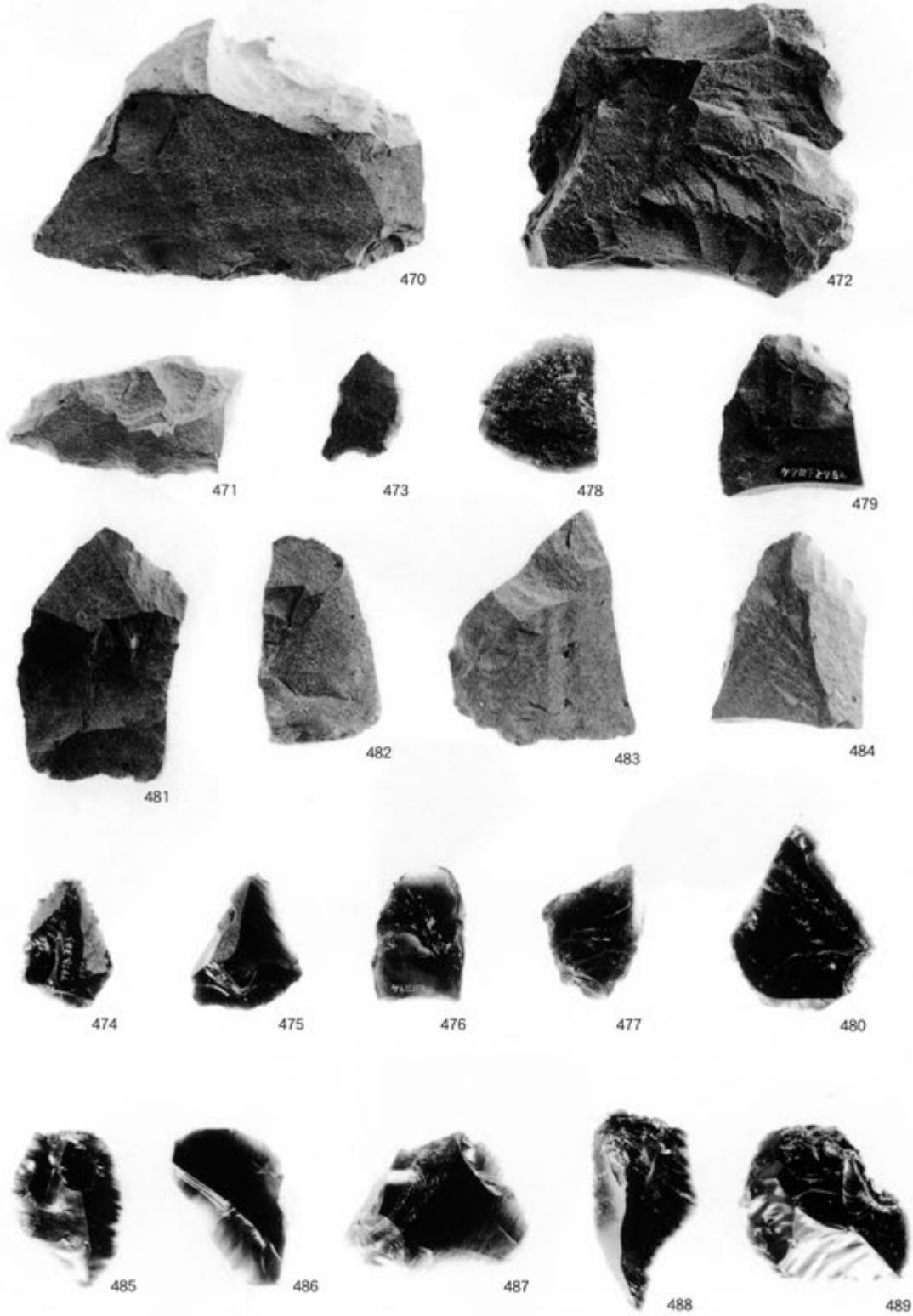




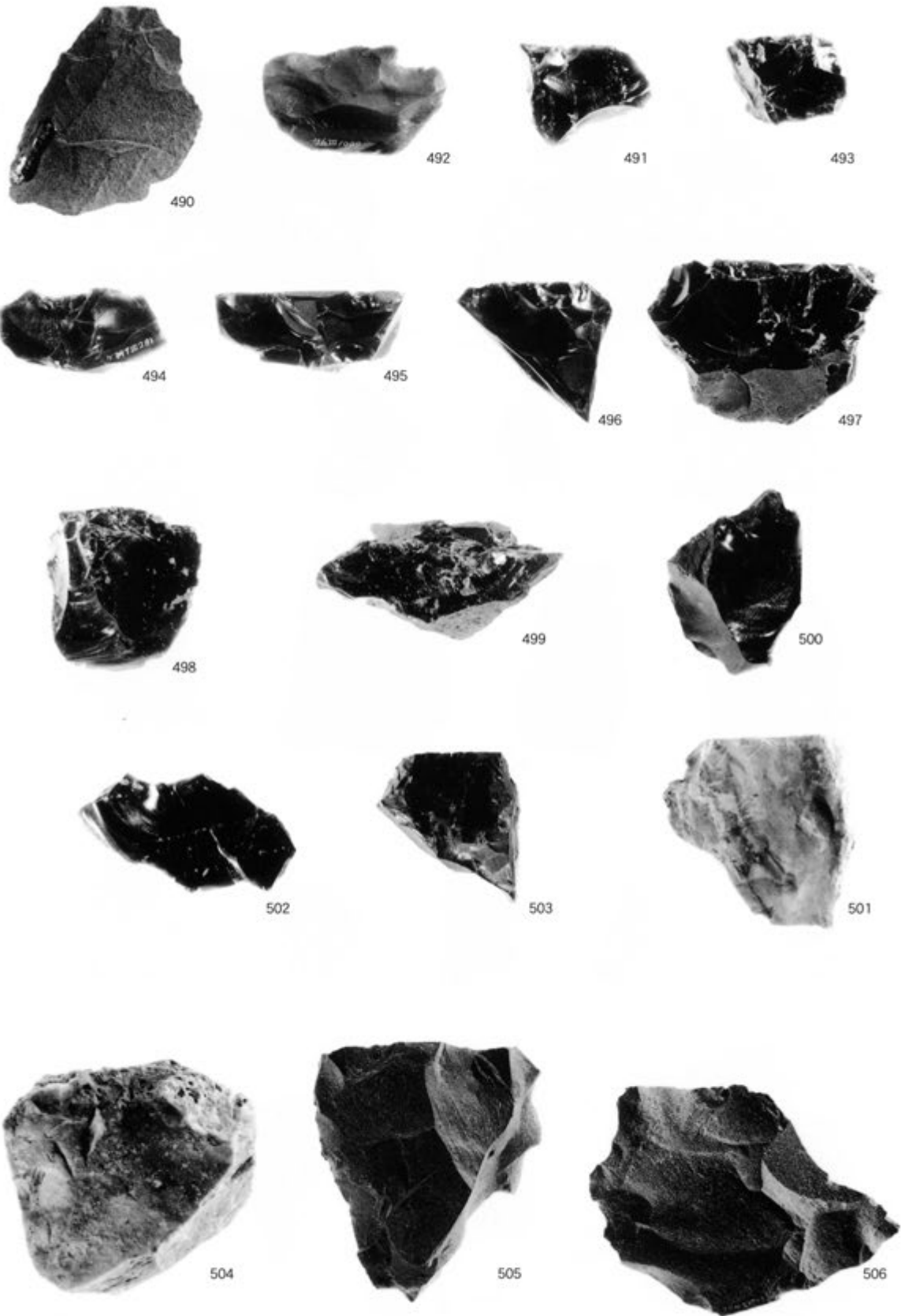
縄文時代晩期の石器 (1)



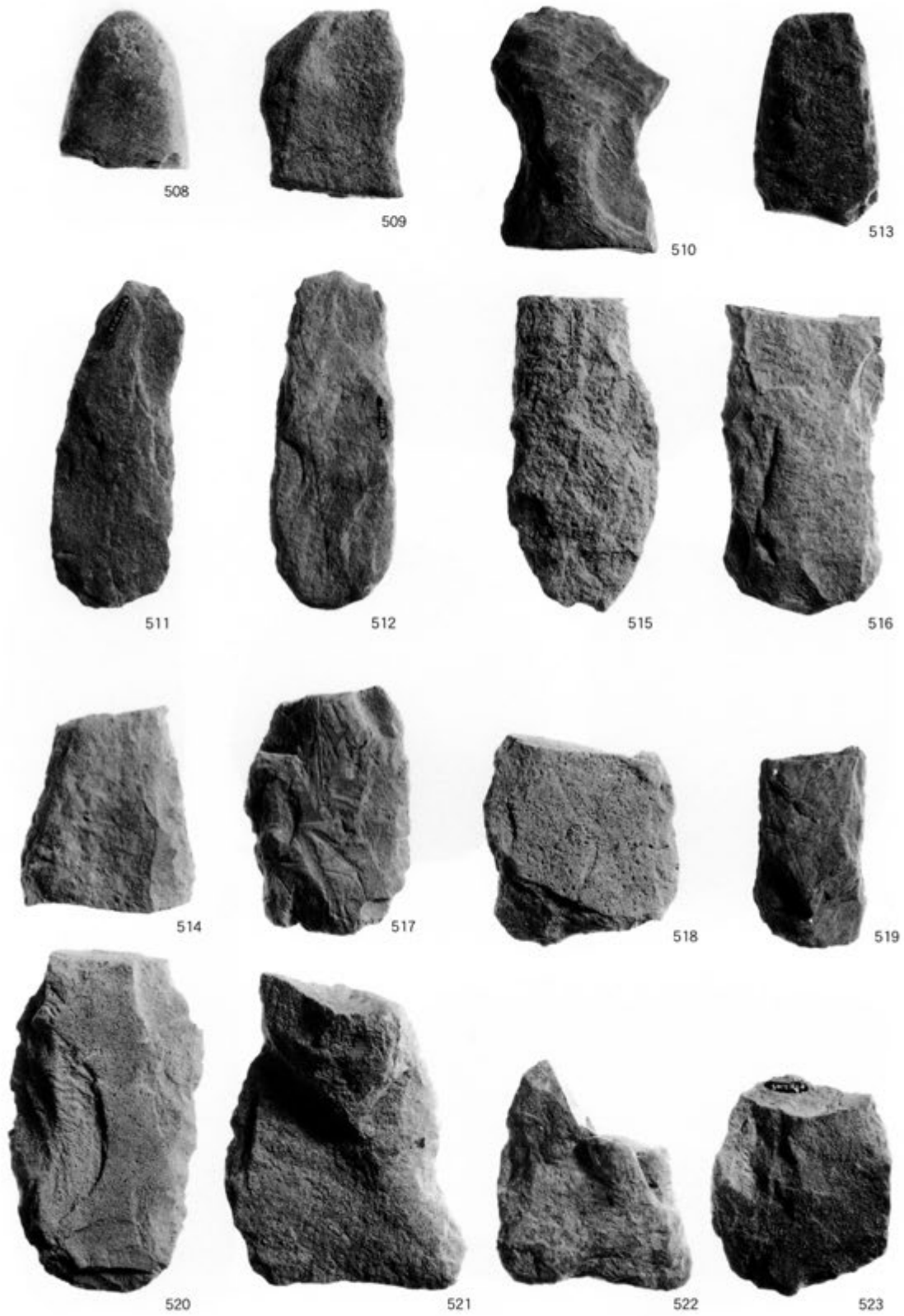
縄文時代晩期の石器 (2)



縄文時代晩期の石器 (3)



縄文時代晩期の石器 (4)



縄文時代晩期の石器 (5)



527



528



526



525



529



531



532



530

縄文時代晩期の石器 (6)



533



536

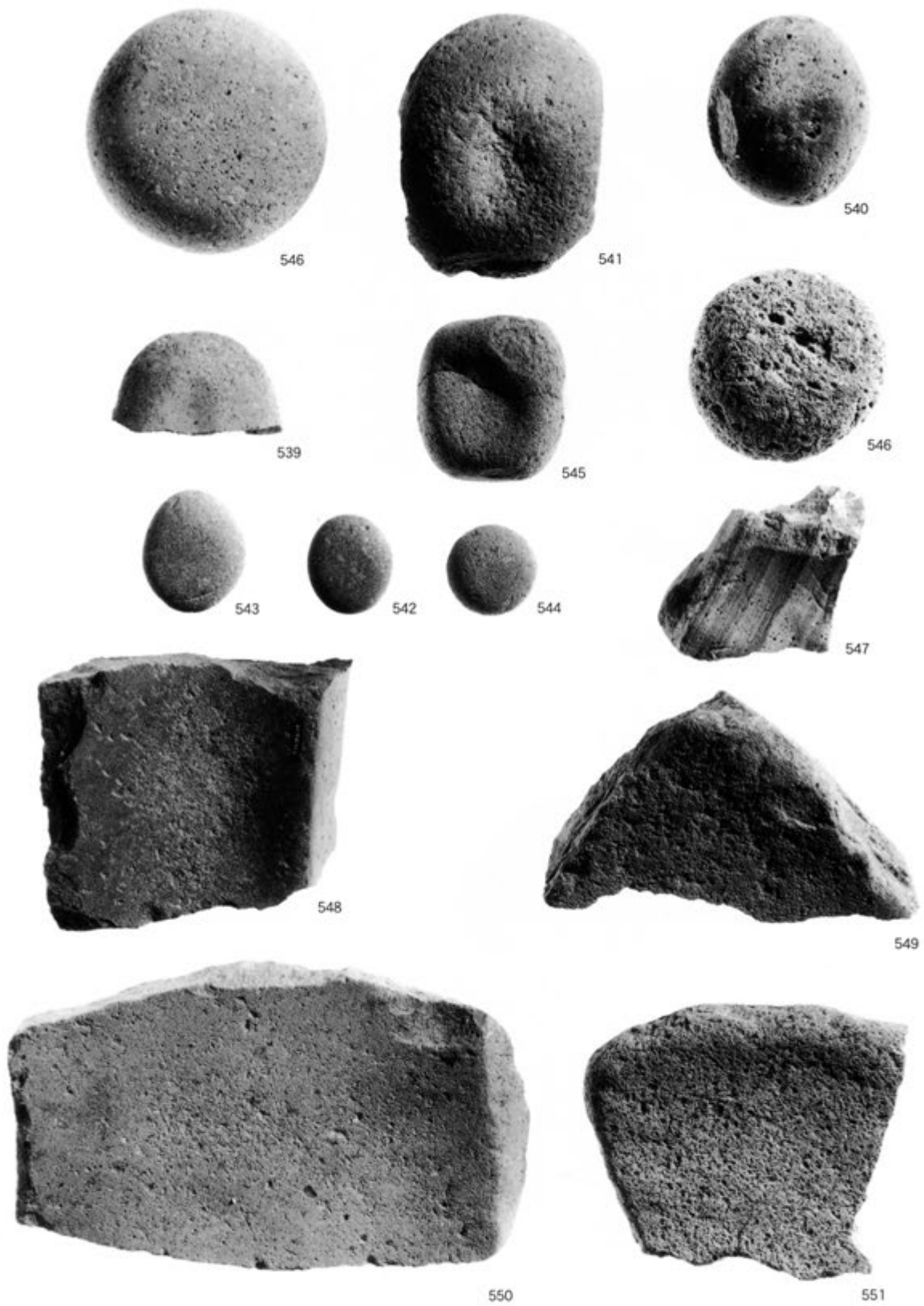


534



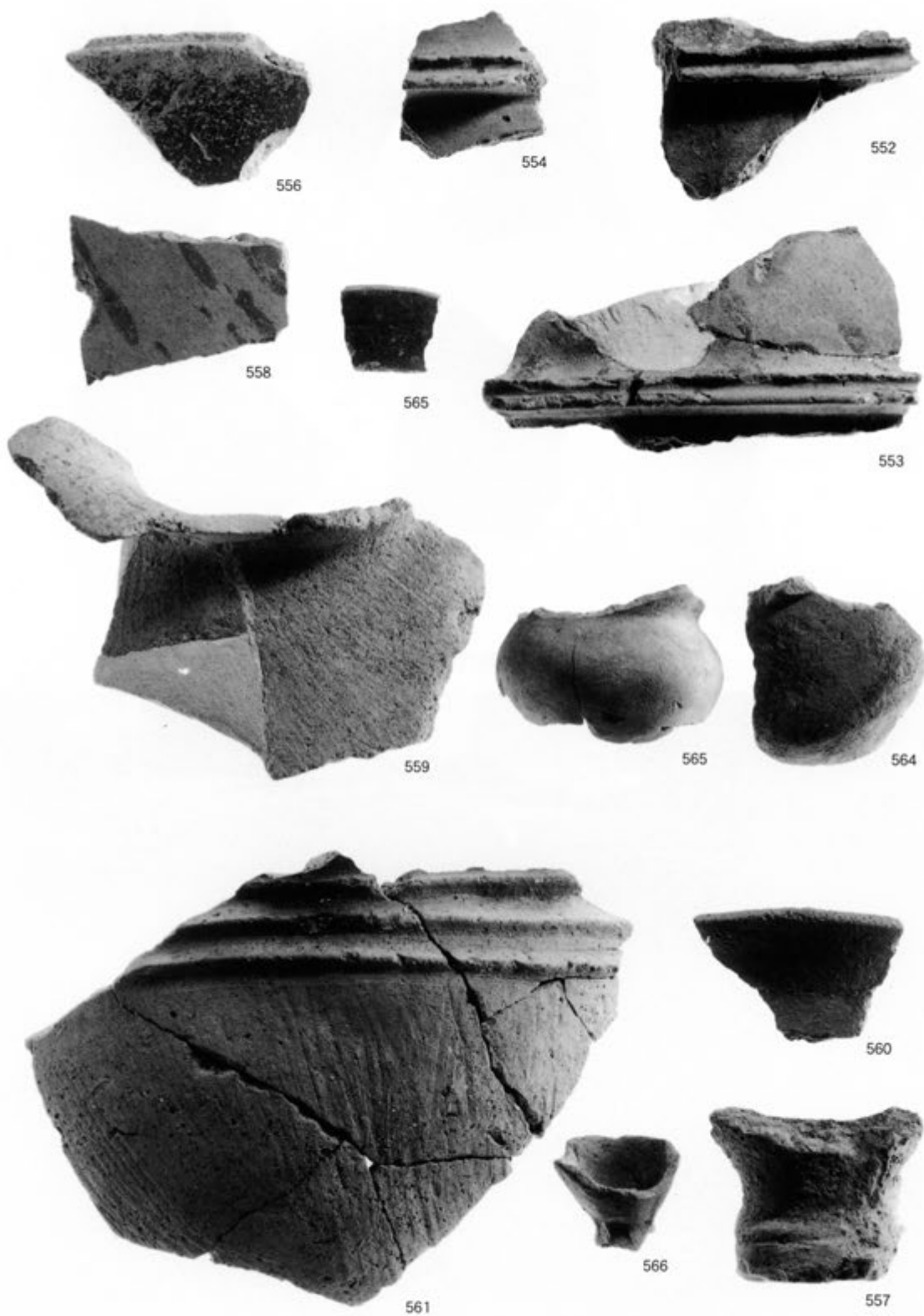
535

縄文時代晩期の石器 (7)

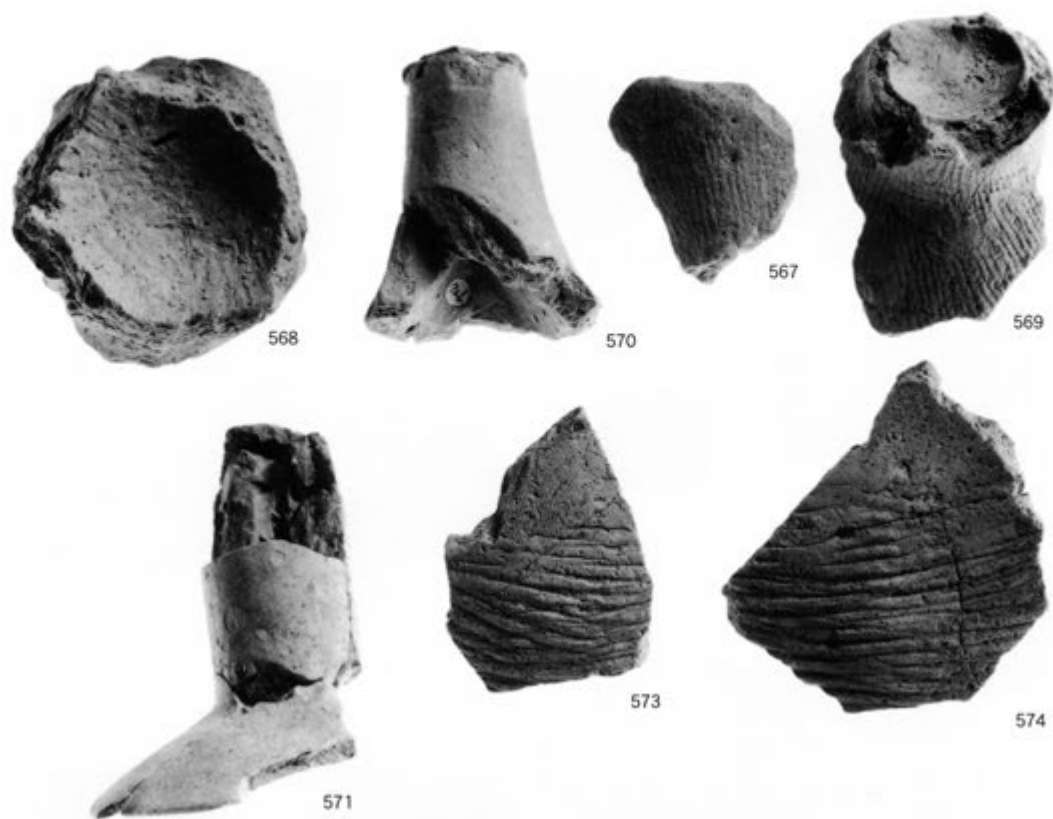


縄文時代晩期の石器 (8)





弥生～古墳時代の土器 (1)



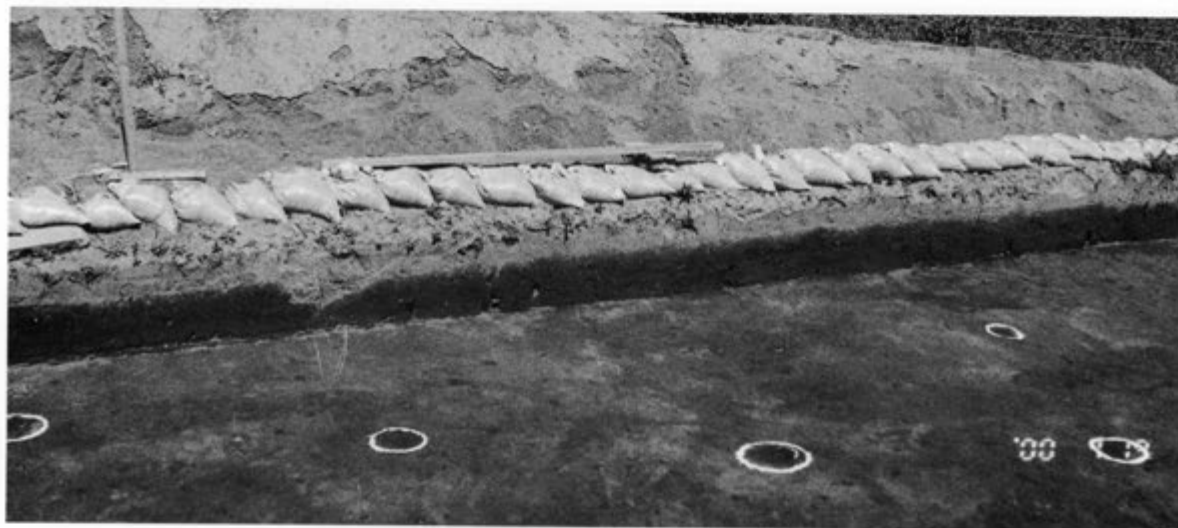
弥生～古墳時代の土器 (2)



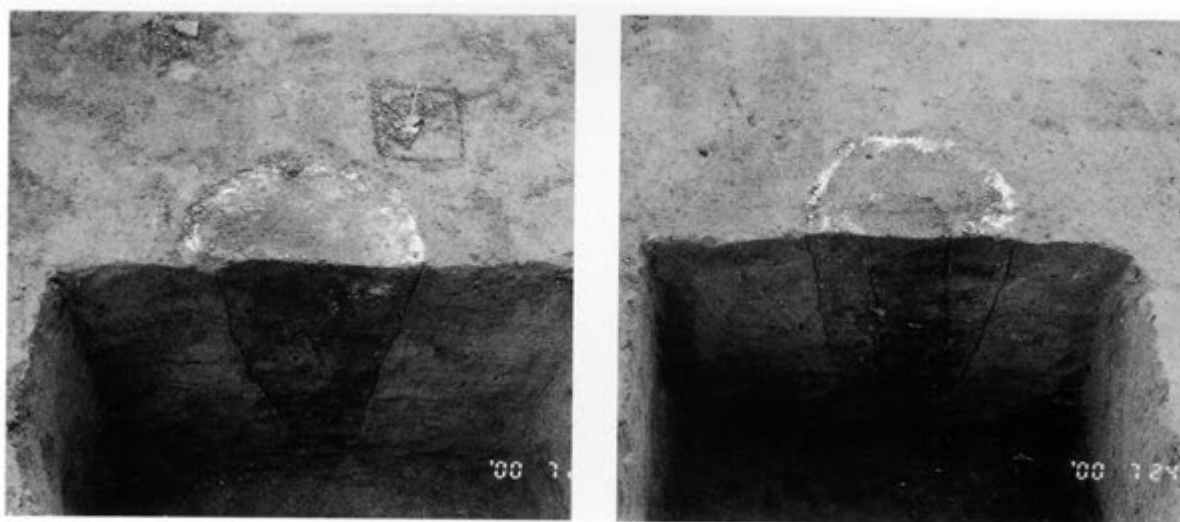
第2調査地点の調査状況



1号掘建立柱建物跡



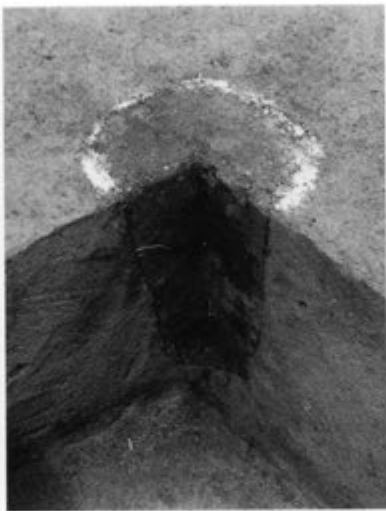
2号掘建立柱建物跡



2号掘建立柱建物跡 ピット1, ピット2



2号掘建立柱建物跡 ピット3



ピット4



ピット5



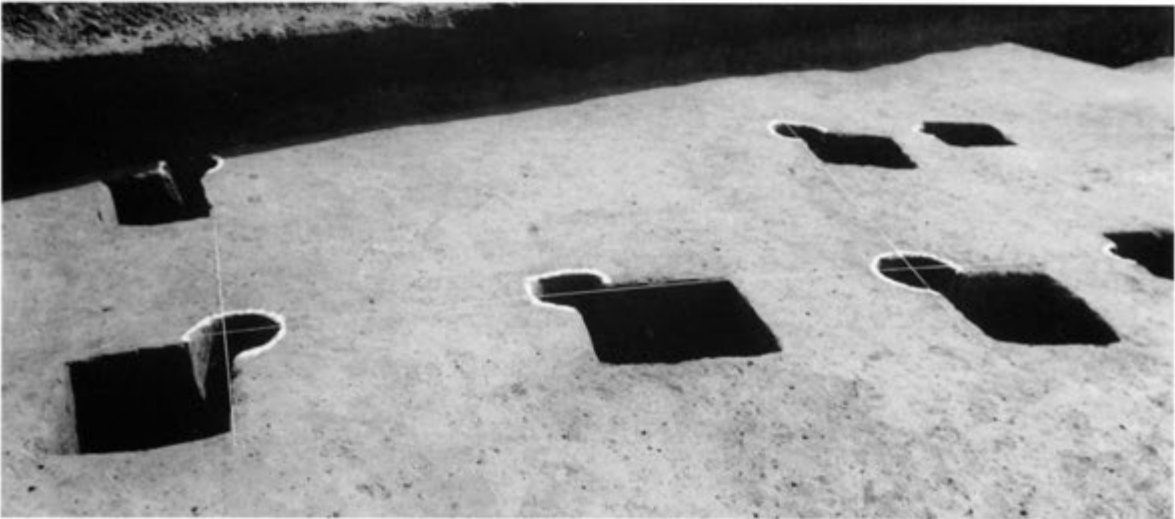
4号掘建立柱建物跡



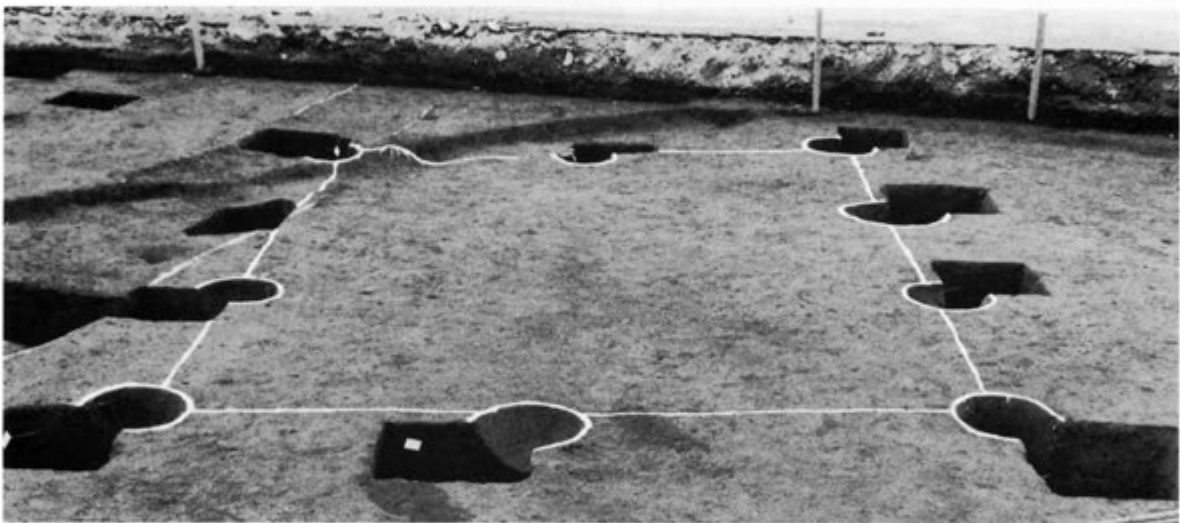
5号掘建立柱建物跡 検出状況



5号掘建立柱建物跡 ピット掘り下げ



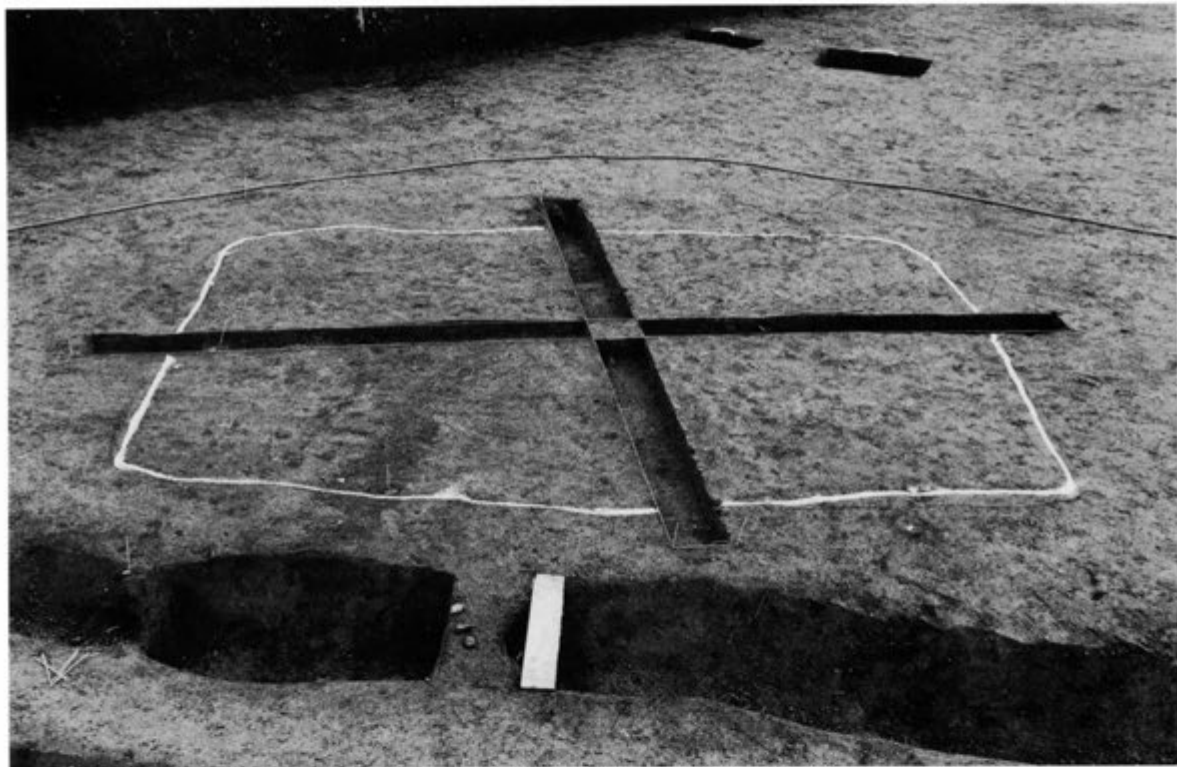
6号掘建立柱建物跡



7号掘建立柱建物跡



1号堅穴住居跡状遺構



2号堅穴住居跡状遺構



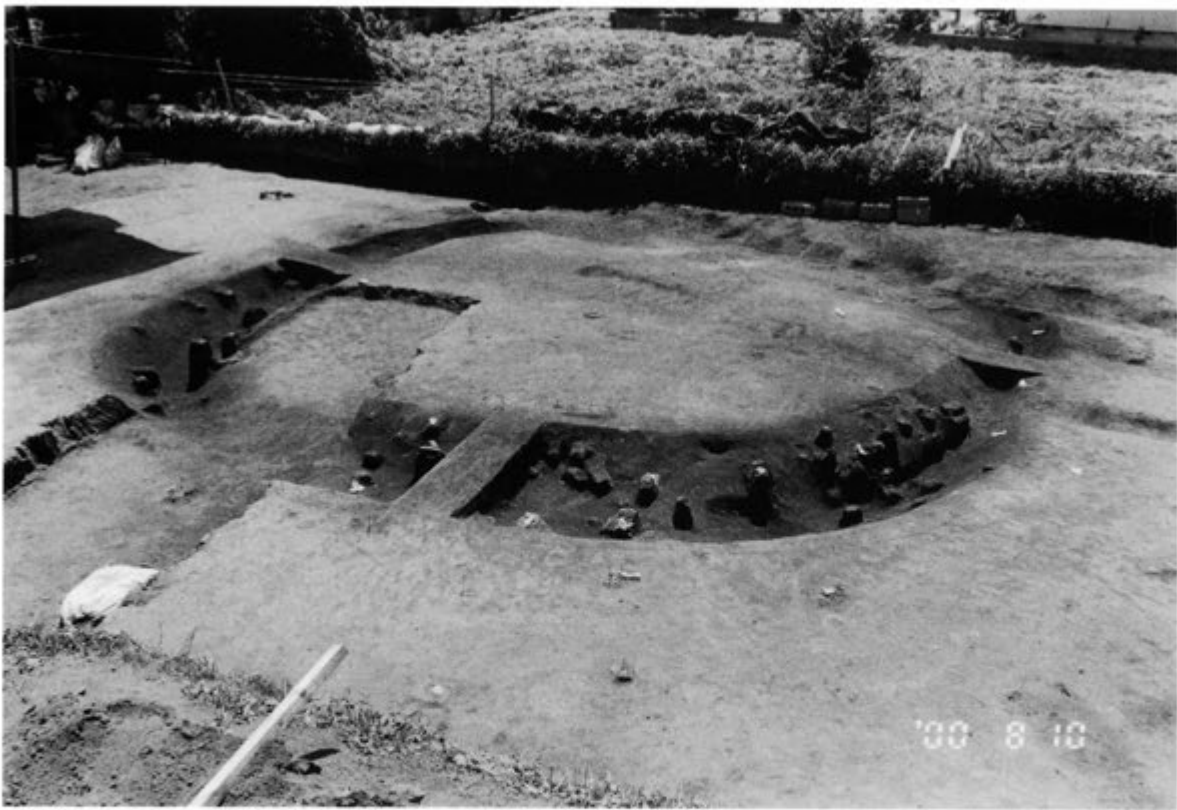
7号掘立柱建物跡ピット出土遺物



1号堅穴住居跡状遺構出土遺物



円形周溝墓検出状況



円形周溝墓 遺物出土状況



円形周溝墓完掘状況

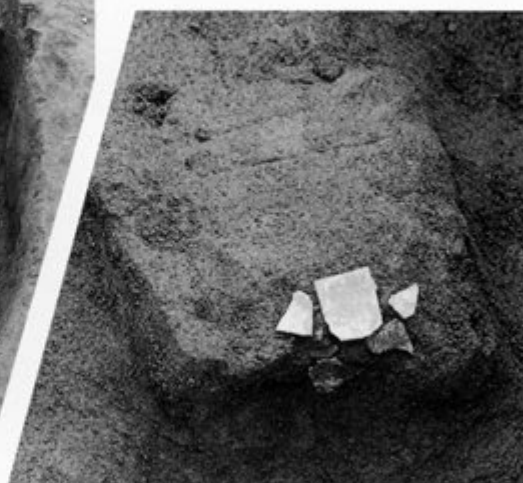


円形周溝墓 溝内出土遺物

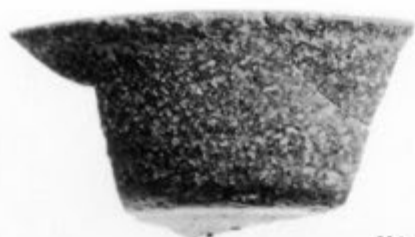




1号土坑墓と出土遺物



1号土坑墓遺物出土状況



604



612

607

1号土坑墓出土土器



609



608

1号土坑墓出土青銅製品と刀子



2号土坑墓



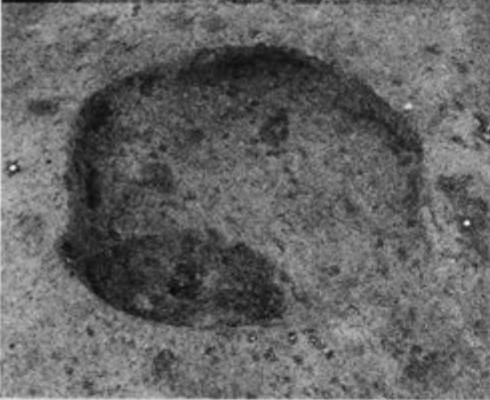
3号土坑墓检出状况



3号土坑墓调查状况



1号土坑检出状况



1号土坑完掘



1号土坑出土遗物



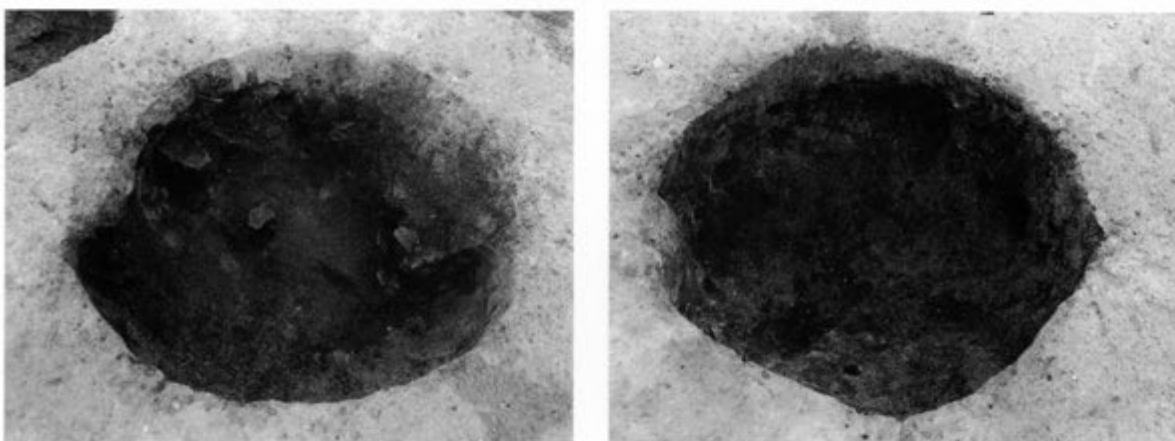
2号土坑検出状況



2号土坑出土遺物



3号土坑半掘状況



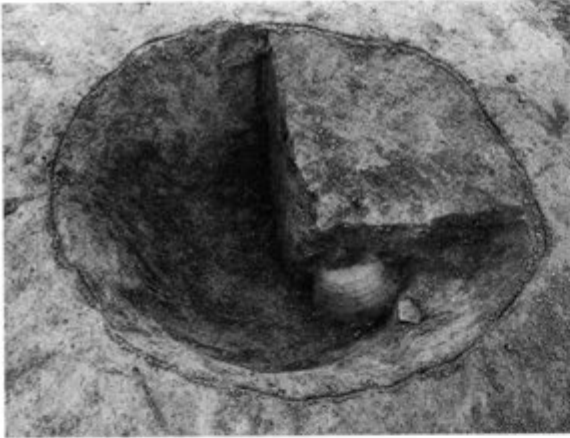
3号土坑遺物出土状況と完掘



3号土坑出土遺物



4号土坑検出状況



4号土坑調査状況



625

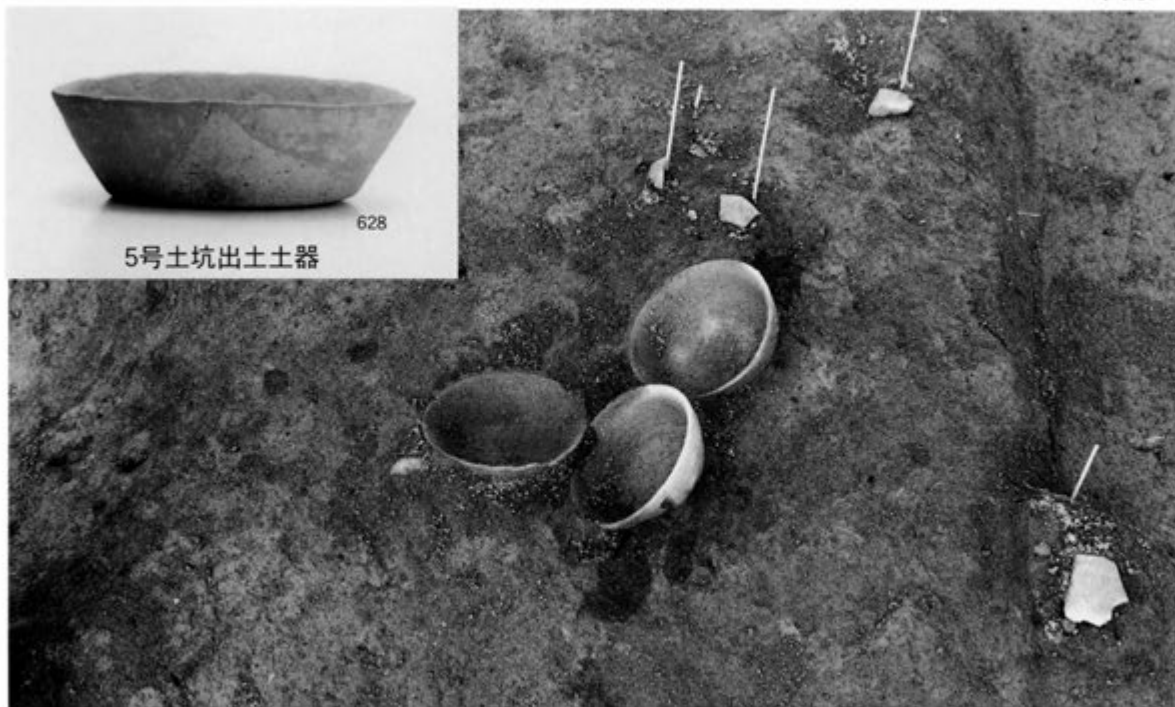


627

4号土坑出土遺物



5号土坑出土土器



8号土坑検出状況と完掘



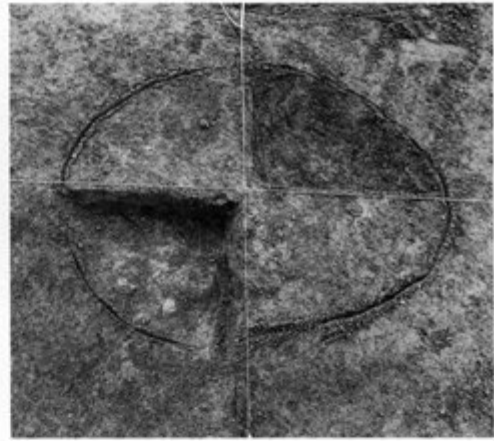
8号土坑出土土器



9号土坑調査状況



9号土坑完掘



1号烧土

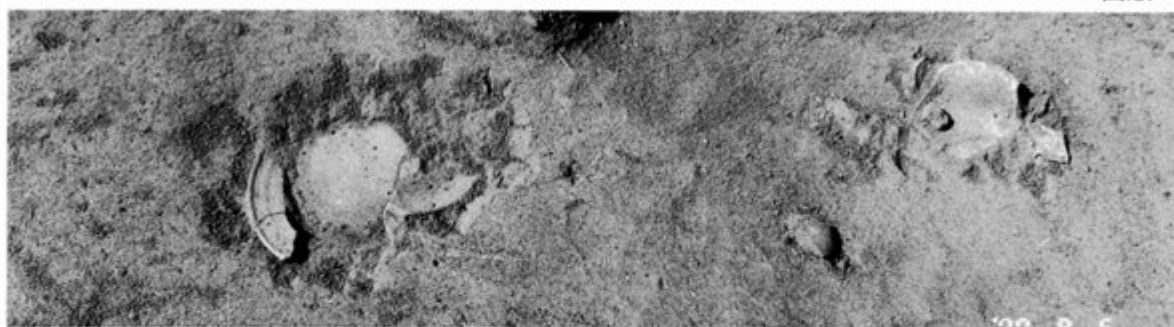


3号烧土



4号烧土

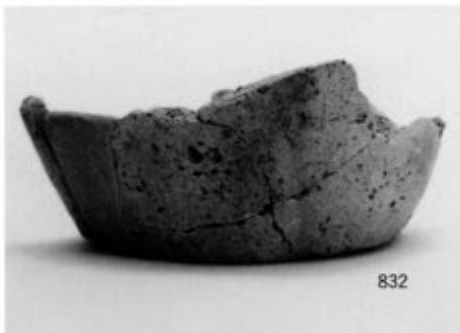
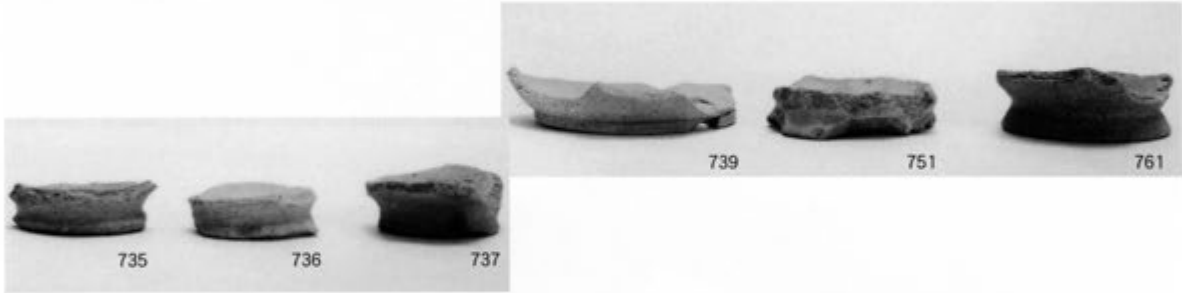




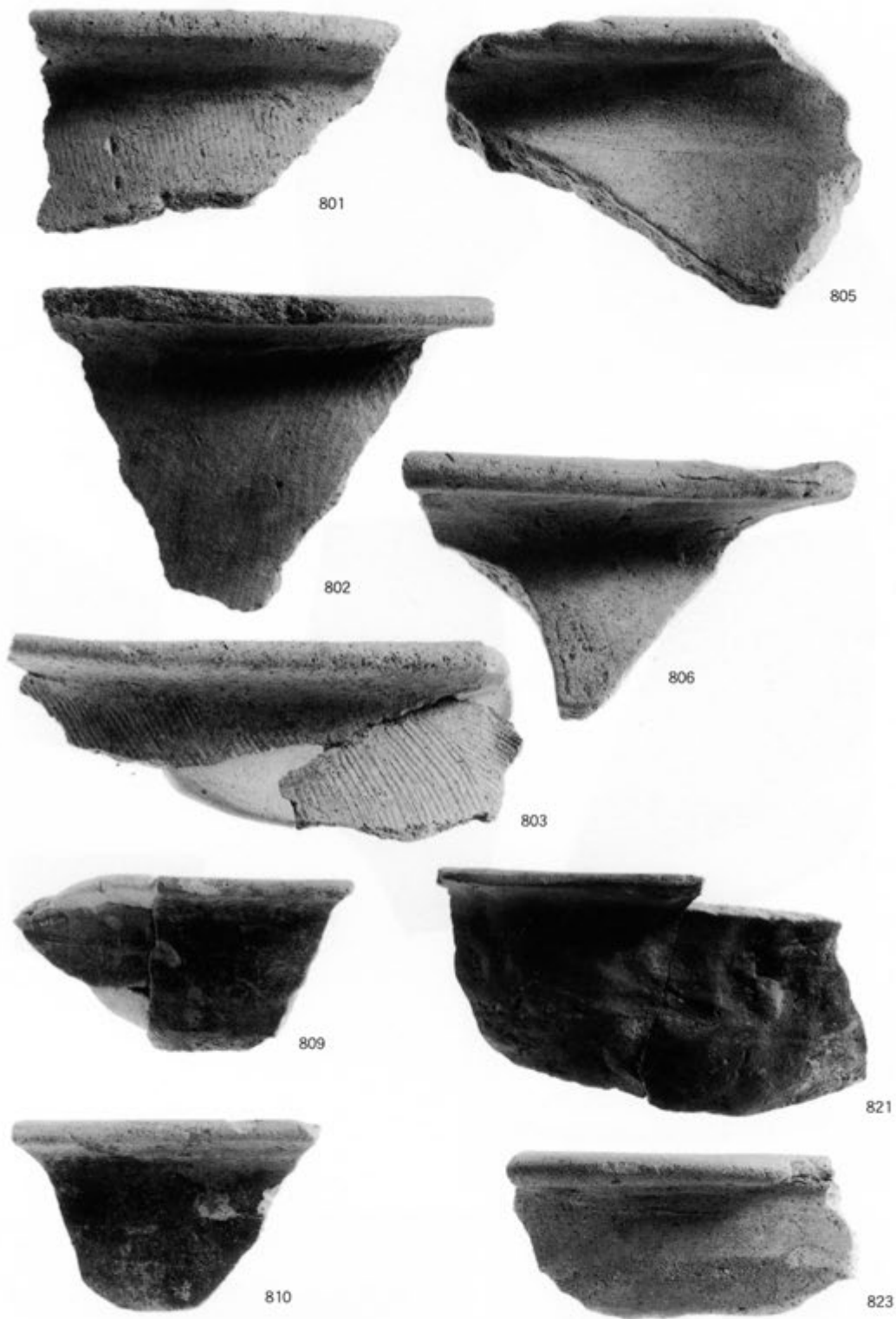
奈良時代の遺物と出土状況



平安時代の遺物 (1)

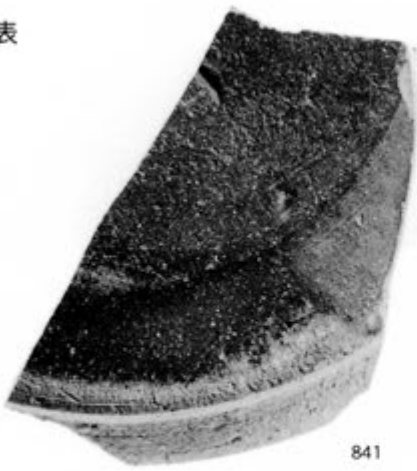


平安時代の遺物 (2)



平安時代の遺物 (3)

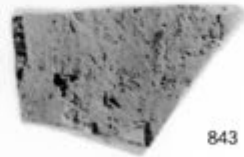
表



841



844

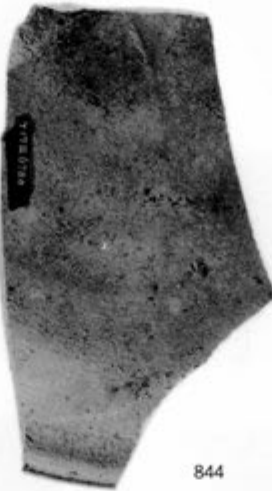


843

裏



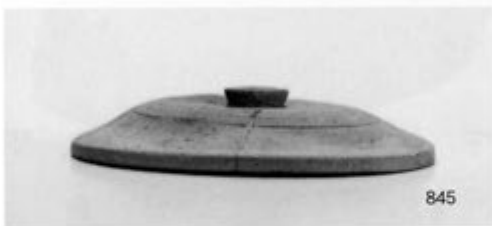
841



844



843



845

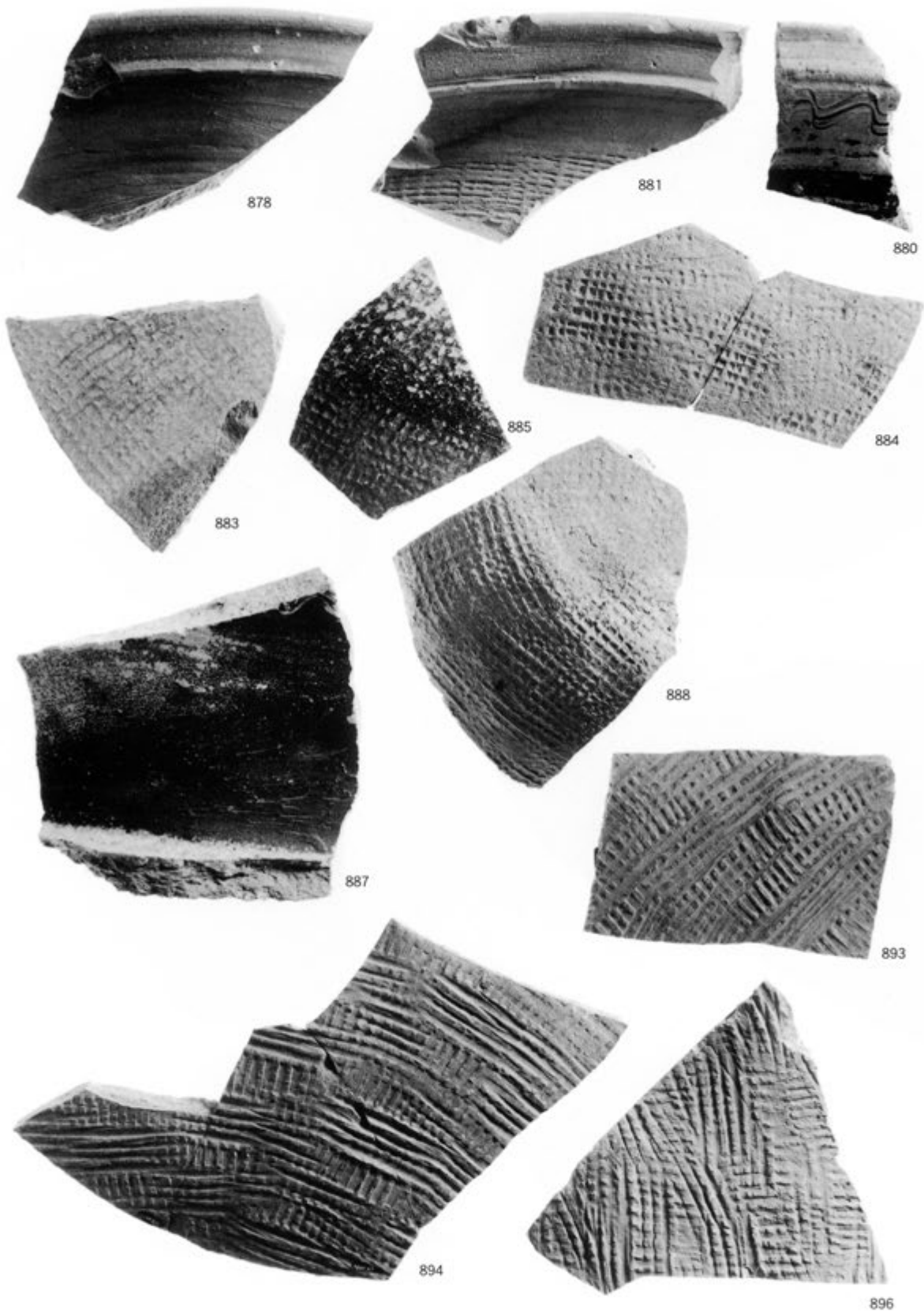


856



863

平安時代の遺物 (4)



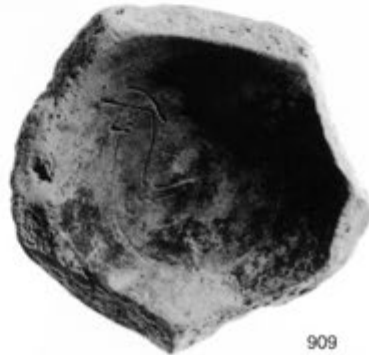
平安時代の遺物 (5)



906



907



909



908



900



911



912

平安時代の遺物 (6)



913



914



915



916



917



918

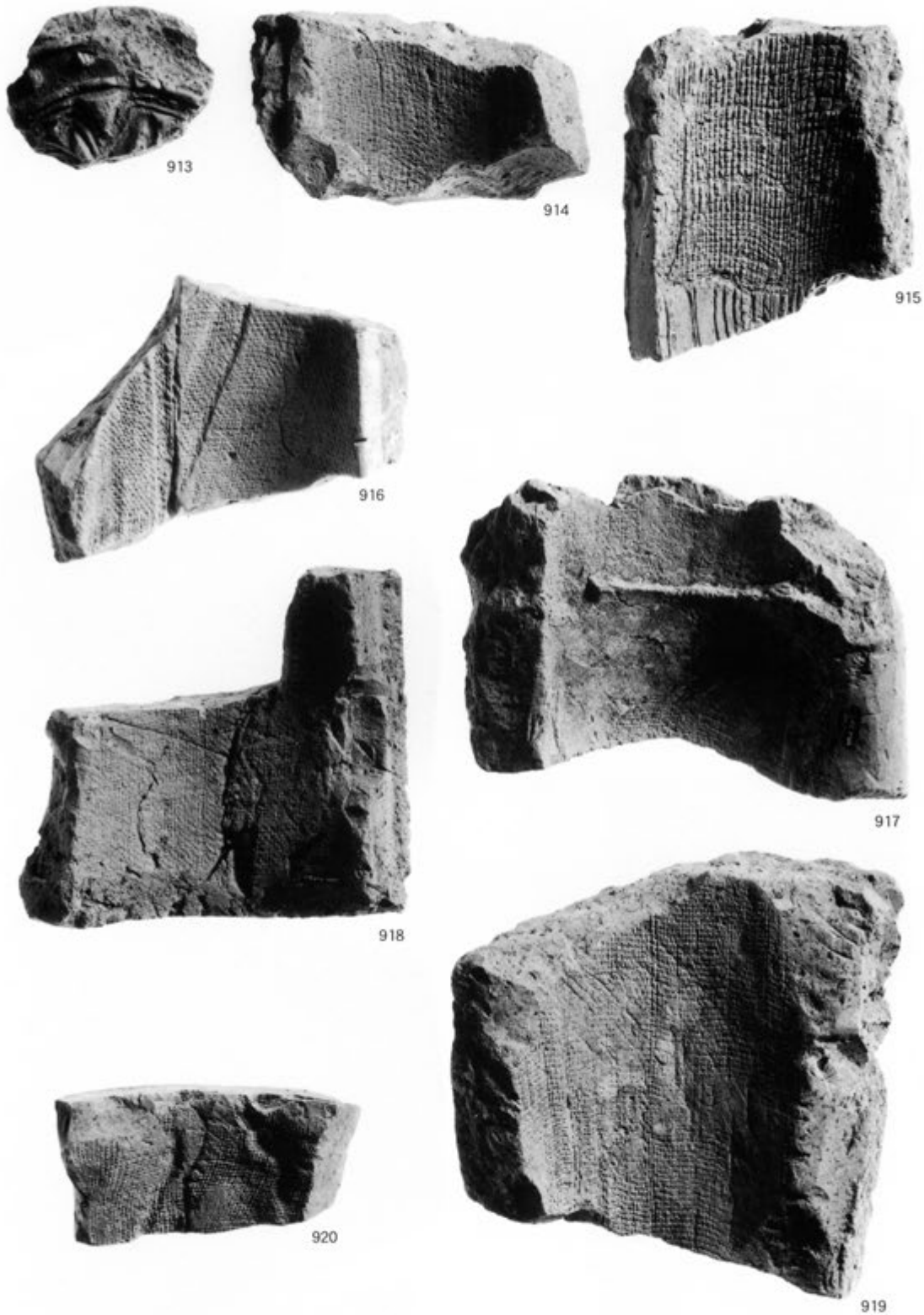


920



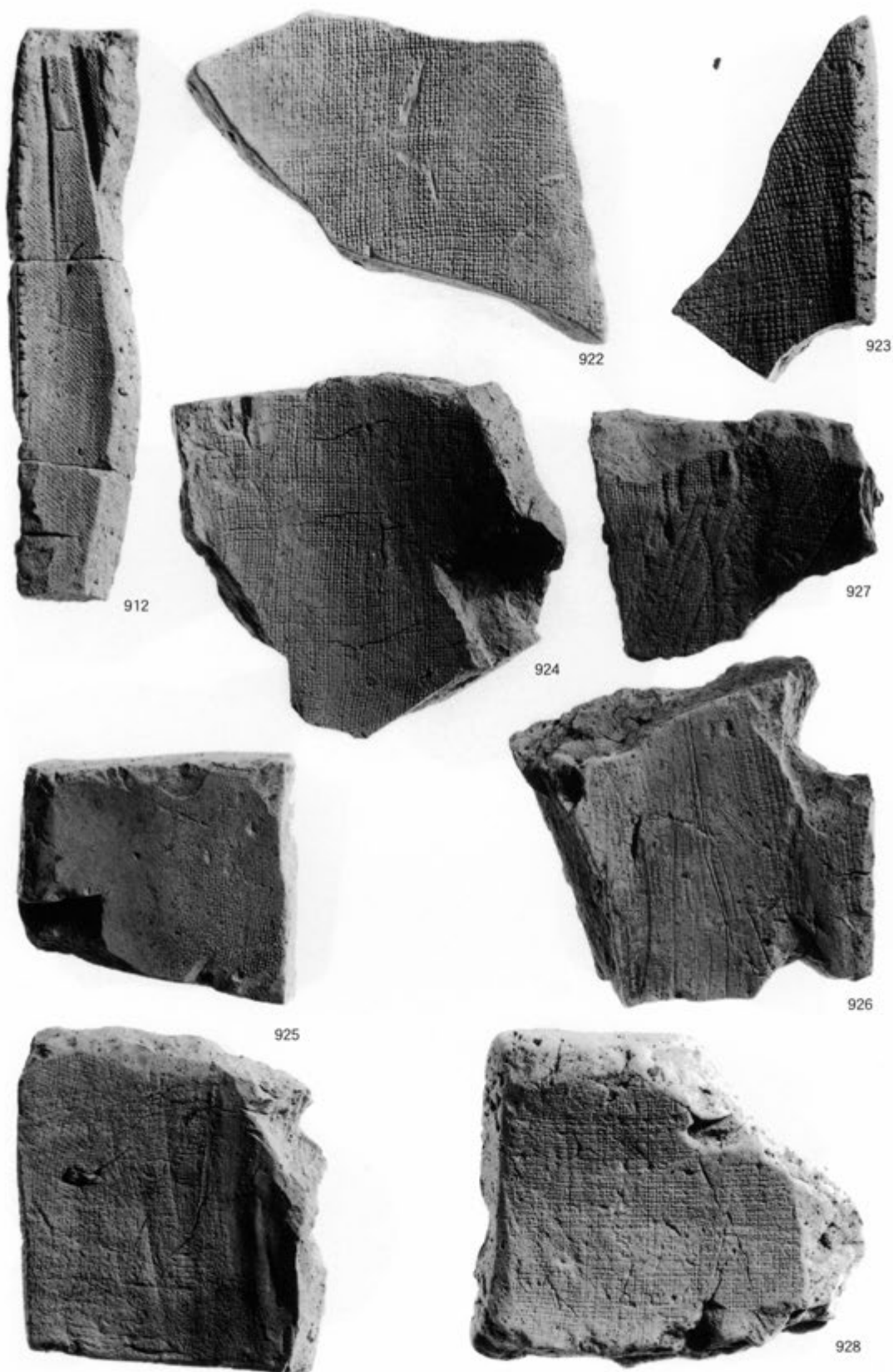
919

平安時代の遺物 (7)



平安時代の遺物 (7の裏面)





平安時代の遺物 (8)



平安時代の遺物 (8の裏面)



平安時代の遺物 (9)



943・944の出土状況



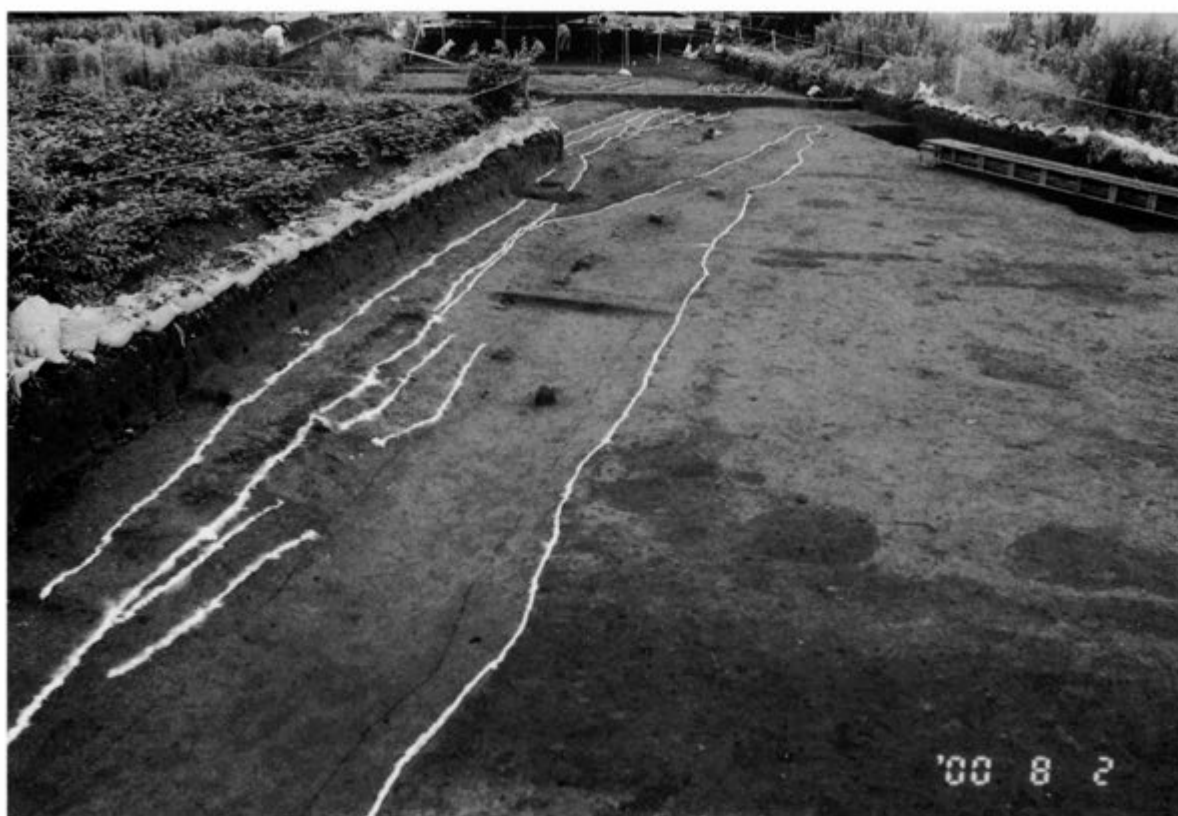
古道1検出状況



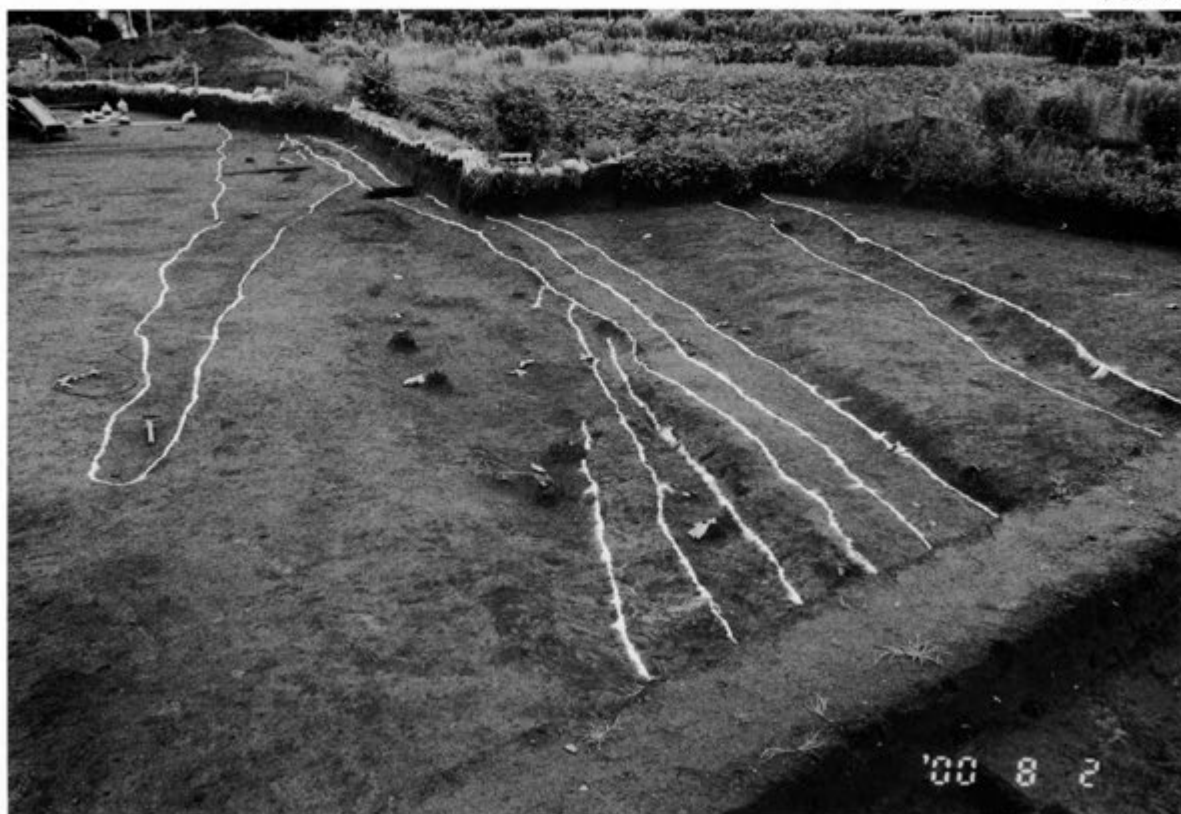
古道1調査状況



古道群1



古道群2と溝3 (北から)



古道群2と溝3~5 (8区南から)



古道群2と溝5 (9区北から)



溝6, 7, 8 (奥は溝)



13区古道12・13



古道14と溝10



溝11検出状況





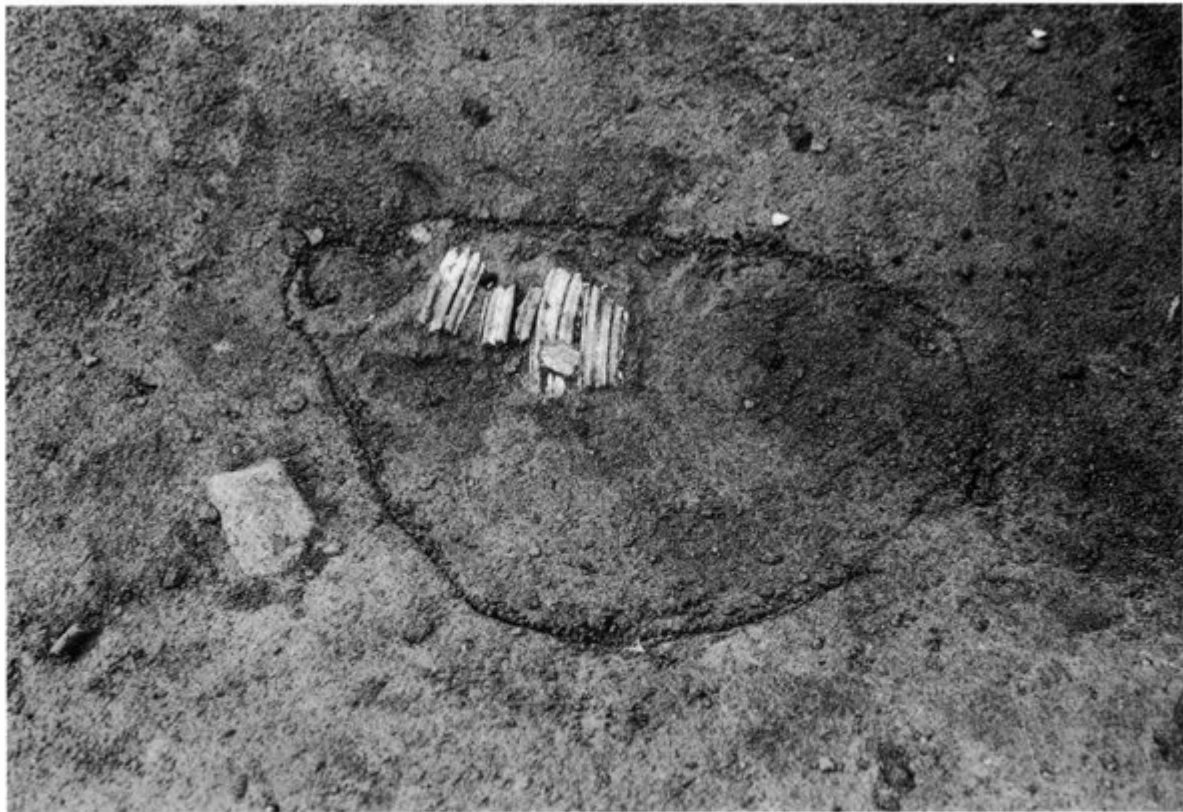
溝11完掘



溝12



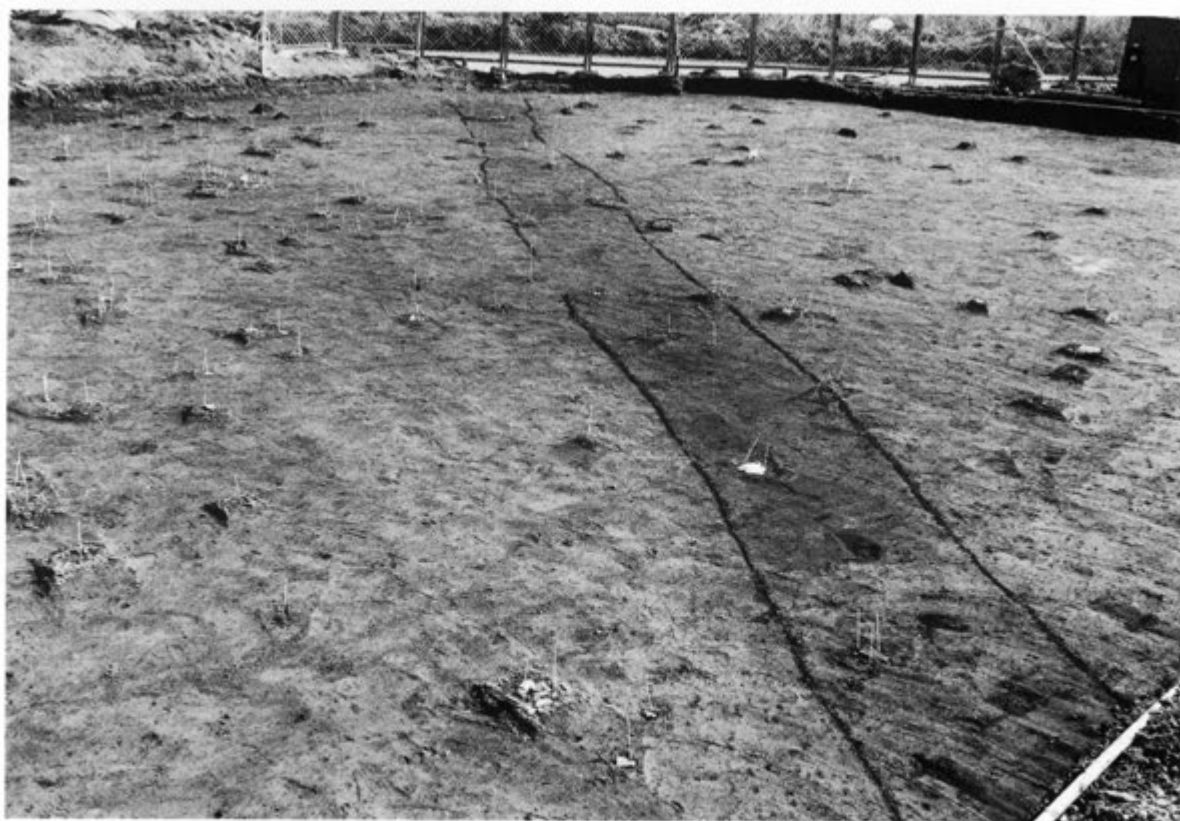
溝13



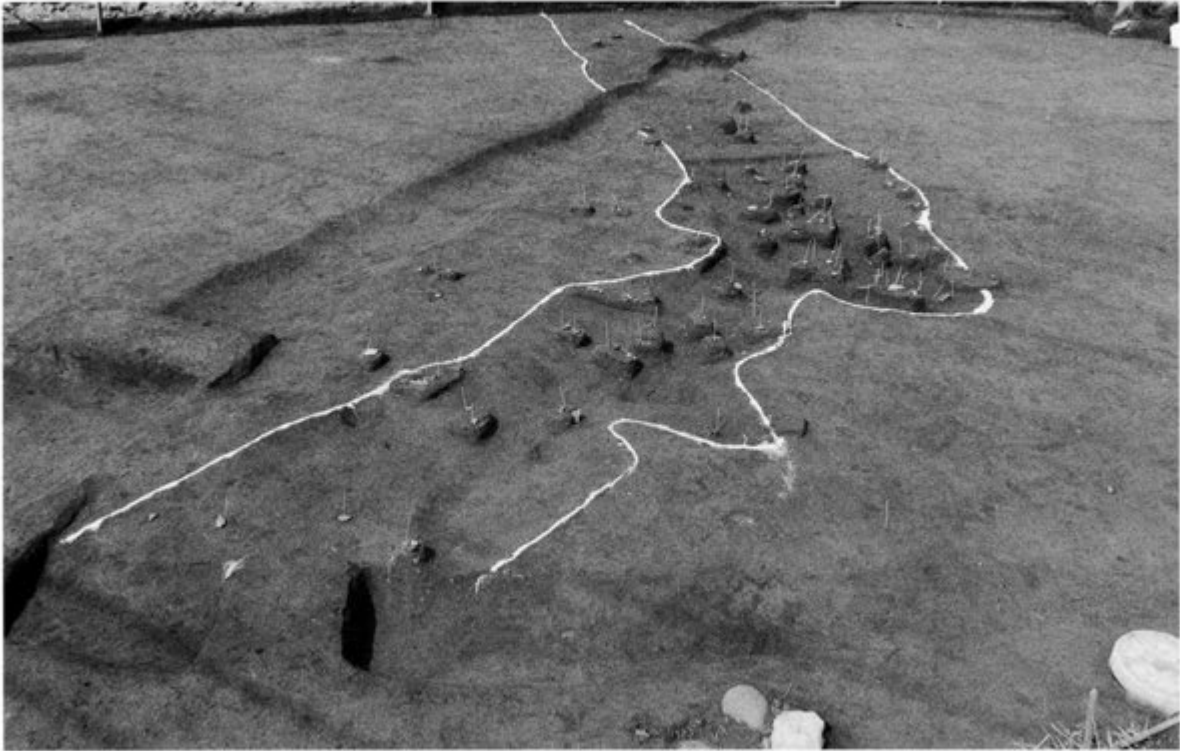
溝13内の馬の歯の土坑



古道15



溝14



溝15 (白線) 溝16 (手前)



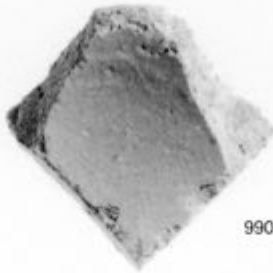
984



993



1006



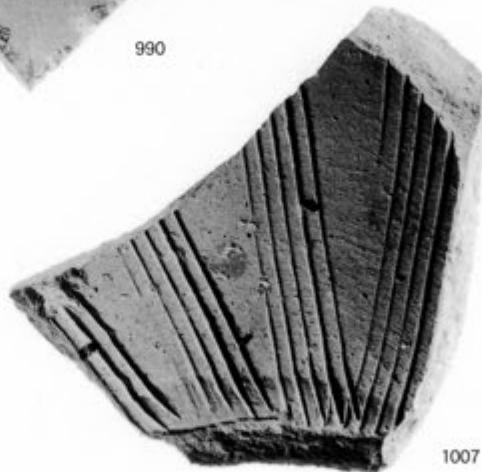
990



989



987



1007

中世の遺物

## あとがき

発掘調査開始時、まず驚いたことは未買収用地が多かったこと、加えて買収が終了していた土地も住宅が移転していなかったことである。これで調査が期間内に終了するのかどうか不安を抱えながらの調査であった。

また計志加里遺跡、大島遺跡、京田遺跡の三か所の遺跡を同時に進め、約4kmの間を毎日何回も往復しての調査であり、買収が終了もしくは住宅が移転すると再びそこに帰るという効率の悪い調査であった。

1件の事故も作業員さんのケガもなく無事調査が終了できたのは奇跡に近いという感さえあった。

多くの汗を流して従事して下さった地元の作業員の方々をはじめ、川内市教育委員会ならびに鉄道建設公団、開発公社、JVの関係各位の方々に厚くお礼を申し上げます。

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (38)

九州新幹線鹿児島ルート建設に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

### 計志加里遺跡

2002年 3月

発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252

印刷 株式会社 トライ社

〒892-0834 鹿児島市南林寺町12-6